環境庁請負

第４回自然環境保全基礎調査

河　川　調　査　報　告　書

（全　国　版）

平成６(1994)年３月

環　境　庁　自　然　保　護　局
朝　日　航　洋　株　式　会　社

はじめに

本報告書は、環境庁自然保護局より朝日航洋株式会社が請負った「第4回自然環境保全基礎調査　河川調査集計・解析業務」について、その結果をとりまとめたものである。

河川調査は、第2回及び第3回自然環境保全基礎調査（昭和54年度及び昭和60年度）においては全国の一級河川の幹川等を調査対象としてきたが、今回の第4回自然環境保全基礎調査では主要な二級河川の幹川及び一級河川の支川等の中から選定した良好な自然地域を通過する河川、流域面積が大きい河川または動植物相が豊かな河川等を調査対象として、実施された。

また、集水域が原生状態を保っている河川（「原生流域」）については、第2回及び第3回に引き続いて第4回自然環境保全基礎調査においても、その改変状況等が調査された。

調査の実施は、平成4（1992）年度に各都道府県が、その行政管轄内に存在する調査対象河川を、環境庁の定める「調査要綱」にしたがっておこなったもので、その成果は各都道府県別の「調査報告書及び調査図帳」としてとりまとめられた。

本業務は、これらの調査報告書及び調査図帳から個々の河川の情報を数値データ化し、これらから多面的な集計をおこなうとともに、原生流域については第3回調査におけるデータ集計との比較をおこなったものである。

集計・解析にあたっては、次の3つの基本的観点を踏まえた。

① わが国の主要な一級河川の支川及び二級河川の自然環境状況を明らかにする。

② これらの河川の水系群別の自然環境状況を明らかにするとともに、調査年度は異なるが、第3回自然環境保全基礎調査における主要な一級河川の水系群別の自然環境状況と比較する。

③ 調査年度は異なるが、第3回自然環境保全基礎調査における主要な一級河川（幹川）の自然環境状況と今回の調査対象河川の支川の自然環境状況を比較する。

平成6（１９９４）年3月

環境庁自然保護局

目　次

〔調査結果の概要〕

調査結果の概要 …… ①～⑯

〔本　文〕

Ⅰ　河川調査（都道府県別調査）

1．調査目的及び調査概要 …… 1

2．調査対象河川 …… 1

3．調査実施者及び調査実施年 …… 1

4．調査の概要 …… 1

4－1　河川概要調査 …… 2

4－2　河川改変状況調査 …… 3

4－3　魚類調査 …… 3

4－4　原生流域調査 …… 3

4－5　河川調査報告書の作成―調査結果のとりまとめ …… 4

Ⅱ　河川調査集計・解析業務

1．業務の目的 …… 7

2．概　要 …… 7

3．作業手順 …… 7

4．調査対象河川と集計・解析対象河川 …… 9

4－1　第4回調査対象河川と集計・解析対象河川 …… 9

4－2　河川流路延長 …… 9

4－3　水系群 …… 9

Ⅲ　集計・解析結果

Ⅲ－1　河川の基本現況 …… 31

1．河川の種類と形状 …… 31

1－1　河川の種類／級別 …… 31

1－2　河川の種類／幹川or支川 …… 32

1－3　河川流路延長 …… 32

1－4　河川の屈曲率 …… 34

1－5　河川の縦断形状（標高差と勾配） …… 37

2．河川流路上の湖沼 …… 41
3．河川横断工作物と利水状況 …… 42
3－1　河川横断工作物 …… 42
3－2　河川利水状況 …… 42
4．河川の取水施設 …… 43
5．河川の水質 …… 44
5－1　ｐＨ（水素イオン濃度） …… 44
5－2　ＢＯＤ（生物化学的酸素要求量） …… 44
5－3　ＳＳ（浮遊物質量） …… 44
5－4　ＤＯ（溶存酸素量） …… 44
5－5　大腸菌群数 …… 44
5－6　環境基準類型 …… 44
Ⅲ－2　河川の改変等の状況 …… 45
1．河川の「水際線」状況 …… 45
1－1　水際線の全国改変状況 …… 45
1－2　水際線の水系群別改変状況 …… 46
1－3　水際線の改変状況（護岸設置及び未設置） …… 48
1－4　連続する人工改変度の低い水際線 …… 53
2．河川の「河原の土地利用」状況 …… 59
2－1　河原の土地利用の全国状況 …… 59
2－2　河原の水系群別改変状況（土地利用） …… 60
2－3　河原の存在状況と改変状況（土地利用状況） …… 63
2－4　連続する人工改変度の低い河原 …… 75
3．河川の「河畔の土地利用」状況 …… 80
3－1　河畔の土地利用の全国状況 …… 80
3－2　河畔の土地利用状況／水系群別 …… 81
3－3　河畔の改変状況（土地利用状況） …… 84
3－4　連続する人工改変度の低い河畔 …… 91
4．調査対象「支川」河川とその幹川の改変状況比較 …… 94
5．自然性の高い河川区間帯 …… 99
6．河川の利用状況 …… 105
7．河川の不快要因 …… 107

8．河川の水際線・河原・河畔の自然状況の相関について …… 108
8－1　水際線〔自然地率〕と河原〔自然地率〕の相関 …… 108
8－2　水際線〔自然地率〕と河畔〔土地利用〕の相関 …… 109
8－3　河原〔自然地率〕と河畔〔土地利用〕の相関 …… 110
8－4　「連続する人工改変度の低い水際線」に対置する河原・河畔の自然状況 …… 111
8－5　「連続する人工改変度の低い河原」に対置する水際線・河畔の自然状況 …… 112
8－6　「連続する人工改変度の低い河畔」に対置する水際線・河原の自然状況 …… 113
Ⅲ－3　河川の保全地域・鳥獣保護区指定状況 …… 114
1．河川の保全地域指定状況 …… 114
1－1　河川の保全地域指定概況 …… 114
1－2　河川の保全地域指定と自然環境状況 …… 116
2．河川の鳥獣保護区指定状況 …… 120
2－1　鳥獣保護区指定概況 …… 120
2－2　鳥獣保護区設定と保全地域指定の相関集計 …… 122
Ⅲ－4　河川の魚類相 …… 123
1．生息状況 …… 123
1－1　河川別の生息魚種数 …… 123
1－2　広域分布魚種 …… 127
1－3　分布の限定された魚種 …… 128
1－4　移入種の生息分布 …… 133
1－5　天然繁殖の魚種 …… 136
1－6　魚類の遡上状況 …… 140
2．放流・漁獲状況 …… 159
2－1　放流状況 …… 159
2－2　漁獲状況 …… 161
Ⅲ－5　原生流域 …… 162

〔用語の定義〕

用語の定義１：「河川等の定義」 …… 5
用語の定義２：「河川の級別等」 …… 31
用語の定義３：「河川の屈曲率」 …… 35
用語の定義４：「水際線とその改変状況区分等」 …… 45
用語の定義５：「河原とその土地利用区分」等 …… 59
用語の定義６：「河畔とその土地利用状況区分等」 …… 80
用語の定義７：「原生流域」 …… 162

〔都道府県別 水際線・河原・河畔の改変状況集計〕

表―１　水際線の都道府県別改変状況 …… 167
表－２　河原の都道府県別存在率と改変状況 …… 168
表－３　河畔の土地利用状況 …… 169

〔巻末資料〕

河川改変状況一覧表 …… 資－１
原生流域一覧表 …… 資－１２
河川の魚類相 …… 資－２５
放流状況 …… 資－５３
漁獲状況 …… 資－７５
参考文献 …… 資－９６
第４回自然環境保全基礎調査検討会及び分科会 …… 資－９７
第４回自然環境保全基礎調査要綱「河川調査」 …… 資－９８

〔図　表〕

Ⅰ　河川調査（都道府県別調査）

図Ⅰ－1　河川調査の構成 …… 2

Ⅱ　河川調査集計・解析業務

図Ⅱ－1　河川調査集計・解析業務「作業フロー」 …… 8

図Ⅱ－2　調査対象河川位置図(1)～(8) …… 17

図Ⅱ－3　調査対象原生流域位置図(1)～(5) …… 25

図Ⅱ－4　水系群区分図 …… 30

表Ⅱ－1　集計・解析対象河川一覧 …… 10

表Ⅱ－2　複数の県を流れる河川の内訳 …… 15

表Ⅱ－3　調査対象河川〔支川〕と幹川との関係表 …… 16

Ⅲ　集計・解析結果

Ⅲ－1　河川の基本現況

図Ⅲ－1－1　調査対象河川の流路延長別河川数 …… 32

図Ⅲ－1－2(1)　河川縦断形状図（河川流路延長第1～15位） …… 38

図Ⅲ－1－2(2)　河川縦断形状図（河川流路延長第16～30位） …… 39

図Ⅲ－1－2(3)　河川縦断形状図（河川流路延長第31～44位） …… 39

図Ⅲ－1－2(4)　河川縦断形状図「勾配及び比高差が大きい河川」 …… 40

表Ⅲ－1－1　調査対象河川の級別集計 …… 31

表Ⅲ－1－2　調査対象河川の幹川／支川区分 …… 32

表Ⅲ－1－3　調査対象河川の河川流路延長　上位20 …… 33

表Ⅲ－1－4　調査対象河川の河川屈曲率　上位19 …… 34

表Ⅲ－1－5　河川屈曲率の大きい区間の自然状況 …… 36

表Ⅲ－1－6　河川勾配・比高差の大きい河川（調査流路延長50km以上） …… 37

表Ⅲ－1－7　湖沼の占有する区間が大きい河川〔占有率10%以上〕 …… 41

表Ⅲ－1－8　調査対象河川の河川横断工作物集計 …… 42

表Ⅲ－1－9　調査対象河川の河川利水状況集計 …… 42

表Ⅲ－1－10　取水施設の存在率の高い河川（区間率50%以上） …… 43

Ⅲ－2　河川の改変等の状況

図Ⅲ－2－1　水際線の改変状況〔全国〕 …… 45

図Ⅲ－2－2　水際線の改変状況(人工護岸/護岸) 率階級区分別河川数 …… 48

図Ⅲ－2－3　水際線の人工構造物化(護岸)が全くおこなわれていない河川と護岸未設置率の高い河川分布図（上位20） …… 50

図Ⅲ－2－4　水際線の人工構造物化(護岸)が50%以上の河川分布図 …… 52

図Ⅲ－２－５　連続する人工改変度の低い水際線(自然率80%以上）の
連続区間規模別出現河川数 …… ５３

図Ⅲ－２－６　連続する人工改変度の低い水際線の河川分布図（上位19）
(自然率80%以上の区間が連続10区間以上=10km以上) …… ５５

図Ⅲ－２－７　連続する人工改変度の低い水際線(自然率100%)の
連続区間規模別出現河川数 …… ５６

図Ⅲ－２－８　連続する人工改変度の低い水際線の河川分布図（上位18）
(自然率100%の区間が連続10区間以上=10km以上) …… ５８

図Ⅲ－２－９　河原の存在とその土地利用状況〔全国〕 …… ５９

図Ⅲ－２－１０　河原存在率の階級区分別出現河川数 …… ６３

図Ⅲ－２－１１　河原の存在率が50％以上の河川分布図 …… ６５

図Ⅲ－２－１２　河原内土地利用毎の占有率階級区分別出現河川数 …… ６７

図Ⅲ－２－１３(1)　河原内土地利用〔自然地〕率の高い(100%)河川分布図 …… ６９

図Ⅲ－２－１３(2)　河原内土地利用〔農業地〕率の高い(上位15)河川分布図 …… ７１

図Ⅲ－２－１３(3)　河原内土地利用〔未利用造成地〕率の高い(上位15)河川分布図 …… ７２

図Ⅲ－２－１３(4)　河原内土地利用〔施設的土地利用〕率の高い(上位15)河川分布図 …… ７４

図Ⅲ－２－１４　連続する人工改変度の低い(自然率80%以上）河原の
連続区間規模別出現河川数 …… ７５

図Ⅲ－２－１５　連続する人工改変度の低い河原の河川分布図(上位22:全てリストアップ)
(自然率80%以上の区間が連続10区間以上=10km以上) …… ７７

図Ⅲ－２－１６　連続する人工改変度の低い河原の河川分布図(上位15:全てリストアップ)
(自然率100%の区間が連続10区間以上=10km以上) …… ７９

図Ⅲ－２－１７　河畔の土地利用状況〔全国〕 …… ８０

図Ⅲ－２－１８　河畔土地利用毎の占有率階級区分別出現河川数 …… ８５

図Ⅲ－２－１９(1)　河畔土地利用〔自然地〕占有率の高い(上位15)河川分布図 …… ８８

図Ⅲ－２－１９(2)　河畔土地利用〔農業地〕占有率の高い(上位15)河川分布図 …… ８９

図Ⅲ－２－１９(3)　河畔土地利用〔市街地・工業地〕占有率の高い(上位15)河川分布図 …… ９０

図Ⅲ－２－２０　連続する人工改変度の低い（自然地）河畔(両岸)の
連続区間規模別出現河川数 …… ９１

図Ⅲ－２－２１　連続する人工改変度の低い河畔(両岸)の河川分布図(上位20)
(自然地の区間が連続10区間以上=10km以上) …… ９３

図Ⅲ－２－２２　調査対象河川[刈]と第３回調査河川[刎]の
水際線・河原・河畔等の改変状況比較 …… ９５

図Ⅲ－２－２３　自然性の高い連続する河川区間帯（連続10区間以上=10km以上）
を有する河川分布図 …… １０１

図Ⅲ－２－２４　自然性の高い区間数の総区間数比率階級区分別出現河川数 …… １０２

図Ⅲ－２－２５　自然性の高い区間数の総区間数比率の高い(45%以上）河川分布図(上位25) …… １０４

図Ⅲ－２－２６　水際線自然地率別　河原の自然地率８・９・10区間数の占有率 …… １０８

図Ⅲ－２－２７　水際線自然地率別　河畔土地利用〔自然地〕区間数の占有率 …… １０９
図Ⅲ－２－２８　河原自然地率別　河畔土地利用〔自然地〕区間数の占有率 …… １１０
表Ⅲ－２－１　水際線の水系群別改変状況 …… ４６
表Ⅲ－２－２　第４回調査河川と第３回調査河川の水系群別水際線自然地率比較 …… ４７
表Ⅲ－２－３　水際線の人工構造物化(護岸)が全くおこなわれていない河川
と護岸未設置率の高い河川　上位20 …… ４９
表Ⅲ－２－４　水際線の人工構造物化(護岸)が50％以上の河川 …… ５１
表Ⅲ－２－５　連続する人工改変度の低い水際線　上位19
（自然地率80％以上の区間が連続10区間以上=10km以上） …… ５４
表Ⅲ－２－６　連続する人工改変度の低い水際線　上位18
（自然地率100％の区間が連続10区間以上=10km以上） …… ５７
表Ⅲ－２－７　河原の水系群別改変状況（土地利用状況） …… ６１
表Ⅲ－２－８　第４回調査河川と第３回調査河川の
水系群別河原の存在率及び自然地率比較 …… ６２
表Ⅲ－２－９　河原の存在率が50％以上の河川 …… ６４
表Ⅲ－２－１０(1)　河原内土地利用の占有率の高い河川　上位24〔自然地〕 …… ６８
表Ⅲ－２－１０(2)　河原内土地利用の占有率の高い河川　上位15〔農業地〕 …… ７０
表Ⅲ－２－１０(3)　河原内土地利用の占有率の高い河川　上位15〔未利用造成地〕 …… ７０
表Ⅲ－２－１０(4)　河原内土地利用の占有率の高い河川　上位15〔施設的土地利用〕 …… ７３
表Ⅲ－２－１１　連続する人工改変度の低い河原　上位22（全てリストアップ）
（自然地率80％以上の区間が連続10区間以上=10km以上） …… ７６
表Ⅲ－２－１２　連続する人工改変度の低い河原　上位15（全てリストアップ）
（自然地率100％の区間が連続10区間以上=10km以上） …… ７８
表Ⅲ－２－１３　河畔の水系群別改変状況（土地利用状況） …… ８２
表Ⅲ－２－１４　第４回調査河川と第３回調査河川の水系群別河畔自然地率比較
（河畔の自然地率は両岸の計に基づく率である） …… ８３
表Ⅲ－２－１５(1)　河畔の土地利用別占有率の高い河川　上位15〔自然地〕 …… ８６
表Ⅲ－２－１５(2)　河畔の土地利用別占有率の高い河川　上位15〔農業地〕 …… ８６
表Ⅲ－２－１５(3)　河畔の土地利用別占有率の高い河川　上位15〔市街地・工業地〕 …… ８７
表Ⅲ－２－１６　連続する人工改変度の低い河畔(両岸)　上位20
（自然地の区間が連続10区間以上=10km以上） …… ９２
表Ⅲ－２－１７　調査対象河川[刻]とその幹川の水際線改変状況比較(自然地率) …… ９６
表Ⅲ－２－１８　調査対象河川[刻]とその幹川の河原の存在率と改変状況比較(自然地率) …… ９７
表Ⅲ－２－１９　調査対象河川[刻]とその幹川の河畔の土地利用状況比較(自然地率) …… ９８
表Ⅲ－２－２０　自然性の高い連続する河川区間帯（連続10区間以上=10km以上） …… １００
表Ⅲ－２－２１　自然性の高い区間数の総区間数比率の高い(45％以上) 河川　上位25 …… １０３
表Ⅲ－２－２２　河川の利用状況集計 …… １０５

表Ⅲ－２－２３　河川の利用状況別区間数の総区間数比率の高い河川　上位20
（一部の利用区間率により20以上表示）…… １０６
表Ⅲ－２－２４　河川の不快要因別集計（区間数）…… １０７
表Ⅲ－２－２５　河川の不快要因別不快要因の高い河川　上位３…… １０７
表Ⅲ－２－２６　水際線〔自然地率〕と河原〔自然地率〕の相関集計…… １０８
表Ⅲ－２－２７　水際線〔自然地率〕と河畔土地利用(醉の図鑞)の相関集計…… １０９
表Ⅲ－２－２８　河原〔自然地率〕と河畔土地利用(醉の図鑞)の相関集計…… １１０
表Ⅲ－２－２９　連続する人工改変度の低い水際線(*) の河原と河畔土地利用改変状況
〔 (*)自然地率100%の連続区間帯上位18〕…… １１１
表Ⅲ－２－３０　連続する人工改変度の低い河原(*) の水際線と河畔土地利用の改変状況
〔 (*)自然地率100%の連続区間帯上位14〕…… １１２
表Ⅲ－２－３１　連続する人工改変度の低い河畔[醉](*) の水際線と河原の改変状況
〔 (*)自然地の連続区間帯上位20〕…… １１３
Ⅲ－３　河川の保全地域・鳥獣保護区指定状況
図Ⅲ－３－１　調査対象河川の保全地域指定状況…… １１４
図Ⅲ－３－２　保全地域別　水際線〔自然地率〕毎の出現区間数率…… １１６
図Ⅲ－３－３　保全地域別　河畔土地利用〔自然地〕区間の出現区間数比…… １１８
表Ⅲ－３－１　保全地域指定区間率の大きい河川　上位20…… １１５
表Ⅲ－３－２　保全地域別　水際線〔自然地率〕毎の出現区間数…… １１７
表Ⅲ－３－３　保全地域別　河原土地利用〔自然地率〕毎の出現区間数…… １１８
表Ⅲ－３－４　保全地域別　河畔土地利用状況の出現区間数…… １１９
表Ⅲ－３－５　調査対象河川の鳥獣保護区設定状況…… １２０
表Ⅲ－３－６　鳥獣保護区設定区間率の高い河川　上位20…… １２１
表Ⅲ－３－７　保全地域別　鳥獣保護区設定状況集計…… １２２
Ⅲ－４　河川の魚類相
図Ⅲ－４－１　生息魚種数の多い河川分布図（40種以上の生息魚種報告河川）…… １２４
図Ⅲ－４－２　河川流路延長と生息魚種数の相関図…… １２６
図Ⅲ－４－３　分布限定魚種の多い河川分布図…… １３２
図Ⅲ－４－４　移入魚種の多い河川分布図…… １３５
図Ⅲ－４－５　天然繁殖魚種の多い河川分布図…… １３７
図Ⅲ－４－６　天然繁殖魚種数の階級区分別河川数…… １３８
図Ⅲ－４－７　調査対象河川の幹川との関係及び代表的遡可性魚類の生息状況…… １４５
表Ⅲ－４－１　生息魚種数の多い河川（40種以上の生息魚種報告河川）…… １２３
表Ⅲ－４－２　広域に生息する魚種（50河川以上）…… １２７
表Ⅲ－４－３　分布の限定された魚種（３河川以下）…… １２８
表Ⅲ－４－４　分布限定魚種の多い河川…… １３１

表Ⅲ－４－５　外国産移入種の生息分布状況 …… １３３
表Ⅲ－４－６　移入魚種の多い河川 …… １３４
表Ⅲ－４－７　天然繁殖魚種の多い河川 …… １３６
表Ⅲ－４－８　天然繁殖魚種別生息河川数（40河川以上） …… １３９
表Ⅲ－４－９　調査対象河川の魚類遡上可能区間集計 …… １４１
(1)「幹　川」の魚類遡上可能区間率　上位37 …… １４１
(2)「幹　川」の魚類遡上可能区間の長い河川　上位21（30区間以上） …… １４２
(3)「幹川」から分岐する「支川」の魚類遡上可能区間率　上位22（80%以上） …… １４３
(4)「幹川」から分岐する「支川」の魚類遡上可能区間の長い河川　上位26（60区間以上） …… １４４
表Ⅲ－４－１０　魚類放流量の多い河川とその主要内訳 …… １５９
(1)〔卵放流〕　(2)〔稚魚放流〕　(3)〔稚魚放流〕
表Ⅲ－４－１１　主要魚種の放流河川数と放流総量（放流河川数５河川以上） …… １６０
表Ⅲ－４－１２　河川別　漁獲量（ﾄﾝ／年）上位10 …… １６１
表Ⅲ－４－１３　魚種別　漁獲量（ﾄﾝ／年）上位10 …… １６１
Ⅲ－５　原生流域
表Ⅲ－５－１　原生流域の存在状況（道県別箇所数及び面積） …… １６３
表Ⅲ－５－２　原生流域の変化〔第３回(1985年)～第４回(1992年)の７年間〕 …… １６４
(1)　原生流域として要件を満たさなくなった流域と改変状況 …… １６４
(2)　面積の減少した原生流域と改変状況 …… １６４
(3)　新規登録の原生流域 …… １６５
(4)　第３回設定の原生流域区画の誤りによる訂正(削除) …… １６５
表Ⅲ－５－３　原生流域の保全地域等の指定状況 …… １６６
表Ⅲ－５－４　原生流域面積の大きい保全地域　上位10 …… １６６

調査結果の概要

目 次

Ⅰ．調査概要 …… ①
1．調査の目的 …… ①
2．調査対象河川と調査原生流域 …… ①
3．調査の構成・内容 …… ①
Ⅱ．調査結果の概要 …… ②
1．河川の種類・形状・湖沼・横断工作物・利水状況・水質 …… ②
2．河川／水際線・河原・河畔土地利用の改変状況 …… ④
3．河川の保全地域・鳥獣保護区指定状況 …… ⑪
4．河川の魚類相 …… ⑬
5．原生流域 …… ⑮

調査結果の概要

1．調査の目的

わが国の河川においては、水質の悪化について対策が講じられてきているが、ダム等の建設、護岸改修、都市部における河川の埋立・暗渠化等の著しい改変による生物相の貧困化、住民の憩いの場の消失等の問題に対処するための継続的、体系的な調査は、これまで必ずしも十分におこなわれてはいなかった。

このため、第2回及び第3回自然環境保全基礎調査（昭和54年度及び昭和60年度）では、全国の一級河川の幹川等の現況を調査してきたが、本調査（第4回自然環境保全基礎調査）においては、わが国の主要な二級河川の幹川及び一級河川の支川等の中から選定した良好な自然域を通過する河川、流域面積が大きい河川または動植物相が豊かな河川などを調査対象として、当該河川の概要、河岸の改変状況並びに魚類の生息状況等について調査した。また、第2回及び第3回自然環境保全基礎調査で抽出した、集水域が原生状態を保っている河川（「原生流域」）の改変状況等について調査した。

2．調査対象河川と調査原生流域

主要な二級河川の幹川及び一級河川の支川等の中から、良好な自然域を通過する河川、流域面積が大きい河川または動植物相が豊かな河川として、 153河川を調査対象とした。原生流域の調査は、99流域が原生流域として抽出された。

調査は、国が都道府県に委託して平成4年度（1992年度）に実施された。

3．調査の構成・内容

(1) 河川概要調査

①種類（級別・幹川or支川） ②区間番号 ③河川流路延長 ④1/2.5万地形図 ⑤降水量（最多年降水量・最少年降水量・調査年度降水量） ⑥水位（最高・最低・指定） ⑦流量（最大・最小・平均） ⑧水質（pH・ＢＯＤ・ＳＳ・ＤＯ・大腸菌群数） ⑨環境基準類型 ⑩調査河川流域内の湖沼 ⑪河川横断工作物（水門・閘門・橋梁・ダム・堰・床固・その他） ⑫利水状況（発電用・農業用・水産用・工業用水・飲料用水・その他） ⑬生物相の概要（付着藻類・挺水[抽]植物・植物プランクトン・動物プランクトン・底生動物・両生爬虫類・魚類・水鳥） ⑭その他

(2) 河川改変状況調査

①保全地域（状況） ②鳥獣保護区（状況） ③水際線の改変状況 ④河原の土地利用状況 ⑤河畔の土地利用状況 ⑥河川横断工作物の設置箇所数 ⑦取水施設の有無 ⑧河川の利用状況 ⑨河川環境における不快要因 ⑩河川の屈曲率 ⑪河辺林の有無

(3) 魚類調査

①魚類相に関する記録 ②現在の魚類相 ③漁獲量（年平均） ④放流量（年平均） ⑤天然繁殖の有無

(4) 原生流域調査

①前回調査以降におこなわれた河川改修工事、砂防工事、人工構造物等の設置、森林の伐採、土石・鉱物の採取、水面の埋立、土地の形状変更等の行為の状況 ②その他、当該原生流域における人為的改変状況 ③上記①②の結果として原生流域面積に変化があった場合にはその状況 ④保全地域等の指定状況 ⑤原生流域内の植生等の状況

Ⅱ. 調 査 結 果 の 概 要

1．河川の種類・形状・湖沼・横断工作物・利水状況・水質

1－1 河川の種類（級別と幹川・支川）

河川区分	河川数（%）	河川流路延長 km（%）	
		概要票記載数値	河川流路数値
一級河川	76（49.7）	3,330.3（53.2）	3,336.0（53.4）
二級河川	72（47.1）	2,775.9（44.4）	2,764.0（44.2）
二級＋普通河川	3（2.0）	81.8（1.3）	84.0（1.3）
小 計	151（98.7）	6,188.0（98.9）	6,184.0（98.9）
普通河川	2（1.3）	67.1（1.1）	67.1（1.1）
総 計	153（100.0）	6,255.1（100.0）	6,251.1（100.0）

河川区分	河 川 数	調査流路延長km
幹 川	74（48.4%）	2,881.1（46.1%）
支 川	79（51.6%）	3,367.9（53.9%）
計	153（100.0%）	6,249.0（100.0%）

⇨河川内の自然湖沼の分 2.1kmを含む。したがって、集計解析の調査流路延長は 6,249.0km。

1－2 河川流路延長

調査対象河川において、河川流路延長（調査流路延長）の長い河川の分布は、本州の太平洋／中南と瀬戸内海の水系群が圧倒的に多い。オホーツク海・日本海・東シナ海に係わる河川及び四国及び九州における今回対象とした河川の流路延長は相対的に短い。

1－3 河川の屈曲率

屈曲率が最も大きい値は 5.8で、5010日高川（和歌山県）において認められる。次いで、4640三峰川（長野県）の 3.7、4330新田川（福島県）と5240広見川（高知・愛媛県）の 3.1が続く。屈曲率の大きい区間が認められる河川の地域分布は、本州の河川が14河川と過半数以上を占め、四国と九州の河川がそれぞれ3河川、北海道は1河川と少ない。沖縄県の河川の屈曲率は比較的大きくはない。河川屈曲率の大きい河川区間の水際線、河原、河畔土地利用の自然状況をみると、①河原がほとんどみられないこと、②河原が存在する場合は河原全てが自然地となっている河川が多いこと、③水際線及び河畔土地利用の自然状況は概して高い傾向となっていること等が指摘できる。

1－4 河川の縦断形状（標高差と勾配）

河川（調査）流路延長が比較的長い河川、また、北海道の原野地域に位置する河川の縦断形状は概して直線的であるが、大部分の調査対象河川は指数曲線的な形状を呈している。河川縦断形状（勾配）が大きい河川、または、河川の比高差が大きい河川を抽出すると、山地に位置する河川が抽出される。

1－5 河川流路上の湖沼

河川流路上の湖沼（ダム・貯水池含む）は、調査対象の48河川において81認められる。これらの湖沼の占める区間の総数は 308区間で、調査対象河川の総区間数 6,308区間の 4.9%に相当している。しかし、そのほとんどは人工湖沼であり、天然湖沼は4030美々川（北海道）において1湖沼（ウトナイ湖）がみられるのみである。

1－6　河川横断工作物

〔箇所数〕

河川総数	水　門	閘　門	橋　梁	ダ　ム	堰	床　固	その他	総　計
153	148	14	5,046	160	1,974	781	106	8,229

1－7　河川利水状況

〔上段：河川数　下段：河川総数比%〕

河川総数	発電用	農業用	水産用	工業用	飲料用	その他
153	63	124	17	34	67	20
100.0	41.2	81.0	11.1	22.2	43.8	13.1

1－8　河川の取水施設

153の調査対象河川のうち、139河川で取水施設があることが報告されている。取水施設が全く報告されていない河川は14河川である。

1－9　河川の水質

(1)　ｐＨ（水素イオン濃度）

２箇所の測定値以外は、河川水質環境基準値「pH 6.5以上、pH 8.5以下」の範囲内の測定値が報告されている。

(2)　ＢＯＤ（生物化学的酸素要求量）

16河川で 3.0mg／ℓ以上の値が報告されているが、その他の河川では水質類型Ｂ以上のＢＯＤ基準(3.0mg／ℓ以下）を確保している。

(3)　ＳＳ（浮遊物質量）

13河川で25mg／ℓ以上の値が報告されているが、その他の河川では水質類型Ｂ以上のＳＳ基準（25mg／ℓ以下）を確保している。

(4)　ＤＯ（溶存酸素量）

３河川で 5.0mg／ℓ以下の値を呈しているが、その他の河川では水質類型Ｂ以上のＤＯ基準（ 5.0mg／ℓ以上）を確保している。

(5)　大腸菌群数

全ての河川で測定値が報告されてはいないが、水質類型Ｂ基準の5,000MPN／100mlをはるかに越えた数値が報告されている。

(6)　環境基準類型

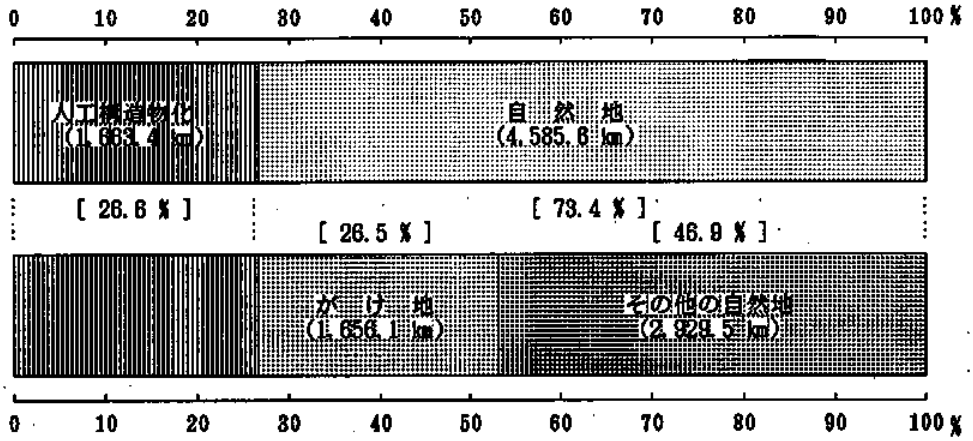
ＢＯＤを中心にみると全般的に良好な水質状況であるが、大腸菌群数値では類型ランクが低下する状況である。

2．河川／水際線・河原・河畔土地利用の改変状況

2－1　水際線の改変状況

(1) 全国集計

【 調査対象 153河川の総延長 6,249.0 km 】



(*) 水際線の改変状況のデータは、各区分ごと（1 km／区分）に左右両岸を併せて取得したものである。

(2) 水系群別改変状況

自然地率に注目してみると、「沖縄－東シナ海」水系群（2河川）でほぼ 100%に近い。次いで、「北海道－太平洋／北」水系群、「四国－太平洋／中南」水系群、「北海道－太平洋／中南」水系群、「北海道－日本海」水系群、の順で自然地率が大きい状況になっている。人工構造物化の面でみると、比較的高い値を呈している河川は、北海道のオホーツク海側、本州と四国の瀬戸内海側、九州の日本海側から東シナ海側と太平洋側の水系群の河川である。

(3) 水際線の改変状況（護岸設置及び未設置）

調査対象 153河川を個別にみたとき、人工構造物化（護岸設置）率が10%以上20%未満の河川が36河川で最も多い。次いで、0%以上10%未満の河川が33河川、20%以上30%未満の河川が22河川で、30%未満の河川の計は91河川と調査対象河川全体の59%となっている。また、水際線が全く人工構造物化されていない河川は、4河川となっている。護岸未設置率の高い上位20河川を水系群別にみると、太平洋に係わる河川が9河川、日本海に係わる河川が6河川、瀬戸内海に係わる河川が3河川、東シナ海に係わる河川が2河川となっている。地域別では、北海道（特に東部）、秋田県、和歌山県、愛媛県、沖縄県で複数の河川が抽出されている。人工構造物化（護岸設置）率が高い（50%以上）河川は37河川（全調査対象河川数比24%）であるが、これらの河川の分布は北海道では全くみられず、概して瀬戸内海と北九州に係わる河川が多い。

(4) 連続する人工改変度の低い水際線

① 「水際線の区間毎の自然地率が80%以上の区間が連続10区間以上（＝10km以上）のもの」

該当するものは 129区間帯ある。その区間帯の連続数は最大 109区間連続で、5010日高川（和歌山県）でみられ

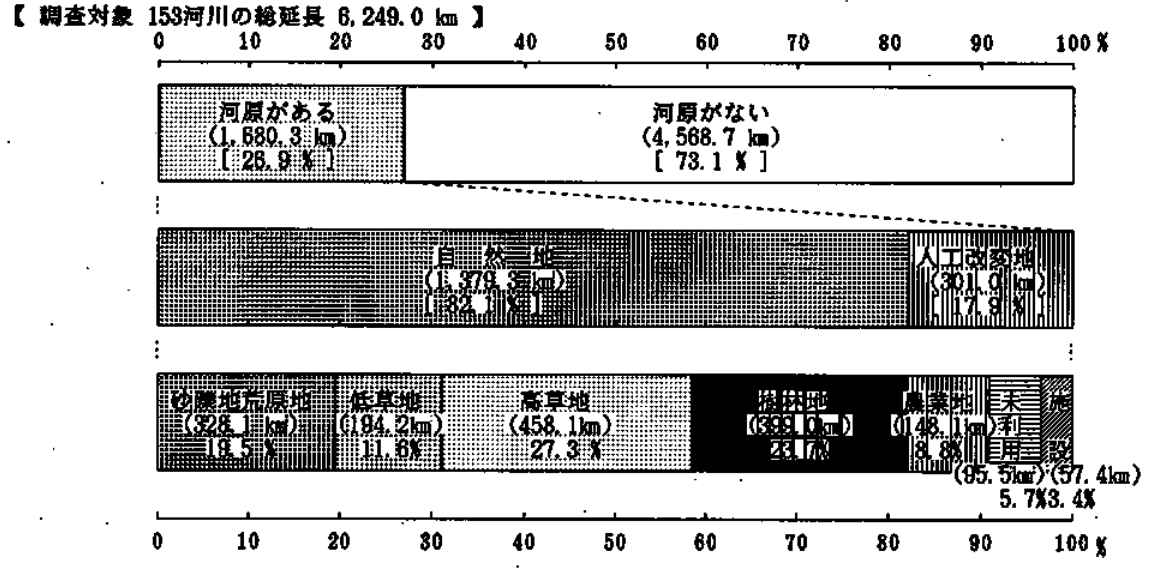
る。このような区間帯の単位区間の連続数規模によるその出現数では、単位区間の連続が10～19区間であるものが圧倒的に多い状況にある。「連続する人工改変度の低い水際線」の長い上位の河川は、北海道の東部等限定された地域に偏在している。

② 「水際線の区間毎の自然地率が 100％の区間が連続10区間以上（＝10km以上）のもの」

該当するものは68区間帯ある。この単位区間の連続性の規模をみると、最大は87区間の連続で4110西別川（北海道）でみられる。また、その規模別の出現頻度をみると、単位区間の連続が10～19のものが45区間帯と他に比較して最も多く、それより規模が大きいものは少ない出現状況となっている。「連続する人工改変度の低い水際線（自然地率 100％）」の長い上位河川は、中国及び九州地域の河川では認められない。

2－2 河原の改変状況

(1) 全国集計



(2) 水系群別改変状況（土地利用）

① 河原の存在率

水系群別の河原の存在状況は、水系群によって大きく異なっている。「沖縄－東シナ海」水系群、「北海道－太平洋／北」水系群に属する河川では調査流路のほとんどに河原が存在するが、その他の水系群における河川の河原存在率は、かなり小さくなっている。概して、北海道と沖縄県における河川の河原存在率は高く40％～ 100％であるが、本州・四国・九州に分布する河川の河原存在率は40％以下０％までになっている。

② 河原の改変状況

自然地率に注目してみると、「沖縄－東シナ海」水系群（２河川）と「九州－東シナ海」水系群（８河川）で100％である。次いで、「北海道－太平洋／北」水系群（97％）、「四国－太平洋／中南」水系群（92％）、「本州－瀬戸内海」水系群（86％）、「北海道－太平洋／中南」水系群（82％）の順で自然地率が大きい。

人工改変状況の観点から水系群別にみると、農業地土地利用は、「北海道－オホーツク海」水系群（38％）、

「北海道－日本海」水系群（18%）に属する河川の河原で顕著である。未利用造成地と施設的土地利用では、「北海道－日本海」水系群、「四国－瀬戸内海」水系群に属する河川の河原で大きい占有率を示している。

(3) 河原の存在状況

河原がある河川は85河川であり、河原の存在率が50%以上の河川は27河川である。これらの河川の分布をみると、北海道や沖縄県の河川が目につく他に、関東・中京地区の平野部にもみられる。東北・中国地方の河川は出現していない。

(4) 河原の改変状況（土地利用状況）

① 河原の「自然地」状況

84河川の河原においては10%以上の自然地が存在している。これらの占有率を階級区分別にみると、43河川が90%以上で最も多く、このうち24河川では自然地率が 100%となっている。次いで、13河川が70%以上80%未満の自然地率であり、9河川が80%以上90%未満の自然地率となっている。河原がある場合、その自然地率はきわめて高い。河原の自然地率の高い河川の分布域は全国に散在している。

② 河原の「農業地」状況

33河川の河原では農業地利用をみることはできない。52河川の河原においては農業地の利用がおこなわれているが、そのうち29河川では10%未満となっており最も多い。河原の農業地率の高い河川の分布域は、多くが北海道及び本州の太平洋に係わる河川となっていることが特徴的で、東日本に偏在している。

③ 河原の「未利用造成地」状況

河原の未利用造成地土地利用は、57の河川の河原では認められない。残りの28河川における未利用造成地率は最大で50%であり、大部分は10%未満になっている。河原の未利用造成地率の高い河川の分布域は、全国的にみると北海道、首都圏、北陸地方、香川県等の限定した都道府県となっている。

④ 河原の「施設的土地利用」状況

施設的土地利用は42河川の河原ではおこなわれておらず、残りの43河川の河原で認められる。最大80%の占有率の河川もあるが、大部分は20%未満、とりわけ10%未満となっている。これらの土地利用がおこなわれている河原の河川分布域は、首都圏、北陸地方、兵庫県、香川県等の限定した都道府県となっている。

(5) 連続する人工改変度の低い河原

① 「河原の区間毎の自然地率が80%以上の区間が連続10区間以上（＝10km以上）のもの」

該当河川は25区間帯ある。その区間帯の連続数は、最大 110区間連続で4110西別川（北海道）でみられる。このような区間帯の単位区間の連続数規模によるその出現河川数では、単位区間の連続が10～19区間であるものが大部分である。河原の連続する人工改変度の低い区間帯の上位河川の地域をみると、北海道、東日本各県、中京地方などに位置する河川があがっており、西日本に位置する河川は徳島県の1河川のみである。

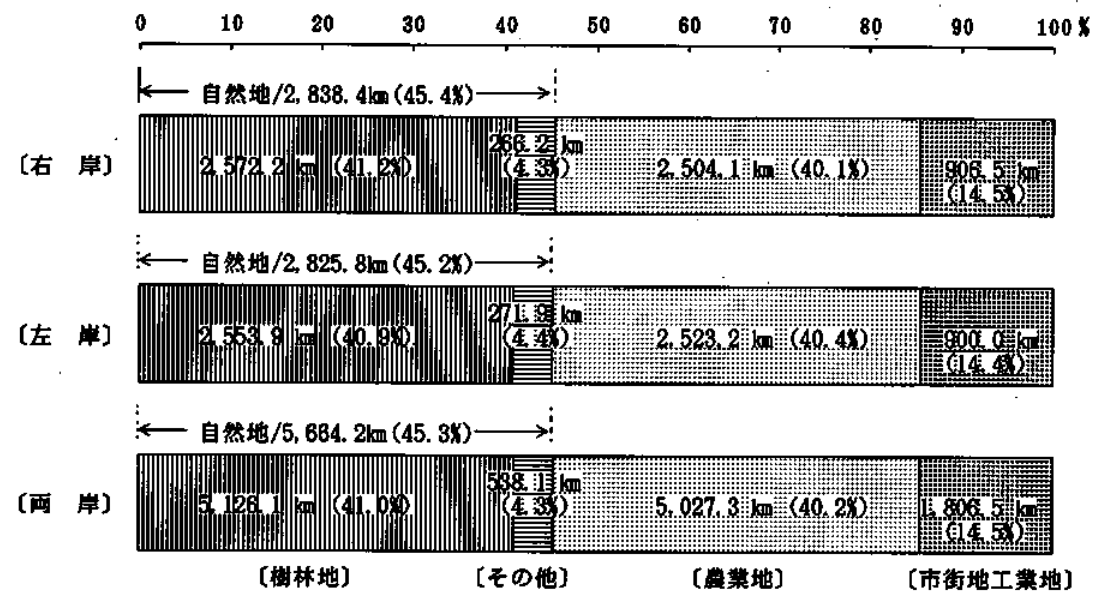
② 「河原の区間毎の自然地率が100%の区間が連続10区間以上（＝10km以上）のもの」

該当するものは16区間帯ある。この連続性の規模をみると、最大は 110区間の連続で4110西別川（北海道）でみられる。また、その規模別の出現頻度をみると、単位区間の連続が10～19のものが9区間帯と他に比較して多い。これらの河川の地理的位置は、大部分が東日本の太平洋側に偏在している。

2－3　河畔土地利用の改変状況

(1)　全国集計

【 調査対象 153河川の総延長 6,249.0 km 】



(2)　水系群別改変状況（土地利用）

自然地率に注目してみると、「沖縄－東シナ海」水系群で96.9％と最も高い値がみられる。次いで、「北海道－太平洋／北」水系群の61.4％、「北海道－太平洋／中南」水系群の60.3％、「四国－太平洋／中南」水系群の57.0％と続く。ここまでの順位は、自然地に注目したときの水際線の改変状況や河原の土地利用状況の水系群別順位とほぼ同一である。農業地率では、「北海道－オホーツク海」水系群78.0％、「九州－瀬戸内海」水系群65.9％、「九州－日本海」水系群56.3％が他に比較して高い値を示している。市街地・工業地率では、「九州－日本海」水系群24.1％、「本州－太平洋／中南」水系群18.3％、「本州－瀬戸内海」水系群17.7％が目立つ。このような傾向は、本州における太平洋沿岸から瀬戸内海沿岸、さらに九州の日本海沿岸へと続く国土の人口集中帯と一致している。

(3)　河畔の改変状況（土地利用状況）

河畔土地利用における自然地率の階級区分別に出現河川数をみると、河畔自然地率が90％以上の河川が10河川（そのうちの６河川は自然地率 100％）、出現頻度が高い河川として河畔自然地率40％以上50％未満が28河川、河畔自然地率30％以上40％未満が25河川、河畔自然地率50％以上60％未満が22河川、である。河畔自然地率の高い河川の地理的分布については、上位15河川をみると、首都圏から本州の太平洋沿岸－名古屋圏－大阪圏－瀬戸内海沿岸－九州に至る国土の人口集中ベルト地域に係わる河川では比較的少なく、「本州－日本海」水系群の河川が多い。

河畔農業地率の高いのは、82.8％の5020八東川（鳥取県）、82.1％の4770鵜戸川（愛知県）80.4％の5350川棚川（長崎県）などである。出現頻度の大きいものは、河畔農業地率30％以上40％未満が31河川、40％以上50％未満が28河川、河畔農業地率20％以上30％未満及び50％以上60％未満がそれぞれ21河川となっている。河畔農業地率の高い河川の地理的分布では、自然地率と同様に「本州－日本海」水系群に属している河川が多い。

河畔市街地・工業地率が大きい河川は少なく、50％以上の河川はわずか４河川である。河畔市街地・工業地率区

分別で出現頻度が大きいものは、０％より大きく10％未満の55河川、10％以上20％未満の38河川、20％以上30％未満の30河川となっている。河畔市街地・工業地率の高い河川の地理的分布傾向では、「本州－太平洋／中南」水系群に属している河川が多く、次いで「本州－瀬戸内海」水系群の河川と続く。

(4) 連続する人工改変度の低い河畔（河畔の自然地区間（両岸）が連続10区間以上＝10km以上のもの）

該当するものは、64区間帯である。その区間帯の連続数は、最大62区間連続で5210銅山川（徳島・愛媛県）でみられる。単位区間の連続が10～19区間であるものが大部分である。「連続する人工改変度の低い河畔」の上位の地理的分布は九州を除く全国各地に散在し特定の傾向は認められないが、北海道及び中部山岳地域に係わる河川に属しているものが比較的多い。

2－4　調査対象「支川」河川とその幹川の改変状況比較

調査対象河川のうち「支川」は79河川であるが、それらと幹川の関係では48水系にまとめられる。この48水系毎に、調査対象「支川」とその幹川の比較を、水際線・河原・河畔の自然地率の比較と河原の存在率でおこなった。

(1) 水際線の改変比較（自然地率比較）

幹川の自然地率の高いものが25水系、支川の自然地率の高いものが23水系であった。これらの全般的な地理的概況は、北海道の調査対象河川は支川の自然地率が高く、瀬戸内海に係わる河川と九州における調査対象河川においては一部の例外はあるが幹川の自然地率が高い傾向にある。

(2) 河原の存在率

幹川よりも調査対象「支川」において、河原の存在率が小さい。

(3) 河原の改変比較（自然地率比較）

24水系(ﾃﾞｰﾀ）だけであるが、その大部分(17ﾃﾞｰﾀ）で支川の河原の自然地率が、幹川のそれよりもかなり大きい値を呈している。

(4) 河畔の改変比較（自然地率比較）

「支川」調査対象河川においては、幹川と比較して、河畔の人工改変が小さい。

2－5　自然性の高い河川区間

「自然性の高い河川区間」の定義を、①区間の際線において「自然地が80％以上であること」、②区間に河原がある場合は「河原土地利用において自然地が80％以上であること」、③区間の河畔の土地利用において「両岸ともに最も卓越している土地利用が自然地であること」、④河川工作物が存在しないこととした。

(1) 自然性の高い河川区間率の上位河川

調査対象河川毎に、総区間数に対する「自然性の高い区間」数の比をみると、最も出現河川数の多い区間比数は、10％以上20％未満の34河川である。以下、０％より大きい10％未満の27河川、20％以上30％未満の21河川となっている。「自然性の高い区間」率が高い上位河川の地理的分布は、北海道、本州の日本海側、山梨・長野県の中部山岳地域、四国、沖縄県西表島等の限定された地域となっている。

(2) 自然性の高い連続する河川区間（帯）

「自然性の高い河川区間」が「連続10区間以上（原則的には10km以上）のもの」を「自然性の高い連続する河川区間（帯）」としたが、このような区間帯は26河川の33区間帯でみられた。「自然性の高い区間」の連続性は、き

わめて乏しい。「自然性の高い連続する河川区間帯」の中で長いものの河川の地理的位置は九州地域を除く全国に分散しているが、概して、北海道、東北、中部山岳地域等に集中している。

自然性の高い区間数の総区間数比率の高い河川　上位24

	河川コード	河川名	調査流路延長km	総区間数	自然性の高い連続区間 区間数	総区間数比%	水系群名	都道府県
1.	4050	別寒辺牛川	55.9	56	56	100.0	北海道－太平洋／北	北海道
	4250	岩股川	4.5	5	5	100.0	本州－日本海	秋田県
	4520	長棟川	19.0	19	19	100.0	本州－日本海	富山県
	5520	仲良川	7.0	7	7	100.0	沖縄－東シナ海	沖縄県
5.	5210	銅山川	61.4	62	57	91.9	四国－瀬戸内海	徳島・愛媛県
6.	5510	仲間川	9.0	9	8	88.9	沖縄－東シナ海	沖縄県
7.	4960	川原樋川	27.5	28	22	78.6	本州－太平洋／中南	奈良県
8.	4170	安家川	28.7	29	22	75.9	本州－太平洋／中南	岩手県
9.	4040	暑寒別川	26.0	26	19	73.1	北海道－日本海	北海道
10.	4030	美々川	18.2	18	13	72.2	北海道－太平洋／中南	北海道
11.	4610	早川	66.1	67	46	68.7	本州－太平洋／中南	山梨県
12.	4360	大北川	29.2	30	20	66.7	本州－太平洋／中南	茨城県
13.	4640	三峰川	61.3	62	38	61.3	本州－太平洋／中南	長野県
14.	4150	赤石川	50.2	51	31	60.8	本州－日本海	青森県
15.	4630	王滝川	54.8	55	33	60.0	本州－太平洋／中南	長野県
16.	4120	日高幌別川	33.8	34	20	58.8	北海道－太平洋／中南	北海道
17.	4010	雪裡川	58.6	59	33	55.9	北海道－太平洋／北	北海道
18.	5190	海部川	36.0	36	20	55.6	四国－太平洋／中南	徳島県
19.	4100	歴舟川	64.7	65	35	53.8	北海道－太平洋／北	北海道
20.	4480	三面川	41.0	42	22	52.4	本州－日本海	新潟県
21.	5200	野根川	20.0	20	10	50.0	四国－太平洋／中南	高知・徳島県
22.	5170	錦川	110.3	111	54	48.6	本州－瀬戸内海	山口県
23.	4020	風蓮川	99.5	100	48	48.0	北海道－太平洋／北	北海道
24.	4240	粕毛川	21.5	22	10	45.5	本州－日本海	秋田県

自然性の高い連続する河川区間帯　（連続10区間以上＝10km以上）

	河川コード	河川名	調査流路延長km	総区間数	自然性の高い区間連続 連続区間数	始	終	水系群名	都道府県
1.	4050	別寒辺牛川	55.9	56	56	1	56	北海道－太平洋／北	北海道
2.	5210	銅山川	61.4	62	24	30	53	四国－瀬戸内海	徳島・愛媛県
3.	4100	歴舟川	64.7	65	22	44	65	北海道－太平洋／北	北海道
4.	4120	日高幌別川	33.8	34	20	15	34	北海道－太平洋／中南	北海道
5.	4520	長棟川	19.0	19	19	1	19	本州－日本海	富山県
6.	4010	雪裡川	58.6	59	18	1	18	北海道－太平洋／北	北海道
7.	4150	赤石川	50.2	51	17	35	51	本州－日本海	青森県
	4330	新田川	62.9	63	17	20	36	本州－太平洋／中南	福島県
	4630	王滝川	54.8	55	17	39	55	本州－太平洋／中南	長野県
10.	4170	安家川	28.7	29	16	2	17	本州－太平洋／中南	岩手県
	4480	三面川	41.0	42	16	22	37	本州－日本海	新潟県
12.	4020	風蓮川	99.5	100	15	19	33	北海道－太平洋／北	北海道
13.	4010	雪裡川	58.6	59	14	46	59	北海道－太平洋／北	北海道
	4260	岩見川	45.5	46	14	33	46	本州－日本海	秋田県
	5010	日高川	119.2	120	14	57	70	本州－太平洋／中南	和歌山県
	5170	錦川	110.3	111	14	69	82	本州－瀬戸内海	山口県
17.	4020	風蓮川	99.5	100	13	4	16	北海道－太平洋／北	北海道
18.	4040	暑寒別川	26.0	26	12	15	26	北海道－日本海	北海道
	4710	飛騨川	137.0	137	12	126	137	本州－太平洋／中南	岐阜県
	4960	川原樋川	27.5	28	12	10	21	本州－太平洋／中南	奈良県
	5170	錦川	110.3	111	12	32	43	本州－瀬戸内海	山口県
22.	4030	美々川	18.2	18	11	4	14	北海道－太平洋／中南	北海道
	4070	厚田川	32.0	32	11	22	32	北海道－日本海	北海道
	4360	大北川	29.2	30	11	20	30	本州－太平洋／中南	茨城県
	4640	三峰川	61.3	62	11	40	50	本州－太平洋／中南	長野県
	4640	三峰川	61.3	62	11	52	62	本州－太平洋／中南	長野県
	5100	成羽川	73.7	75	11	27-34-33-35		本州－瀬戸内海	岡山・広島県

2－6　河川の利用状況

	風景探勝	キャンプ	温　泉	ボート	川下り	釣　場	漁　業	未利用
該当河川数	74	46	26	18	4	21	91	27
調査対象河川数(153) 比%	48.4	30.1	17.0	11.8	2.6	13.7	59.5	17.6

該当区間の総計	356	115	70	70	28	80	2252
総区間数　(6307)比%	5.6	1.8	1.1	1.1	0.4	1.3	35.7

	レクリエーション利用(風景探勝・キャンプ・温泉・ボート・川下り・釣場) 種類数						
	6種	5種	4種	3種	2種	1種	0
該当河川数	1	1	10	14	29	40	58
調査対象河川数(153) 比%	0.7	0.7	6.5	9.2	19.0	26.1	37.9

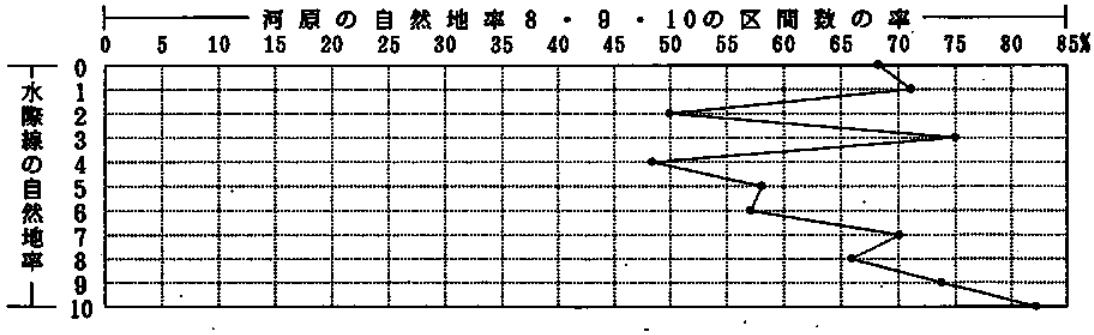
2－7　河川の不快要因

	濁り	水面の泡	悪臭	ゴミ	砂利採取	道路法面	水量少	ダム湖岸	乗用車	騒音
該当区間の総計	640	168	59	412	57	299	192	90	594	181
総区間数(6307)比 %	10.1	2.7	0.9	6.5	0.9	4.7	3.0	1.4	9.4	2.9

2－8　河川の水際線・河原・河畔の自然状況の相関

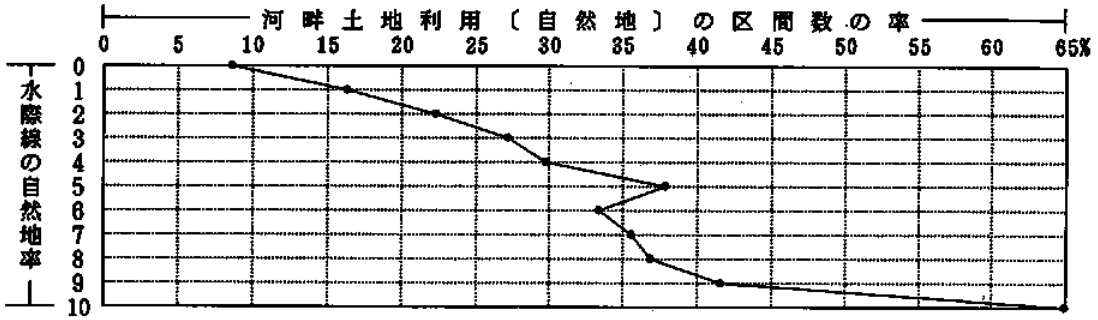
(1)　水際線〔自然地率〕と河原〔自然地率〕の相関

水際線の自然地率が40%以上の区間については河原の自然地率との間に緩い正の相関が認められるが、水際線の自然地率が低くても河原の自然地率はかなり大きい。



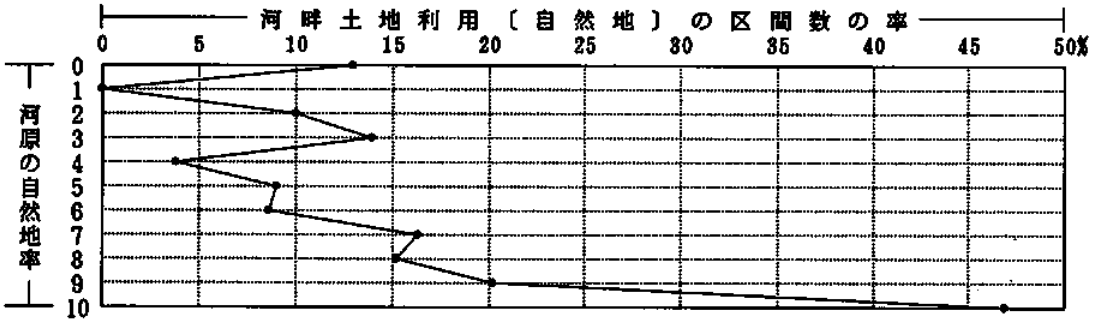
(2)　水際線〔自然地率〕と河畔〔土地利用〕の相関

強い正の相関関係が認められる結果となった。



(3) 河原〔自然地率〕と河畔〔土地利用〕の相関

河原の自然地率が40%以上の区間について、河畔土地利用の自然地率との間に強い正の相関が認められる。しかし、河原の自然地率が40%以下であっても、河畔においてはおおよそ10～15%程度の自然地が存在している。



(4) 連続する人工改変度の低い水際線・河原・河畔土地利用の相互状況

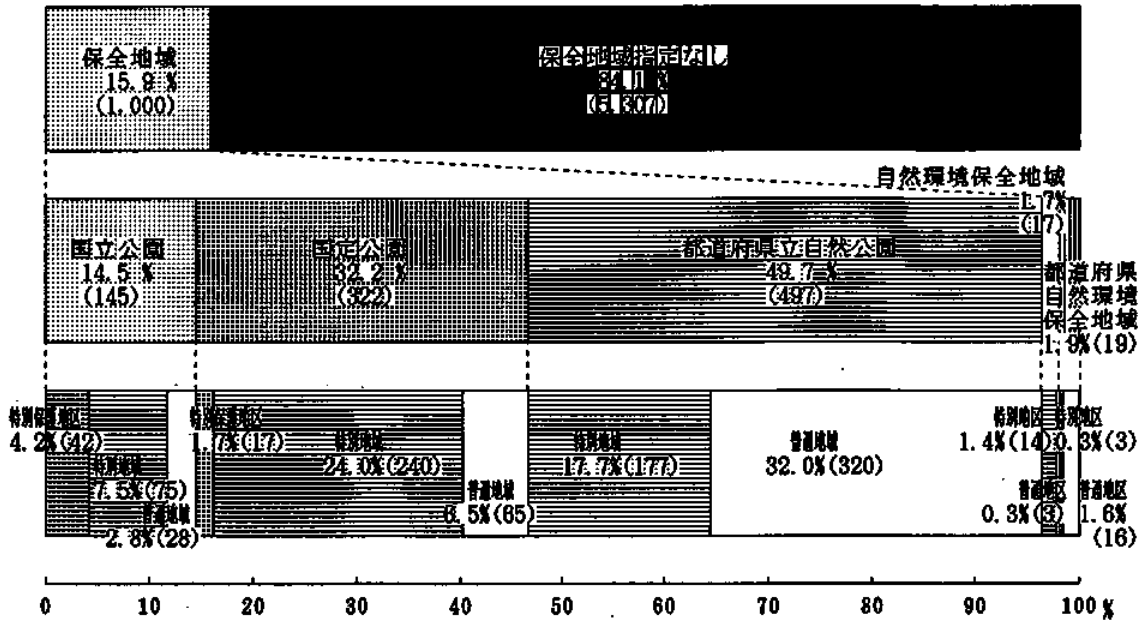
「連続する人工改変度の低い水際線」に対置する河原の自然地率は高いが、河畔土地利用は自然地もしくは農業地となっており市街地・工業地はほとんどみられない。「連続する人工改変度の低い河原」に対置する水際線と河畔土地利用の多くは様々な人工改変を受けている。「連続する人工改変度の低い河畔土地利用」に対置する水際線と河原の人工改変度は微小であり極めて高い相関が認められる。

3．河川の保全地域・鳥獣保護区指定状況

3－1 河川の保全地域指定状況

個別の河川毎に、河川総区間数に対して保全地域の指定を受けている区間数の比を算出し、その大きいものを抽出してみると、全国に分散する結果となっている。水系群別では、「本州－太平洋／中南」水系群の河川がほぼ半数で、次いで、「北海道・本州の日本海」水系群、「九州・沖縄の東シナ海」水系群となっている。

【総区間数：６，３０７】



３－２　河川の保全地域指定と自然環境状況

(1)　水際線の自然環境〔自然地率〕

保全地域指定を受けていない区間における水際線の自然地率では、自然地率80％以上の出現区間数の総区間数比が62.0％であるのに対して、保全地域指定を受けている区間においては76.8％と格段の違いをみせている。特に、自然地率 100％においては、前者が40.9％に対して後者が61.0％とより大きな差となっている。この集計結果から、保全地域指定が、水際線の自然環境の保全に一定の役割を果していることをうかがいみることができる。

(2)　河原土地利用の自然環境〔自然地率〕

河原が存在する区間は全てで 1,685区間であるが、そのうちの 179区間（保全地域指定総区間数比10.6％）が保全地域指定を受けている。これらの保全地域指定を受けている河原では、自然地率80％以上であるものが 172区間で、96.1％がこれに該当している。保全地域内に存在する河原の自然環境はきわめて自然に富んでいる。これらに対して、保全地域の指定を受けていない河原の自然環境は、自然地率80％以上のものをみると 1,071区間で、保全地域指定を受けていない総区間数 (1,506)比71.1％となっている。明確に自然地率の高い区間の出現率が小さくなっており、保全地域指定による規制が、河原の自然環境の保全にも一定の歯止めになっていることを認めることができる。

(3)　河畔土地利用の自然環境〔自然地率〕

保全地域別に河畔土地利用〔自然地〕の出現区間数比をみると、保全地域の指定を受けている区間の河畔土地利用〔自然地〕の率は75.7％の高い値となった。これに比較して、保全地域指定を受けていない区間のそれは39.9％となっており、保全地域指定による土地利用規制が河畔土地利用の規制にも大きな効果をあげていることが明らかになった。

3－3　河川の鳥獣保護区指定状況

鳥獣保護区	鳥獣保護区の設定がある			鳥獣保護区の設定がない	合計
	特別保護区無	特別保護区有	小計		
区間数	637	82	719	5,588	6,307
構成比％	10.1	1.3	11.4	88.6	100.0

3－4　鳥獣保護区設定と保全地域指定の相関集計

国立公園指定を受けている区間の42.1％、国定公園指定を受けている区間の28.0％、都道府県立自然公園指定を受けている区間の28.2％で鳥獣保護区が設定されている。

4．河川の魚類相

4－1　生息状況

今回の調査対象河川において、40種以上の生息魚類が報告されている河川は18河川であるが、その傾向をみると比較的流路長が長い河川であること、二級河川の幹川であること、水系群では「本州－太平洋／中南」あるいは「本州－瀬戸内海」の河川であること、西日本の河川であることなどにその特徴が認められる。

生息魚種数の多い河川（40種以上の生息魚種報告河川）

	河川コード	河川名	生息魚種数	調査実施流路長km	級別	幹・支	水系群名	都道府県
1	4990	有田川	83	103.0	二級	幹	本州－瀬戸内海	和歌山県
2	4680	揖斐川	65	111.5	一級	支	本州－太平洋／中南	三重・岐阜県
3	5270	新荘川	63	25.1	二級	幹	四国－太平洋／中南	高知県
4	5290	室見川	58	22.6	二級	幹	九州－日本海	福岡県
5	4760	瀬戸川	56	26.4	二級	幹	本州－太平洋／中南	静岡県
	4920	千種川	56	72.2	二級	幹	本州－瀬戸内海	兵庫県
7	4570	大聖寺川	54	37.8	二級	幹	本州－日本海	石川県
	5000	富田川	54	46.5	二級	幹	本州－太平洋／中南	和歌山県
9	5010	日高川	51	119.2	二級	幹	本州－太平洋／中南	和歌山県
10	4480	三面川	50	41.0	二級	幹	本州－日本海	新潟県
11	5170	錦川	48	110.3	二級	幹	本州－瀬戸内海	山口県
	5260	下ノ加江川	48	27.5	二級	幹	四国－太平洋／中南	高知県
13	4930	市川	47	77.1	二級	幹	本州－瀬戸内海	兵庫県
14	4560	犀川	46	34.0	二級	幹	本州－日本海	石川県
	5300	今川	46	40.6	二級	幹	九州－瀬戸内海	福岡県
16	4210	白石川	42	69.7	一級	支	本州－太平洋／中南	宮城県
17	4370	渡良瀬川	41	107.5	一級	支	本州－太平洋／中南	埼玉・茨城・群馬・栃
	4950	夢前川	41	37.9	二級	幹	本州－瀬戸内海	兵庫県

4－2　広域分布魚種

調査対象の 153河川のおおよそ１／３である50河川以上で生息が報告されている魚種－広域の生息分布が報告されている魚種数は23種であった。これらの魚種は、第３回調査で報告されている上位10種とほぼ同じであり、順位も大差ない。上位のアユ・オイカワ・ウグイは純淡水魚であり上流から下流まで広い行動範囲をもつとされている。

4－3　分布の限定された魚種

生息が報告されている河川が3河川以下である魚種（分布限定魚種）を抽出した結果、 117種の魚種が整理された。ゴギのような天然記念物の種の他に、移入種（アオウオ・コクレン等）、沿岸回遊魚種等、多岐にわたって出現している。分布限定種を生息河川毎にまとめると、4990有田川（和歌山県）において18の分布限定魚種が報告されており、次いで、5520仲良川（沖縄県）の10種、5270新荘川（高知県）の9種、5260下ノ加江川（高知県）の8種、4760瀬戸川（静岡県）の7種となっている。これらの河川の地理的位置は、概して、本州－四国－九州の太平洋・瀬戸内海・東シナ海に係わっているものなど、西日本の河川が多い。

4－4　移入種の生息分布

最も広く生息しているものはブラックバスで、38河川で報告されている。次いで、ブルーギルが25河川、タイリクバラタナゴが21河川、カムルチーが20河川で報告されている。また、移入魚種の分布する河川は57河川となっている。最も移入魚種が多く報告されている河川は、4370渡良瀬川（埼玉・茨城・群馬・栃木県）の8種(ｱｵｳｵ、ｿｳｷﾞｮ、ﾊｸﾚﾝ、ｺｸﾚﾝ、ﾀｲﾘｸﾊﾞﾗﾀﾅｺﾞ、ﾀｲﾜﾝﾄﾞｼﾞｮｳ/ﾗｲｷﾞｮ 、ﾌﾞﾗｯｸﾊﾞｽ、ﾌﾞﾙｰｷﾞﾙ) である。

4－5　天然繁殖の魚種

天然繁殖魚種数の多い河川についてみると、4990有田川（和歌山県）が最多で80種報告されている。次いで、50種台が3河川、40種台が4河川となっている。天然繁殖魚種の多い上位河川の分布をみると、「本州－瀬戸内海」水系群（兵庫県・和歌山県）、「四国－太平洋／中南」水系群（高知県）の河川が目立つ。

天然繁殖魚種数の階級区分別の河川数では、10種台が57河川と最も多く、次は20種台が44河川となっている。天然繁殖魚種別についてみると、多くの河川で天然繁殖している魚種はオイカワの 109河川で、全調査対象河川の71％に認められる。次いで、ウグイの 104河川（同68％）、コイの94河川（同61％）、カマツカの87河川（同57％）等で、広域分布魚種と一致するものが多い。

また、天然繁殖魚種について、その生息河川数と該当魚種の分布する河川数の比をとってみると、およそ80％以上の値が算出され、全体としてかなりの部分が天然繁殖である。しかし、例外的に、アユは53％、ウナギは41％の低率となっており、アユとウナギについては、人工繁殖の河川が調査対象河川のおよそ半数ある。

4－6　魚類の遡上状況

調査対象の 153河川は、その流路が最終的に海に達する独立した「幹川」と、第3回調査の対象となった河川を幹川としてそれに合流する「支川」の2つの形態に分けることができる。この区分の個々の河川における魚類の遡上可能性をみた。

(1) 幹川における魚類の遡上可能状況

幹川形態の河川は74河川であるが、このうち27河川は調査対象区間の最上流区間まで魚類の遡上が可能となっている。半数に相当する37河川は、遡上可能区間の総区間数比が80％以上となっている。これらの37河川についての地理的分布は、北海道が9河川と突出してはいるがこれ以外での特徴的傾向は認められない。

魚類遡上可能区間が長い河川をみると、最大の河川は5010日高川（和歌山県）の 120区間である。このように

100区間以上の長大な遡上可能流路をもっている河川は、この他には、4110西別川と4020風蓮川のいずれも北海道に分布する2河川である。魚類遡上可能区間が30区間以上の河川は21あるが、北海道（8河川）と兵庫県（4河川）に集中している。

(2) 幹川から分岐する支川における魚類の遡上可能状況

幹川から分岐する支川は79河川あるが、このうち幹川河口から支川との合流区間までの魚類遡上状況が明確な50河川について、一連の河川として魚類の遡上可能状況をみた。

幹川の河口から支川（調査対象河川）の最上流区間まで遡上可能な河川は、7河川であった。幹川河口から80%以上の区間まで遡上可能な河川は半数に近い22河川であった。遡上可能区間が長大なものは、200区間以上が2河川、100区間以上200区間未満が10河川となっている。これらの長大な遡上可能区間が確保されているのは、主として、本州－太平洋水系群等に属している長大幹川の支川である。

4－7 放流・漁獲状況

(1) 放流状況

調査対象の153河川のうち、122河川（79.7%）において魚類の放流がおこなわれているが、これらの内訳（種類）をみると、卵放流が23河川、稚魚〔尾数〕放流が119河川、稚魚〔重さ〕放流が40河川となっている。

主要魚種について、その放流河川数と放流量を整理すると、アユが調査対象河川(153河川）の70%である107河川で放流がおこなわれており、他の魚種と比較して群を抜いて多い河川数である。アユの放流形態は、稚魚・成魚及び卵のいずれでもおこなわれている。アユに続いて放流河川数の多い魚種は、コイ、ウナギ、ヤマメ、ニジマス、アマゴ等となっている。

(2) 漁獲状況

調査対象の153河川のうち、漁獲対象となっている河川は83河川（54.2%）である。これらの河川において、最も漁獲量が多い河川は4680揖斐川（三重・岐阜県）で、651ﾄﾝ／年を記録している。しかし、揖斐川以外の河川においては200ﾄﾝ／年以下の量であり、かなり少ない漁獲量となっている。

漁獲状況を魚種別にみると、アユの漁獲が1621ﾄﾝ／年と他の魚種に比較して大きな数量となっている。ついで、ウグイ(299ﾄﾝ／年）、アマゴ(170ﾄﾝ／年）と続く。

5．原生流域

5－1 原生流域の変化状況

原生流域は、全国で99流域、総面積205,634ha 存在している。これらを地域別にみると、北海道が36流域、総面積81,497ha、東北地方が30流域、61,953ha、関東甲信越が19流域、38,301ha、その他となっており東日本に偏在している。都道府県毎にみた時、最も原生流域の数も総面積も大きいのは北海道で、次いで新潟県、秋田県、山形県と続いている。第3回調査（1985年）から今回の第4回調査（1992年）までの間には7ヵ年の時間経過があるが、変化は次のように要約される。

①要件を満たす原生流域数は総数で 101流域から２流域減少して99流域であった、②総面積は 5,936ha減じて 205,634ha となった、③内訳は次のとおりである

	〔変化流域数〕	〔変化面積(ha)〕
・原生流域の要件を満たさなくなった流域	Δ 3	Δ 1,705
・面積の減少した原生流域（10流域）		Δ 5,591
・前回設定の原生流域区画の訂正(1流域)		+ 13
・新規に抽出された原生流域	+ 1	+ 1,347
計	Δ 2	Δ 5,936

④原生流域面積の減少要因は減少した13流域のうち６流域が択伐あるいは伐採によるもので次いで作業路・林道・及び国道等の道路開設よるもの５流域となっている、⑤原生流域面積の減少を生じているのは原生流域総面積が比較的大きい北海道と秋田県・山形県・石川県である。

５－２　原生流域の保全地域指定状況

全99流域の原生流域のうち指定の網が掛けられていないのは、ほぼ２割の20流域で、残りの79流域にはなんらかの保全地域指定がおこなわれている。指定状況の内訳をみると、国立及び国定公園に係わる原生流域が60流域で、以下、都道府県立自然公園に係わるものが12流域、原生自然環境保全地域に係わるものが２流域、自然環境保全地域に係わるものが９流域、都道府県自然環境保全地域に係わるものが３流域となっている。

原生流域総面積の大きい保全地域をみると、最大のものは北海道の日高襟裳国定公園に係わる20流域の原生流域で総面積は47,820haに達している。第２位は、北海道の大雪山国立公園の７流域、総面積16,930ha、以下、白神山地自然環境保全地域の４流域、総面積12,648haとなっている。北海道の日高襟裳から大雪山に繋がる日高山脈の奥深い原生流域とともに、ブナ林で代表される白神山地周辺域の原生流域、そして、磐梯朝日から越後三山只見への山並み、これらは、日本に残された最後の原生流域分布地域である。

原生流域面積の大きい保全地域　上位10

	保全地域名	原生流域	
		流域数	総面積ha
1	日高襟裳国定公園	20	47,820
2	大雪山国立公園	7	16,930
3	白神山地自然環境保全地域	4	12,648
4	磐梯朝日国立公園	7	12,520
5	越後三山只見国定公園	4	10,782
6	奥早出粟守門県立自然公園	4	9,950
7	十和田八幡平国立公園	3	5,600
8	中部山岳国立公園	2	5,441
9	白山国立公園	4	5,310
10	知床国立公園	3	4,870

（以　上）

Ⅰ．河川調査
（都道府県別調査）

Ⅰ．　河川調査（都道府県別調査）

1. 調査目的及び調査概要

わが国の河川においては、水質の悪化について対策が講じられてきているが、ダム等の建設、護岸改修、都市部における河川の埋立・暗渠化等の著しい改変による生物相の貧困化、住民の憩いの場の消失等の問題に対処するための継続的、体系的な調査は、これまで必ずしも十分におこなわれてはいなかった。

このため、第２回及び第３回自然環境保全基礎調査（昭和54年度及び昭和60年度）では、全国の一級河川の幹川等の現況を調査してきたが、本調査（第４回自然環境保全基礎調査）においては、わが国の主要な二級河川の幹川及び一級河川の支川等の中から選定した良好な自然域を通過する河川、流域面積が大きい河川または動植物相が豊かな河川などを調査対象として、当該河川の概要、河岸の改変状況並びに魚類の生息状況等について調査した。

また、第２回及び第３回自然環境保全基礎調査で抽出した、集水域が原生状態を保っている河川（「原生流域」）の改変状況等について調査した。

2. 調査対象河川

主要な二級河川の幹川及び一級河川の支川等の中から、良好な自然域を通過する河川、流域面積が大きい河川または動植物相が豊かな河川として、 153河川を調査対象とした。

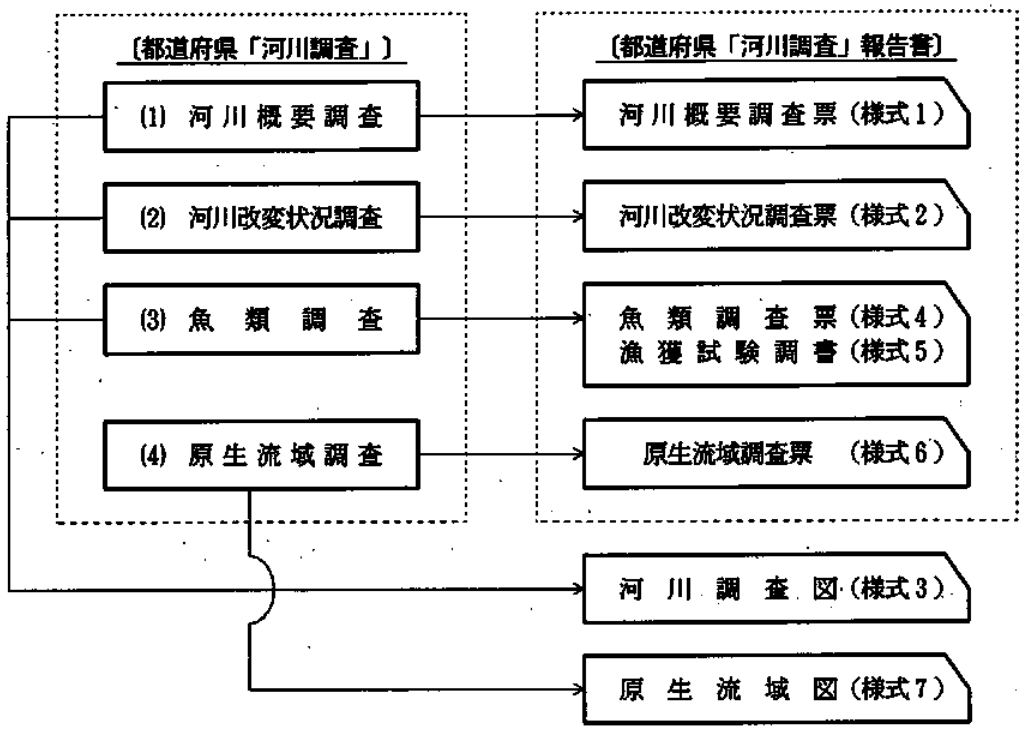
これらの河川の詳細については、「Ⅱ　河川調査　集計・解析業務」に掲げる。

3. 調査実施者及び調査実施年

調査は、国が都道府県に委託して平成４年度（1992年度）に実施された。

4. 調査の概要

調査は、環境庁が定める「第４回自然環境保全基礎調査要綱河川調査」にしたがって実施された。実施された河川調査の内容・構成・成果は図Ⅰ－１のとおりである。



図Ⅰ　　－1　河川調査の構成

4－1　河川概要調査

調査対象河川の概要を把握するため、各種資料により次の事項について調査し「河川概要調査票」（様式1）を作成する。

①種類（級別・幹川or支川）　②区間番号　③河川流路延長　④1/2.5万地形図
⑤降水量（最多年降水量・最少年降水量・調査年度降水量）　⑥水位（最高・最低・指定）
⑦流量（最大・最小・平均）　⑧水質（pH・ＢＯＤ・ＳＳ・ＤＯ・大腸菌群数）
⑨環境基準類型　⑩調査河川流域内の湖沼
⑪河川横断工作物（水門・閘門・橋梁・ダム・堰・床固・その他）
⑫利水状況（発電用・農業用・水産用・工業用水・飲料用水・その他）
⑬生物相の概要（付着藻類・挺水[抽]植物・植物プランクトン・動物プランクトン・底生動物・両生爬虫類・魚類・水鳥）　⑭その他

4－2　河川改変状況調査

調査対象河川153河川について、現地観察により次に掲げる項目の河川の改変状況等を調査し、「河川改変状況調査票」（様式２）及び「河川調査図」（様式３）を作成する。

①保全地域（状況）　②鳥獣保護区（状況）　③水際線の改変状況　④河原の土地利用状況
⑤河畔の土地利用状況　⑥河川横断工作物の設置箇所数　⑦取水施設の有無
⑧河川の利用状況　⑨河川環境における不快要因　⑩河川の屈曲率　⑪河辺林の有無

4－3　魚類調査

調査対象河川153河川について、既存資料・漁獲統計・漁協からの聞き取り及び漁獲試験等で生息する魚類等について次の事項を調査し「魚類調査票」（様式４）を作成する。

また、漁獲試験をおこなった河川の箇所については、「漁獲試験調書」（様式５）をとりまとめる。

①魚類相に関する記録　②現在の魚類相　③漁獲量（年平均漁獲量）　④放流量（年平均放流量）　⑤天然繁殖の有無

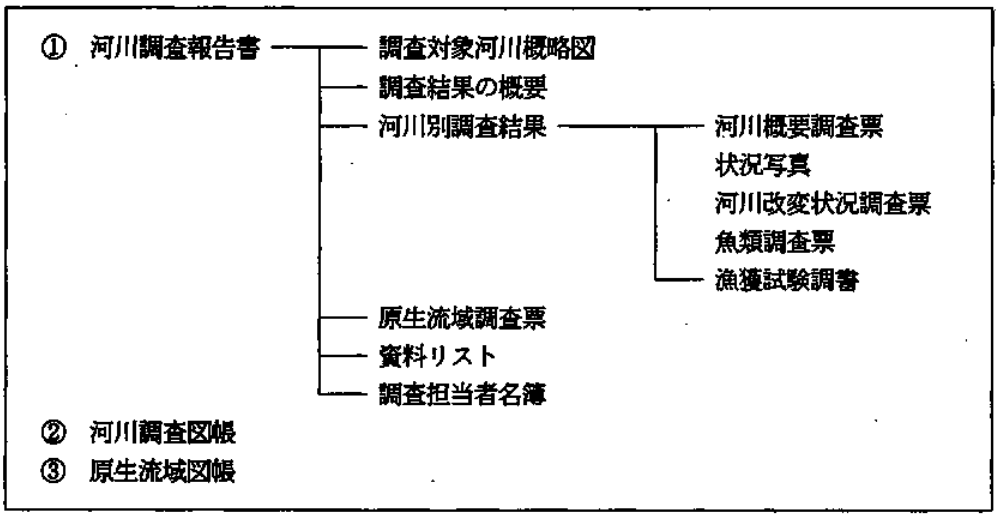
4－4　原生流域調査

第２回及び第３回調査で抽出された人工構築物及び森林伐採等人為の影響がみられない地域（原生流域）について、行政資料、空中写真等により次の事項の改変状況を調査し「原生流域調査票」（様式６）及び「原生流域図」（様式７）を作成する。

①前回調査以降におこなわれた河川改修工事、砂防工事、人工構造物等の設置、森林の伐採、土石・鉱物の採取、水面の埋立、土地の形状変更等の行為の状況
②その他、当該原生流域における人為的改変状況
③上記①②の結果として原生流域面積に変化があった場合には、その状況
④保全地域等の指定状況　⑤原生流域内の植生等の状況

4－5　河川調査報告書の作成―調査結果のとりまとめ

調査実施者は、調査結果を次のとおりとりまとめる。



用語の定義１「河川等の定義」

(1) この調査で「河川区域」とは、河川法の規程による「河川区域」とする。

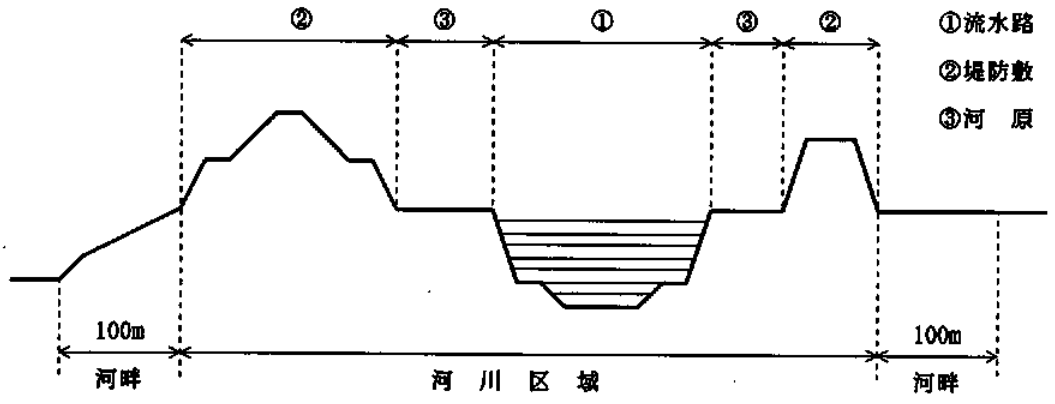
〔注〕 河川区域の境界は、河川管理者が保管している河川現況台帳の付属図面（通常、縮尺1/2,500または1/5,000）に表示されている。

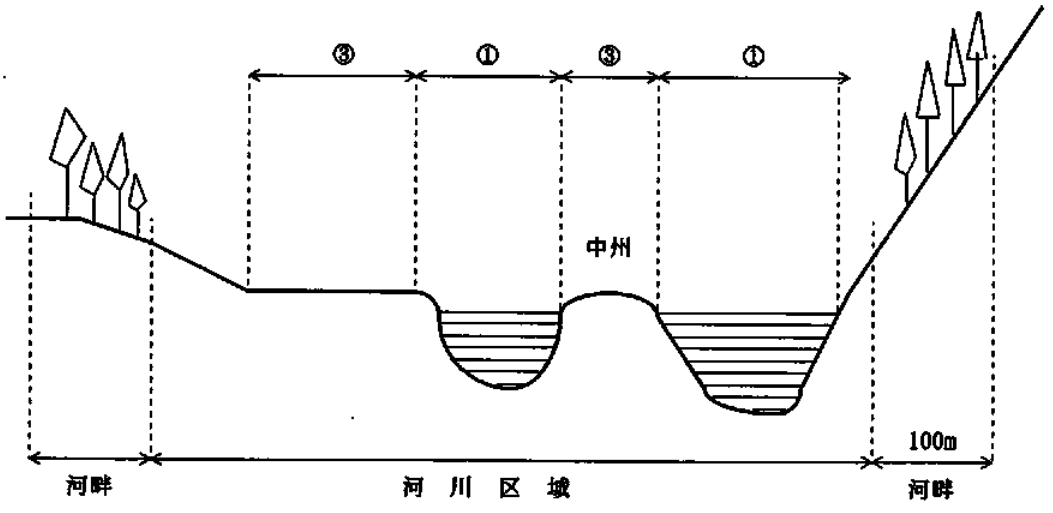
(2) 「水際線」とは、平水位における水面が陸地と接する部分をいう。

(3) 「河原」とは、河川区域内の陸部のうち、比較的平坦な部分をいう。

(4) 「河畔」とは、河川区域の外側幅100mの区域をいう。

(5) 「右岸」「左岸」とは、それぞれ上流から下流に向かったときの呼称である。





Ⅱ. 河川調査
集計・解析業務

Ⅱ. 河川調査集計・解析業務

1. 業務の目的

第4回自然環境保全基礎調査「河川調査」要綱に基づき平成4年度に実施された河川調査の「都道府県別調査結果」を整理し現況把握をおこない、全国版報告書の作成をおこなう。

2. 概　要

第4回自然環境保全基礎調査・河川調査においては、153の河川が調査され都道府県別河川調査報告書が作成された。

本業務は、上記報告書に記載されている河川毎のデータを基本的には成果調査票別にデータ・ファイル化することを基礎作業とし、このファイルを基に多面的な集計をおこなったものである。

業務の概要は、以下のように大別される。

(1) データ・ファイル作成　：　作成したデータファイルは以下のものである。

① 都道府県ファイル
② 水系群ファイル
③ 調査対象河川ファイル
④ 河川の概要ファイル〔河川概要調査票より〕
⑤ 河川改変状況ファイル〔河川改変状況調査票より〕
⑥ 出現魚類相ファイル〔魚類調査票より〕
⑦ 漁獲放流ファイル〔魚類調査票より〕
⑧ 漁獲試験ファイル〔漁獲試験調書より〕
⑨ 河川メッシュファイル
⑩ 関係湖沼ファイル
⑪ 原生流域データ〔原生流域調査票より〕

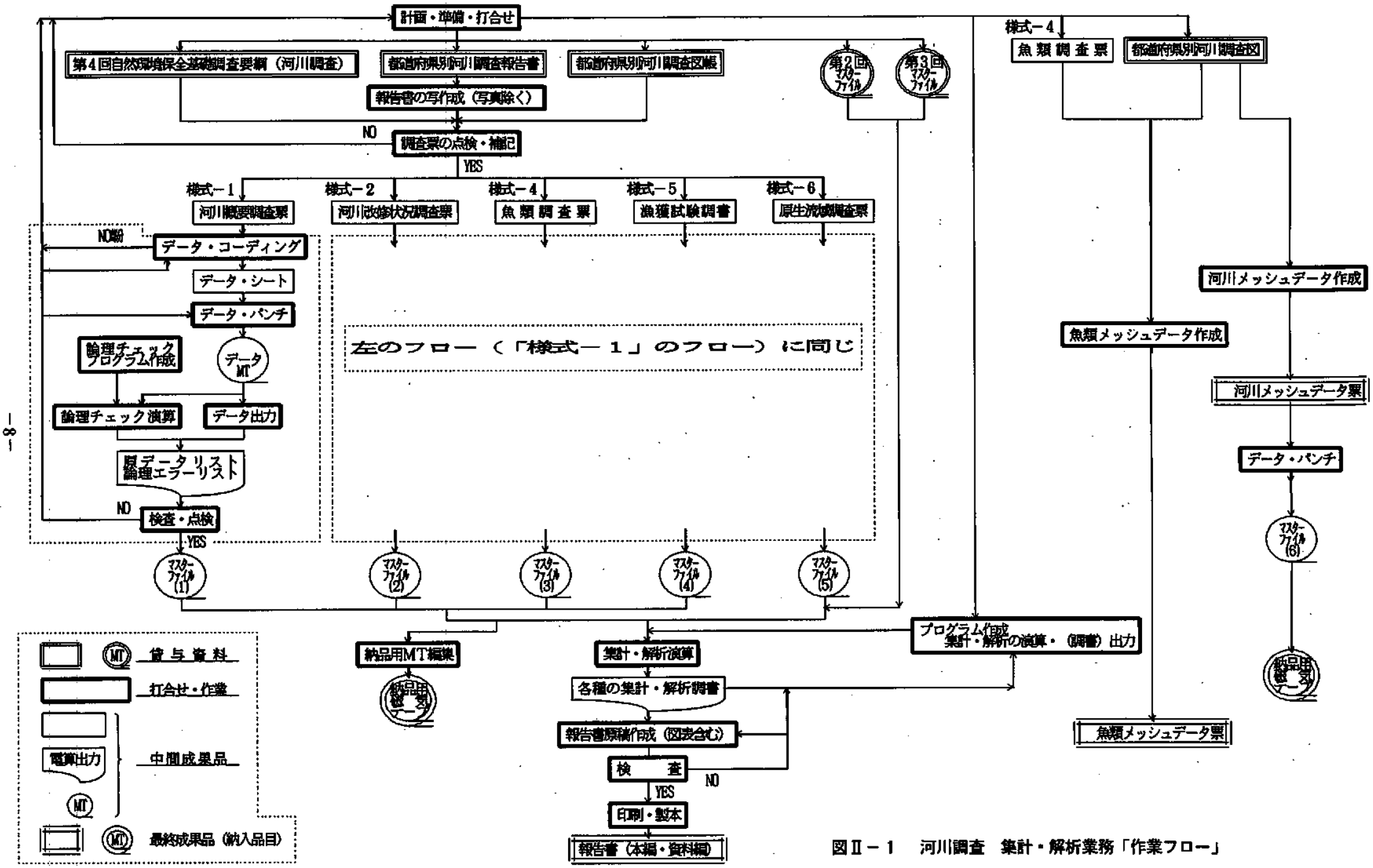
(2) 集　計　・　解　析　：　集計演算プログラム作成／集計演算／集計結果帳票出力

(3) 報　告　書　作　成　：　集計演算結果を基に全国的視野で解析も加えてとりまとめる。

(4) 納品用データ・ファイル作成

3. 作業手順

本業務の作業手順は、図Ⅱ－1に掲げるとおりである。



図Ⅱ－1　河川調査　集計・解析業務「作業フロー」

4. 調査対象河川と集計・解析対象河川

4－1　第4回調査対象河川と集計・解析対象河川

調査対象とした河川は、「主要な二級河川の幹川及び一級河川の支川等の中で、良好な自然地域を通過する河川、流域面積が大きい河川または動植物相が豊かな河川等」との基準で選定した 152河川である。しかし、当初調査対象ではなかった「根尾川」（「揖斐川（河川番号4680）」の支川）が岐阜県において調査され報告があったので、集計・解析の対象となったのは、 153河川である。

これらの河川名とその基本的な属性を表Ⅱ－1に、複数の県を跨がって流れる河川の一覧を表Ⅱ－2に、調査対象河川で支川となっている河川の幹川を表Ⅱ－3に示す。また、これらの河川の位置を図Ⅱ－2に示し、河川の水系群区分に係わる図を図Ⅱ－4に掲げる。

また、原生流域の調査は、第3回自然環境保全基礎調査で報告されている 101流域を基礎に、今回の第4回自然環境保全基礎調査での報告を加味して再整理をおこなった。その結果、99流域が原生流域として抽出された。これらの位置図を図Ⅱ－3に掲げる。

4－2　河川流路延長

河川流路延長については、一部の河川において、河川概要調査票に記載されている数値（原則的には河川台帳記載の数値）と図帳に記載されている調査区間（河口から1㎞毎に調査区間を設定。1区間は1㎞）との間に齟齬があるものがあった。これらについては、調査区間の基準を優先させて、集計・解析のための河川流路延長値を定めた。

4－3　水　系　群

水系群は、第2・3回自然環境保全基礎調査の河川調査において、「河川の地域的特性の把握をおこなうため、全国を大分水界によって区分し、主要島嶼と流入海域の組合せで名称を付したもので、全国の河川を14ブロックに区分したもの」とされている。

今回の集計・解析業務においては、集計・解析の基本的観点の一つとして、この水系群の概念を踏襲することとしたが、海域の区分において広範に認められている資料（※下掲）を基に、水系群の再設定をおこなった。再設定した水系群区分を図Ⅱ－4に示す。

（※）資料〔海上保安庁水路部提供〕
INTERNATIONAL HYDROGRAPHIC ORGANIZATION
LIMITS OF OCEANS AND SEAS
(1986 : Published by the INTERNATIONAL HYDROGRAPHIC BUREAU)

「表Ⅱ－１集計・解析対象河川一覧」において、幹川名の欄に記載してある河川名は、「表Ⅱ－３」調査対象河川〔支川〕と幹川との関係表」に掲載する最終幹川河川名を掲載してある。

表Ⅱ－１　集計・解析対象河川一覧　　1／5

河川コード	河川名	級別	幹・支	調査流路延長(km)	幹川名（※は河川コードなし）	水系群名	都道府県
1	4010	セツリ 雪裡川	一級	支川	58.6	0120釧路川	北海道－太平洋／北	北海道
2	4020	アウレン 風蓮川	二級	幹川	99.5	――	北海道－太平洋／北	北海道
3	4030	ビビ 美々川	二級 普通	支川	18.2	※勇仏川	北海道－太平洋／中南	北海道
4	4040	ショカンベツ 暑寒別川	二級	幹川	26.0	――	北海道－日本海	北海道
5	4050	ペカンベウシ 別寒辺牛川	普通	幹川	55.9	――	北海道－太平洋／北	北海道
6	4060	ユウラップ 遊楽部川	二級	幹川	30.0	――	北海道－太平洋／中南	北海道
7	4070	アツタ 厚田川	二級 普通	幹川	32.0	――	北海道－日本海	北海道
8	4080	トンベツ 頓別川	二級	幹川	63.5	――	北海道－オホーツク海	北海道
9	4090	シュプト 朱太川	二級	幹川	40.4	――	北海道－日本海	北海道
10	4100	レキフネ 歴舟川	二級	幹川	64.7	――	北海道－太平洋／北	北海道
11	4110	ニシベツ 西別川	二級	幹川	109.7	――	北海道－太平洋／北	北海道
12	4120	ヒダカホロベツ 日高幌別川	二級 普通	幹川	33.8	――	北海道－太平洋／中南	北海道
13	4130	チトセ 千歳川	一級	支川	69.2	0070石狩川	北海道－日本海	北海道
14	4140	アイサカ 相坂川	二級	幹川	63.7	――	本州－太平洋／中南	青森県
15	4150	アカイシ 赤石川	二級	幹川	50.2	――	本州－日本海	青森県
16	4160	カニタ 蟹田川	二級	幹川	21.8	――	本州－日本海	青森県
17	4170	アッカ 安家川	二級	幹川	28.7	――	本州－太平洋／中南	岩手県
18	4180	ワガ 和賀川	一級	支川	70.6	0170北上川	本州－太平洋／中南	岩手県
19	4190	ケセン 気仙川	二級	幹川	38.6	――	本州－太平洋／中南	岩手県
20	4200	ハサマ 迫川	一級	支川	87.4	0170北上川	本州－太平洋／中南	宮城県
21	4210	シロイシ 白石川	一級	支川	69.7	0200阿武隈川	本州－太平洋／中南	宮城県
22	4220	ヨシダ 吉田川	一級	支川	54.0	0180鳴瀬川	本州－太平洋／中南	宮城県
23	4230	エアイ 江合川	一級	支川	92.0	0170北上川	本州－太平洋／中南	宮城県
24	4240	カスゲ 粕毛川	一級	支川	21.5	0210米代川	本州－日本海	秋田県
25	4250	イワマタ 岩股川	二級	支川	4.5	※白雪川	本州－日本海	秋田県
26	4260	イワミ 岩見川	一級	支川	45.5	0220雄物川	本州－日本海	秋田県

	河川コード	河川名	級別	幹・支	調査流路延長(km)	幹川名	水系群名	都道府県
27	4270	イシザワ 石沢川	一級	支川	71.9	0230子吉川	本州－日本海	秋田県
28	4280	モガミオグニ 最上小国川	一級	支川	37.0	0240最上川	本州－日本海	山形県
29	4290	サガエ 寒河江川	一級	支川	45.9	0240最上川	本州－日本海	山形県
30	4300	ニッコウ 日向川	二級	幹川	29.3	――	本州－日本海	山形県
31	4310	ツノ 角川	一級	支川	13.8	0240最上川	本州－日本海	山形県
32	4320	ナツイ 夏井川	二級	幹川	67.1	――	本州－太平洋／中南	福島県
33	4330	ニイダ 新田川	二級	幹川	62.9	――	本州－太平洋／中南	福島県
34	4340	イナ 伊南川	一級	支川	80.2	0340阿賀野川	本州－日本海	福島県
35	4350	ノジリ 野尻川	一級	支川	38.0	0340阿賀野川	本州－日本海	福島県
36	4360	オオキタ 大北川	二級	幹川	29.2	――	本州－太平洋／中南	茨城県
37	4370	ワタラセ 渡良瀬川	一級	支川	107.5	0280利根川	本州－太平洋／中南	埼玉県 茨城県 群馬県 栃木県
38	4380	コカイ 小貝川	一級	支川	110.0	0280利根川	本州－太平洋／中南	茨城県 栃木県
39	4390	ネウキ 鴻川	一級	支川	49.5	0270那珂川	本州－太平洋／中南	栃木県
40	4400	カラス 烏川	一級	支川	61.8	0280利根川	本州－太平洋／中南	群馬県
41	4410	コマ 高麗川	一級	支川	38.8	0290荒川	本州－太平洋／中南	埼玉県
42	4420	オビツ 小櫃川	二級	幹川	72.7	――	本州－太平洋／中南	千葉県
43	4430	イチノミヤ 一宮川	二級	幹川	27.7	――	本州－太平洋／中南	千葉県
44	4440	ミナミアサ 南浅川	一級	支川	8.1	4450浅川	本州－太平洋／中南	東京都
45	4450	アサ 浅川	一級	支川	30.1	0300多摩川	本州－太平洋／中南	東京都
46	4460	サカワ 酒勾川	二級	幹川	42.9	――	本州－太平洋／中南	神奈川県
	4460	アユサワ 鮎沢川	二級	幹川				静岡県
	(*) 同じ河川で名称が変わる。							
47	4470	カナメ 金目川	二級	幹川	19.5	――	本州－太平洋／中南	神奈川県
48	4480	ミオモテ 三面川	二級	幹川	41.0	――	本州－日本海	新潟県
49	4490	ハモチ 羽茂川	二級	幹川	20.0	――	本州－日本海	新潟県
50	4500	カジ 加治川	二級	幹川	38.0	――	本州－日本海	新潟県
51	4510	サバイシ 鯖石川	二級	幹川	45.0	――	本州－日本海	新潟県
52	4520	ナガト 長棟川	一級	支川	19.0	0400神通川	本州－日本海	富山県
53	4530	トガ 利賀川	一級	支川	36.0	0410庄川	本州－日本海	富山県
54	4540	クマノ 熊野川	一級	支川	32.3	0400神通川	本州－日本海	富山県
55	4550	カミショウ 上庄川	二級	幹川	22.0	――	本州－日本海	富山県
56	4560	サイ 犀川	二級	幹川	34.0	――	本州－日本海	石川県
57	4570	ダイショウジ 大聖寺川	二級	幹川	37.8	――	本州－日本海	石川県
58	4580	ミナミ 南川	二級	幹川	33.0	――	本州－日本海	福井県

	河川コード	河川名	級別	幹・支	調査流路延長(km)	幹川名	水系群名	都道府県
59	4590	足羽川（アスワ）	一級	支川	56.6	0670九頭流川	本州－日本海	福井県
60	4600	日野川（ヒノ）	一級	支川	60.0	0670九頭流川	本州－日本海	福井県
61	4610	早川（ハヤ）	一級	支川	66.1	0460富士川	本州－太平洋／中南	山梨県
62	4620	笛吹川（フエフキ）	一級	支川	50.8	0460富士川	本州－太平洋／中南	山梨県
63	4630	王滝川（オオタキ）	一級	支川	54.8	0540木曽川	本州－太平洋／中南	長野県
64	4640	三峰川（ミブ）	一級	支川	61.3	0500天竜川	本州－太平洋／中南	長野県
65	4650	奈良井川（ナライ）	一級	支川	62.1	0350信濃川	本州－日本海	長野県
66	4660	依田川（ヨダ）	一級	支川	32.5	0350信濃川	本州－日本海	長野県
67	4670	上川（カミ）	一級	支川	29.7	0500天竜川	本州－太平洋／中南	長野県
68	4680	揖斐川（イビ）	一級	支川	111.5	0542長良川	本州－太平洋／中南	三重県 岐阜県
69	4681	根尾川（ネオ）	一級	支川	55.0	0542長良川	本州－太平洋／中南	岐阜県
70	4690	武儀川（ムギ）	一級	支川	27.0	0542長良川	本州－太平洋／中南	岐阜県
71	4700	吉田川（ヨシダ）	一級	支川	30.4	0542長良川	本州－太平洋／中南	岐阜県
72	4710	飛騨川（ヒダ）	一級	支川	137.0	0540木曽川	本州－太平洋／中南	岐阜県
73	4720	牧田川（マキタ）	一級	支川	36.7	0542長良川	本州－太平洋／中南	岐阜県
74	4730	青野川（アオノ）	二級	幹川	17.2	――	本州－太平洋／中南	静岡県
75	4740	下小笠川（シモオガサ）	一級	支川	9.8	0490菊川	本州－太平洋／中南	静岡県
76	4750	興津川（オキツ）	二級	幹川	21.7	――	本州－太平洋／中南	静岡県
77	4760	瀬戸川（セト）	二級	幹川	26.4	――	本州－太平洋／中南	静岡県
78	4770	鳩戸川（ウド）	普通	支川	11.2	0540木曽川	本州－太平洋／中南	愛知県
79	4780	名倉川（ナグラ）	一級	支川	20.5	0520矢作川	本州－太平洋／中南	愛知県
80	4790	巴川（トモエ）	一級	支川	53.0	0520矢作川	本州－太平洋／中南	愛知県
81	4800	乙川（オト）	一級	支川	34.0	0520矢作川	本州－太平洋／中南	愛知県
82	4810	宇連川（ウレ）	一級	支川	21.4	0510豊川	本州－太平洋／中南	愛知県
83	4820	五十鈴川（イスズ）	一級	支川	8.4	0580宮川	本州－太平洋／中南	三重県
84	4830	員弁川（イナベ）	二級	幹川	37.0	――	本州－太平洋／中南	三重県
85	4840	滝川（タキ）	一級	支川	5.5	0600淀川	本州－瀬戸内海	三重県
86	4850	朝明川（アサケ）	二級	幹川	26.1	――	本州－太平洋／中南	三重県
87	4860	安曇川（アド）	一級	支川	42.8	0600淀川	本州－瀬戸内海	滋賀県
88	4870	犬上川（イヌカミ）	一級	支川	28.4	0600淀川	本州－瀬戸内海	滋賀県
89	4880	宇川（ウ）	二級	幹川	17.9	――	本州－日本海	京都府
90	4890	佐々里川（ササリ）	一級	支川	6.7	0590由良川	本州－日本海	京都府
91	4900	芥川（アクタ）	一級	支川	22.0	0600淀川	本州－瀬戸内海	大阪府 京都府
92	4910	水無瀬川（ミナセ）	一級	支川	4.0	0600淀川	本州－瀬戸内海	大阪府
93	4920	千種川（チクサ）	二級	幹川	72.2	――	本州－瀬戸内海	兵庫県

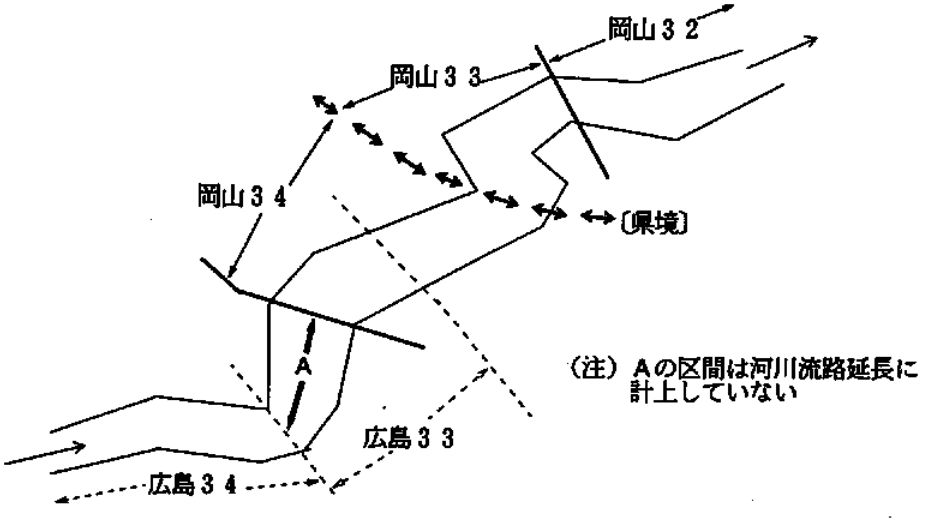
	河川コード	河川名	級別	幹・支	調査流路延長(km)	幹川名	水系群名	都道府県
94	4930	市川（イチ）	二級	幹川	77.1	――	本州－瀬戸内海	兵庫県
95	4940	武庫川（ムコ）	二級	幹川	66.1	――	本州－瀬戸内海	兵庫県
96	4950	夢前川（ユメサキ）	二級	幹川	37.9	――	本州－瀬戸内海	兵庫県
97	4960	川原樋川（カワラヒ）	一級	支川	27.5	0660新宮川	本州－太平洋／中南	奈良県
98	4970	高見川（タカミ）	一級	支川	22.3	0650紀の川	本州－瀬戸内海	奈良県
99	4980	竜田川（タツタ）	一級	支川	15.0	0610大和川	本州－瀬戸内海	奈良県
100	4990	有田川（アリダ）	二級	幹川	103.0	――	本州－瀬戸内海	和歌山県
101	5000	富田川（トンダ）	二級	幹川	46.5	――	本州－太平洋／中南	和歌山県
102	5010	日高川（ヒダカ）	二級	幹川	119.2	――	本州－太平洋／中南	和歌山県
103	5020	八東川（ハットウ）	一級	支川	32.0	0690千代川	本州－日本海	鳥取県
104	5030	小鹿川（オジカ）	一級	支川	12.0	0700天神川	本州－日本海	鳥取県
105	5040	甲川（キノエ）	二級	幹川	20.0	――	本州－日本海	鳥取県
106	5050	赤川（アカ）	一級	支川	21.0	0720斐伊川	本州－日本海	島根県
107	5060	中村川（ナカムラ）	二級	幹川	7.1	――	本州－日本海	島根県
108	5070	三刀屋川（ミトヤ）	一級	支川	36.1	0720斐伊川	本州－日本海	島根県
109	5080	下府川（シモコウ）	二級	幹川	21.0	――	本州－日本海	島根県
110	5090	砂川（スナ）	一級	支川	36.3	0760旭川	本州－瀬戸内海	岡山県
111	5100	成羽川（ナリワ）	一級	支川	73.7	0770高梁川	本州－瀬戸内海	岡山県 広島県
112	5110	宇甘川（ウカイ）	一級	支川	37.8	0760旭川	本州－瀬戸内海	岡山県
113	5120	吉野川（ヨシノ）	一級	支川	66.0	0750吉井川	本州－瀬戸内海	岡山県
114	5130	新庄川（シンジョウ）	一級	支川	34.0	0760旭川	本州－瀬戸内海	岡山県
115	5140	黒瀬川（クロセ）	二級	幹川	44.6	――	本州－瀬戸内海	広島県
116	5150	三篠川（ミササ）	一級	支川	43.4	0790太田川	本州－瀬戸内海	広島県
117	5160	御調川（ミツギ）	一級	支川	32.2	0780芦田川	本州－瀬戸内海	広島県
118	5170	錦川（ニシキ）	二級	幹川	110.3	――	本州－瀬戸内海	山口県
119	5180	木屋川（コヤ）	二級	幹川	43.7	――	本州－瀬戸内海	山口県
120	5190	海部川（カイフ）	二級	幹川	36.0	――	四国－太平洋／中南	徳島県
121	5200	野根川（ノネ）	二級	幹川	20.0	――	四国－太平洋／中南	高知県
122	5210	銅山川（ドウザン）	一級	支川	61.4	0820吉野川	四国－瀬戸内海	徳島県 愛媛県
123	5220	財田川（サイタ）	二級	幹川	32.5	――	四国－瀬戸内海	香川県
124	5230	香東川（コウトウ）	二級	幹川	37.0	――	四国－瀬戸内海	香川県
125	5240	広見川（ヒロミ）	一級	支川	60.4	0890四万十川（渡川）	四国－太平洋／中南	高知県 愛媛県
126	5250	小田川（オダ）	一級	支川	38.7	0860肱川	四国－瀬戸内海	愛媛県
127	5260	下ノ加江川（シモノカエ）	二級	幹川	27.5	――	四国－太平洋／中南	高知県

	河川コード	河川名	級別	幹・支	調査流路延長(km)	幹川名	水系群名	都道府県
128	5270	新荘川（シンジョウ）	二級	幹川	25.1	———	四国－太平洋／中南	高知県
129	5280	安芸川（アキ）	二級	幹川	27.8	———	四国－太平洋／中南	高知県
130	5290	室見川（ムロミ）	二級	幹川	22.6	———	九州－日本海	福岡県
131	5300	今川（イマ）	二級	幹川	40.6	———	九州－瀬戸内海	福岡県
132	5310	釣川（ツリ）	二級	幹川	16.8	———	九州－日本海	福岡県
133	5320	田手川（タテ）	一級	支川	20.3	0920筑後川	九州－東シナ海	佐賀県
134	5330	玉島川（タマシマ）	二級	幹川	15.7	———	九州－日本海	佐賀県
135	5340	徳須恵川（トクスエ）	一級	支川	19.5	0940松浦川	九州－日本海	佐賀県
136	5350	川棚川（カワタナ）	二級	幹川	19.9	———	九州－日本海	長崎県
137	5360	佐々川（ササ）	二級	幹川	21.5	———	九州－日本海	長崎県
138	5370	氷川（ヒ）	二級	幹川	23.9	———	九州－東シナ海	熊本県
139	5380	御船川（ミフネ）	一級	支川	32.8	1000緑川	九州－東シナ海	熊本県
140	5390	水俣川（ミナマタ）	二級	幹川	18.1	———	九州－東シナ海	熊本県
141	5400	万江川（マエ）	一級	支川	22.2	1010球磨川	九州－東シナ海	熊本県
142	5410	玖珠川（クス）	一級	支川	57.3	0920筑後川	九州－東シナ海	大分県
143	5420	堅田川（カタダ）	一級	支川	26.0	1040番匠川	九州－太平洋／中南	大分県
144	5430	駅館川（ヤッカン）	二級	幹川	14.0	———	九州－瀬戸内海	大分県
145	5440	臼杵川（ウスキ）	二級	幹川	23.0	———	九州－太平洋／中南	大分県
146	5450	福島川（フクシマ）	二級	幹川	23.5	———	九州－太平洋／中南	宮崎県
147	5460	清武川（キヨタケ）	二級	幹川	29.5	———	九州－太平洋／中南	宮崎県
148	5470	五十鈴川（イスズ）	二級	幹川	43.9	———	九州－太平洋／中南	宮崎県
149	5480	北川（キタ）	一級	支川	31.7	1050五ヶ瀬川	九州－太平洋／中南	宮崎県
150	5490	万之瀬川（マノセ）	二級	幹川	30.2	———	九州－東シナ海	鹿児島県
151	5500	雄川（オ）	二級	幹川	20.4	———	九州－東シナ海	鹿児島県
152	5510	仲間川（ナカマ）	二級	幹川	9.0	———	沖縄－東シナ海	沖縄県
153	5520	仲良川（ナカラ）	二級	幹川	7.0	———	沖縄－東シナ海	沖縄県

表Ⅱ－2　複数の県を流れる河川の内訳

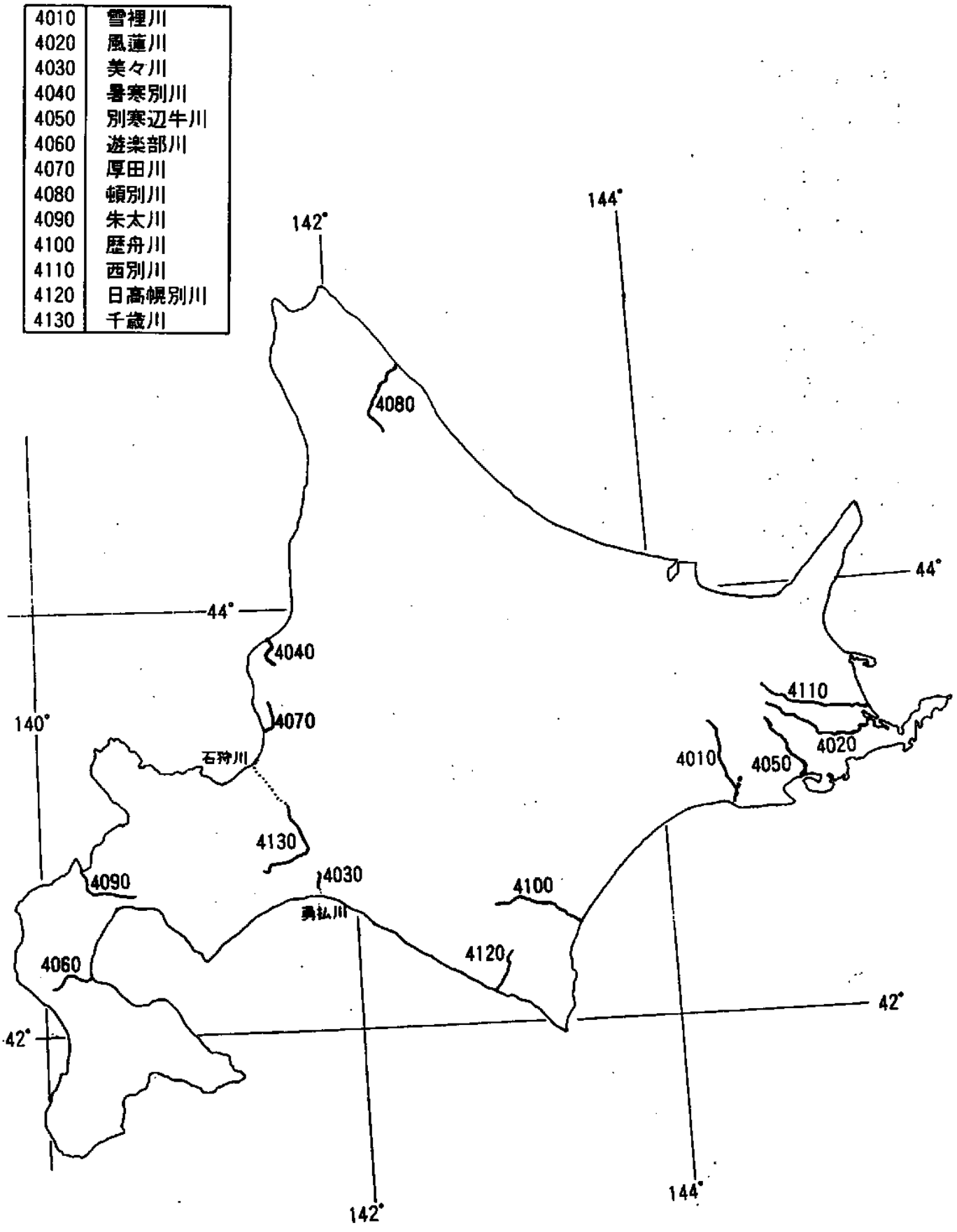
①	4379 渡良瀬川	区間	1～5	埼玉県（右岸）／茨城県（左岸）	
		区間	6～45	栃木県	
		区間	46～87	群馬県	
		区間	88～108	栃木県	計　108区間　107.5 km
②	4380 小貝川	区間	1～77	茨城県	
		区間	78～110	栃木県	計　110区間　110.0 km
③	4460 酒匂川	区間	1～28	神奈川県	
	4460 鮎沢川	区間	29～43	静岡県	計　43区間　42.9 km
④	4680 揖斐川	区間	1～18	三重県	
		区間	19～112	岐阜県	計　112区間　111.5 km
⑤	5100 成羽川	区間	1～34	岡山県	33.5 km
		区間	34～74	広島県	40.2 km　計　74区間　73.7 km
		（※県境において区間番号が重複して付与されている：下図参照）			
⑥	5200 野根川	区間	1～15	高知県	
		区間	16～20	徳島県	計　20区間　20.0 km
⑦	5210 銅山川	区間	1～11	徳島県	
		区間	12～62	愛媛県	計　62区間　61.4 km
⑧	5240 広見川	区間	1～6	高知県	
		区間	7～61	愛媛県	計　61区間　60.4 km

【参考図：5100 成羽川の県境における接続状況】

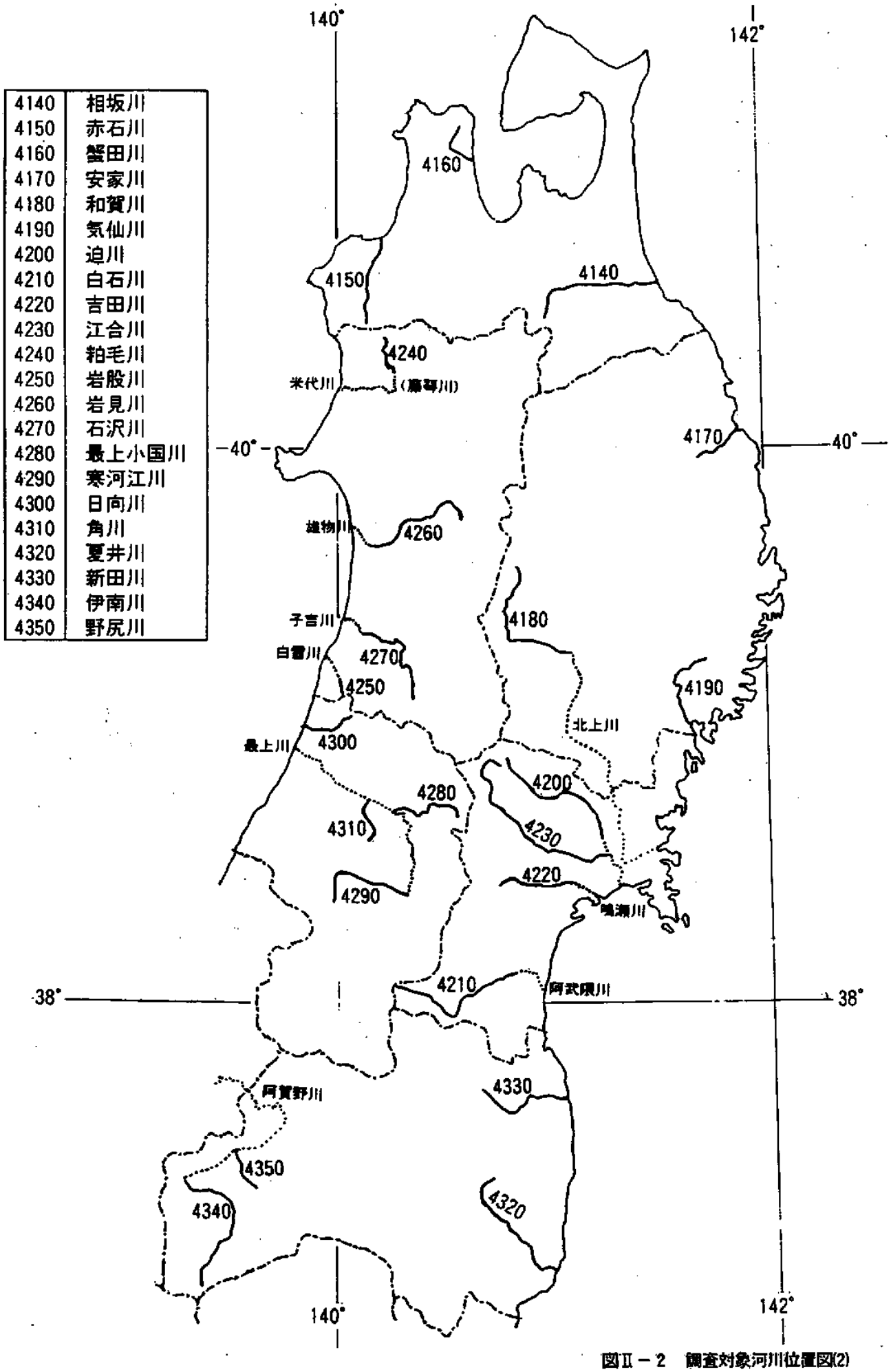


表Ⅱ－3　調査対象河川〔支川〕と幹川との関係表

調査対象河川（支川）〔上流→下流〕	幹川（河川コード・河川名）
1. 4010雪裡川	0120釧路川
2. 4030美々川	安平川→勇払川
3. 4130千歳川	0070石狩川
4. 4180和賀川	0170北上川
5. 4200迫　川	旧北上川→0170北上川
6. 4210白石川	0200阿武隈川
7. 4220吉田川	0180鳴瀬川
8. 4230江合川	旧北上川→0170北上川
9. 4240粕毛川	0210米代川
10. 4250岩股川	白雪川
11. 4260岩見川	0220雄物川
12. 4270石沢川	0230子吉川
13. 4280最上小国川	0240最上川
14. 4290寒河江川	0240最上川
15. 4310角　川	0240最上川
16. 4340伊南川	只見川→0340阿賀野川
17. 4350野尻川	只見川→0340阿賀野川
18. 4370渡良瀬川	0280利根川
19. 4380小貝川	0280利根川
20. 4390鶴　川	0270那珂川
21. 4400鳥　川	0280利根川
22. 4410高麗川	越辺川→入間川→0290荒川
23. 4440南浅川	4450浅　川→0300多摩川
24. 4450浅　川	0300多摩川
25. 4520長棟川	0400神通川
26. 4530利賀川	0410庄　川
27. 4540熊野川	0400神通川
28. 4590足羽川	4600日野川→0670九頭竜川
29. 4600日野川	0670九頭竜川
30. 4610早　川	0460富士川
31. 4620笛吹川	0460富士川
32. 4630王滝川	0540木曽川
33. 4640三峰川	0500天竜川
34. 4650奈良井川	0352犀　川→0350信濃川（千曲）
35. 4660依田川	0350信濃川（千曲）
36. 4670上　川	諏訪湖→0500天竜川
37. 4680揖斐川	0542長良川
38. 4681根尾川	4680揖斐川→0542長良川
39. 4690武儀川	0542長良川
40. 4700吉田川	0542長良川
41. 4710飛騨川	0540木曽川
42. 4720牧田川	4680揖斐川→0542長良川
43. 4740下小笠川	0490菊　川
44. 4770鵜戸川	0540木曽川
45. 4780名倉川	0520矢作川
46. 4790巴　川	0520矢作川
47. 4800乙　川	0520矢作川
48. 4810宇連川	0510豊　川
49. 4820五十鈴川	0580宮　川
50. 4840滝　川	宇陀川→木津川→0600淀川
51. 4860安曇川	琵琶湖→瀬田川→宇治川→0600淀川
52. 4870犬上川	琵琶湖→瀬田川→宇治川→0600淀川
53. 4890佐々里川	0590由良川
54. 4900芥　川	0600淀　川
55. 4910水無瀬川	0600淀　川
56. 4960川原樋川	0660新宮川（十津川）
57. 4970高見川	0650紀の川
58. 4980竜田川	0610大和川
59. 5020八東川	0690千代川
60. 5030小鹿川	三徳川→0700天神川
61. 5050赤　川	0720斐伊川
62. 5070三刀屋川	0720斐伊川
63. 5090砂　川	百間川→0760旭川
64. 5100成羽川	0770高梁川
65. 5110宇甘川	0760旭　川
66. 5120吉野川	0750吉井川
67. 5130新庄川	0760旭　川
68. 5150三篠川	0790太田川
69. 5160御調川	0780芦田川
70. 5210銅山川	0820吉野川
71. 5240広見川	0890四万十川（渡川）
72. 5250小田川	0860肱　川
73. 5320田手川	0920筑後川
74. 5340徳須恵川	0940松浦川
75. 5380御船川	1000緑　川
76. 5400万江川	1010球磨川
77. 5410玖珠川	0920筑後川
78. 5420堅田川	1040番匠川
79. 5480北　川	1050五ヶ瀬川

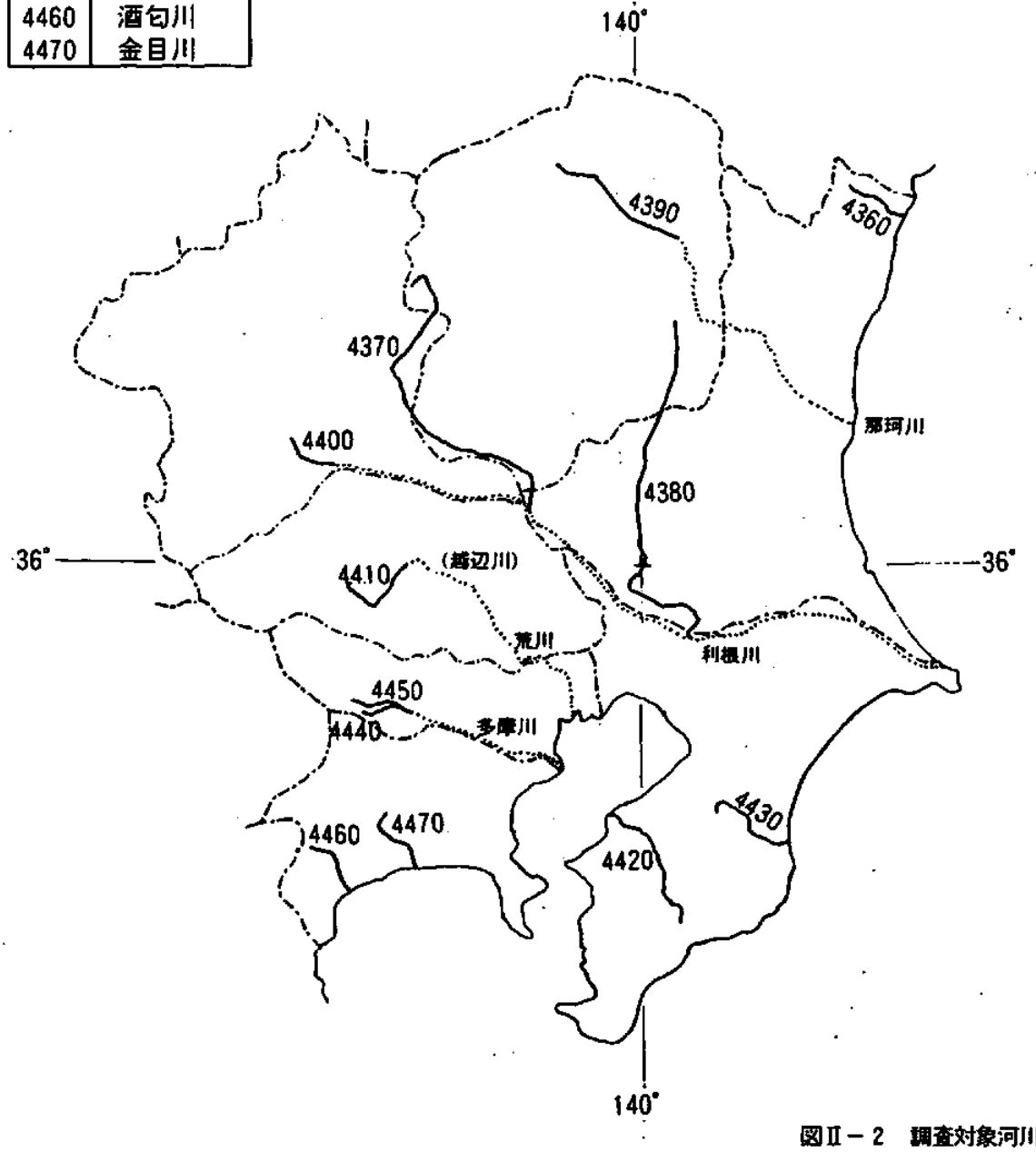


図Ⅱ－2　調査対象河川位置図(1)



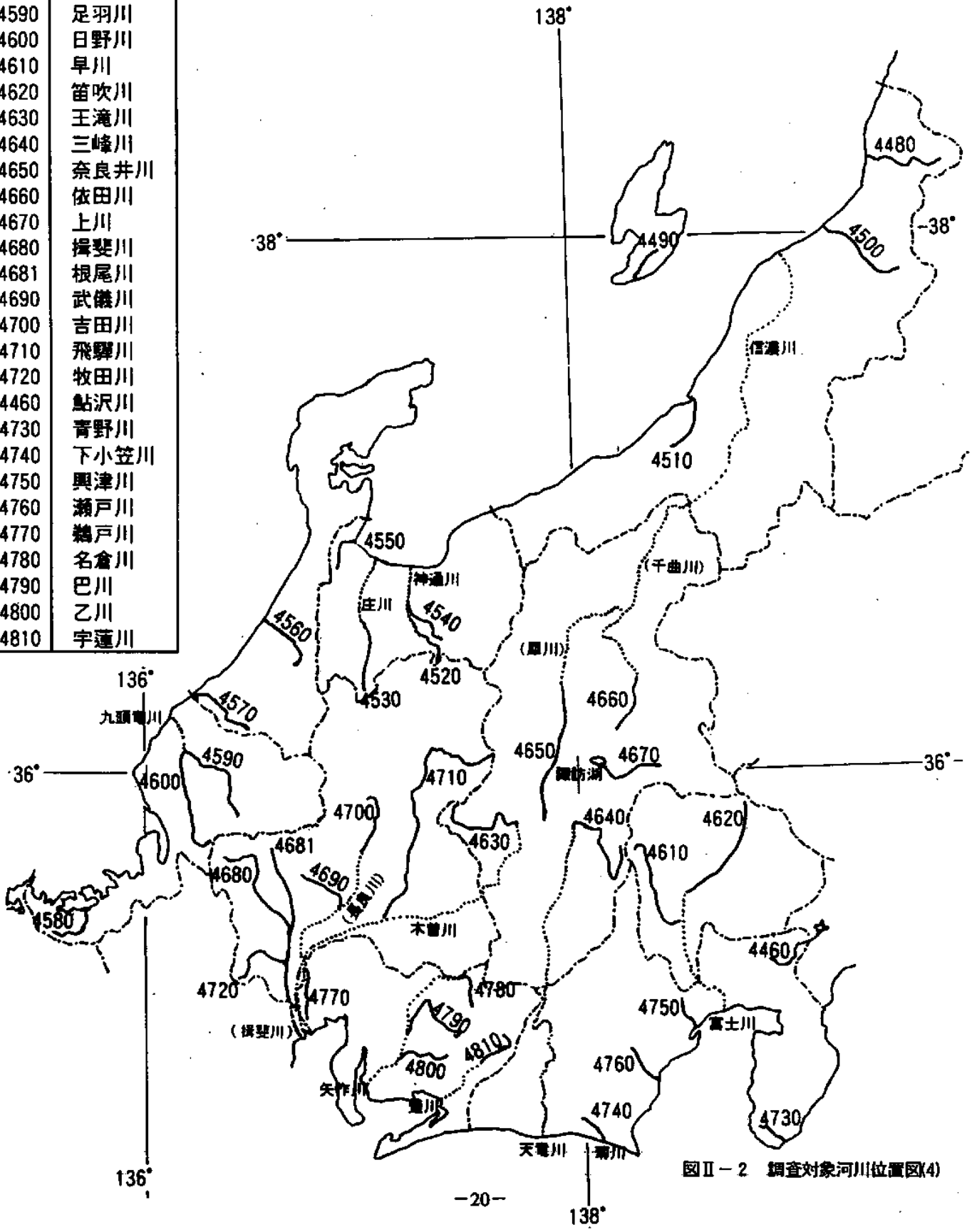
図Ⅱ－2　調査対象河川位置図(2)

4360	大北川
4370	渡良瀬川
4380	小貝川
4390	鬼怒川
4400	烏川
4410	高麗川
4420	小櫃川
4430	一宮川
4440	南浅川
4450	浅川
4460	酒匂川
4470	金目川



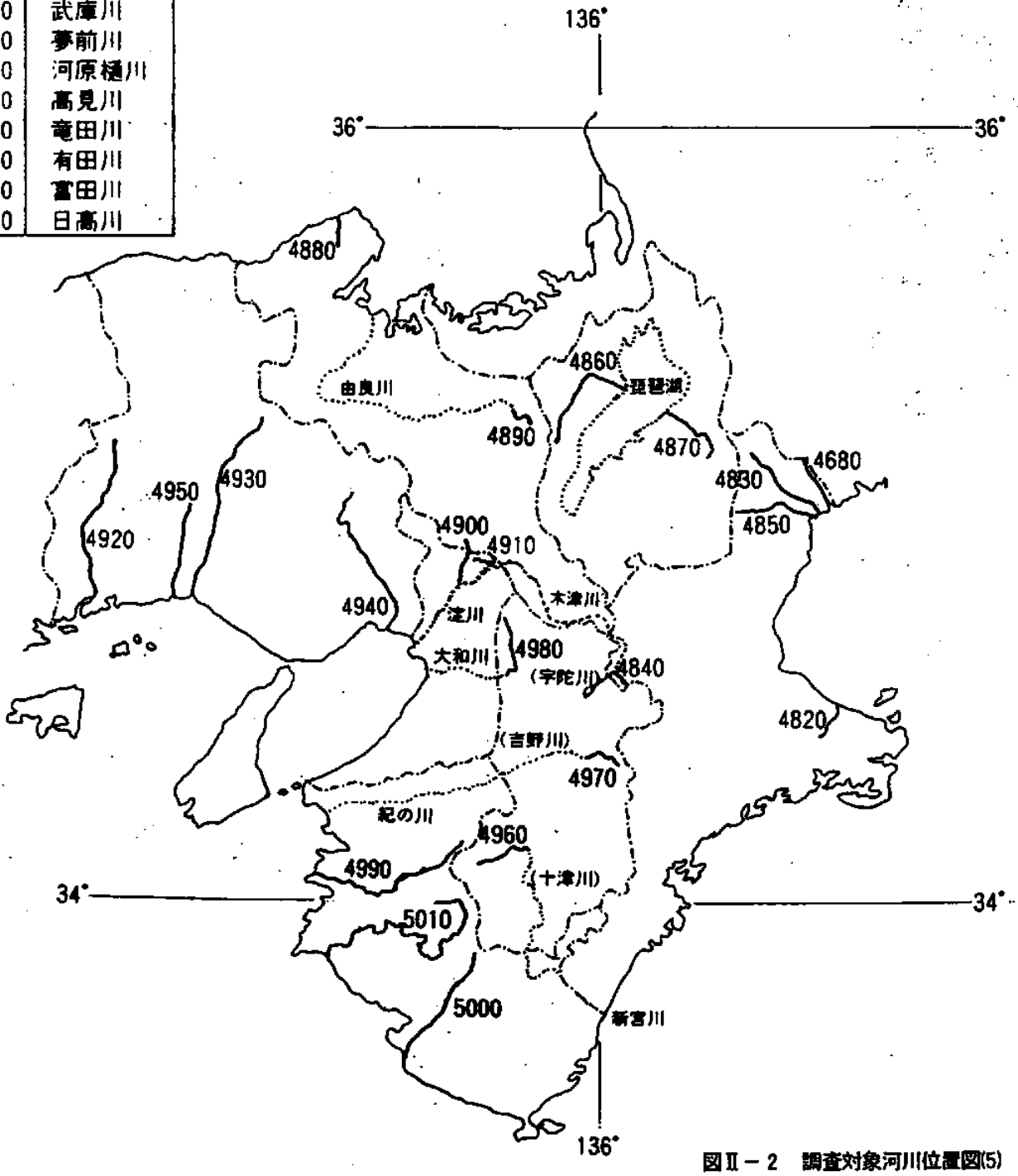
図Ⅱ－2　調査対象河川位置図(3)

4480	三面川
4490	羽茂川
4500	加治川
4510	鯖石川
4520	長棟川
4530	利賀川
4540	熊野川
4550	上庄川
4560	犀川
4570	大聖寺川
4580	南川
4590	足羽川
4600	日野川
4610	早川
4620	笛吹川
4630	王滝川
4640	三峰川
4650	奈良井川
4660	依田川
4670	上川
4680	揖斐川
4681	根尾川
4690	武儀川
4700	吉田川
4710	飛騨川
4720	牧田川
4460	鮎沢川
4730	青野川
4740	下小笠川
4750	興津川
4760	瀬戸川
4770	鵜戸川
4780	名倉川
4790	巴川
4800	乙川
4810	宇連川



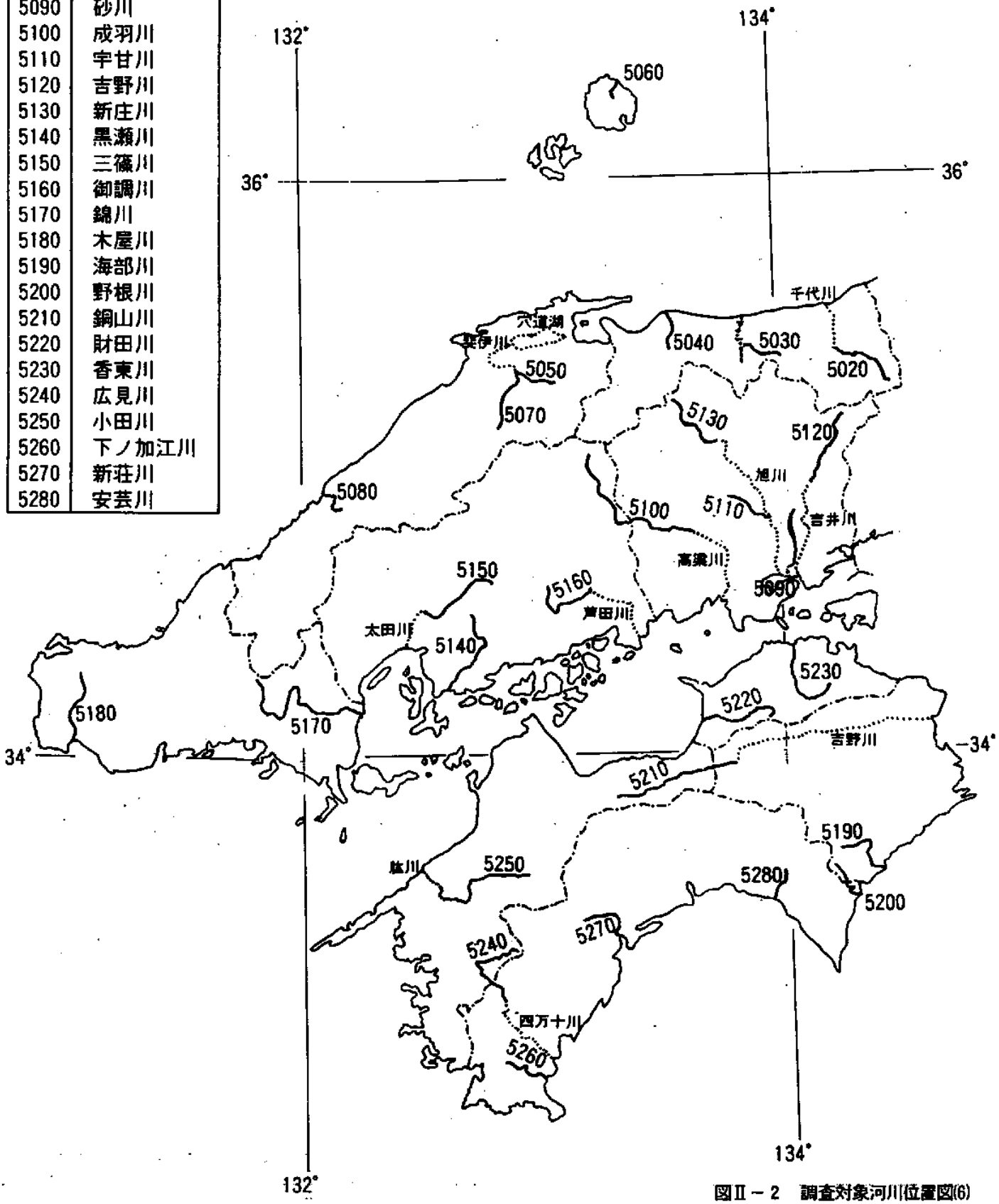
図Ⅱ－2　調査対象河川位置図(4)

4680	揖斐川
4820	五十鈴川
4830	員弁川
4840	滝川
4850	朝明川
4860	安濃川
4870	犬上川
4880	宇川
4890	佐々里川
4900	芥川
4910	水無瀬川
4920	千種川
4930	市川
4940	武庫川
4950	夢前川
4960	河原樋川
4970	高見川
4980	竜田川
4990	有田川
5000	富田川
5010	日高川



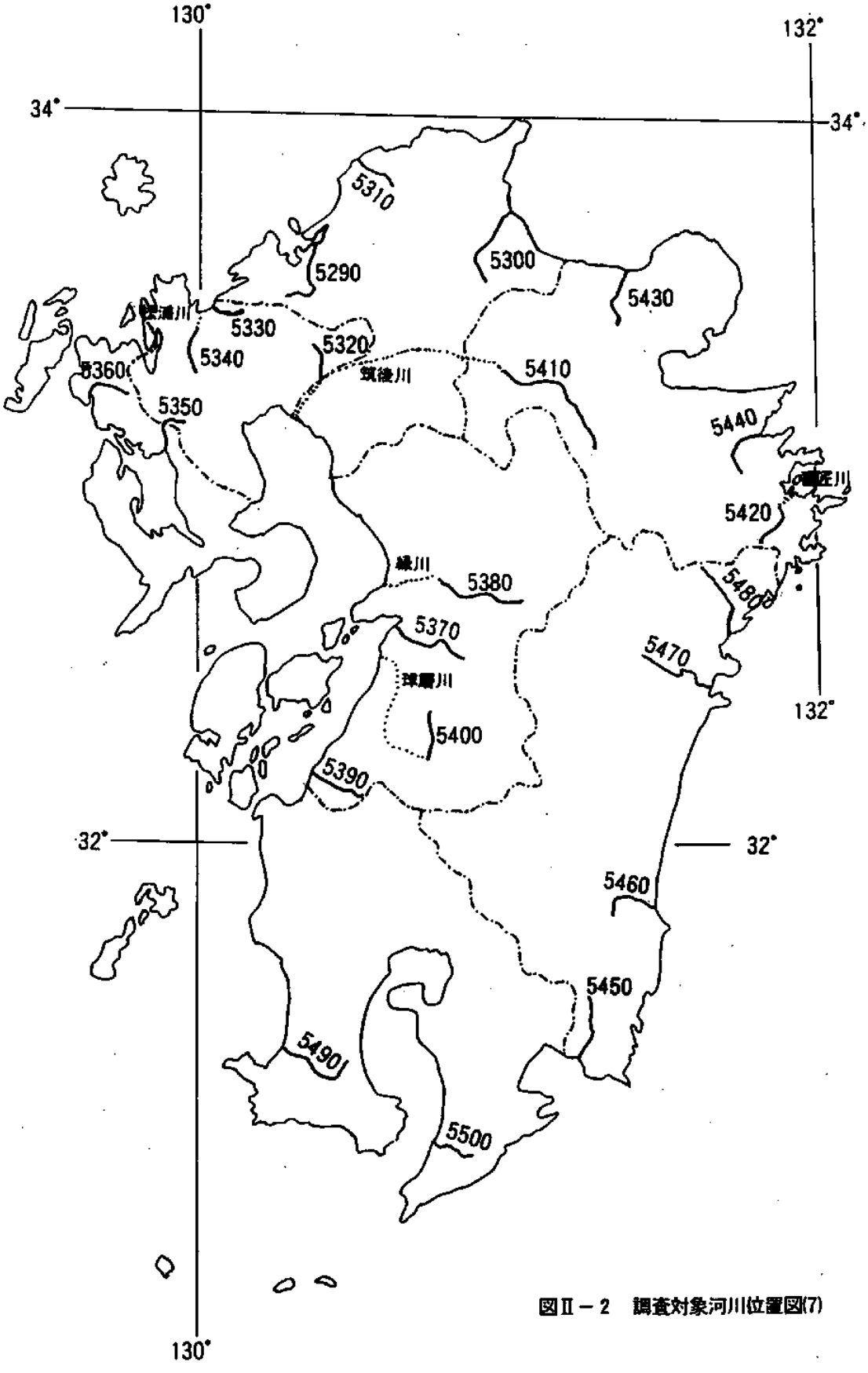
図Ⅱ－２　調査対象河川位置図(5)

5020	八東川
5030	小鹿川
5040	甲川
5050	赤川
5060	中村川
5070	三刀屋川
5080	下府川
5090	砂川
5100	成羽川
5110	宇甘川
5120	吉野川
5130	新庄川
5140	黒瀬川
5150	三篠川
5160	御調川
5170	錦川
5180	木屋川
5190	海部川
5200	野根川
5210	銅山川
5220	財田川
5230	香東川
5240	広見川
5250	小田川
5260	下ノ加江川
5270	新荘川
5280	安芸川

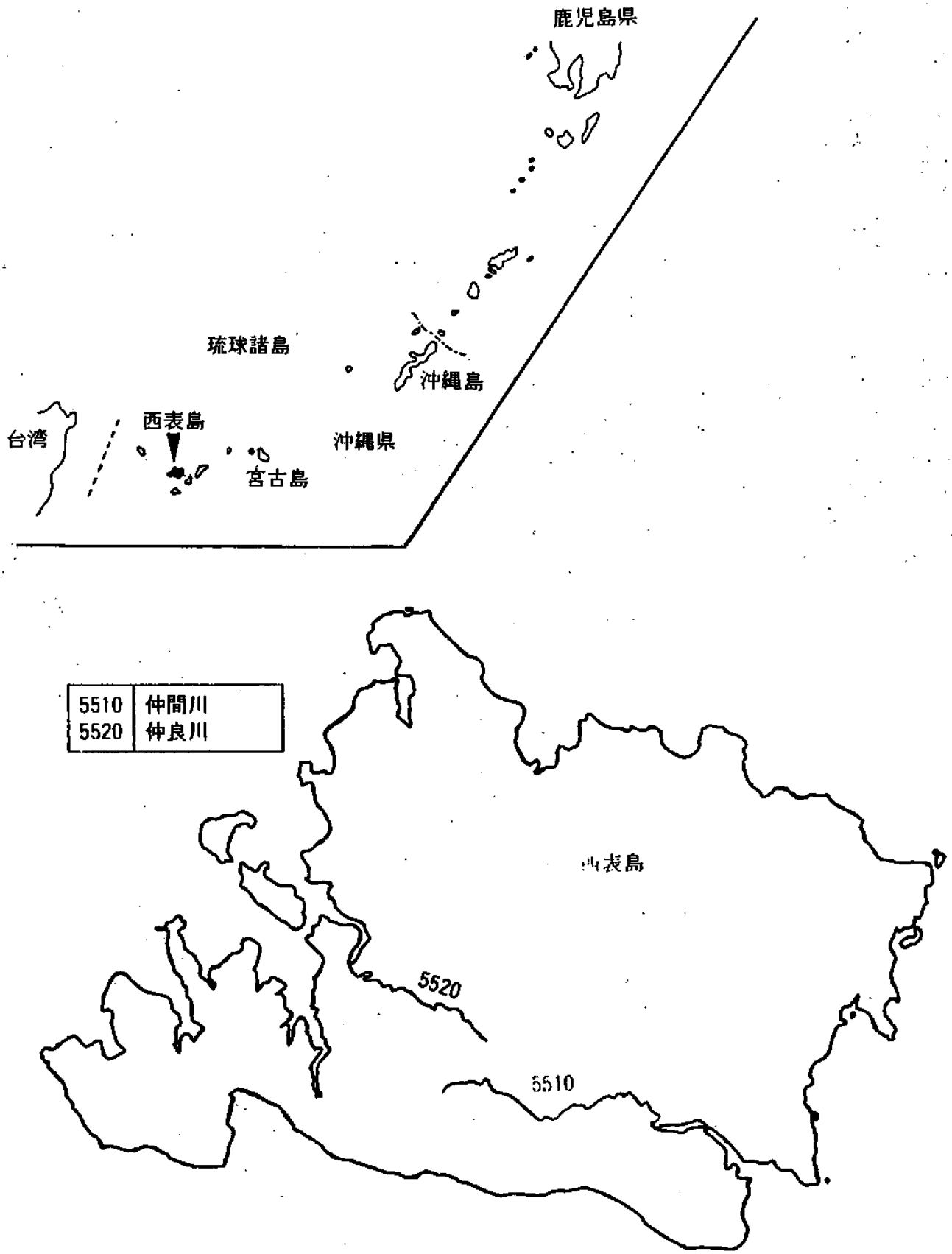


図Ⅱ－2　調査対象河川位置図(6)

5290	室見川
5300	今川
5310	釣川
5320	田手川
5330	玉島川
5340	徳須恵川
5350	川棚川
5360	佐々川
5370	氷川
5380	御船川
5390	水俣川
5400	万江川
5410	玖珠川
5420	堅田川
5430	駅館川
5440	臼杵川
5450	福島川
5460	清武川
5470	五十鈴川
5480	北川
5490	万之瀬川
5500	雄川



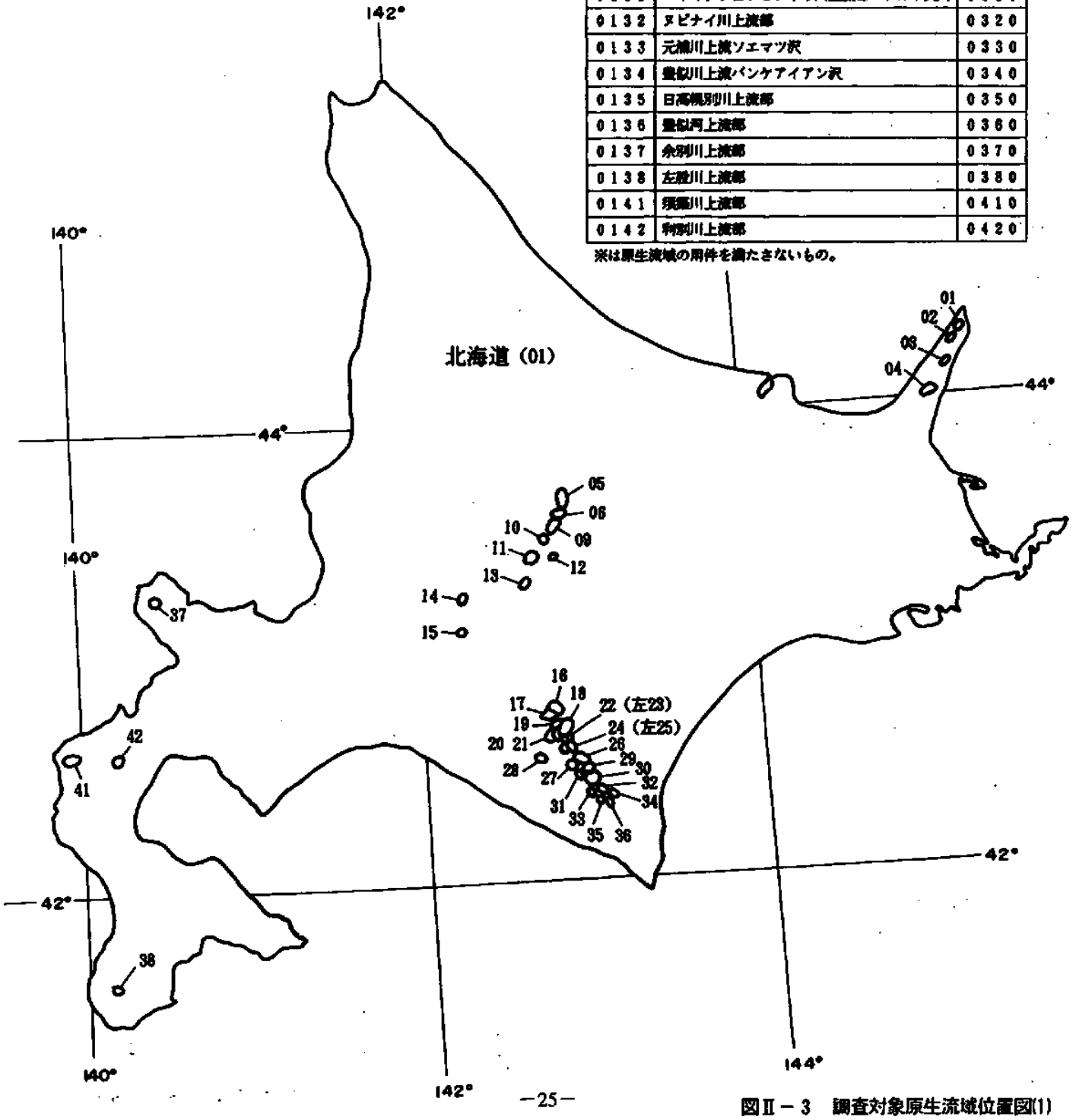
図Ⅱ－2　調査対象河川位置図(7)



図Ⅱ－2　調査対象河川位置図(8)

	No. 道県コード＋番号	原生流域名（地域名）	統一流域番号
	0101	テッパンベツ川流域	0010
	0102	ルシャ川上流部	0020
	0103	オッカバケ川上流部	0030
	0104	幌別川上流部	0040
	0105	雨竜川上流部	0050
	0106	忠別川上流部	0060
	0109	クワンナイ川上流部	0090
	0110	辺別川上流部	0100
	0111	美瑛川上流部	0110
	0112	トムラウシ川上流東沢	0120
	0113	布部川上流部	0130
※	0114	戸別川上流部	0140
※	0115	トナシベツ川上流部	0150
	0116	戸蔦別川上流部	0160
	0117	新冠川上流部	0170
	0118	札内川上流（本流）	0180
	0119	新冠ペッピリガイ沢	0190
	0120	シュンベツ川上流部	0200
	0121	シュンベツ川上流ナメッワカ沢	0210
	0122	札内川上流七の沢	0220
	0123	コイボクシュシビチャリ川上流部	0230
	0124	札内川上流五の沢	0240
	0125	コイボクシュシビチャリ川ナナシノ沢	0250
	0126	歴舟川上流部	0260
	0127	コイカワシュビチャリ川上流サッシビチャリ沢	0270
	0128	上アブカサンベ沢川上流部	0280
	0129	ポンヤオロマップ川流域	0290
	0130	中ノ川上流部	0300
	0131	コイカクシュシビチャリ川上流部ベチガリ沢川	0310
	0132	ヌビナイ川上流部	0320
	0133	元浦川上流ソエマツ沢	0330
	0134	豊似川上流パンケアイアン沢	0340
	0135	日高幌別川上流部	0350
	0136	豊似河上流部	0360
	0137	余別川上流部	0370
	0138	左股川上流部	0380
	0141	猿郷川上流部	0410
	0142	利別川上流部	0420

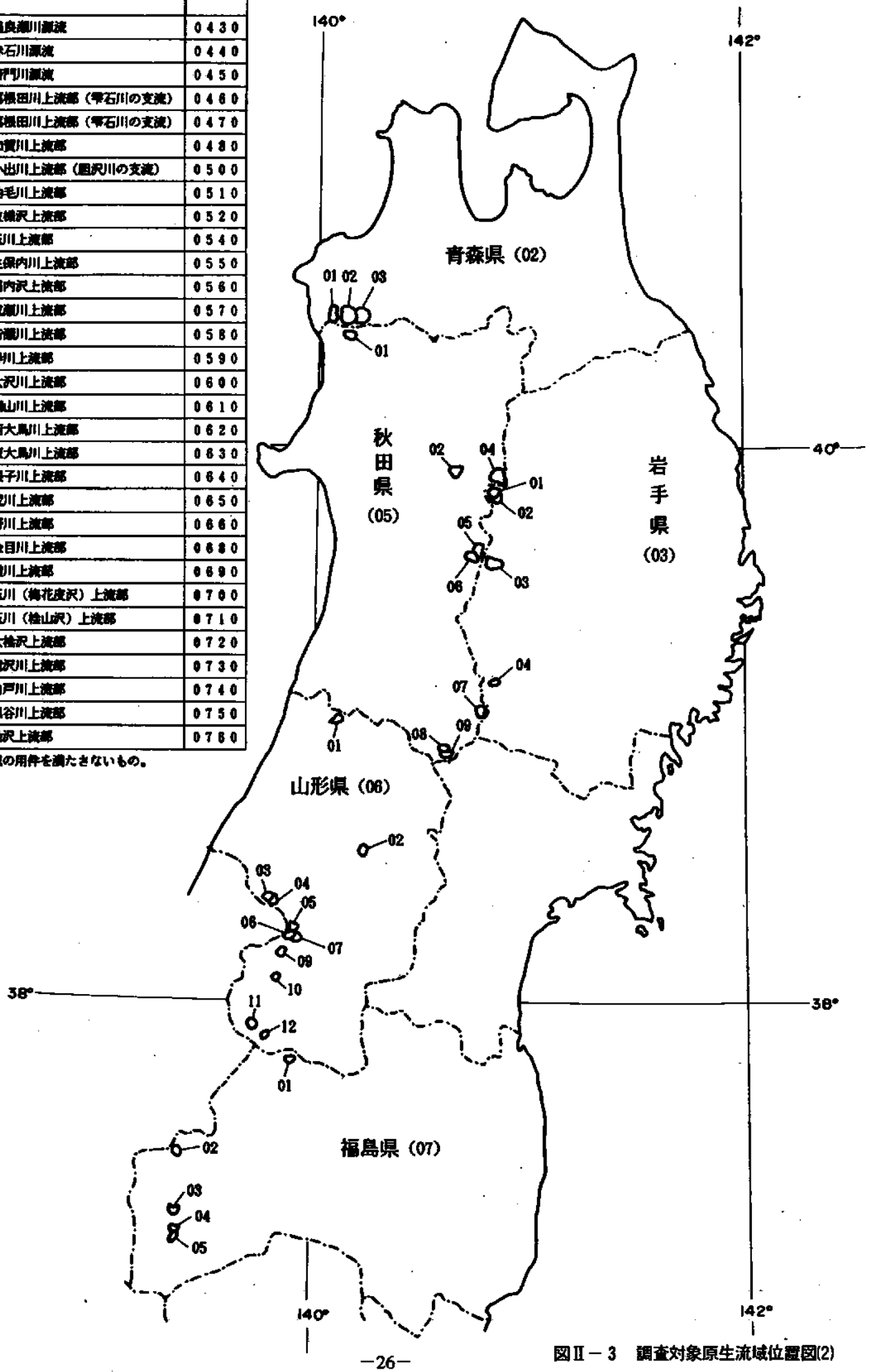
※は原生流域の用件を満たさないもの。



図Ⅱ－3　調査対象原生流域位置図(1)

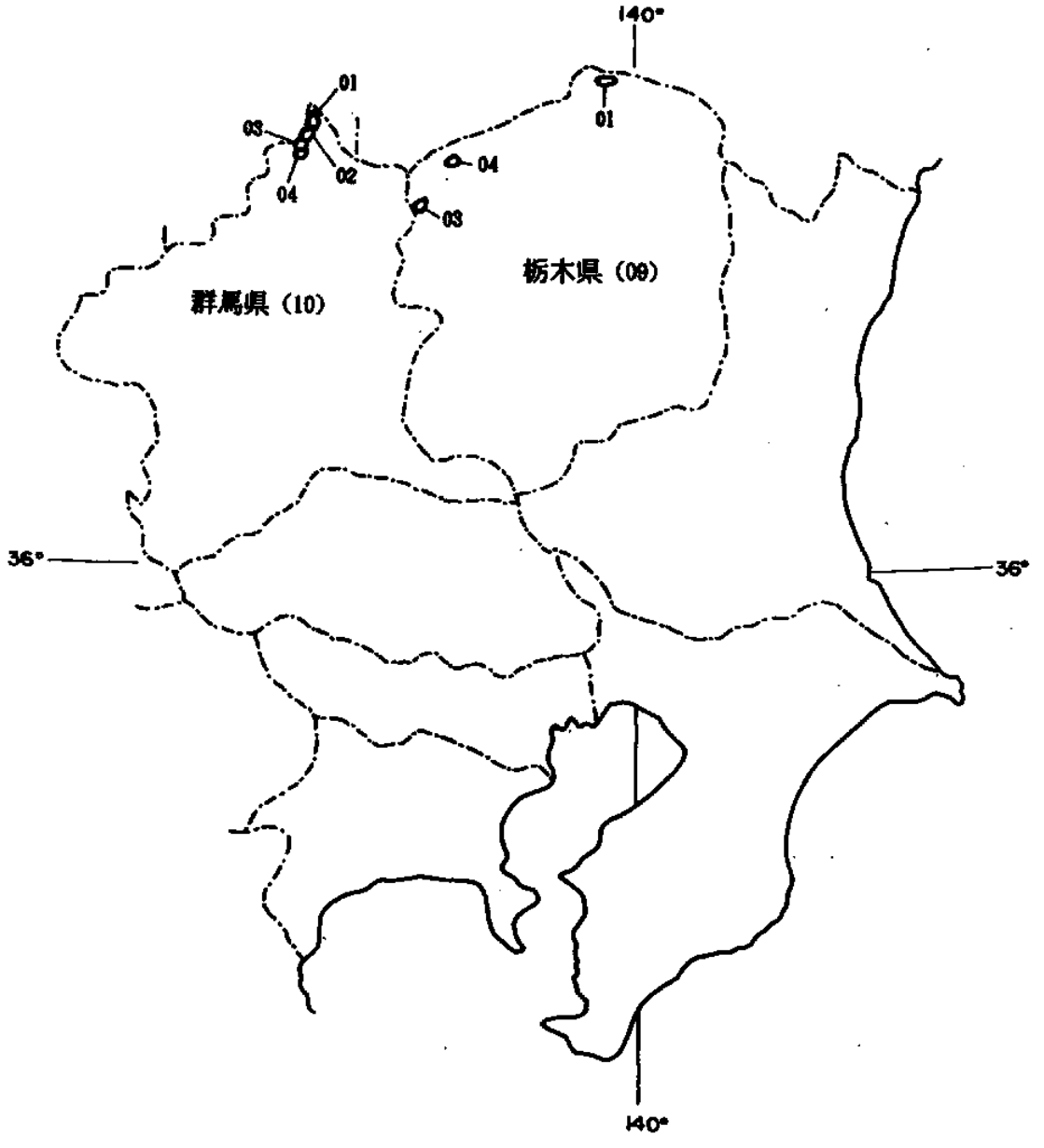
No. 流域コード＋番号	原生流域名（地域名）	統一流域番号
0201	追良瀬川源流	0430
0202	赤石川源流	0440
0203	暗門川源流	0450
0301	高根田川上流部（雫石川の支流）	0460
0302	高根田川上流部（雫石川の支流）	0470
0303	和賀川上流部	0480
0304	小出川上流部（胆沢川の支流）	0500
0501	袖毛川上流部	0510
0502	粒蔵沢上流部	0520
0504	玉川上流部	0540
0505	生保内川上流部	0550
0506	堀内沢上流部	0560
0507	成瀬川上流部	0570
0508	皆瀬川上流部	0580
0509	春川上流部	0590
0601	大沢川上流部	0600
※ 0602	鶴山川上流部	0610
0603	西大鳥川上流部	0620
0604	東大鳥川上流部	0630
0605	銀子川上流部	0640
0606	荒川上流部	0650
0607	野川上流部	0660
0609	金目川上流部	0680
0610	横川上流部	0690
0611	玉川（梅花皮沢）上流部	0700
0612	玉川（桧山沢）上流部	0710
0701	大桧沢上流部	0720
0702	滝沢川上流部	0730
0703	白戸川上流部	0740
0704	黒谷川上流部	0750
0705	袖沢上流部	0760

※は原生流域の用件を満たさないもの。



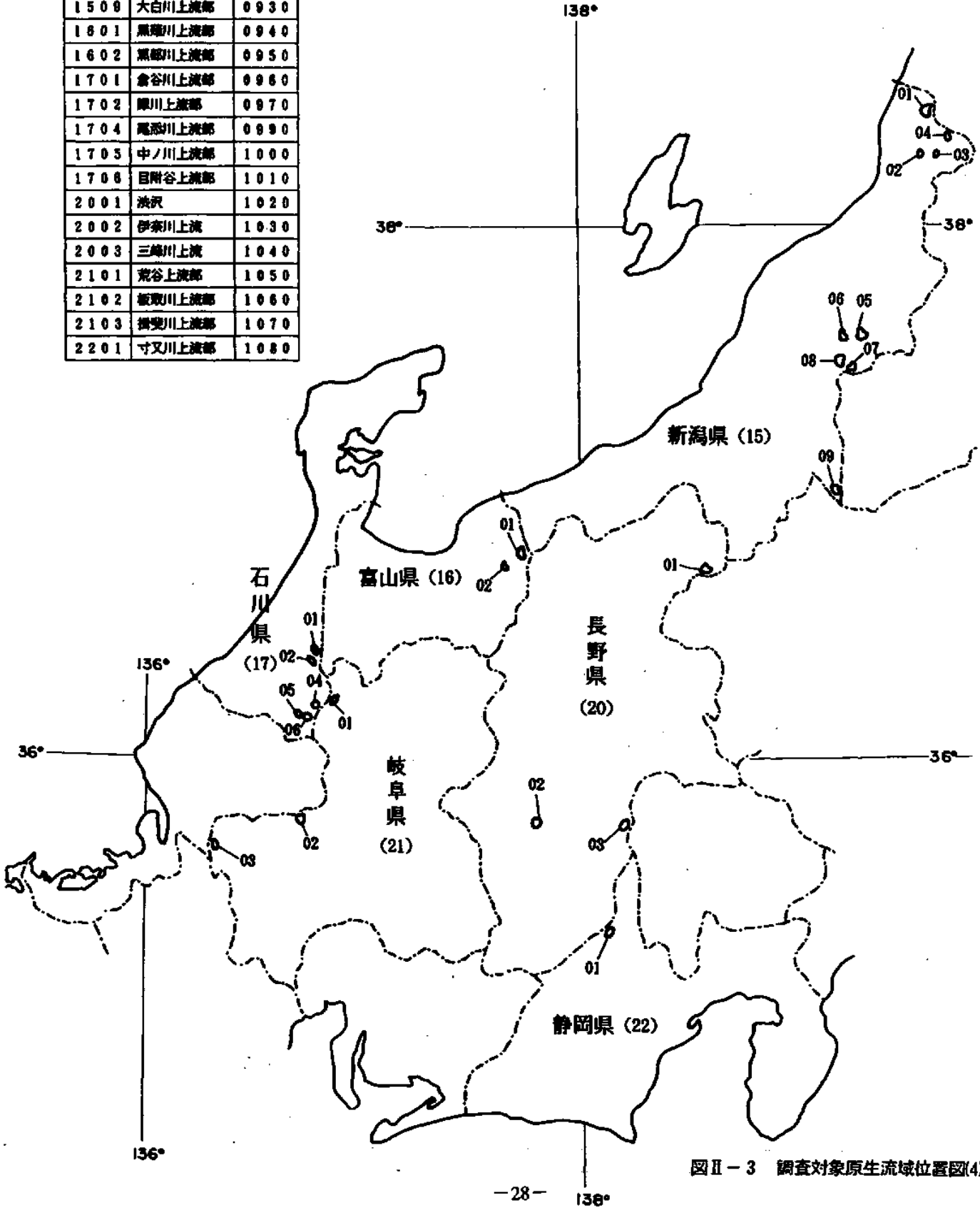
図Ⅱ－3　調査対象原生流域位置図(2)

No. 県コード＋番号	原生流域名 （地域名）	統一流域番号
0901	那珂川上流部矢沢	0770
0903	鬼怒川上流部湯沢	0790
0904	鬼怒川上流部	0800
1001	利根川上流部	0810
1002	小雷口沢上流部	0820
1003	赤良沢上流部	0830
1004	コツナギ沢上流部	0840

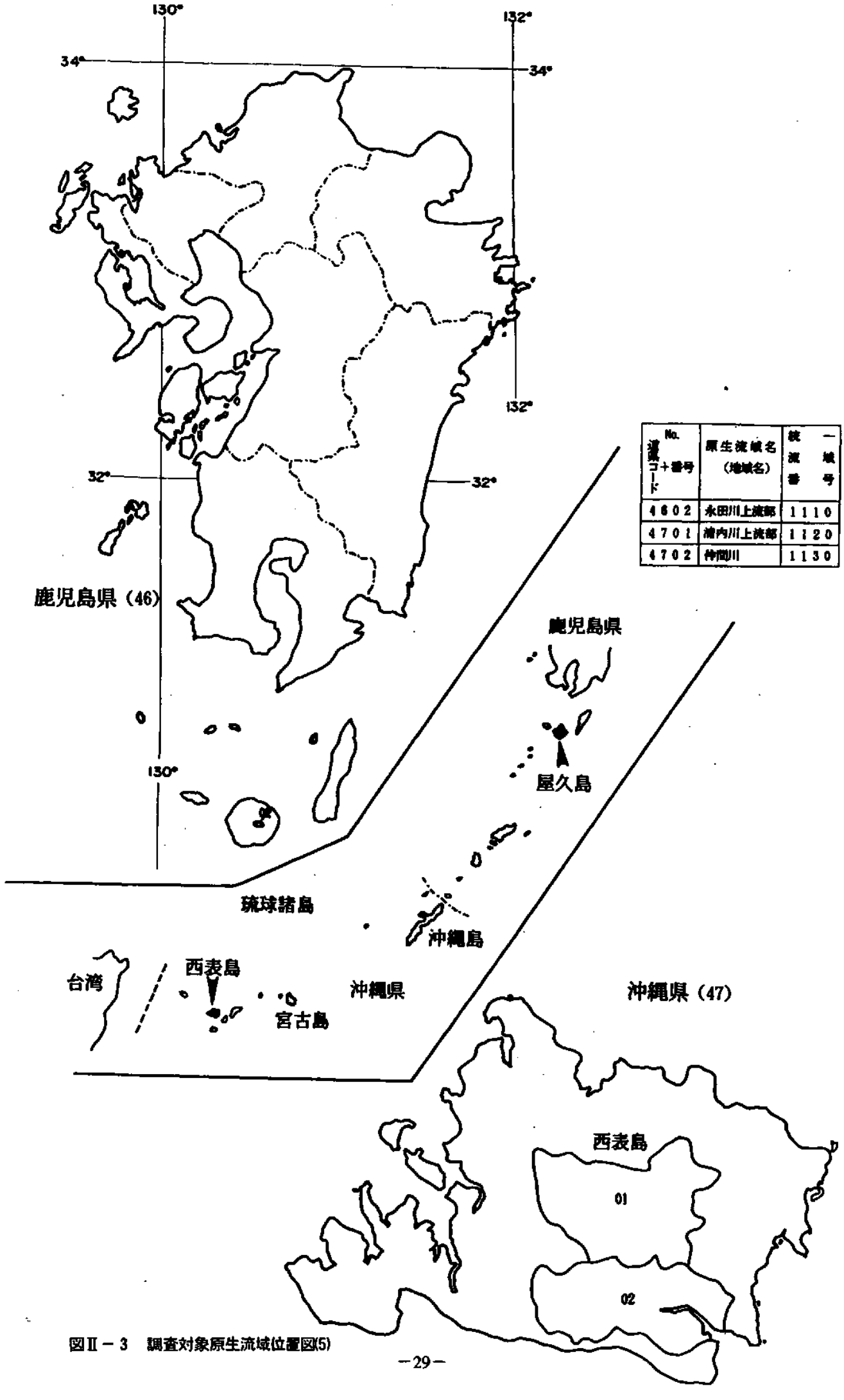


図Ⅱ－3　調査対象原生流域位置図(3)

No. 道県コード＋番号	原生流域名（地域名）	統一流域番号
1501	山熊田川上流部	0850
1502	荒又川上流部	0860
1503	末沢川上流部	0870
1504	岩井沢上流部	0880
1505	早出川上流部	0890
1506	笠畑川上流部	0900
1507	大川上流部	0910
1508	砥沢川上流部	0920
1509	大白川上流部	0930
1601	黒薙川上流部	0940
1602	黒部川上流部	0950
1701	金谷川上流部	0960
1702	櫛川上流部	0970
1704	尾添川上流部	0990
1705	中ノ川上流部	1000
1706	目附谷上流部	1010
2001	渋沢	1020
2002	伊奈川上流	1030
2003	三峰川上流	1040
2101	荒谷上流部	1050
2102	板取川上流部	1060
2103	揖斐川上流部	1070
2201	寸又川上流部	1080

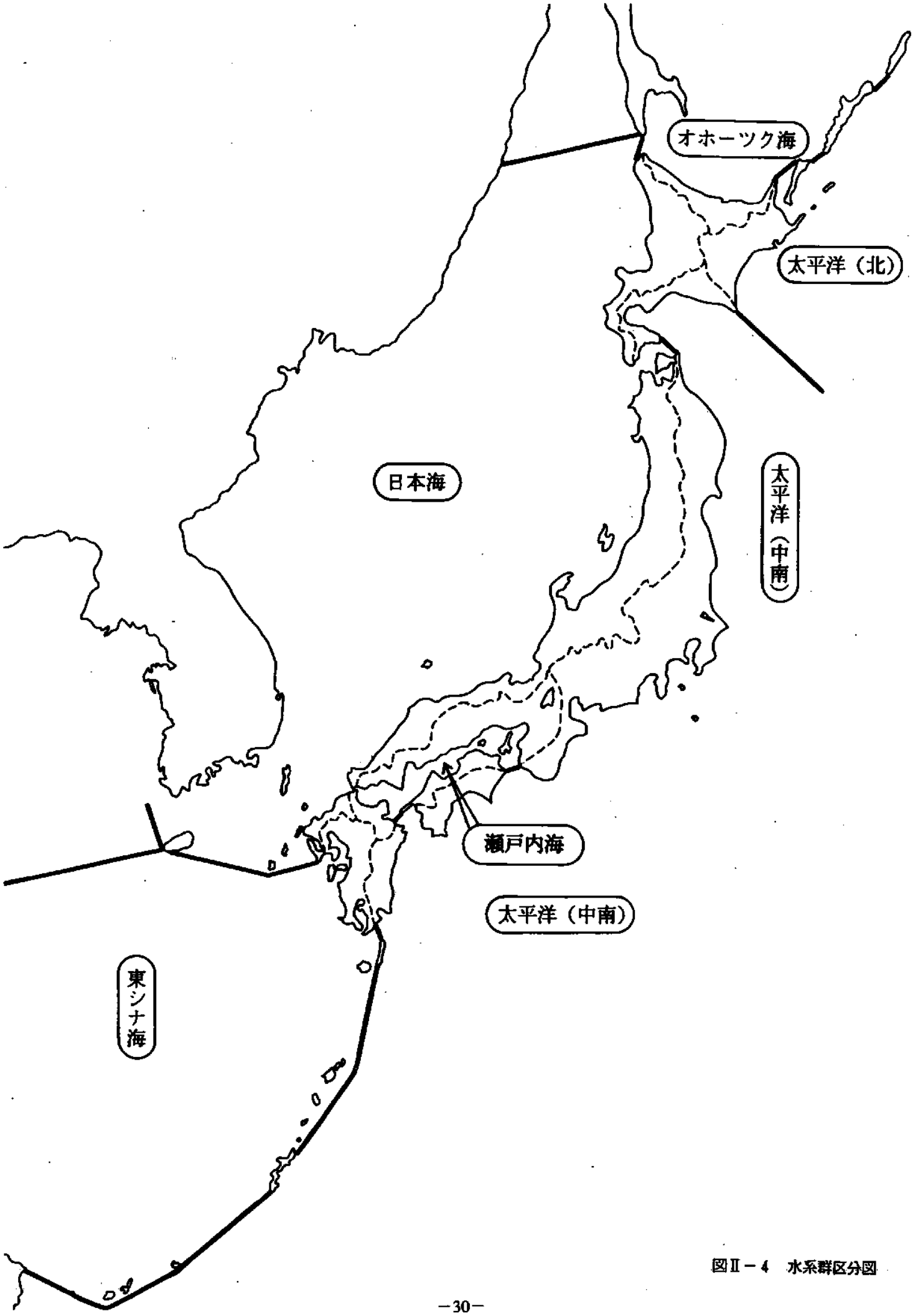


図Ⅱ－3　調査対象原生流域位置図(4)



No. 流域コード＋番号	原生流域名（地域名）	統一流域番号
4602	永田川上流部	1110
4701	浦内川上流部	1120
4702	仲間川	1130

図Ⅱ－3　調査対象原生流域位置図(5)



図Ⅱ－4　水系群区分図

Ⅲ. 集計・解析結果

Ⅲ－1 河川の基本現況

1. 河川の種類と形状

1－1 河川の種類／級別

表Ⅱ－1に基づいて、調査対象河川を級別に区分集計した結果は表Ⅲ－1－1のとおりである。

表Ⅲ－1－1 調査対象河川の級別集計

河川区分	河川数（%）	河川流路延長 km（%）	
		概要票記載数値	河川流路数値
一級河川	76（ 49.7）	3,330.3（ 53.2）	3,336.0（ 53.4）
二級河川	72（ 47.1）	2,775.9（ 44.4）	2,764.0（ 44.2）
二級＋普通河川	3（ 2.0）	81.8（ 1.3）	84.0（ 1.3）
小 計	151（ 98.7）	6,188.0（ 98.9）	6,184.0（ 98.9）
普通河川	2（ 1.3）	67.1（ 1.1）	67.1（ 1.1）
総 計	153（100.0）	6,255.1（100.0）	6,251.1（100.0）

⇩

⇩

参考：全国／平成4年6月30日現在	
河川数	河川流路延長
13,771	87,090.1 km
6,944	37,610.0 km
20,715	124,700.1 km

〔出典：河川ハンドブック1993年〕

※ 4030美々川(二級＋普通河川)において、調査対象となった河川流路延長は18.2kmであるが、そのうち第4回自然環境保全基礎調査湖沼調査の対象となったウトナイ湖の存在する2.1kmでは河川改変状況調査を実施していない(巻末「河川調査要綱」参照)。
このため、4030美々川の集計解析の調査流路延長には16.1kmを用いている。上表における集計解析分の小計は6,181.9km、総計は6,249.0kmである。
今後の河川流路総延長は、「調査流路総延長」とも称して6,249.0kmを用いる。

用語の定義2「河川の級別等」

① 一級河川 ： 国土保全上または国民経済上特に重要な水系で政令で指定したものに係わる河川で建設大臣が指定したものをいう。（河川法4条1項）

② 二級河川 ： 一級水系以外の水系で公共の利害に重要な関係があるものにかかわる河川で都道府県知事が指定したものをいう（河川法5条1項）。本指定にあたっては、水系の指定はおこなわれない。

③ 準用河川 ： 一級水系および二級水系以外の水系に係わる河川で、市町村長が指定したものである（河川法100条）。工事実施基本計画、改良工事に要する費用についての国庫負担等に関する規定を除いて、河川法の大部分の規定が準用される。

④ 普通河川 ： ①～③以外の河川をいい、河川法の規定は全く適用されない。

1－2　河川の種類／幹川or支川

表Ⅱ－1に基づいて、調査対象河川を「幹川」あるいは「支川」で区分した結果は表Ⅲ－1－2のとおりである。

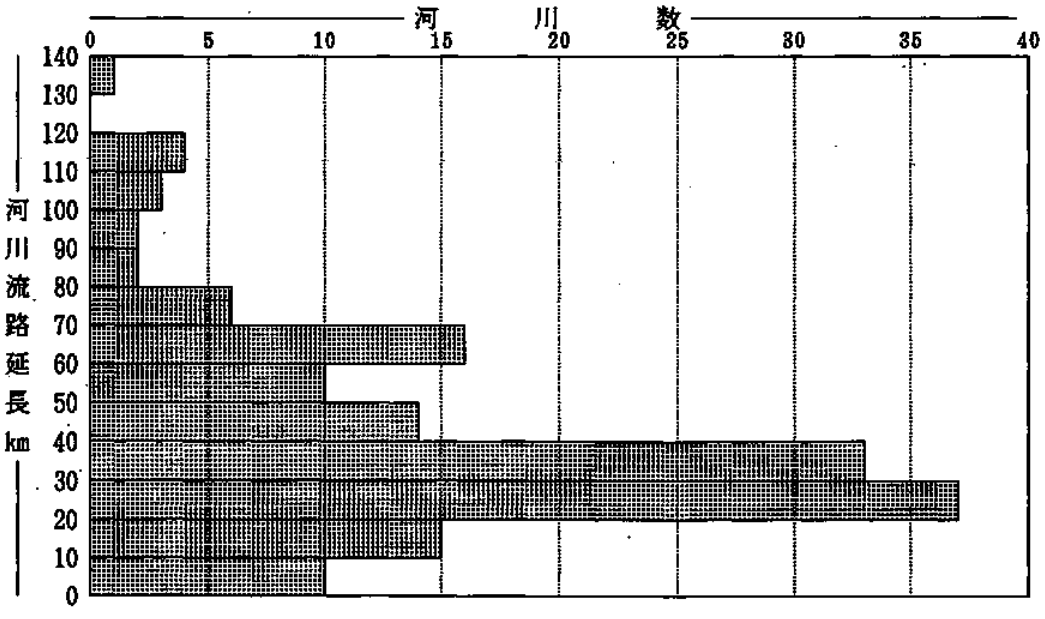
いうまでもなく、幹川に区分される河川は独立した河川で、河川の下流端は海域に流入する形態となっている。支川となっている河川の幹川は、表Ⅱ－3に示したとおりである。

表Ⅲ－1－2　調査対象河川の幹川／支川区分

河川区分	河　川　数	調査流路延長　km
幹　　川	74　（ 48.4 %）	2,881.1（ 46.1 %）
支　　川	79　（ 51.6 %）	3,367.9（ 53.9 %）
計	153　（100.0 %）	6,249.0（100.0 %）

1－3　河川流路延長

調査対象河川の河川流路延長（調査流路延長）では、20km以上40km未満の河川が突出して多く、これらで70河川、全対象河川の46%を占めている。また、流路延長が50km以上の河川数は44河川である



図Ⅲ－1－1　調査対象河川の流路延長別河川数

（図Ⅲ－１－１）。

調査対象河川において、河川流路延長（調査流路延長）の長い河川を表Ⅲ－１－３に掲げる。

上位20の河川の分布は、本州の太平洋／中南と瀬戸内海の水系群が圧倒的に多く、その他では、北海道－太平洋／北水系群で２河川、日本海に係わるものが３河川となっている。オホーツク海・日本海・東シナ海に係わる今回対象とした河川の流路延長は相対的に短い。また、四国及び九州における今回対象とした河川も流路延長は相対的に短いものとなっている。

表Ⅲ－１－３　調査対象河川の河川流路延長　上位２０

河川コード	河川名	調査流路延長（km）	級別	幹川or支川	水系群名	都道府県
1. 4710	飛騨川	137.0	一級	支川	本州－太平洋／中南	岐阜県
2. 5010	日高川	119.2	二級	幹川	本州－太平洋／中南	和歌山県
3. 4680	揖斐川	111.5	一級	支川	本州－太平洋／中南	三重・岐阜県
4. 5170	錦川	110.3	二級	幹川	本州－瀬戸内海	山口県
5. 4380	小貝川	110.0	一級	支川	本州－太平洋／中南	茨城・栃木県
6. 4110	西別川	109.7	二級	幹川	北海道－太平洋／北	北海道
7. 4370	渡良瀬川	107.5	一級	支川	本州－太平洋／中南	埼玉・茨城県 栃木・群馬県
8. 4990	有田川	103.0	二級	幹川	本州－瀬戸内海	和歌山県
9. 4020	風蓮川	99.5	二級	幹川	北海道－太平洋／北	北海道
10. 4230	江合川	92.0	一級	支川	本州－太平洋／中南	宮城県
11. 4200	迫川	87.4	一級	支川	本州－太平洋／中南	宮城県
12. 4340	伊南川	80.2	一級	支川	本州－日本海	福島県
13. 4930	市川	77.1	二級	幹川	本州－瀬戸内海	兵庫県
14. 5100	成羽川	73.7	一級	支川	本州－瀬戸内海	岡山・広島県
15. 4420	小櫃川	72.7	二級	幹川	本州－太平洋／中南	千葉県
16. 4920	千種川	72.2	二級	幹川	本州－瀬戸内海	兵庫県
17. 4270	石沢川	71.9	一級	支川	本州－日本海	秋田県
18. 4180	和賀川	70.6	一級	支川	本州－太平洋／中南	岩手県
19. 4210	白石川	69.7	一級	支川	本州－太平洋／中南	宮城県
20. 4130	千歳川	69.2	一級	支川	北海道－日本海	北海道

1－4　河川の屈曲率

調査対象の153河川において算出された屈曲率の中で大きい区間帯を抽出して整理したものが、表Ⅲ－1－4である。

表Ⅲ－1－4　調査対象河川の河川屈曲率　上位19

	河川コード	河川名	調査流路延長km	総区間数	最大屈曲率	該当区間[始]	[終]	水系群名	都道府県
1.	5010	日高川	119.2	120	5.8	81	90	本州－太平洋／中南	和歌山県
2.	4640	三峰川	61.3	62	3.7	41	50	本州－太平洋／中南	長野県
3.	4330	新田川	62.9	63	3.1	31	40	本州－太平洋／中南	福島県
	5240	広見川	60.4	61	3.1	51	60	四国－太平洋／中南	高知・愛媛県
5.	5260	下ノ加江川	27.5	28	3.0	11	20	四国－太平洋／中南	高知県
6.	4430	一宮川	27.7	28	2.8	11	20	本州－太平洋／中南	千葉県
7.	4270	石沢川	71.9	72	2.7	21	30	本州－日本海	秋田県
	4990	有田川	103.0	103	2.7	61	70	本州－瀬戸内海	和歌山県
	5100	成羽川	73.7	74	2.7	41	50	本州－瀬戸内海	岡山・広島県
10.	4420	小櫃川	72.7	73	2.6	11	20	本州－太平洋／中南	千葉県
					2.6	21	30		
	5470	五十鈴川	43.9	44	2.6	21	30	九州－太平洋／中南	宮崎県
12.	4610	早川	66.1	67	2.5	11	20	本州－太平洋／中南	山梨県
	4940	武庫川	66.1	67	2.5	51	60	本州－瀬戸内海	兵庫県
14.	4520	長棟川	19.0	19	2.4	11	19	本州－日本海	富山県
	5130	新庄川	34.0	34	2.4	1	10	本州－瀬戸内海	岡山県
	5190	海部川	36.0	36	2.4	31	36	四国－太平洋／中南	徳島県
	5330	玉島川	15.7	16	2.4	11	16	九州－日本海	佐賀県
18.	5170	錦川	110.3	111	2.3	81	90	本州－瀬戸内海	山口県
19.	4020	風蓮川	99.5	100	2.2	11	20	北海道－太平洋／北	北海道
	4810	宇連川	21.4	22	2.2	11	20	本州－太平洋／中南	愛知県
					2.2	21	22		
	5460	清武川	29.5	30	2.2	11	20	九州－太平洋／中南	宮崎県

屈曲率が最も大きい値は 5.8で、5010日高川（和歌山県）において認められる。次いで、4640三峰川（長野県）の3.7 、4330新田川（福島県）と5240広見川（高知・愛媛県）の3.1 が続く。

屈曲率の値が顕著に大きい 3.0以上の区間が認められる河川は日高川を含めて５つあるが、このような大きい値の屈曲率の出現は、これらの地域の地質岩相や地質構造（断層や褶曲等）に起因していると推測される。

表Ⅲ－１－４に抽出した21河川の分布をみてみると全国に散在してはいるが、太平洋に係わる河川群に属するものが13河川と過半数以上であり、次いで、瀬戸内海に係わる水系群のものが５河川、日本海に係わるものが３河川となっている。

地域別にみると、本州の河川が14河川と過半数以上を占め、四国と九州の河川がそれぞれ３河川、北海道は１河川と少ない状況である。沖縄県の河川の屈曲率は比較的大きくはない。

表Ⅲ－１－４で抽出された河川屈曲率の大きい河川区間について、その水際線、河原、河畔土地利用の自然状況をまとめたものが表Ⅲ－１－５である。

特徴的なのは、これらの河川屈曲率の高い河川区間には河原がほとんどみられないことである。河原が存在する場合でも、小櫃川を除いて河原の自然地率区間平均値が10.0で全てが自然地となっている。

また、河川屈曲率上位５河川区間の水際線及び河畔土地利用の自然状況は、きわめて高い環境にある。６位以下のこれらをみても総じて自然状況が高い傾向が認められるが、水際線では人工構造物化が一定程度認められる。

河畔土地利用では、自然地とともに農業地利用がおこなわれており、市街地・工業地化等はほとんどみられない。

用語の定義３：「河川の屈曲率」

河川の屈曲率＝〔河川の一定区間における流路長〕／〔一定区間の直線距離〕
今回の調査においては、
屈曲率＝〔河川の10区間の流路長(原則的には10km)〕／〔10区間の直線距離(km)〕

表Ⅲ－1－5　河川屈曲率の大きい区間の自然状況

	河川コード	河川名	最大屈曲率	該当区間[始]	該当区間[終]	水際線自然地率区間平均値	河原自然地率区間平均値	河畔自然地土地利用区間数の総区間数比%	保全地域の有無	都道府県
1.	5010	日高川	5.8	81	90	10.0	——	55.0(45.0)	——	和歌山県
2.	4640	三峰川	3.7	41	50	10.0	——	100.0	4区間	長野県
3.	4330	新田川	3.1	31	40	10.0	——	100.0	——	福島県
	5240	広見川	3.1	51	60	9.8	——	85.0(15.0)	——	高知・愛媛県
5.	5260	下ノ加江川	3.0	11	20	9.6	——	50.0(50.0)	——	高知県
6.	4430	一宮川	2.8	11	20	4.5	——	0.0(60.0)	——	千葉県
7.	4270	石沢川	2.7	21	30	9.3	——	10.0(90.0)	——	秋田県
	4990	有田川	2.7	61	70	10.0	——	60.0(35.0)	——	和歌山県
	5100	成羽川	2.7	41	50	2.0	——	50.0(10.0)	——	岡山・広島県
10.	4420	小櫃川	2.6	11	20	6.8	4.0	10.0(70.0)	——	千葉県
				21	30	5.9	——	0.0(95.0)	——	
	5470	五十鈴川	2.6	21	30	9.8	——	65.0(30.0)	——	宮崎県
12.	4610	早川	2.5	11	20	9.4	10.0	85.0(5.0)	——	山梨県
	4940	武庫川	2.5	51	60	3.4	——	35.0(65.0)	——	兵庫県
14.	4520	長棟川	2.4	11	19	10.0	——	100.0	——	富山県
	5130	新庄川	2.4	1	10	3.7	——	75.0(5.0)	——	岡山県
	5190	海部川	2.4	31	36	10.0	——	100.0	——	徳島県
	5330	玉島川	2.4	11	16	7.2	——	66.7(33.3)	3区間	佐賀県
18.	5170	錦川	2.3	81	90	8.9	——	80.0(20.0)	——	山口県
19.	4020	風蓮川	2.2	11	20	10.0	10.0	90.0(10.0)	——	北海道
	4810	宇連川	2.2	11	20	8.6	——	60.0(40.0)	5区間	愛知県
				21	22	9.5	——	100.0	(2区間)	
	5460	清武川	2.2	11	20	6.9	10.0	50.0(40.0)	1区間	宮崎県

該当区間の自然地率の総計を総区間数で除した値

該当区間内の河原の自然地率の総計を河原の総区間数で除した値
※ —— は河原なし

自然地土地利用区間数（樹林地orその他）を〔総区間数×2〕で除した率（%）
※(　)は農業地の率

（注）水際線、河原、河畔土地利用の定義は、P45からの「Ⅲ－2河川の改変等の状況」に掲載

1－5　河川の縦断形状（標高差と勾配）

河川の縦断形状は、地表面に対してその上を流れる河川水流が浸食・運搬・堆積作用を及ぼした結果で、河川水流はゴールとなる一定の縦断形状を造りだすことを目指して地表面に働きかける。そして、ゴールとなる縦断形状は、河床勾配が流域からもたらされた土砂の運搬に必要なだけの流速を生ずるように微妙に調節されることになるが、多くの河川はこの形状を目指している、ということができる。このようなゴールとなる河川は平衡河川と呼称されており、その縦断形状は指数曲線で表わされると考えられている。つまり、河川の流路は上流から下流へいくにつれて暫時勾配を減ずるから、河川縦断形状は、上に向かって凹んだ形の曲線を呈する、という経験的に知られた事実である。このような河川縦断形状に関する経験則は、河川流域の自然環境や河川の規模とは無関係に成り立っているといわれている（参考：「川の博物誌」）。

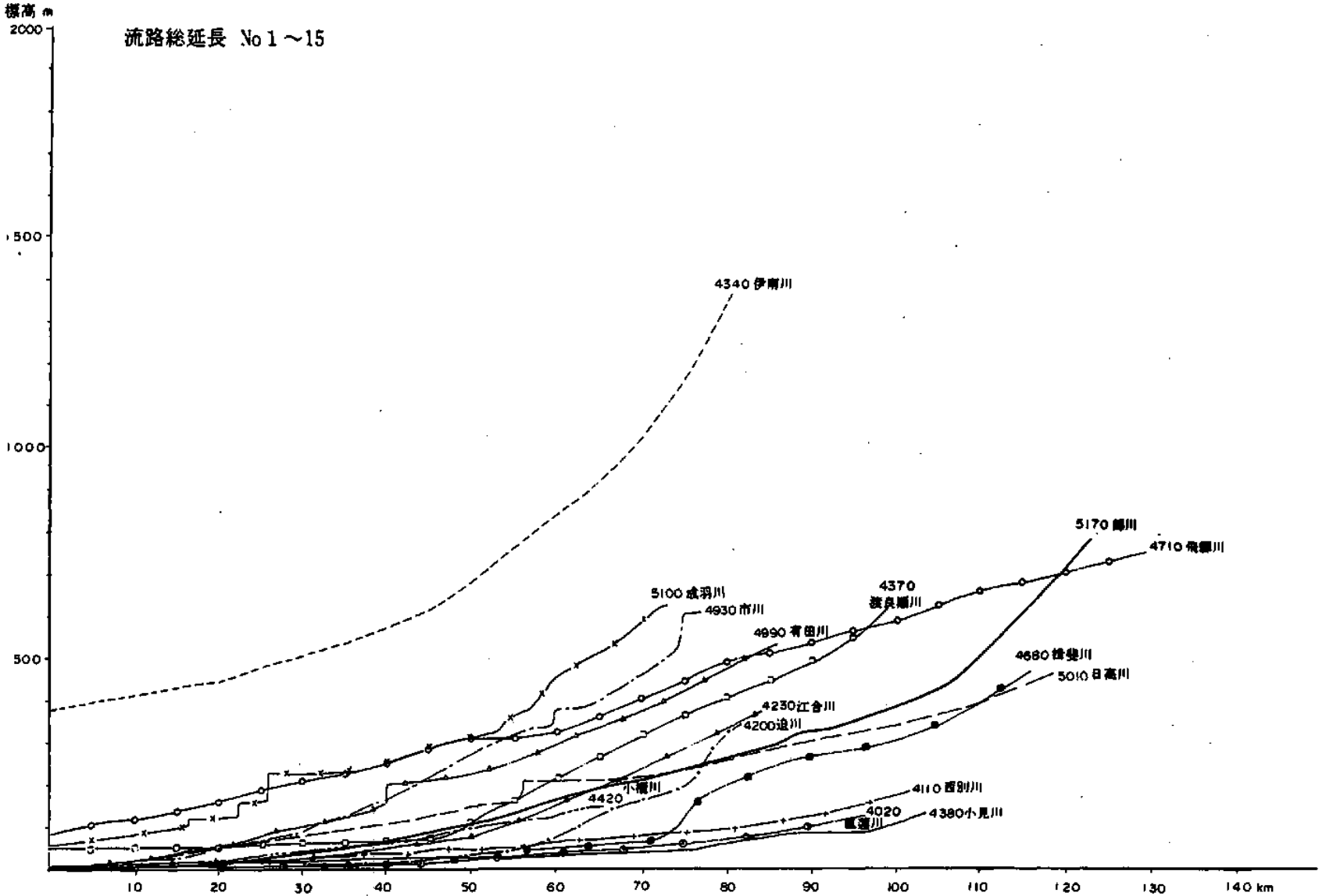
図Ⅲ－1－2(1)～(3)は、今回の調査対象河川のうちの調査流路延長が上位44の河川（50km以上）の縦断形状をとりまとめたものである。

河川（調査）流路延長が比較的長い河川、また、北海道の原野地域に位置する河川の縦断形状は概して直線的であるが、大部分の調査対象河川は上記のように指数曲線的な形状を呈している。

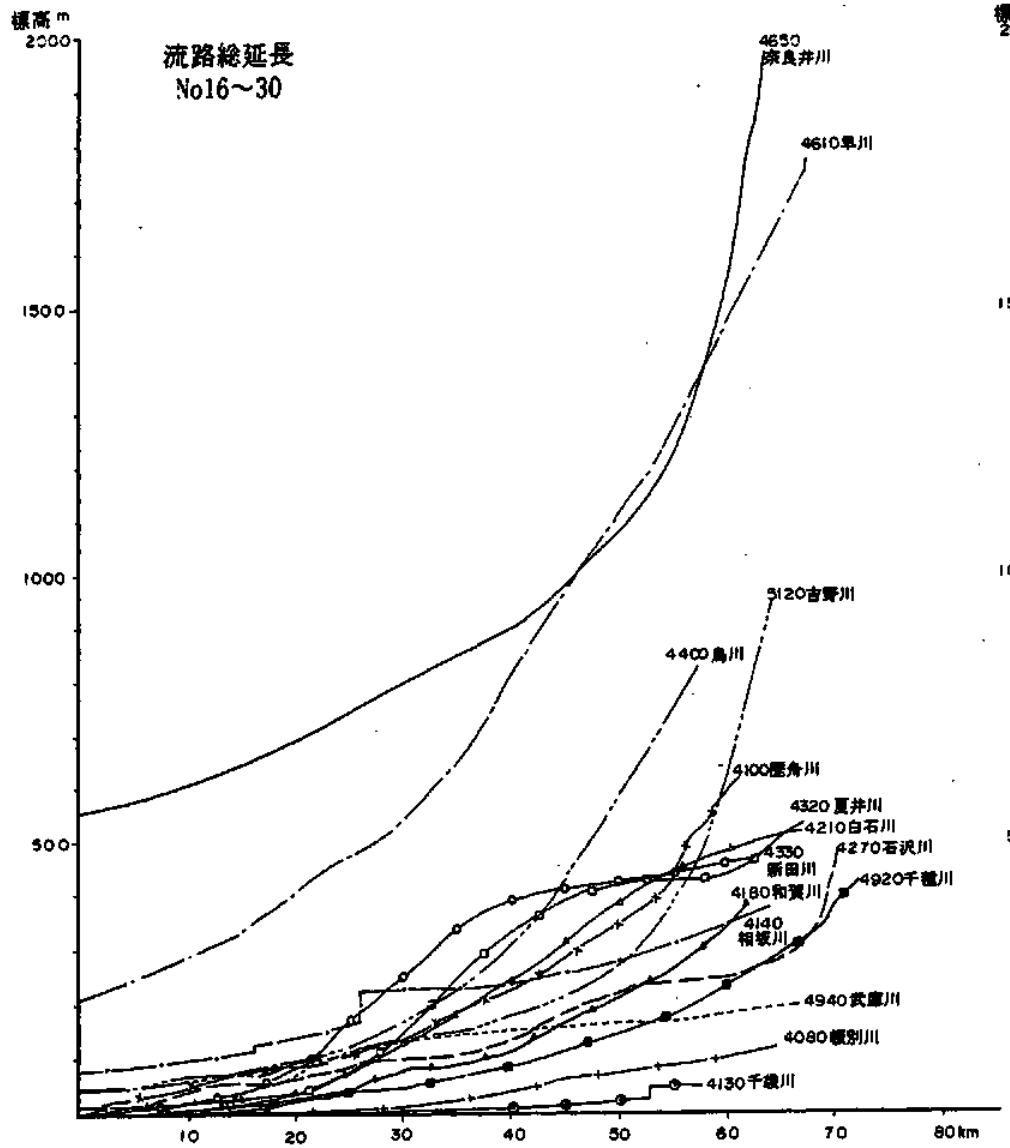
図Ⅲ－1－2(4)は、(1)～(3)に示した河川のうちで河川縦断形状（勾配）が大きい河川、また、河川の比高差が大きい河川を抽出してまとめたものである。形状が画一的ではないので順位を明確につけるのは難しいが、今回の調査対象河川のうち河川勾配及び比高差が大きい河川をあげると、表Ⅲ－1－6のようになる。当然ながら、山地に位置する河川が抽出される結果となっている。

表Ⅲ－1－6　河川勾配・比高差の大きい河川（調査流路延長50km以上）

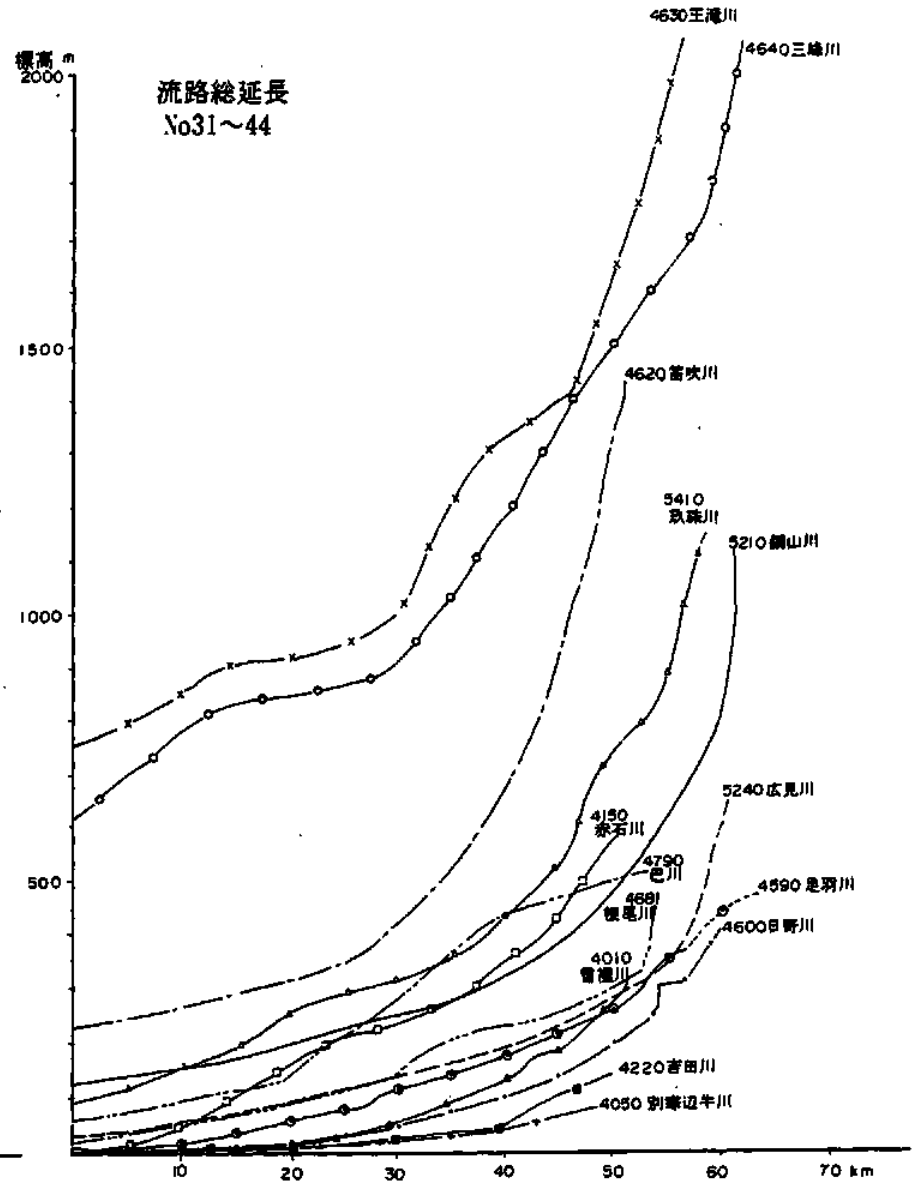
河川コード	河川名	調査流路延長（km）	級別	幹川or支川	水系群名	都道府県
4630	王滝川	54.8	一級	支川	本州－太平洋／中南	長野県
4610	早川	66.1	一級	支川	本州－太平洋／中南	山梨県
4640	三峰川	61.3	一級	支川	本州－太平洋／中南	長野県
4620	笛吹川	50.8	一級	支川	本州－太平洋／中南	山梨県
5410	玖珠川	57.3	二級	支川	九州－東シナ海	大分県
4650	奈良井川	62.1	一級	支川	本州－日本海	長野県
4150	赤石川	50.2	二級	幹川	本州－日本海	青森県
4400	鳥川	61.8	一級	支川	本州－太平洋／中南	群馬県
5210	銅山川	61.4	一級	支川	四国－瀬戸内海	徳島・愛媛県
4340	伊南川	80.2	一級	支川	本州－日本海	福島県
5120	吉野川	66.0	一級	支川	本州－瀬戸内海	岡山県
5240	広見川	60.4	一級	支川	四国－太平洋／中南	高知・愛媛県



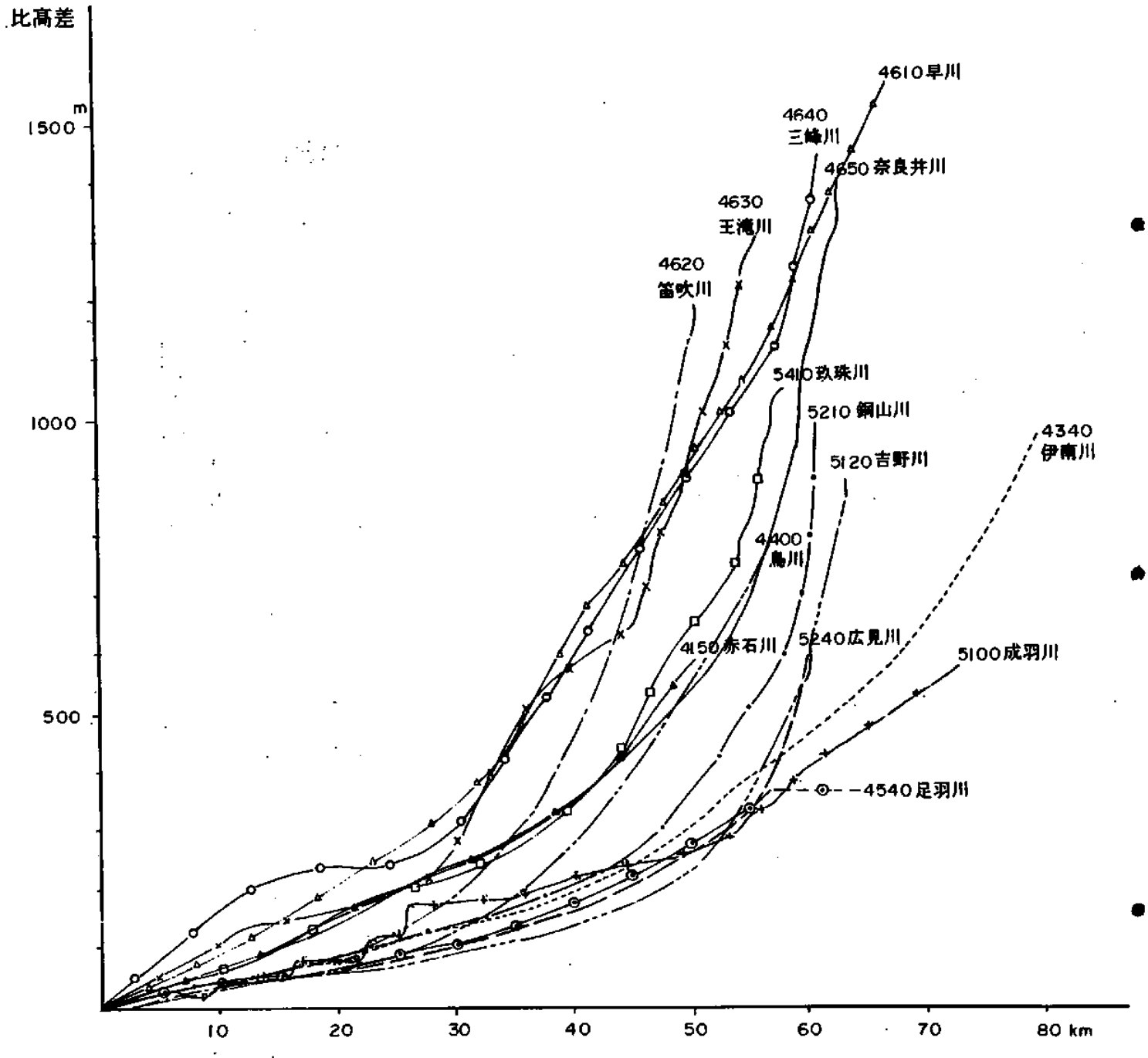
図Ⅲ－１－２(1) 河川縦断形状図（河川流路延長第１～15位）



図Ⅲ－１－２(2)　河川縦断形状図（河川流路延長第16～30位）



図Ⅲ－１－２(3)　河川縦断形状図（河川流路延長第31～44位）



図Ⅲ－１－２(4)　河川縦断形状図「勾配及び比高差が大きい河川」

河川流路上の湖沼（ダム・貯水池含む）は、調査対象の48河川において、81認められる。これらの湖沼の占める区間の総数は 308区間で、調査対象河川の総区間数 6,308区間の 4.9%に相当している。しかし、そのほとんどは人工湖沼であり、天然湖沼は4030美々川（北海道）において1湖沼（ウトナイ湖）がみられるのみである。

河川流路上湖沼の占有率が最も大きいのは4240粕毛川（秋田県）で、36.4%もの高率となっている。占有率が10%以上の河川は18河川である。

河川流路上湖沼の数が最も多いのは4710飛騨川（岐阜県）で、12湖沼となっている。この12湖の占める区間数の合計は23で、飛騨川の総区間数 137区間の16.8%になっている。次いで湖沼の多い河川は5010日高川（和歌山県）の5湖沼（19区間）で、総区間数 120区間の15.8%である。

河川流路上湖沼の占める区間数で大きいのは、飛騨川と5100成羽川（岡山・広島県）の23区間、日高川の19区間、4680揖斐川（三重・岐阜県）の18区間、5170錦川（山口県）の17区間、5210銅山川（徳島・愛媛県）の16区間、の順である。

表Ⅲ－1－7に、調査対象河川の総区間数に対して湖沼の占有する区間の率が大きい河川を掲げる。

表Ⅲ－1－7　湖沼の占有する区間が大きい河川〔占有率10%以上〕

河川コード		河川名	調査流路延長（km）	総区間数①	湖沼数	湖沼の占める区間数②	湖沼占有率 ②／①%
1	4240	粕毛川	21.5	22	1	8	36.4
2	5100	成羽川	73.7	75	4	23	30.7
3	4480	三面川	41.0	41	2	12	29.3
4	5210	銅山川	61.4	62	2	16	25.8
5	4630	王滝川	54.8	55	3	13	23.6
6	4030	美々川	18.2	19	2	4	21.1
7	4290	寒河江川	45.9	46	1	9	19.6
8	4810	宇連川	21.4	22	1	4	18.2
9	4180	和賀川	70.6	71	1	12	16.9
10	4710	飛騨川	137.0	137	12	23	16.8
11	4680	揖斐川	111.5	112	3	18	16.1
12	5010	日高川	119.2	120	5	19	15.8
13	5170	錦川	110.3	111	2	17	15.3
14	4560	犀川	34.0	34	2	5	14.7
15	4640	三峰川	61.3	62	2	9	14.5
16	4370	渡良瀬川	107.5	108	2	14	13.0
17	4530	利賀川	36.0	36	3	4	11.1
18	4930	市川	77.1	78	2	8	10.3

3－1　河川横断工作物

調査対象の 153河川における河川工作物の総計は、表Ⅲ－1－8に示すとおりである。

やはり「橋梁」が他に比較して圧倒的に多い。「橋梁」以外では「堰」が顕著で、次いで「床固」が 781箇所となっている。「ダム」は「水門」とともに、ほぼ1河川1箇所の平均的水準である。「閘門」は4380小貝川（茨城・栃木県）13箇所、4230江合川（宮城県）1箇所の2河川で報告されているのみで、きわめて少ない設置状況である。また、河川横断工作物が一つも報告されていない河川は、4250岩股川（秋田県）、4520長棟川（富山県）、5520仲間川（沖縄県）の3河川のみである。

表Ⅲ－1－8　調査対象河川の河川横断工作物集計

〔箇所数〕

河川総数	水　門	閘　門	橋　梁	ダ　ム	堰	床　固	その他	総　計
153	148	14	5,046	160	1,974	781	106	8,229

3－2　河川利水状況

調査対象の 153河川における河川利水状況を表Ⅲ－1－9 にまとめる。

調査対象河川の利水状況は、81％の河川で「農業用」取水をおこなっていることが顕著である。沖縄県と北海道で利水率が小さい傾向が認められること、本州における調査対象河川のほぼ半数で「発電用」利水がおこなわれている他には、特に顕著な傾向はない。全く利水の報告がない河川は、20河川である。

表Ⅲ－1－9　調査対象河川の河川利水状況集計

〔上段：河川数　下段：河川総数比％〕

〔河川数〕

水系群	河川総数	発電用	農業用	水産用	工業用	飲料用	その他
	153	63	124	17	34	67	20
	100.0	41.2	81.0	11.1	22.2	43.8	13.1
北海道－オホーツク海	1	0	0	0	0	0	0
北海道－日本海	4	1	3	1	1	2	1
北海道－太平洋／北	5	0	1	2	1	2	1
北海道－太平洋／中南	3	0	1	0	0	0	0
本　州－日本海	36	17	30	2	4	8	4
本　州－太平洋／中南	48	23	39	8	13	23	9
本　州－瀬戸内海	22	11	20	3	9	11	3
四　国－太平洋／中南	6	0	6	0	0	4	1
四　国－瀬戸内海	4	1	2	0	1	3	0
九　州－日本海	6	1	6	0	1	5	1
九　州－太平洋／中南	6	2	6	0	1	3	0
九　州－瀬戸内海	2	1	2	0	1	2	0
九　州－東シナ海	8	6	8	1	2	4	0
沖　縄－東シナ海	2	0	0	0	0	0	0

153の調査対象河川のうち、139河川で取水施設があることが報告されている。取水施設が全く報告されていない河川は14河川である。表Ⅲ－１－１０に、取水施設の存在率の高い河川を掲げる。

取水施設の存在率の高い河川は、大雑把な傾向として、西日本地方の河川、及び東北地方の稲作地域の河川である、ということができる。

また、取水施設の設置が全く報告されていない河川では、比較的人口密度が小さい日本の南北端の北海道と沖縄県南西諸島にその多くがみられる。

表Ⅲ－１－１０　取水施設の存在率の高い河川（区間率50%以上）

河川コード	河川名	調査流路延長km	総区間数A	取水施設のある区間数B	区間率 B／A%	水系群名	都道府県
1. 5140	黒瀬川	44.6	45	41	91.1	本州－瀬戸内海	広島県
2. 5160	御調川	32.2	33	29	87.9	本州－瀬戸内海	広島県
3. 5150	三篠川	43.4	44	38	86.4	本州－瀬戸内海	広島県
4. 5310	釣川	16.8	17	14	82.4	九州－日本海	福岡県
5. 4310	角川	13.8	14	11	78.6	本州－日本海	山形県
6. 4910	水無瀬川	4.0	4	3	75.0	本州－瀬戸内海	大阪府
5350	川棚川	19.9	20	15	75.0	九州－日本海	長崎県
8. 5300	今川	40.6	41	28	68.3	九州－瀬戸内海	福岡県
9. 4470	金目川	19.5	20	13	65.0	本州－太平洋／中南	神奈川県
10. 4280	最上小国川	37.0	37	24	64.9	本州－日本海	山形県
11. 4800	乙川	34.0	34	22	64.7	本州－太平洋／中南	愛知県
12. 4190	気仙川	38.6	39	25	64.1	本州－太平洋／中南	岩手県
13. 5090	砂川	36.3	37	23	62.2	本州－瀬戸内海	岡山県
14. 4730	青野川	17.2	18	11	61.1	本州－太平洋／中南	静岡県
15. 5110	宇甘川	37.8	38	23	60.5	本州－瀬戸内海	岡山県
16. 4820	五十鈴川	8.4	9	5	55.6	本州－太平洋／中南	三重県
17. 4900	芥川	22.0	22	12	54.5	本州－瀬戸内海	大阪・京都府
18. 5120	吉野川	66.0	66	34	51.5	本州－瀬戸内海	岡山県
19. 4210	白石川	69.7	70	35	50.0	本州－太平洋／中南	宮城県
4840	滝川	5.5	6	3	50.0	本州－瀬戸内海	三重県
5340	徳須恵川	19.5	20	10	50.0	九州－日本海	佐賀県
5360	佐々川	21.5	22	11	50.0	九州－日本海	長崎県

5－1　ｐＨ（水素イオン濃度）

4250岩股川（秋田県）のpH 5.0、4480三面川（新潟県）のpH 6.4、以上の２箇所の測定値以外は、河川水質環境基準値「pH 6.5以上、pH 8.5以下」の範囲内の測定値が報告されている。

5－2　ＢＯＤ（生物化学的酸素要求量）

4400鳥川（群馬県）、4430一宮川（千葉県）、4440南浅川（東京都）、4450浅川（東京都）、4470金目川（神奈川県）、4490羽茂川（新潟県）、4500加治川（新潟県）、4510鯖石川（新潟県）、4570大聖寺川（石川県）、4770鵜戸川（愛知県）、4900芥川（大阪府報告）、4980竜田川（奈良県）、5070三刀屋川（島根県）、5090砂川（岡山県）、5140黒瀬川（広島県）、5490万之瀬川（鹿児島県）、以上の河川で 3.0mg／ℓ以上の値が報告されているが、その他の河川では、水質類型Ｂ以上のＢＯＤ基準（ 3.0mg／ℓ以下）を確保している。

5－3　ＳＳ（浮遊物質量）

4110西別川（北海道）、4130千歳川（北海道）、4230江合川（宮城県）、4380小貝川（栃木県報告）、4400鳥川（群馬県）、4430一宮川（千葉県）、4470金目川（神奈川県）、4510鯖石川（新潟県）、4550上庄川（富山県）、4760瀬戸川（静岡県）、4980竜田川（奈良県）、5140黒瀬川（広島県）、5320田手川（佐賀県）、以上の河川で25mg／ℓ以上の値が報告されているが、その他の河川では、水質類型Ｂ以上のＳＳ基準（25mg／ℓ以下）を確保している。

5－4　ＤＯ（溶存酸素量）

4430一宮川（千葉県）、4770鵜戸川（愛知県）、5510仲間川（沖縄県）、の３河川で5.0mg／ℓ以下の値を呈しているが、その他の河川では、水質類型Ｂ以上のＤＯ基準（ 5.0mg／ℓ以上）を確保している。

5－5　大腸菌群数

全ての河川で測定値が報告されてはいないが、水質類型Ｂ基準の5,000MPN／100mℓをはるかに越えた数値が報告されている。

5－6　環境基準類型

ＢＯＤを中心にみると全般的には良好な水質状況といえるが、大腸菌群数の値をみると類型ランクが低下する状況である。

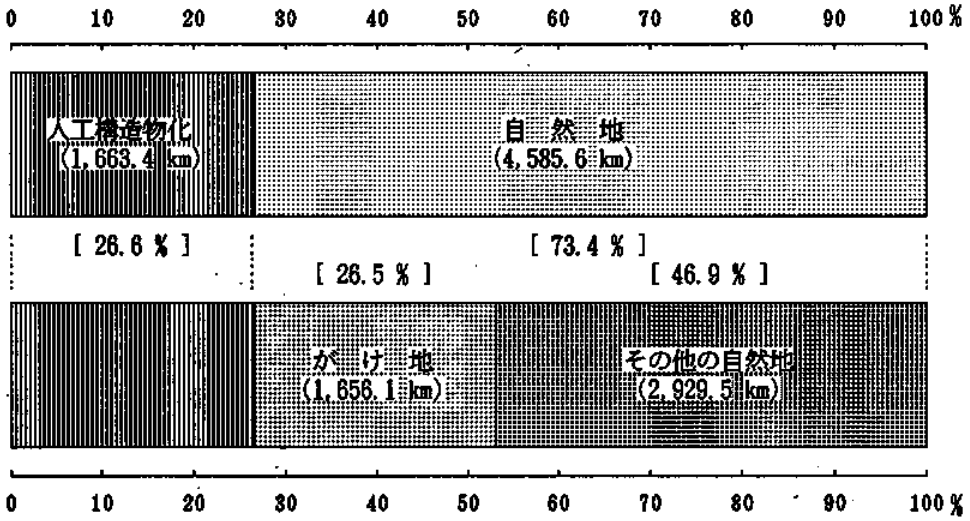
Ⅲ－２ 河川の改変等の状況 1. 河川の「水際線」状況

１－１ 水際線の全国改変状況

調査対象とした 153河川の水際線の改変状況区分別の累計は、がけ地が 1,656.1km、その他の自然地 2,929.5km、人工構造物化 1,663.4kmとなっている。 153河川の水際線総延長 6,249.0kmに対する比率は、がけ地26.5%、その他の自然地46.9%、人工構造物26.6%である。これによって、水際線の自然地（がけ地＋その他の自然地）率は、73.4%となっている（図Ⅲ－２－１）。

主要な一級河川を調査対象河川とした昭和60年度の第３回自然環境保全基礎調査の成果をみると、全ての河川の水際線の自然地率は78.6%となっているが、これと比較すると若干低い値となっている。ただし、この違いは、調査対象河川が異なること、調査時期に７ヵ年の隔たりがあることなどから、参考的な意味合いであることに注意を要する。

【 調査対象 153河川の総延長 6,249.0 km 】



(*) 水際線の改変状況のデータは、各区分ごと（１km／区分）に左右両岸を併せて取得したものである。

図Ⅲ－２－１ 水際線の改変状況〔全国〕

用語の定義４：「水際線とその改変状況区分等」

水際線の改変状況を下記のとおり区分し、各調査区間の両岸の合計延長の10分比を求めている。

- ○人工構造物化 ： 水際線がコンクリート護岸、石積護岸、矢板等の工作物で構成されている
- ○自然地
  - がけ地(傾30°以上、高さ3m以上の傾斜)
  - その他の自然地（がけ地以外）

} 水際線が上記の工作物で構成されていない

1－2　水際線の水系群別改変状況

水系群別の水際線改変状況は表Ⅲ－２－１のとおりである。

自然地率に注目してみると、「沖縄－東シナ海」水系群（２河川）でほぼ100％に近い。次いで、「北海道－太平洋／北」水系群、「四国－太平洋／中南」水系群、「北海道－太平洋／中南」水系群、「北海道－日本海」水系群の順で自然地率が大きい状況になっている。

表Ⅲ－２－１　水際線の水系群別改変状況

水系群	河川数	調査流路延長（km）	水際線の改変状況〔上段：km　下段：％〕		
			人工構造物化	自然地	
				がけ地	その他自然地
北海道－オホーツク海	1	63.5	26.8 42.2	1.1 1.7	35.6 56.1
北海道－日本海	4	167.6	21.5 12.8	55.9 33.4	90.2 53.8
北海道－太平洋／北	5	388.5	7.5 1.9	62.6 16.1	318.4 82.0
北海道－太平洋／中南	3	79.9	8.0 10.0	22.9 28.7	49.0 61.3
本州－日本海	36	1,202.7	332.6 27.7	328.6 27.3	541.5 45.0
本州－太平洋／中南	48	2,372.8	568.5 24.0	752.1 31.7	1,052.2 44.3
本州－瀬戸内海	22	1,018.2	396.5 38.9	160.7 15.8	461.0 45.3
四国－太平洋／中南	6	196.8	19.1 9.7	74.9 38.1	102.8 52.2
四国－瀬戸内海	4	169.6	54.0 31.8	65.0 38.3	50.6 29.8
九州－日本海	6	116.0	71.9 62.0	7.1 6.1	37.0 31.9
九州－太平洋／中南	6	177.6	64.8 36.5	50.7 28.5	62.1 35.0
九州－瀬戸内海	2	54.6	14.4 26.4	13.6 24.9	26.6 48.7
九州－東シナ海	8	225.2	77.7 34.5	60.5 26.9	87.0 38.6
沖縄－東シナ海	2	16.0	0.1 0.6	0.4 2.5	15.5 96.9
全国	153	6,249.0	1,663.4 26.6	1,656.1 26.5	2,929.5 46.9

人工構造物化の面でみると、比較的高い値を呈しているのは、北海道のオホーツク海側、本州と四国の瀬戸内海側、九州の日本海側から東シナ海側と太平洋側、これらの水系群の河川である。

以上の現況を第3回調査河川の水系群と比較してみる（表Ⅲ－2－2）と、自然地率が高い水系群は第3回調査のそれと同じ傾向（およそ70%以上）ということができる。人工構造物化の面では、本州と四国の瀬戸内海側と九州の東シナ海の河川は同傾向（およそ60～70%）であるが、北海道のオホーツク海側、九州の日本海及び太平洋側の河川においては、大きく人工構造物化の率が増えている(18.0～31.2ポイント）傾向となっている。

表Ⅲ－2－2　第4回調査河川と第3回調査河川の水系群別水際線自然地率比較

〔参考〕

水系群	第4回調査（1992年）：今回			第3回調査（1985年）		
	河川数	調査流路延長（km）	水際線の自然地率%	河川数	調査流路延長（km）	水際線の自然地率%
北海道－オホーツク海	1	63.5	57.8	4	325.0	89.0
北海道－日本海	4	167.6	87.2	5	683.0	84.6
北海道－太平洋／北	5	388.5	98.1	2	264.0	80.1
北海道－太平洋／中南	3	79.9	90.0	2	224.0	90.8
本州－日本海	36	1,202.7	72.3	29	2,957.0	78.2
本州－太平洋／中南	48	2,372.8	76.0	31	3,738.0	79.9
本州－瀬戸内海	22	1,018.2	61.1	11	983.0	67.7
四国－太平洋／中南	6	196.8	90.3	5	674.0	89.6
四国－瀬戸内海	4	169.6	68.2	3	154.0	58.0
九州－日本海	6	116.0	38.0	1	58.0	56.0
九州－太平洋／中南	6	177.6	63.5	4	304.0	82.6
九州－瀬戸内海	2	54.6	73.6	4	245.0	81.3
九州－東シナ海	8	225.2	65.5	11	785.0	67.4
沖縄－東シナ海	2	16.0	99.4	1	18.0	100.0
全国	153	6,249.0	73.4	113	11,412.0	78.6

（注）1．第3回調査と第4回調査の調査対象河川は異なる。
2．第3回調査と第4回調査の間には7ヶ年の乖離がある。

ただし、これらの比較では、調査対象河川、調査年、河川数、の違いが前提にあることに留意しておく必要がある。（※この前提留意は以下も同じ）

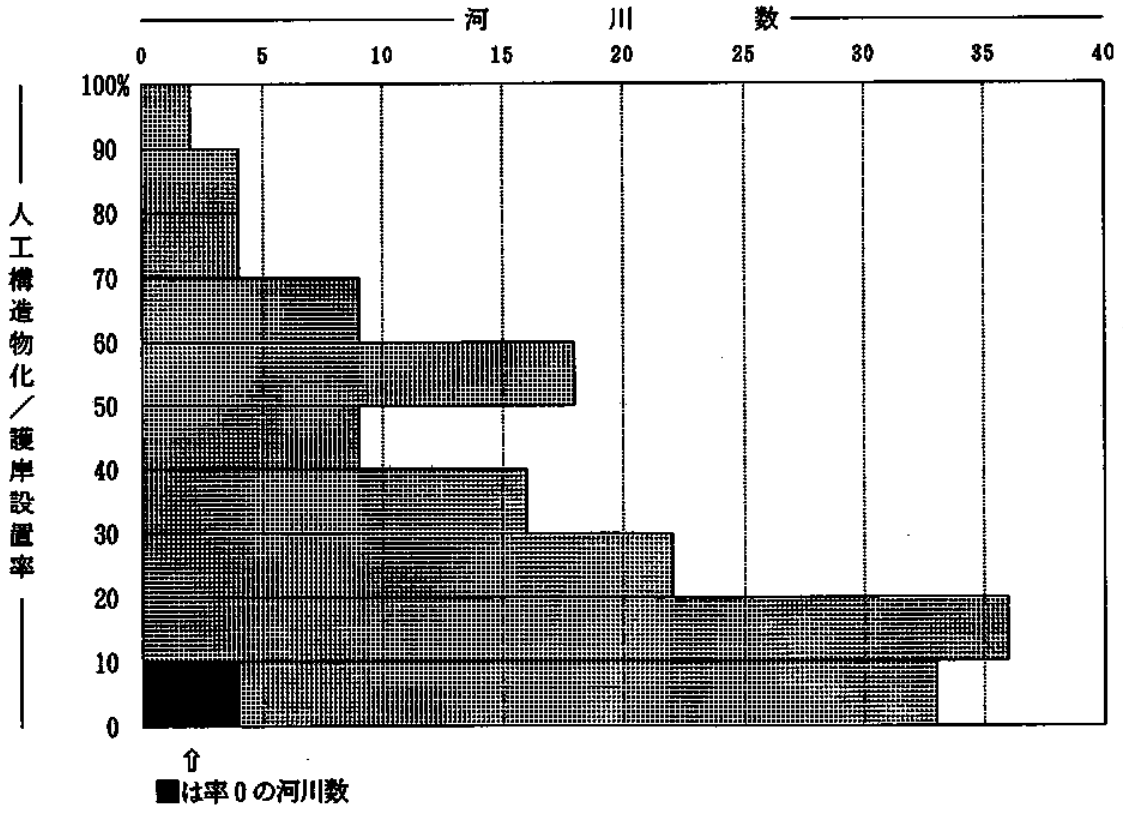
1－3　水際線の改変状況（護岸設置及び未設置）

調査対象の 153河川全体の水際線の自然地率は73.4%、人工構造物化（護岸設置）率は26.6%であるが、調査対象河川を個別にみたときの自然地率の階級区分の内訳は図Ⅲ－2－2に掲げるとおりである。

153河川の中で、人工構造物化（護岸設置）率が10%以上20%未満の河川が36河川で最も多い、次いで、0%以上10%未満の河川が33河川、20%以上30%未満の河川が22河川となっており、30%未満の河川の計は91河川と調査対象河川全体の59%となっている。

また、水際線が全く人工構造物化されていない河川は、次に掲げる4河川となっている。

4050別寒辺川（北海道）、4520長棟川（富山県）、5030小鹿川（鳥取県）、5520仲良川（沖縄県）



図Ⅲ－2－2　水際線の改変状況(人工構造物化／護岸設置)率階級区分別河川数

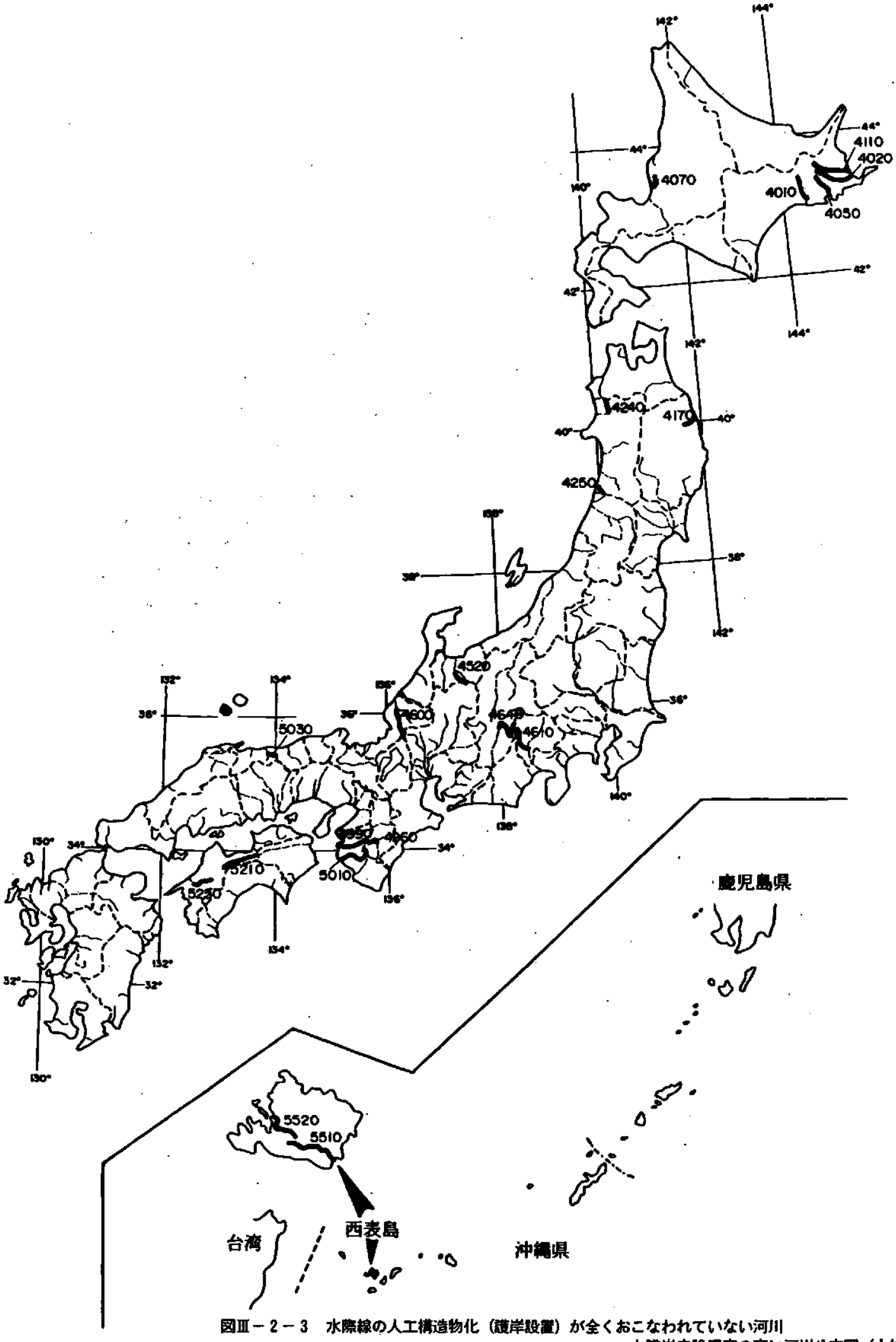
先に掲げた「護岸が全く設置されていない」4河川とともに、護岸未設置率の高い河川を表Ⅲ－2－3に掲げる。

抽出された20河川について水系群別にみると、太平洋に係わる河川が9河川、日本海に係わる河川が6河川、瀬戸内海に係わる河川が3河川、東シナ海に係わる河川が2河川となっている。また、地域別では、北海道（特に東部）、秋田県、和歌山県、愛媛県、沖縄県で複数の河川が抽出されている（図Ⅲ－2－3）。これらの河川分布域は総じて人口過疎地域であるともいえるが、他の河川でも同様の状況のものもあるので、人口過疎と護岸未設置率の間には直接的な相関があるとは断定できない。

次に、水際線の人工構造物化（護岸設置）率の高い河川（50%以上）を表Ⅲ－2－4に示す。

表Ⅲ－2－3　水際線の人工構造物化（護岸設置）が全くおこなわれていない河川と護岸未設置率の高い河川　上位20

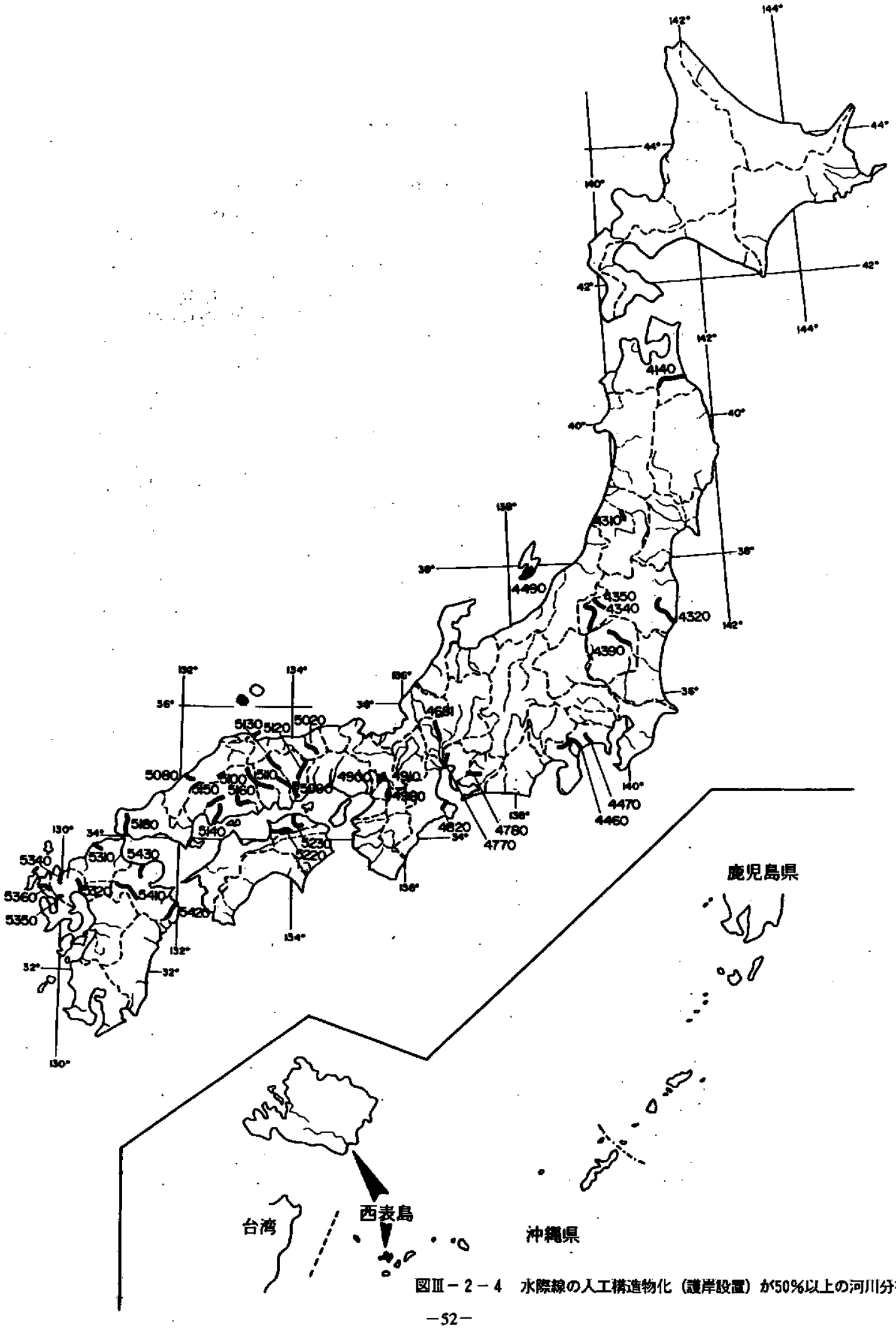
	河川コード	河川名	調査流路延長km(A)	護岸未設置の延長km(B)	護岸未設置率 B／A%	水系群名	都道府県
1.	4050	別寒辺牛川	55.9	55.9	100.0	北海道－太平洋／北	北海道
	4520	長棟川	19.0	19.0	100.0	本州－日本海	富山県
	5030	小鹿川	12.0	12.0	100.0	本州－日本海	鳥取県
	5520	仲良川	7.0	7.0	100.0	沖縄－東シナ海	沖縄県
5.	4020	風蓮川	99.5	99.2	99.7	北海道－太平洋／北	北海道
6.	4110	西別川	109.7	108.5	98.9	北海道－太平洋／北	北海道
	5510	仲間川	9.0	8.9	98.9	沖縄－東シナ海	沖縄県
8.	5210	銅山川	61.4	60.2	98.0	四国－瀬戸内海	徳島・愛媛県
9.	4170	安家川	28.7	28.1	97.9	本州－太平洋／中南	岩手県
10.	4250	岩股川	4.5	4.4	97.8	本州－日本海	秋田県
11.	4070	厚田川	32.0	31.1	97.2	北海道－日本海	北海道
12.	5010	日高川	119.2	115.7	97.1	本州－太平洋／中南	和歌山県
13.	4010	雪裡川	58.6	56.8	96.9	北海道－太平洋／北	北海道
14.	4600	日野川	60.0	58.1	96.8	本州－日本海	福井県
15.	4610	早川	66.1	63.7	96.4	本州－太平洋／中南	山梨県
16.	4960	川原樋川	27.5	26.4	96.0	本州－太平洋／中南	奈良県
17.	5250	小田川	38.7	37.1	95.9	四国－瀬戸内海	愛媛県
18.	4640	三峰川	61.3	58.8	95.9	本州－太平洋／中南	長野県
19.	4240	粕毛川	21.5	20.4	94.9	本州－日本海	秋田県
20.	4990	有田川	103.0	97.6	94.8	本州－瀬戸内海	和歌山県



図Ⅲ－２－３　水際線の人工構造物化（護岸設置）が全くおこなわれていない河川と護岸未設置率の高い河川分布図（上位20）

表Ⅲ－２－４　水際線の人工構造物化（護岸設置）が50％以上の河川

	河川コード	河川名	調査流路延長km(A)	護岸設置の延長km(B)	護岸設置率 B／A%	水系群名	都道府県
1.	5020	八東川	32.0	30.4	95.0	本州－日本海	鳥取県
2.	5160	御調川	32.2	29.3	91.0	本州－瀬戸内海	広島県
3.	4980	竜田川	15.0	13.2	88.0	本州－瀬戸内海	奈良県
4.	5360	佐々川	21.5	18.1	84.2	九州－日本海	長崎県
5.	5350	川棚川	19.9	16.5	82.9	九州－日本海	長崎県
6.	5230	香東川	37.0	30.6	82.7	四国－瀬戸内海	香川県
7.	5150	三篠川	43.4	31.6	72.8	本州－瀬戸内海	広島県
8.	4820	五十鈴川	8.4	6.1	72.6	本州－太平洋／中南	三重県
9.	4470	金目川	19.5	13.9	71.3	本州－太平洋／中南	神奈川県
10.	5340	徳須恵川	19.5	13.8	70.8	九州－日本海	佐賀県
11.	5120	吉野川	66.0	46.0	69.7	本州－瀬戸内海	岡山県
12.	4460	酒匂川・鮎沢川	42.9	29.7	69.2	本州－太平洋／中南	神奈川・静岡県
13.	4770	鵜戸川	11.2	7.4	66.1	本州－太平洋／中南	愛知県
14.	4900	芥川	22.0	14.2	64.5	本州－瀬戸内海	大阪・京都府
15.	4390	箒川	49.5	31.7	64.0	本州－太平洋／中南	栃木県
16.	5220	財田川	32.5	20.6	63.4	四国－瀬戸内海	香川県
17.	4910	水無瀬川	4.0	2.5	62.5	本州－瀬戸内海	大阪府
18.	5420	堅田川	26.0	15.7	60.4	九州－太平洋／中南	大分県
19.	4310	角川	13.8	8.3	60.1	本州－日本海	山形県
20.	5110	宇甘川	37.8	22.3	59.0	本州－瀬戸内海	岡山県
21.	5080	下府川	21.0	11.9	56.7	本州－日本海	島根県
22.	4350	野尻川	38.0	21.3	56.1	本州－日本海	福島県
23.	5180	木屋川	43.7	24.4	55.8	本州－瀬戸内海	山口県
24.	4681	根尾川	55.0	29.8	54.2	本州－太平洋／中南	岐阜県
25.	4490	羽茂川	20.0	10.8	54.0	本州－日本海	新潟県
26.	4140	相坂川	63.7	34.2	53.7	本州－太平洋／中南	青森県
27.	5430	駅館川	14.0	7.5	53.6	九州－瀬戸内海	大分県
28.	5100	成羽川	73.7	39.3	53.3	本州－瀬戸内海	岡山・広島県
29.	5090	砂川	36.3	18.7	51.5	本州－瀬戸内海	岡山県
30.	4320	夏井川	67.1	34.1	50.8	本州－太平洋／中南	福島県
	5410	玖珠川	57.3	29.1	50.8	九州－東シナ海	大分県
32.	4340	伊南川	80.2	40.6	50.6	本州－日本海	福島県
	5310	釣川	16.8	8.5	50.6	九州－日本海	福岡県
34.	5140	黒瀬川	44.6	22.5	50.4	本州－瀬戸内海	広島県
35.	5320	田手川	20.3	10.2	50.2	九州－東シナ海	佐賀県
	4780	名倉川	20.5	10.3	50.2	本州－太平洋／中南	愛知県
37.	5130	新庄川	34.0	17.0	50.0	本州－瀬戸内海	岡山県



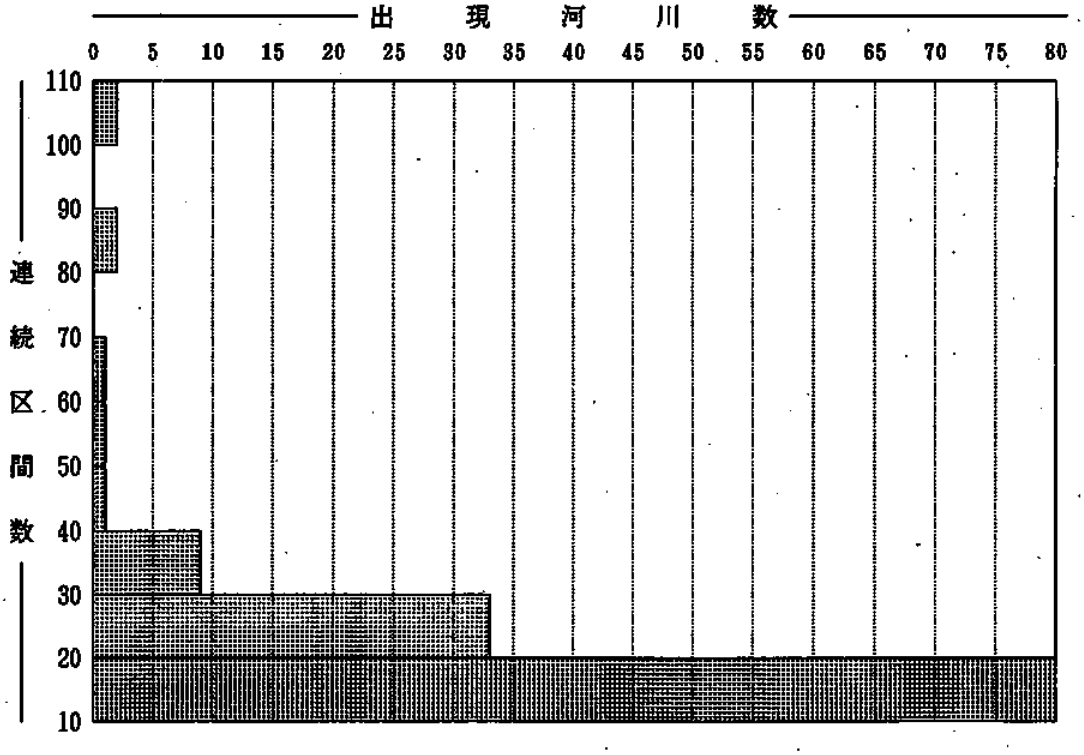
図Ⅲ－2－4　水際線の人工構造物化（護岸設置）が50%以上の河川分布図

該当河川は、調査対象河川 153河川の24％に相当する37河川であった。これらの水際線人工構造物化(護岸設置）率の高い（50％以上）河川の分布は、北海道では全くみられず、概して、瀬戸内海に係わる河川と北九州に多くみられる（図Ⅲ－２－４）。風水害水防の関係とも推察されるが、断定はできない。

１－４　連続する人工改変度の低い水際線

「連続する人工改変度の低い水際線」として、まず、「水際線の区間毎の自然地率が80％以上の区間が連続10区間以上（＝10km以上）のもの」を抽出した。

今回の調査対象の 153河川において、このような「連続する人工改変度の低い水際線」は 129区間帯あることがわかった。その区間帯の単位区間の連続数は、最大 109区間連続で5010日高川（和歌山県）でみられる。このような区間帯の単位区間の連続数規模によるその出現数を、図Ⅲ－２－５に示す。「連続する人工改変度の低い水際線」では、単位区間の連続が10～19区間であるものが圧倒的に多い状況にある。



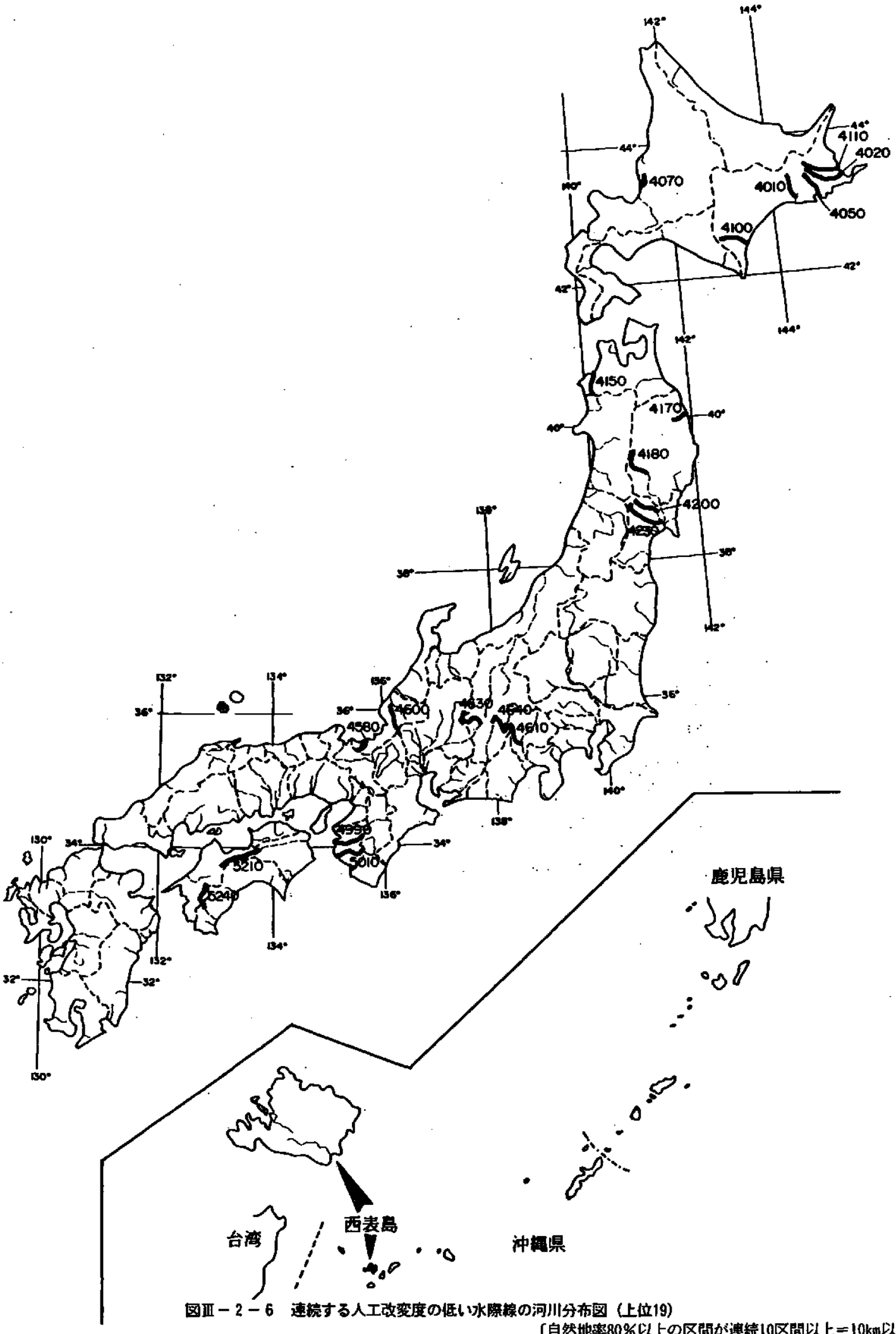
図Ⅲ－２－５「連続する人工改変度の低い水際線(自然地率80％以上)」の
連続区間規模別出現河川数

このような中で、「連続する人工改変度の低い水際線」の長い区間帯の上位を表Ⅲ－２－５に掲げる。これら上位の区間帯の分布を地域でみると、北海道、青森県、岩手県、宮城県、山梨県、長野県、福井県、和歌山県、徳島県、愛媛県、高知県に位置している。しかし、これらの分布は、北海道東部に代表されるように限定された地域に偏在している（図Ⅲ－２－６）。

これらの「連続する人工改変度の低い水際線」の長い区間帯の上位について、その自然状況の内訳をみると、「がけ地」もしくは「その他（の自然地）」の区分において、特徴的傾向は認められない。

表Ⅲ－２－５　連続する人工改変度の低い水際線　上位19
〔自然地率80％以上の区間が連続10区間以上＝10km以上〕

	河川コード	河川名	調査流路延長km	総区間数	連続する人工改変度低い水際線 連続区間数	始	終	水系群名	都道府県
1.	5010	日高川	119.2	120	109	2	110	本州－太平洋／中南	和歌山県
2.	4020	風蓮川	99.5	100	100	1	100	北海道－太平洋／北	北海道
3.	4990	有田川	103.0	103	88	12	99	本州－瀬戸内海	和歌山県
4.	4110	西別川	109.7	110	87	24	110	北海道－太平洋／北	北海道
5.	5210	銅山川	61.4	62	61	2	62	四国－瀬戸内海	徳島・愛媛県
6.	4050	別寒辺牛川	55.9	56	56	1	56	北海道－太平洋／北	北海道
7.	4100	歴舟川	64.7	65	49	17	65	北海道－太平洋／北	北海道
8.	4150	赤石川	50.2	51	36	16	51	本州－日本海	青森県
	4640	三峰川	61.3	62	36	27	62	本州－太平洋／中南	長野県
10.	4180	和賀川	70.6	71	35	27	61	本州－太平洋／中南	岩手県
	4200	追川	87.4	88	35	32	66	本州－太平洋／中南	宮城県
12.	4230	江合川	92.0	92	33	19	51	本州－太平洋／中南	宮城県
13.	4630	王滝川	54.8	55	32	24	55	本州－太平洋／中南	長野県
14.	4070	厚田川	32.0	32	31	2	32	北海道－日本海	北海道
	4600	日野川	60.0	60	31	23	53	本州－日本海	福井県
16.	4010	雪裡川	58.6	59	30	30	59	北海道－太平洋／北	北海道
17.	4170	安家川	28.7	29	29	1	29	本州－太平洋／中南	岩手県
18.	5240	広見川	60.4	61	27	35	61	四国－太平洋／中南	高知・愛媛県
19.	4010	雪裡川	58.6	59	26	1	26	北海道－太平洋／北	北海道
	4580	南川	33.0	33	26	6	31	本州－日本海	福井県
	4610	早川	66.1	67	26	42	67	本州－太平洋／中南	山梨県
	5240	広見川	60.4	61	26	1	26	四国－太平洋／中南	高知・愛媛県

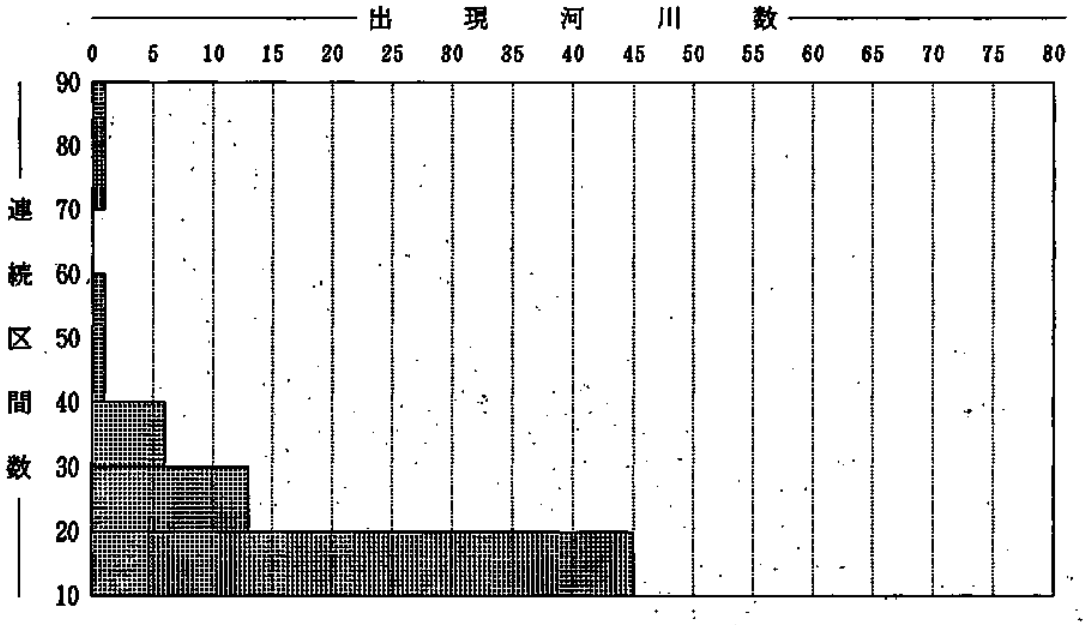


図Ⅲ－２－６　連続する人工改変度の低い水際線の河川分布図（上位19）
〔自然地率80％以上の区間が連続10区間以上＝10km以上〕

次に、「連続する人工改変度の低い水際線」として、「水際線の区間毎の自然地率が 100％の区間が連続10区間以上（＝10㎞以上）のもの」を抽出した。

今回の調査対象の 153河川において、このような「連続する人工改変度の低い水際線」は68区間帯あることがわかった。

この単位区間の連続性の規模をみると、最大は87区間の連続で4110西別川（北海道）でみられる。また、その規模別の出現頻度をみると、単位区間の連続が10～19のものが45区間帯と他に比較して最も多く、それより規模が大きいものは少ない出現状況となっている（図Ⅲ－２－７）。



図Ⅲ－２－７　連続する人工改変度の低い水際線（自然地率100％）の
連続区間規模別出現河川数

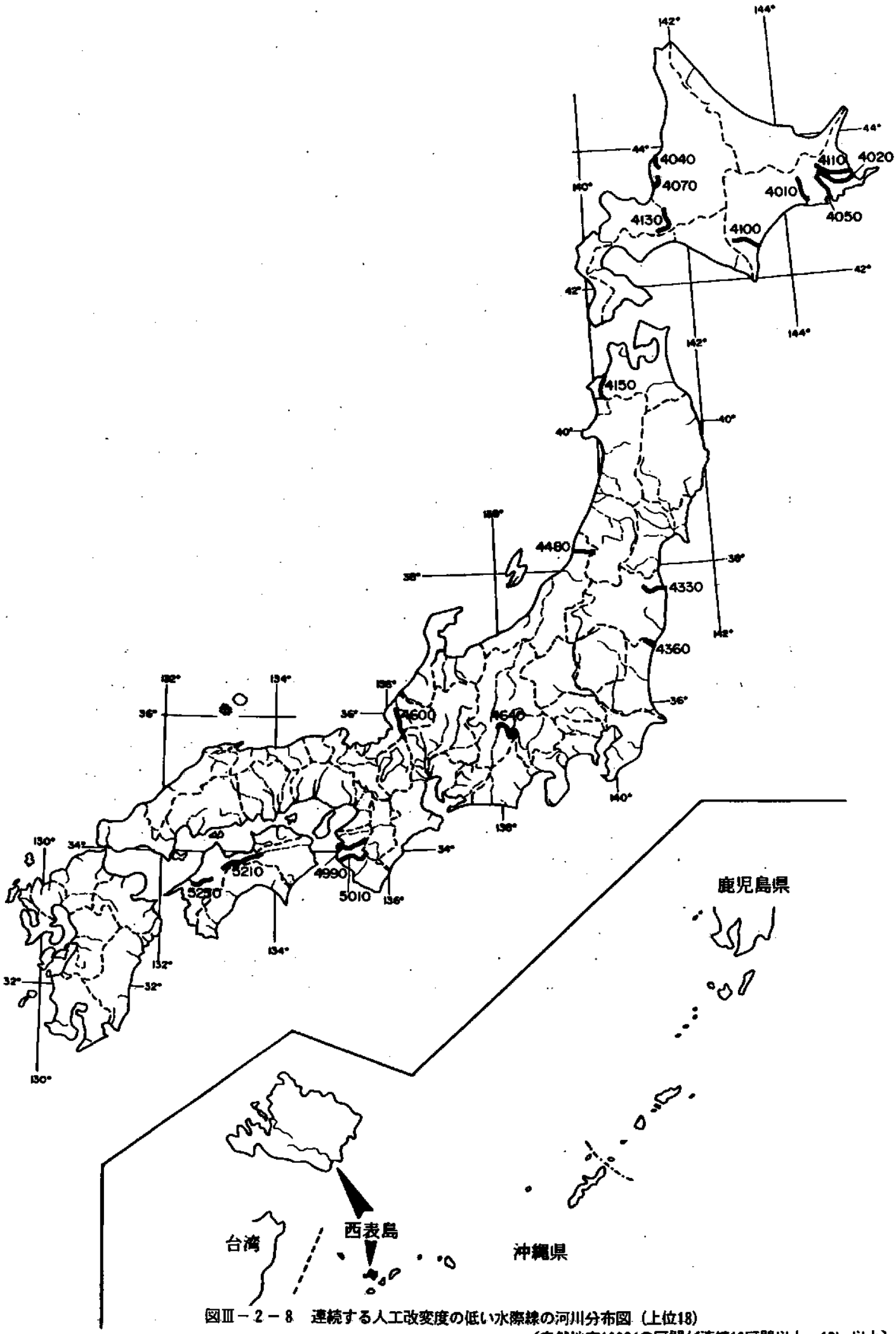
「連続する人工改変度の低い水際線（自然地率 100％）」の長い区間帯の上位を表Ⅲ－２－６に掲げる。抽出された区間帯の分布地域は、図Ⅲ－２－８にみるように、北海道、青森県、福島県、茨城県、新潟県、長野県、福井県、和歌山県、徳島県、愛媛県であり；中国及び九州地域の河川では認められない。

これらの「連続する人工改変度が低い水際線（自然地率 100％）」の長い区間帯を有する上位河川の水際線の改変状況内訳は、大部分が「がけ地」あるいは「その他の自然地（がけ地でない）」のどちらかの連続であるといった明確な特徴的傾向が一部の河川ではみられるものの、全体としては「がけ地」と「その他の自然地」が規則性のない混合した連続となっている。

表Ⅲ－２－６　連続する人工改変度の低い水際線　上位18

〔自然地率 100％の区間が連続10区間以上＝10km以上〕

	河川コード	河川名	調査流路延長km	総区間数	連続する人工改変度低い水際線 連続区間数	始	終	水系群名	都道府県
1.	4110	西別川	109.7	110	87	24	110	北海道－太平洋／北	北海道
2.	4020	風蓮川	99.5	100	72	1	72	北海道－太平洋／北	北海道
3.	4050	別寒辺牛川	55.9	56	56	1	56	北海道－太平洋／北	北海道
4.	4990	有田川	103.0	103	46	54	99	本州－瀬戸内海	和歌山県
5.	4100	歴舟川	64.7	65	35	31	65	北海道－太平洋／北	北海道
	4150	赤石川	50.2	51	35	17	51	本州－日本海	青森県
	4640	三峰川	61.3	62	35	28	62	本州－太平洋／中南	長野県
	5210	銅山川	61.4	62	35	21	55	四国－瀬戸内海	徳島・愛媛県
9.	4070	厚田川	32.0	32	31	2	32	北海道－日本海	北海道
10.	5010	日高川	119.2	120	30	60	89	本州－太平洋／中南	和歌山県
11.	4020	風蓮川	99.5	100	26	75	100	北海道－太平洋／北	北海道
12.	5250	小田川	38.7	39	25	15	39	四国－瀬戸内海	愛媛県
13.	4330	新田川	62.9	63	24	20	43	本州－太平洋／中南	福島県
	4600	日野川	60.0	60	24	24	47	本州－日本海	福井県
15.	4130	千歳川	69.2	70	23	48	70	北海道－日本海	北海道
16.	4010	雪裡川	58.6	59	22	2	23	北海道－太平洋／北	北海道
	4360	大北川	29.2	30	22	9	30	本州－太平洋／中南	茨城県
18.	4010	雪裡川	58.6	59	21	39	59	北海道－太平洋／北	北海道
	4040	暑寒別川	26.0	26	21	6	26	北海道－日本海	北海道
	4480	三面川	41.0	42	21	22	42	本州－日本海	新潟県

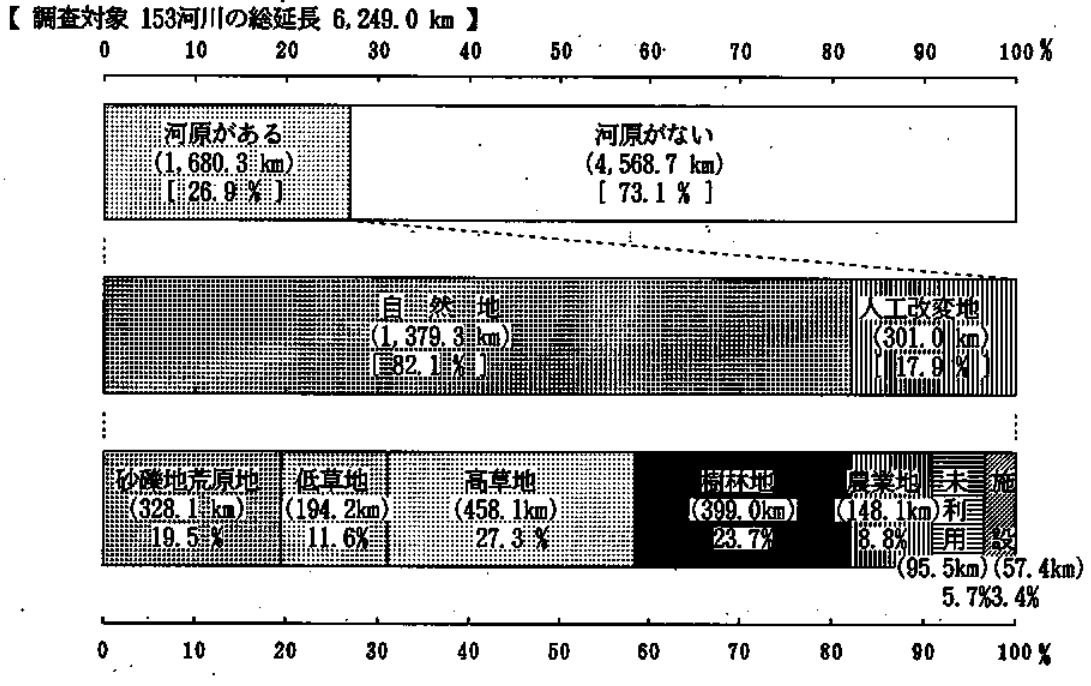


図Ⅲ－2－8　連続する人工改変度の低い水際線の河川分布図（上位18）
〔自然地率100%の区間が連続10区間以上＝10km以上〕

2－1　河原の土地利用の全国状況

調査対象とした 153河川の調査流路総延長は 6,249.0kmであるが、河原（幅100m以上）の総延長は 1,680.3kmである。調査流路総延長に対する河原の存在率は26.9%となっている。また、調査対象河川の総区間数は 6,307区間であるが、河原の存在する区間は 1,685区間で、その存在率は26.7%となっている（図Ⅲ－2－9）。

河原についてその土地利用の内訳をみてみると、自然地 1,379.3km(82.1%) 、人工改変地 301.0km



図Ⅲ－2－9　河原の存在とその土地利用状況〔全国〕

用語の定義5：「河原とその土地利用区分」等

1．河原の土地利用状況を下記のとおり区分し、各調査区間毎の合計面積の10分比を求めている。

2．河原の幅が100m未満の場合は、土地利用状況調査を実施していない。

(1)自　然　地 …… ①砂礫地or荒原地　②背丈の低い草地　③背丈の高い草地　④樹林地

(2)農　業　地

(3)未利用造成地 …… 河川改修等に伴い高水敷が造成されているが、(4)や(2)の利用はない。

(4)施設的土地利用用地 … 自動車教習所、ゴルフ場、公園、広場等の土地利用。宅地等含む。

(17.9%) となっており、自然地が圧倒的に多い。

このような状況は、河原の場合、河畔とは異なり、洪水浸水等の危険性が潜在すること等もあって、比較的人工的改変の手が入りにくい結果と考えられる。

河原の人工改変状況をみてみると、農業地の土地利用が約9%と最も多い。これも、同様に潜在的な洪水浸水の危険性があることによるものと思われる。しかし、河川敷の農業地以外の人工改変土地利用は皆無ではなく、未利用造成地が約6%、施設的土地利用が約3%存在している。

自然地の内訳は、砂礫地・荒原地 328.1km (19.5%)、低草地 194.2km (11.6%)、高草地 458.1km (27.3%)、樹林地 399.0km (23.7%) である。高草地と樹林地の比率が相対的に大きいことから、安定した河原が多いことがうかがえる。

人工改変地の内訳は、農業地 148.1km (8.8%)、未利用造成地95.5km (5.7%)、施設的土地利用地57.4km (3.4%) となっている。

今回の結果を第3回調査 (一級河川幹川) の結果と比較してみると、河原の存在率は第3回調査の44.3%より大幅に低下している。しかし、その内訳は、自然地及び農業地の占有率では今回調査の方が大きく、未利用造成地と施設的利用地が小さい結果となっている。

2－2　河原の水系群別改変状況 (土地利用)

水系群別の河原の改変状況 (土地利用状況) は表Ⅲ－2－7に掲げるとおりである。

(1) 河原の存在率

水系群別の河原の存在状況は、水系群によって大きく異なっている。「沖縄－東シナ海」水系群、「北海道－太平洋／北」水系群に属する河川では調査流路のほとんどに河原が存在するが、その他の水系群における河川の河原存在率は、かなり小さくなっている。概して、北海道と沖縄県における河川の河原存在率は高く40%～ 100%であるが、本州・四国・九州に分布する河川の河原存在率は40%以下0%までになっている。

(2) 河原の改変状況

自然地率に注目してみると、「沖縄－東シナ海」水系群 (2河川) と「九州－東シナ海」水系群 (8河川) で 100%である。次いで、「北海道－太平洋／北」水系群 (97%)、「四国－太平洋／中南」水系群 (92%)、「本州－瀬戸内海」水系群 (86%)、「北海道－太平洋／中南」水系群 (82%) の順で自然地率が大きい状況になっている。

人工改変状況の観点から水系群別にみると、農業地土地利用は、「北海道－オホーツク海」水系群 (38%)、「北海道－日本海」水系群 (18%) に属する河川の河原で顕著である。未利用造成地と施設的土地利用では、「北海道－日本海」水系群、「四国－瀬戸内海」水系群に属する河川の河原で大きい占有率を示している。

表Ⅲ－２－７　河原の水系群別改変状況（土地利用状況）

水系群	河川数	調査流路延長 A (km)	河原総延長 B 上：km 下：A比%	河原の土地利用 〔上段：km　中段：A比%　下段：B比%〕			
				自然地	人工改変地 農業地	未利用地	造成地	施設的利用地
北海道－オホーツク海	1	63.5	28.0 44.1	17.3 27.2 61.8	10.7 16.9 38.2	— — —	— — —
北海道－日本海	4	167.6	110.2 65.8	52.1 31.1 47.3	19.6 11.7 17.8	34.9 20.8 31.7	3.6 2.1 3.3
北海道－太平洋／北	5	388.5	358.8 92.4	349.0 89.8 97.3	9.0 2.3 2.5	— — —	0.8 0.2 0.2
北海道－太平洋／中南	3	79.9	35.1 43.9	28.9 36.2 82.3	4.4 5.5 12.5	1.1 1.4 3.1	0.7 0.9 2.0
本州－日本海	36	1,202.7	119.0 9.9	95.4 7.9 80.1	12.3 1.0 10.3	7.5 0.6 6.3	3.8 0.3 3.2
本州－太平洋／中南	48	2,372.8	812.2 34.2	656.6 27.7 80.8	81.0 3.4 10.0	43.2 1.8 5.3	31.4 1.3 3.9
本州－瀬戸内海	22	1,018.2	86.0 8.4	73.6 7.2 85.6	5.4 0.5 6.3	1.0 0.1 1.2	6.0 0.6 7.0
四国－太平洋／中南	6	196.8	23.0 11.7	21.2 10.8 92.2	1.2 0.6 5.2	— — —	0.6 0.3 2.6
四国－瀬戸内海	4	169.6	32.0 18.9	18.8 11.1 58.8	— — —	5.1 3.0 15.9	8.1 4.8 25.3
九州－日本海	6	116.0	0.0 0.0	— — —	— — —	— — —	— — —
九州－太平洋／中南	6	177.6	53.0 29.8	43.4 24.4 81.9	4.5 2.5 8.5	2.7 1.5 5.1	2.4 1.4 4.5
九州－瀬戸内海	2	54.6	0.0 0.0	— — —	— — —	— — —	— — —
九州－東シナ海	8	225.2	7.0 3.1	7.0 3.1 100.0	— — —	— — —	— — —
沖縄－東シナ海	2	16.0	16.0 100.0	16.0 100.0 100.0	— — —	— — —	— — —
全国	153	6,249.0	1,680.3 26.9	1,379.3 22.1 82.1	148.1 2.4 8.8	95.5 1.5 5.7	57.4 0.9 3.4

今回の調査対象河川の幹川あるいは上位の河川を対象とした第３回自然環境保全基礎調査の結果と比較する（表Ⅲ－２－８）と、河原の存在率では、「北海道－太平洋／北」、「九州－太平洋／中南」、「沖縄－東シナ海」の３つの水系群では今回の調査河川が上回っているが、その他では大きく下回っている。

表Ⅲ－２－８　第４回調査河川と第３回調査河川の水系群別河原の存在率及び自然地率比較
（河原の自然地率は、上段：調査流路延長比　下段：河原延長比）

〔参考〕

水系群	第４回調査（1992年）：今回				第３回調査（1985年）			
	河川数	調査流路延長（km）	河原の存在率％	河原の自然地率％	河川数	調査流路延長（km）	河原の存在率％	河原の自然地率％
北海道－オホーツク海	1	63.5	44.1	27.2 61.8	4	325.0	57.5	31.8 55.5
北海道－日本海	4	167.6	65.8	31.1 47.3	5	683.0	72.5	52.9 73.0
北海道－太平洋／北	5	388.5	92.4	89.8 97.3	2	264.0	78.0	55.0 70.4
北海道－太平洋／中南	3	79.9	43.9	36.2 82.3	2	224.0	61.6	57.9 94.0
本州－日本海	36	1,202.7	9.9	7.9 80.1	29	2,957.0	42.5	32.3 75.9
本州－太平洋／中南	48	2,372.8	34.2	27.7 80.8	31	3,738.0	48.8	36.6 75.0
本州－瀬戸内海	22	1,018.2	8.4	7.2 85.6	11	983.0	31.3	24.8 79.4
四国－太平洋／中南	6	196.8	11.7	10.8 92.2	5	674.0	38.9	34.0 87.6
四国－瀬戸内海	4	169.6	18.9	11.1 58.8	3	154.0	33.8	26.1 73.1
九州－日本海	6	116.0	0.0	0.0 0.0	1	58.0	48.3	16.6 34.3
九州－太平洋／中南	6	177.6	29.8	24.4 81.9	4	304.0	23.0	16.9 73.3
九州－瀬戸内海	2	54.6	0.0	0.0 0.0	4	245.0	6.5	4.8 73.8
九州－東シナ海	8	225.2	3.1	3.1 100.0	11	785.0	26.9	18.8 70.0
沖縄－東シナ海	2	16.0	100.0	100.0 100.0	1	18.0	0.0	0.0 0.0
全国	153	6,249.0	26.9	22.1 82.1	113	11,412.0	44.3	33.3 75.1

（注）１．第３回調査と第４回調査の調査対象河川は異なる。
２．第３回調査と第４回調査の間には７ヵ年の乖離がある。

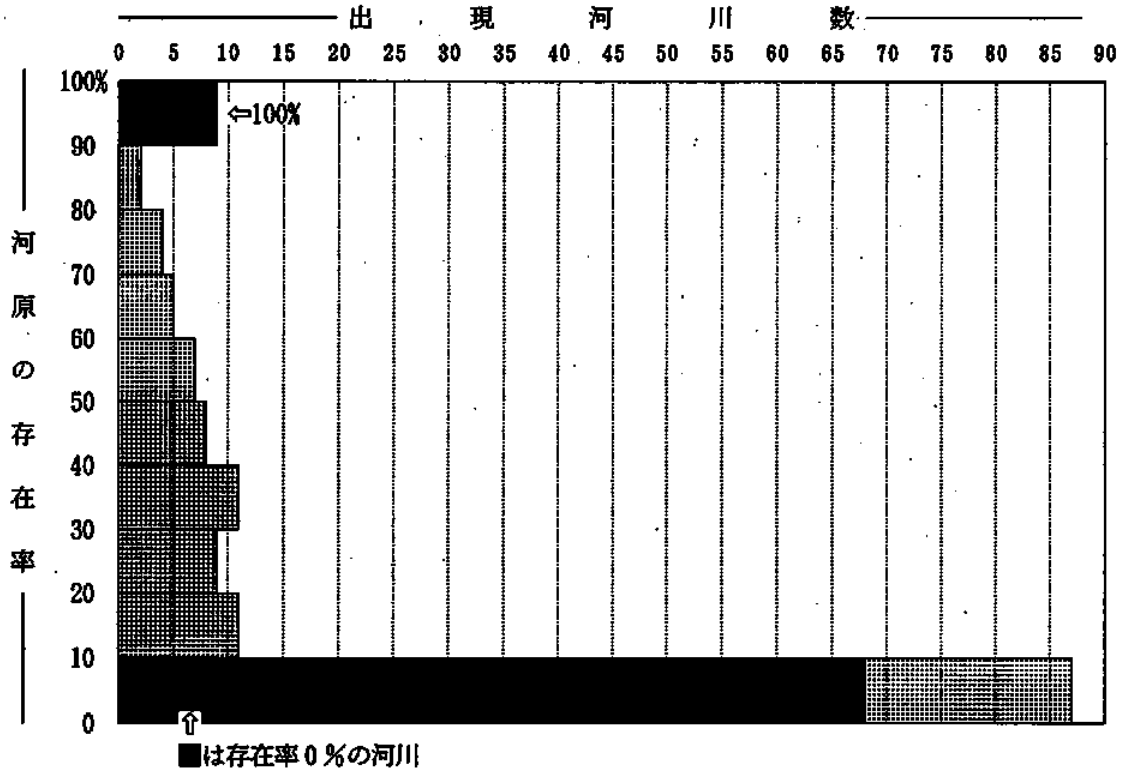
第３回自然環境保全基礎調査の河原の自然地率との比較をみると、今回の調査対象河川の河原の自然地率が大きく異なる水系群は次のとおりである。

○ 第４回調査河川の河原の自然地率が第３回のそれを大きく上回っている水系群
・北海道－太平洋／北(+26.9ポイント)　　・九州－東シナ海(+30.0ポイント)
○ 第４回調査河川の河原の自然地率が第３回のそれを大きく下回っている水系群
・北海道－日本海(-25.7ポイント)　・北海道－太平洋／中南(-11.7ポイント)　・四国－瀬戸内海(-14.3ポイント)

２－３　河原の存在状況と改変状況（土地利用状況）

(1) 河原の存在状況

調査対象河川を個別にみたときの河原存在率の階級区分内訳を、図Ⅲ－２－１０に掲げる。
河原がある河川は85河川で、河原の存在率が50％以上の河川は27河川である（表Ⅲ－２－９）。



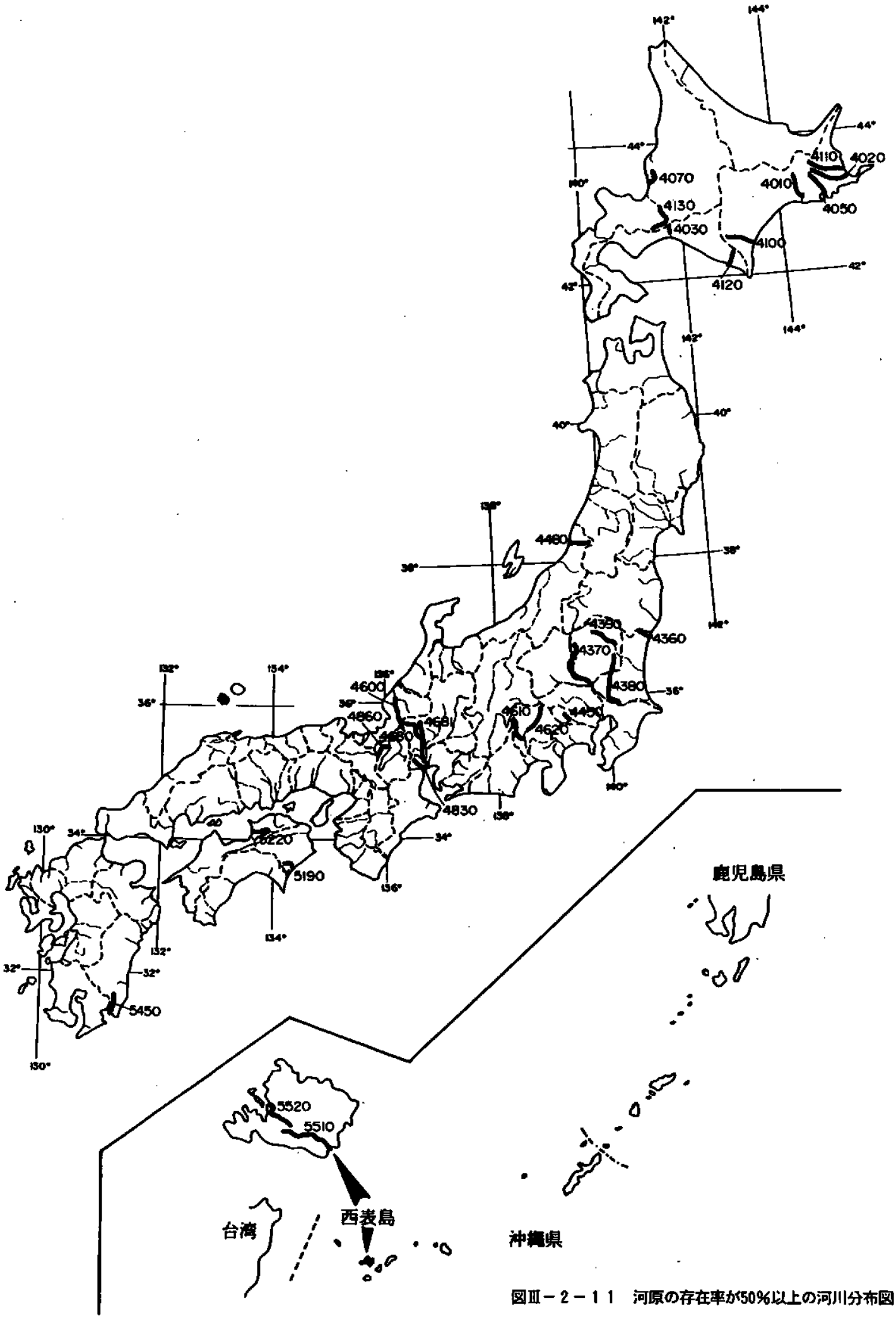
図Ⅲ－２－１０　河原存在率の階級区分別出現河川数

これらの河川の分布をみると、地域では北海道や沖縄県の河川が目につく他に、関東・中京地区の平野部にもみられる。東北・中国地方の河川は出現していない（図Ⅲ－２－１１）。

また、河原の存在が全く報告されていない河川は、68河川もある。

表Ⅲ－２－９　河原の存在率が50%以上の河川

	河川コード	河川名	調査流路延長km(A)	河原の延長km(B)	河原の存在率 B／A%	水系群名	都道府県
1.	4010	雪裡川	58.6	58.6	100.0	北海道－太平洋／北	北海道
	4020	風蓮川	99.5	99.5	100.0	北海道－太平洋／北	北海道
	4050	別寒辺牛川	55.9	55.9	100.0	北海道－太平洋／北	北海道
	4070	厚田川	32.0	32.0	100.0	北海道－日本海	北海道
	4110	西別川	109.7	109.7	100.0	北海道－太平洋／北	北海道
	4130	千歳川	69.2	69.2	100.0	北海道－日本海	北海道
	4360	大北川	29.2	29.2	100.0	本州－太平洋／中南	茨城県
	5510	仲間川	9.0	9.0	100.0	沖縄－東シナ海	沖縄県
	5520	仲良川	7.0	7.0	100.0	沖縄－東シナ海	沖縄県
10.	4030	美々川	18.2	15.1	83.0	北海道－太平洋／中南	北海道
11.	4390	箒川	49.5	41.0	82.8	本州－太平洋／中南	栃木県
12.	4380	小貝川	110.0	84.0	76.4	本州－太平洋／中南	茨城・栃木県
13.	4480	三面川	41.0	31.0	75.6	本州－日本海	新潟県
14.	4830	員弁川	37.0	27.0	73.0	本州－太平洋／中南	三重県
15.	4681	根尾川	55.0	40.0	72.7	本州－太平洋／中南	岐阜県
16.	4370	渡良瀬川	107.5	73.0	67.9	本州－太平洋／中南	栃・茨・群・埼県
17.	4620	笛吹川	50.8	34.0	66.9	本州－太平洋／中南	山梨県
18.	4450	浅川	30.1	20.0	66.4	本州－太平洋／中南	東京都
19.	4610	早川	66.1	42.0	63.5	本州－太平洋／中南	山梨県
20.	4600	日野川	60.0	38.0	63.3	本州－日本海	福井県
21.	5190	海部川	36.0	21.0	58.3	四国－太平洋／中南	徳島県
22.	4680	揖斐川	111.5	63.0	56.5	本州－太平洋／中南	三重・岐阜県
23.	4860	安曇川	42.8	24.0	56.0	本州－瀬戸内海	滋賀県
24.	5220	財田川	32.5	18.0	55.4	四国－瀬戸内海	香川県
25.	4100	歴舟川	64.7	35.0	54.1	北海道－太平洋／北	北海道
26.	5450	福島川	23.5	12.0	51.1	九州－太平洋／中南	宮崎県
27.	4120	日高幌別川	33.8	17.0	50.3	北海道－太平洋／中南	北海道



図Ⅲ－２－１１　河原の存在率が50%以上の河川分布図

(2) 河原の改変状況（土地利用状況）

個別の河川毎に河原の土地利用状況をみる（図Ⅲ－２－１２、表Ⅲ－２－１０）。

① 河原の「自然地」状況

自然地が全くない河川が１河川あるが、84河川の河原においては10％以上の自然地が存在している。これらの占有率を階級区分別にみると、43河川が90％以上で最も多く、このうち24河川では自然地率が 100％となっている。次いで、13河川が70％以上80％未満の自然然地率であり、９河川が80％以上90％未満の自然地率となっている。河原がある場合、その自然地率はきわめて高い。

表Ⅲ－２－１０(1)に河原の自然地率が100％の24河川を掲げたが、その分布域は全国に散在しており、また、水系群も各所あり、特徴的な傾向は見いだせない（図Ⅲ－２－１３(1)）。

② 河原の「農業地」状況

農業地について、33河川の河原ではその利用をみることはできない。52河川の河原においては農業地の利用がおこなわれているが、そのうち29河川では10％未満となっており最も多い。その他の階級区分では10河川以下の数となっている。

表Ⅲ－２－１０(2)に抽出した河原の農業地率の高い上位15河川の分布域は、そのうちの11河川が北海道及び本州の太平洋に係わる河川となっていることが特徴的である。また、これらの河川が東日本に偏在していることも指摘される（図Ⅲ－２－１３(2)）。

③ 河原の「未利用造成地」状況

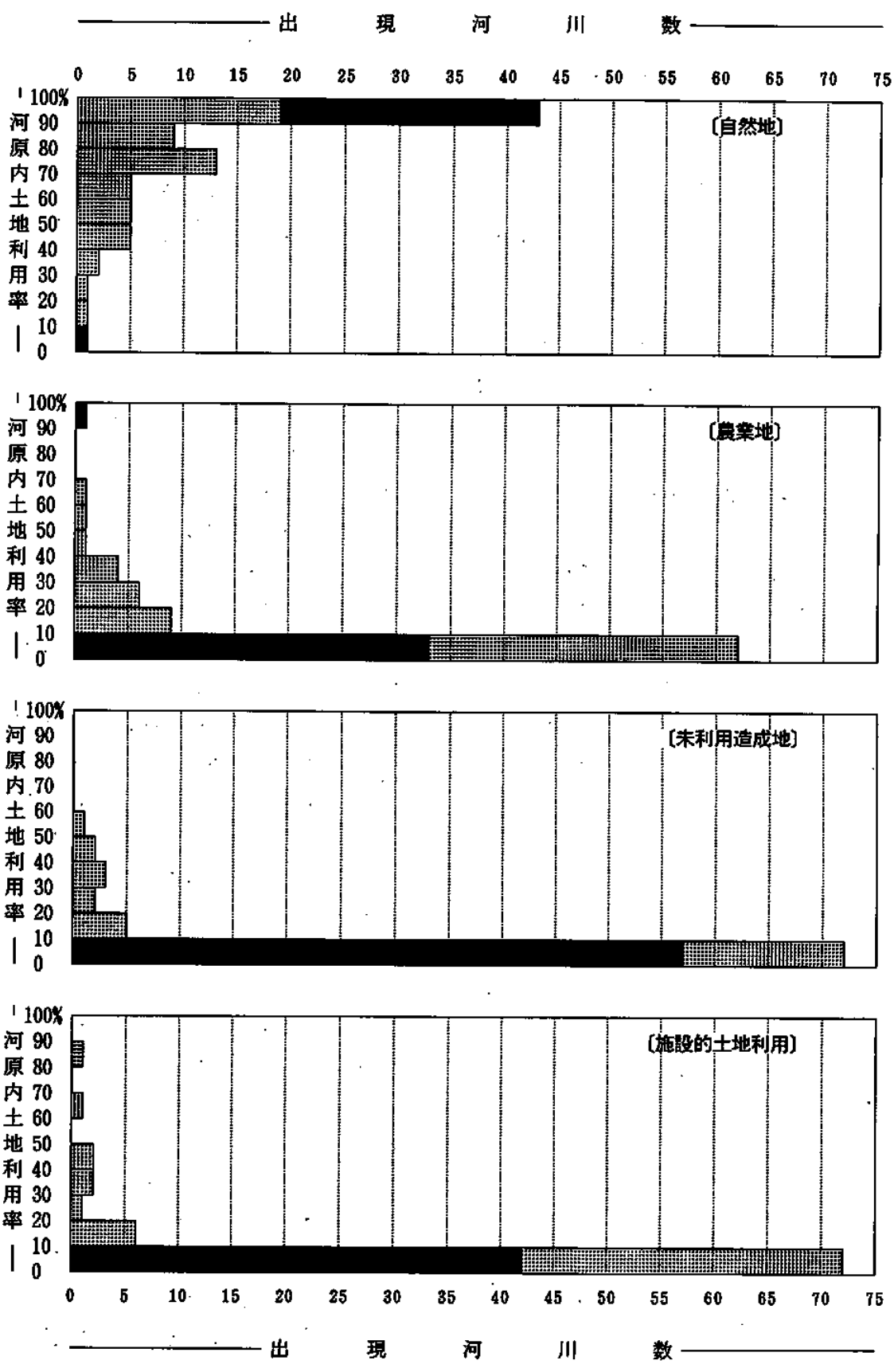
河原の未利用造成地土地利用は、57の河川の河原では認められない。残りの28河川における未利用造成地率は最大で50％であり、大部分は10％未満になっている。

表Ⅲ－２－１０(3)に抽出した河原の未利用造成地率の高い上位15河川の分布域は、全国的にみると、北海道、首都圏、北陸地方、香川県等の限定した都道府県となっている（図Ⅲ－２－１３(3)）。

④ 河原の「施設的土地利用」状況

施設的土地利用は42河川の河原ではおこなわれておらず、残りの43河川の河原で認められる。これらの利用は、他の人工改変土地利用の傾向と同じ様相を示しており、最大80％の占有率の河川もあるが、大部分は20％未満、とりわけ10％未満となっている。

表Ⅲ－２－１０(4)に抽出した河原の施設的土地利用率の高い上位15河川の分布域は、首都圏、北陸地方、兵庫県、香川県等の限定した都道府県となっている（図Ⅲ－２－１３(4)）。



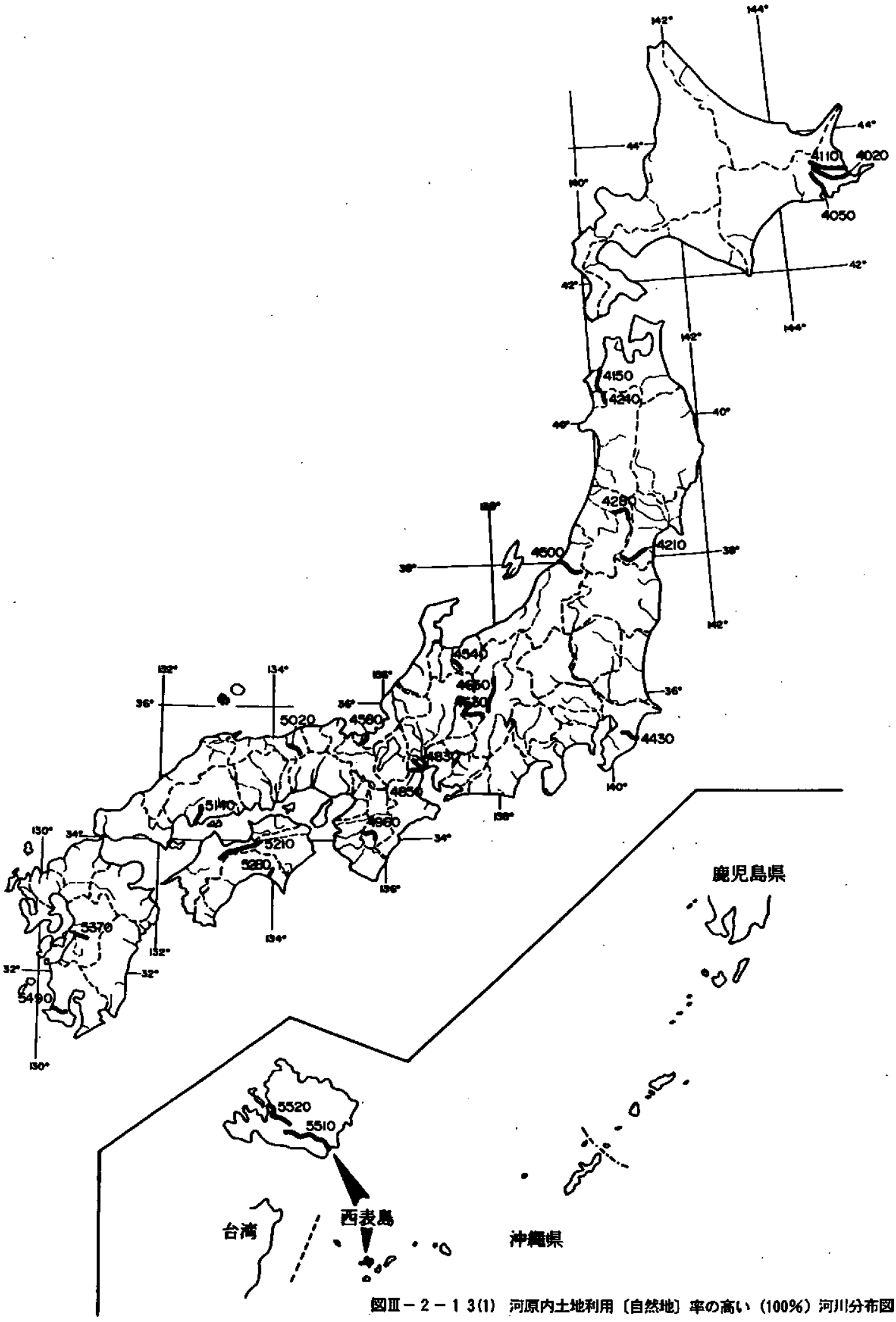
〔■はそれぞれの存在率が0％か 100％の河川〕　〔※　河原の存在する85河川を対象として作成〕

図Ⅲ－２－１２　河原内土地利用毎の占有率階級区分別出現河川数

表Ⅲ－2－10(1)～(4)　河原内土地利用〔自然地、農業地、未利用造成地、施設的土地利用〕の占有率の高い河川　上位15
（※自然地率については、第1位の河川が24河川あるので全て掲載）

(1)〔自然地〕

	河川コード	河川名	調査流路延長km	河原の延長km(A)	該当土地利用延長km(B)	該当土地利用率 B／A%	水系群名	都道府県
1.	4020	風蓮川	99.5	99.5	99.5	100.0	北海道－太平洋／北	北海道
	4050	別寒辺牛川	55.9	55.9	55.9	100.0	北海道－太平洋／北	北海道
	4110	西別川	109.7	109.7	109.7	100.0	北海道－太平洋／北	北海道
	4150	赤石川	50.2	5.0	5.0	100.0	本州－日本海	青森県
	4210	白石川	69.7	10.0	10.0	100.0	本州－太平洋／中南	宮城県
	4240	粕毛川	21.5	1.0	1.0	100.0	本州－日本海	秋田県
	4280	最上小国川	37.0	2.0	2.0	100.0	本州－日本海	山形県
	4430	一宮川	27.7	1.0	1.0	100.0	本州－太平洋／中南	千葉県
	4500	加治川	38.0	9.0	9.0	100.0	本州－日本海	新潟県
	4540	熊野川	32.3	1.0	1.0	100.0	本州－日本海	富山県
	4580	南川	33.0	6.0	6.0	100.0	本州－日本海	福井県
	4630	王滝川	54.8	6.0	6.0	100.0	本州－太平洋／中南	長野県
	4650	奈良井川	62.1	1.0	1.0	100.0	本州－日本海	長野県
	4830	員弁川	37.0	27.0	27.0	100.0	本州－太平洋／中南	三重県
	4850	朝明川	26.1	1.0	1.0	100.0	本州－太平洋／中南	三重県
	4960	川原樋川	27.5	6.0	6.0	100.0	本州－太平洋／中南	奈良県
	5020	八東川	32.0	2.0	2.0	100.0	本州－日本海	鳥取県
	5140	黒瀬川	44.6	8.0	8.0	100.0	本州－瀬戸内海	広島県
	5210	銅山川	61.4	1.0	1.0	100.0	四国－瀬戸内海	徳島・愛媛県
	5280	安芸川	27.8	1.0	1.0	100.0	四国－太平洋／中南	高知県
	5370	氷川	23.9	5.0	5.0	100.0	九州－東シナ海	熊本県
	5490	万之瀬川	30.2	2.0	2.0	100.0	九州－東シナ海	鹿児島県
	5510	仲間川	9.0	9.0	9.0	100.0	沖縄－東シナ海	沖縄県
	5520	仲良川	7.0	7.0	7.0	100.0	沖縄－東シナ海	沖縄県



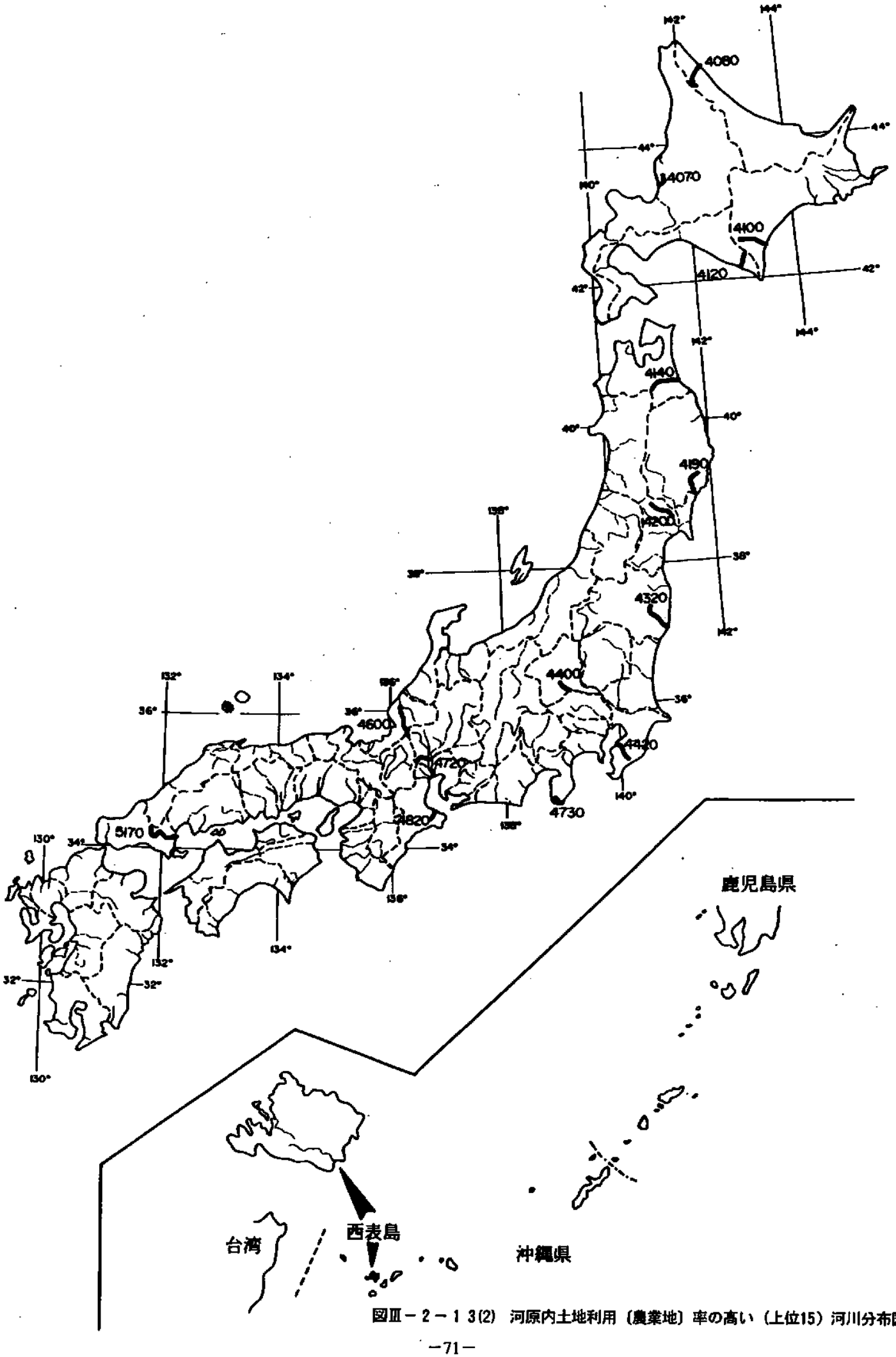
図Ⅲ－２－１３(1)　河原内土地利用〔自然地〕率の高い（100%）河川分布図

(2)〔農業地〕

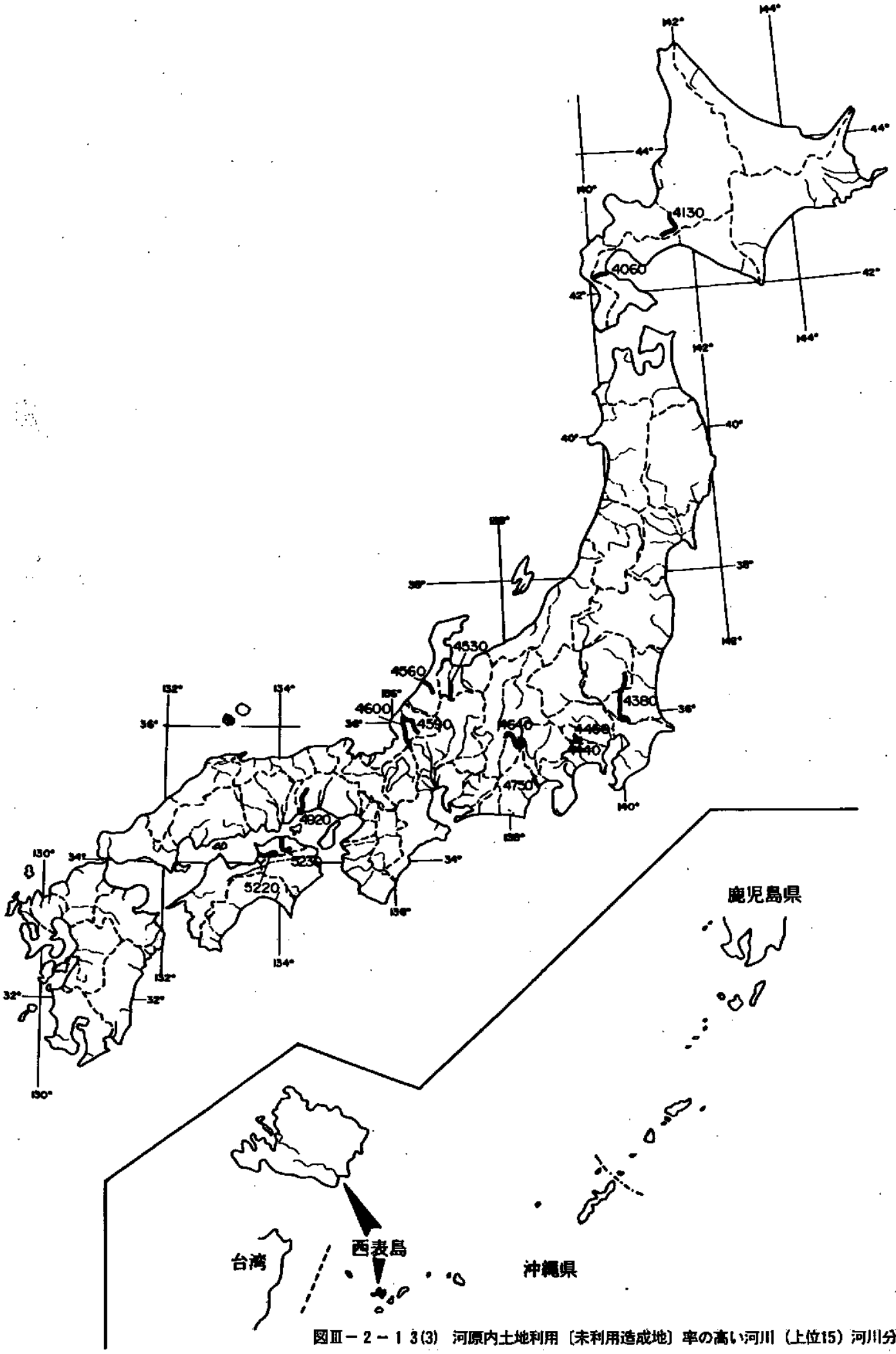
	河川コード	河川名	調査流路延長km	河原の延長km(A)	該当土地利用延長km(B)	該当土地利用率 B／A%	水系群名	都道府県
1.	4820	五十鈴川	8.4	1.0	1.0	100.0	本州－太平洋／中南	三重県
2.	4070	厚田川	32.0	32.0	19.3	60.3	北海道－日本海	北海道
3.	4320	夏井川	67.1	8.0	4.3	53.8	本州－太平洋／中南	福島県
4.	4730	青野川	17.2	1.0	0.4	40.0	本州－太平洋／中南	静岡県
5.	4200	追川	87.4	39.0	15.5	39.7	本州－太平洋／中南	宮城県
6.	4080	頓別川	63.5	28.0	10.7	38.2	北海道－オホーツク海	北海道
7.	4190	気仙川	38.6	6.0	2.0	33.3	本州－太平洋／中南	岩手県
8.	5170	錦川	110.3	9.0	2.9	32.2	本州－瀬戸内海	山口県
9.	4140	相坂川	63.7	20.0	5.7	28.5	本州－太平洋／中南	青森県
10.	4420	小櫃川	72.7	7.0	1.9	27.1	本州－太平洋／中南	千葉県
11.	4600	日野川	60.0	38.0	10.0	26.3	本州－日本海	福井県
12.	4720	牧田川	36.7	16.0	3.8	23.8	本州－太平洋／中南	岐阜県
13.	4100	歴舟川	64.7	35.0	8.0	22.9	北海道－太平洋／北	北海道
14.	4400	烏川	61.8	28.0	5.8	20.7	本州－太平洋／中南	群馬県
15.	4120	日高幌別川	33.8	17.0	3.3	19.4	北海道－太平洋／中南	北海道

(3)〔未利用造成地〕

	河川コード	河川名	調査流路延長km	河原の延長km(A)	該当土地利用延長km(B)	該当土地利用率 B／A%	水系群名	都道府県
1.	4130	千歳川	69.2	69.2	34.8	50.3	北海道－日本海	北海道
2.	4440	南浅川	8.1	3.0	1.3	43.3	本州－太平洋／中南	東京都
3.	4590	足羽川	56.6	13.0	5.3	40.8	本州－日本海	福井県
4.	4060	遊楽部川	30.0	3.0	1.1	36.7	北海道－太平洋／中南	北海道
5.	4380	小貝川	110.0	84.0	30.0	35.7	本州－太平洋／中南	茨城県
6.	4530	利賀川	36.0	1.0	0.3	30.0	本州－日本海	富山県
7.	5230	香東川	37.0	13.0	3.0	23.1	四国－瀬戸内海	香川県
8.	4920	千種川	72.2	3.0	0.6	20.0	本州－瀬戸内海	兵庫県
9.	4450	浅川	30.1	20.0	3.9	19.5	本州－太平洋／中南	東京都
10.	5480	北川	31.7	15.0	2.3	15.3	九州－太平洋／中南	宮崎県
11.	4640	三峰川	61.3	14.0	2.1	15.0	本州－太平洋／中南	長野県
12.	5220	財田川	32.5	18.0	2.1	11.7	四国－瀬戸内海	香川県
13.	4560	犀川	34.0	1.0	0.1	10.0	本州－日本海	石川県
14.	4750	興津川	21.7	7.0	0.4	5.7	本州－太平洋／中南	静岡県
15.	4600	日野川	60.0	38.0	1.7	4.5	本州－日本海	福井県



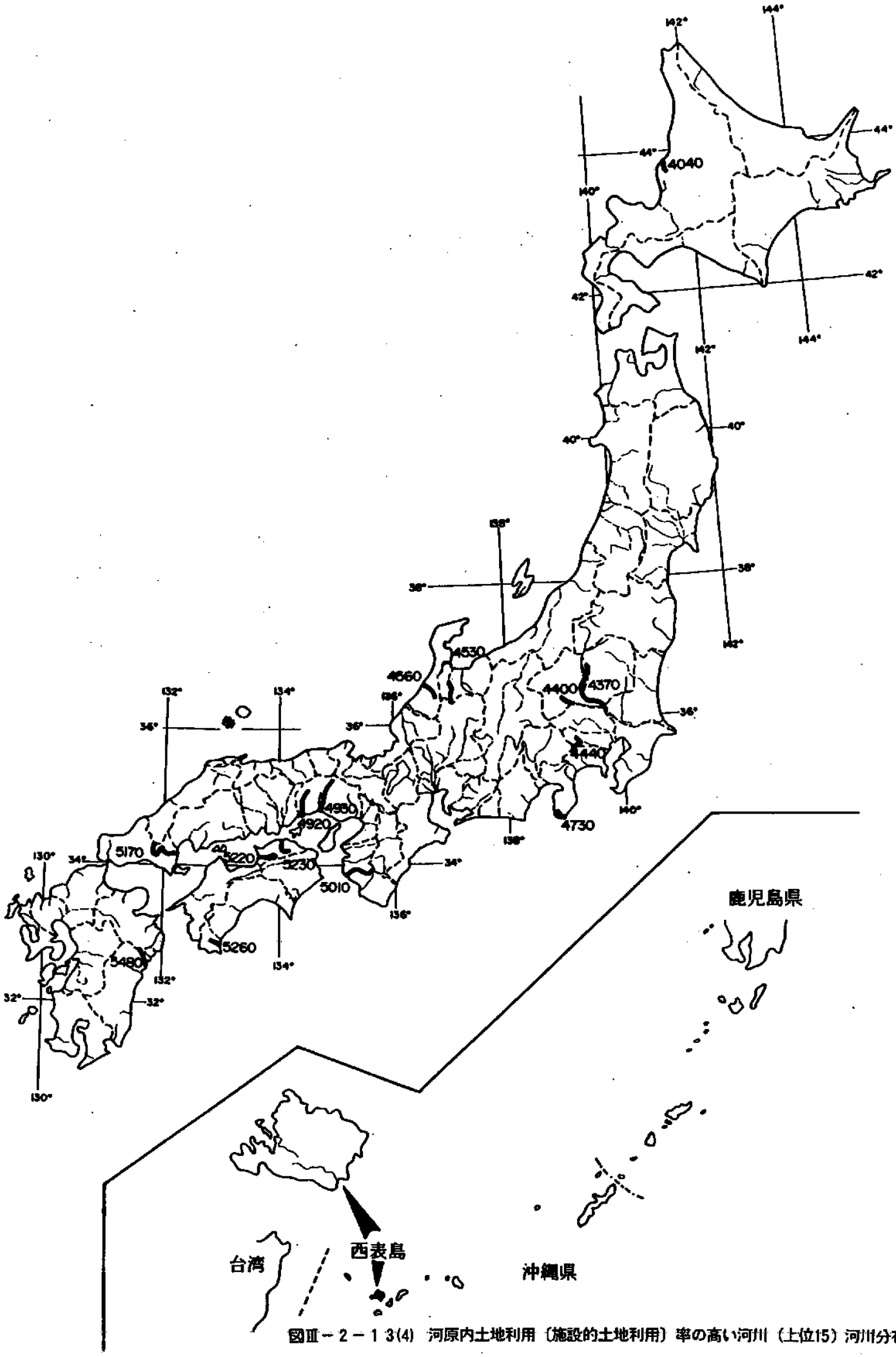
図Ⅲ－２－１３(2) 河原内土地利用（農業地）率の高い（上位15）河川分布図



図Ⅲ－２－１３(3)　河原内土地利用〔未利用造成地〕率の高い河川（上位15）河川分布図

(4)〔施設的土地利用〕

	河川コード	河川名	調査流路延長km	河原の延長km(A)	該当土地利用延長km(B)	該当土地利用率 B／A%	水系群名	都道府県
1.	4560	犀川	34.0	1.0	0.8	80.0	本州－日本海	石川県
2.	5260	下ノ加江川	27.5	1.0	0.6	60.0	四国－太平洋／中南	高知県
3.	5230	香東川	37.0	13.0	6.4	49.2	四国－瀬戸内海	香川県
4.	4440	南浅川	8.1	3.0	1.4	46.7	本州－太平洋／中南	東京都
5.	4920	千種川	72.2	3.0	1.1	36.7	本州－瀬戸内海	兵庫県
6.	4730	青野川	17.2	1.0	0.3	30.0	本州－太平洋／中南	静岡県
7.	4530	利賀川	36.0	1.0	0.2	20.0	本州－日本海	富山県
8.	5170	錦川	110.3	9.0	1.6	17.8	本州－瀬戸内海	山口県
	4370	渡良瀬川	107.5	73.0	13.0	17.8	本州－太平洋／中南	埼玉・茨城県 群馬・栃木県
10.	4040	暑寒別川	26.0	9.0	1.4	15.6	北海道－日本海	北海道
11.	4400	鳥川	61.8	28.0	4.0	14.3	本州－太平洋／中南	群馬県
	5010	日高川	119.2	7.0	1.0	14.3	本州－太平洋／中南	和歌山県
13.	5480	北川	31.7	15.0	1.5	10.0	九州－太平洋／中南	宮崎県
14.	5220	財田川	32.5	18.0	1.7	9.4	四国－瀬戸内海	香川県
15.	4930	市川	77.1	21.0	1.9	9.0	本州－瀬戸内海	兵庫県



図Ⅲ－２－１３(4) 河原内土地利用（施設的土地利用）率の高い河川（上位15）河川分布図

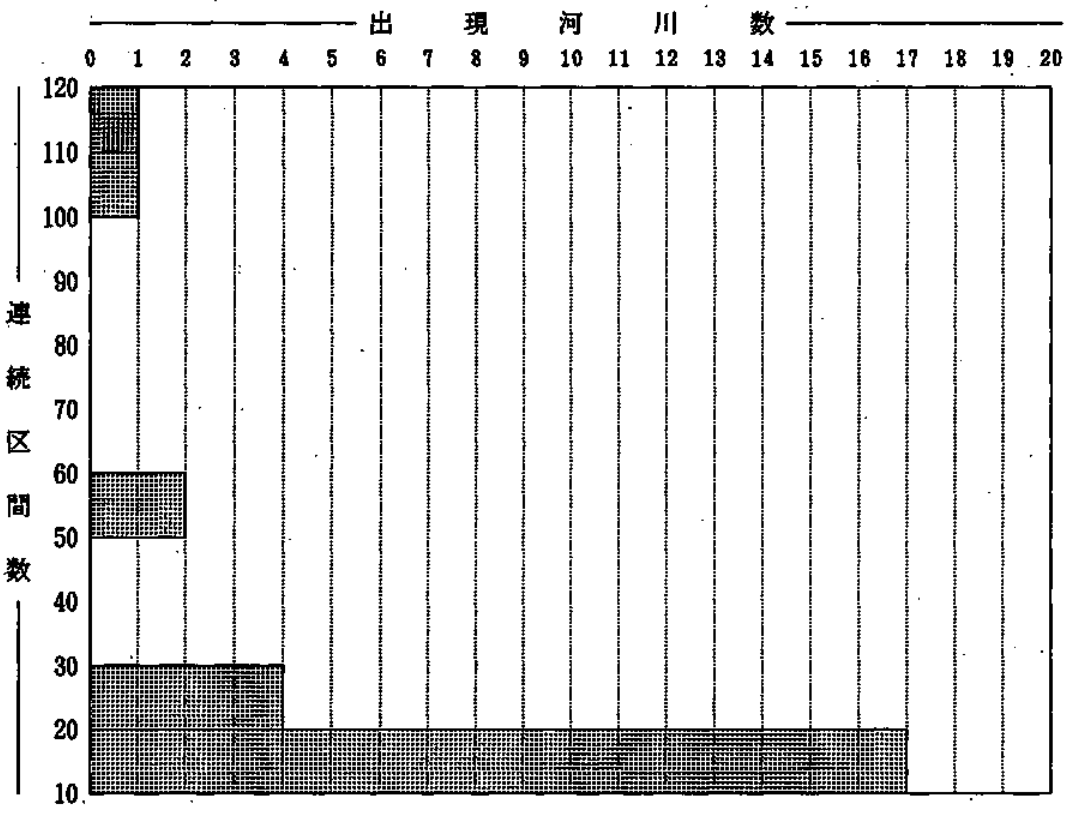
2－4　連続する人工改変度の低い河原

「連続する人工改変度の低い河原」として、まず、「河原の区間毎の自然地率が80％以上の区間が連続10区間以上（＝10km以上）のもの」を抽出した。

今回の調査対象の 153河川において河原の存在する河川は85河川であるが、これらの河川において上記の条件を満たす「連続する人工改変度の低い河原」は25区間帯あることがわかった。

その区間帯の単位区間の連続数は、最大 110区間連続で4110西別川（北海道）でみられる。このような区間帯の単位区間の連続数規模によるその出現河川数を、図Ⅲ－２－１４に示す。この図でみるように、「連続する人工改変度の低い河原」は、単位区間の連続が10～19区間であるものが大部分である。

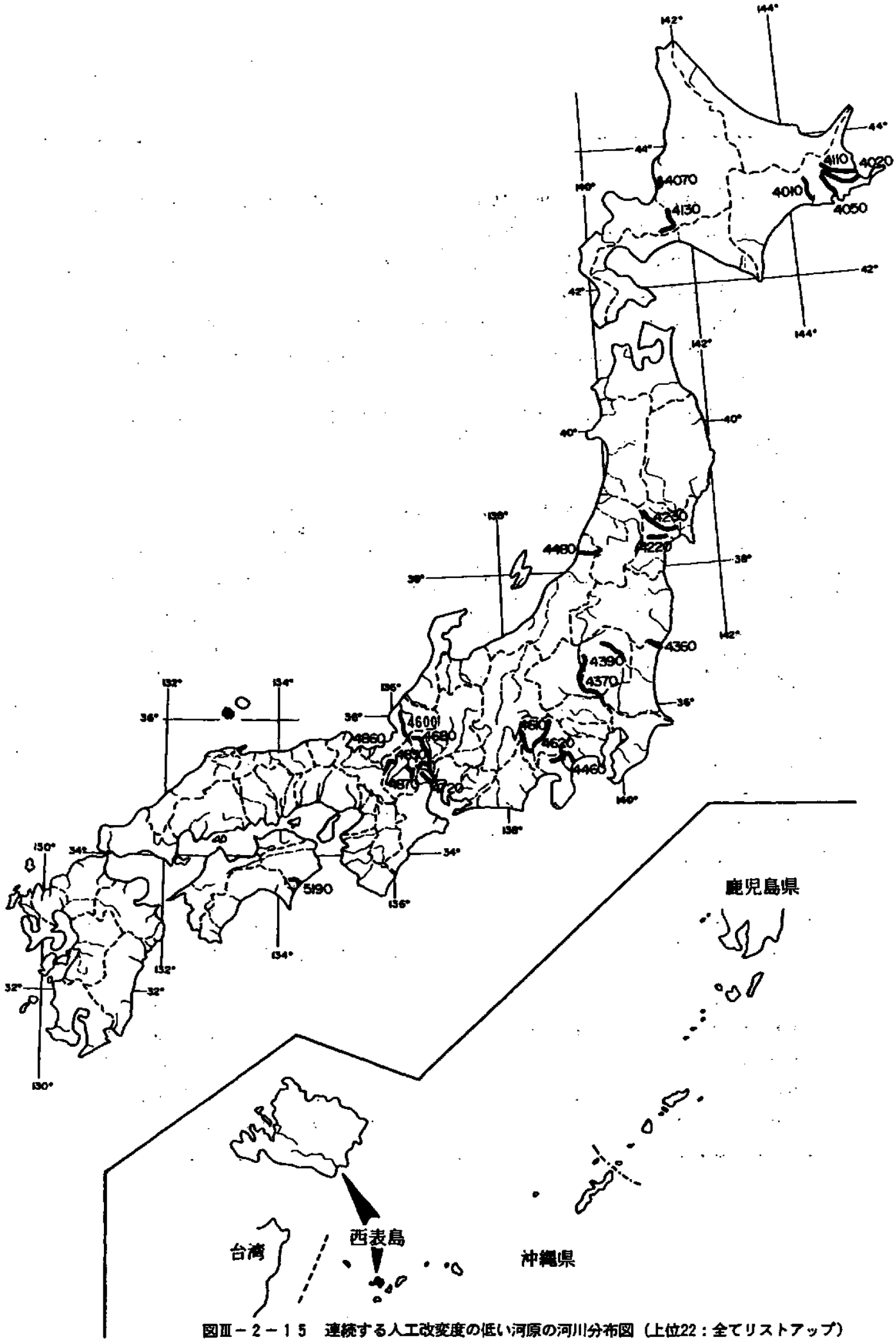
このような中で、「連続する人工改変度の低い河原」の区間帯の上位を表Ⅲ－２－１１に掲げる。地域でみると、北海道、東日本各県、中京地方などに位置する河川があがっており、西日本に位置する河川は徳島県の１河川のみである（図Ⅲ－２－１５）。



図Ⅲ－２－１４　連続する人工改変度の低い（自然地率80％以上）河原の
連続区間規模別出現河川数

表Ⅲ－２－１１　連続する人工改変度の低い河原　上位22（全てリストアップ）
（自然地率80％以上の区間が連続10区間以上＝10km以上）

	河川コード	河川名	調査流路延長km	総区間数	連続する人工改変度の低い河原 区間数	始	終	水系群名	都道府県
1.	4110	西別川	109.7	110	110	1	110	北海道－太平洋／北	北海道
2.	4020	風蓮川	99.5	100	100	1	100	北海道－太平洋／北	北海道
3.	4010	雪裡川	58.6	59	59	1	59	北海道－太平洋／北	北海道
4.	4050	別寒辺牛川	55.9	56	56	1	56	北海道－太平洋／北	北海道
5.	4610	早川	66.1	67	26	1	26	本州－太平洋／中南	山梨県
6.	4360	大北川	29.2	30	25	6	30	本州－太平洋／中南	茨城県
7.	4830	員弁川	37.0	37	24	3	26	本州－太平洋／中南	三重県
8.	4390	箒川	49.5	50	21	14	34	本州－太平洋／中南	栃木県
9.	4620	笛吹川	50.8	51	19	16	34	本州－太平洋／中南	山梨県
10.	4130	千歳川	69.2	70	17	53	69	北海道－日本海	北海道
11.	4460	酒匂川／鮎沢川	42.9	43	15	1	15	本州－太平洋／中南	神奈川・静岡県
	4600	日野川	60.0	60	15	24	38	本州－日本海	福井県
	5190	海部川	36.0	36	15	7	21	四国－太平洋／中南	徳島県
14.	4370	渡良瀬川	107.5	108	13	90	102	本州－太平洋／中南	埼玉・茨城県 群馬・栃木県
	4480	三面川	41.0	42	13	9	21	本州－日本海	新潟県
	4680	揖斐川	111.5	112	13	9	21	本州－太平洋／中南	三重・岐阜県
17.	4220	吉田川	54.0	54	12	10	21	本州－太平洋／中南	宮城県
	4390	箒川	49.5	50	12	1	12	本州－太平洋／中南	栃木県
19.	4070	厚田川	32.0	32	11	22	32	北海道－日本海	北海道
	4230	江合川	92.0	92	11	29	39	本州－太平洋／中南	宮城県
	4860	安曇川	42.8	43	11	19	29	本州－瀬戸内海	滋賀県
22.	4480	三面川	41.0	42	10	30	39	本州－日本海	新潟県
	4680	揖斐川	111.5	112	10	24	33	本州－太平洋／中南	三重・岐阜県
	4720	牧田川	36.7	37	10	11	20	本州－太平洋／中南	岐阜県
	4870	犬上川	28.4	29	10	1	10	本州－瀬戸内海	滋賀県



図Ⅲ－２－１５　連続する人工改変度の低い河原の河川分布図（上位22：全てリストアップ）
（自然地率80%以上の区間が連続10区間以上＝10km以上）

次に、「連続する人工改変度の低い河原」として、「河原の区間毎の自然地率が100％の区間が連続10区間以上（＝10km以上）のもの」を抽出した。

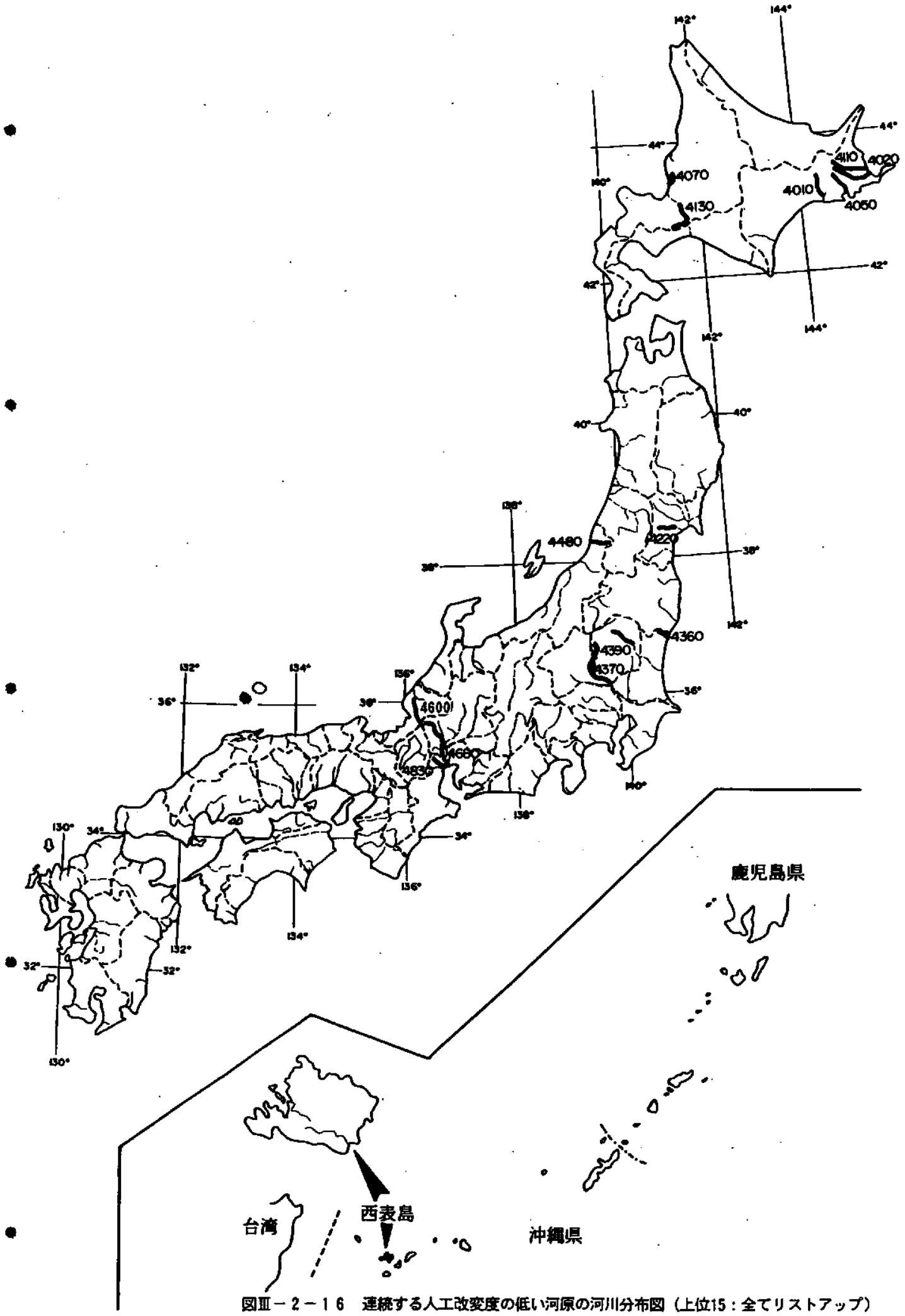
今回の調査対象 153河川のうち河原が存在する河川は85河川であるが、このような連続した良好な自然状況の河原は16区間帯ある。

この単位区間の連続性の規模をみると、最大は110区間の連続で4110西別川(北海道)でみられる。また、その規模別の出現頻度をみると、やはり単位区間の連続が10～19のものが９区間帯と他に比較して多い。

これらの河川の地理的位置は、大部分が東日本の太平洋側に偏在していることが特徴的である（図Ⅲ－２－１６）。これらの16区間帯を表Ⅲ－２－１２に掲げる。

表Ⅲ－２－１２　連続する人工改変度の低い河原　上位15（全てリストアップ）
（自然地率100％の区間が連続10区間以上＝10km以上）

	河川コード	河川名	調査流路延長km	総区間数	連続する人工改変度の低い河原 区間数	河原 始	河原 終	水系群名	都道府県
1.	4110	西別川	109.7	110	110	1	110	北海道－太平洋／北	北海道
2.	4020	風蓮川	99.5	100	100	1	100	北海道－太平洋／北	北海道
3.	4050	別寒辺牛川	55.9	56	56	1	56	北海道－太平洋／北	北海道
4.	4010	雪裡川	58.6	59	26	2	27	北海道－太平洋／北	北海道
5.	4360	大北川	29.2	30	25	6	30	本州－太平洋／中南	茨城県
6.	4830	員弁川	37.0	37	24	3	26	本州－太平洋／中南	三重県
7.	4390	箒川	49.5	50	20	15	34	本州－太平洋／中南	栃木県
8.	4130	千歳川	69.2	70	17	53	69	北海道－日本海	北海道
9.	4010	雪裡川	58.6	59	15	45	59	北海道－太平洋／北	北海道
	4600	日野川	60.0	60	15	24	38	本州－日本海	福井県
11.	4370	渡良瀬川	107.5	108	13	90	102	本州－太平洋／中南	埼玉・茨城県 群馬・栃木県
	4680	揖斐川	111.5	112	13	9	21	本州－太平洋／中南	三重・岐阜県
13.	4220	吉田川	54.0	54	12	10	21	本州－太平洋／中南	宮城県
14	4070	厚田川	32.0	32	11	22	32	北海道－日本海	北海道
15.	4480	三面川	41.0	42	10	30	39	本州－日本海	新潟県
	4680	揖斐川	111.5	112	10	24	33	本州－太平洋／中南	三重・岐阜県



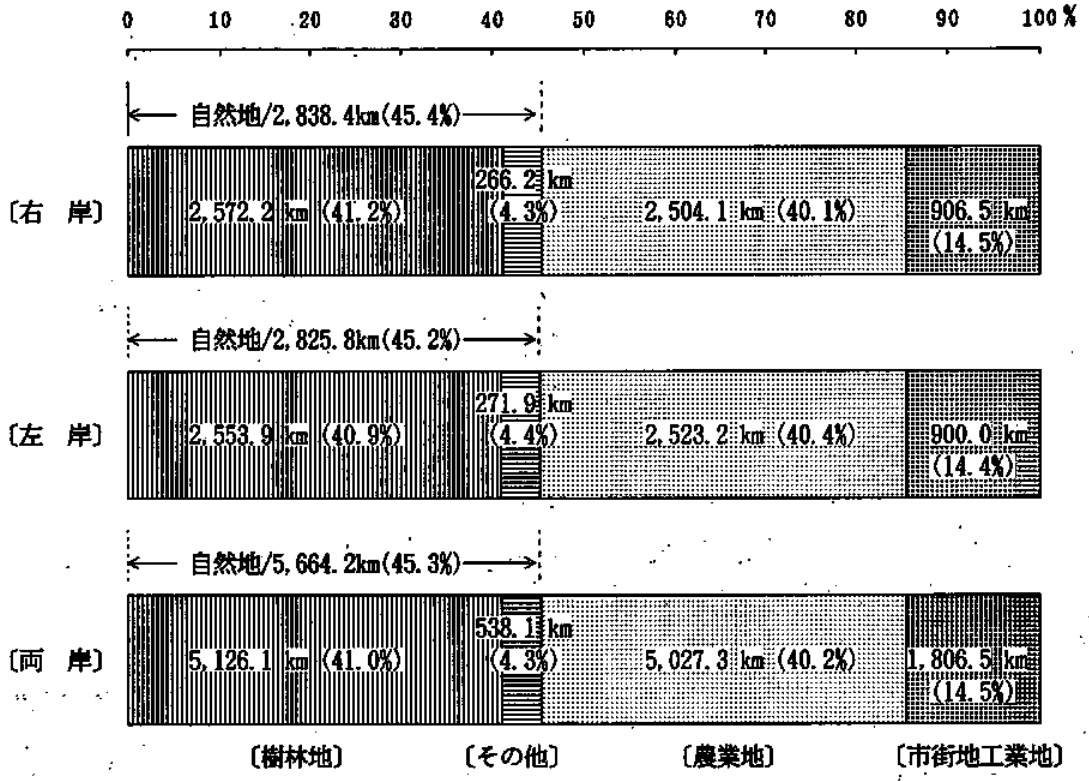
図Ⅲ－２－１６　連続する人工改変度の低い河原の河川分布図（上位15：全てリストアップ）
（自然地率100％の区間が連続10区間以上＝10km以上）

3－1　河畔の土地利用の全国状況

調査対象とした 153河川の河川流路総延長は 6,249.0㎞で、河畔の土地利用は左右の両岸において調査されている。調査対象河川全体の調査結果を図Ⅲ－２－１７に示す。

右岸の河畔土地利用の内訳は、自然地 2,838.4㎞、人工改変地 3,410.6㎞である。これらの構成比

【 調査対象 153河川の総延長 6,249.0 ㎞ 】



図Ⅲ－２－１７　河畔の土地利用状況〔全国〕

用語の定義６：「河畔とその土地利用状況区分等」

1調査区間の片側の河畔において、最も大きな面積を占めているものを当該河畔土地利用とする

○自然地 ― 樹林地 ― 樹林地、自然草地、湿地など、人為による影響が少なく、自然の状態
　　その他 ― を保持している土地

○農業地 ― 水田、畑、放牧地、果樹園など、農業的な利用がおこなわれている土地

○市街地、工業地、その他 ― 住宅地、業務地、工場、廃棄物処理場、遊園地など、都市的な利用がおこなわれている土地

は、自然地45.4%、人工改変地54.6%となっている。自然地の細分内訳は、樹林地 2,572.2km（41.2%）、その他の自然地 266.2km(4.3%）である。また、人工改変地の細分内訳は、農業地 2,504.1km（40.1%）、市街地・工業地 906.5km（14.5%）である。

左岸の河畔土地利用の内訳は、全体としては右岸とほぼ同様の内訳である。自然地は 2,825.8km（45.2%）で、樹林地 2,553.9km（40.9%）、その他の自然地 271.9km(4.4%）の構成となっている。人工改変地は 3,423.2km（54.8%）で、農業地 2,523.2km（40.4%）、市街地・工業地 900.0km（14.4%）の構成である。

左右両岸の河畔土地利用の構成がほぼ同一であることにより、両岸河畔土地利用計の構成比率も同様の結果となっている。

ここで第3回調査（一級河川幹川）における河畔土地利用の構成をみると、自然地36.9%、農業地47.0%、市街地・工業地16.1%である。これらを今回の結果と比較してみると、市街地・工業地の区分でわずかに、また、農業地でかなり、今回調査の結果の構成比の方が小さくなっている。これらの小さくなった差異の分が自然地率の違いとなっている。

このような違いは、第3回調査の対象河川が比較的人口が集中している（結果的に人工改変が進む）一級河川の幹川であり、今回の対象河川が一級河川の支川と二級河川の幹川であること、また、今回の対象河川は自然環境が良好な河川を選定していること、等によるものと考えられる。

3－2　河畔の土地利用状況／水系群別

水系群別の河畔の土地利用状況は表Ⅲ－2－13のとおりである。

自然地率に注目してみると、「沖縄－東シナ海」水系群で96.9%と最も高い値がみられる。次いで、「北海道－太平洋／北」水系群の61.4%、「北海道－太平洋／中南」水系群の60.3%、「四国－太平洋／中南」の57.0%と続く。ここまでの順位は、自然地に注目したときの水際線の改変状況や河原の土地利用状況の水系群別順位とほぼ同一である。

農業地の構成率では、「北海道－オホーツク海」水系群78.0%、「九州－瀬戸内海」水系群65.9%、「九州－日本海」水系群56.3%が他に比較して高い値を示している。

市街地・工業地の構成率では、「九州－日本海」水系群24.1%、「本州－太平洋／中南」水系群18.3%、「本州－瀬戸内海」水系群17.7%が目立つ。このような傾向は、本州における太平洋沿岸から瀬戸内海沿岸、さらに九州の日本海沿岸へと続く国土の人口集中帯と一致している。

今回の調査対象河川の幹川あるいは上位の河川を対象とした第3回自然環境保全基礎調査の結果と水系群別に河畔土地利用の自然地率で比較した結果は、表Ⅲ－2－14である。

全体としては、第3回調査の河畔土地利用の自然地率と比較して、今回の第4回調査のそれは8.4ポイント増加しているが、次の6つの水系群では、これよりも大きい増加をみせている。

北海道－日本海（＋17.2ポイント）、北海道－太平洋／北（＋18.6ポイント）、本州－瀬戸内海（＋12.7ポイント）四国－瀬戸内海（＋15.3ポイント）、九州－日本海（＋18.8ポイント）、九州－東シナ海（＋11.8ポイント）

表Ⅲ－２－１３　河畔の水系群別改変状況（土地利用状況）

水系群	河川数	調査流路延長(km) A	河畔の土地利用（両岸計）〔上段：km　下段：％（※）〕				
			自然地			人工改変地	
			樹林地	その他	計	農業地	市街工業地
北海道 －オホーツク海	1	63.5	24.0 18.9	1.0 0.8	25.0 19.7	99.0 78.0	3.0 2.4
北海道 －日本海	4	167.6	156.0 46.5	23.0 6.9	179.0 53.4	130.0 38.8	26.2 7.8
北海道 －太平洋／北	5	388.5	272.0 35.0	205.0 26.4	477.0 61.4	285.0 36.7	15.0 1.9
北海道 －太平洋／中南	3	79.9	84.2 52.7	12.2 7.6	96.4 60.3	59.4 37.2	4.0 2.5
本州 －日本海	36	1,202.7	1,006.3 41.8	76.9 3.2	1,083.2 45.0	1,046.8 43.5	275.4 11.4
本州 －太平洋／中南	48	2,372.8	1,867.5 39.4	187.0 3.9	2,054.5 43.3	1,823.9 38.4	867.2 18.3
本州 －瀬戸内海	22	1,018.2	864.5 42.5	22.0 1.1	886.5 43.5	789.5 38.8	360.4 17.7
四国 －太平洋／中南	6	196.8	219.5 55.8	5.0 1.3	224.5 57.0	150.6 38.3	18.5 4.7
四国 －瀬戸内海	4	169.6	180.2 53.1	4.0 1.2	184.2 54.3	103.0 30.4	52.0 15.3
九州 －日本海	6	116.0	45.7 19.7	0.0 0.0	45.7 19.7	130.5 56.3	55.8 24.1
九州 －太平洋／中南	6	177.6	164.2 46.2	1.0 0.3	165.2 46.5	141.0 39.7	49.0 13.8
九州 －瀬戸内海	2	54.6	22.2 20.3	0.0 0.0	22.2 20.3	72.0 65.9	15.0 13.7
九州 －東シナ海	8	225.2	188.9 41.9	1.0 0.2	189.9 42.2	195.6 43.4	64.9 14.4
沖縄 －東シナ海	2	16.0	31.0 96.9	0.0 0.0	31.0 96.9	1.0 3.1	0.0 0.0
全国	153	6,249.0	5,126.1 41.0	538.1 4.3	5,664.2 45.3	5,027.3 40.2	1,806.5 14.5

（※）％＝〔河畔の土地利用（両岸計）〕／〔調査流路延長×２〕

また、河畔土地利用の自然地率が、第３回調査に比較して今回が大きく下回っている水系群は、次の２つの水系群である。

北海道－オホーツク海（－8.0ポイント）、九州－瀬戸内海（－15.0ポイント）

表Ⅲ－２－１４　第４回調査河川と第３回調査河川の水系群別河畔自然地率比較
（河畔の自然地率は両岸の計に基づく率である）

〔参考〕

水系群	第４回調査(1992年/今回)			第３回調査（1985年）		
	河川数	調査流路延長(km)	河畔の自然地率％	河川数	調査流路延長(km)	河畔の自然地率％
北海道－オホーツク海	1	63.5	19.7	4	325.0	27.7
北海道－日本海	4	167.6	53.4	5	683.0	36.2
北海道－太平洋／北	5	388.5	61.4	2	264.0	42.8
北海道－太平洋／中南	3	79.9	60.3	2	224.0	65.6
本州－日本海	36	1,202.7	45.0	29	2,957.0	35.3
本州－太平洋／中南	48	2,372.8	43.3	31	3,738.0	36.1
本州－瀬戸内海	22	1,018.2	43.5	11	983.0	30.8
四国－太平洋／中南	6	196.8	57.0	5	674.0	56.5
四国－瀬戸内海	4	169.6	54.3	3	154.0	39.0
九州－日本海	6	116.0	19.7	1	58.0	0.9
九州－太平洋／中南	6	177.6	46.5	4	304.0	44.6
九州－瀬戸内海	2	54.6	20.3	4	245.0	35.3
九州－東シナ海	8	225.2	42.2	11	785.0	30.4
沖縄－東シナ海	2	16.0	96.9	1	18.0	100.0
全国	153	6,249.0	45.3	113	11,412.0	36.9

（注）１．第３回調査と第４回調査の調査対象河川は異なる。
２．第３回調査と第４回調査の間には７ヵ年の乖離がある。

3－3　河畔の改変状況（土地利用状況）

個別の河川毎に河畔（両岸）の土地利用状況を整理する（図Ⅲ－２－１８，表Ⅲ－２－１５）。

河畔の土地利用に自然地が全くない河川は、長崎県における5350川棚川と5360佐々川のわずか２河川であり、ほとんどの河川はその規模の大小の違いはあるが自然地の河畔を有している。

これらの河畔土地利用における自然地率の階級区分別に出現河川数をみると、河畔自然地率が90％以上の河川が10河川（そのうちの６河川は自然地率 100％：表Ⅲ－２－１５〔自然地〕参照）、最も出現頻度が高い河川として河畔自然地率40％以上50％未満が28河川、河畔自然地率30％以上40％未満が25河川、河畔自然地率50％以上60％未満が22河川などである。

河畔自然地率の高い河川の地理的分布については、上位15河川をみると、首都圏から本州の太平洋沿岸－名古屋圏－大阪圏－瀬戸内海沿岸－九州に至る国土の人口集中ベルト地域に係わる河川では比較的少なく、本州－日本海水系群の河川が比較的多いことが指摘できる（図Ⅲ－２－１９(1)）。

河畔土地利用において、全く農業地が認められない河川は下記のわずか９河川である。

4050別寒辺牛川(北海道)	4250岩股川(秋田県)	4440南浅川(東京都)
4520長棟川(富山県)	4890佐々里川(京都府)	4960川原樋川(奈良県)
4970高見川(奈良県)	5210銅山川(徳島・愛媛県)	5520仲良川(沖縄県)

逆に、河畔農業地率90％以上の河川も存在しない。河畔農業地占有率の高いのは、82.8％の5020八東川（鳥取県）、82.1％の4770鵜戸川（愛知県）、80.4％の5350川棚川（長崎県）などである。

出現頻度の大きいものは、河畔農業地率30％以上40％未満が31河川、40％以上50％未満が28河川、河畔農業地率20％以上30％未満及び50％以上60％未満がそれぞれ21河川などとなっている。

河畔農業地率の高い河川の地理的分布では、自然地率と同様に本州－日本海水系群に属している河川が多い状況にある（図Ⅲ－２－１９(2)）。

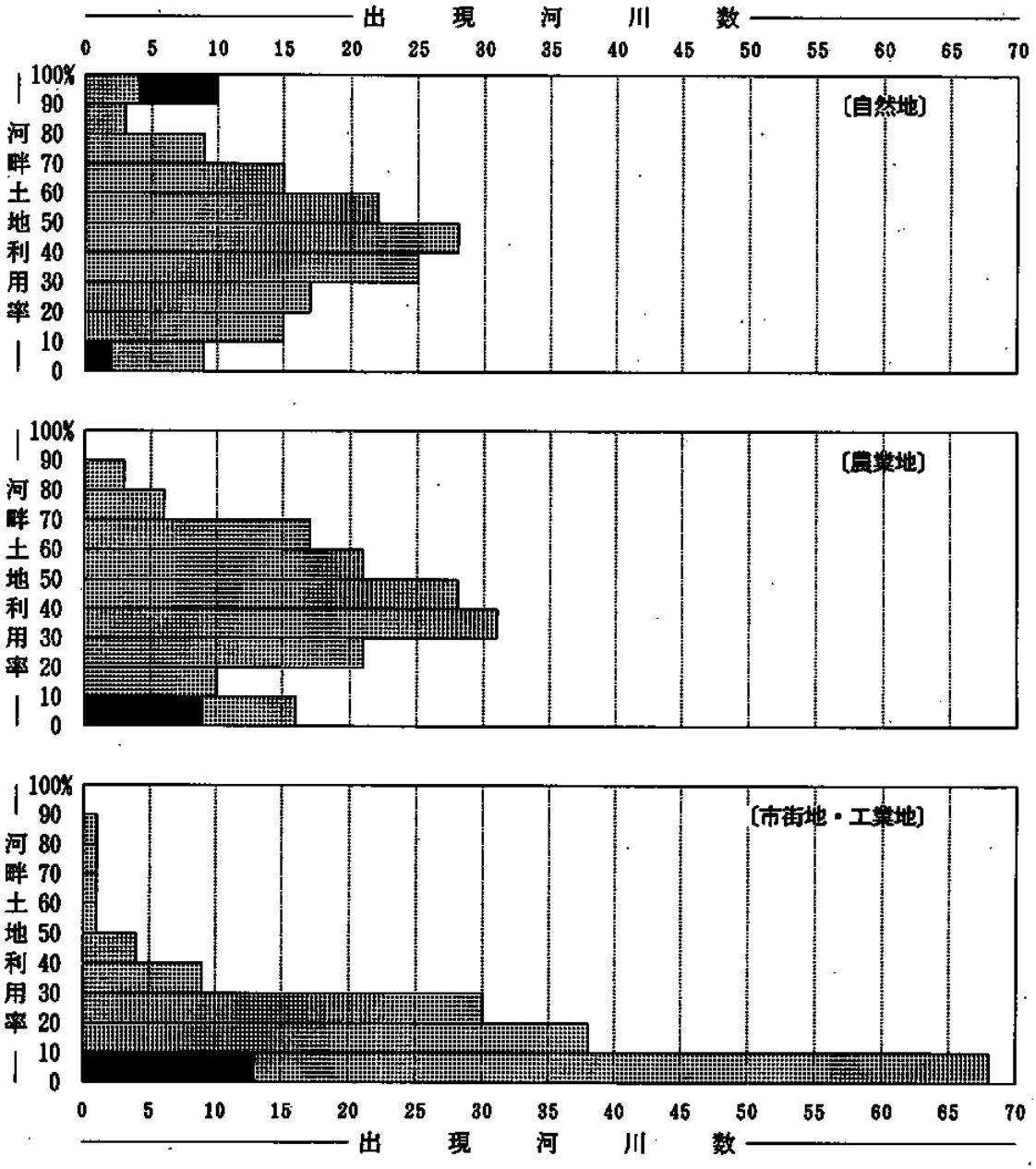
河畔土地利用において、市街地・工業地が全く認められない河川は下記の13河川あり、調査対象河川全体の8.5％はこれに該当する。

4030美々川(北海道)	4050別寒辺牛川(北海道)	4250岩股川(秋田県)	4300日向川(山形県)
4520長棟川(京都府)	4880宇　川(京都府)	4960川原樋川(奈良県)	
5030小鹿川(鳥取県)	5210銅山川(徳島・愛媛県)	5240広見川(高知・愛媛県)	
5400万江川(熊本県)	5510仲間川(沖縄県)	5520仲良川(沖縄県)	

河畔市街地・工業地率が大きい河川は少なく、50％以上の河川はわずか４河川である。したがって、

河畔市街地・工業地率区分別で最も出現頻度が大きいものは、０％より大きく10％未満の55河川、10％以上20％未満の38河川、20％以上30％未満の30河川などとなっている。

河畔市街地・工業地率の高い河川の地理的分布傾向では、本州－太平洋／中南水系群に属している河川が多く、次いで、本州－瀬戸内海水系群の河川と続く（図Ⅲ－２－１９(3)）。



〔■は、100％もしくは０％の河川数〕

図Ⅲ－２－１８　河畔土地利用毎の占有率階級区分別出現河川数

表Ⅲ－2－15　河畔の土地利用別占有率の高い河川　上位15

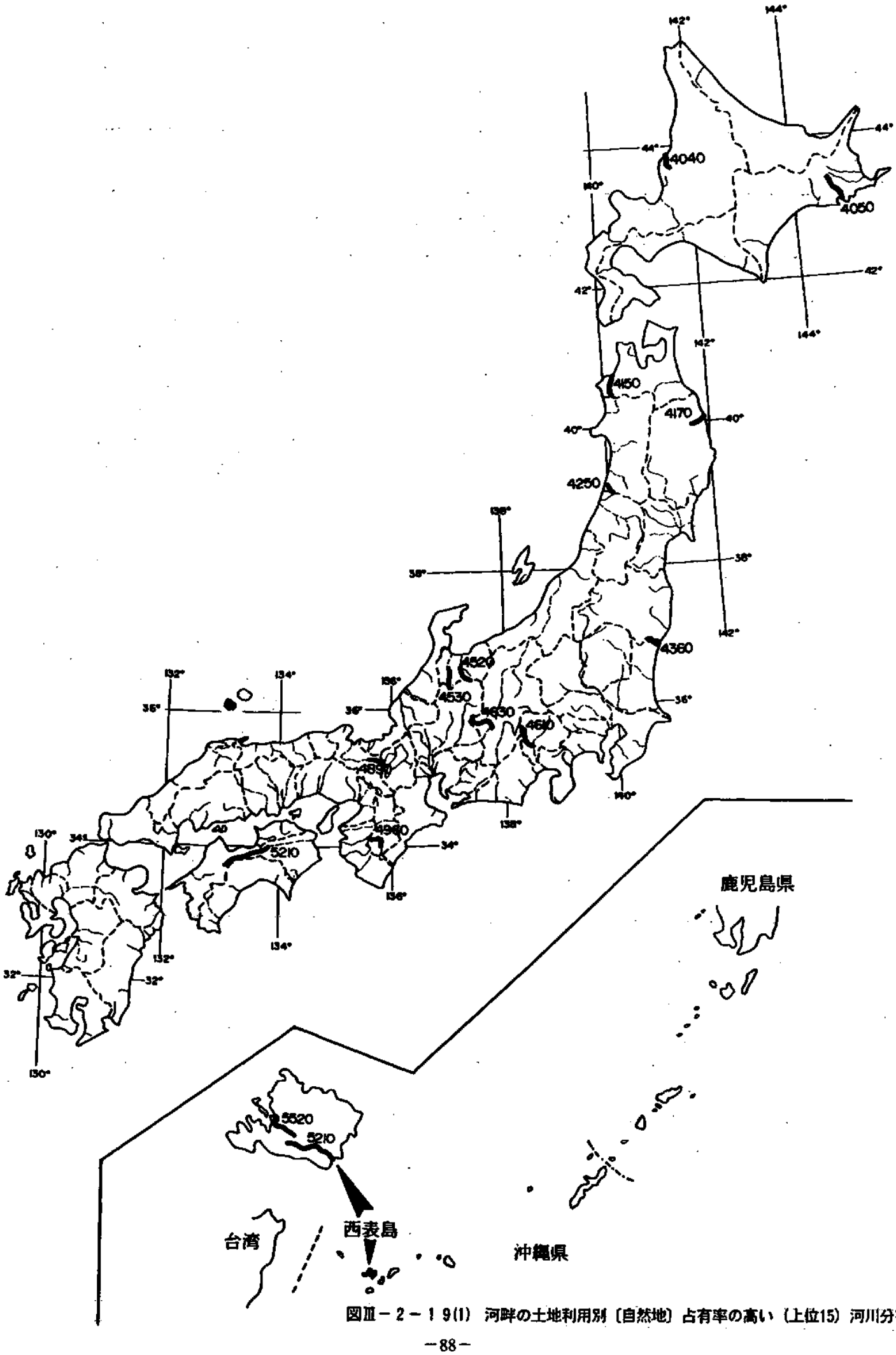
	河川コード	河川名	調査流路延長km	河畔の延長km(A)	該当土地利用延長km(B)	該当土地利用率 B／A%	水系群名	都道府県
〔自然地〕								(1)
1.	4050	別寒辺牛川	55.9	111.8	111.8	100.0	北海道－太平洋／北	北海道
	4250	岩股川	4.5	9.0	9.0	100.0	本州－日本海	秋田県
	4520	長棟川	19.0	38.0	38.0	100.0	本州－日本海	富山県
	4960	川原樋川	27.5	55.0	55.0	100.0	本州－太平洋／中南	奈良県
	5210	銅山川	61.4	122.8	122.8	100.0	四国－瀬戸内海	徳島・愛媛県
	5520	仲良川	7.0	14.0	14.0	100.0	沖縄－東シナ海	沖縄県
7.	5510	仲間川	9.0	18.0	17.0	94.4	沖縄－東シナ海	沖縄県
8.	4630	王滝川	54.8	109.6	102.6	93.6	本州－太平洋／中南	長野県
9.	4610	早川	66.1	132.2	122.2	92.4	本州－太平洋／中南	山梨県
10.	4040	暑寒別川	26.0	52.0	47.0	90.4	北海道－日本海	北海道
11.	4890	佐々里川	6.7	13.4	12.0	89.6	本州－日本海	京都府
12.	4530	利賀川	36.0	72.0	60.0	83.3	本州－日本海	富山県
13.	4170	安家川	28.7	57.4	47.7	83.1	本州－太平洋／中南	岩手県
14.	4360	大北川	29.2	58.4	46.4	79.5	本州－太平洋／中南	茨城県
15.	4150	赤石川	50.2	100.4	78.4	78.1	本州－日本海	青森県
〔農業地〕								(2)
1.	5020	八東川	32.0	64.0	53.0	82.8	本州－日本海	鳥取県
2.	4770	鵜戸川	11.2	22.4	18.4	82.1	本州－太平洋／中南	愛知県
3.	5350	川棚川	19.9	39.8	32.0	80.4	九州－日本海	長崎県
4.	4270	石沢川	71.9	143.8	113.9	79.2	本州－日本海	秋田県
5.	4080	頓別川	63.5	127.0	99.0	78.0	北海道－オホーツク海	北海道
6.	4380	小貝川	110.0	220.0	169.0	76.8	本州－太平洋／中南	茨城・栃木県
	5310	釣川	16.8	33.6	25.8	76.8	九州－日本海	福岡県
8.	4700	吉田川	30.4	60.8	44.8	73.7	本州－太平洋／中南	岐阜県

〔次頁に続く〕

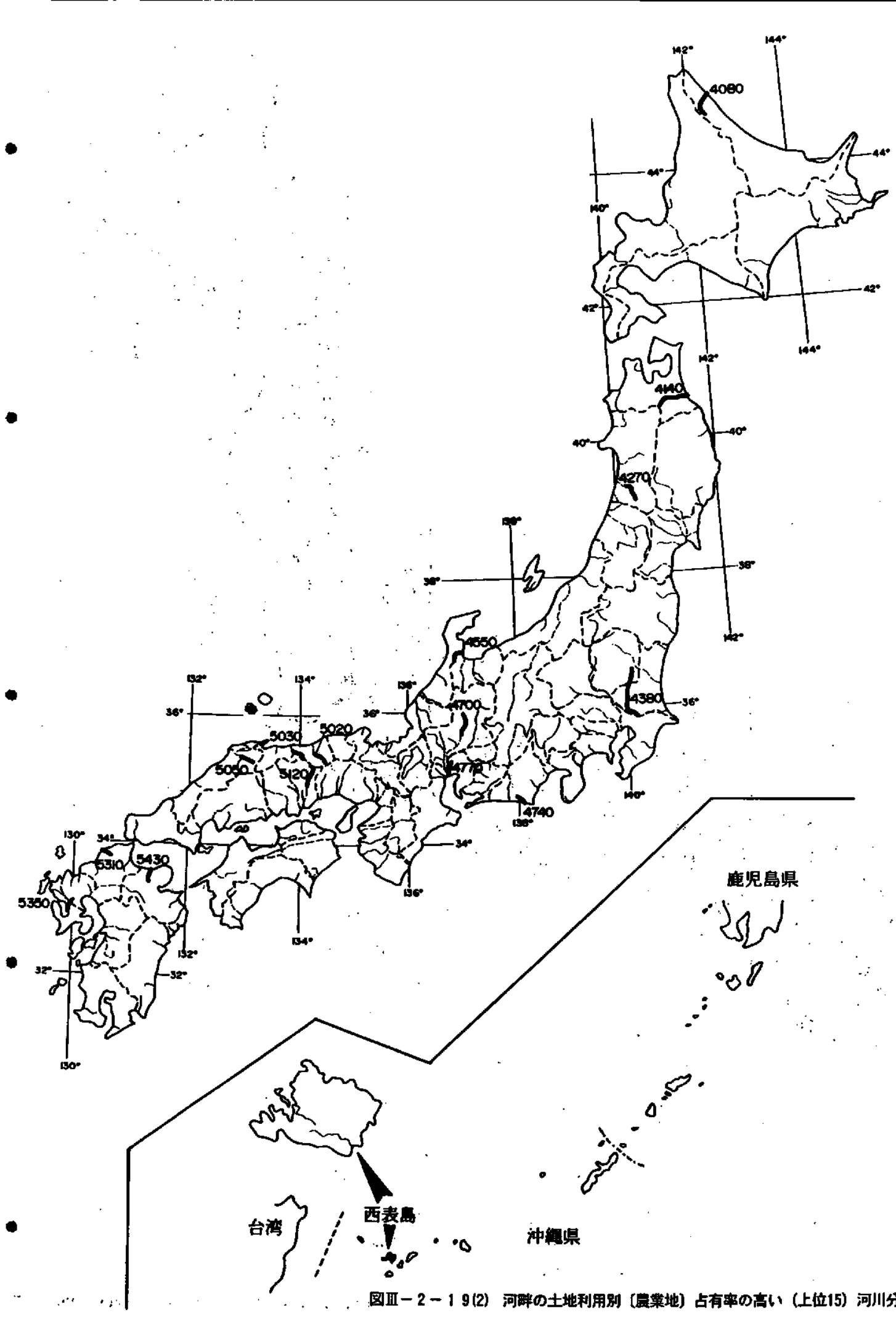
河川コード	河川名	調査流路延長km	河畔の延長km(A)	該当土地利用延長km(B)	該当土地利用率 B／A%	水系群名	都道府県
						〔前頁から続く〕	
9. 4550	上庄川	22.0	44.0	32.0	72.7	本州－日本海	富山県
10. 5050	赤川	21.0	42.0	29.0	69.0	本州－日本海	島根県
11. 5120	吉野川	66.0	132.0	91.0	68.9	本州－瀬戸内海	岡山県
12. 5430	駅館川	14.0	28.0	19.0	67.9	九州－瀬戸内海	大分県
13. 4140	相坂川	63.7	127.4	86.0	67.5	本州－太平洋／中南	青森県
14. 5030	小鹿川	12.0	24.0	16.0	66.7	本州－日本海	鳥取県
15. 4740	下小笠川	9.8	19.6	13.0	66.3	本州－太平洋／中南	静岡県

〔市街地・工業地〕 (3)

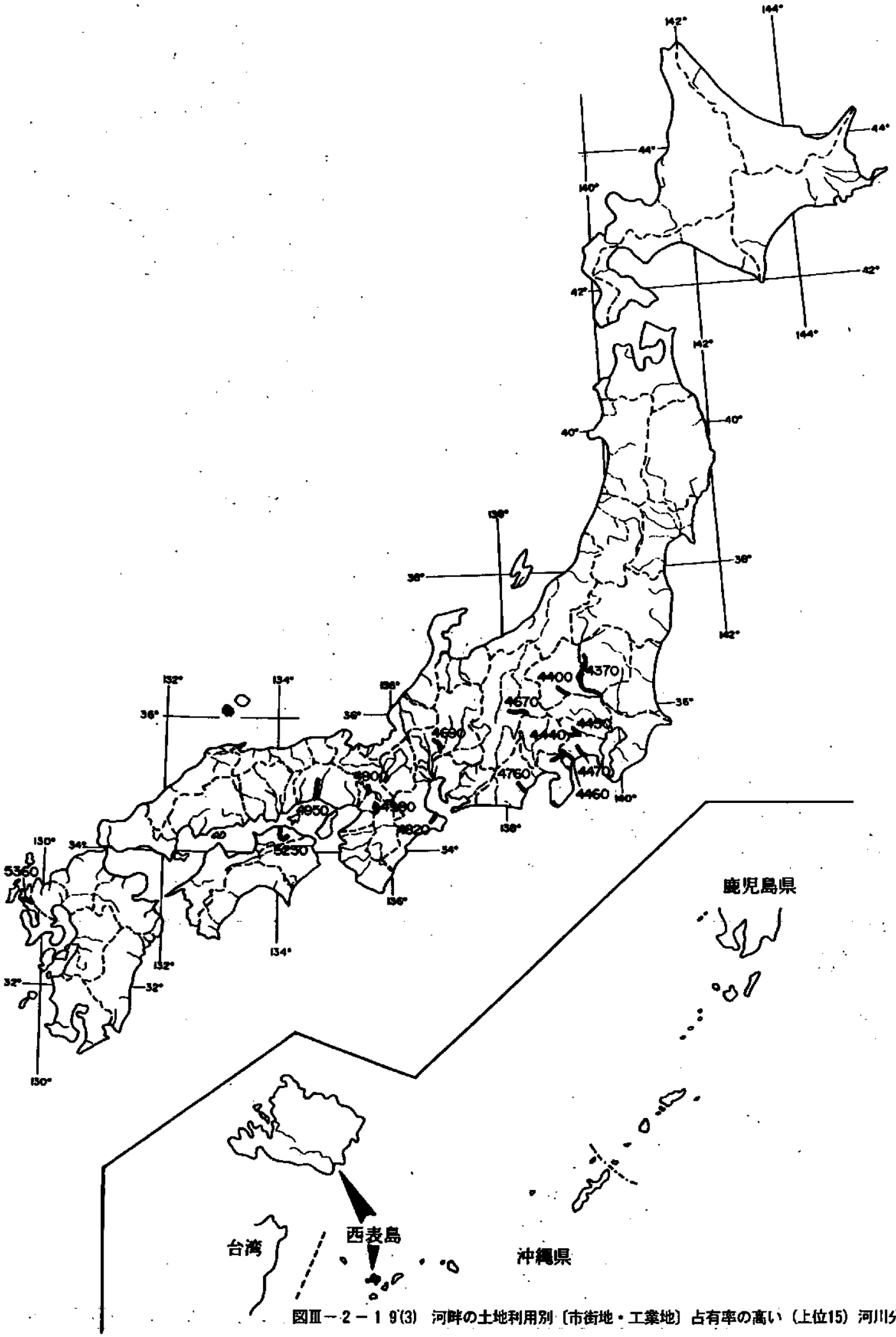
1. 4440	南浅川	8.1	16.2	14.1	87.0	本州－太平洋／中南	東京都
2. 4450	浅川	30.1	60.2	44.1	73.3	本州－太平洋／中南	東京都
3. 4980	竜田川	15.0	30.0	20.0	66.7	本州－瀬戸内海	奈良県
4. 4470	金目川	19.5	39.0	23.0	59.0	本州－太平洋／中南	神奈川県
5. 5360	佐々川	21.5	43.0	21.0	48.8	九州－日本海	長崎県
6. 4760	瀬戸川	26.4	52.8	23.0	43.6	本州－太平洋／中南	静岡県
7. 4460	酒匂川・鮎沢川	42.9	85.8	37.0	43.1	本州－太平洋／中南	神奈川県
8. 4690	武儀川	27.0	54.0	23.0	42.6	本州－太平洋／中南	岐阜県
9. 4370	渡良瀬川	107.5	215.0	81.0	37.7	本州－太平洋／中南	埼玉・茨城県 群馬・栃木県
10. 5230	香東川	37.0	74.0	27.0	36.5	四国－瀬戸内海	香川県
11. 4950	夢前川	37.9	75.8	27.0	35.6	本州－瀬戸内海	兵庫県
12. 4900	芥川	22.0	44.0	15.0	34.1	本州－瀬戸内海	大阪・京都府
13. 4400	烏川	61.8	123.6	40.0	32.4	本州－太平洋／中南	群馬県
14. 4820	五十鈴川	8.4	16.8	5.4	32.1	本州－太平洋／中南	三重県
15. 4670	上川	29.7	59.4	19.0	32.0	本州－太平洋／中南	長野県



図Ⅲ－２－１９(1) 河畔の土地利用別〔自然地〕占有率の高い〔上位15〕河川分布図



図Ⅲ－２－１９(2) 河畔の土地利用別〔農業地〕占有率の高い（上位15）河川分布図



図Ⅲ－2－19(3) 河畔の土地利用別〔市街地・工業地〕占有率の高い（上位15）河川分布図

3－4　連続する人工改変度の低い河畔

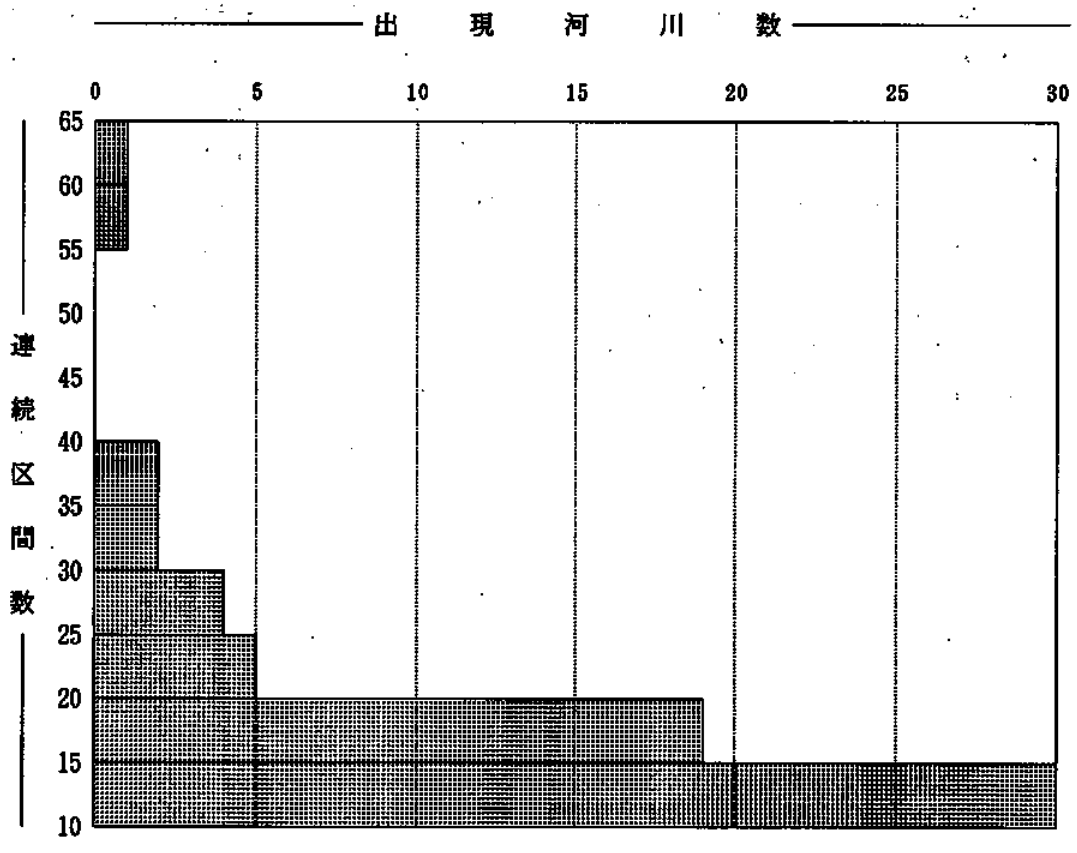
「連続する人工改変度の低い河畔」として、「河畔の自然地区間（両岸）が連続10区間以上（＝10㎞以上）のもの」を抽出した。

今回の調査対象の 153河川において、上記の条件を満たす「連続する人工改変度の低い河畔」は64区間帯である。その区間帯の単位区間の連続数は、最大62区間連続で5210銅山川（徳島・愛媛県）でみられる。

このような区間帯の単位区間の連続数規模によるその出現数を、図Ⅲ－２－２０に示す。この図でみるように、「連続する人工改変度の低い河畔」では、単位区間の連続が10～19区間であるものが大部分である。

このような中で、「連続する人工改変度の低い河畔」の上位を表Ⅲ－２－１６に掲げる。

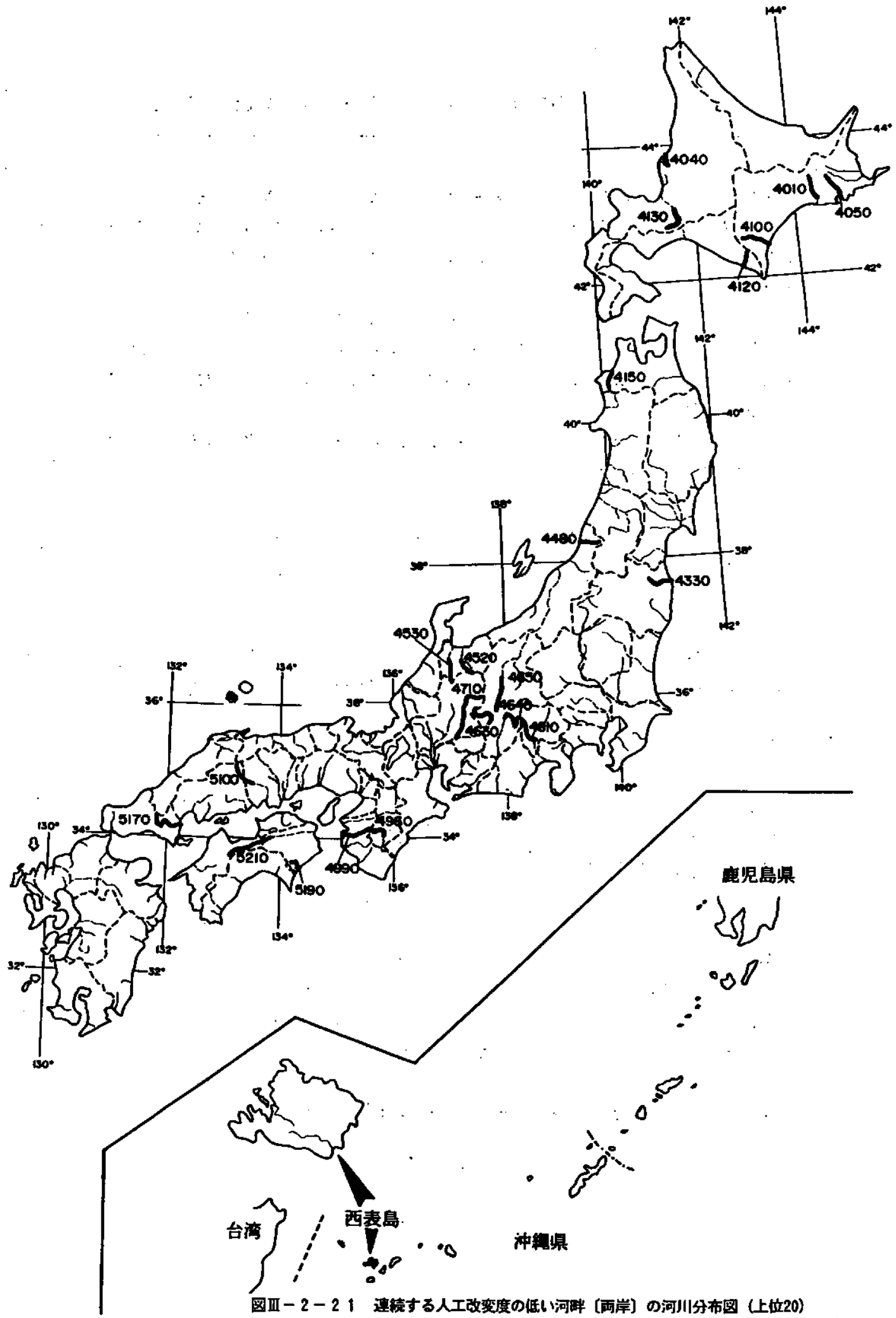
地理的分布は九州を除く全国各地に散在し特定の傾向は認められないが、強いて言えば、北海道及び中部山岳地域に係わる河川に属しているものが比較的多い（図Ⅲ－２－２１）。



図Ⅲ－２－２０　連続する人工改変度の低い（自然地）河畔（両岸）の連続区間規模別出現河川数

表Ⅲ－２－１６　連続する人工改変度の低い河畔〔両岸〕　上位20
（自然地の区間が連続10区間以上＝10km以上）

	河川コード	河川名	調査流路延長km	総区間数	連続した人工改変度低い河畔 連続区間数	河畔 始	河畔 終	水系群名	都道府県
1.	5210	銅山川	61.4	62	62	1	62	四国－瀬戸内海	徳島・愛媛県
2.	4050	別寒辺牛川	55.9	56	56	1	56	北海道－太平洋／北	北海道
3.	4150	赤石川	50.2	51	37	15	51	本州－日本海	青森県
4.	4640	三峰川	61.3	62	36	27	62	本州－太平洋／中南	長野県
5.	4100	歴舟川	64.7	65	34	32	65	北海道－太平洋／北	北海道
6.	4630	王滝川	54.8	55	32	24	55	本州－太平洋／中南	長野県
7.	4960	川原樋川	27.5	28	28	1	28	本州－太平洋／中南	奈良県
8.	4330	新田川	62.9	63	26	17	42	本州－太平洋／中南	福島県
	4610	早川	66.1	67	26	42	67	本州－太平洋／中南	山梨県
	5100	成羽川	73.7	75	26	16	39	本州－瀬戸内海	岡山・広島県
11.	4040	暑寒別川	26.0	26	23	4	26	北海道－日本海	北海道
	4130	千歳川	69.2	70	23	47	69	北海道－日本海	北海道
13.	4480	三面川	41.0	42	22	21	42	本州－日本海	新潟県
14.	4120	日高幌別川	33.8	34	21	14	34	北海道－太平洋／中南	北海道
	4710	飛騨川	137.0	137	21	117	137	本州－太平洋／中南	岐阜県
16.	4520	長棟川	19.0	19	19	1	19	本州－日本海	富山県
	4650	奈良井川	62.1	63	19	45	63	本州－日本海	長野県
	4990	有田川	103.0	103	19	70	88	本州－瀬戸内海	和歌山県
	5170	錦川	110.3	111	19	64	82	本州－瀬戸内海	山口県
20.	4010	雪裡川	58.6	59	18	1	18	北海道－太平洋／北	北海道
	4530	利賀川	36.0	36	18	19	36	本州－日本海	富山県
	5190	海部川	36.0	36	18	19	36	四国－太平洋／中南	徳島県



図Ⅲ－２－２１　連続する人工改変度の低い河畔（両岸）の河川分布図（上位20）
（自然地の区間が連続10区間以上＝10km以上）

4. 調査対象「支川」河川とその幹川の改変状況比較

調査対象河川のうち「支川」は79河川であることは前述したが、それらを幹川との関係でみると48水系にまとめられる。これらの48水系毎に、調査対象「支川」とその幹川の比較を、水際線・河原・河畔の自然地率の比較、及び河原の存在率の比較でおこない表Ⅲ－２－１７・１８・１９にとりまとめた。

これらの表において、支川が複数ある場合は、幹川と対で比較するために、これらの複数河川を一連のものとして扱って自然地率及び河原存在率を算出してある。また、幹川のデータは、第３回調査結果から引用した。したがって、支川のデータと幹川のデータとの間には、７年間の時間的差があることを念頭においておく必要がある。

表Ⅲ－２－１７・１８・１９に整理された数値に基づき、比較を数量として表すために、下記の計算をおこない、その結果（差ポイント）を図Ⅲ－２－２２に表した。

比較（差ポイント）＝〔第４回調査（今回調査）の率〕－〔第３回調査の率〕

(1) 水際線の改変比較（自然地率比較）

差ポイントの結果は、負となったもの25水系、正となったもの23水系であった。これらの全般的な地理的概況は、北海道の調査対象河川は正、瀬戸内海に係わる河川と九州における調査対象河川は一部の例外はあるが負の傾向にあるということができる。

(2) 河原の存在率

「支川」調査対象河川の圧倒的多数の42水系で負の結果となっている。これは、幹川よりも調査対象「支川」においては河原の存在率が小さいことを意味しており、支川においては、河川勾配や流速等によって、その幹川よりも河原が形成されにくいことを物語っている。

(3) 河原の改変比較（自然地率比較）

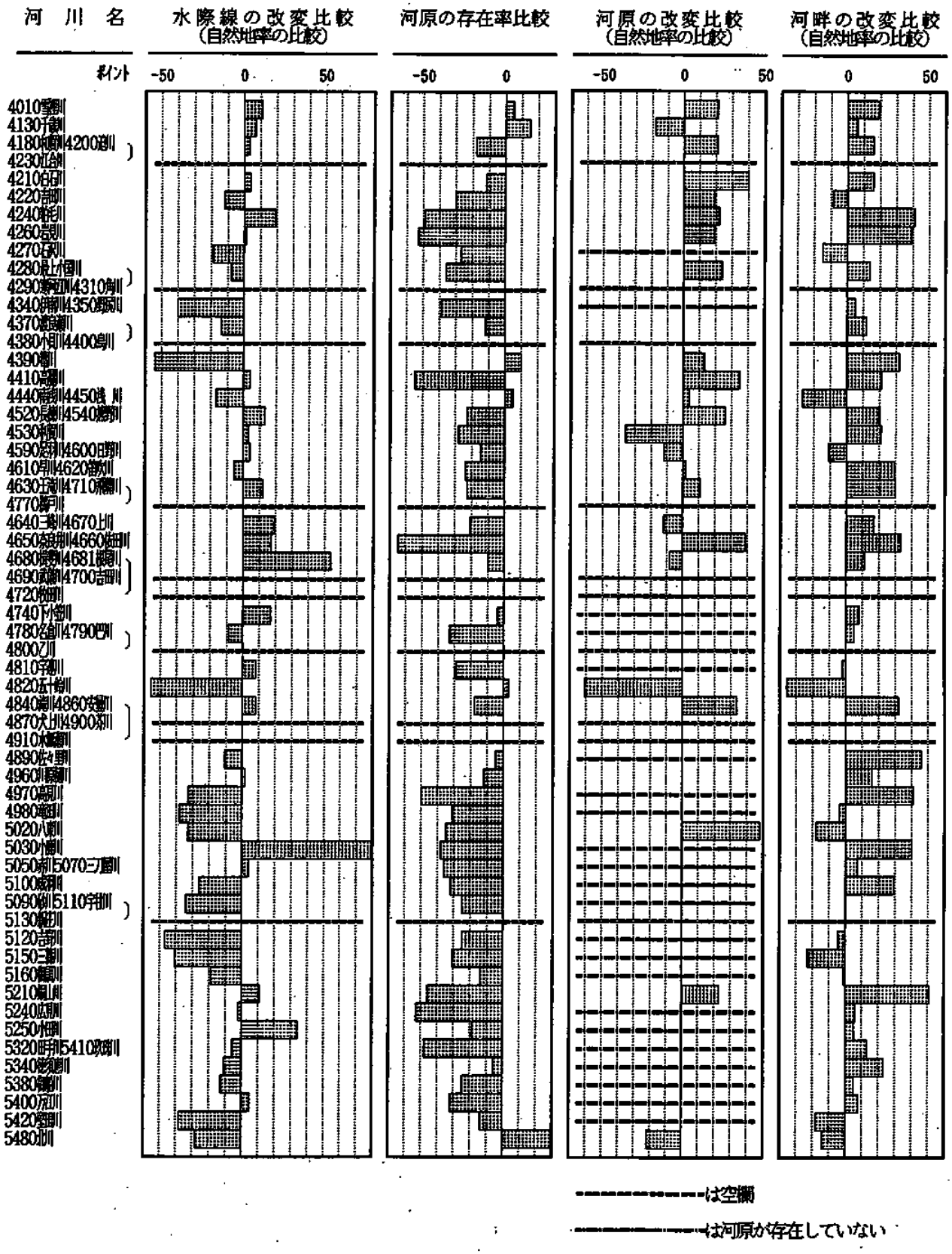
24水系(ﾃﾞｰﾀ) だけであるが、その大部分(17ﾃﾞｰﾀ) でほぼ20ポイント以上の正の結果となっている。つまり、支川の河原の自然地率が、幹川のそれよりもかなり大きい値を呈している状況となっている。

(4) 河畔の改変比較（自然地率比較）

「支川」調査対象河川の34水系で正の結果となっている。この内訳は、15水系で20ポイント以上の正の結果が、10水系で10ポイント以上20ポイント未満の正の結果となっている。これらの結果から、「支川」調査対象河川においては、幹川と比較して、河畔の人工改変が小さいことがうかがえる。

以上により、水系毎の水際線・河原・河畔改変状況の傾向の規則性は特に認められないと言える。

改変状況（自然地率）及び存在状況比較〔第４回の率－第３回の率の差ポイント〕



図Ⅲ－２－２２　調査対象河川〔支川〕と第３回調査河川〔幹川〕の水際線・河原・河畔等の改変状況比較

表Ⅲ－２－１７　調査対象河川「支川」とその幹川の水際線改変状況比較（自然地率）

	第４回調査対象河川〔支川〕 1992年		第３回調査対象河川〔幹川〕 1985年	
	河川コード	河川名	水際線の自然地率％	河川コード	河川名	水際線の自然地率％
1	4010	雪裡川	96.9	0120	釧路川	86.1
2	4130	千歳川	88.3	0070	石狩川	81.4
3	4180	和賀川	90.8	0170	北上川	87.9
4	4200	追川				
5	4230	江合川				
6	4210	白石川	91.8	0200	阿武隈川	88.3
7	4220	吉田川	82.6	0180	鳴瀬川	94.5
8	4240	柏毛川	94.9	0210	米代川	76.1
9	4260	岩見川	85.1	0220	雄物川	83.7
10	4270	石沢川	61.0	0230	子吉川	80.0
11	4280	最上小国川	77.0	0240	最上川	84.5
12	4290	寒河江川				
13	4310	角川				
14	4340	伊南川	47.6	0340	阿賀野川	87.1
15	4350	野尻川				
16	4370	渡良瀬川	72.6	0280	利根川	86.9
17	4380	小貝川				
18	4400	烏川				
19	4390	箒川	36.0	0270	那珂川	89.7
20	4410	高麗川	79.0	0290	荒川	75.4
21	4440	南浅川	67.8	0300	多摩川	84.5
22	4450	浅川				
23	4520	長棟川	72.9	0400	神通川	59.8
24	4540	熊野川				
25	4530	利賀川	91.9	0410	庄川	88.9
26	4590	足羽川	86.4	0670	九頭竜川	82.9
27	4600	日野川				
28	4610	早川	85.2	0460	富士川	90.8
29	4620	笛吹川				
30	4630	王滝川	80.3	0540	木曽川	68.8
31	4710	飛騨川				
32	4770	鵜戸川				
33	4640	三峰川	94.0	0500	天竜川	75.9
34	4670	上川				
35	4650	奈良井川	86.8	0350	信濃川	69.6
36	4660	依田川				
37	4680	揖斐川	69.2	0542	長良川	15.4
38	4681	根尾川				
39	4690	武儀川				
40	4700	吉田川				
41	4720	牧田川				
42	4740	下小笠川	67.5	0490	菊川	50.7
43	4780	名倉川	72.7	0520	矢作川	81.2
44	4790	巴川				
45	4800	乙川				
46	4810	宇連川	88.8	0510	豊川	80.9
47	4820	五十鈴川	27.4	0580	宮川	83.6
48	4840	滝川	73.2	0600	淀川	65.3
49	4860	安曇川				
50	4870	犬上川				
51	4900	芥川				
52	4910	水無瀬川				
53	4890	佐々里川	77.6	0590	由良川	88.2
54	4960	川原樋川	96.2	0660	新宮川	94.5
55	4970	高見川	55.1	0650	紀の川	88.1
56	4980	竜田川	12.0	0610	大和川	50.3
57	5020	八東川	5.0	0690	千代川	38.1
58	5030	小鹿川	100.0	0700	天神川	20.9
59	5050	赤川	75.8	0720	斐伊川	71.7
60	5070	三刀屋川				
61	5100	成羽川	46.7	0770	高梁川	73.1
62	5090	砂川	46.3	0760	旭川	80.2
63	5110	宇甘川				
64	5130	新庄川				
65	5120	吉野川	30.3	0750	吉井川	76.8
66	5150	三篠川	27.2	0790	太田川	68.2
67	5160	御調川	9.0	0780	芦田川	28.0
68	5210	銅山川	98.0	0820	吉野川	87.2
69	5240	広見川	93.7	0890	四万十川（渡川）	95.8
70	5250	小田川	95.9	0860	肱川	62.4
71	5320	田手川	49.4	0920	筑後川	55.4
72	5410	玖珠川				
73	5340	徳須恵川	29.2	0940	松浦川	40.0
74	5380	御船川	76.2	1000	緑川	89.3
75	5400	万江川	86.0	1010	球磨川	81.1
76	5420	堅田川	39.6	1040	番匠川	77.1
77	5480	北川	64.7	1050	五ヶ瀬川	92.4

表Ⅲ－２－１８ 調査対象河川「支川」とその幹川の河原の存在率と改変状況比較（自然地率）

	第４回調査対象河川（支川）1992年			第３回調査対象河川（幹川）1985年		
	河川コード 河川名	河原の存在率％	河原の自然地率％	河川コード 河川名	河原の存在率％	河原の自然地率％
1	4010雷 裡 川	100.0	98.1	0120釧 路 川	95.2	77.0
2	4130千 歳 川	100.0	46.5	0070石 狩 川	85.5	64.3
3	4180和 賀 川	37.2	77.4	0170北 上 川	55.6	58.5
4	4200追 川					
5	4230江 合 川					
6	4210白 石 川	14.3	100.0	0200阿武隈川	26.0	59.8
7	4220吉 田 川	35.2	86.8	0180鳴 瀬 川	65.4	67.5
8	4240柏 毛 川	4.7	100.0	0210米 代 川	53.3	78.1
9	4260岩 見 川	4.4	85.0	0220雄 物 川	57.6	65.6
10	4270石 沢 川	0.0	―	0230子 吉 川	27.4	87.6
11	4280最上小国川	8.3	95.0	0240最 上 川	44.0	71.1
12	4290寒河江川					
13	4310角 川					
14	4340伊 南 川	0.0	―	0340阿賀野川	39.0	77.6
15	4350野 尻 川					
16	4370渡良瀬川	66.2	63.7	0280利 根 川	77.9	63.8
17	4380小 貝 川					
18	4400鳥 川					
19	4390菱 川	82.8	98.6	0270那 珂 川	72.7	83.2
20	4410高 麗 川	23.2	87.8	0290荒 川	77.7	52.7
21	4440南 浅 川	60.2	63.9	0300多 摩 川	55.2	59.8
22	4450浅 川					
23	4520長 棟 川	1.9	100.0	0400神 通 川	24.8	73.7
24	4540熊 野 川					
25	4530利 賀 川	2.8	50.0	0410庄 川	30.9	86.3
26	4590足 羽 川	43.7	61.8	0670九頭竜川	58.5	73.5
27	4600日 野 川					
28	4610早 川	65.0	95.3	0460富 士 川	88.5	93.2
29	4620笛 吹 川					
30	4630王 滝 川	19.7	97.0	0540木 曽 川	42.3	86.4
31	4710飛 騨 川					
32	4770鵜 戸 川					
33	4640三 峰 川	15.4	83.6	0500天 竜 川	35.9	95.4
34	4670上 川					
35	4650奈良井川	1.1	100.0	0350信 濃 川	68.2	61.5
36	4660依 田 川					
37	4680横 斐 川	49.5	81.9	0542長 良 川	59.9	89.7
38	4681根 尾 川					
39	4690武 儀 川					
40	4700吉 田 川					
41	4720牧 田 川					
42	4740下小笠川	0.0	―	0490菊 川	3.6	100.0
43	4780名 倉 川	0.0	―	0520矢 作 川	33.1	81.0
44	4790巴 川					
45	4800乙 川					
46	4810宇 連 川	0.0	―	0510豊 川	28.8	64.8
47	4820五十鈴川	11.9	0.0	0580宮 川	8.8	61.3
48	4840滝 川	33.1	94.7	0600淀 川	51.3	61.0
49	4860安 曇 川					
50	4870犬 上 川					
51	4900芥 川					
52	4910水無瀬川					
53	4890佐々里川	0.0	―	0590由 良 川	5.0	50.0
54	4930川原樋川	21.8	100.0	0660新 宮 川	33.3	99.6
55	4970高 見 川	0.0	―	0650紀 の 川	50.0	84.5
56	4980竜 田 川	0.0	―	0610大 和 川	30.6	66.8
57	5020八 東 川	6.3	100.0	0690千 代 川	41.7	52.5
58	5030小 鹿 川	0.0	―	0700天 神 川	37.5	53.3
59	5050赤 川	0.0	―	0720斐 伊 川	35.6	80.9
60	5070三刀屋川					
61	5100成 羽 川	0.0	―	0770高 梁 川	31.8	81.7
62	5090砂 川	0.0	―	0760旭 川	25.0	86.9
63	5110宇 甘 川					
64	5130新 庄 川					
65	5120吉 野 川	0.0	―	0750吉 井 川	24.8	81.9
66	5150三 篠 川	0.0	―	0790太 田 川	31.1	84.4
67	5160御 調 川	0.0	―	0780芦 田 川	13.8	50.0
68	5210銅 山 川	1.6	100.0	0820吉 野 川	47.6	76.8
69	5240広 見 川	0.0	―	0890四万十川（渡川）	52.6	94.2
70	5250小 田 川	0.0	―	0860肱 川	19.1	68.2
71	5320田 手 川	0.0	―	0920筑 後 川	47.5	45.7
72	5410玖 珠 川					
73	5340徳須恵川	0.0	―	0940松 浦 川	6.4	0.0
74	5380御 船 川	0.0	―	1000緑 川	25.0	76.5
75	5400万 江 川	0.0	―	1010球 磨 川	32.4	90.3
76	5420堅 田 川	0.0	―	1040番 匠 川	14.3	61.7
77	5480比 川	47.3	71.3	1050五ヶ瀬川	18.4	92.8

表Ⅲ－２－１９　調査対象河川「支川」とその幹川の河畔の土地利用状況比較（自然地率）

	第４回調査対象河川〔支川〕 1992年		第３回調査対象河川〔幹川〕 1985年	
	河川コード	河川名	河畔の自然地率 %	河川コード	河川名	河畔の自然地率 %
1	4010	雪裡川	65.0	0120	釧路川	45.7
2	4130	千歳川	34.8	0070	石狩川	29.3
3	4180	和賀川	37.8	0170	北上川	22.0
4	4200	迫川				
5	4230	江合川				
6	4210	白石川	43.8	0200	阿武隈川	27.9
7	4220	吉田川	31.5	0180	鳴瀬川	40.4
8	4240	粕毛川	58.1	0210	米代川	16.7
9	4260	岩見川	56.0	0220	雄物川	17.5
10	4270	石沢川	20.1	0230	子吉川	34.7
11	4280	最上小国川	32.8	0240	最上川	19.2
12	4290	寒河江川				
13	4310	角川				
14	4340	伊南川	43.3	0340	阿賀野川	38.5
15	4350	野尻川				
16	4370	渡良瀬川	30.5	0280	利根川	18.1
17	4380	小貝川				
18	4400	烏川				
19	4390	鬱川	64.6	0270	那珂川	33.1
20	4410	高麗川	43.3	0290	荒川	22.3
21	4440	南浅川	16.0	0300	多摩川	42.7
22	4450	浅川				
23	4520	長棟川	66.9	0400	神通川	47.1
24	4540	熊野川				
25	4530	利賀川	83.3	0410	庄川	62.2
26	4590	足羽川	28.8	0670	九頭竜川	39.4
27	4600	日野川				
28	4610	早川	68.3	0460	富士川	39.8
29	4620	笛吹川				
30	4630	王滝川	74.8	0540	木曽川	45.1
31	4710	飛騨川				
32	4770	鵜戸川				
33	4640	三峰川	66.5	0500	天竜川	49.8
34	4670	上川				
35	4650	奈良井川	50.4	0350	信濃川	17.2
36	4660	依田川				
37	4680	揖斐川	33.4	0542	長良川	22.4
38	4681	根尾川				
39	4690	武儀川				
40	4700	吉田川				
41	4720	牧田川				
42	4740	下小笠川	8.2	0490	菊川	0.0
43	4780	名倉川	53.7	0520	矢作川	48.7
44	4790	巴川				
45	4800	乙川				
46	4810	宇連川	41.6	0510	豊川	43.1
47	4820	五十鈴川	20.2	0580	宮川	56.6
48	4840	滝川	53.7	0600	淀川	21.7
49	4860	安曇川				
50	4870	犬上川				
51	4900	芥川				
52	4910	水無瀬川				
53	4890	佐々里川	89.6	0590	由良川	44.0
54	4960	川原樋川	100.0	0660	新宮川	84.0
55	4970	高見川	77.6	0650	紀の川	36.7
56	4980	竜田川	10.0	0610	大和川	13.7
57	5020	八東川	10.9	0690	千代川	29.2
58	5030	小鹿川	66.7	0700	天神川	26.6
59	5050	赤川	35.2	0720	斐伊川	27.8
60	5070	三刀屋川				
61	5100	成羽川	58.3	0770	高梁川	29.5
62	5090	砂川	34.0	0760	旭川	33.7
63	5110	宇甘川				
64	5130	新庄川				
65	5120	吉野川	21.2	0750	吉井川	26.4
66	5150	三篠川	26.5	0790	太田川	49.0
67	5160	御調川	29.5	0780	芦田川	30.5
68	5210	銅山川	100.0	0820	吉野川	49.0
69	5240	広見川	54.5	0890	四万十川（渡川）	48.3
70	5250	小田川	53.5	0860	肱川	48.3
71	5320	田手川	34.9	0920	筑後川	21.7
72	5410	玖珠川				
73	5340	徳須恵川	38.5	0940	松浦川	16.0
74	5380	御船川	54.9	1000	緑川	50.0
75	5400	万江川	68.5	1010	球磨川	60.6
76	5420	堅田川	34.6	1040	番匠川	52.4
77	5480	北川	47.9	1050	五ヶ瀬川	61.7

5. 自然性の高い河川区間帯

3節までで、水際線の改変状況、河原の土地利用改変状況、河畔の土地利用改変状況をみてきた。この節では、調査対象河川の「自然性の高い連続する河川区間帯（10区間以上／10km以上）」について集計・解析した結果を述べる。

「自然性の高い連続する河川区間（帯）」の定義を、次のように定めた。

以下の条件を満たす連続する区間を「自然性の高い連続する河川区間（帯）」とする

①10区間(10km)以上の連続する区間であること。
②区間の水際線において、自然地が80％以上であること。
③区間に河原がある場合は、河原土地利用において自然地が80％以上であること。
④区間の河畔の土地利用において、両岸ともに最も卓越している土地利用が自然地であること
⑤河川工作物が存在しないこと。

調査対象153河川の総区間数は 6,307区間であるが、上記の条件のうちの②～⑤の条件を満たす「自然性の高い区間」は、 128河川の 1,538区間であった。１区間でも「自然性の高い河川区間」を有している河川は、調査対象河川の83.7％であり、調査対象河川の総区間の24.4％が「自然性の高い河川区間」となっている。

これらの連続性をみてみると、「自然性の高い連続する河川区間帯（連続10区間以上／原則的には10km以上）」（上記の定義条件の①～⑤を満たす）は、26河川の33区間帯であった。このことから、全体としては「自然性の高い区間」の連続性は、きわめて乏しいことがうかがえる。

「自然性の高い連続する河川区間帯」を表Ⅲ－２－２０に示す。

最も長い「自然性の高い連続する河川区間帯」は4050別寒辺牛川（北海道）の56区間の連続で、以下に、5210銅山川（徳島・愛媛県）の24区間連続、4100歴舟川（北海道）の22区間連続、4120日高幌別川（北海道）の20区間連続となっている。

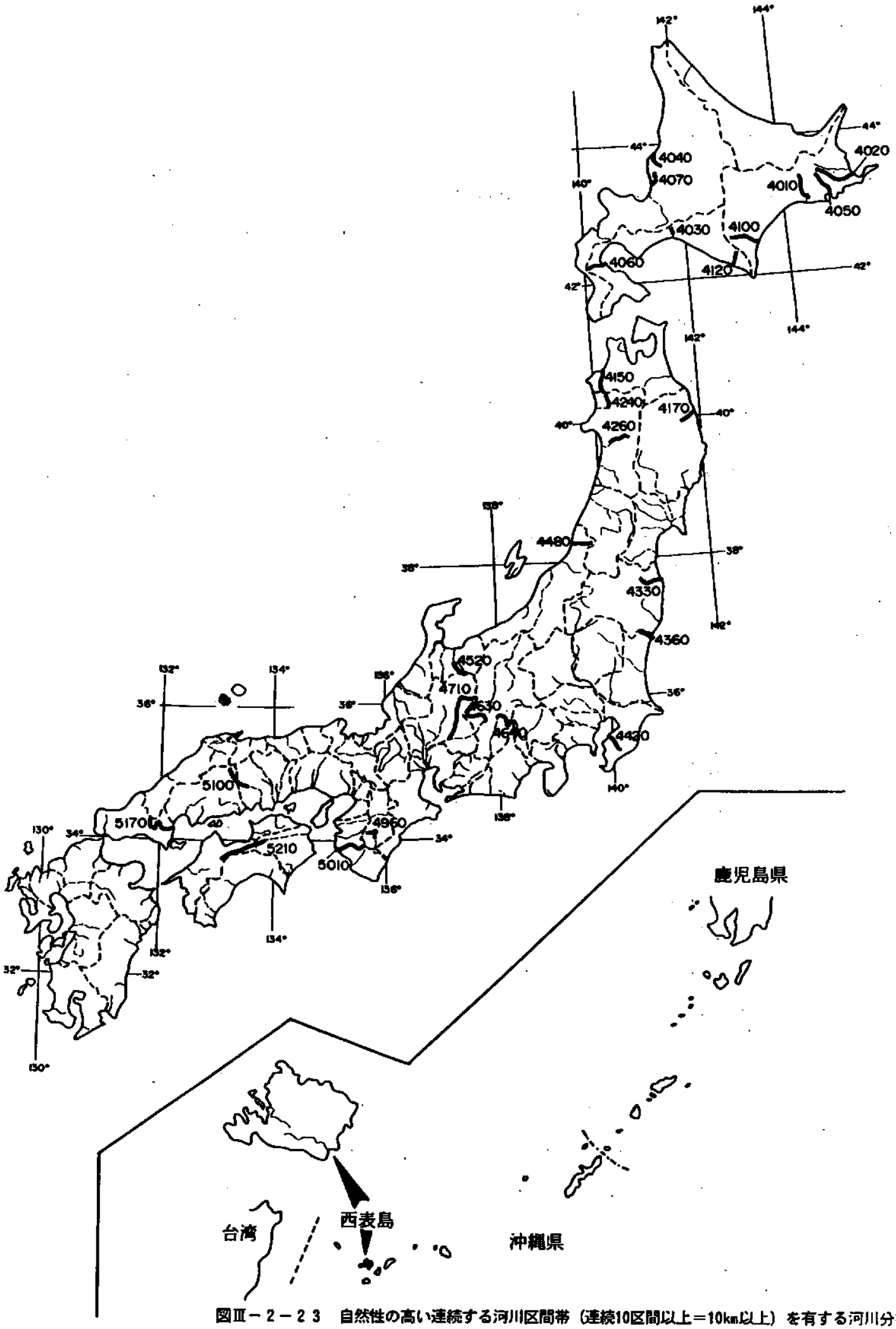
また、4010雷裡川（北海道）、4150赤石川（青森県）、4020風蓮川（北海道）の３つの河川では、該当の区間連続は２回、4640三峰川（長野県）と5170錦川（山口県）の２つの河川では、該当区間連続が３回、それぞれ認められる。

これらの「自然性の高い連続する河川区間帯」をもつ河川の地理的位置は九州地域を除く全国に分散しているが、概して、北海道、東北、中部山岳地域等に集中している（図Ⅲ－２－２３）。

表Ⅲ－２－２０　自然性の高い連続する河川区間帯

（連続10区間以上＝10km以上）

	河川コード	河川名	調査流路延長km	総区間数	自然性の高い連続区間 連続区間数	始	終	水系群名	都道府県
1.	4050	別寒辺牛川	55.9	56	56	1	56	北海道－太平洋／北	北海道
2.	5210	銅山川	61.4	62	24	30	53	四国－瀬戸内海	徳島・愛媛県
3.	4100	歴舟川	64.7	65	22	44	65	北海道－太平洋／北	北海道
4.	4120	日高幌別川	33.8	34	20	15	34	北海道－太平洋／中南	北海道
5.	4520	長棟川	19.0	19	19	1	19	本州－日本海	富山県
6.	4010	雪裡川	58.6	59	18	1	18	北海道－太平洋／北	北海道
7.	4150	赤石川	50.2	51	17	35	51	本州－日本海	青森県
	4330	新田川	62.9	63	17	20	36	本州－太平洋／中南	福島県
	4630	王滝川	54.8	55	17	39	55	本州－太平洋／中南	長野県
10.	4170	安家川	28.7	29	16	2	17	本州－太平洋／中南	岩手県
	4480	三面川	41.0	42	16	22	37	本州－日本海	新潟県
12.	4020	風蓮川	99.5	100	15	19	33	北海道－太平洋／北	北海道
13.	4010	雪裡川	58.6	59	14	46	59	北海道－太平洋／北	北海道
	4260	岩見川	45.5	46	14	33	46	本州－日本海	秋田県
	5010	日高川	119.2	120	14	57	70	本州－太平洋／中南	和歌山県
	5170	錦川	110.3	111	14	69	82	本州－瀬戸内海	山口県
17.	4020	風蓮川	99.5	100	13	4	16	北海道－太平洋／北	北海道
18.	4040	暑寒別川	26.0	26	12	15	26	北海道－日本海	北海道
	4710	飛騨川	137.0	137	12	126	137	本州－太平洋／中南	岐阜県
	4960	川原樋川	27.5	28	12	10	21	本州－太平洋／中南	奈良県
	5170	錦川	110.3	111	12	32	43	本州－瀬戸内海	山口県
22.	4030	美々川	18.2	18	11	4	14	北海道－太平洋／中南	北海道
	4070	厚田川	32.0	32	11	22	32	北海道－日本海	北海道
	4360	大北川	29.2	30	11	20	30	本州－太平洋／中南	茨城県
	4640	三峰川	61.3	62	11	40	50	本州－太平洋／中南	長野県
	4640	三峰川	61.3	62	11	52	62	本州－太平洋／中南	長野県
	5100	成羽川	73.7	75	11	27-34-33-35		本州－瀬戸内海	岡山・広島県
28.	4060	遊楽部川	30.0	30	10	21	30	北海道－太平洋／中南	北海道
	4150	赤石川	50.2	51	10	24	33	本州－日本海	青森県
	4240	粕毛川	21.5	22	10	13	22	本州－日本海	秋田県
	4420	小櫃川	72.7	73	10	64	73	本州－太平洋／中南	千葉県
	4640	三峰川	61.3	62	10	28	37	本州－太平洋／中南	長野県
	5170	錦川	110.3	111	10	49	58	本州－瀬戸内海	山口県



図Ⅲ－２－２３　自然性の高い連続する河川区間帯（連続10区間以上＝10km以上）を有する河川分布図

次に、調査対象河川毎に、総区間数に対する「自然性の高い区間」数の比を求めた。

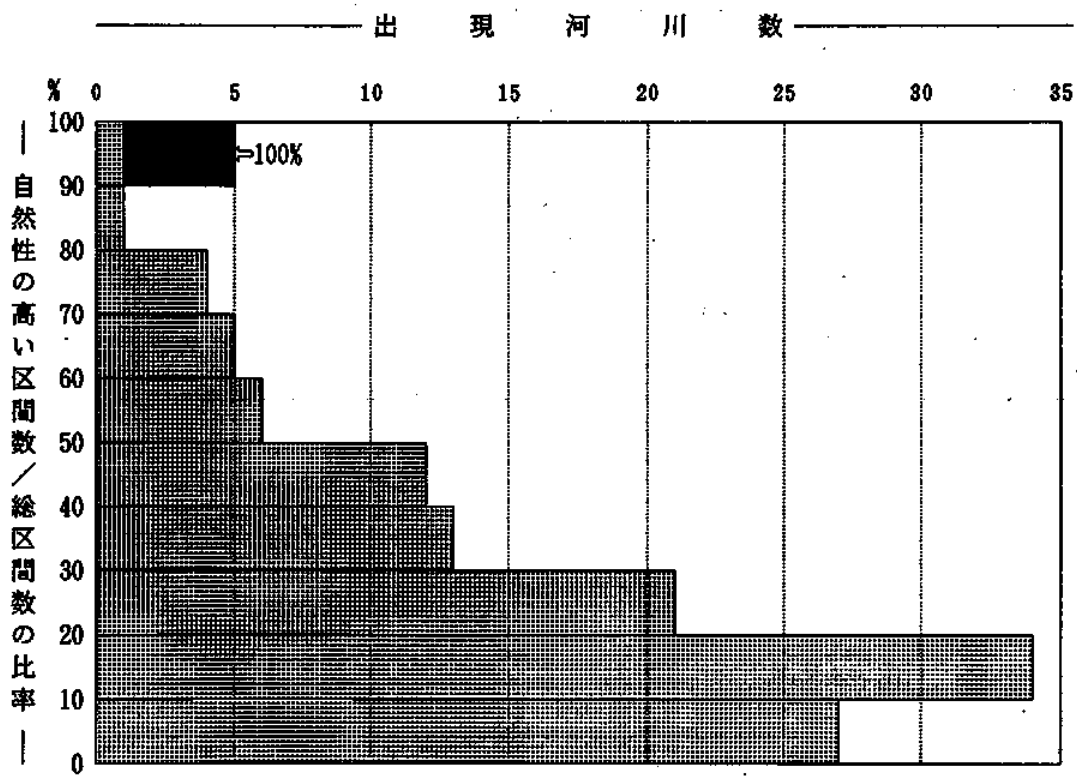
この結果から、上位25を表Ⅲ－２－２１に掲げる。また、この区間数比の階級区分別の出現河川数を図Ⅲ－２－２４に示す。

調査対象河川の全区間が「自然性の高い区間」である河川は、次の４河川である。

4050別寒辺牛川(北海道)　4250岩股川(秋田県)　4520長棟川(富山県)　5520仲良川(沖縄県)

図Ⅲ－２－２４にみるように、最も出現河川数の多い区間比は、10％以上20％未満の34河川である。以下、０％より大きく10％未満の27河川、20％以上30％未満の21河川となっている。30％未満の河川数は82河川であり、この河川数は、１区間でも「自然性の高い区間」を有する 128河川の64％、調査対象 153河川の54％となっている。

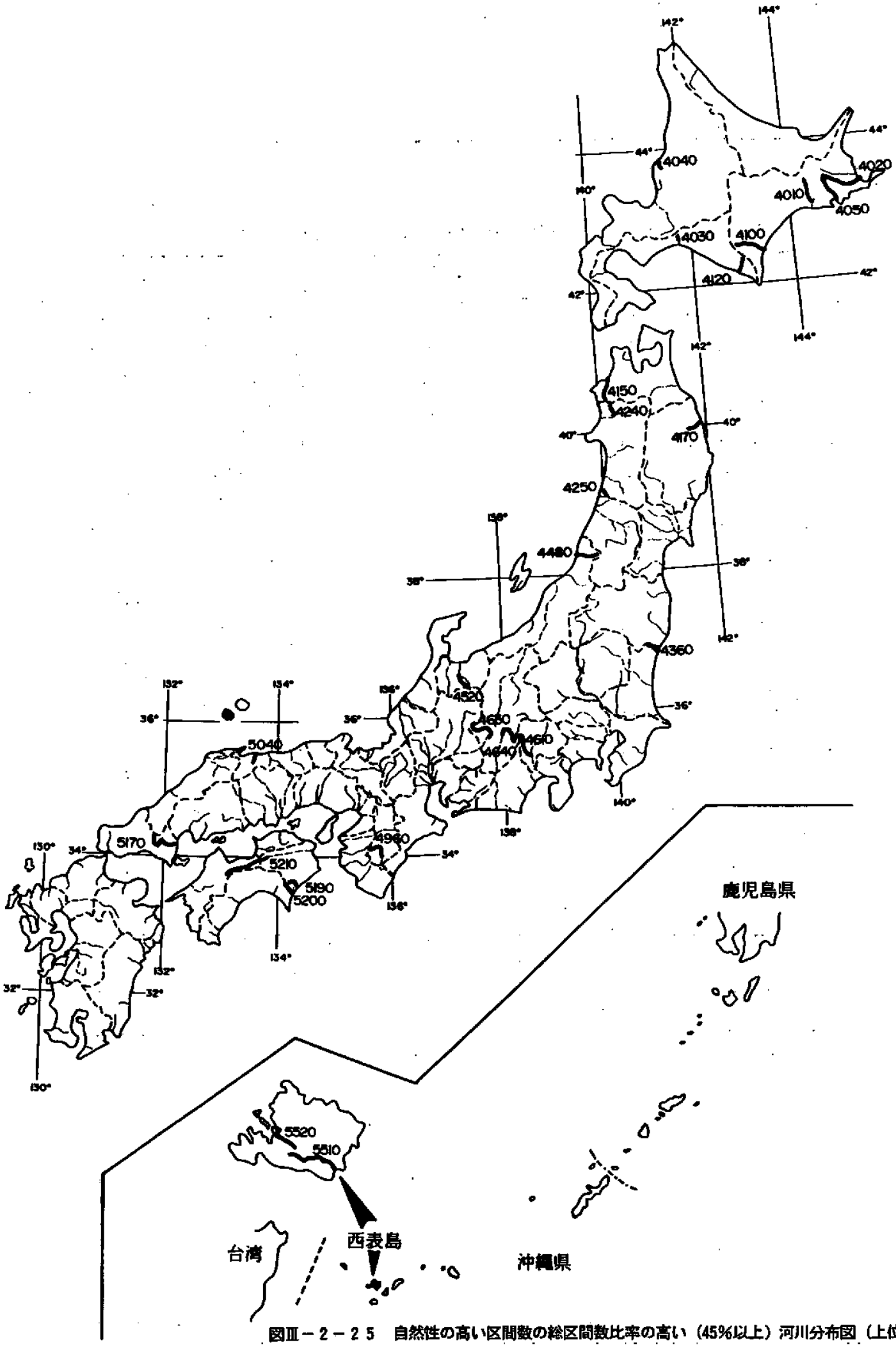
上掲の４河川を含めた「自然性の高い区間」率の高い上位25河川の地理的分布は、北海道、本州の日本海側、山梨・長野県の中部山岳地域、四国、沖縄県西表島等、の限定された地域となっている（図Ⅲ－２－２５）。



図Ⅲ－２－２４　自然性の高い区間数の総区間数比率階級区分別出現河川数

表Ⅲ－２－２１　自然性の高い区間数の総区間数比率の高い（45%以上）河川　上位25

	河川コード	河川名	調査流路延長km	総区間数	自然性の高い連続区間 区間数	自然性の高い連続区間 総区間数比%	水系群名	都道府県
1.	4050	別寒辺牛川	55.9	56	56	100.0	北海道－太平洋／北	北海道
	4250	岩股川	4.5	5	5	100.0	本州－日本海	秋田県
	4520	長棟川	19.0	19	19	100.0	本州－日本海	富山県
	5520	仲良川	7.0	7	7	100.0	沖縄－東シナ海	沖縄県
5.	5210	銅山川	61.4	62	57	91.9	四国－瀬戸内海	徳島・愛媛県
6.	5510	仲間川	9.0	9	8	88.9	沖縄－東シナ海	沖縄県
7.	4960	川原樋川	27.5	28	22	78.6	本州－太平洋／中南	奈良県
8.	4170	安家川	28.7	29	22	75.9	本州－太平洋／中南	岩手県
9.	4040	暑寒別川	26.0	26	19	73.1	北海道－日本海	北海道
10.	4030	美々川	18.2	18	13	72.2	北海道－太平洋／中南	北海道
11.	4610	早川	66.1	67	46	68.7	本州－太平洋／中南	山梨県
12.	4360	大北川	29.2	30	20	66.7	本州－太平洋／中南	茨城県
13.	4640	三峰川	61.3	62	38	61.3	本州－太平洋／中南	長野県
14.	4150	赤石川	50.2	51	31	60.8	本州－日本海	青森県
15.	4630	王滝川	54.8	55	33	60.0	本州－太平洋／中南	長野県
16.	4120	日高幌別川	33.8	34	20	58.8	北海道－太平洋／中南	北海道
17.	4010	雪裡川	58.6	59	33	55.9	北海道－太平洋／北	北海道
18.	5190	海部川	36.0	36	20	55.6	四国－太平洋／中南	徳島県
19.	4100	歴舟川	64.7	65	35	53.8	北海道－太平洋／北	北海道
20.	4480	三面川	41.0	42	22	52.4	本州－日本海	新潟県
21.	5200	野根川	20.0	20	10	50.0	四国－太平洋／中南	高知・徳島県
22.	5170	錦川	110.3	111	54	48.6	本州－瀬戸内海	山口県
23.	4020	風蓮川	99.5	100	48	48.0	北海道－太平洋／北	北海道
24.	4240	粕毛川	21.5	22	10	45.5	本州－日本海	秋田県
25.	5040	甲川	20.0	20	9	45.0	本州－日本海	鳥取県



図Ⅲ－２－２５　自然性の高い区間数の総区間数比率の高い（45%以上）河川分布図（上位25）

河川の利用状況を全体として集計した結果は、表Ⅲ－２－２２のとおりである。

27河川では利用の報告がおこなわれていないが、残りの 126河川においてはなんらかの利用がおこなわれている。内訳をみると、「漁業」、「風景探勝」、「キャンプ」等の利用がおこなわれている河川が多い。区間毎にみると、「漁業」の利用が他の利用に比較して群を抜いて多い。河川の全区間において「漁業」がおこなわれている河川は、表Ⅲ－２－２３に掲げる33河川である。

表Ⅲ－２－２２　河川の利用状況集計

	風景探勝	キャンプ	温　泉	ボ ー ト	川 下 り	釣　場	漁　業	未 利 用
該当河川数	７４	４６	２６	１８	４	２１	９１	２７
調査対象河川(153)数比％	４８.４	３０.１	１７.０	１１.８	２.６	１３.７	５９.５	１７.６
該当区間の総計	３５６	１１５	７０	７０	２８	８０	２２５２	
総区間数(6307)比％	５.６	１.８	１.１	１.１	０.４	１.３	３５.７	

	レクリエーション利用(風景探勝・キャンプ・温泉・ボート・川下り・釣場) 種類数						
	６種	５種	４種	３種	２種	１種	０
該当河川数	１	１	１０	１４	２９	４０	５８
調査対象河川(153)数比％	０.７	０.７	６.５	９.２	１９.０	２６.１	３７.９

７つの利用区分の全てが報告されている河川は、5170錦川（山口県：総区間数111)で、風景探勝（総区間数比2.7%）、「キャンプ」（同 9.9%）、「温泉」（同 2.7%）、「ボート」（同23.4%）、川下り」（同 5.4）、「釣場　」（ 同 0.9%）、「漁業」（ 同84.7%）となっている。

レクリエーション利用（風景探勝・キャンプ・温泉・ボート・川下り・釣場）が比較的多く（４種以上）おこなわれている河川は上表の12河川であるが、具体的には次のとおりである。

・5170錦　川（山口県／６種）　・5210銅山川（徳島・愛媛県／５種）
以下４種　・4200迫　川（宮城県）　・4370渡良瀬川（茨城・埼玉・群馬・栃木県）
・4390箒　川（栃木県）　・4420小櫃川（千葉県）　・4480三面川（新潟県）
・4680揖斐川（三重・岐阜県）　・4710飛騨川（岐阜県）　・4960川原樋川（奈良県）
・5010日高川（和歌山県）　・5250小田川（愛媛県）

表Ⅲ－２－２３　河川の利用状況別区間数の総区間比率の高い河川　上位20　（一部の利用状況は同率により２０以上表示　）
〔上段：該当利用区間数／総区間数（単位％）　下段：該当河川／総区間数〕

順位	風景探勝（報告河川74）	キャンプ（報告河川46）	温泉（報告河川26）	ボート（報告河川18）	川下り（報告河川４）	釣場（報告河川21）	漁業（報告河川91）	
1	83.3 4860滝　川/6	25.0 4910水無瀬川/4	18.0 4390幣　川/50	27.4 5210鵜山川/62	66.7 5510仲間川/9	100.0 4830長井川/37	100.0 4170安家川/29	
2	76.7 4360大北川/30	18.9 4720牧田川/37	16.7 4730青野川/18	23.4 5170綿　川/111	27.8 4030美々川/18	45.5 4900芥　川/22	100.0 4190気仙川/39	
3	75.0 4910水無瀬川/4	18.2 4900芥　川/22	9.8 4620笛吹川/51	14.3 4430一宮川/28	19.6　/56 4050別寒辺牛川	25.0 4910水無瀬川/4	100.0　/37 4280最上小国川	
4	71.8 4410高瀬川/39	17.9 4410高瀬川/39	9.8 4230江合川/92	9.1 5180木屋川/44	5.4 5170綿　川/111	7.7 4410高瀬川/39	100.0　/46 4290寒河江川	
5	66.7 5030小鹿川/12	14.9 5000富田川/47	9.4 4140相坂川/64	7.7 4040暑寒別川/2	＊上記以外の河川では、この利用状況の報告がない	6.5 5210鵜山川/62	100.0 4300日向川/30	
6	66.7 5510仲間川/9	14.8 4850鳴明川/27	7.7 4350野尻川/39	5.3 4500加治川/38		5.9 4620笛吹川/51	100.0 4310角　川/37	
7	64.3 4430一宮川/28	14.3 5280安芸川/28	6.0 4610早　川/50	4.8 4480三面川/42		5.4　/37 4280最上小国川	100.0 4580南　川/33	
8	32.3 5210鵜山川/62	13.6 4750興津川/22	5.4　/37 4280最上小国川	4.2 5370氷　川/24		5.0 5040甲　川/20	100.0 4590足羽川/57	
9	30.1 4420小櫃川/73	11.1 4690武儀川/27	5.2 5410荻殊川/58	4.1 4420小櫃川/73		4.9 5240広見川/61	100.0 4680揖斐川/112	
10	23.3　鮎沢川 4460酒匂川/43	9.9 5170綿　川/111	5.0 5350川棚川/20	2.6 5250小田川/39		4.1 4420小櫃川/73	100.0 4681根尾川/55	
11	22.7 4750興津川/22	9.1 4681根尾川/55	4.8 5050赤　川/21	2.2 4510鮪石川/45		3.6 4430一宮川/28	100.0 4690武儀川/27	
12	22.7 4810宇連川/22	8.1 5210鵜山川/62	4.5 5180木屋川/44	1.9 4790巴　川/53		3.6 4980川原瀬川/28	100.0 4700吉田川/31	
13	22.7 4900芥　川/22	7.7　/28 4040暑寒別川	3.6　/28 4980川原瀬川	1.5 4940武儀川/67		3.3 5460清武川/30	100.0 4710荊潤川/137	
14	22.2 4820五十鈴川/9	7.7 5270新荘川/26	2.9 4210白石川/70	1.1 4200追　川/88		3.2 4450浅　川/31	100.0 4720牧田川/37	
15	21.9 4140相坂川/64	7.1　/28 4980川原瀬川	2.8 4530利根川/36	1.1 4230江合川/92		2.4 4480三面川/42	100.0 4730青野川/18	
16	20.0 4210白石川/70	7.1　/28 5280下ノ加江川	2.7 5170綿　川/111	0.9　/108 4370渡良瀬川		2.0 4390幣　川/50	100.0 4750興津川/22	※
17	20.0 4670上　川/30	7.0 4660安濃川/43	2.6 5250小田川/39	0.9 4680揖斐川/112		1.9　/108 4370渡良瀬川	100.0 4760瀬戸川/27	25 100.0 5180木屋川/44
18	20.0 5350川棚川/20	6.5 4700吉田川/31	2.5 5010日高川/120	0.7 4710荊潤川/137		1.7 5010日高川/120	100.0 4810宇連川/22	26 100.0 5250小田川/39
19	18.5 4850鳴明川/27	6.5　/31 5490万之瀬川	2.5 4340伊南川/81	＊上記以外の河川では、この利用状況の報告がない		1.6　/63 4650奈良井川	100.0　/28 4980川原瀬川	27 100.0　/28 5280下ノ加江川
20	17.0 4680揖斐川/112	5.0 5010日高川/120	2.3 4200追　川/88			0.9 5170綿　川/111	100.0 4970高見川/23	28 100.0 5270新荘川/26
21		5.0 5040甲　川/20				0.7 4710荊潤川/137	100.0 4990有田川/103	29 100.0 5280安芸川/28
22		5.0 5200野根川/20				＊上記以外の河川では、この利用状況の報告がない	100.0 5000富田川/47	30 100.0 5370氷　川/24
23							100.0 5010日高川/120	31 100.0 5390水俣川/19
24							100.0 5150三滝川/44 ※	32 100.0 5400万江川/23
								33 100.0 5430駅館川/14

不快要因のデータは区間別に報告されているが、全体としての集計結果は、表Ⅲ－２－２４のとおりである。注目されるのは、「濁り」に次いで「乗用車」による不快と報告されている区間が、他の不快要因に比較してとりわけ多いことである。これらに続いて、「ゴミ」、「道路法面」による不快要因があげられている。

表Ⅲ－２－２４　河川の不快要因別集計（区間数）

	濁り	水面の泡	悪臭	ゴミ	砂利採取	道路法面	水量少	ダム湖岸	乗用車	騒音
該当区間の総計	640	168	59	412	57	299	192	90	594	181
総区間数(6307)比 %	10.1	2.7	0.9	6.5	0.9	4.7	3.0	1.4	9.4	2.9

それぞれの不快要因毎に、その不快要因がある区間数を全区間数で除した比を求めた結果から、不快要因の高い河川を整理した（表Ⅲ－２－２５）。

5090砂川（岡山県）が３回、4830員弁川（三重県）が２回出現している。

表Ⅲ－２－２５　河川の不快要因別　不快要因の高い河川（上位３）
〔不快要因区間率(%)／不快要因区間数　河川番号　河川名〕

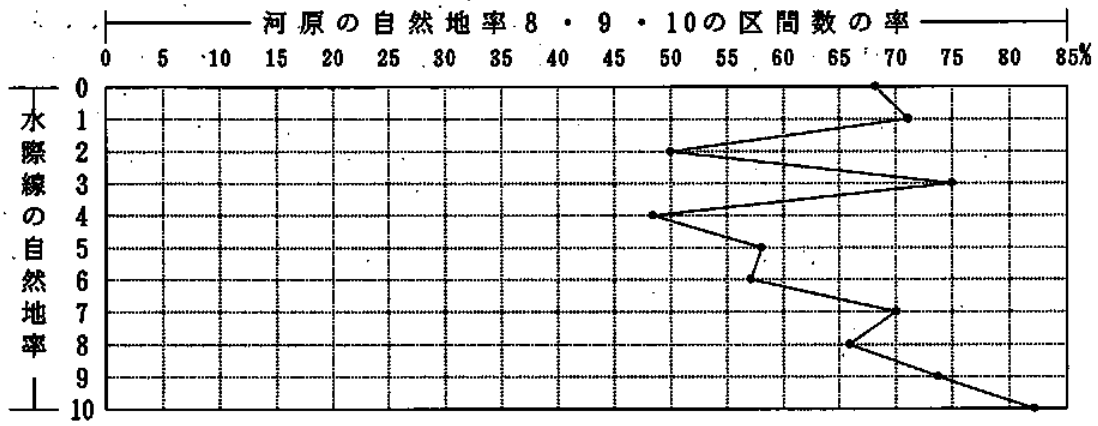
	1	2	3
濁　り	100.0/22　4840滝　川	100.0/9　5510仲間川	94.6/22　5090砂　川
水面泡	90.0/20　4470金目川	46.0/100　4020風蓮川	36.4/110　4110西別川
悪　臭	66.7/9　4440南浅川	41.7/12　4770鵜戸川	38.7/31　4450浅　川
ゴ　ミ	86.4/66　5120吉野川	81.1/37　5090砂　川	71.0/31　5490万之瀬川
砂利採取	12.1/58　5410玖珠川	7.9/38　4500加治川	7.0/43　4860安曇川
道路法面	100.0/9　4840五十鈴川	100.0/37　4830員弁川	95.8/24　5450福島川
水量少	75.0/8　5060中村川	56.7/30　5460清武川	41.7/36　4530利賀川
ダム湖岸	25.8/62　5210銅山川	13.6/22　4810宇連川	10.9/55　4630王滝川
乗用車	100.0/37　4830員弁川	100.0/111　5170錦　川	100.0/44　5180木屋川
騒　音	94.6/37　5090砂　川	67.6/34　5130新庄川	65.8/38　5110宇甘川

8. 河川の水際線・河原・河畔の自然状況の相関について

8－1　水際線〔自然地率〕と河原〔自然地率〕の相関

河原の存在する1,685区間について、その個々の区間における「水際線の自然地率」と「河原の自然地率」の相関集計をおこなった（表Ⅲ－2－26）。　その上で、水際線の自然地率別の総区間数のうちで河原の自然地率8・9・10の区間数の率を図Ⅲ－2－26に作成した。

図にみるように、水際線の自然地率が40%以上の区間については河原の自然地率との間に緩い正の相関が認められる。しかし、水際線の自然地率が低くても河原の自然地率はかなり大きい。



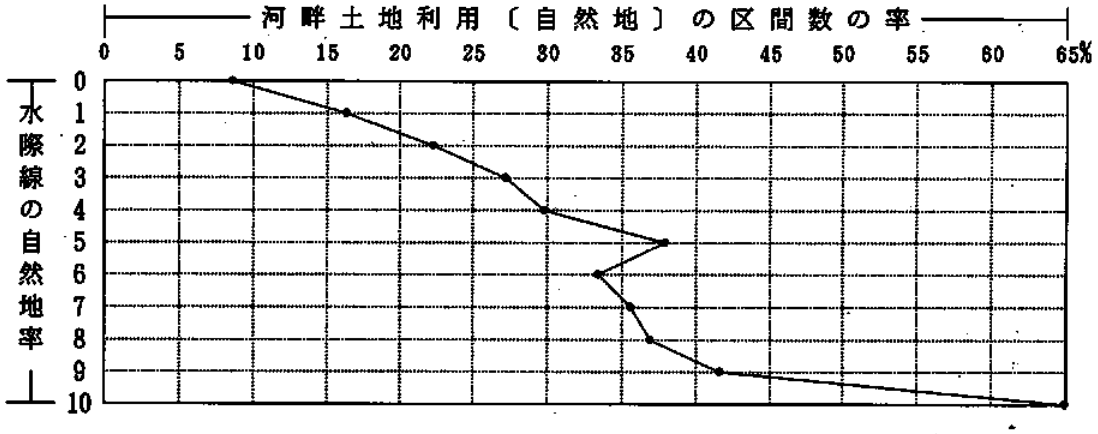
図Ⅲ－2－26　水際線自然地率別　河原の自然地率8・9・10区間数の占有率

表Ⅲ－2－26　水際線〔自然地率〕と河原〔自然地率〕の相関集計〔区間数〕

		河原の自然地率											計
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
水際線の自然地率	0	13	8	5	3	5	6		4	7	3	84	138
	1		3	1	1		2	1	3	3	2	22	38
	2	4	1	1	3	2	4	1	1	2	2	13	34
	3		1	2	2			1	2	1	4	19	32
	4	1	1	2	2	3	2	1	4	2	4	9	31
	5	7	4	5	1	3	14	7	9	4	4	61	119
	6	6		2	2		4	9	4	5	2	29	63
	7	4	2	1	2	2	5	5	3	3	13	40	80
	8	4	2	3	4	5	9	12	10	13	10	72	144
	9	6	2	3	6	4	13	9	11	24	18	110	206
	10	33	14	5	10	15	24	12	29	28	37	593	800
計		78	38	30	36	39	83	58	80	92	99	1052	1685

8－2　水際線〔自然地率〕と河畔〔土地利用〕の相関

個々の区間における「水際線の自然地率」と「河畔土地利用」の相関集計をおこなった（表Ⅲ－2－27）。　その上で、水際線の自然地率別の総区間数のうちで河畔土地利用の自然地率をみると、図Ⅲ－2－27にみるように、強い正の相関関係が認められる結果となった。



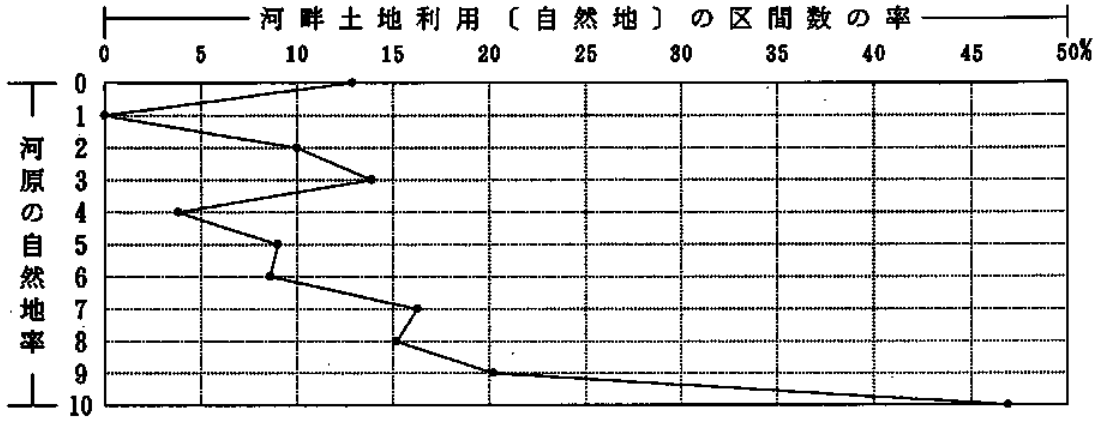
図Ⅲ－2－27　水際線自然地率別　河畔土地利用〔自然地〕区間数の占有率

表Ⅲ－2－27　水際線〔自然地率〕と河畔土地利用の相関集計〔両岸の区間数〕

		河畔の土地利用						合計
		自然地			改変地			
		樹林地	その他	小計	農業地	市街地	小計	
水際線の自然地率	0	81	19	100	727	337	1,064	1,164
	1	47	10	57	194	99	293	350
	2	72	6	78	197	75	272	350
	3	95	6	101	196	75	271	372
	4	91	9	100	171	65	236	336
	5	239	23	262	284	146	430	692
	6	163	16	179	227	130	357	536
	7	227	20	247	329	118	447	694
	8	339	32	371	464	171	635	1,006
	9	590	54	644	674	230	904	1,548
	10	3,266	345	3,611	1,586	369	1,955	5,566
計		5,210	540	5,750	5,049	1,815	6,864	12,614

8－3　河原〔自然地率〕と河畔〔土地利用〕の相関

個々の区間における「河原の自然地率」と「河畔土地利用」の相関集計をおこなった（表Ⅲ－２－２８）。その上で、河原の自然地率別の総区間数のうちの河畔土地利用の自然地率をみると（図Ⅲ－２－２８）、河原の自然地率が40％以上の区間について、河畔土地利用の自然地率との間に強い正の相関が認められる。しかし、河原の自然地率が40％以下であっても、当然ながらそれとは関係なく、河畔においてはおおよそ10～15％程度の自然地が存在している状況にある。



図Ⅲ－２－２８　河原自然地率別　河畔土地利用〔自然地〕区間数の占有率

表Ⅲ－２－２８　河原〔自然地率〕と河畔土地利用（両岸の区間数）の相関集計

		河畔の土地利用						合計
		自然地			改変地			
		樹林地	その他	小計	農業地	市街地	小計	
河原の自然地率	0	16	4	20	81	55	136	156
	1				45	31	76	76
	2	5	1	6	26	28	54	60
	3	9	1	10	44	18	62	72
	4	1	2	3	51	24	75	78
	5	12	3	15	116	35	151	166
	6	6	4	10	66	40	106	116
	7	18	8	26	92	42	134	160
	8	25	3	28	104	52	156	184
	9	29	11	40	99	59	158	198
	10	688	299	987	838	279	1,117	2,104
計		809	336	1,145	1,562	663	2,225	3,370

8－4　「連続する人工改変度の低い水際線」に対置する河原・河畔の自然状況

表Ⅲ－2－6で抽出された「連続する人工改変度の低い水際線」の上位18の区間帯における河原と河畔土地利用の自然状況を整理した。河原については対置する区間帯の河原の区間自然地率平均値を、河畔土地利用については対置する区間帯における両岸の自然地土地利用区間総数を総区間数で除した比（%）をみた。計算結果を、表Ⅲ－2－29にまとめる。

河原については、1河川（4070厚田川）を除ききわめて自然地率が高い。しかし、河畔土地利用の自然地率は、河川によって大きく異なっている。河畔土地利用における市街地・工業地をみてみると、5250小田川で占有率14.0%、4600日野川で同じく39.6%であるが、これ以外では占有率が 0.0～1.9%と低い値となっている。したがって、河畔土地利用における自然地以外のほとんどの土地利用は、市街地・工業地ではなく農業地となっていることがわかる。

表Ⅲ－2－29　連続する人工改変度の低い水際線(*) の河原と河畔土地利用改変状況
〔(*)自然地率100%の連続区間帯上位18〕

	河川コード	河川名	連続する人工改変度低い水際線 区間数	始	終	河原自然地率区間平均値	河畔自然地土地利用区間数の総区間数比%	都道府県
1.	4110	西別川	87	24	110	10.0	38.5	北海道
2.	4020	風蓮川	72	1	72	10.0	81.9	北海道
3.	4050	別寒辺牛川	56	1	56	10.0	100.0	北海道
4.	4990	有田川	46	54	99	——	81.5	和歌山県
5.	4100	歴舟川	35	31	65	9.2	98.6	北海道
	4150	赤石川	35	17	51	——	100.0	青森県
	4640	三峰川	35	28	62	——	100.0	長野県
	5210	銅山川	35	21	55	——	100.0	徳島・愛媛県
9.	4070	厚田川	31	2	32	3.8	62.9	北海道
10.	5010	日高川	30	60	89	——	75.0	和歌山県
11.	4020	風蓮川	26	75	100	10.0	7.7	北海道
12.	5250	小田川	25	15	39	——	54.0	愛媛県
13.	4330	新田川	24	20	43	——	97.9	福島県
	4600	日野川	24	24	47	9.6	8.3	福井県
15.	4130	千歳川	23	48	70	9.7	100.0	北海道
16.	4010	雪裡川	22	2	23	10.0	81.8	北海道
	4360	大北川	22	9	30	10.0	95.5	茨城県
18.	4010	雪裡川	21	39	59	9.9	72.2	北海道
	4040	暑寒別川	21	6	26	9.5	100.0	北海道
	4480	三面川	21	22	42	10.0	100.0	新潟県

8－5　「連続する人工改変度の低い河原」に対置する水際線・河畔の自然状況

表Ⅲ－2－12で抽出された「連続する人工改変度の低い河原」の15区間帯における水際線と河畔土地利用の自然状況を整理した。水際線の自然状況は対置する区間帯の自然地率の平均値を算出し、河畔土地利用では、対置する区間帯における両岸の自然地土地利用区間総数を総区間数で除した比（%）を算出した。計算結果を表Ⅲ－2－30に掲げる。

整理された表からは、「連続する人工改変度の低い河原」が存在している一方で、対置する水際線及び河畔土地利用は、河原の状況とは直接的な相関関係を持つことなく、様々な人工改変を受けている実態にあることが読みとれる。

表Ⅲ－2－30　連続する人工改変度の低い河原(*) の水際線と河畔土地利用の改変状況(自然状況)
〔(*) 自然地率 100%の連続区間帯上位14〕

	河川コード	河川名	連続する人工改変度低い河原 区間数	始	終	水際線自然地率区間平均値	河畔自然地土地利用区間数の総区間数比%	都道府県
1.	4110	西別川	110	1	110	9.9	38.6	北海道
2.	4020	風蓮川	100	1	100	10.0	63.5	北海道
3.	4050	別寒辺牛川	56	1	56	10.0	100.0	北海道
4.	4010	雪裡川	26	2	27	9.7	75.0	北海道
5.	4360	大北川	25	6	30	9.4	94.0	茨城県
6.	4830	員弁川	24	3	26	8.6	6.3	三重県
7.	4390	箒川	20	15	34	3.3	30.0	栃木県
8.	4130	千歳川	17	53	69	10.0	100.0	北海道
9.	4010	雪裡川	15	45	59	10.0	96.7	北海道
10.	4370	渡良瀬川	13	90	102	7.3	46.2	埼玉・茨城県 群馬・栃木県
	4680	揖斐川	13	9	21	8.8	26.9	三重・岐阜県
12.	4220	吉田川	12	10	21	9.8	0.0	宮城県
13.	4070	厚田川	11	22	32	10.0	100.0	北海道
14.	4480	三面川	10	30	39	10.0	100.0	新潟県
	4680	揖斐川	10	24	33	2.7	15.0	三重・岐阜県

8－6　「連続する人工改変度の低い河畔」に対置する水際線・河原の自然状況

表Ⅲ－2－16で抽出された「連続する人工改変度の低い河畔」に対置する水際線と河原の改変状況を自然地率を中心にして表Ⅲ－2－31に整理した。

水際線の自然地率の区間平均値は、5100成羽川（岡山・広島県）を除くと全て9.4以上の高い値を呈しており、人工改変度は微小となっている。したがって、抽出河川においては、連続する人工改変度の低い河畔とそれに対置する水際線の人工改変度の間には、極めて高い相関が認められる。また、河原の自然地率では、4530利賀川（富山県）を除くと、やはり人工改変度が微小となっている。

これらの「連続する人工改変度の低い河畔」の土地利用は、全てではないが、一定の部分は自然公園等の保全地域となっていることは注目されるところで、保全地域としての土地利用規制が前述の結果に一定の役割を果しているものと推定される。

表Ⅲ－2－31　連続する人工改変度の低い河畔（両岸）（*）の水際線と河原の改変状況（自然状況）
〔（*）自然地の連続区間帯上位20〕

	河川コード	河川名	連続した人工改変度低い河畔			水際線自然地率区間平均値	河原自然地率区間平均値	保全地域の有無	都道府県
			連続区間数	始	終				
1.	5210	銅山川	62	1	62	9.8	10.0	13区間	徳島・愛媛県
2.	4050	別寒辺牛川	56	1	56	10.0	10.0	4区間	北海道
3.	4150	赤石川	37	15	51	9.9	—	37区間	青森県
4.	4640	三峰川	36	27	62	9.9	—	16区間	長野県
5.	4100	歴舟川	34	32	65	10.0	9.3	12区間	北海道
6.	4630	王滝川	32	24	55	9.7	10.0	17区間	長野県
7.	4960	川原樋川	28	1	28	9.6	10.0	——	奈良県
8.	4330	新田川	26	17	42	9.7	—	7区間	福島県
	4610	早川	26	42	67	10.0	10.0	26区間	山梨県
10.	5100	成羽川	24	18-34	33-39	6.8	—	17区間	岡山・広島県
11.	4040	暑寒別川	23	4	26	9.8	9.5	13区間	北海道
	4130	千歳川	23	47	69	10.0	9.4	6区間	北海道
13.	4480	三面川	22	21	42	9.8	10.0	——	新潟県
14.	4120	日高幌別川	21	14	34	9.9	9.5	——	北海道
	4710	飛弾川	21	117	137	9.4	—	——	岐阜県
16.	4520	長棟川	19	1	19	10.0	—	——	富山県
	4650	奈良井川	19	45	63	9.5	—	——	長野県
	4990	有田川	19	70	88	10.0	—	10区間	和歌山県
	5170	錦川	19	64	82	9.6	—	——	山口県
20.	4010	雪裡川	18	1	18	9.9	9.9	18区間	北海道
	4530	利賀川	18	19	36	9.4	5.0	——	富山県
	5190	海部川	18	19	36	9.8	10.0	——	徳島県

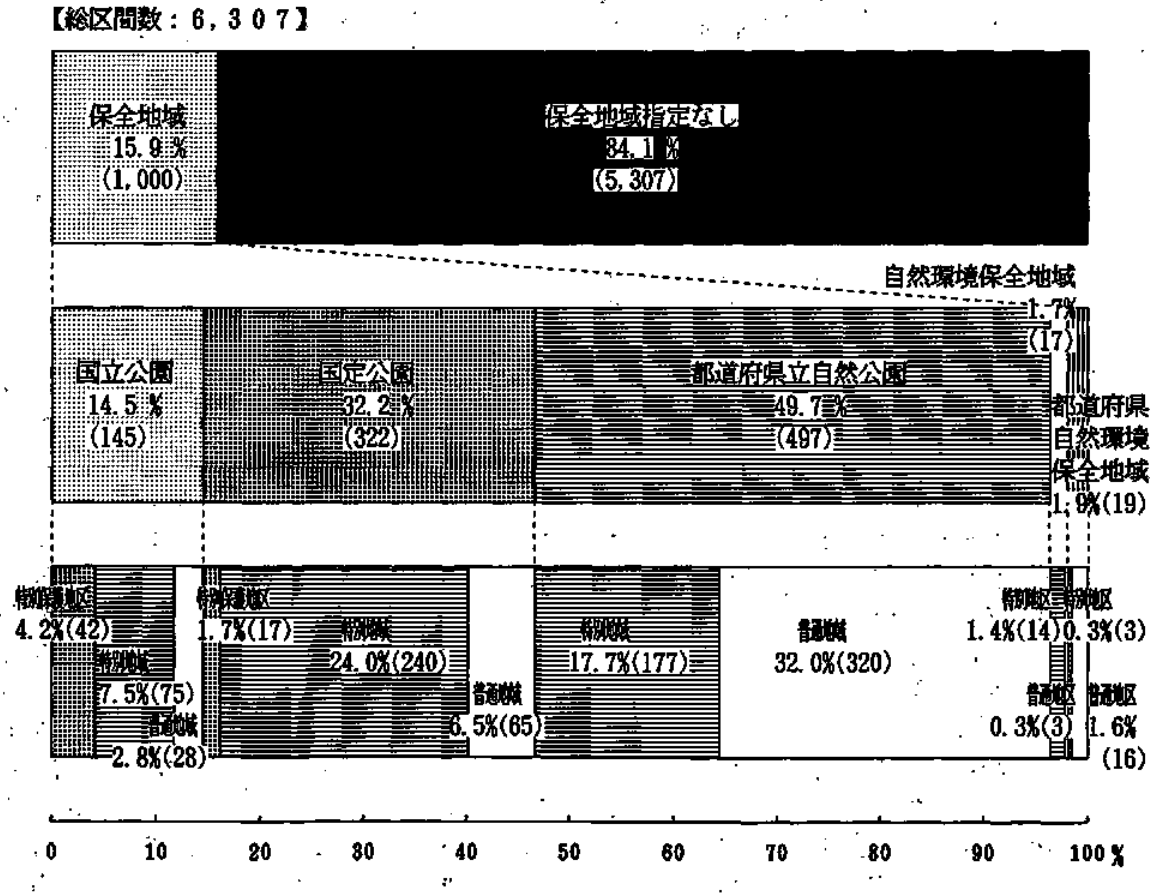
Ⅲ－３ 河川の保全地域・鳥獣保護区指定状況

1. 河川の保全地域指定状況

1－1　河川の保全地域指定概況

調査対象河川の総区間数 6,307のうち、何らかの保全地域の指定を受けている区間は 1,000区間で、全体の15.9%がこれに該当している。第３回調査対象河川では、全体の19.1%が保全地域指定該当区間であったが、これに比較して若干小さい値になっている。

保全地域指定の内訳をみると、国立公園 145区間（総区間数比 2.3%／保全地域指定総区間数比14.5%：以下同じ）、国定公園 322区間（ 5.1%／32.2%）、都道府県立自然公園 497区間（ 7.9%／49.7%）、自然環境保全地域17区間（ 0.3%／ 1.7%）、都道府県自然環境保全地域19区間（ 0.3%／ 1.9%）となっており、都道府県立自然公園の指定をうけている区間が保全地域指定を受けている総区間のおおよそ半数を占めている（図Ⅲ－３－１）。なお、原生自然環境保全地域の指定に該当している区間はない。



図Ⅲ－３－１　調査対象河川の保全地域指定状況

個別の河川毎に、保全地域の指定状況を整理した（表Ⅲ－３－１）。

河川総区間数に対して保全地域の指定を受けている区間数の比が大きいものを抽出しているが、水際線や河原、あるいは河畔土地利用でみたように、北海道や長野県等の河川はあまり出現しておらず、全国から分散して抽出する結果となっている。

都道府県別でみると、愛知県、沖縄県、岐阜県の河川で複数河川出現しており、東京都からも１河川あげられている。

水系群別では、本州－太平洋／中南の河川がほぼ半数で、次いで、北海道・本州の日本海水系群、九州・沖縄の東シナ海、となっている。

表Ⅲ－３－１　保全地域指定区間率の大きい河川　上位20（区間が保全地域に係わる区間数の比）
（比＝保全地域／総区間数）

	河川コード	河川名	調査流路延長km	総区間数A	保全地域区間数B	保全地域率B／A %	水系群名	都道府県
1	4250	岩股川	4.5	5	5	100.0	本州－日本海	秋田県
2	4700	吉田川	30.4	31	31	100.0	本州－太平洋／中南	岐阜県
3	5030	小鹿川	12.0	12	12	100.0	本州－日本海	鳥取県
4	5510	仲間川	9.0	9	9	100.0	沖縄－東シナ海	沖縄県
5	5520	仲良川	7.0	7	7	100.0	沖縄－東シナ海	沖縄県
6	4810	宇連川	21.4	22	17	77.3	本州－太平洋／中南	愛知県
7	4360	大北川	29.2	30	23	76.7	本州－太平洋／中南	茨城県
8	4150	赤石川	50.2	51	37	72.5	本州－日本海	青森県
9	4410	高麗川	38.8	39	27	69.2	本州－太平洋／中南	埼玉県
10	4860	安曇川	42.8	43	29	67.4	本州－瀬戸内海	滋賀県
11	4790	巴川	53.0	53	32	60.4	本州－太平洋／中南	愛知県
12	4680	揖斐川	111.5	112	67	59.8	本州－太平洋／中南	三重・岐阜県
13	4210	白石川	69.7	70	40	57.1	本州－太平洋／中南	宮城県
14	4610	早川	66.1	67	34	50.7	本州－太平洋／中南	山梨県
15	4040	暑寒別川	26.0	26	13	50.0	北海道－日本海	北海道
16	5410	玖珠川	57.3	58	29	50.0	九州－東シナ海	大分県
17	4710	飛弾川	137.0	137	68	49.6	本州－太平洋／中南	岐阜県
18	5100	成羽川	73.7	75	34	45.3	本州－瀬戸内海	岡山・広島県
19	4440	南浅川	8.1	9	4	44.4	本州－太平洋／中南	東京都
20	5500	雄川	20.4	21	9	42.9	九州－東シナ海	鹿児島県

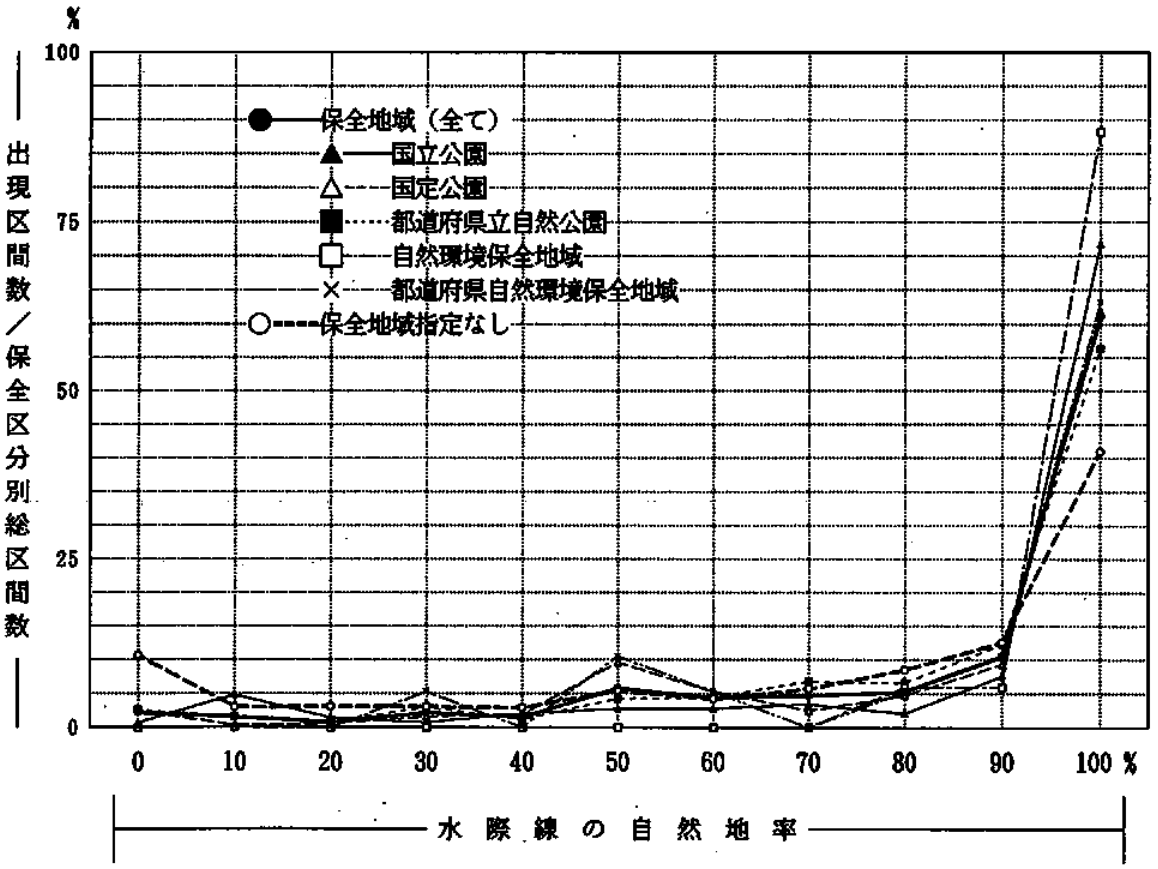
1－2　河川の保全地域指定と自然環境状況

(1) 水際線の自然環境〔自然地率〕

保全地域指定を受けていない区間における水際線の自然地率では、自然地率80％以上の出現区間数の総区間数比が62.0％であるのに対して、保全地域指定を受けている区間におけるそれは76.8％と格段の違いをみせている。特に、自然地率 100％においては、前者が40.9％に対して後者が61.0％とより大きな差となっている（図Ⅲ－3－2）。

この集計結果から、保全地域指定が、水際線の自然環境の保全に一定の役割を果していることをうかがいみることができる。

保全地域別に自然地率80％以上の出現区間数率をみる（表Ⅲ－3－2）と、国立公園指定区間では81.4％、国定公園指定区間では75.8％、都道府県立自然公園指定区間では75.3％、自然環境保全地域指定区間では 100.0％、都道府県自然環境保全地域指定区間では78.9％となっており、これらの間には特徴的差異は認められない。



図Ⅲ－3－2　保全地域別　水際線〔自然地率〕毎の出現区間数率

表Ⅲ－3－2　保全地域別　水際線〔自然地率〕毎の出現区間数

保全地域		水際線の自然地率											計
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
国立公園	特別保護地区					1	1	2	3		6	29	42
	特別地域		6	1		1	1	1	1	3	2	59	75
	普通地域	1	1	1	1	1	2	1	1		3	16	28
	小計	1	7	2	1	3	4	4	5	3	11	104	145
国定公園	特別保護地区							1		1		15	17
	特別地域	6		2	1	1	20	12	8	9	19	162	240
	普通地域	2	1		4	5	11	4		5	11	22	65
	小計	8	1	2	5	6	31	17	8	15	30	199	322
都道府県立自然公園	特別地域	2	2		2	2	2	5	3	8	24	127	177
	普通地域	11	6	4	13	4	19	17	31	25	37	153	320
	小計	13	8	4	15	6	21	22	34	33	61	280	497
自然環境保全地域	特別地区											14	14
	普通地区									1	1	1	3
	小計									1	1	15	17
都道府県自然環境保全地域	特別地区										1	2	3
	普通地区				1		2	1		1	1	10	16
	小計				1		2	1		1	2	12	19
保全地域　計		22	16	8	22	15	58	44	47	53	105	610	1000
保全地域指定無し　計		560	159	167	164	153	288	224	300	450	669	2173	5307
総　計		582	175	175	186	168	346	268	347	503	774	2783	6307

(2)　河原の土地利用の自然環境〔自然地率〕

河原が存在する区間は全てで 1,685区間であるが、そのうちの 179区間（保全地域指定総区間数比10.6%）が保全地域指定を受けている状況になっている（表Ⅲ－3－3）。

これらの保全地域指定を受けている河原では、自然地率80%以上であるものが 172区間で、96.1%がこれに該当している。保全地域内に存在する河原の自然環境はきわめて自然に富んでいるということができる。ここにおいては、保全地域区分別の差異は特に認められない。

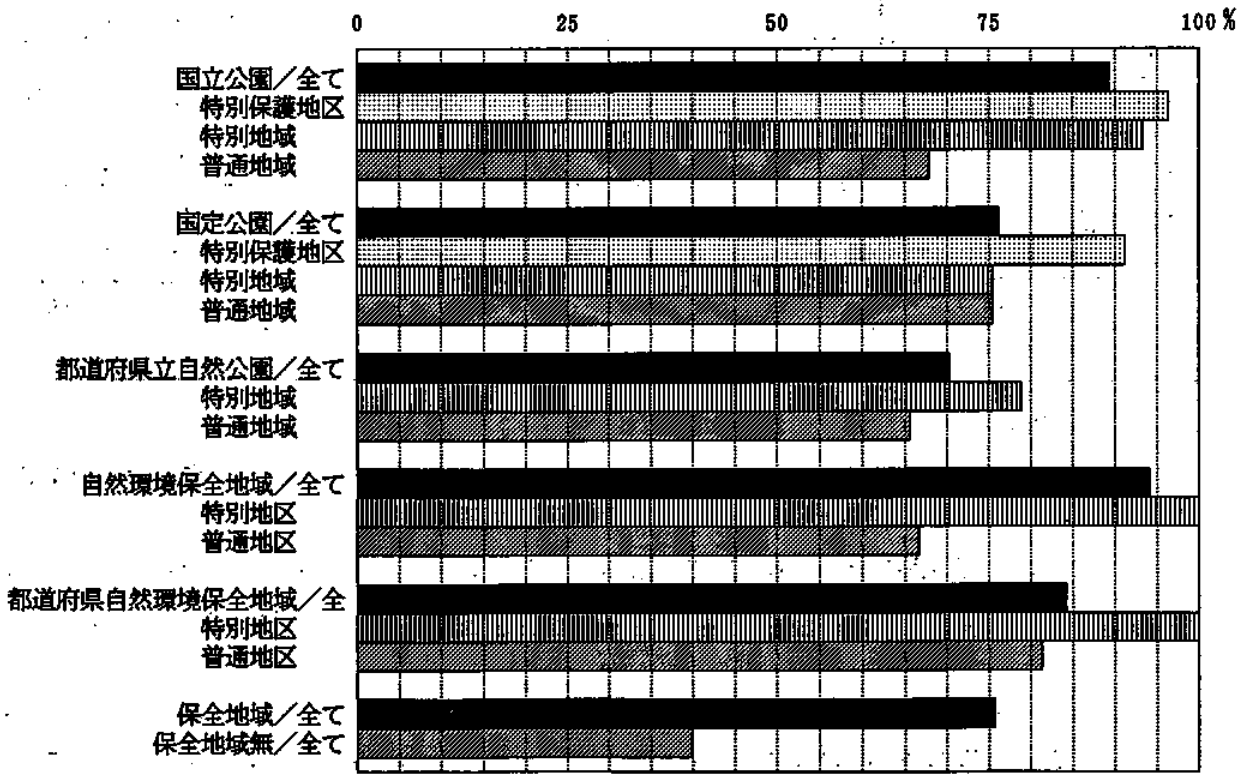
これらに対して、保全地域の指定を受けていない河原の自然環境は、自然地率80%以上のものをみると 1,071区間で、保全地域指定を受けていない総区間数（1,506）比71.1%となっている。明確に自然地率の高い区間の出現率が小さくなっており、保全地域指定による規制が、河原の自然環境の保全にも一定の歯止めになっていることを認めることができる。

表Ⅲ－３－３　保全地域別　河原土地利用〔自然地率〕毎の出現区間数

保全地域	河原土地利用の自然地率											計
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
国立公園				2	1	1				1	56	61
国定公園											29	29
都道府県立自然公園				2		1			1	2	82	88
自然環境保全地域												
都道府県自然環境保全地域											1	1
保全地域　計				4	1	2			1	3	168	179
保全地域指定無し　計	78	38	30	32	38	81	58	80	91	96	884	1506
総　計	78	38	30	36	39	83	58	80	92	99	1052	1685

(3)　河畔土地利用の自然環境〔自然地〕

保全地域別に河畔の土地利用毎の出現区間数を集計した（表Ⅲ－３－４）。これに基づいて、自然



図Ⅲ－３－３　保全地域別　河畔土地利用〔自然地〕区間の出現区間数比

地の区間数の比をグラフにして比較してみた（図Ⅲ－3－3）が、保全地域の指定を受けている区間の河畔土地利用〔自然地〕の率は75.7%の高い値となった。これに比較して、保全地域指定を受けていない区間のそれは39.9%となっており、保全地域指定による土地利用規制が河畔土地利用の規制にも大きな効果をあげていることが明らかになった。

保全地域の大区分による比較では、自然環境保全地域のほうが自然公園より自然地率が高くなっており、自然公園では、自然地率が国立＞国定＞都道府県立の順になっている。小区分による数値をみると、特別保護地区から普通地域、あるいは、特別地域（区）から普通地域（区）の順で、自然地率が小さくなる傾向が認められる。これは、それぞれの保全地域毎においても、より人工改変の規制が厳しくなっている細区分の反映の結果とみることができる。

表Ⅲ－3－4　保全地域別　河畔土地利用状況の出現区間数

保全地域		河畔の土地利用						計
		自然地			改変地			
		樹林地	その他	小計	農業地	市街地	小計	
国立公園	特別保護地区	57	24	81	2	1	3	84
	特別地域	120	20	140	2	8	10	150
	普通地域	30	8	38	7	11	18	56
	小計	207	52	259	11	20	31	290
国定公園	特別保護地区	31		31	1	2	3	34
	特別地域	353	9	362	56	62	118	480
	普通地域	93	5	98	14	18	32	130
	小計	477	14	491	71	82	153	644
都道府県立自然公園	特別地域	262	17	279	62	13	75	354
	普通地域	396	24	420	131	89	220	640
	小計	658	41	699	193	102	295	994
自然環境保全地域	特別地区	28		28				28
	普通地区	4		4	2		2	6
	小計	32		32	2		2	34
都道府県自然環境保全地域	特別地区	6		6				6
	普通地区	26		26	6		6	32
	小計	32		32	6		6	38
保全地域　計		1,406	107	1,513	283	204	487	2,000
保全地域指定無し　計		3,804	433	4,237	4,766	1,611	6,377	10,614
総計		5,210	540	5,750	5,049	1,815	6,864	12,614

2－1 鳥獣保護区指定概況

鳥獣保護区の設定がされている区間数は 719区間であり、これは調査対象河川の総区間(6,307) の 11.4%になる。その内訳をみると、特別保護区の設定までおこなわれている区間は82区間（鳥獣保護区設定総区間数の11.4%、河川総区間の 1.3%）と少なく、大部分は特別保護区の設定まではおこなわれていない（表Ⅲ－3－5）。

表Ⅲ－3－5 調査対象河川の鳥獣保護区設定状況

鳥獣保護区	鳥獣保護区の設定がある			鳥獣保護区の設定がない	合計
	特別保護区無	特別保護区有	小計		
区間数	637	82	719	5,588	6,307
構成比%	10.1	1.3	11.4	88.6	100.0

個々の河川毎に、鳥獣保護区の設定がおこなわれている区間数のその河川の総区間に占める割合の高い河川を抽出整理した。表Ⅲ－3－6に掲げるとおりである。

表Ⅲ－3－6　鳥獣保護区設定区間率の高い河川　上位20

〔比＝保護区間／総区間数〕

	河川コード	河川名	調査流路延長km	総区間数A	特別保護地区無B	特別保護地区有C	鳥獣保護地区計B+C=D	鳥獣保護区設定率 D／A%	水系群名	都道府県
1.	4820	五十鈴川	8.4	9	8	0	8	88.9	本州－太平洋／中南	三重県
2.	5260	下ノ加江川	27.5	28	20	0	20	71.4	四国－太平洋／中南	高知県
3.	4440	南浅川	8.1	9	6	0	6	66.7	本州－太平洋／中南	東京都
4.	4480	三面川	41.0	42	24	0	24	57.1	本州－日本海	新潟県
5.	4570	大聖寺川	37.8	38	21	0	21	55.3	本州－日本海	石川県
6.	5020	八東川	32.0	32	17	0	17	53.1	本州－日本海	鳥取県
7.	4840	滝川	5.5	6	3	0	3	50.0	本州－瀬戸内海	三重県
8.	5430	駅館川	14.0	14	7	0	7	50.0	九州－瀬戸内海	大分県
9.	5290	室見川	22.6	23	11	0	11	47.8	九州－日本海	福岡県
10.	4850	朝明川	26.1	27	12	0	12	44.4	本州－太平洋／中南	三重県
11.	5210	銅山川	61.4	62	3	22	25	40.3	四国－瀬戸内海	徳島・愛媛県
12.	4360	大北川	29.2	30	12	0	12	40.0	本州－太平洋／中南	茨城県
13.	5040	甲川	20.0	20	8	0	8	40.0	本州－日本海	鳥取県
14.	4610	早川	66.1	67	25	0	25	37.3	本州－太平洋／中南	山梨県
15.	4240	粕毛川	21.5	22	0	8	8	36.4	本州－日本海	秋田県
16.	4750	興津川	21.7	22	8	0	8	36.4	本州－太平洋／中南	静岡県
17.	4210	白石川	69.7	70	25	0	25	35.7	本州－太平洋／中南	宮城県
18.	4870	犬上川	28.4	29	7	3	10	34.5	本州－瀬戸内海	滋賀県
19.	5030	小鹿川	12.0	12	4	0	4	33.3	本州－日本海	鳥取県
20.	4810	宇連川	21.4	22	7	0	7	31.8	本州－太平洋／中南	愛知県

2－2　鳥獣保護区設定と保全地域指定の相関集計

保全地域指定と鳥獣保護区設定の関係を、区間単位で集計してみた（表Ⅲ－3－7）。

この両者は、基本的には連結した視点でそれぞれの指定あるいは設定がおこなわれるものではないが、集計結果をみると、国立公園指定を受けている区間の42.1%、国定公園指定を受けている区間の28.0%、都道府県立自然公園指定を受けている区間の28.2%で鳥獣保護区が設定されている。

今回の調査対象河川においては、結果的には、自然保護を目的とする保全地域指定がある場合、その3～4割の区間では鳥獣保護区の設定がおこなわれている概況にあることがわかった。

表Ⅲ－3－7　保全地域別　鳥獣保護区設定状況集計

保全地域		鳥獣保護区の設定がある			鳥獣保護区の設定がない	合計
		特別保護区無	特別保護区有	小計		
国立公園	特別保護地区	6	18	24	18	42
	特別地域	29	2	31	44	75
	普通地域	4	2	6	22	28
	小計	39	22	61	84	145
国定公園	特別保護地区	1		1	16	17
	特別地域	74	6	80	160	240
	普通地域	9		9	56	65
	小計	84	6	90	232	322
都道府県立自然公園	特別地域	42	18	60	117	177
	普通地域	75	5	80	240	320
	小計	117	23	140	357	497
自然環境保全地域	特別地区				14	14
	普通地区				3	3
	小計				17	17
都道府県自然環境保全地域	特別地区	1	2	3		3
	普通地区	6	2	8	8	16
	小計	7	4	11	8	19
保全地域　計		247	55	302	698	1,000
保全地域指定無し　計		390	27	417	4,890	5,307
総計		637	82	719	5,588	6,307

Ⅲ－4 河川の魚類相

1－1 河川別の生息魚種数

集計においては、「現地確認」「放流」に加えて、「記録のみ」のものも生息魚種として計上した。河川別の詳細な生息状況は、巻末の「資料：河川の魚類相」に掲載してある。

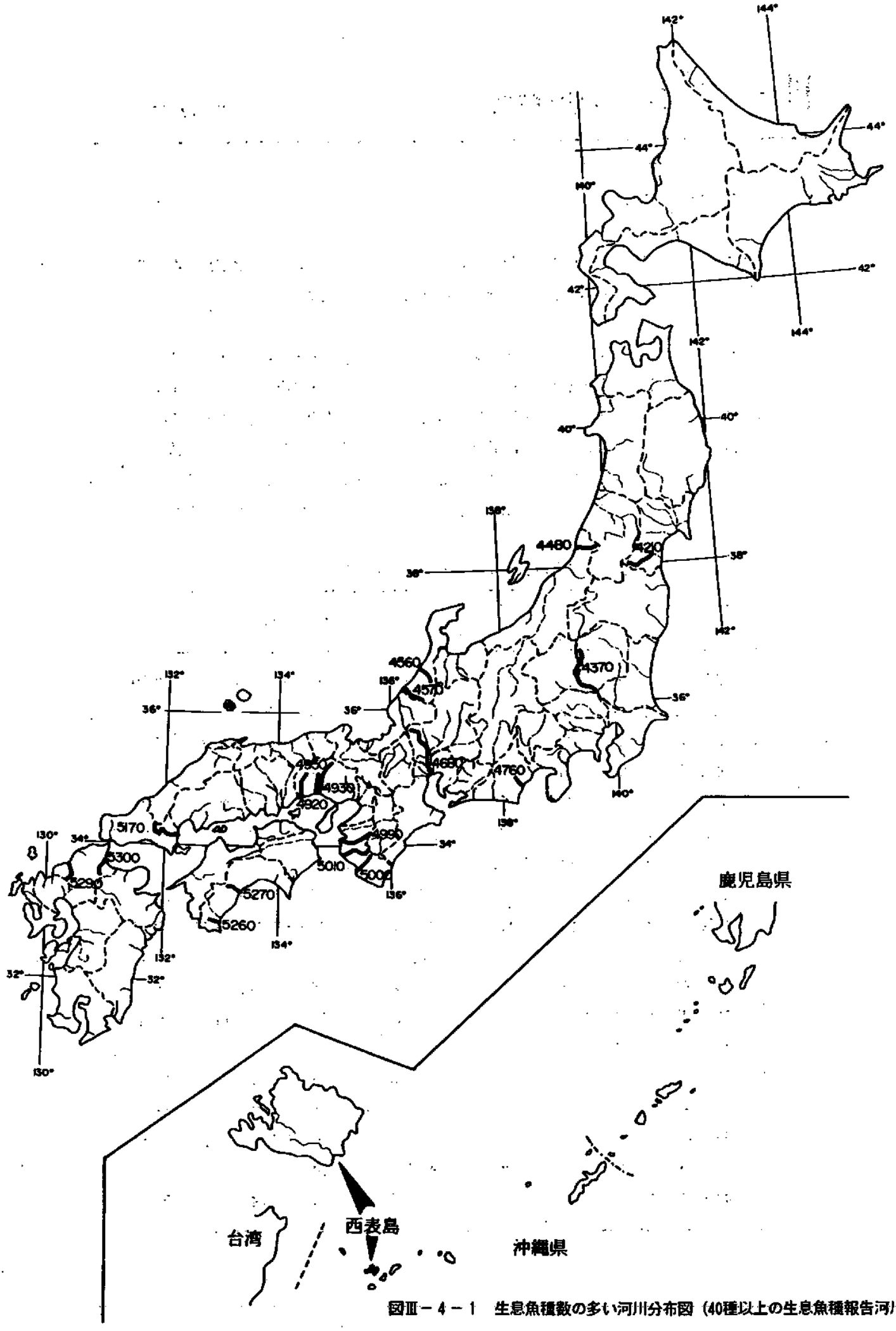
今回の調査対象河川において、生息魚種数の多かった河川は、表Ⅲ－4－1のとおりである。

40種以上の生息魚類が報告されている河川は18河川であるが、その傾向をみると、比較的流路長が長い河川であること、二級河川の幹川であること、水系群では本州－太平洋／中南あるいは本州－瀬戸内海の河川であること、西日本の河川であること、などにその特徴が認められる（図Ⅲ－4－1）。

これらの特徴的な傾向は、流路が短く急勾配の河川や北海道（ブラキストン・ラインにより生物相が変化する）・東日本では淡水魚相が相対的には乏しいことなどによって理解できる。

表Ⅲ－4－1 生息魚種数の多い河川（40種以上の生息魚種報告河川）

	河川コード	河川名	生息魚種数	調査実施流路長km	級別	幹・支	水系群名	都道府県
1	4990	有田川	83	103.0	二級	幹	本州－瀬戸内海	和歌山県
2	4680	揖斐川	65	111.5	一級	支	本州－太平洋／中南	三重・岐阜県
3	5270	新荘川	63	25.1	二級	幹	四国－太平洋／中南	高知県
4	5290	室見川	58	22.6	二級	幹	九州－日本海	福岡県
5	4760	瀬戸川	56	26.4	二級	幹	本州－太平洋／中南	静岡県
	4920	千種川	56	72.2	二級	幹	本州－瀬戸内海	兵庫県
7	4570	大聖寺川	54	37.8	二級	幹	本州－日本海	石川県
	5000	富田川	54	46.5	二級	幹	本州－太平洋／中南	和歌山県
9	5010	日高川	51	119.2	二級	幹	本州－太平洋／中南	和歌山県
10	4480	三面川	50	41.0	二級	幹	本州－日本海	新潟県
11	5170	錦川	48	110.3	二級	幹	本州－瀬戸内海	山口県
	5260	下ノ加江川	48	27.5	二級	幹	四国－太平洋／中南	高知県
13	4930	市川	47	77.1	二級	幹	本州－瀬戸内海	兵庫県
14	4560	犀川	46	34.0	二級	幹	本州－日本海	石川県
	5300	今川	46	40.6	二級	幹	九州－瀬戸内海	福岡県
16	4210	白石川	42	69.7	一級	支	本州－太平洋／中南	宮城県
17	4370	渡良瀬川	41	107.5	一級	支	本州－太平洋／中南	栃・群・埼・茨
	4950	夢前川	41	37.9	二級	幹	本州－瀬戸内海	兵庫県



図Ⅲ－４－１　生息魚種数の多い河川分布図（40種以上の生息魚種報告河川）

今回の調査対象河川(153河川) のうち、河口が海域に位置する幹川である74河川について、河川を下掲のように地域区分して、河川流路延長と生息魚種数の相関をみた (図Ⅲ－4－2)。

北海道	10 河川	
本州東 (房総半島より東) －太平洋／中南	7 河川	
本州・九州－日本海	20 河川	
本州・四国・九州－瀬戸内海	12 河川	
本州西 (房総半島より西) ・四国・九州－太平洋／中南	19 河川	
九州・沖縄－東シナ海	6 河川	計 74 河川

図Ⅲ－4－2からは、次のような傾向を読み取ることができる。

○ 北海道の河川では、河川流路延長の長短にかかわらず出現魚種数がおおよそ10～20種で少ない。

○ 本州東－太平洋／中南の河川でも、河川流路延長の長短にかかわらず出現魚種数がおおよそ15～25種と少ない。

○ 本州西・四国・九州－太平洋／中南の河川では、河川流路延長の長短にかかわらず20～40種、河川によっては比較的短い流路延長の河川でもおおよそ50～65種の生息が認められる。

○ 本州・九州－日本海の河川では、河川流路延長と生息魚種数との間に緩い正の相関が認められ、河川流路延長が長くなると生息魚種数が多くなる傾向がみられる。ただし、河川流路延長の比較的大きいものは40～50kmで、そこに生息する魚種数は50～55種である。

○ 本州・四国・九州－瀬戸内海の河川でも、河川流路延長と生息魚種数との間に緩い正の相関が認められる。ここにおける比較的河川流路延長が大きい河川は100kmで、生息魚種数も80種と多くなっている。

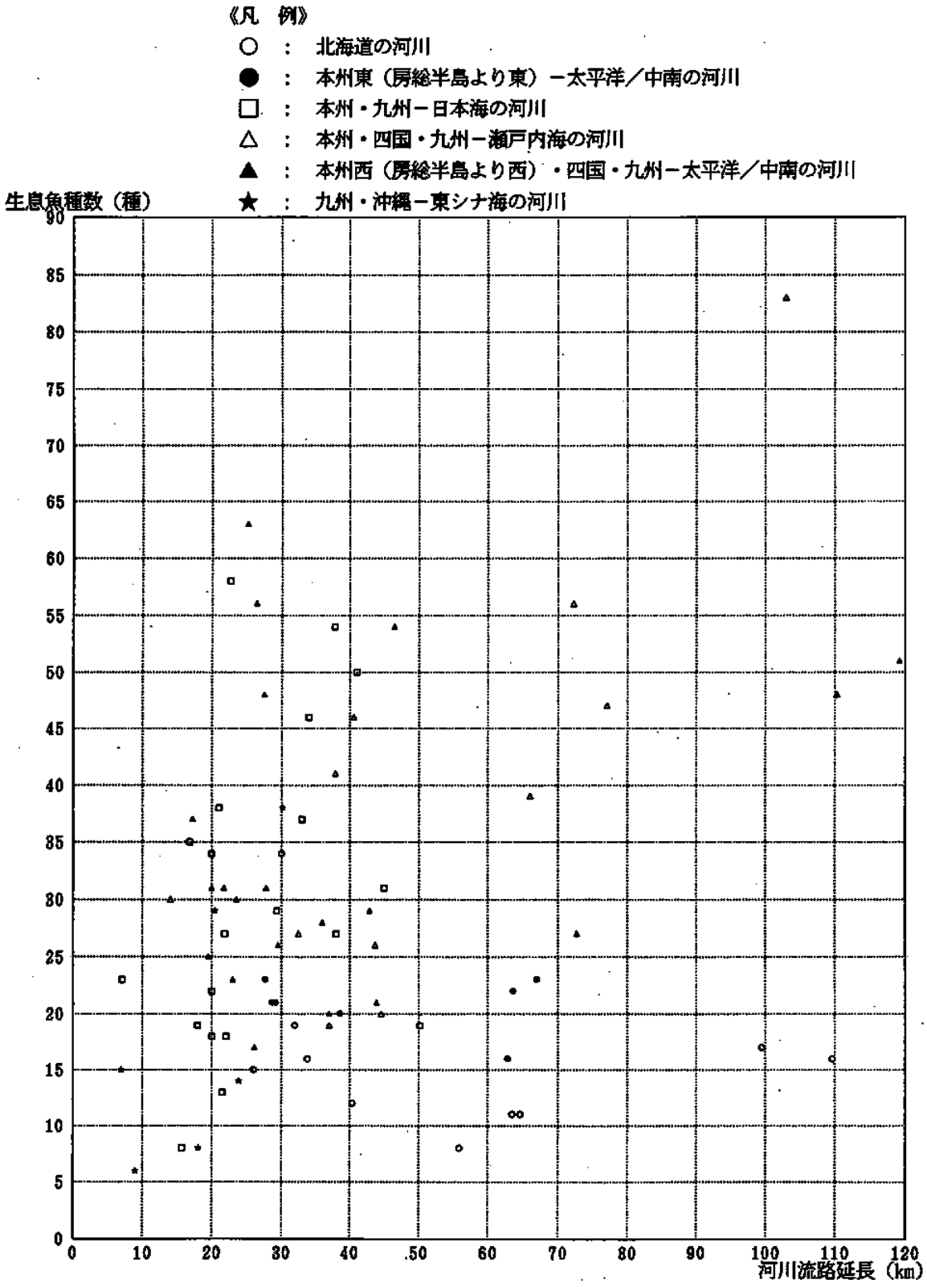
○ 九州・沖縄－東シナ海の河川でも河川流路延長と生息魚種数との間に緩い正の相関が認められるが、生息魚種数は比較的河川流路延長が短いためか40種以下と少ない数になっている。

今回おこなった河川流路延長と生息魚種数の相関集計は、サンプル数が少ないという基本的問題を十分に踏まえておく必要があるが、次の相関傾向として整理される。

○ 北海道、本州東－太平洋／中南の河川では、河川流路延長の長短にかかわらず生息魚種数が少ない

○ 本州西・四国・九州－太平洋／中南の河川では、河川流路延長の長短にかかわらず生息魚種数が多い

○ 日本海、瀬戸内海、東シナ海に注ぐ河川では、河川流路延長と生息魚種数との間に緩い相関が認められるが、それぞれの最大魚種数は異なる



図Ⅲ－４－２　河川流路延長と生息魚種数の相関図

1－2　広域分布魚種

調査対象の 153河川のおおよそ１／３である50河川以上で生息が報告されている魚種－広域の生息分布が報告されている魚種は、表Ⅲ－４－２に示す23種であった。これらの魚種は、第３回調査で報告されている上位10種とほぼ同じであり、順位も大差ない。上位のアユ・オイカワ・ウグイは純淡水魚であり、上流から下流まで広い行動範囲をもつとされている。７位に位置しているカワムツは、第３回調査の上位には登場していない。

表Ⅲ－４－２　広域に生息する魚種（50河川以上）

	科	魚種名	生息河川数	調査対象河川数比%
1	アユ	アユ	129	84.3
2	コイ	オイカワ	120	78.4
3	コイ	ウグイ	119	77.8
	コイ	コイ	119	77.8
5	ウナギ	ウナギ	108	70.6
6	コイ	カマツカ	97	63.4
7	コイ	カワムツ	88	57.5
8	コイ	ギンブナ	85	55.6
9	ナマズ	ナマズ	81	52.9
10	ドジョウ	ドジョウ	78	51.0
11	サケ	ニジマス(ｽﾁｰﾙﾍｯﾄﾞ)	75	49.0
12	ドジョウ	シマドジョウ	64	41.8
13	コイ	アブラハヤ	62	40.5
14	サケ	ヤマメ(ﾆｯｺｳﾔﾏﾒ)	60	39.2
15	コイ	ニゴイ	59	38.6
	カジカ	カジカ	59	38.6
17	ボラ	ボラ	58	37.9
18	サケ	イワナ(ﾆｯｺｳｲﾜﾅ)	57	37.3
19	コイ	タカハヤ	54	35.3
	ハゼ	ドンコ	54	35.3
21	サケ	アマゴ	53	34.6
	コイ	フナ類	53	34.6
23	ハゼ	カワヨシノボリ	52	34.0

1－3　分布の限定された魚種

生息が報告されている河川が3河川以下の魚種を抽出した結果、表Ⅲ－4－3に掲げる 117種の魚種が整理された。ゴギのような天然記念物の種の他に、移入種（アオウオ・コクレン等）、沿岸回遊魚種等、多岐にわたって出現している。

表Ⅲ－4－3　分布の限定された魚種（3河川以下）　1／3

	科	魚種名	生息河川名
1	ｱｶｴｲ	アカエイ	4490羽茂川・4990有田川
2	ｶﾀｲﾜｼ	イセゴイ	4760瀬戸川
3	ギ　ス	シロギス	4990有田川・5170錦　川・5490万之瀬川
4	ギ　ス	アオギス	5300今　川
5	ｺﾉｼﾛ	ドロクイ	5510仲間川・5520仲良川
6	ニシン	マイワシ	4570大聖寺川
7	サ　ケ	カワマス	4110西別川・4390幕　川・4640三峰川
8	サ　ケ	ゴギ	5070三刀屋川・5120吉野川
9	サ　ケ	オショロコマ	4010雪裡川・4020風蓮川・4110西別川
10	サ　ケ	ブラウントラウト	4130千歳川・5040甲　川
11	サ　ケ	マスノスケ	4720牧田川
12	サ　ケ	ベニマス	4020風蓮川・4030美々川・4110西別川
13	サ　ケ	ギンザケ	4170安家川・4200迫　川
14	サ　ケ	シロザケ	5040甲　川
15	サ　ケ	シナノユキマス	4660依田川
16	ｷｭｳﾘｳｵ	シシャモ	4060遊楽部川
17	ｷｭｳﾘｳｵ	キュウリウオ	4060遊楽部川
18	ｷｭｳﾘｳｵ	チカ	4020風蓮川・4060遊楽部川・4170安家川
19	コ　イ	カワバタモロコ	4760瀬戸川
20	コ　イ	ウケグチウグイ	4280最上小国川
21	コ　イ	アオウオ	4370渡良瀬川・4870犬上川
22	コ　イ	コクレン	4370渡良瀬川
23	コ　イ	ハクレン	4370渡良瀬川・4680揖斐川
24	コ　イ	ニゴロブナ	5120吉野川・5430駅館川
25	コ　イ	イタセンパラ	4680揖斐川
26	コ　イ	イチモンジタナゴ	4750興津川・4990有田川・5110宇甘川
27	コ　イ	アカヒレタビラ	4260岩見川・4550上庄川
28	コ　イ	シロヒレタビラ	4800乙　川・4940武庫川
29	コ　イ	ゼニタナゴ	4670上　川
30	コ　イ	カゼトゲタナゴ	5290室見川・5300今　川
31	コ　イ	スイゲンゼニタナゴ	5110宇甘川
32	コ　イ	キンギョ(ヒブナ)	4470金目川・4760瀬戸川
33	コ　イ	デメモロコ	4800乙　川・5100成羽川
34	コ　イ	マブナ	4760瀬戸川・5380御船川・5400万江川
35	コ　イ	ハヤ	4200迫　川
36	コ　イ	タビラ	4600日野川・5120吉野川
37	コ　イ	イロゴイ	4440南浅川・4450浅　川
38	コ　イ	レンギョ	4370渡良瀬川・4380小貝川

	科	魚種名	生息河川名
39	コイ	コウライモロコ	4990有田川
40	コイ	ニシキゴイ	5090砂　川・5120吉野川・5130新庄川
41	ドジョウ	エゾホトケ	4030美々川
42	ドジョウ	イシドジョウ	5240広見川・5400万江川
43	ドジョウ	タイリクシマドジョウ	5180木屋川・5490万之瀬川
44	タウナギ	タウナギ	4840滝　川・4990有田川
45	カダヤシ	カダヤシ	4420小櫃川・4760瀬戸川
46	イトヨ(トゲウオ)	ハリヨ	4680揖斐川・4870犬上川
47	ヨウジウオ	ヨウジウオ	4990有田川
48	ヨウジウオ	イッセンヨウジ	4740下小笠川・4760瀬戸川・5010日高川
49	ヨウジウオ	ガンテンイシヨウジ	5000富田川・5260下ノ加江川・5500雄　川
50	ヨウジウオ	ワヨウジ	5260下ノ加江川
51	ヤガラ	アオヤガラ	4990有田川
52	トウゴロウイワシ	トウゴロウイワシ	4910千種川・5300今　川・5350川棚川
53	ボラ	コボラ	5260下ノ加江川・5500雄　川
54	カマス	アカカマス	4570大聖寺川
55	ライギョ	ライギョ	4320夏井川・4330新田川・4370渡良瀬川
56	アジ	ブリ	5060中村川
57	アジ	イケガツオ	5010日高川・5130新庄川
58	アジ	イナダ	4210白石川
59	アジ	オニヒラアジ	5520仲良川
60	ヒイラギ	オキヒイラギ	5450福島川
61	ヒイラギ	シマヒイラギ	5520仲良川
62	ユゴイ	オオクチユゴイ	5270新荘川・5510仲間川・5520仲良川
63	ハゲ(スズキ)	ヒラスズキ	4990有田川
64	ハゲ(スズキ)	クロホシフェダイ	4990有田川
65	フェダイ	フェダイ	4680揖斐川
66	イサキ	コショウダイ	4750興津川・4990有田川・5490万之瀬川
67	タイ	ヘダイ	5260下ノ加江川
68	タイ	マダイ	4990有田川
69	タイ	ミナミクロダイ	5510仲間川・5520仲良川
70	メジナ	メジナ	5060中村川・5080下府川
71	メジナ	クロメジナ	4470金目川・4990有田川
72	クロサギ	クロサギ	4990有田川・5500雄　川
73	タカノハダイ	タカノハダイ	4750興津川
74	キス	キス	5080下府川
75	ツバメコノシロ	ツバメコノシロ	5000富田川
76	ノドクサリ	ノドクサリ	4990有田川
77	イソギンポ	トサカギンポ	5290室見川
78	ニシキギンポ	ギンポ	5010日高川・5290室見川
79	ニシキギンポ	ダイナンギンポ	4730育野川
80	ウミタナゴ	ウミタナゴ	5080下府川
81	ツバメウオ	ヒメツバメウオ	5520仲良川
82	アイゴ	アイゴ	4990有田川
83	ハゼ	シマハゼ	4580南　川・5270新荘川・5300今　川
84	ハゼ	チチブモドキ	4730育野川・5270新荘川
85	ハゼ	アカオビシマハゼ	5270新荘川
86	ハゼ	シモフリシマハゼ	4570大聖寺川・4910千種川

	科	魚種名	生息河川名
87	ハゼ	ナガノゴリ	5520仲良川
88	ハゼ	ニクハゼ	5080下府川
89	ハゼ	スジハゼ	4730青野川
90	ハゼ	セジロハゼ	4480三面川
91	ハゼ	エドハゼ	4910千種川
92	ハゼ	チクゼンハゼ	4910千種川
93	ハゼ	キセルハゼ	4910千種川
94	ハゼ	ヒナハゼ	4730青野川・5260下ノ加江川・5270新荘川
95	ハゼ	クロコハゼ	5000富田川
96	ハゼ	タネハゼ	5000富田川・5270新荘川
97	ハゼ	サツキハゼ	5260下ノ加江川・5270新荘川
98	ハゼ	ヒトミハゼ	5450福島川
99	ハゼ	シマハゼ	5270新荘川
100	ハゼ	イトミミズハゼ	5270新荘川・5450福島川
101	ハゼ	イシハゼ	5450福島川
102	ハゼ	インコハゼ	5520仲良川
103	ハゼ	ボウズハゼ	4680揖斐川・4690武儀川
104	カサゴ	クロソイ	4910千種川
105	カサゴ	ハオコゼ	4990有田川
106	カサゴ	アオヒゲオコゼ	5520仲良川
107	ｱｲﾅﾒ	アイナメ	4820五十鈴川
108	コチ	マゴチ	5290室見川・5300今　川・5450福島川
109	コチ	ヌメリゴチ	5170錦　川
110	カジカ	エゾハナカジカ	4050別寒辺牛川・4060遊楽部川・4110西別川
111	カレイ	マコガレイ	4990有田川・5290室見川・5300今　川
112	ｸｼﾉｼﾀ	クロウシノシタ	4990有田川・5080下府川
113	フグ	トラフグ	5310釣　川
114	フグ	サザナミフグ	5260下ノ加江川
115	ｶﾜｽｽﾞﾒ	ナイルテラピア	4680揖斐川・4760瀬戸川
116	ｸﾛﾊｷﾞ	クロハギ	5260下ノ加江川
117	ﾌｴﾌｷﾀﾞｲ	ゴマフエフキ	5520仲良川

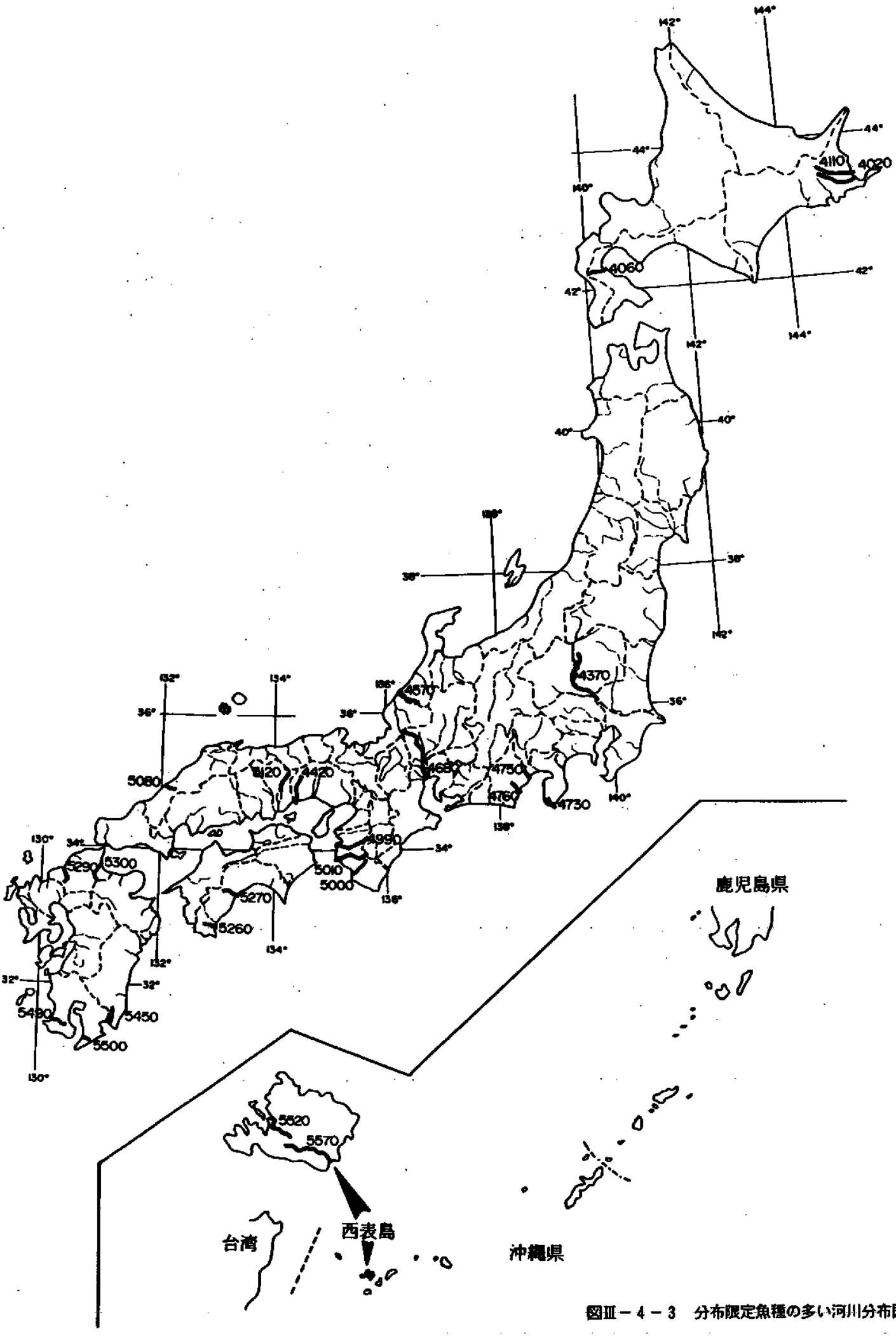
前表において分布が3河川以下に限定された魚種（分布限定魚種）を整理したが、これらの数を生息河川毎にまとめた（表Ⅲ－4－4）。

これによると、4990有田川（和歌山県）において18の分布限定魚種が報告されており、次いで、5520仲良川（沖縄県）の10種、5270新荘川（高知県）の9種、5260下ノ加江川（高知県）の8種、4760瀬戸川（静岡県）の7種となっている。

これらの河川の地理的位置は、概して、本州－四国－九州の太平洋・瀬戸内海・東シナ海に係わっているものなど、西日本の河川が多い（図Ⅲ－4－3）。また、ここにおいても二級河川の幹川がほとんどとなっている。

表Ⅲ－4－4　分布限定魚種の多い河川

	河川コード	河川名	分布限定魚種の出現数	調査実施流路長km	級別	幹・支	水系群名	都道府県
1	4990	有田川	18	103.0	二級	幹	本州－瀬戸内海	和歌山県
2	5520	仲良川	10	7.0	二級	幹	九州－東シナ海	沖縄県
3	5270	新荘川	9	25.1	二級	幹	四国－太平洋／中南	高知県
4	5260	下ノ加江川	8	27.5	二級	幹	四国－太平洋／中南	高知県
5	4760	瀬戸川	7	26.4	二級	幹	本州－太平洋／中南	静岡県
6	4680	揖斐川	6	111.5	一級	支	本州－太平洋／中南	三重・岐阜県
	4920	千種川	6	72.2	二級	幹	本州－瀬戸内海	兵庫県
	5300	今川	6	40.6	二級	幹	九州－瀬戸内海	福岡県
9	4370	渡良瀬川	5	107.5	一級	支	本州－太平洋／中南	群・埼・茨・栃
	5080	下府川	5	21.0	二級	幹	本州－日本海	島根県
	5290	室見川	5	22.6	二級	幹	九州－日本海	福岡県
	5450	福島川	5	23.5	二級	幹	九州－太平洋／中南	宮崎県
13	4060	遊楽部川	4	30.0	二級	幹	北海道－太平洋／中南	北海道
	4110	西別川	4	109.7	二級	幹	北海道－太平洋／北	北海道
	4730	青野川	4	17.2	二級	幹	本州－太平洋／中南	静岡県
	5000	富田川	4	46.5	二級	幹	本州－太平洋／中南	和歌山県
	5120	吉野川	4	46.5	一級	支	本州－瀬戸内海	岡山県
18	4020	風蓮川	3	99.5	二級	幹	北海道－太平洋／北	北海道
	4570	大聖寺川	3	37.8	二級	幹	本州－日本海	石川県
	4750	興津川	3	21.7	二級	幹	本州－太平洋／中南	静岡県
	5010	日高川	3	119.2	二級	幹	本州－太平洋／中南	和歌山県
	5490	万之瀬川	3	30.2	二級	幹	九州－東シナ海	鹿児島県
	5500	雄川	3	20.4	二級	幹	九州－東シナ海	鹿児島県
	5510	仲間川	3	9.0	二級	幹	九州－東シナ海	沖縄県



図Ⅲ－4－3　分布限定魚種の多い河川分布図

1－4　移入種の生息分布

外国産移入種の生息河川の分布（河川数）は、表Ⅲ－4－5に示すとおりである。

最も広く生息しているものはブラックバスで、38河川で報告されている。次いで、ブルーギルが25河川、タイリクバラタナゴが21河川、カムルチーが20河川で報告されている。今回の調査対象河川で

表Ⅲ－4－5　外国産移入種の生息分布状況

科	魚種名	生息河川数	生息河川名
サケ	ブラウントラウト	2	4130千歳川　5040甲　川
サケ	シナノユキマス	1	4660依田川
コイ	アオウオ	2	4370渡良瀬川　4870犬上川
コイ	ソウギョ	5	4370渡良瀬川　4380小貝川　4760瀬戸川　5170錦　川 5430駅館川
コイ	ハクレン	2	4370渡良瀬川　4680揖斐川
コイ	コクレン	1	4370渡良瀬川
コイ	タイリクバラタナゴ	21	4200迫　川　4210白石川　4230江合川　4370渡良瀬川 4380小貝川　4560犀　川　4600日野川　4670上　川 4680揖斐川　4690武儀川　4760瀬戸川　4800乙　川 4920千種川　4930市　川　4940武庫川　4990有田川 5050赤　川　5070三刀屋川　5090砂　川　5110宇甘川 5220財田川
カダヤシ	カダヤシ	2	4420小櫃川　4760瀬戸川
ライギョ	カムルチー	20	4210白石川　4400鳥　川　4480三面川　4570大聖寺川 4680揖斐川　4681根尾川　4720牧田川　4800乙　川 4870犬上川　4920千種川　4930市　川　5050赤　川 5070三刀屋川　5110宇甘川　5230香東川　5290室見川 5310釣　川　5350川棚川　5370氷　川　5430駅館川
ライギョ	ﾀｲﾜﾝﾄﾞｼｮｳ（ﾗｲｷﾞｮ）	3	4320夏井川　4330新田川　4370渡良瀬川
ｻﾝﾌｨｯｼｭ	ブラックバス	38	4210白石川　4320夏井川　4330新田川　4370渡良瀬川 4380小貝川　4400鳥　川　4430一宮川　4560犀　川 4570大聖寺川　4620笛吹川　4680揖斐川　4681根尾川 4690武儀川　4720牧田川　4760瀬戸川　4790巴　川 4800乙　川　4810宇連川　4850朝明川　4870犬上川 4920千種川　4930市　川　4940武庫川　4950夢前川 4980竜田川　4990有田川　5000富田川　5010日高川 5100成羽川　5120吉野川　5140黒瀬川　5150三保川 5160御調川　5210銅山川　5220財田川　5290室見川 5310釣　川　5430駅館川
ｻﾝﾌｨｯｼｭ	ブルーギル	25	4370渡良瀬川　4430一宮川　4570大聖寺川　4680揖斐川 4760瀬戸川　4770鵜戸川　4800乙　川　4870犬上川 4920千種川　4930市　川　4940武庫川　4990有田川 5010日高川　5100成羽川　5140黒瀬川　5150三保川 5160御調川　5170錦　川　5210銅山川　5220財田川 5230香東川　5240広見川　5290室見川　5310釣　川 5430駅館川
ｶﾜｽｽﾞﾒ	ナイルテラピア	2	4680揖斐川　4760瀬戸川

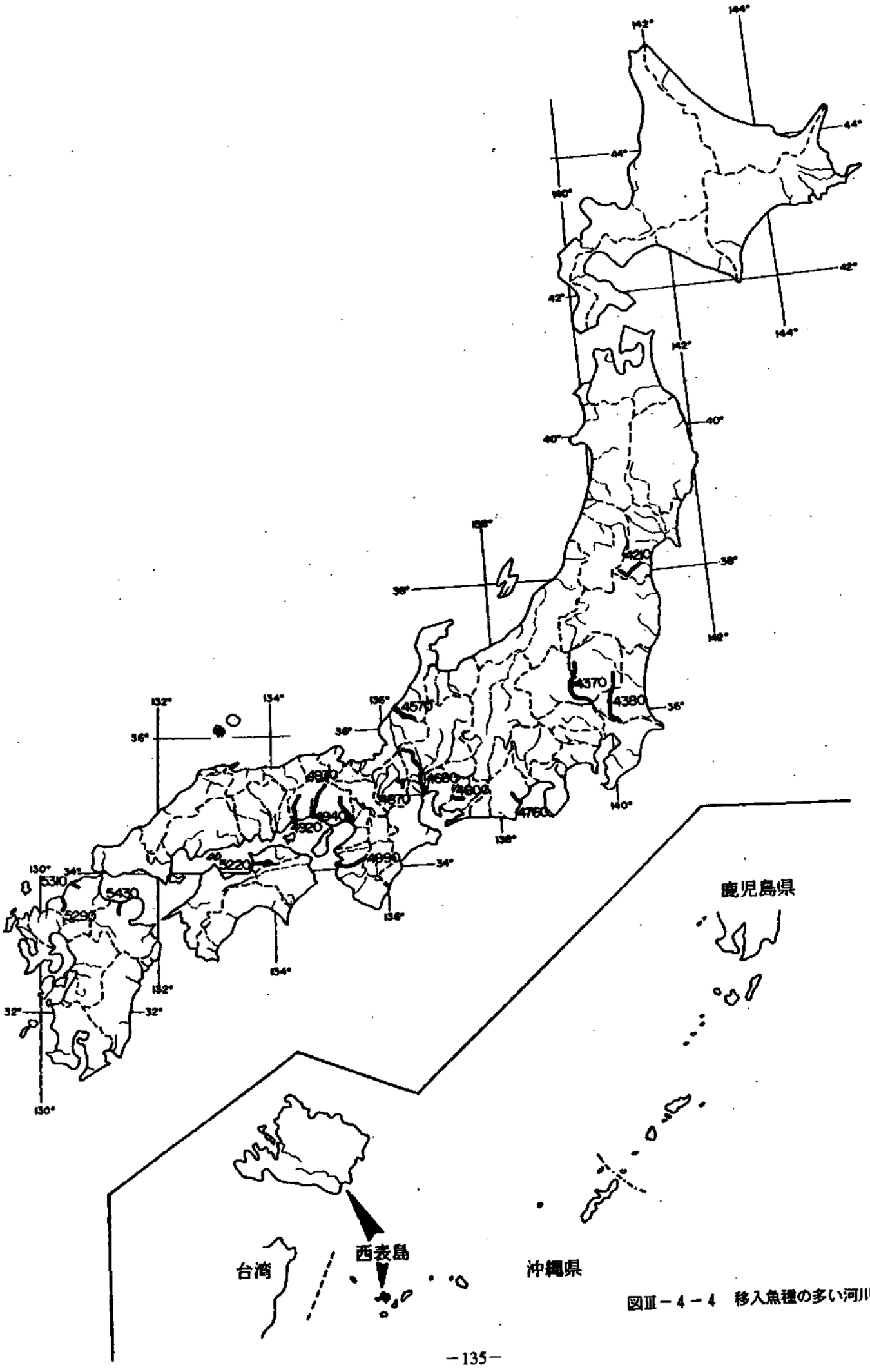
は、この4種がとりわけ広く生息分布している状況になっている。

移入魚種の分布は北は北海道から南は九州北部における57河川となっている。

最も移入魚種が多く報告されている河川は、4370渡良瀬川（埼玉・茨城・群馬・栃木県）の8種（ブラウン、ソウギョ、ハクレン、コクレン、タイリクバラタナゴ、タイワンドジョウ/ライギョ、ブラックバス、ブルーギル）である。以下、4680揖斐川（三重・岐阜県）及び4760瀬戸川（静岡県）の6種、4800乙川（愛知県）を始めとする5河川の4種、4210白石川（宮城県）を始めとする8河川の3種、4320夏井川（福島県）を始めとする18河川の2種、4130千歳川（北海道）をはじめとする23河川の1種、となっている（表Ⅲ－4－6、図Ⅲ－4－4）。

表Ⅲ－4－6　移入魚種の多い河川

	河川コード	河川名	移入魚種の数	調査実施流路長km	級別	幹・支	水系群名	都道府県
1	4370	渡良瀬川	8	107.5	一級	支	本州－太平洋／中南	埼玉・茨城・群馬・栃木
2	4680	揖斐川	6	111.5	一級	支	本州－太平洋／中南	三重・岐阜県
	4760	瀬戸川	6	26.4	二級	幹	本州－太平洋／中南	静岡県
4	4800	乙川	4	34.0	一級	支	本州－太平洋／中南	愛知県
	4870	犬上川	4	28.4	一級	支	本州－瀬戸内海	滋賀県
	4920	千種川	4	72.2	二級	幹	本州－瀬戸内海	兵庫県
	4930	市川	4	77.1	二級	幹	本州－瀬戸内海	兵庫県
	5430	駅館川	4	14.0	二級	幹	九州－瀬戸内海	大分県
9	4210	白石川	3	69.7	一級	支	本州－太平洋／中南	宮城県
	4380	小貝川	3	110.0	一級	支	本州－太平洋／中南	茨城県
	4570	大聖寺川	3	37.8	二級	幹	本州－日本海	石川県
	4940	武庫川	3	66.1	二級	幹	本州－瀬戸内海	兵庫県
	4990	有田川	3	103.0	二級	幹	本州－瀬戸内海	和歌山県
	5220	財田川	3	32.5	二級	幹	四国－瀬戸内海	香川県
	5290	室見川	3	22.6	二級	幹	九州－日本海	福岡県
	5310	釣川	3	16.8	二級	幹	九州－日本海	福岡県



図Ⅲ－4－4　移入魚種の多い河川分布図

1－5　天然繁殖の魚種

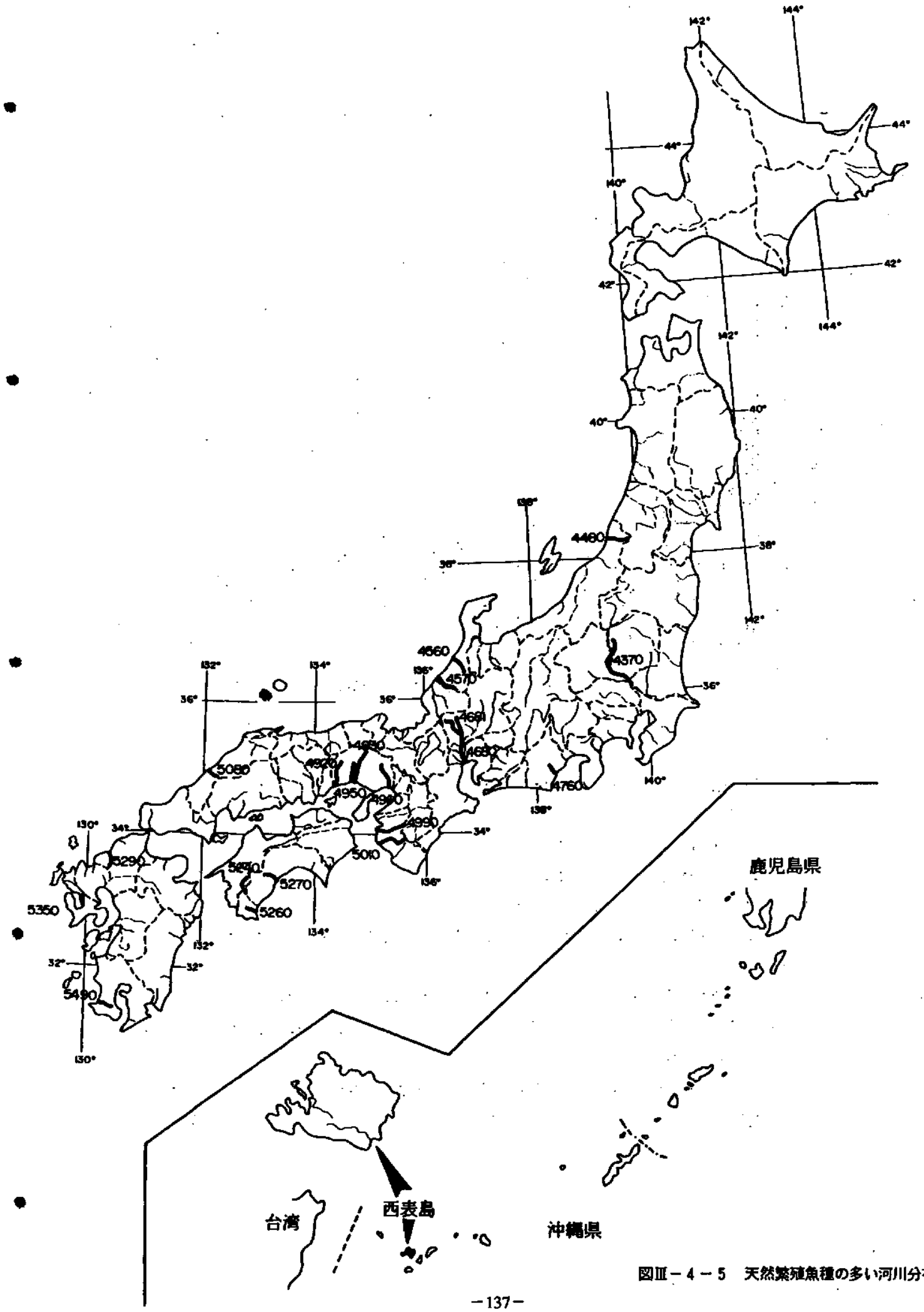
天然繁殖魚種の確定は、魚類調査票において天然繁殖が明記されているものとした。

天然繁殖魚種数の多い河川についてみると、4990有田川（和歌山県）が最多で80種報告されている。次いで、50種台が3河川、40種台が4河川となっている（表Ⅲ－4－7）。

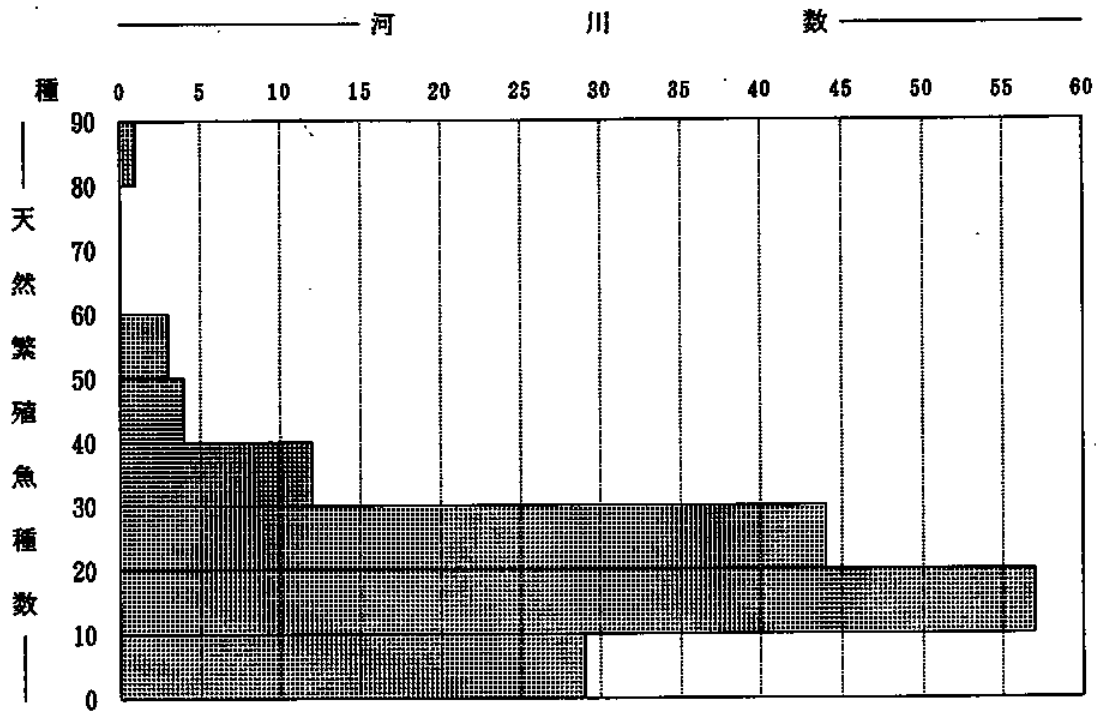
天然繁殖魚種の多い上位河川の分布をみると、本州－瀬戸内海水系群（兵庫県・和歌山県）、四国－太平洋／中南水系群（高知県）の河川が目立つ（図Ⅲ－4－5）。

表Ⅲ－4－7　天然繁殖魚種の多い河川

	河川コード	河川名	天然繁殖魚種数	調査実施流路長km	級別	幹・支	水系群名	都道府県
1	4990	有田川	80	103.0	二級	幹	本州－瀬戸内海	和歌山県
2	4920	千種川	55	72.2	二級	幹	本州－瀬戸内海	兵庫県
	5270	新荘川	55	25.1	二級	幹	四国－太平洋／中南	高知県
4	4680	揖斐川	51	111.5	一級	支	本州－太平洋／中南	三重・岐阜県
5	5260	下ノ加江川	46	27.5	二級	幹	四国－太平洋／中南	高知県
6	4930	市川	45	77.1	二級	幹	本州－瀬戸内海	兵庫県
	5010	日高川	45	119.2	二級	幹	本州－太平洋／中南	和歌山県
8	4950	夢前川	41	37.9	二級	幹	本州－瀬戸内海	兵庫県
9	4570	大聖寺川	38	37.8	二級	幹	本州－日本海	石川県
10	4560	犀川	37	34.0	二級	幹	本州－日本海	石川県
	4940	武庫川	37	66.1	二級	幹	本州－瀬戸内海	兵庫県
	5490	万之瀬川	37	30.2	二級	幹	九州－東シナ海	鹿児島県
13	5080	下府川	35	21.0	二級	幹	本州－日本海	島根県
	5290	室見川	35	22.6	二級	幹	九州－日本海	福岡県
15	5240	広見川	34	60.4	一級	支	四国－太平洋／中南	高知県
16	4681	根尾川	32	55.0	一級	支	本州－太平洋／中南	岐阜県
17	4370	渡良瀬川	31	107.5	一級	支	本州－太平洋／中南	栃・群・埼・茨
	4480	三面川	31	41.0	二級	幹	本州－日本海	新潟県
	4760	瀬戸川	31	26.4	二級	幹	本州－太平洋／中南	静岡県
	5350	川棚川	31	19.9	二級	幹	九州－日本海	長崎県



図Ⅲ－4－5　天然繁殖魚種の多い河川分布図



図Ⅲ－4－6　天然繁殖魚種数の階級区分別河川数

天然繁殖魚種数の階級区分別の河川数では、10種台が57河川と最も多く、次は20種台が44河川となっている（図Ⅲ－4－6）。

天然繁殖魚種別についてみる（表Ⅲ－4－8）。

多くの河川で天然繁殖している魚種はオイカワの 109河川で、全調査対象河川の71％に認められる。次いで、ウグイの 104河川（同68％）、コイの94河川（同61％）、カマツカの87河川（同57％）等で、これらの出現魚種は、順位は異なるが、広域に生息する魚種（表Ⅲ－4－2）に抽出されている魚種と一致するものが多い。

また、天然繁殖魚種について、その生息河川数と該当魚種の分布する河川数の比をとってみた。

これによると、およそ80％以上の値が算出される。このことから、該当魚種の出現は、全体としてかなりの部分が天然繁殖であると言うことができる。

しかし、この値において、例外的に、アユは53％、ウナギは41％の低率となっている。この結果は、アユとウナギについては、人工繁殖の河川が調査対象河川のおよそ半数あることを物語っている。

表Ⅲ－4－8　天然繁殖魚種別生息河川数（40河川以上）

	科	魚種名	天然繁殖魚種生息河川数A	該当魚種生息河川数B	調査対象河川数比A/153 %	生息河川数比A／B%
1	コイ	オイカワ	109	120	71.2	90.8
2	コイ	ウグイ	104	119	68.0	87.4
3	コイ	コイ	94	119	61.4	79.0
4	コイ	カマツカ	87	97	56.9	89.7
5	コイ	カワムツ	81	88	52.9	92.0
6	コイ	ギンブナ	77	85	50.3	90.6
7	ドジョウ	ドジョウ	71	78	46.4	91.0
8	ナマズ	ナマズ	69	81	45.1	85.2
9	アユ	アユ	68	129	44.4	52.7
10	ドジョウ	シマドジョウ	59	64	38.6	92.2
11	コイ	アブラハヤ	55	62	35.9	88.7
12	コイ	タカハヤ	53	54	34.6	98.1
13	カジカ	カジカ	51	59	33.3	86.4
14	コイ	ニゴイ	49	59	32.0	83.1
15	ハゼ	ヨシノボリ	48	49	31.4	98.0
16	サケ	イワナ(ニッコウイワナ)	47	57	30.7	82.5
	ハゼ	カワヨシノボリ	47	52	30.7	90.4
	ハゼ	ドンコ	47	54	30.7	87.0
19	コイ	フナ類	46	53	30.1	86.8
20	ウナギ	ウナギ	44	108	28.8	40.7
21	メダカ	メダカ	43	45	28.1	95.6
22	コイ	タモロコ	41	49	26.8	83.7
23	アカザ	アカザ	40	43	26.1	93.0

1－6　魚類の遡上状況

調査対象の 153河川は、表Ⅱ－1及び表Ⅲ－1－2に掲げるように、その流路が最終的に海に達する独立した「幹川」と、第3回調査の対象となった河川を幹川としてそれに合流する「支川」の2つの形態に分けることができる。

各河川毎のこのような形態の具体的な関係とそれらの個々の河川における遡可性（遡上可能性）魚類（サケ、サクラマス、アユ）の生息状況を図Ⅲ－4－7に掲げる。

整理した図に踏まえて、幹川と支川に調査対象河川を区分し、個々の河川における魚類の遡上可能性をみた（表Ⅲ－4－9）。

(1)　幹川における魚類の遡上可能状況

幹川形態の河川は74河川であるが、このうち27河川は調査対象区間の最上流区間まで魚類の遡上が可能となっている。半数に相当する37河川は、遡上可能区間の総区間数比が80%以上となっている。

これらの37河川についての地理的分布は、北海道（9河川）、兵庫・新潟県（各3河川）、青森・岩手・静岡・高知・熊本・沖縄県（各2河川）、千葉・富山・和歌山・京都・島根・徳島・香川・佐賀・大分・宮崎（各1河川）であり、北海道が突出してはいるがこれ以外での特徴的傾向は認められない。

魚類遡上可能区間が長い河川をみると、最大の河川は5010日高川（和歌山県）の 120区間である。このように 100区間以上の長大な遡上可能流路をもっている河川は、この他には、4110西別川と4020風蓮川のいずれも北海道に分布する2河川である。

魚類遡上可能区間が30区間以上の河川は21あるが、北海道8河川、兵庫県4河川に集中している。

(2)　幹川から分岐する支川における魚類の遡上可能状況

幹川から分岐する支川は79河川あるが、このうち幹川河口から支川との合流区間までの魚類遡上状況が明確な50河川について、一連の河川として魚類の遡上可能状況をみた。

幹川の河口から支川（調査対象河川）の最上流区間まで遡上可能な河川は、7河川であった。幹川河口から80%以上の区間まで遡上可能な河川は半数に近い22河川であった。これらの地理的特徴は特に認められない。

遡上可能区間が長大なものは、 200区間以上が2河川、 100区間以上 200区間未満が10河川となっている。これらの長大な遡上可能区間が確保されているのは、主として、本州－太平洋水系群等に属している長大幹川の支川である。

表Ⅲ－4－9　調査対象河川の魚類遡上可能区間集計

(1)「幹　川」の魚類遡上可能区間率　上位37

	河川コード	河川名	調査流路延長(km)	総区間数A	魚類遡上可能区間B	B／A%	水系群名	都道府県
1	4020	風蓮川	99.5	100	100	100.0	北海道－太平洋／北	北海道
	4040	暑寒別川	26.0	26	26	100.0	北海道－日本海	北海道
	4050	別寒辺牛川	55.9	56	56	100.0	北海道－太平洋／北	北海道
	4060	遊楽部川	30.0	30	30	100.0	北海道－太平洋／中南	北海道
	4070	厚田川	32.0	32	32	100.0	北海道－日本海	北海道
	4090	朱太川	40.4	41	41	100.0	北海道－日本海	北海道
	4100	歴舟川	64.7	65	65	100.0	北海道－太平洋／北	北海道
	4110	西別川	109.7	110	110	100.0	北海道－太平洋／北	北海道
	4120	日高幌別川	33.8	34	34	100.0	北海道－太平洋／中南	北海道
	4150	赤石川	50.2	51	51	100.0	本州－日本海	青森県
	4160	蟹田川	21.8	22	22	100.0	本州－日本海	青森県
	4170	安家川	28.7	29	29	100.0	本州－太平洋／中南	岩手県
	4430	一宮川	27.7	28	28	100.0	本州－太平洋／中南	千葉県
	4490	羽茂川	20.0	20	20	100.0	本州－日本海	新潟県
	4550	上庄川	22.0	22	22	100.0	本州－日本海	富山県
	4920	千種川	72.2	73	73	100.0	本州－瀬戸内海	兵庫県
	4940	武庫川	66.1	67	67	100.0	本州－瀬戸内海	兵庫県
	4950	夢前川	37.9	38	38	100.0	本州－瀬戸内海	兵庫県
	5010	日高川	119.2	120	120	100.0	本州－太平洋／中南	和歌山県
	5190	海部川	36.0	36	36	100.0	四国－太平洋／中南	徳島県
	5200	野根川	20.0	20	20	100.0	四国－太平洋／中南	高知県
	5230	香東川	37.0	37	37	100.0	四国－瀬戸内海	香川県
	5330	玉島川	15.7	16	16	100.0	九州－日本海	佐賀県
	5390	水俣川	18.1	19	19	100.0	九州－東シナ海	熊本県
	5430	駅館川	14.0	14	14	100.0	九州－瀬戸内海	大分県
	5510	仲間川	9.0	9	9	100.0	九州－東シナ海	沖縄県
	5520	仲良川	7.0	7	7	100.0	九州－東シナ海	沖縄県
28	4750	興津川	21.7	22	21	95.5	本州－太平洋／中南	静岡県
29	4760	瀬戸川	26.4	27	25	92.6	本州－太平洋／中南	静岡県
30	5080	下府川	21.0	21	19	90.5	本州－日本海	島根県
31	5270	新荘川	25.1	26	23	88.5	四国－太平洋／中南	高知県
32	4500	加治川	38.0	38	33	86.8	本州－日本海	新潟県
33	4190	気仙川	38.6	39	33	84.6	本州－太平洋／中南	岩手県
34	4880	宇川	17.9	18	15	83.3	本州－日本海	京都府
	5370	氷川	23.9	24	20	83.3	九州－東シナ海	熊本県
	5450	福島川	23.5	24	20	83.3	九州－太平洋／中南	宮崎県
37	4510	鯖石川	45.0	45	36	80.0	本州－日本海	新潟県

(2)「幹　川」の魚類遡上可能区間の長い河川　上位21（30区間以上）

	河川コード	河川名	調査流路延長(km)	総区間数A	魚類遡上可能区間B	B／A%	水系群名	都道府県
1	5010	日高川	119.2	120	120	100.0	本州－太平洋／中南	和歌山県
2	4110	西別川	109.7	110	110	100.0	北海道－太平洋／北	北海道
3	4020	風蓮川	99.5	100	100	100.0	北海道－太平洋／北	北海道
4	4920	千種川	72.2	73	73	100.0	本州－瀬戸内海	兵庫県
5	4940	武庫川	66.1	67	67	100.0	本州－瀬戸内海	兵庫県
6	4100	歴舟川	64.7	65	65	100.0	北海道－太平洋／北	北海道
7	5170	錦川	110.3	111	60	54.1	本州－瀬戸内海	山口県
8	4930	市川	77.1	78	59	75.6	本州－瀬戸内海	兵庫県
9	4050	別寒辺牛川	55.9	56	56	100.0	北海道－太平洋／北	北海道
10	4150	赤石川	50.2	51	51	100.0	本州－日本海	青森県
11	4090	朱太川	40.4	41	41	100.0	北海道－日本海	北海道
12	4950	夢前川	37.9	38	38	100.0	本州－瀬戸内海	兵庫県
13	5230	香東川	37.0	37	37	100.0	四国－瀬戸内海	香川県
14	5190	海部川	36.0	36	36	100.0	四国－太平洋／中南	徳島県
15	4510	鯖石川	45.0	45	36	80.0	本州－日本海	新潟県
16	4990	有田川	103.0	103	36	35.0	本州－瀬戸内海	和歌山県
17	4120	日高幌別川	33.8	34	34	100.0	北海道－太平洋／中南	北海道
18	4500	加治川	38.0	38	33	86.8	本州－日本海	新潟県
19	4190	気仙川	38.6	39	33	84.6	本州－太平洋／中南	岩手県
20	4070	厚田川	32.0	32	32	100.0	北海道－日本海	北海道
21	4060	遊楽部川	30.0	30	30	100.0	北海道－太平洋／中南	北海道

(3)「幹川」から分岐する「支川」の魚類遡上可能区間率　上位22（80%以上）
〔A＝幹川合流区間＋調査対象河川総区間数　　B＝幹川合流区間＋調査対象河川遡上可能区間〕

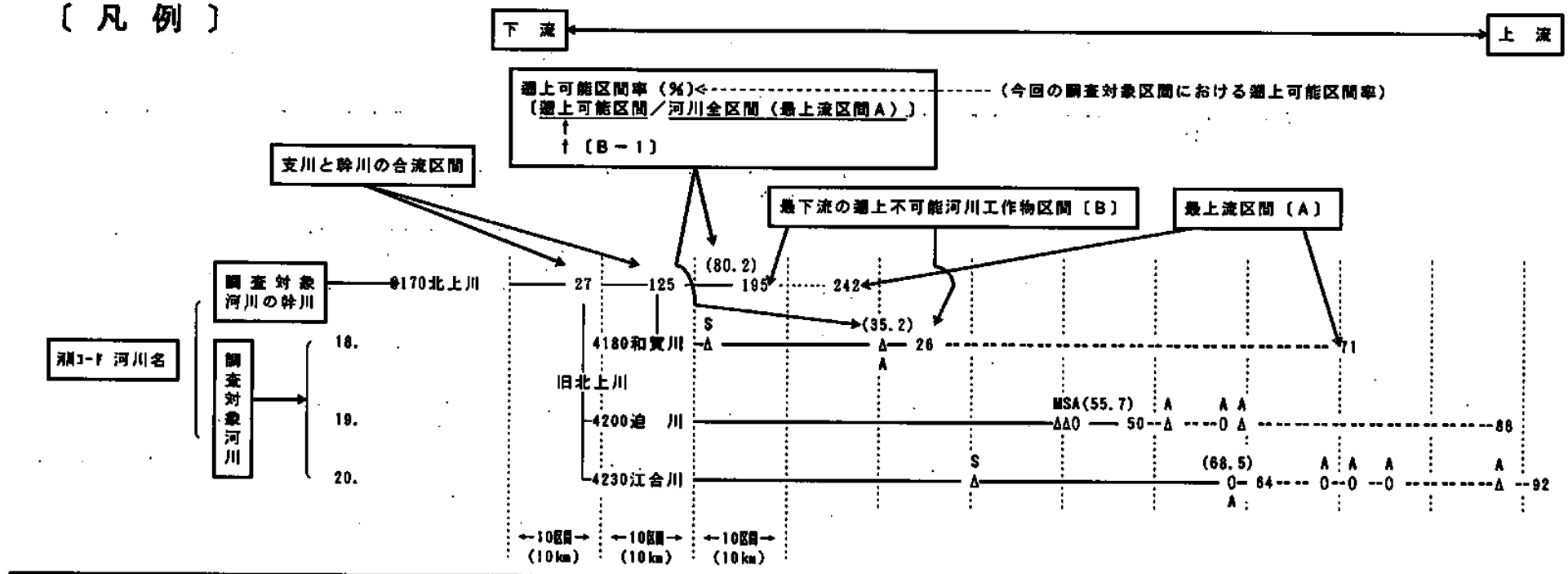
	河川コード	河川名	調査流路延長(km)	総区間数A	魚類遡上可能区間B	B／A%	水系群名	都道府県
1	4010	雪裡川	58.6	60	60	100.0	北海道－太平洋／北	北海道
2	4030	美々川	18.2	＊18	＊18	100.0	北海道－太平洋／中南	北海道
3	4280	最上小国川	37.0	98	98	100.0	本州－日本海	山形県
4	4690	武儀川	27.0	90	90	100.0	本州－太平洋／中南	岐阜県
5	4820	五十鈴川	8.4	10	10	100.0	本州－太平洋／中南	三重県
6	5020	八東川	32.0	48	48	100.0	本州－日本海	鳥取県
7	5380	御船川	32.8	48	48	100.0	九州－東シナ海	熊本県
8	4970	高見川	22.3	115	114	99.1	本州－瀬戸内海	奈良県
9	5070	三刀屋川	36.1	108	106	98.1	本州－日本海	島根県
10	4310	角川	13.8	54	52	96.3	本州－日本海	山形県
11	4700	吉田川	30.4	142	134	94.4	本州－太平洋／中南	岐阜県
12	4800	乙川	34.0	56	52	92.9	本州－太平洋／中南	愛知県
13	4660	依田川	32.5	294	266	90.5	本州－日本海	長野県
14	4910	水無瀬川	4.0	40	36	90.0	本州－瀬戸内海	大阪府
15	4400	烏川	61.8	248	222	89.5	本州－太平洋／中南	群馬県
16	4290	寒河江川	45.9	166	148	89.2	本州－日本海	山形県
17	4390	箒川	49.5	138	122	88.4	本州－太平洋／中南	栃木県
18	4220	吉田川	54.0	55	48	87.3	本州－太平洋／中南	宮城県
19	5050	赤川	21.0	86	75	87.2	本州－日本海	島根県
20	5250	小田川	38.7	75	63	84.0	四国－瀬戸内海	愛媛県
21	5410	玖珠川	57.3	136	113	83.1	九州－東シナ海	大分県
22	4130	千歳川	69.2	98	80	81.6	北海道－日本海	北海道

＊　美々川は実際は勇払川の支川であり、勇払川における遡上をみる必要がある。
しかし、そのデータは無いので参考資料として扱われたい。

(4)「幹川」から分岐する「支川」の魚類遡上可能区間の長い河川　上位26（60区間以上）
〔A＝幹川合流区間＋調査対象河川総区間数　　B＝幹川合流区間＋調査対象河川遡上可能区間〕

	河川コード	河川名	調査流路延長(km)	総区間数A	魚類遡上可能区間B	B／A%	水系群名	都道府県
1	4660	依田川	32.5	294	266	90.5	本州－日本海	長野県
2	4400	鳥川	61.8	248	222	89.5	本州－太平洋／中南	群馬県
3	4180	和賀川	70.6	196	150	76.5	本州－太平洋／中南	岩手県
4	4290	寒河江川	45.9	166	148	89.2	本州－日本海	山形県
5	4370	渡良瀬川	107.5	241	138	57.3	本州－太平洋／中南	埼玉県
6	4700	吉田川	30.4	142	134	94.4	本州－太平洋／中南	岐阜県
7	4390	箒川	49.5	138	122	88.4	本州－太平洋／中南	栃木県
8	4710	飛騨川	137.0	210	118	56.2	本州－太平洋／中南	岐阜県
9	4970	高見川	22.3	115	114	99.1	本州－瀬戸内海	奈良県
10	5410	玖珠川	57.3	136	113	83.1	九州－東シナ海	大分県
11	5210	銅山川	61.4	153	110	71.9	四国－瀬戸内海	徳島県
12	5070	三刀屋川	36.1	108	106	98.1	本州－日本海	島根県
13	4280	最上小国川	37.0	98	98	100.0	本州－日本海	山形県
14	4690	武儀川	27.0	90	90	100.0	本州－太平洋／中南	岐阜県
15	4230	江合川	92.0	119	90	75.6	本州－太平洋／中南	宮城県
16	4380	小貝川	110.0	189	80	42.3	本州－太平洋／中南	茨城県
17	4130	千歳川	69.2	98	80	81.6	北海道－日本海	北海道
18	5240	広見川	60.4	110	78	70.9	四国－太平洋／中南	高知・愛媛県
19	4200	迫川	87.4	115	76	66.1	本州－太平洋／中南	宮城県
20	5050	赤川	21.0	86	75	87.2	本州－日本海	島根県
21	4681	根尾川	55.0	101	74	73.3	本州－太平洋／中南	岐阜県
22	5120	吉野川	66.0	117	69	59.0	本州－瀬戸内海	岡山県
23	5250	小田川	38.7	75	63	84.0	四国－瀬戸内海	愛媛県
24	4010	雷裡川	58.6	60	60	100.0	北海道－太平洋／北	北海道
25	4790	巴川	53.0	88	60	68.2	本州－太平洋／中南	愛知県
26	4680	揖斐川	111.5	100	60	60.0	本州－太平洋／中南	三重県

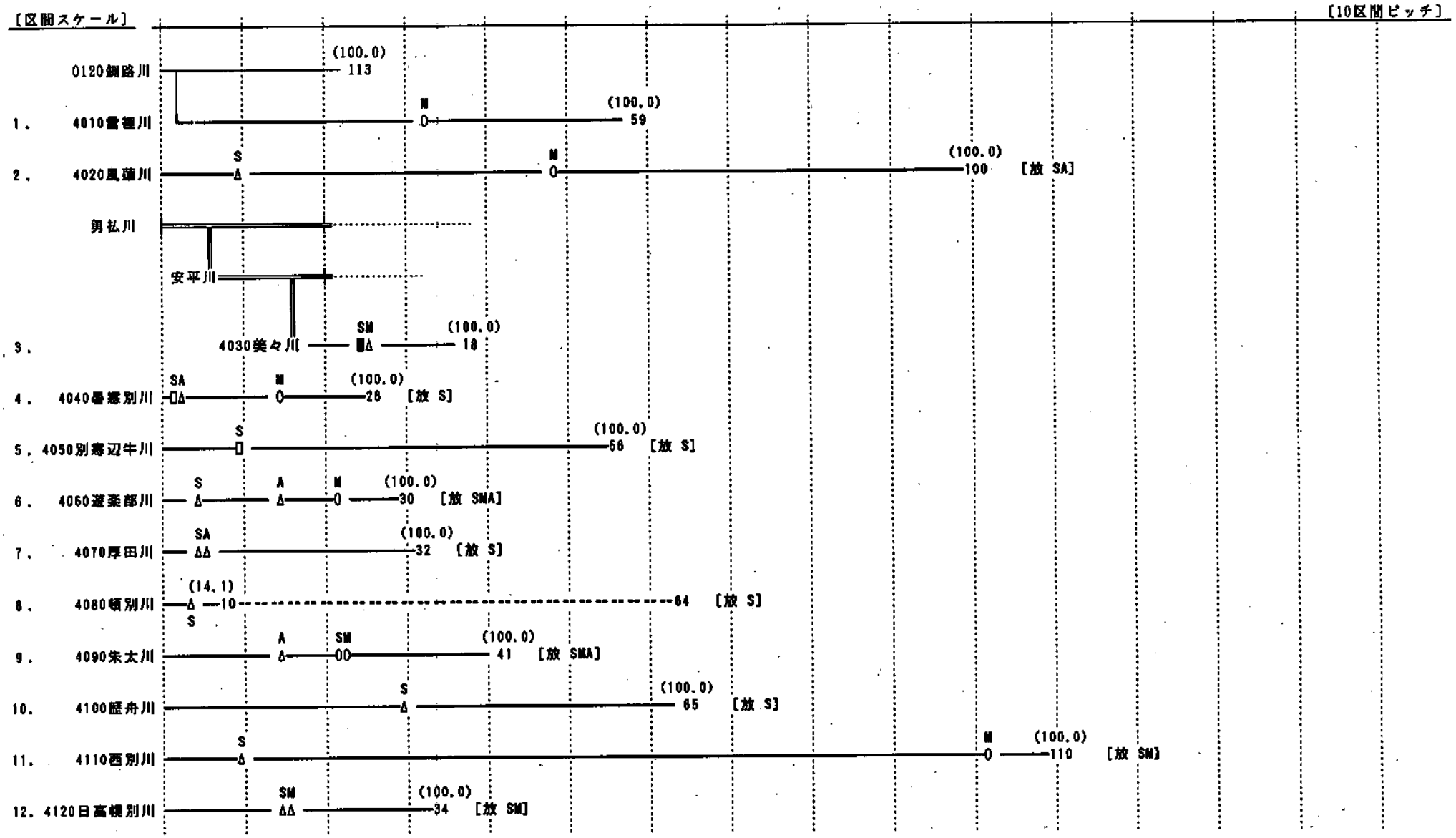
〔 凡 例 〕

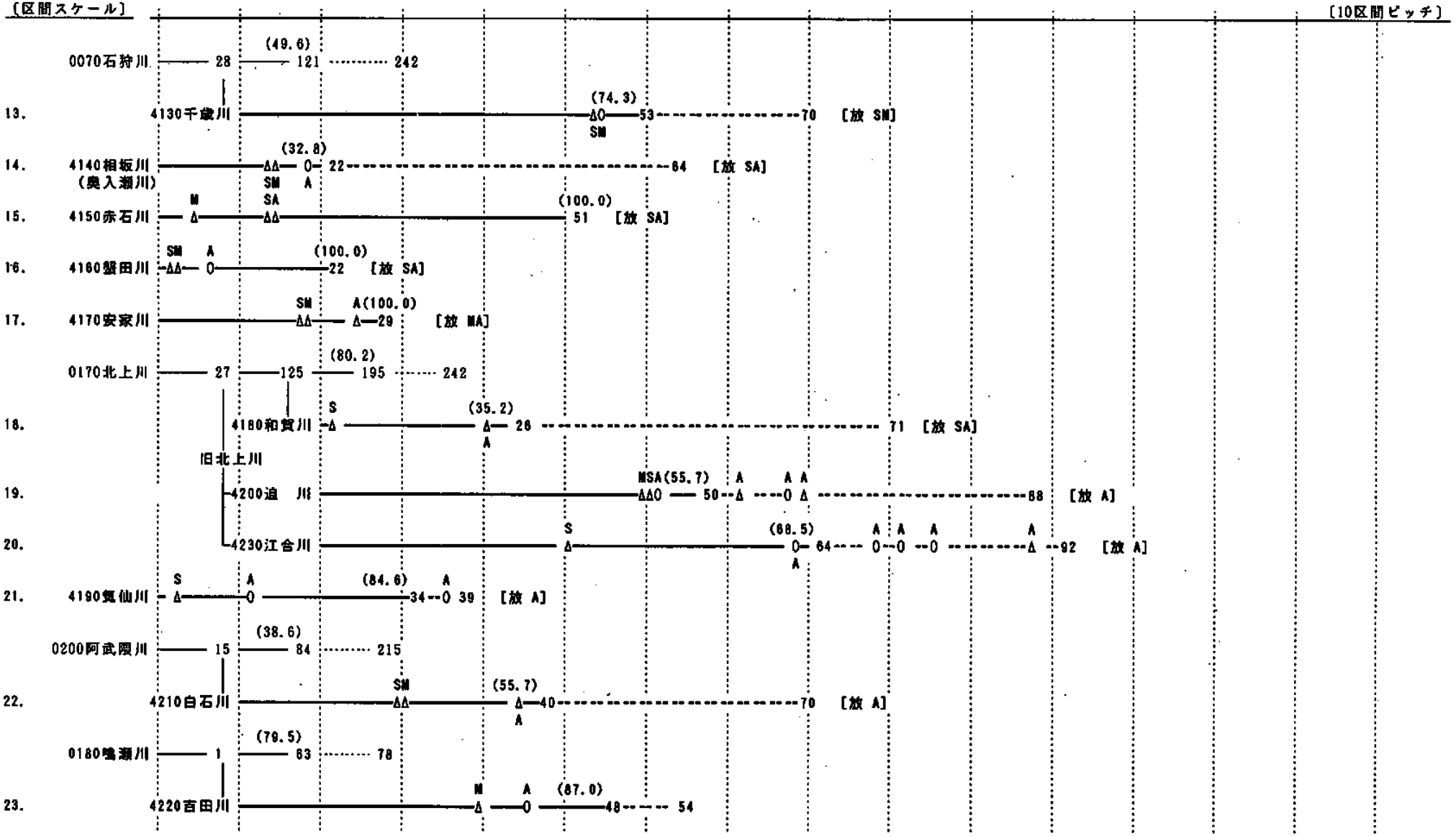


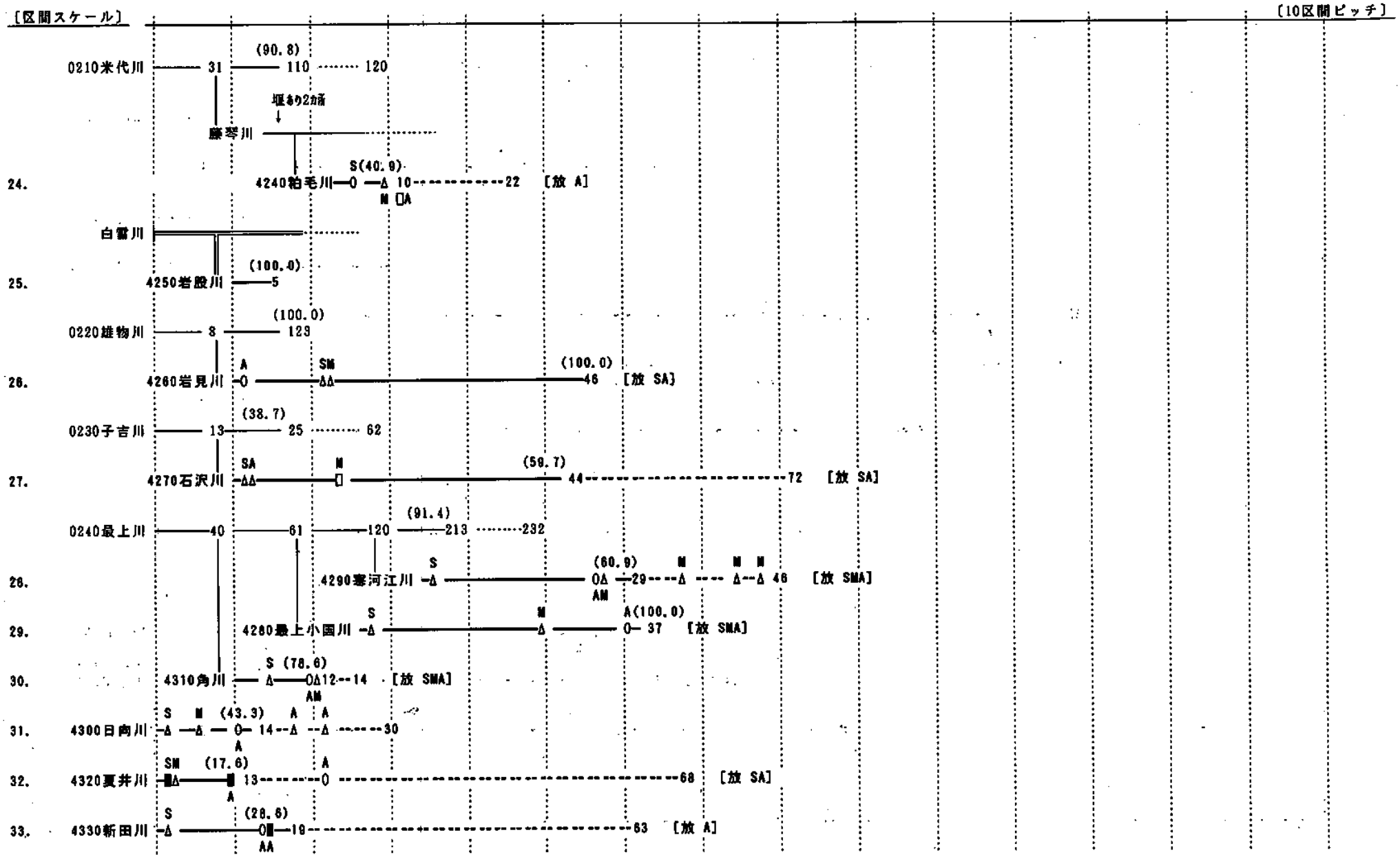
〔注意〕河川流路区分の表示は、第3回調査対象河川の支川の場合、幹川の河口からの遡上可能流路を追跡して表示してある。
したがって、今回の調査対象河川が幹川に合流する区間が、すでに遡上不可能区間である場合、調査対象河川は全て遡上不可能として表示してある。ただし、調査対象河川を単独としてみたときの最下流の遡上不可能河川工作物のある区間と遡上可能区間率は表示してある。

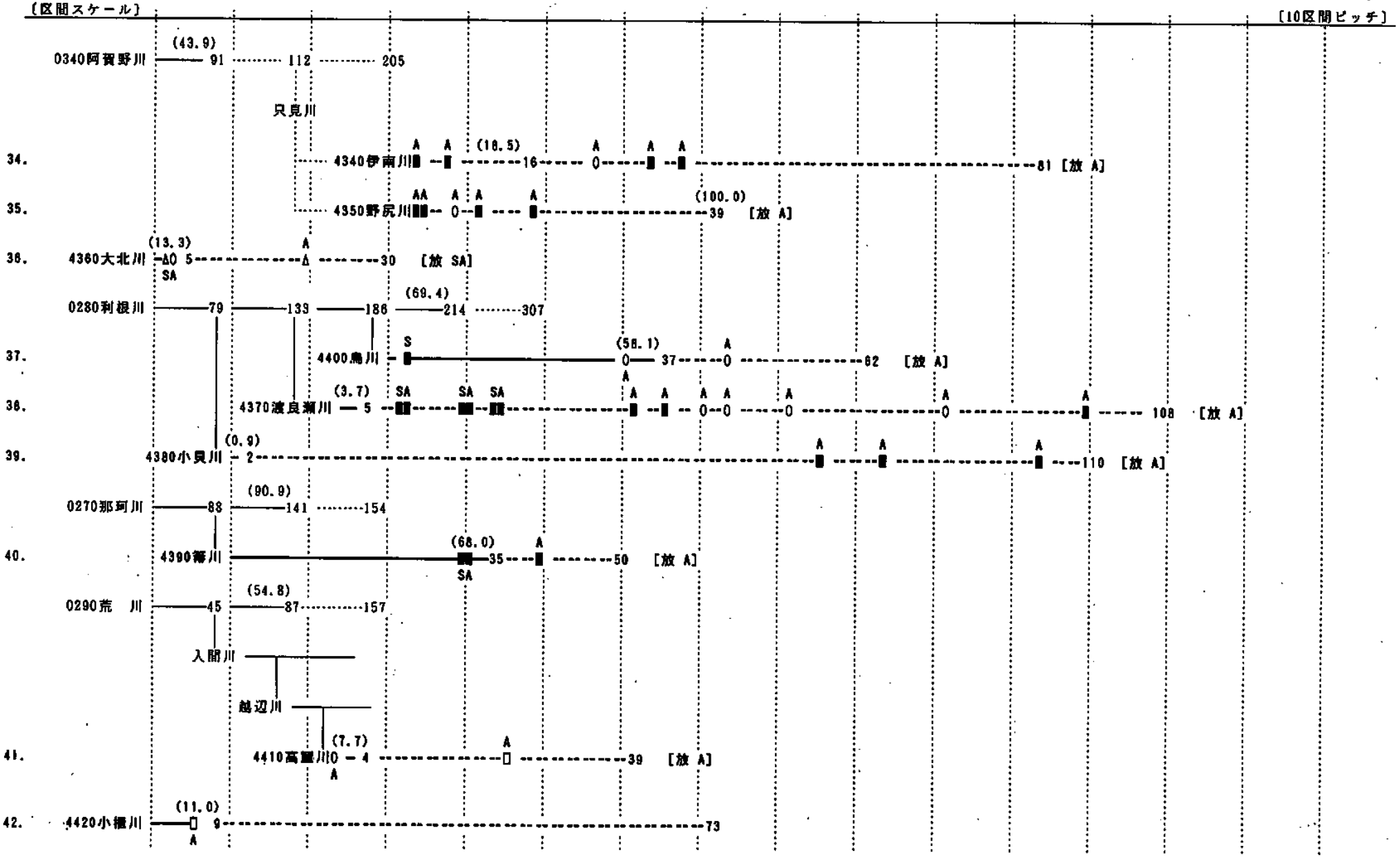
〔注意〕魚類相の表示は、次のとおり。
最下流の遡上不可能工作物がある区間より
○下流側（遡上可能区間内）においては、最も上流に位置するデータ
○上流側（遡上不可能区間内）においては、全てのデータ

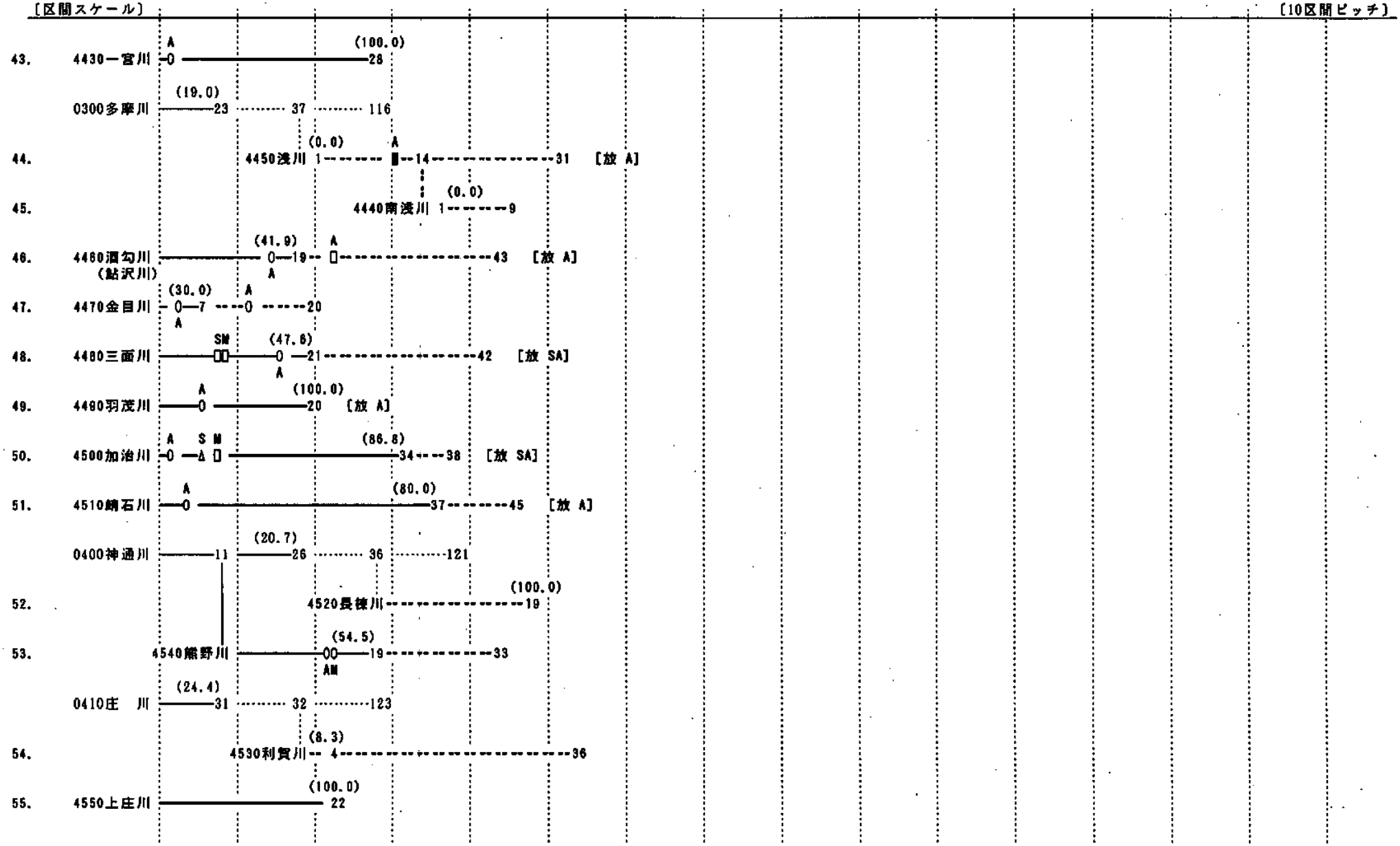
図Ⅲ－4－7　調査対象河川の幹川との関係及び代表的遡可性魚類の生息状況

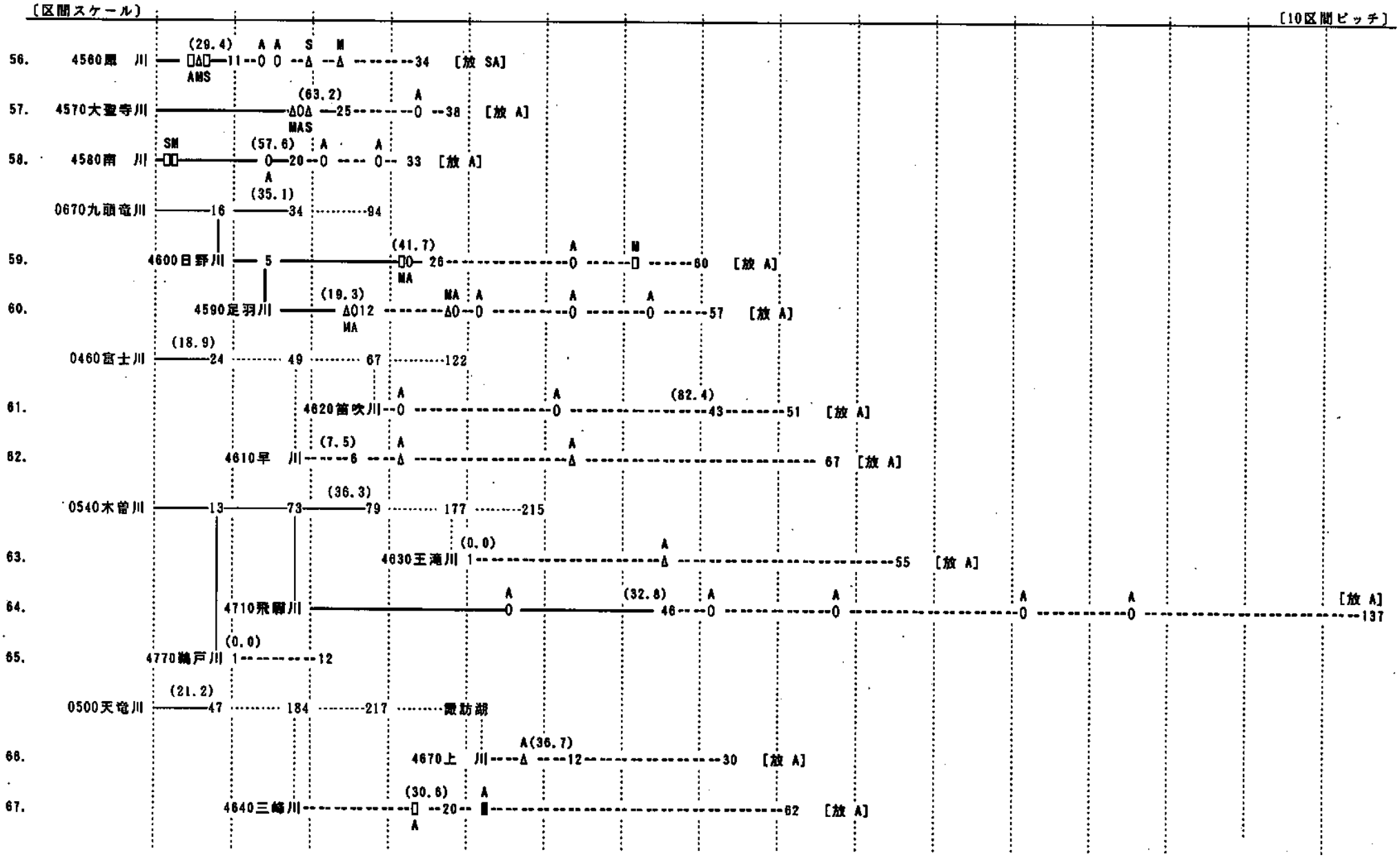

[区間スケール]
[10区間ピッチ]
0120銅路川
(100.0)
113
1. 4010雪裡川
M
0
(100.0)
59
2. 4020風蓮川
S
Δ
M
0
(100.0)
100 [放 SA]
勇払川
安平川
3. 4030美々川
SM
■Δ
(100.0)
18
4. 4040暑寒別川
SA
□Δ
M
0
(100.0)
28 [放 S]
5. 4050別寒辺牛川
S
□
(100.0)
58 [放 S]
6. 4060遊楽部川
S
Δ
A
Δ
M
0
(100.0)
30 [放 SMA]
7. 4070厚田川
SA
ΔΔ
(100.0)
32 [放 S]
8. 4080頓別川
(14.1)
Δ
S
10
64 [放 S]
9. 4090朱太川
A
Δ
SM
00
(100.0)
41 [放 SMA]
10. 4100歌舟川
S
Δ
(100.0)
65 [放 S]
11. 4110西別川
S
Δ
M
0
(100.0)
110 [放 SM]
12. 4120日高幌別川
SM
ΔΔ
(100.0)
34 [放 SM]

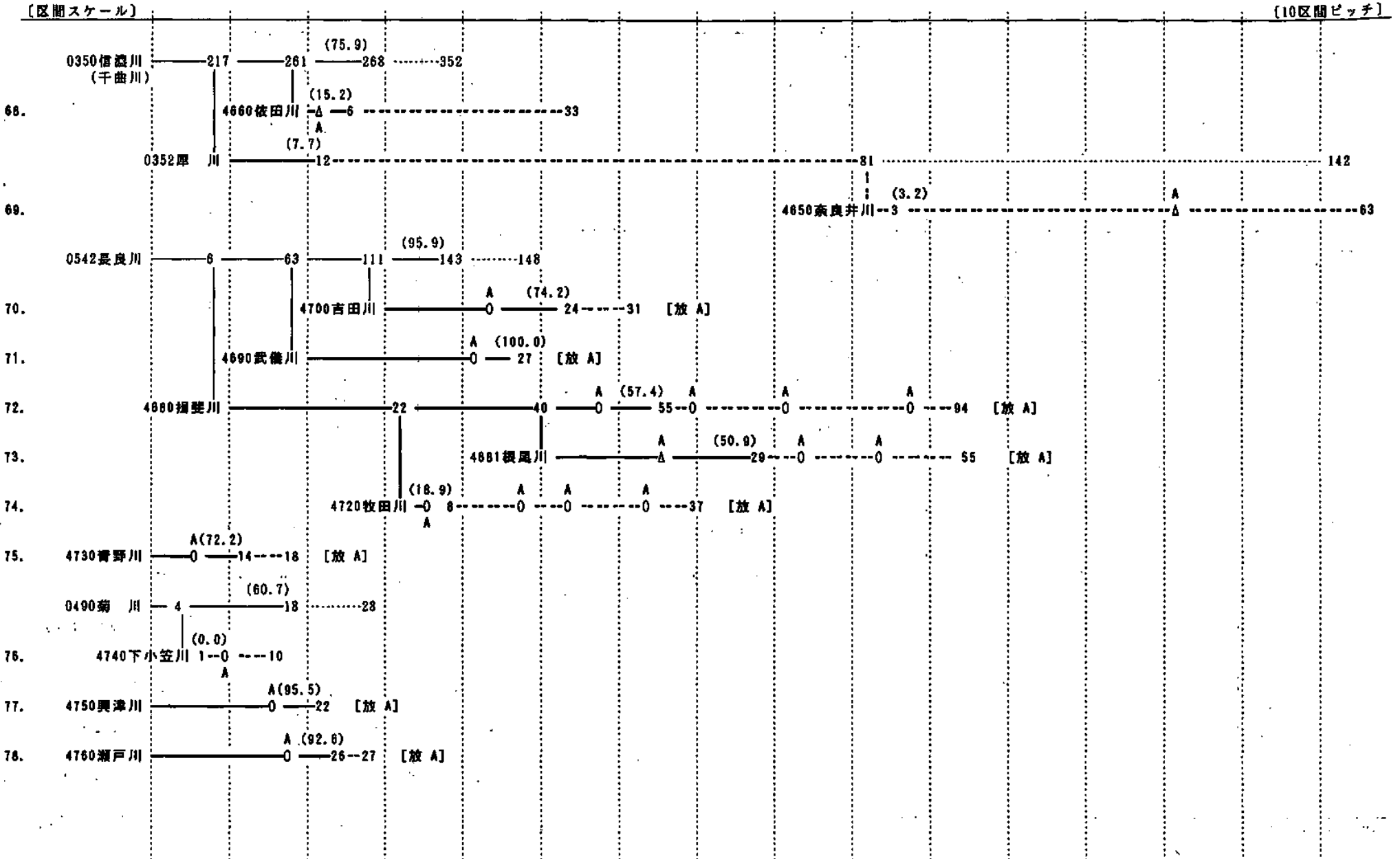

〔区間スケール〕
〔10区間ピッチ〕
0070石狩川
28
(49.6)
121
242
13.
4130千歳川
(74.3)
53
70
[放 SM]
14.
4140相坂川
(奥入瀬川)
(32.8)
22
64
[放 SA]
15.
4150赤石川
(100.0)
51
[放 SA]
16.
4160蟹田川
(100.0)
22
[放 SA]
17.
4170安家川
A(100.0)
29
[放 MA]
0170北上川
27
125
(80.2)
195
242
18.
4180和賀川
(35.2)
26
71
[放 SA]
旧北上川
19.
4200迫 川
MSA(55.7)
50
88
[放 A]
20.
4230江合川
(68.5)
64
92
[放 A]
21.
4190気仙川
(84.6)
34
39
[放 A]
0200阿武隈川
15
(38.6)
84
215
22.
4210白石川
(55.7)
40
70
[放 A]
0180鳴瀬川
1
(79.5)
63
78
23.
4220吉田川
(87.0)
48
54

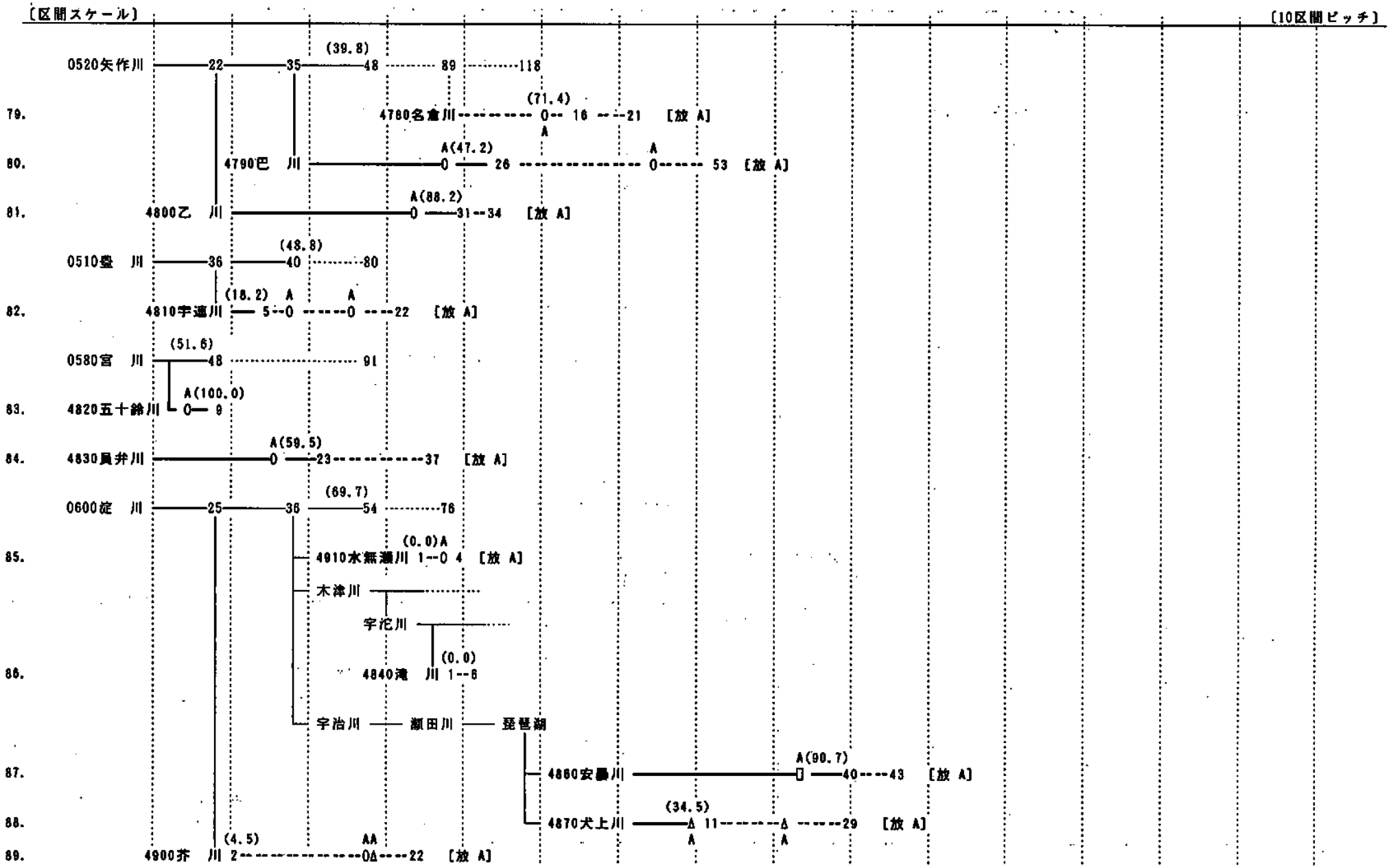

〔区間スケール〕
〔10区間ピッチ〕
0210米代川
(90.8)
31
110
120
堰あり2カ所
藤琴川
24.
4240粕毛川
S(40.9)
0
Δ
10
22
[放 A]
M □A
白雪川
25.
4250岩股川
(100.0)
5
0220雄物川
(100.0)
8
129
26.
4260岩見川
A
SM
0
ΔΔ
(100.0)
46
[放 SA]
0230子吉川
(38.7)
13
25
62
27.
4270石沢川
SA
M
ΔΔ
(59.7)
44
72
[放 SA]
0240最上川
(91.4)
40
61
120
213
232
28.
4290寒河江川
S
Δ
(60.9)
M
M M
0Δ
29
Δ
Δ Δ
46
[放 SMA]
AM
29.
4280最上小国川
S
M
A(100.0)
Δ
Δ
0
37
[放 SMA]
30.
4310角川
S (78.6)
Δ
0Δ
12
14
[放 SMA]
AM
31.
4300日向川
S M (43.3) A A
Δ Δ 0 14 Δ Δ 30
A
32.
4320夏井川
SM (17.6) A
■Δ ■ 13 0 68
[放 SA]
A
33.
4330新田川
S (28.6)
Δ 0■ 19 63
[放 A]
AA

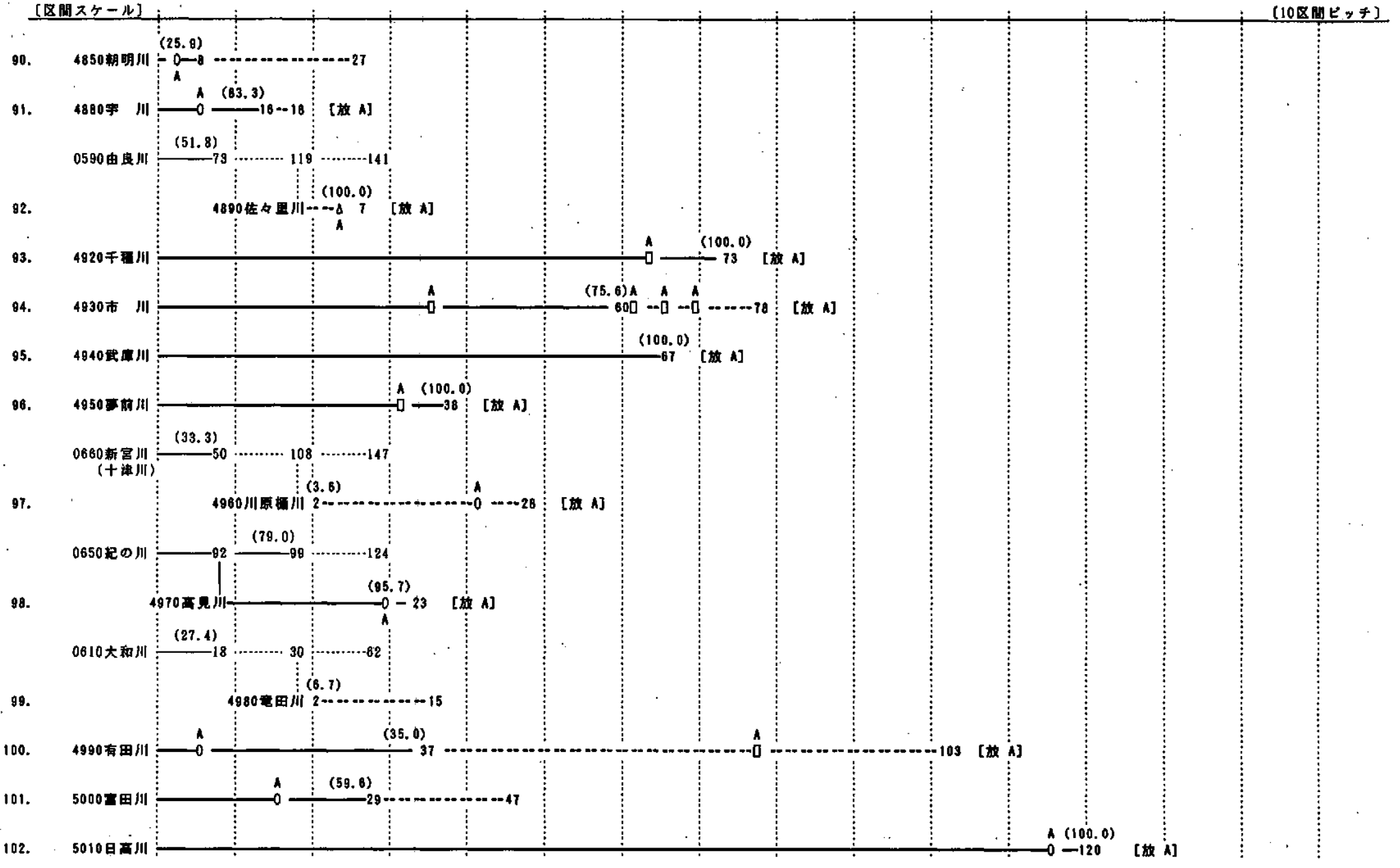

〔区間スケール〕
〔10区間ピッチ〕
0340阿賀野川
(43.9)
91
112
205
只見川
34.
4340伊南川
(18.5)
16
0
81 [放 A]
35.
4350野尻川
(100.0)
39 [放 A]
36.
4360大北川
(13.3)
5
30 [放 SA]
0280利根川
(69.4)
79
133
186
214
307
37.
4400鳥川
(58.1)
0
37
0
62 [放 A]
38.
4370渡良瀬川
(3.7)
5
0
0
0
108 [放 A]
39.
4380小貝川
(0.9)
2
110 [放 A]
0270那珂川
(90.9)
88
141
154
40.
4390涸川
(68.0)
35
50 [放 A]
0290荒 川
(54.8)
45
87
157
入間川
越辺川
41.
4410高麗川
(7.7)
0
4
39 [放 A]
42.
4420小櫃川
(11.0)
9
73

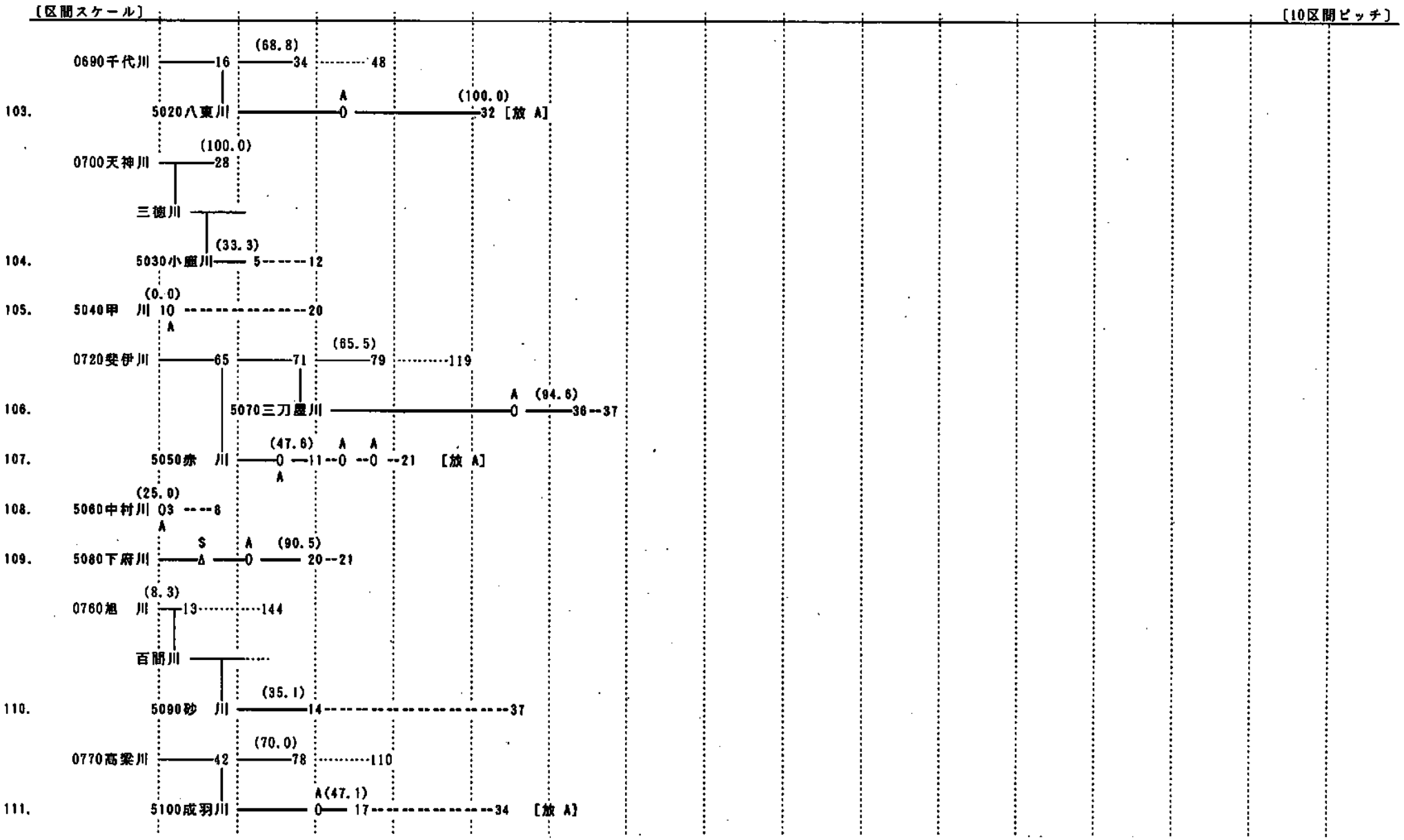

〔区間スケール〕
〔10区間ピッチ〕
43.
4430一宮川
(100.0)
28
0300多摩川
(19.0)
23
37
116
44.
4450浅川
(0.0)
14
31
〔放 A〕
45.
4440南浅川
(0.0)
9
46.
4460酒匂川
(鮎沢川)
(41.9)
19
43
〔放 A〕
47.
4470金目川
(30.0)
7
20
48.
4480三面川
SM
(47.6)
21
42
〔放 SA〕
49.
4490羽茂川
(100.0)
20
〔放 A〕
50.
4500加治川
S M
(86.6)
34
38
〔放 SA〕
51.
4510鯖石川
(80.0)
37
45
〔放 A〕
0400神通川
(20.7)
11
26
36
121
52.
4520長棟川
(100.0)
19
53.
4540熊野川
(54.5)
19
33
AM
0410庄　川
(24.4)
31
32
123
54.
4530利賀川
(8.3)
4
36
55.
4550上庄川
(100.0)
22

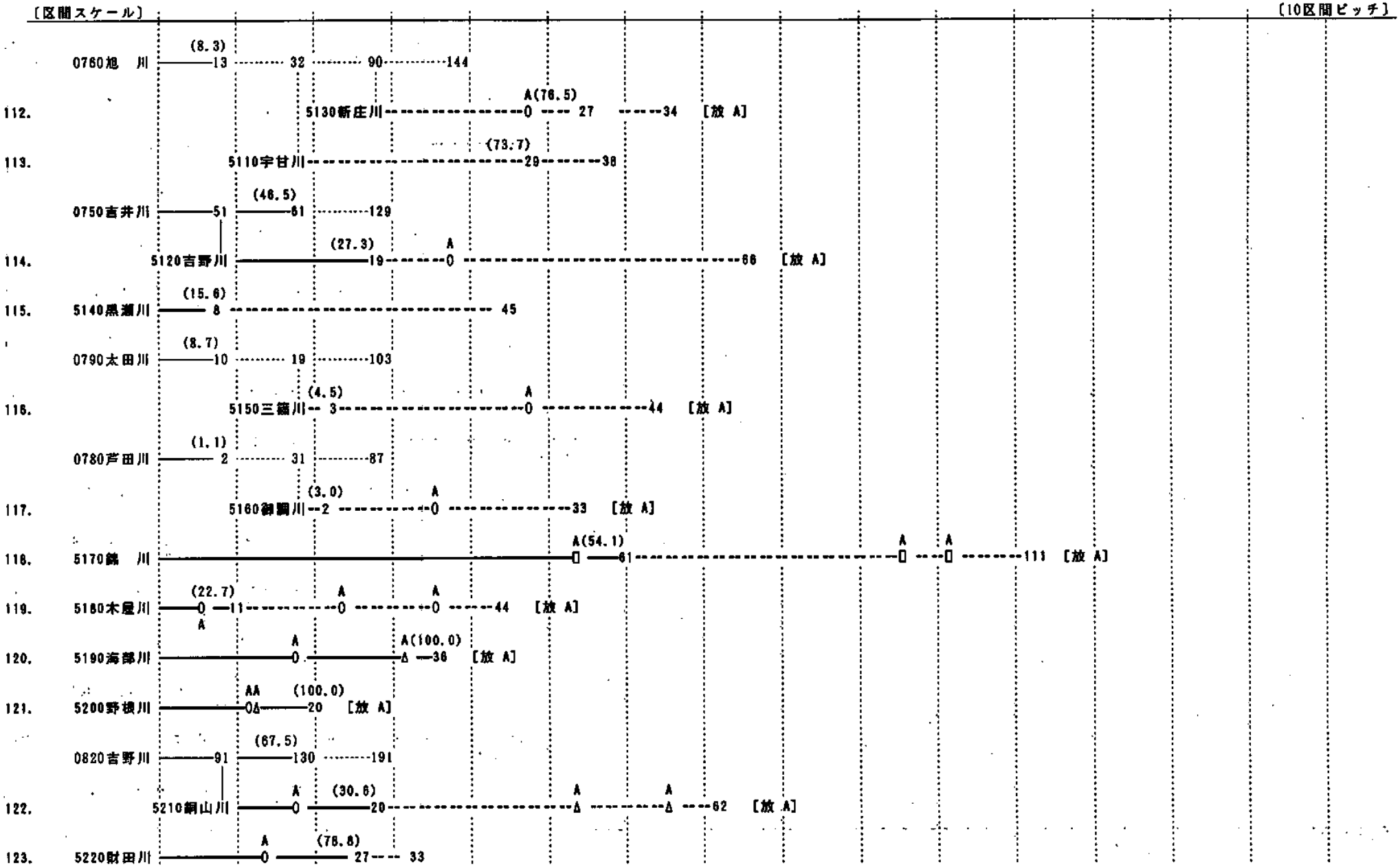

〔区間スケール〕
〔10区間ピッチ〕
56. 4560黒　川
57. 4570大聖寺川
58. 4580南　川
0670九頭竜川
59. 4600日野川
60. 4590足羽川
0460富士川
61. 4620笹吹川
62. 4610早　川
0540木曽川
63. 4630王滝川
64. 4710飛騨川
65. 4770鵜戸川
0500天竜川
66. 4670上　川
67. 4640三峰川
[放 SA]
[放 A]

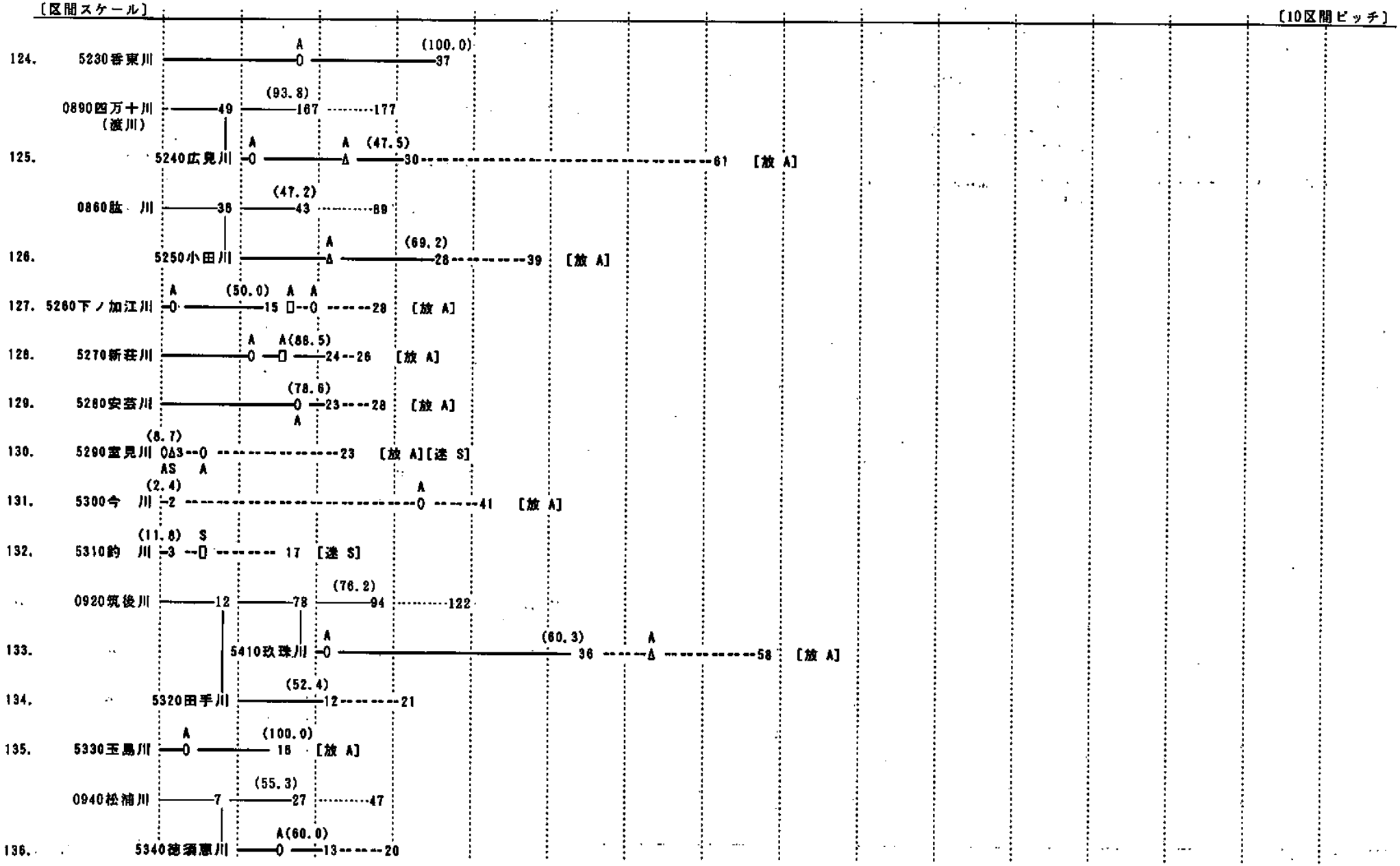

〔区間スケール〕
〔10区間ピッチ〕
0350信濃川
(千曲川)
(75.9)
217
261
268
352
66.
4660依田川
(15.2)
6
33
(7.7)
0352犀　川
12
81
142
69.
4650奈良井川
(3.2)
3
63
0542長良川
(95.9)
6
63
111
143
148
70.
4700吉田川
(74.2)
24
31
[放 A]
71.
4690武儀川
(100.0)
27
[放 A]
72.
4660揖斐川
22
40
(57.4)
55
94
[放 A]
73.
4681根尾川
(50.9)
29
55
[放 A]
74.
4720牧田川
(18.9)
8
37
[放 A]
75.
4730青野川
A(72.2)
14
18
[放 A]
0490菊　川
(60.7)
4
18
28
76.
4740下小笠川
(0.0)
1
10
77.
4750興津川
A(95.5)
22
[放 A]
78.
4760瀬戸川
A (92.6)
26
27
[放 A]

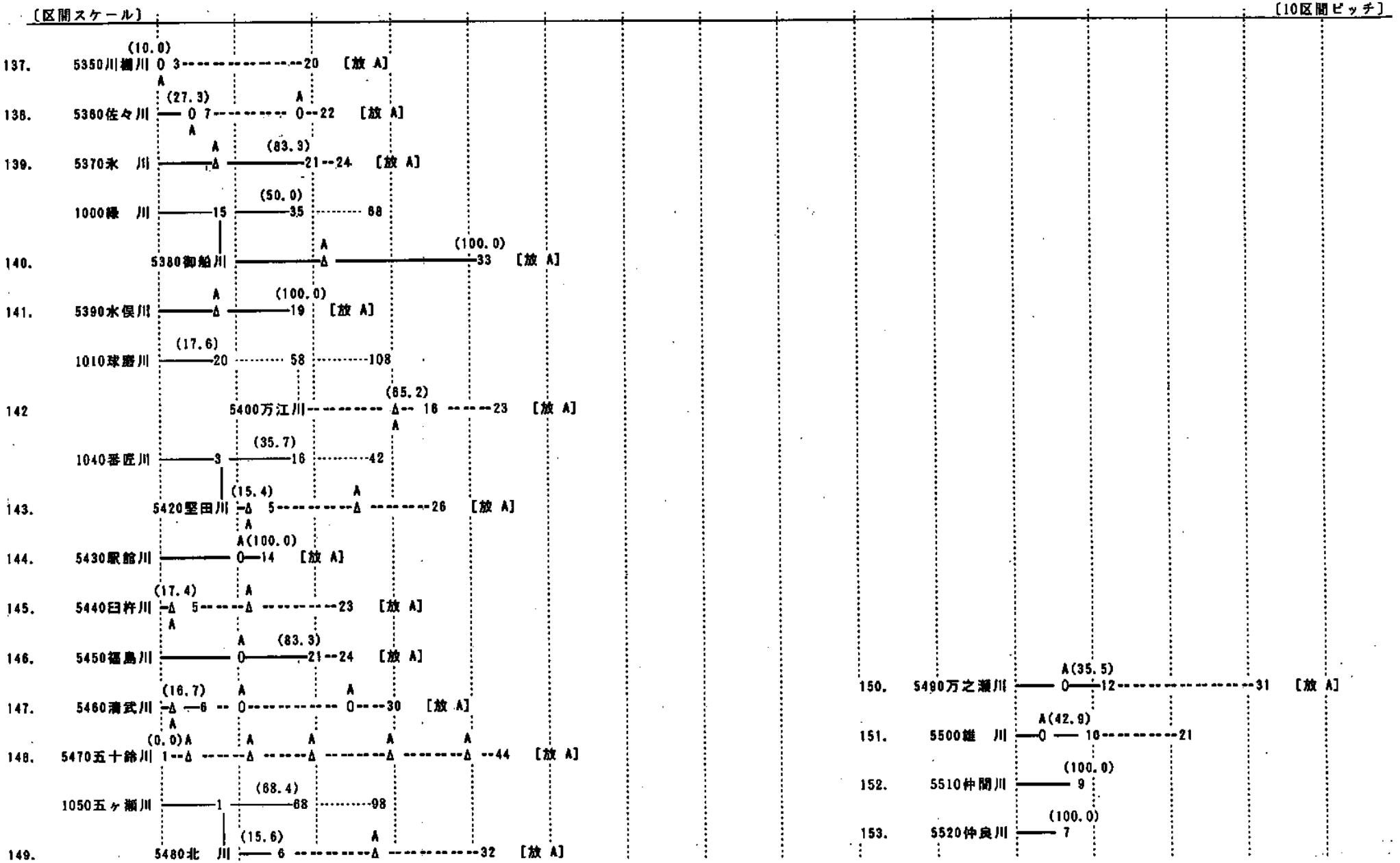

〔区間スケール〕
〔10区間ピッチ〕
0520矢作川
(39.8)
22
35
48
89
118
79.
4780名倉川
(71.4)
0
16
21
[放 A]
80.
4790巴 川
A(47.2)
0
26
0
53
[放 A]
81.
4800乙 川
A(88.2)
0
31
34
[放 A]
0510豊 川
(48.8)
36
40
80
82.
4810宇連川
(18.2)
A
A
5
0
0
22
[放 A]
0580宮 川
(51.6)
48
91
83.
4820五十鈴川
A(100.0)
0
9
84.
4830員弁川
A(59.5)
0
23
37
[放 A]
0600庄 川
(69.7)
25
36
54
76
85.
4910水無瀬川
(0.0)A
1
0
4
[放 A]
木津川
宇佗川
86.
4840滝 川
(0.0)
1
8
宇治川
瀬田川
琵琶湖
87.
4860安曇川
A(90.7)
40
43
[放 A]
88.
4870犬上川
(34.5)
A
11
Δ
29
[放 A]
89.
4900芥 川
(4.5)
AA
2
0Δ
22
[放 A]


〔区間スケール〕
〔10区間ピッチ〕
90. 4850朝明川 (25.8) 0 A 8 27
91. 4880宇　川 A 0 (83.3) 16 16 〔放 A〕
0590由良川 (51.8) 79 119 141
92. 4890佐々里川 (100.0) Δ A 7 〔放 A〕
93. 4920千種川 A (100.0) 73 〔放 A〕
94. 4930市　川 A (75.6) A 60 A A 78 〔放 A〕
95. 4940武庫川 (100.0) 67 〔放 A〕
96. 4950夢前川 A (100.0) 38 〔放 A〕
0660新宮川（十津川） (33.3) 50 108 147
97. 4960川原樋川 (3.6) 2 A 0 28 〔放 A〕
0650紀の川 (79.0) 92 99 124
98. 4970高見川 (95.7) 0 A 23 〔放 A〕
0610大和川 (27.4) 18 30 62
99. 4980竜田川 (6.7) 2 15
100. 4990有田川 A 0 (35.0) 37 A 103 〔放 A〕
101. 5000富田川 A 0 (59.6) 29 47
102. 5010日高川 A (100.0) 0 120 〔放 A〕


〔区間スケール〕
〔10区間ピッチ〕
0690千代川
(68.8)
16
34
48
103.
5020八東川
A
0
(100.0)
32 〔放 A〕
0700天神川
(100.0)
28
三徳川
104.
5030小鹿川
(33.3)
5
12
105.
5040甲 川
(0.0)
10
A
20
0720斐伊川
(85.5)
65
71
79
119
106.
5070三刀屋川
A
0
(94.6)
36
37
107.
5050赤 川
(47.6)
0
A
11
A
0
A
0
21 〔放 A〕
108.
5060中村川
(25.0)
03
A
6
109.
5080下府川
S
A
0
(90.5)
20
21
0760旭 川
(8.3)
13
144
百間川
110.
5090砂 川
(35.1)
14
37
0770高梁川
(70.0)
42
78
110
111.
5100成羽川
A(47.1)
0
17
34 〔放 A〕


〔区間スケール〕
〔10区間ピッチ〕
0760旭　川
(8.3)
13
32
90
144
112.
5130新庄川
A(76.5)
0
27
34
[放 A]
113.
5110宇甘川
(73.7)
29
38
0750吉井川
(46.5)
51
61
129
114.
5120吉野川
(27.3)
A
19
0
66
[放 A]
115.
5140黒瀬川
(15.6)
8
45
0790太田川
(8.7)
10
19
103
116.
5150三篠川
(4.5)
A
3
0
44
[放 A]
0780芦田川
(1.1)
2
31
87
117.
5160御調川
(3.0)
A
2
0
33
[放 A]
118.
5170錦　川
A(54.1)
61
A
A
111
[放 A]
119.
5180木屋川
(22.7)
A
A
A
0
11
0
0
44
[放 A]
120.
5190海部川
A
A(100.0)
0
Δ
36
[放 A]
121.
5200野根川
AA
(100.0)
0Δ
20
[放 A]
0820吉野川
(67.5)
91
130
191
122.
5210銅山川
A
(30.6)
A
A
0
20
Δ
Δ
62
[放 A]
123.
5220財田川
A
(76.8)
0
27
33


〔区間スケール〕
〔10区間ピッチ〕
124. 5230香東川 A 0 (100.0) 37
0890四万十川 (渡川) 49 (93.8) 167 177
125. 5240広見川 A 0 A Δ (47.5) 30 61 [放 A]
0860肱 川 38 (47.2) 43 89
126. 5250小田川 A Δ (69.2) 28 39 [放 A]
127. 5260下ノ加江川 A 0 (50.0) 15 A □ A 0 28 [放 A]
128. 5270新荘川 A 0 A(88.5) □ 24 26 [放 A]
129. 5280安芸川 (78.6) 0 A 23 28 [放 A]
130. 5290室見川 (8.7) 0Δ3 AS 0 A 23 [放 A][迷 S]
131. 5300今 川 (2.4) 2 0 A 41 [放 A]
132. 5310釣 川 (11.8) S 3 □ 17 [迷 S]
0920筑後川 12 78 (76.2) 94 122
133. 5410玖珠川 A 0 (60.3) 36 A Δ 58 [放 A]
134. 5320田手川 (52.4) 12 21
135. 5330玉島川 A 0 (100.0) 18 [放 A]
0940松浦川 7 (55.3) 27 47
136. 5340徳須恵川 A(60.0) 0 13 20


〔区間スケール〕
〔10区間ピッチ〕
137. 5350川瀬川 (10.0) 0 3 20 [放 A]
138. 5360佐々川 (27.3) 0 7 0 22 [放 A]
139. 5370氷 川 (83.3) 21 24 [放 A]
1000緑 川 (50.0) 15 35 88
140. 5380御船川 (100.0) 33 [放 A]
141. 5390水俣川 (100.0) 19 [放 A]
1010球磨川 (17.6) 20 58 108
142 5400万江川 (85.2) 16 23 [放 A]
1040番匠川 (35.7) 3 16 42
143. 5420堅田川 (15.4) 5 26 [放 A]
144. 5430駅館川 A(100.0) 0 14 [放 A]
145. 5440臼杵川 (17.4) 5 23 [放 A]
146. 5450福島川 (83.3) 0 21 24 [放 A]
147. 5460清武川 (16.7) 6 0 0 30 [放 A]
148. 5470五十鈴川 (0.0) 1 44 [放 A]
1050五ヶ瀬川 (68.4) 1 68 98
149. 5480北 川 (15.6) 6 32 [放 A]
150. 5490万之瀬川 A(35.5) 0 12 31 [放 A]
151. 5500雄 川 A(42.9) 0 10 21
152. 5510仲間川 (100.0) 9
153. 5520仲良川 (100.0) 7

2－1　放流状況

調査対象の153河川のうち、122河川（79.7%）において魚類の放流がおこなわれているが、これらの内訳（種類）をみると、卵放流が23河川、稚魚〔尾数〕放流が119河川、稚魚〔重さ〕放流が40河川となっている。

放流量の多い河川は、表Ⅲ－4－10に掲げるとおりであるが、卵放流ではアユとワカサギ、稚魚〔尾数〕放流ではアユ・サケ類・アマゴ・ウナギ、稚魚〔重さ〕放流ではアマゴ・ウグイ・コイ類・ヤマメ・イワナ等となっている。

表Ⅲ－4－10　魚類放流量の多い河川とその主要内訳

(1)〔卵放流〕

（千粒／年）

1	4090	朱太川	23,160	アユ/23160
2	5100	成羽川	13,000	ワカサギ/13000
3	4680	揖斐川	5,200	アユ/5200
4	5300	今川	5,000	ワカサギ/5000
5	4210	白石川	4,800	ワカサギ/4800

(2)〔稚魚放流〕

（千尾／年）

1	5190	海部川	237,000	アユ/20000　アマゴ/20000　ウナギ/17000
2	5100	宇川	80,000	アユ/80000
3	4060	遊楽部川	19,699	サケ/17607　カラフトマス/1328　サクラマス/714　等
4	5300	錦川	19,090	アユ/19000　ウナギ/81　コイ/9
5	4210	歴舟川	13,579	サケ/13579

(3)〔稚魚放流〕

（kg／年）

1	4640	三峰川	67,000	アマゴ/57600　イワナ/5500　コイ/3300　ウナギ/400　等
2	4650	奈良井川	62,200	ウグイ/37200　その他/20000　アユ/2600　イワナ/230　等
3	4900	芥川	20,500	アマゴ・イワナ・ニジマス/20000　アユ/500
4	4630	王滝川※	11,700	ヤマメ/2900　コイ/2500　ニジマス/2300　アユ/2300
5	4920	千種川	9,027	アユ/8992　ウナギ/35

※は、成魚放流を含む

主要魚種について、その放流河川数と放流量を表Ⅲ－4－11に整理する。

集計結果によると、調査対象河川（153河川）の70%である107河川でアユの放流がおこなわれており、他の魚種と比較して群を抜いて多い河川数である。

アユの放流形態は、稚魚・成魚及び卵のいずれでもおこなわれており、それらの量も他の魚種に比較しても最上位に位置している。

アユに続いて放流河川数の多い魚種は、コイ、ウナギ、ヤマメ、ニジマス、アマゴ等となっている。放流形態別の放流量は、稚魚・成魚放流においてはアユの他にサケ、アマゴ、ウグイ、ウナギ、コイ等が多く、卵放流ではアユよりもワカサギが多くなっている。

表Ⅲ－4－11　主要魚種の放流河川数と放流総量（放流河川数5河川以上）

	科	魚種	放流河川数	稚魚・成魚放流総量 (千尾／年)	稚魚・成魚放流総量 (kg／年)	卵放流総量 (千粒／年)
1	アユ	アユ	107	327,445	55,177	30,360
2	コイ	コイ	78	841	11,193	——
3	ウナギ	ウナギ	67	17,659	955	——
4	サケ	ヤマメ	50	2,292	3,900	125
5	サケ	ニジマス(スチールヘッド)	43	5,905	5,370	——
6	サケ	アマゴ	39	33,117	82,089	117
7	サケ	イワナ	29	898	9,567	206
8	サケ	サケ	26	121,012	——	600
9	コイ	ギンブナ	22	452	722	——
10	コイ	ウグイ	16	8,636	37,760	1,940
11	コイ	フナ類	14	88	2,176	——
12	キュウリウオ	ワカサギ	11	——	100	33,481
13	サケ	サクラマス	9	2,454	——	——
14	コイ	オイカワ	8	158	170	——
15	サケ	ビワマス	6	318	——	50
16	サケ	カラフトマス	5	13,670	——	——
	コイ	ゲンゴロウブナ	5	66	62	——

2－2　漁獲状況

調査対象の 153河川のうち、漁獲対象となっている河川は83河川（54.2%）である。これらの河川において、最も漁獲量が多い河川は4680揖斐川（三重・岐阜県）で、 651ﾄﾝ／年を記録している。この量は、一級河川の幹川における漁獲量と比較しても遜色ないものである。しかし、揖斐川以外の河川においては 200ﾄﾝ／年以下の量であり、かなり少ない漁獲量となっている（表Ⅲ－４－１２）。

漁獲状況を魚種別にみると、アユの漁獲が他の魚種に比較してとりわけ大きな数量となっている。ついで、ウグイ、アマゴと続くが、これらの漁獲量はアユの20%以下の量にとどまっている（表Ⅲ－４－１３）。

表Ⅲ－４－１２　河川別　漁獲量（ﾄﾝ／年）上位10

1	4680	揖斐川	651	カマツカ/148　ギンブナ/134　アユ/110
2	5190	海部川	192	アユ/150　ウナギ/30　アマゴ/12
3	4700	吉田川	176	アユ/102　アマゴ/41　ウグイ/16
4	4650	奈良井川	133	ニジマス/49　ウグイ/23　ヤマメ/19　イワナ/13
5	4630	王滝川	132	ヤマメ/36　ウグイ/35　アユ/27　イワナ/18
6	4681	根尾川	129	アユ/76　ギンブナ/10　マナマズ/10　オイカワ/9
7	4320	夏井川	126	アユ/27　フナ類/22　ヤマメ/20　ウグイ/20　コイ/20
8	4460	酒匂川	110	アユ/95　ニジマス/6
9	4830	員弁川	109	アユ/46　オイカワ/32　ウグイ/7
10	4640	三峰川	83	アユ/61　アマゴ/13

表Ⅲ－４－１３　魚種別　漁獲量（ﾄﾝ／年）上位10

1	アユ	1,621 ﾄﾝ／年	78 河川
2	ウグイ	299	54
3	アマゴ	170	25
4	ニゴイ	154	6
5	コイ	152	61
6	ギンブナ	145	21
7	ﾆｼﾞﾏｽ(ｽﾁｰﾙﾍｯﾄﾞ)	143	33
8	オイカワ	130	40
9	ヤマメ	108	32
10	ウナギ	94	54

Ⅲ－5 原生流域

下掲の要件を満たす原生流域は、全国で99流域、総面積205,634ha 存在している。

これらを地域別にみると、北海道が36流域、総面積81,497ha、東北地方が30流域、61,953ha、関東甲信越が19流域、38,301ha、その他となっており東日本に偏在している。

都道府県毎にみた時、最も原生流域の数及び総面積が大きいのは北海道で、次いで新潟県、秋田県、山形県と続いている（表Ⅲ－5－1）。

第3回調査(1985年)から今回の第4回調査(1992年)までの間には7ヵ年の時間経過があるが、変化をみると次のように要約される。

① 要件を満たす原生流域の総数は、101流域から2流域減少して99流域であった。

② ①の総面積は、5,936ha減じて205,634haとなった。

③ ①と②の内訳は、次のとおりである。

	〔変化流域数〕	〔変化面積(ha)〕
・原生流域の要件を満たさなくなった流域	Δ 3	Δ 1,705
・面積の減少した原生流域（10流域）		Δ 5,591
・前回設定の原生流域区画の訂正(1流域)		+ 13
・新規に抽出された原生流域	+ 1	+ 1,347
計	Δ 2	Δ 5,936

④ 原生流域面積の減少要因は、減少した13流域のうち6流域が択伐あるいは伐採によるもので、次いで作業路、林道、及び国道等の道路開設によるものが5流域となっている（表Ⅲ－5－2）。

⑤ 原生流域面積の減少を生じているのは、原生流域総面積が比較的大きい北海道と秋田県、山形県、石川県である（表Ⅲ－5－1）。

用語の定義7：原生流域

原生流域とは、以下の全ての要件に該当する、面積1,000ha以上の集水域

○ 集水域内で河川改修工事、砂防工事がおこなわれていないこと。

○ 集水域内に人工構造物（建築物、車道、各種工作物）が存在しないこと。

＊ただし、標識、測量杭等の軽微な工作物及び歩道（登山道、踏み分け道）についてはこの限りではない。

○ 集水域内で森林の伐採（皆伐・択伐）、土石・鉱物の採取、水面の埋立、土地の形状変更等の人為の影響が認められないこと。

＊過去に択伐等による森林の伐採がおこなわれていたが、現在はおこなわれておらず、ほとんど自然の状態に復元している森林などは、人為の影響が認められないと判断してさしつかえない。

表Ⅲ－5－1　原生流域の存在状況（道県別箇所数及び面積）

道県名	箇所数		原生流域面積（ha）			備考
	3回	4回	3回	4回	変化量	
北海道	38	36	85,450	81,497	Δ 3,953	3回からの減少は8流域。このうち2流域は1000ha以下になった。 0141渓畔上流域は3回2660ha、4回2673haで、見かけは増加であるが、3回の区画に誤りがあった。
青森県	3	3	10,198	10,198	——	
岩手県	4	4	6,520	6,520	——	
秋田県	8	8	17,970	17,945	Δ 25	3回からの減少は1流域。
山形県	11	10	19,070	16,665	Δ 2,405	3回からの減少は3流域。このうち1流域は1000ha以下になった。
福島県	5	5	10,625	10,625	——	
栃木県	3	3	3,237	3,237	——	
群馬県	4	4	9,674	9,674	——	
新潟県	9	9	19,700	19,700	——	
富山県	2	2	5,441	5,441	——	
石川県	5	5	7,939	7,039	Δ 900	3回からの減少は1流域。
長野県	3	3	5,690	5,690	——	
岐阜県	3	3	3,504	3,504	——	
静岡県	1	1	1,227	1,227	——	
鹿児島県	1	1	1,345	1,345	——	
沖縄県	1	2	3,980	5,327	1,347	4回で新登場が1流域。その分だけ増加。
計	101	99	211,570	205,634	Δ 5,936	3回からの減少は13流域。 このうち3流域は1000ha以下になった。 4回で新登場が1流域。 3回からの流域区画訂正が1流域。

表Ⅲ－5－2　原生流域の変化〔第3回(1985年)～第4回(1992年)の7年間〕

(1)　原生流域として要件を満たさなくなった流域と改変状況

道県名	原生流域名	面積 (ha)			改変状況（要因）				
		3回	4回	変化量	砂防ダム	択伐・伐採	道路 作業路／林道	道路 国道	取水堰堤
北海道	0114芦別川上流部	1,410	826	Δ 584		●			
	0115トナシベツ川上流部	1,120	674	Δ 446			●		
山形県	0602銅山川上流部	1,290	615	Δ 675		●			
計	3 流域	3,820	2,115	Δ 1,705		2	1		

(2)　面積の減少した原生流域と改変状況

道県名	原生流域名	面積 (ha)			改変状況（要因）				
		3回	4回	変化量	砂防ダム	択伐・伐採	道路 作業路／林道	道路 国道	取水堰堤
北海道	0106忠別川上流部	5,810	5,780	Δ 30	●				
	0109ｸﾜｳﾝﾅｲ川上流部	3,770	3,400	Δ 370		●			
	0133元浦川上流ｿｴﾏﾜ沢	2,200	1,900	Δ 300			●		
	0136豊似川上流部	2,900	1,050	Δ 1,850				●	
	0138左股川上流部	1,310	1,114	Δ 196		●			
	0142利別川上流部	1,780	1,590	Δ 190		●			
秋田県	0507成瀬川上流部	2,370	2,345	Δ 25		●			
山形県	0603西大鳥川上流部	2,400	2,175	Δ 225			●		
	0609金目川上流部	2,760	1,255	Δ 1,505			●		
石川県	1706目附谷上流部	2,220	1,320	Δ 900					●
計	10 流域	27,520	21,929	Δ 5,591	1	4	3	1	1

(3) 新規登録の原生流域

道県名	原生流域名	面積 (ha)		
		3回	4回	変化量
沖縄県	4702仲間川	——	1,347	1,347

(4) 第3回設定の原生流域区画の誤りによる訂正（見かけの増加）

道県名	原生流域名	面積 (ha)		
		3回	4回	変化量
北海道	0141須築川上流部	2,660	2,673	13

現存する原生流域における保全地域等の指定状況を整理する（表Ⅲ－5－3）。

全99流域の原生流域のうち、指定の網が掛けられていないのは、ほぼ2割の20流域で、残りの79流域にはなんらかの保全地域指定がおこなわれている。

指定状況の内訳をみると、国立及び国定公園に係わる原生流域が60流域で、以下、都道府県立自然公園に係わるものが12流域、原生自然環境保全地域に係わるものが2流域、自然環境保全地域に係わるものが9流域、都道府県自然環境保全地域に係わるものが3流域となっている。

国立及び国定公園に係わる原生流域の数は多いが、該当する保全地域が少なく、これらの原生流域が偏った国立あるいは国定公園等に集中していることが判る。

この実際的状況を把握するために、原生流域総面積の大きい保全地域を整理した（表Ⅲ－5－4）。これによると、最大のものは、北海道の日高襟裳国定公園に係わる20流域の原生流域であった。総面積は、47,820haにも達している。第2位は、第1位よりかなり小さくなるが、同じく北海道の大雪山国立公園の7流域、総面積16,930ha、以下、白神山地自然環境保全地域の4流域、総面積12,648haとなっている。北海道の日高襟裳から大雪山に繋がる日高山脈の奥深い原生流域とともに、ブナ林で代表される白神山地周辺域の原生流域、そして、磐梯朝日から越後三山只見への山並み、これらは、日本に残された最後の原生流域分布地域といえる。それぞれの総面積は、1/25,000地形図がおおよそ100㎢であることを指標としてみると、日高襟裳国立公園で1/25,000地形図でおよそ4枚半強、大雪山国立公園で1枚半強、白神山地自然環境保全地域と磐梯朝日国立公園でそれぞれ1枚強、越後三山只見国定公園でほぼ1枚に相当する原生流域が存在しているわけで、総面積としては広大かつ貴重な実態が理解できるところである。

表Ⅲ－５－３　原生流域の保全地域等の指定状況

保全地域と地域地区区分		流域数	該当保全地域名称
国立公園	特別保護地区	4	知床／大雪山 十和田八幡平 磐梯朝日／日光 中部山岳／白山 上信越高原 南アルプス 霧島屋久／西表　〔11〕
	特別地域	8	
	普通地域	22	
小計（重複除く）		33	
国定公園	特別保護地区	1	日高山脈襟裳 津軽 栗駒 越後三山只見 〔4〕
	特別地域	1	
	普通地域	27	
小計（重複除く）		27	
都道府県立自然公園	特別地域	—	狩場茂津多 赤石川渓流暗門の滝 森吉山／田沢湖抱返り 奥早出粟守門／朝日 中央アルプス／揖斐　〔8〕
	普通地域	12	
小計（重複除く）		12	
原生自然環境保全地域		2	十勝川源流部／大井川源流部〔2〕
自然環境保全地域	特別地区	3	白神山地 和賀岳 県境峰 利根川源流部 犀川源流　〔5〕
	普通地区	9	
小計（重複除く）		9	
都道府県自然環境保全地域	特別地区	—	大沢川源流部 ヌルマタ沢野川 平ヶ岳・白沢沢山西面 〔3〕
	普通地区	3	
小計（重複除く）		3	
総計（重複除く）		79	
指定なし		20	

国設鳥獣保護区	4	知床／大雪山／ 西表

表Ⅲ－５－４　原生流域面積の大きい保全地域　上位10

	保全地域名	原生流域	
		流域数	総面積ha
1	日高襟裳国定公園	20	47,820
2	大雪山国立公園	7	16,930
3	白神山地自然環境保全地域	4	12,648
4	磐梯朝日国立公園	7	12,520
5	越後三山只見国定公園	4	10,762

	保全地域名	原生流域	
		流域数	総面積ha
6	奥早出粟守門県立自然公園	4	9,950
7	十和田八幡平国立公園	3	5,600
8	中部山岳国立公園	2	5,441
9	白山国立公園	4	5,310
10	知床国立公園	3	4,870

都道府県別
水際線・河原・河畔
の改変状況集計

表—1　水際線の都道府県別改変状況

都道府県	河川数	調査流路延長(km)	水際線の改変状況 〔左：km　( )：%〕			
			人工構造物化	自然地		
				がけ地	その他の自然地	計　%
北海道	13	699.5	63.8 (9.1)	142.4 (20.4)	493.2 (70.5)	90.9
青森県	3	135.7	53.8 (39.6)	18.7 (13.8)	63.2 (46.6)	60.4
岩手県	3	137.8	15.0 (10.9)	31.7 (23.0)	91.1 (66.1)	89.1
宮城県	4	303.1	30.5 (10.1)	90.3 (29.8)	182.3 (60.1)	89.9
秋田県	4	143.4	36.1 (25.1)	17.8 (12.4)	89.6 (62.5)	74.9
山形県	4	126.0	32.4 (25.7)	17.3 (13.7)	76.3 (60.6)	74.3
福島県	4	248.2	123.4 (49.7)	83.5 (33.6)	41.3 (16.6)	50.3
茨城県	2	106.2	26.5 (25.0)	1.2 (1.1)	78.5 (73.9)	75.0
栃木県	3	143.0	70.2 (49.1)	23.3 (16.3)	49.4 (34.6)	50.9
群馬県	2	103.8	16.0 (15.4)	11.1 (10.7)	76.7 (73.9)	84.6
埼玉県	2	43.8	9.6 (22.0)	13.3 (30.3)	20.9 (47.7)	78.0
千葉県	2	100.4	20.2 (20.1)	67.4 (67.1)	12.8 (12.7)	79.9
東京都	2	38.3	12.4 (32.3)	5.6 (14.7)	20.3 (53.0)	67.7
神奈川県	2	47.5	35.3 (74.3)	6.6 (13.9)	5.6 (11.8)	25.7
新潟県	4	144.0	41.0 (28.5)	62.8 (43.6)	40.2 (27.9)	71.5
富山県	4	109.3	19.2 (17.6)	77.4 (70.8)	12.7 (11.6)	82.4
石川県	2	71.8	16.9 (23.5)	25.5 (35.5)	29.5 (41.0)	76.5
福井県	3	149.6	21.9 (14.6)	27.6 (18.4)	100.1 (66.9)	85.4
山梨県	2	116.9	17.3 (14.8)	77.2 (66.0)	22.4 (19.2)	85.2
長野県	5	240.5	26.0 (10.8)	34.6 (14.4)	179.9 (74.8)	89.2
岐阜県	6	379.6	105.2 (27.7)	137.1 (36.1)	137.3 (36.2)	72.3
静岡県	5	90.0	29.3 (32.6)	4.0 (4.4)	56.7 (63.0)	67.4
愛知県	5	140.1	39.2 (28.0)	96.0 (68.5)	4.9 (3.5)	72.0
三重県	5	95.0	22.9 (24.2)	5.7 (6.0)	66.3 (69.8)	75.8
滋賀県	2	71.2	10.4 (14.7)	15.7 (22.0)	45.1 (63.3)	85.3
京都府	2	24.6	5.2 (21.0)	6.0 (24.5)	13.4 (54.5)	79.0
大阪府	2	26.0	16.7 (64.3)	9.3 (35.7)	0.0 (0.0)	35.7
兵庫県	4	253.3	72.3 (28.5)	3.1 (1.2)	177.9 (70.2)	71.5
奈良県	3	64.8	24.3 (37.4)	39.3 (60.7)	1.2 (1.9)	62.6
和歌山県	3	268.7	14.5 (5.4)	79.8 (29.7)	174.4 (64.9)	94.6
鳥取県	3	64.0	37.6 (58.7)	26.4 (41.2)	0.0 (0.0)	41.2
島根県	4	85.2	28.4 (33.4)	20.9 (24.6)	35.8 (42.0)	66.6
岡山県	5	207.5	119.7 (57.7)	39.1 (18.8)	48.6 (23.4)	42.3
広島県	4	160.4	106.9 (66.7)	17.3 (10.8)	36.2 (22.5)	33.3
山口県	2	154.0	41.3 (26.8)	48.8 (31.7)	63.9 (41.5)	73.2
徳島県	3	52.0	5.6 (10.8)	30.6 (58.8)	15.8 (30.4)	89.2
香川県	2	69.5	51.2 (73.6)	4.9 (7.0)	13.4 (19.3)	26.4
愛媛県	3	143.5	5.6 (3.9)	72.4 (50.4)	65.6 (45.7)	96.1
高知県	5	101.4	10.7 (10.6)	32.1 (31.7)	58.6 (57.8)	89.4
福岡県	3	80.0	24.4 (30.5)	10.1 (12.6)	45.5 (56.9)	69.5
佐賀県	3	55.5	30.0 (54.0)	8.7 (15.7)	16.8 (30.3)	46.0
長崎県	2	41.4	34.6 (83.6)	2.7 (6.5)	4.1 (9.9)	16.4
熊本県	4	97.0	22.9 (23.6)	14.0 (14.4)	60.1 (62.0)	76.4
大分県	4	120.3	60.6 (50.4)	40.6 (33.7)	19.1 (15.9)	49.6
宮崎県	4	128.6	40.8 (31.7)	30.4 (23.6)	57.4 (44.6)	68.3
鹿児島県	2	50.6	15.5 (30.7)	25.4 (50.1)	9.7 (19.2)	69.3
沖縄県	2	16.0	0.1 (0.6)	0.4 (2.5)	15.5 (96.9)	99.4
全国	153	6,249.0	1,883.4 (26.6)	1,656.1 (26.5)	2,929.5 (46.9)	73.4

※注意：調査対象とした河川は各都道府県を代表する河川ではない。したがって、この表から都道府県間の相互比較等をおこなうことは妥当ではないので、取扱いに注意を要する。

表 － 2 河原の都道府県別存在率と改変状況

都道府県	河川数	調査流路延長 (km)	河原の存在 左：延長 km 右：縮尺比 %	河原の改変状況 〔左：km ( )：河原延長比%〕			
				自然地	人工改変地		
					農業地	未利用造成地	都市的土地利用
北海道	13	699.5	532.1 (76.1)	447.3 (84.1)	43.7 (8.2)	36.0 (6.8)	5.1 (1.0)
青森県	3	135.7	25.0 (18.4)	18.0 (72.0)	5.7 (22.8)	—	1.3 (5.2)
岩手県	3	137.8	29.0 (21.0)	24.1 (83.1)	3.1 (10.7)	0.7 (2.4)	1.1 (3.8)
宮城県	4	303.1	99.0 (32.7)	78.3 (79.1)	19.1 (19.3)	0.8 (0.8)	0.8 (0.8)
秋田県	4	143.4	3.0 (2.1)	2.7 (90.0)	0.3 (10.0)	—	—
山形県	4	126.0	8.0 (6.3)	7.6 (95.0)	0.4 (5.0)	—	—
福島県	4	248.2	8.0 (3.2)	3.7 (46.3)	4.3 (53.8)	—	—
茨城県	2	106.2	106.2(100.0)	70.6 (66.5)	4.9 (4.6)	29.9 (28.2)	0.8 (0.8)
栃木県	3	143.0	102.0 (71.3)	82.1 (80.5)	8.0 (7.8)	1.9 (1.9)	10.0 (9.8)
群馬県	2	103.8	42.0 (40.5)	30.9 (73.6)	5.8 (13.8)	0.2 (0.5)	5.1 (12.1)
埼玉県	2	43.8	14.0 (31.9)	10.3 (73.6)	0.4 (2.9)	0.2 (1.4)	3.1 (22.1)
千葉県	2	100.4	8.0 (8.0)	6.0 (75.0)	1.9 (23.8)	0.1 (1.3)	—
東京都	2	38.3	23.0 (60.1)	14.7 (63.9)	0.6 (2.6)	5.2 (22.6)	2.5 (10.9)
神奈川県	2	47.5	17.0 (35.8)	16.4 (96.5)	0.2 (1.2)	—	0.4 (2.4)
新潟県	4	144.0	40.0 (27.8)	38.0 (95.0)	0.4 (1.0)	0.1 (0.3)	1.5 (3.8)
富山県	4	109.3	2.0 (1.8)	1.5 (75.0)	—	0.3 (15.0)	0.2 (10.0)
石川県	2	71.8	1.0 (1.4)	0.1 (10.0)	—	0.1 (10.0)	0.8 (80.0)
福井県	3	149.6	57.0 (38.1)	37.5 (65.8)	11.2 (19.6)	7.0 (12.3)	1.3 (2.3)
山梨県	2	116.9	76.0 (65.0)	72.4 (95.3)	2.6 (3.4)	0.9 (1.2)	0.1 (0.1)
長野県	5	240.5	21.0 (8.7)	18.7 (89.0)	0.2 (1.0)	2.1 (10.0)	—
岐阜県	6	379.6	152.0 (40.0)	127.4 (83.8)	20.1 (13.2)	0.8 (0.5)	3.7 (2.4)
静岡県	5	90.0	20.0 (22.2)	17.6 (88.0)	1.3 (6.5)	0.4 (2.0)	0.7 (3.5)
愛知県	5	140.1	—	—	—	—	—
三重県	5	95.0	40.0 (42.1)	39.0 (97.5)	1.0 (2.5)	—	—
滋賀県	2	71.2	34.0 (47.7)	32.2 (94.7)	0.6 (1.8)	0.4 (1.2)	0.8 (2.4)
京都府	2	24.6	—	—	—	—	—
大阪府	2	26.0	—	—	—	—	—
兵庫県	4	253.3	24.0 (9.5)	20.2 (84.2)	0.2 (0.8)	0.6 (2.5)	3.0 (12.5)
奈良県	3	64.8	6.0 (9.3)	6.0(100.0)	—	—	—
和歌山県	3	268.7	41.0 (15.3)	35.1 (85.6)	3.5 (8.5)	—	2.4 (5.9)
鳥取県	3	64.0	2.0 (3.1)	2.0(100.0)	—	—	—
島根県	4	85.2	—	—	—	—	—
岡山県	5	207.5	—	—	—	—	—
広島県	4	160.4	8.0 (5.0)	8.0(100.0)	—	—	—
山口県	2	154.0	9.0 (5.8)	4.5 (50.0)	2.9 (32.2)	—	1.6 (17.8)
徳島県	3	52.0	22.0 (42.3)	20.8 (94.5)	1.2 (5.5)	—	—
香川県	2	69.5	31.0 (44.6)	17.8 (57.4)	—	5.1 (16.5)	8.1 (26.1)
愛媛県	3	143.5	—	—	—	—	—
高知県	5	101.4	2.0 (2.0)	1.4 (70.0)	—	—	0.6 (30.0)
福岡県	3	80.0	—	—	—	—	—
佐賀県	3	55.5	—	—	—	—	—
長崎県	2	41.4	—	—	—	—	—
熊本県	4	97.0	5.0 (5.2)	5.0(100.0)	—	—	—
大分県	4	120.3	—	—	—	—	—
宮崎県	4	128.6	53.0 (41.2)	43.4 (81.9)	4.5 (8.5)	2.7 (5.1)	2.4 (4.5)
鹿児島県	2	50.6	2.0 (4.0)	2.0(100.0)	—	—	—
沖縄県	2	16.0	16.0(100.0)	16.0(100.0)	—	—	—
全国	153	6,249.0	1,680.3 (26.9)	1,379.3 (82.1)	148.1 (8.8)	95.5 (5.7)	57.4 (3.4)

※注意：調査対象とした河川は各都道府県を代表する河川ではない。したがって、この表から都道府県間の相互比較等をおこなうことは妥当ではないので、取扱いに注意を要する。

表－3 河畔の土地利用状況

都道府県	河川数	調査流路延長 (km)	河畔の土地利用状況（両岸計） 〔左：km、（ ）：河原延長×2比%〕				
			自然地			人工改変地	
			樹林地	その他	計	農業地	市街地工業地
北海道	13	699.5	536.2 (38.3)	241.2 (17.2)	777.4 (55.6)	573.4 (41.0)	48.2 (3.4)
青森県	3	135.7	130.4 (48.0)	4.0 (1.5)	134.4 (49.5)	127.0 (46.8)	10.0 (3.7)
岩手県	3	137.8	130.4 (47.3)	11.0 (4.0)	141.4 (51.3)	107.7 (39.1)	26.6 (9.6)
宮城県	4	303.1	187.8 (31.0)	24.0 (4.0)	211.8 (34.9)	287.4 (47.4)	107.0 (17.7)
秋田県	4	143.4	107.9 (37.6)	6.0 (2.1)	113.9 (39.7)	168.9 (58.9)	4.0 (1.4)
山形県	4	126.0	82.2 (32.6)	4.9 (1.9)	87.1 (34.6)	140.9 (55.9)	24.0 (9.5)
福島県	4	248.2	220.4 (44.4)	1.0 (0.2)	221.4 (44.6)	224.9 (45.3)	50.1 (10.1)
茨城県	2	106.2	52.4 (24.7)	2.0 (0.9)	54.4 (25.6)	115.0 (54.1)	43.0 (20.2)
栃木県	3	143.0	31.0 (10.8)	35.0 (12.2)	66.0 (23.1)	159.0 (55.6)	61.0 (21.3)
群馬県	2	103.8	77.6 (37.4)	4.0 (1.9)	81.6 (39.3)	62.0 (29.9)	64.0 (30.8)
埼玉県	2	43.8	30.6 (34.9)	3.0 (3.4)	33.6 (38.4)	24.0 (27.4)	30.0 (34.2)
千葉県	2	100.4	36.1 (18.0)	5.0 (2.5)	41.1 (20.5)	128.7 (64.1)	31.0 (15.4)
東京都	2	38.3	12.3 (16.1)	0.0 (0.0)	12.3 (16.1)	6.0 (7.8)	58.3 (76.1)
神奈川県	2	47.5	21.0 (22.1)	2.0 (2.1)	23.0 (24.2)	20.0 (21.1)	52.0 (54.7)
新潟県	4	144.0	107.0 (37.2)	26.0 (9.0)	133.0 (46.2)	124.0 (43.1)	31.0 (10.8)
富山県	4	109.3	128.6 (58.8)	10.0 (4.6)	138.6 (63.4)	74.0 (33.9)	6.0 (2.7)
石川県	2	71.8	67.6 (47.1)	5.0 (3.5)	72.6 (50.6)	36.0 (25.1)	35.0 (24.4)
福井県	3	149.6	91.2 (30.5)	2.0 (0.7)	93.2 (31.1)	133.0 (44.5)	73.0 (24.4)
山梨県	2	116.9	148.8 (63.6)	11.0 (4.7)	159.8 (68.3)	40.0 (17.1)	34.0 (14.5)
長野県	5	240.5	319.0 (66.3)	0.0 (0.0)	319.0 (66.3)	87.0 (18.1)	75.0 (15.6)
岐阜県	6	379.6	299.0 (39.4)	63.0 (8.3)	362.0 (47.7)	243.5 (32.1)	153.7 (20.2)
静岡県	5	90.0	51.8 (28.8)	11.0 (6.1)	62.8 (34.9)	73.8 (41.0)	43.2 (24.0)
愛知県	5	140.1	132.3 (47.2)	2.0 (0.7)	134.3 (47.9)	106.9 (38.2)	39.0 (13.9)
三重県	5	95.0	34.6 (18.2)	14.0 (7.4)	48.6 (25.6)	89.0 (46.8)	52.4 (27.6)
滋賀県	2	71.2	73.4 (51.5)	5.0 (3.5)	78.4 (55.1)	44.0 (30.9)	20.0 (14.0)
京都府	2	24.8	24.8 (50.4)	7.0 (14.2)	31.8 (64.6)	16.0 (32.5)	1.4 (2.8)
大阪府	2	26.0	27.0 (51.9)	0.0 (0.0)	27.0 (51.9)	8.0 (15.4)	17.0 (32.7)
兵庫県	4	253.3	163.4 (32.3)	8.0 (1.6)	171.4 (33.8)	212.2 (41.9)	123.0 (24.3)
奈良県	3	64.8	86.6 (66.8)	6.0 (4.6)	92.6 (71.5)	7.0 (5.4)	30.0 (23.1)
和歌山県	3	268.7	325.4 (60.6)	0.0 (0.0)	325.4 (60.6)	178.0 (33.1)	34.0 (6.3)
鳥取県	3	64.0	36.0 (28.1)	9.0 (7.0)	45.0 (35.2)	78.0 (60.9)	5.0 (3.9)
島根県	4	85.2	68.4 (40.1)	2.0 (1.2)	70.4 (41.3)	79.0 (46.4)	21.0 (12.3)
岡山県	5	207.5	149.6 (36.0)	0.0 (0.0)	149.6 (36.0)	204.5 (49.3)	61.0 (14.7)
広島県	4	160.4	100.2 (31.2)	2.0 (0.6)	102.2 (31.9)	166.2 (51.8)	52.4 (16.3)
山口県	2	154.0	183.3 (59.5)	1.0 (0.3)	184.3 (59.8)	88.7 (28.8)	35.0 (11.4)
徳島県	3	52.0	86.0 (82.7)	0.0 (0.0)	86.0 (82.7)	13.0 (12.5)	5.0 (4.8)
香川県	2	69.5	16.0 (11.5)	4.0 (2.9)	20.0 (14.4)	76.0 (54.7)	43.0 (30.9)
愛媛県	3	143.5	203.0 (70.7)	0.0 (0.0)	203.0 (70.7)	75.0 (26.1)	9.0 (3.1)
高知県	5	101.4	94.7 (46.7)	5.0 (2.5)	99.7 (49.2)	89.6 (44.2)	13.5 (6.7)
福岡県	3	80.0	38.2 (23.9)	0.0 (0.0)	38.2 (23.9)	96.8 (60.5)	25.0 (15.6)
佐賀県	3	55.5	34.3 (30.9)	0.0 (0.0)	34.3 (30.9)	55.7 (50.2)	21.0 (18.9)
長崎県	2	41.4	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	54.0 (65.2)	28.8 (34.8)
熊本県	4	97.0	93.3 (48.1)	1.0 (0.5)	94.3 (48.6)	75.6 (39.0)	24.0 (12.4)
大分県	4	120.3	92.6 (38.5)	0.0 (0.0)	92.6 (38.5)	104.0 (43.2)	44.0 (18.3)
宮崎県	4	128.6	121.2 (47.1)	1.0 (0.4)	122.2 (47.5)	100.0 (38.9)	35.0 (13.6)
鹿児島県	2	50.6	41.4 (40.9)	0.0 (0.0)	41.4 (40.9)	52.8 (52.2)	7.0 (6.9)
沖縄県	2	18.0	31.0 (96.9)	0.0 (0.0)	31.0 (96.9)	1.0 (3.1)	0.0 (0.0)
全国	153	6,249.0	5,126.1 (41.0)	538.1 (4.3)	5,664.2 (45.3)	5,027.3 (40.2)	1,806.5 (14.5)

※注意：調査対象とした河川は各都道府県を代表する河川ではない。したがって、この表から都道府県間の相互比較等をおこなうことは妥当ではないので、注意を要する。

資　　料

河川改変状況一覧表 …… 資－ 1
原生流域一覧表 …… 資－１２
河川の魚類相 …… 資－２５
放流状況 …… 資－５３
漁獲状況 …… 資－７５
参 考 文 献 …… 資－９６
第４回自然環境保全基礎調査検討会及び分科会 …… 資－９７
第４回自然環境保全基礎調査要綱「河川調査」 …… 資－９８

河川改変状況一覧表

河川改変状況一覧表①（北海）

水系群名 河川コード　河川名	都道府県名	調査区間数 総延長 km	水際線 人工化 %	水際線 自然地 %	河原の土地利用 存在区間 %	河原の土地利用 自然地 %	河原の土地利用 農業地 %	河原の土地利用 未造成利用地 %	河原の土地利用 施設的利用地 %	河畔の土地利用 右岸 自然地 %	河畔の土地利用 右岸 農業地 %	河畔の土地利用 右岸 市街工業地 %	河畔の土地利用 左岸 自然地 %	河畔の土地利用 左岸 農業地 %	河畔の土地利用 左岸 市街工業地 %	河川工作物 堰上可 魚道有 箇所	河川工作物 堰上可 魚道無 箇所	河川工作物 堰上不可 魚道有 箇所	河川工作物 堰上不可 魚道無 箇所	取水施設 %	保全地域 国立公園 特地別区保護 %	国立公園 特別地域 %	国立公園 普通地域 %	国立公園 小 %	国立公園 計 %	国定公園 特地別区保護 %	国定公園 特別地域 %	国定公園 普通地域 %	国定公園 小 %	国定公園 計 %	都道府県立自然公園 特別地域 %	都道府県立自然公園 普通地域 %	都道府県立自然公園 小 %	都道府県立自然公園 計 %	自然環境保全地域 特別地域 %	自然環境保全地域 普通地域 %	自然環境保全地域 小 %	自然環境保全地域 計 %	都道府県自然環境保全地域 特別地域 %	都道府県自然環境保全地域 普通地域 %	都道府県自然環境保全地域 小 %	都道府県自然環境保全地域 計 %	計 %	鳥獣保護区 特別保護地区指定 有 %	鳥獣保護区 特別保護地区指定 無 %	鳥獣保護区 特別保護地区指定 計 %
北海道－オホーツク海																																										
4080 幌別川	北海道	64 83.5	42.2	57.8	43.8	27.2	16.8	0	0	15.0	81.8	3.1	24.4	74.0	1.6				1																								
北海道－オホーツク海 計	1河川	64 83.5	42.2	57.8	43.8	27.2	16.8	0	0	15.0	81.8	3.1	24.4	74.0	1.6	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北海道－日本海																																											
4040 昆布別川	北海道	26 26.0	11.5	88.5	34.6	27.7	1.2	0.4	5.4	92.3	0	7.7	88.5	7.7	3.8	3				7.7					50.0		50.0														50.0			
4070 厚田川	北海道	32 32.0	2.8	97.2	100.0	89.7	60.3	0	0	53.1	43.8	3.1	89.8	28.1	3.1		16			34.4																							
4090 朱太川	北海道	41 40.4	23.5	76.5	0	0	0	0	0	43.1	54.5	2.5	67.8	22.3	9.9	3	1			2.4																							
4130 千歳川	北海道	70 69.2	11.7	88.3	100.0	46.5	0	50.3	3.2	35.0	53.5	11.6	34.7	53.5	11.8	1	94		8	30.0		10.0		10.0																	10.0		2.5	2.5
北海道－日本海 計	4河川	169 167.6	12.8	87.2	85.7	31.1	11.7	20.8	2.1	49.3	43.6	7.2	57.5	34.0	8.5	7	52	0	5	20.7	0	4.1	0	4.1	0	7.7	0	7.7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11.8	0	1.2	1.2
北海道－太平洋／北																																										
4010 雪裡川	北海道	59 58.6	3.1	96.9	100.0	98.1	1.7	0	0.2	62.5	34.1	3.4	67.6	30.7	1.7		2				20.3	10.2	3.4	32.2																32.2	18.6	8.5	27.1
4020 風蓮川	北海道	100 99.5	0.3	99.7	100.0	100.0	0	0	0	68.3	28.8	3.0	57.3	42.7	0	1																												
4050 別寒辺牛川	北海道	56 55.9	0	100.0	100.0	100.0	0	0	0	100.0	0	0	100.0	0	0																		7.1		7.1					7.1		1.8	1.8
4100 厌舟川	北海道	65 64.7	6.5	93.5	53.8	40.6	12.4	0	1.1	58.3	37.1	4.6	64.5	32.5	3.1	2				7.7					18.5			16.5												18.5		7.7	7.7
4110 西別川	北海道	110 109.7	1.1	98.9	100.0	100.0	0	0	0	39.8	59.3	0.8	37.1	60.2	2.7	2							1.8	1.8																1.8			
北海道－太平洋／北 計	5河川	330 328.5	1.9	98.1	82.3	89.8	2.3	0	0.2	62.3	35.4	2.5	60.5	38.0	1.5	5	2	0	0	1.3	3.1	1.5	1.0	5.4	3.1	0	0	3.1	1.0	0	1.0	0	0	0	0	0	0	0	9.5	2.8	2.8	5.6
北海道－太平洋／中間																																										
4030 幕々川	北海道	19 18.2	9.5	87.8	89.5	76.9	6.0	0	0	65.4	23.1	0	65.4	23.1	0																									15.8		15.8
4060 遊楽部川	北海道	30 30.0	13.0	87.0	10.0	5.7	0	3.7	0.7	46.7	46.7	6.7	53.3	43.3	3.3																												
4120 白滝俣別川	北海道	34 33.8	11.8	88.2	50.0	38.1	9.8	0	1.5	61.5	35.5	3.0	64.5	35.5	0	2				2.9																						11.8	11.8

（注）・総延長は調査を実施した延長である。　調査区間は1kmごとに設定した。

・水際線および河原の土地利用は，調査原票は各調査区間ごとに十分比（両岸の平均）で表されているので，これを実延長に換算し割合を求めた。

・河畔の土地利用は各調査区間ごとに最も大きな面積を占めている土地利用で表されているので，これを実延長に換算し割合を求めた。

・四捨五入により小数第1桁で示しているため，各延長の合計は必ずしも100%にならない。

・保全地域の小計および計では，1調査区間に複数の保全地域がかかる場合，重複して数えることはせず，1として数えた。　このため，各地域の区間数の率（全調査区間数比率）を足した数と小計，計が合わない場合がある。

・原生自然環境保全地域にかかる河川はないため，表から項目を省略した。

水系群名 / 河川コード 河川名	都道府県名	調査区間数 / 延長km	水際線 人工化 %	水際線 自然地 %	河原の土地利用 存在区間 %	河原の土地利用 自然地 %	河原の土地利用 農耕地 %	河原の土地利用 未造成利用地 %	河原の土地利用 施設利用地 %	河畔の土地利用 右岸 自然地 %	右岸 農耕地 %	右岸 市街地工業地 %	左岸 自然地 %	左岸 農耕地 %	左岸 市街地工業地 %	河川工作物 堰上可 箇所	堰上可 魚道有 箇所	堰上不可 魚道有 箇所	堰上不可 魚道無 箇所	取水施設 %	保全地 国立公園 特地別区保護 %	国立公園 特別地域 %	国定公園 特地別区保護 %	国定公園 特別地域 %	国定公園 普通地域 %	国定公園 小計 %	都道府県立自然公園 特別地域 %	都道府県立自然公園 普通地域 %	都道府県立自然公園 小計 %	自然環境保全地域 特別地域 %	自然環境保全地域 普通地域 %	自然環境保全地域 小計 %	都道府県自然環境保全地域 特別地域 %	都道府県自然環境保全地域 普通地域 %	都道府県自然環境保全地域 小計 %	計 %	鳥獣保護区 特別保護地区 有 %	鳥獣保護区 特別保護地区 指定 %	鳥獣保護区 特別保護地区 計 %
北海道－太平洋／中南計	3河川	83 / 82.0	9.8	87.7	44.8	35.3	5.6	1.3	0.9	56.9	36.8	3.7	60.8	35.5	1.2	2	0	0	0	1.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3.8	4.8	8.4
本州－日本海																																								
4150 赤石川	青森県	51 / 50.2	23.9	76.1	9.8	10.0	0	0	0	78.1	19.9	2.0	78.1	21.9	0	7	5			7.8							45.1		45.1	27.5	3.5	29.4						72.5			
4160 雪田川	青森県	22 / 21.8	34.9	65.1	0	0	0	0	0	67.9	27.5	4.6	31.2	64.2	4.6		19			4.5																			27.3	27.3
4240 追毛川	秋田県	22 / 21.5	5.1	94.9	4.5	4.7	0	0	0	58.1	37.2	4.7	58.1	41.9	0	2	1	3		27.3					4.5	4.5												4.5	38.4		38.4
4250 岩瀬川	秋田県	5 / 4.5	2.2	97.8	0	0	0	0	0	100.0	0	0	100.0	0	0									100.0		100.0												100.0			
4260 岩見川	秋田県	46 / 45.5	14.5	85.1	6.3	3.7	0.7	0	0	56.0	44.0	0	56.0	39.6	4.4	3	12			47.6								8.7	8.7									8.7			
4270 石沢川	秋田県	72 / 71.9	39.0	61.0	0	0	0	0	0	19.3	79.3	1.4	20.9	79.1	0	3	22		14	31.9															6.9	6.9	6.9		5.6	5.6
4280 最上小国川	山形県	37 / 37.0	13.5	86.5	5.4	5.4	0	0	0	16.2	70.3	13.5	29.7	59.5	10.8	2	3			64.5																					
4290 寒河江川	山形県	46 / 45.9	19.3	80.7	13.0	12.2	0.9	0	0	39.0	47.9	13.1	24.0	58.6	17.4	1	8		3	39.1																			6.5	6.5
4300 日向川	山形県	30 / 29.3	34.8	65.2	0	0	0	0	0	45.4	54.6	0	35.2	64.8	0	4	14		38	28.7				16.7		16.7											16.7		6.7	6.7
4310 角川	山形県	14 / 13.8	60.1	39.9	0	0	0	0	0	78.3	14.5	7.2	49.3	50.7	0	2			4	78.6																					
4340 使南川	福島県	81 / 80.2	50.6	49.4	0	0	0	0	0	47.8	46.1	6.2	38.8	48.6	12.5		17	1	6	18.5					3.7	3.7											3.7		3.7	3.7
4350 野尻川	福島県	39 / 38.0	56.0	44.0	0	0	0	0	0	42.1	42.1	15.8	44.8	47.4	7.9		18			12.8								28.2	28.2								28.2			
4480 三面川	新潟県	42 / 41.0	11.2	88.8	73.8	70.7	1.0	0.2	3.7	80.5	9.8	9.8	63.4	26.8	9.8		3		2	4.8																			57.1	57.1
4490 羽茂川	新潟県	20 / 20.0	54.0	46.0	0	0	0	0	0	25.0	75.0	0	45.0	50.0	5.0	12	7			15.0																					
4500 加治川	新潟県	38 / 38.0	44.2	55.8	23.7	23.7	0	0	0	50.0	39.5	10.5	47.4	50.0	2.6	5	5		2	21.1																			7.9	7.9
4510 鎖石川	新潟県	45 / 45.0	19.6	80.4	0	0	0	0	0	24.4	55.6	20.0	26.7	55.6	17.8	1	18		2	13.3																					
4520 長棟川	富山県	19 / 19.0	0	100.0	0	0	0	0	0	100.0	0	0	100.0	0	0					10.5																					
4530 利賀川	富山県	36 / 36.0	8.1	91.9	2.8	1.4	0	0.8	0.6	88.1	11.1	2.8	80.6	19.4	0				19	13.9																			16.7	16.7

（注）・総延長は調査を実施した延長である。　調査区間は1kmごとに設定した。
・水際線および河原の土地利用は，調査原票は各調査区間ごとに十分比（両岸の平均）で表されているので，これを実延長に換算し割合を求めた。
・河畔の土地利用は各調査区間ごとに最も大きな面積をしめている土地利用で表されているので，これを実延長に換算し割合を求めた。
・四捨五入により小数第1桁で示しているため，各延長の合計は必ずしも１００％にならない。
・保全地域の小計および計では，１調査区間に複数の保全地域がかかる場合，重複して数えることはせず，１として数えた。　このため，各地域の区間数の率（全調査区間数比％）を足した数と小計，計が合わない場合がある。
・原生自然環境保全地域にかかる河川はないため，表から項目を省略した。

資－2

河川改変状況一覧表①（比率）

水系郡名 河川コード　河川名	都道府県名	調査区間数 総延長 km	水際線 人工化 %	水際線 自然地 %	河原の土地利用 存在区間 %	河原の土地利用 自然地 %	河原の土地利用 農耕地 %	河原の土地利用 未造成利用地 %	河原の土地利用 施設用地 %	河岸の土地利用 右岸 自然地 %	右岸 農業地 %	右岸 市街工業地 %	河岸の土地利用 左岸 自然地 %	左岸 農業地 %	左岸 市街工業地 %	河川工作物 堰上可 魚道有 箇所	堰上可 魚道無 箇所	堰上不可 魚道有 箇所	堰上不可 魚道無 箇所	取水施設 %	保全地域 国立公園 特地別区保護 %	国立公園 特別地域 %	国立公園 普通地域 %	国立公園 小計 %	国定公園 特地別区保護 %	国定公園 特別地域 %	国定公園 普通地域 %	国定公園 小計 %	都道府県立自然公園 特別地域 %	都道府県立自然公園 普通地域 %	都道府県立自然公園 小計 %	自然環境保全地域 特別地域 %	自然環境保全地域 普通地域 %	自然環境保全地域 小計 %	都道府県自然環境保全地域 特別地域 %	都道府県自然環境保全地域 普通地域 %	都道府県自然環境保全地域 小計 %	計 %	鳥獣保護区 特別保護地区 有 %	鳥獣保護区 特別保護地区 無 %	鳥獣保護区 特別保護地区 計 %
4540 黒野川	富山県	33 32.3	43.0	57.0	3.0	3.1	0	0	0	47.4	49.5	3.1	47.4	46.4	6.2	8	3		4	27.3																					
4550 上庄川	富山県	22 22.0	10.9	89.1	0	0	0	0	0	22.7	72.7	4.5	22.7	72.7	4.5		4			4.5																					
4560 犀川	石川県	34 34.0	26.5	73.5	2.9	0.3	0	0.3	2.4	44.1	23.5	32.4	52.9	26.5	20.6	8	8	1	9	41.2																			5.9	5.9
4570 大野寺川	石川県	38 37.8	20.8	79.2	0	0	0	0	0	57.7	26.9	15.9	47.1	23.8	29.1	2	12		4	47.4					2.6	2.6	2.6	2.6		31.6	31.6							34.2		55.8	55.8
4580 南川	福井県	33 33.0	18.2	81.8	18.2	18.2	0	0	0	38.4	42.4	18.2	39.4	30.3	30.3	8	7	3	1	3.0																					
4590 足羽川	福井県	57 56.6	24.7	75.3	22.8	10.1	2.1	9.4	1.4	39.5	37.1	23.0	43.5	35.3	21.2	16	9	2	7	10.5																					
4600 日野川	福井県	60 60.0	3.2	96.8	63.3	43.0	16.7	2.8	0.8	16.7	56.7	26.7	16.7	56.7	26.7	8	22	1	2	11.7																					
4650 高倉井川	長野県	83 62.1	13.1	86.9	1.6	1.6	0	0	0	56.5	12.9	30.8	59.7	19.3	20.9	6	5		11	15.9									1.6	3.2	3.2							3.2		4.8	4.8
4660 依田川	長野県	33 32.5	13.5	86.5	0	0	0	0	0	32.4	43.0	24.6	38.6	36.8	24.6	3	19	4	5	35.4																					
4880 宇川	京都府	19 17.9	20.5	79.5	0	0	0	0	0	49.7	50.3	0	60.9	39.1	0	12	6		1	38.9						5.6		5.6									5.6			
4890 佐々武川	京都府	7 6.7	22.4	77.6	0	0	0	0	0	89.8	0	10.4	89.6	0	10.4		5			14.3																					
5020 八東川	鳥取県	32 32.0	95.0	5.0	6.3	6.3	0	0	0	6.3	90.6	3.1	15.6	75.0	9.4	9	15			46.9																				53.1	53.1
5030 小鹿川	鳥取県	12 12.0	0	100.0	0	0	0	0	0	33.3	66.7	0	33.3	66.7	0				4	16.7									41.7	58.3	100.0							100.0		33.3	33.3
5040 甲川	鳥取県	20 20.0	35.0	64.0	0	0	0	0	0	60.0	40.0	0	90.0	5.0	5.0	7			9	20.0		35.0	5.0	40.0														40.0		40.0	40.0
5050 赤川	島根県	21 21.0	41.0	59.0	0	0	0	0	0	14.3	71.4	14.3	19.0	66.7	14.3	4		2	6	14.3																				23.8	23.8
5060 中村川	島根県	8 7.1	39.4	60.6	0	0	0	0	0	71.9	14.1	14.1	57.7	28.2	14.1		2		5	25.0																					
5070 三刀屋川	島根県	37 36.1	14.3	85.7	0	0	0	0	0	47.4	33.2	19.4	44.6	44.3	11.1	10	3		1	5.4																				8.1	8.1
5080 下府川	島根県	21 21.0	56.7	43.3	0	0	0	0	0	47.6	47.6	4.8	52.4	42.8	4.8	8	4		5	23.8																				4.8	4.8
本州－日本海 計	36河川	3214 1202.7	27.7	72.3	9.8	7.9	1.0	0.6	0.3	45.5	42.9	11.6	44.6	44.1	11.3	127	187	18	108	23.2	0	0.8	0.3	0.9	0.1	1.0	0.2	1.1	2.4	3.0	5.3	1.2	0.2	1.2	0	0.4	0.4	8.8	0.7	9.5	10.1
本州－太平洋／中南																																								

（注）・総延長は調査を実施した延長である。　調査区間は1kmごとに設定した。
・水際線および河原の土地利用は，調査原票は各調査区間ごとに十分比（両岸の平均）で表されているので，これを実延長に換算し割合を求めた。
・河岸の土地利用は各調査区間ごとに最も大きな面積を占めている土地利用で表されているので，これを実延長に換算し割合を求めた。
・四捨五入により小数第1桁で示しているため，各延長の合計は必ずしも100%にならない。
・保全地域の小計および計では，1調査区間に複数の保全地域がかかる場合，重複して数えることはせず，1として数えた。　このため，各地域の区間数の率（全調査区間数比%）を足した数と小計，計が合わない場合がある。
・原生自然環境保全地域にかかる河川はないため，表から項目を省略した。

河川改変状況一覧表①（比率）

水系併名 河川コード 河川名	都道府県名	調査区間数 総延長 km	水障緑 人工化 %	水障緑 自然地 %	河原の土地利用 存在区間 %	河原の土地利用 自然地 %	河原の土地利用 農耕地 %	河原の土地利用 未利用地 %	河原の土地利用 造成地 %	河原の土地利用 施設的利用地 %	河畔の土地利用 右岸 自然地 %	右岸 農耕地 %	右岸 市街地 工業地 %	左岸 自然地 %	左岸 農耕地 %	左岸 市街地 工業地 %	河川工作物 堰上可 箇所	堰上可 急造有 箇所	堰上不可 急造有 箇所	堰上不可 急造無 箇所	取水施設 %
4140 相坂川	岩手県	84 83.7	53.7	46.3	31.3	20.9	6.8	0	2.0	29.4	65.9	4.7	24.5	69.1	6.3	12	22	1		42.2
4170 安沢川	岩手県	29 29.7	2.1	97.9	0	0	0	0	0	83.6	12.8	3.5	82.6	7.0	10.5	1	1			13.8
4180 和賀川	岩手県	71 70.8	10.6	89.4	32.4	28.5	1.8	1.0	1.4	43.3	45.4	11.3	58.9	35.4	5.7	6	11		12	22.5
4190 気仙川	岩手県	39 38.8	17.9	82.1	15.4	10.1	5.2	0	0.3	37.8	46.7	15.6	18.1	70.0	11.6	4	2	2		64.1
4200 迫川	宮城県	88 87.4	6.3	93.7	44.3	26.3	17.7	0	0.6	26.8	49.2	24.0	29.1	56.0	14.9	1	21		2	39.8
4210 白石川	宮城県	70 69.7	8.2	91.8	14.3	14.3	0	0	0	44.9	31.1	24.4	43.0	34.0	23.0	6	8		2	50.0
4220 吉田川	宮城県	54 54.0	17.4	82.6	35.2	30.6	3.1	1.5	0	25.9	68.5	5.6	37.0	61.1	1.8	1	4		1	31.5
4230 江合川	宮城県	82 82.0	10.8	89.2	33.7	31.3	2.1	0	0.3	41.3	38.0	20.7	32.8	48.5	18.5	10	8		1	19.6
4320 夏井川	福島県	66 67.1	50.8	49.2	11.8	5.5	6.4	0	0	41.7	43.2	15.0	37.4	47.7	14.9		18		6	16.2
4330 新田川	福島県	63 62.9	43.6	56.4	0	0	0	0	0	55.5	36.6	7.9	49.3	49.1	1.6	3	12		1	20.6
4360 大北川	茨城県	30 29.2	20.5	79.5	100.0	97.9	0	2.1	0	82.9	17.1	0	78.0	20.5	3.4				6	20.0
4370 涸鳥湖川	埼玉茨城	5 5.0	30.0	70.0	100.0	48.0	0	4.0	48.0	0	0	100.0	0	40.0	60.0				1	
4370 涸鳥湖川	栃木県	40 40.0	38.7	61.2	100.0	56.3	18.5	1.5	23.7	2.5	57.5	40.0	15.0	40.0	45.0	2				5.0
4370 涸鳥湖川	群馬県	42 42.0	8.6	91.4	33.3	30.2	0	0.5	2.6	54.8	9.5	35.7	56.8	23.8	21.4	2	2		8	
4370 涸鳥湖川	栃木県	21 20.5	19.0	81.0	66.7	68.3	0	0	0	85.9	0	34.1	61.0	0	39.0		10	1	7	14.3
4370 小 計	4 県	108 107.5	22.8	77.2	67.6	48.0	6.5	0.9	12.1	34.9	25.1	40.0	38.8	26.0	35.3	4	7	1	12	4.6
4380 小貝川	茨城県	77 77.0	26.6	73.4	100.0	54.5	6.4	38.1	1.0	5.2	58.4	36.4	5.2	76.6	18.2				9	22.1
4380 小貝川	栃木県	33 33.0	57.9	42.1	21.2	18.2	0.6	2.1	0.3	0	100.0	0	3.0	97.0	0	4	4		3	24.2
4380 小 計	2 県	110 110.0	36.0	64.0	78.4	43.8	4.6	27.3	0.8	3.6	70.9	25.5	4.5	82.7	12.7	3	2	0	12	22.7
4390 箒川	栃木県	50 48.5	64.0	36.0	82.0	60.0	0.8	1.2	0.8	43.4	46.5	10.1	21.2	64.6	14.1	1	6		12	16.0

保全地域 国立公園 特別区保護 %	国立公園 特別地域 %	国立公園 普通地域 %	国立公園 小計 %	国定公園 特別区保護 %	国定公園 特別地域 %	国定公園 普通地域 %	国定公園 小計 %	都道府県立自然公園 特別地域 %	都道府県立自然公園 普通地域 %	都道府県立自然公園 小計 %	自然環境保全地域 特別地域 %	自然環境保全地域 普通地域 %	自然環境保全地域 小計 %	都道府県自然環境保全地域 特別地域 %	都道府県自然環境保全地域 普通地域 %	都道府県自然環境保全地域 小計 %	計 %	鳥獣保護区 特別保護地区指定 有 %	特別保護地区指定 無 %	特別保護地区指定 計 %
20.3	6.3		23.4														23.4	10.8	6.3	17.2
								8.8	23.5	23.9							23.9		26.8	26.8
					11.4	2.3	13.6										13.6		25.0	25.0
									57.1	57.1							57.1		35.7	35.7
									11.1	11.1							11.1		5.6	5.6
					12.0	21.7	33.7										33.7		17.4	17.4
								8.8	8.8	17.6							17.6	2.9	13.2	16.2
														4.6	6.3	11.1	11.1	6.3	23.8	30.2
								20.0	56.7	76.7							76.7		40.0	40.0
																			26.2	26.2
																	19.0	19.0	33.8	52.4
0	1.8	1.9	3.7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3.7	3.7	16.7	20.4
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	18.0	24.0	34.0														34.0			

（注）・総延長は調査を実施した延長である。 調査区間は1kmごとに設定した。

・水障緑および河原の土地利用は，調査原票は各調査区間ごとに十分比（両岸の平均）で表されているので，これを実延長に換算し割合を求めた。

・河畔の土地利用は各調査区間ごとに最も大きな面積を占めている土地利用で表されているので，これを実延長に換算し割合を求めた。

・四捨五入により小数第1桁で示しているため，各延長の合計は必ずしも１００%にならない。

・保全地域の小計および計では，１調査区間に複数の保全地域がかかる場合，重複して数えることはせず，１として数えた。 このため，各地域の区間数の率（全調査区間数比%）を足した数と小計，計が合わない場合がある。

・原生自然環境保全地域にかかる河川はないため，表から項目を省略した。

水系群名 / 河川コード 河川名	都道府県名	調査区間数 / 延長km	水際林 人工化	水際林 自然地	河原の土地利用 存在区間	河原の土地利用 自然地	河原の土地利用 農耕地	河原の土地利用 未利用地	河原の土地利用 造成地	河原の土地利用 施設用地	河畔の土地利用 右岸 自然地	右岸 農耕地	右岸 市街地	右岸 工業地	左岸 自然地	左岸 農耕地	左岸 市街地	左岸 工業地	河川工作物 堰上可	堰上不可	取水施設	保全地域 国立公園 特別地区保護	国立公園 特別地域	国立公園 普通地域	国立公園 小計	国定公園 特別地区保護	国定公園 特別地域	国定公園 普通地域	国定公園 小計	都道府県立自然公園 特別地域	都道府県立自然公園 普通地域	都道府県立自然公園 小計	自然環境保全地域 特別地区	自然環境保全地域 普通地域	自然環境保全地域 小計	都道府県自然環境保全地域 特別地域	都道府県自然環境保全地域 普通地域	都道府県自然環境保全地域 小計	計	鳥獣保護区 特別保護地区 有	鳥獣保護区 特別保護地区 無	鳥獣保護区 特別保護地区 計
			%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	箇所	箇所	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
4400 烏川	群馬県	62 / 61.8	20.1	79.9	45.2	29.4	8.4	0	6.5	30.6	38.8	30.7	27.2	38.8	34.0	3			14	3.2																						19.4	19.4
4410 高瀬川	埼玉県	39 / 38.8	21.0	79.0	23.1	20.3	1.0	0	1.8	56.2	20.8	23.2	30.5	36.1	33.5	3	2		8	25.6										69.2	69.2									69.2			
4420 小櫃川	千葉県	73 / 72.7	17.1	82.9	9.6	6.9	2.6	0.1	0	20.2	67.4	12.4	28.8	59.1	11.0		1	1	1	1.4					5.5	5.5		16.4	16.4									21.9		5.5	5.5
4430 一宮川	千葉県	28 / 27.7	28.2	71.8	3.8	3.8	0	0	0	3.6	67.5	28.8	13.4	65.0	21.7		1											7.1	7.1									7.1		3.6	3.6
4440 南浅川	東京都	9 / 8.1	44.4	55.6	33.3	0	3.7	16.0	17.3	26.0	0	74.0	0	0	100.0	6	9	1	25	33.3					33.3			33.3	33.3		44.4	44.4								44.4		66.7	66.7
4450 浅川	東京都	31 / 30.1	29.1	70.9	64.5	48.8	1.0	12.9	3.6	17.1	13.3	69.7	16.6	6.6	76.8	1	13	1	22	29.0										38.7	38.7								38.7		9.7	9.7
4460 酒匂川	神奈川県	28 / 28.0	76.4	23.6	60.7	58.6	0.7	0	1.4	35.7	10.7	53.6	35.7	14.3	50.0	12	5	1	5	25.0																10.7	10.7	10.7			
4460 鮎沢川	静岡県	15 / 14.9	55.9	44.1	0	0	0	0	0	26.6	46.5	26.8	20.1	53.1	26.8	1	75		17	48.7																							
4460 小 計	2 県	43 / 42.8	69.3	30.7	39.5	38.2	0.5	0	0.8	32.6	23.1	44.2	30.3	27.8	41.9	10	17	1	5	32.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7.0	7.0	7.0	0	0	0
4470 金目川	神奈川県	20 / 19.5	71.3	28.7	0	0	0	0	0	5.1	38.5	56.4	10.3	28.2	61.5		17		45	65.0																							
4610 早川	山梨県	67 / 66.1	3.6	96.4	62.7	62.3	0.3	0.9	0.2	95.5	4.5	0	89.4	1.5	9.1	1			12	10.4		26.9		26.9				20.8		20.8					4.5	4.5	50.7		37.3	37.3
4620 笛吹川	山梨県	51 / 50.8	29.3	70.7	66.7	51.4	4.7	0.8	0	40.9	29.5	29.5	33.1	41.3	25.5	1			6	21.6			13.7	13.7														13.7		5.9	5.9
4630 王滝川	長野県	55 / 54.8	14.4	85.6	10.9	10.9	0	0	0	96.4	3.6	0	90.9	3.6	5.5		1		13	3.6								1.6	30.5	30.5							30.9		18.4	18.4
4640 三峰川	長野県	62 / 61.8	4.2	95.8	22.6	19.1	0.3	3.4	0	75.6	19.6	4.8	75.6	21.2	3.3	1		1	5	6.5		25.8	25.8	25.8				18.1	18.1	18.1							41.9			
4670 上川	長野県	30 / 29.7	10.1	89.9	0	0	0	0	0	42.8	23.5	33.8	52.9	16.8	30.3	7	4	2	14	30.0					26.7		26.7										26.7		26.7	26.7
4680 揖斐川	三重県	18 / 18.0	43.9	56.1	61.1	61.1	0	0	0	0	44.4	55.6	66.7	5.6	27.8													100.0	100.0								100.0			
4680 揖斐川	岐阜県	94 / 93.5	44.8	55.2	55.3	41.2	12.9	0	1.6	47.8	28.9	23.5	49.7	27.8	22.5	8	4		3	4.8					14.9	2.1	14.9		38.3	38.3								52.1	5.3	13.8	19.1
4680 小 計	2 県	112 / 111.5	44.6	55.4	56.3	44.4	10.8	0	1.3	39.9	31.4	28.7	52.5	24.2	23.3	7	4	0	2	3.6	0	0	0	0	12.5	1.8	12.5	0	48.2	48.2	0	0	0	0	0	0	59.8	4.5	11.6	16.1
4681 根尾川	岐阜県	55 / 55.0	54.2	45.8	72.7	65.8	3.6	0	3.1	36.4	50.8	12.7	47.3	40.0	12.7	12			2	9.1					10.9		10.9		7.3	7.3								18.2		9.1	9.1
4690 板倉川	岐阜県	27 / 27.0	9.6	90.4	37.0	28.5	6.7	0	1.9	18.5	55.6	25.9	7.4	33.3	59.3	7	5			37.0																						

（注）・総延長は調査を実施した延長である。　調査区間は1kmごとに設定した。
・水際林および河原の土地利用は，調査原票は各調査区間ごとに十分比（両岸の平均）で表されているので，これを実延長に換算し割合を求めた。
・河畔の土地利用は各調査区間ごとに最も大きな面積を占めている土地利用で表されているので，これを実延長に換算し割合を求めた。
・四捨五入により小数第1桁で示しているため，各延長の合計は必ずしも100%にならない。
・保全地域の小計および計では，1調査区間に複数の保全地域がかかる場合，重複して数えることはせず，1として数えた。　このため，各地域の区間数の率（全調査区間数比率）を足した数と小計，計が合わない場合がある。
・原生自然環境保全地域にかかる河川はないため，表から項目を省略した。

河川改変状況一覧表①（比率）

水系群名 / 河川コード 河川名	都道府県名	調査区間数 / 総延長km	水際線 人工化 %	水際線 自然地 %	河原の土地利用 存在区間 %	河原の土地利用 自然地 %	河原の土地利用 農業地 %	河原の土地利用 未造成利用地 %	河原の土地利用 施設的利用地 %	河畔の土地利用 右岸 自然地 %	右岸 農業地 %	右岸 市街工業地 %	左岸 自然地 %	左岸 農業地 %	左岸 市街工業地 %	河川工作物 堤上可 魚道有 箇所	堤上可 魚道無 箇所	堤上不可 魚道有 箇所	堤上不可 魚道無 箇所	取水施設 %	保全地 国立公園 特地別区保護 %	国立公園 特別地域 %	国立公園 普通地域 %	国立公園 小計 %	国定公園 特地別区保護 %	国定公園 特別地域 %	国定公園 普通地域 %	国定公園 小計 %	都道府県立自然公園 特別地域 %	都道府県立自然公園 普通地域 %	都道府県立自然公園 小計 %	自然環境保全地域 特別地域 %	自然環境保全地域 普通地域 %	自然環境保全地域 小計 %	都道府県自然環境保全地域 特別地域 %	都道府県自然環境保全地域 普通地域 %	都道府県自然環境保全地域 小計 %	計 %	鳥獣保護区 特別保護地区 有 %	鳥獣保護区 特別保護地区 無 %	鳥獣保護区 特別保護地区 計 %	鳥獣保護区 指定区域 %
4700 吉田川	岐阜県	31 / 30.4	10.9	89.1	0	0	0	0	0	16.4	73.7	9.9	16.4	73.7	9.9	5			5	19.4									61.3	45.2	100.0							100.0		6.5	6.5
4710 揖斐川	岐阜県	137 / 137.0	18.0	82.0	24.8	23.8	0.3	0.6	0	72.3	13.1	14.6	73.7	5.1	21.2	7	2	4	9	11.7					2.2	46.0	1.5	49.5										49.6	0.7	18.2	18.9
4720 牧田川	岐阜県	37 / 38.7	8.2	91.8	43.2	33.2	10.4	0	0	10.9	64.6	24.5	10.9	62.7	26.4	5	1	9	17	13.5						18.9		18.9										18.9		13.5	13.5
4730 安倍川	静岡県	18 / 17.2	36.2	63.8	5.8	1.7	2.3	0	1.7	52.3	46.5	1.2	30.2	52.3	17.4	1	13		1	61.1		27.8	11.1	38.9															38.9			
4740 下小笠川	静岡県	10 / 9.8	32.5	67.5	0	0	0	0	0	7.8	82.0	10.2	7.8	51.2	41.0		26		8	40.0									10.0		10.0							10.0		20.0	20.0
4750 周智川	静岡県	22 / 21.7	24.7	75.3	31.8	28.3	2.3	1.8	1.8	49.3	36.9	13.8	58.5	36.9	4.6	11			2	40.9																				36.4	36.4
4760 瀬戸川	静岡県	27 / 26.4	23.5	76.5	44.4	44.0	1.5	0	0	20.4	26.5	53.1	43.1	22.7	34.1	2	15		2	25.9																				18.5	18.5
4770 鵜戸川	愛知県	12 / 11.2	66.1	33.9	0	0	0	0	0	8.8	73.2	17.5	0	91.1	8.9				1																							
4780 名倉川	愛知県	21 / 20.5	50.2	49.8	0	0	0	0	0	56.1	39.0	4.8	34.1	56.1	9.8	9	21		3	42.9						14.3	9.5	23.8										23.8			
4790 巴川	愛知県	53 / 53.0	17.0	83.0	0	0	0	0	0	77.4	15.1	7.5	84.2	20.8	15.1	6		3	6	11.3						56.6	3.8	60.4										60.4	3.8	17.0	20.8
4800 乙川	愛知県	34 / 34.0	29.7	70.3	0	0	0	0	0	26.5	58.8	14.7	38.2	47.1	14.7	27	10		1	64.7															2.9	2.9	2.9		26.5	26.5
4810 宇連川	愛知県	22 / 21.4	11.2	88.8	0	0	0	0	0	39.3	37.4	23.4	43.9	26.0	28.0	1	1		2	4.5						77.3		77.3										77.3		31.8	31.8
4820 五十鈴川	三重県	9 / 8.4	72.6	27.4	11.1	0	11.9	0	0	23.8	35.7	40.5	16.7	59.5	23.8	4	2			55.8																				88.9	88.9
4830 員弁川	三重県	37 / 37.0	14.3	85.7	73.0	73.0	0	0	0	13.5	62.2	24.3	10.8	67.6	21.6	9	3	1	12	35.1																						
4850 朝明川	三重県	27 / 26.1	12.3	87.7	3.7	3.8	0	0	0	34.9	30.7	34.5	38.7	42.1	19.2	1	6		57	29.6						14.8		14.8										14.8		44.4	44.4
4960 川原樋川	奈良県	28 / 27.5	3.8	96.2	21.9	21.9	0	0	0	100.0	0	0	100.0	0	0			3	2	3.8																						
5000 富田川	和歌山県	47 / 46.5	12.0	88.0	48.9	44.7	3.0	0	1.7	63.4	25.8	10.8	69.9	23.7	6.5		9		9	17.0									2.1		2.1							2.1			
5010 日高川	和歌山県	120 / 119.2	2.9	97.1	5.8	4.7	0.3	0	0.8	56.4	41.1	2.5	54.7	43.6	1.7	7				10.9							7.6	7.5		0.8	0.8							8.3		0.8	0.8
本州－太平洋／中部 計	46河川	2382 / 2372.8	24.0	76.0	34.0	27.7	3.4	1.8	1.3	43.5	37.8	18.6	43.0	39.0	17.9	188	220	27	208	20.6	0.5	2.3	1.6	3.5	0.1	7.4	1.8	9.2	2.7	10.2	12.9	0	0	0	0.1	0.5	0.6	25.1	1.0	13.6	14.6
本州－瀬戸内海																																									

（注）・総延長は調査を実施した延長である。 調査区間は1kmごとに設定した。
・水際線および河原の土地利用は，調査原票は各調査区間ごとに十分比（両岸の平均）で表されているので，これを実延長に換算し割合を求めた。
・河畔の土地利用は各調査区間ごとに最も大きな面積を占めている土地利用で表されているので，これを実延長に換算し割合を求めた。
・四捨五入により小数第1桁で示しているため，各延長の合計は必ずしも100%にならない。
・保全地域の小計および計では，1調査区間に複数の保全地域がかかる場合，重複して数えることはせず，1として数えた。 このため，各地域の区間数の率（全調査区間数比%）を足した数と小計，計が合わない場合がある。
・原注自然環境保全地域にかかる河川はないため，表から項目を省略した。

河川改変状況一覧表①（比率）

水系群名 / 河川コード 河川名	都道府県名	調査区間数 / 総延長km	水際線 人工化	水際線 自然地	河原の土地利用 存在区間	河原の土地利用 自然地	河原の土地利用 農業地	河原の土地利用 未造成利用地	河原の土地利用 施設用地的	河畔の土地利用 右岸 自然地	右岸 農業地	右岸 市街地	左岸 自然地	左岸 農業地	左岸 市街地	河川工作物 堰上可 魚道有	堰上可 魚道無	堰上不可 魚道有	堰上不可 魚道無	取水施設	保全地域 国立公園 特地別区保護	国立公園 特別地域	国立公園 普通地域	国立公園 小計	国定公園 特地別区保護	国定公園 特別地域	国定公園 普通地域	国定公園 小計	都道府県立自然公園 特別地域	都道府県立自然公園 普通地域	都道府県立自然公園 小計	自然環境保全地域 特別地域	自然環境保全地域 普通地域	自然環境保全地域 小計	都道府県自然環境保全地域 特別地域	都道府県自然環境保全地域 普通地域	都道府県自然環境保全地域 小計	計	鳥獣保護区 特別保護地区指定 有	鳥獣保護区 特別保護地区指定 無	鳥獣保護区 特別保護地区指定 計
			%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	箇所	箇所	箇所	箇所	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
4840 湯川	三重県	6 / 5.5	8.2	91.8	0	0	0	0	0	45.5	36.4	18.2	45.5	54.5	0	2			4	50.0						33.3		33.3											33.3		50.0	50.0
4860 安濃川	滋賀県	43 / 42.8	19.1	80.9	55.8	53.5	0.5	0.9	1.2	53.3	39.7	7.0	55.6	39.7	4.7	8	4		1	11.6									55.8	11.8	67.4							67.4			
4870 犬上川	滋賀県	29 / 28.4	7.9	92.1	34.5	32.7	1.4	0	1.1	54.2	10.6	35.2	57.7	24.6	17.6	2		2	3	3.4						13.8		13.8	6.9		6.9							20.7	10.3	24.1	34.5
4900 茨川	大阪府	22 / 22.0	64.5	35.5	0	0	0	0	0	69.1	9.1	21.8	40.9	22.7	36.4		7	2	26	54.5																					
4910 水無瀬川	大阪府	4 / 4.0	62.7	37.3	0	0	0	0	0	49.8	25.1	25.1	74.9	0	25.1		1		10	75.0																					
4920 千種川	兵庫県	73 / 72.2	29.2	70.8	4.1	1.8	0	0.8	1.5	16.5	67.8	15.2	26.6	62.3	11.1	1	37			4.1																					
4930 市川	兵庫県	78 / 77.1	17.2	82.8	26.9	24.5	0.3	0	2.5	37.8	32.4	29.8	55.9	25.9	18.2	4	28		2	20.5									23.1	6.4	24.4							24.4		7.7	7.7
4940 武庫川	兵庫県	57 / 56.1	41.3	58.7	0	0	0	0	0	36.3	36.4	27.2	25.7	41.0	33.3	21	5			13.4																					
4950 夢前川	兵庫県	38 / 37.5	28.0	72.0	0	0	0	0	0	31.3	34.3	34.3	39.3	23.8	37.0	4	41			15.8																				10.5	10.5
4970 高見川	奈良県	23 / 22.3	44.9	55.1	0	0	0	0	0	64.1	0	35.9	91.0	0	9.0		1		1							13.0		13.0										13.0		8.7	8.7
4980 宮田川	奈良県	15 / 15.0	88.0	12.0	0	0	0	0	0	6.7	13.3	80.0	13.3	33.3	53.3		12		4	13.3																					
4990 有田川	和歌山県	103 / 103.0	5.2	94.8	10.7	8.4	1.7	0	0.8	65.0	25.2	9.7	82.1	27.2	10.7	6		1	5	7.8						24.3		24.3	1.0		1.0							25.2		31.1	31.1
5090 砂川	岡山県	37 / 36.3	51.6	48.4	0	0	0	0	0	17.2	69.0	13.8	8.2	46.9	46.9		30		13	62.2																				5.4	5.4
5100 成羽川	岡山県	34 / 33.5	47.2	52.8	0	0	0	0	0	73.1	9.0	17.9	70.1	20.9	9.0				3	2.9										100.0	100.0							100.0		14.7	14.7
5100 成羽川	広島県	41 / 40.2	58.5	41.5	0	0	0	0	0	52.2	37.8	10.0	42.3	40.3	17.4	2	2			36.8																				2.4	2.4
5100 小計	2県	75 / 73.7	53.3	46.7	0	0	0	0	0	61.7	24.7	13.6	55.0	31.5	13.5	2	2	0	3	21.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	45.3	45.3	0	0	0	0	0	0	45.3	0	8.0	8.0
5110 宇甘川	岡山県	38 / 37.8	58.9	41.1	0	0	0	0	0	37.1	52.8	10.8	45.0	39.1	15.9	12	38		3	60.5										15.8	15.8							15.8		15.8	15.8
5120 吉野川	岡山県	66 / 66.0	69.7	30.3	0	0	0	0	0	19.7	77.3	3.0	22.7	60.6	16.7	18	18	2	25	51.5						6.1		6.1										6.1		6.1	6.1
5130 新庄川	岡山県	34 / 34.0	50.0	50.0	0	0	0	0	0	52.9	44.1	2.9	47.1	35.3	17.6	6	5		3	36.2																					
5140 黒瀬川	広島県	45 / 44.6	50.5	49.5	17.8	17.9	0	0	0	28.3	49.3	22.4	21.5	51.5	26.9		26		2	91.1																					

（注）・総延長は調査を実施した延長である。 調査区間は1kmごとに設定した。

・水際線および河原の土地利用は，調査原票は各調査区間ごとに十分比（両岸の平均）で表されているので，これを実延長に換算し割合を求めた。

・河畔の土地利用は各調査区間ごとに最も大きな面積を占めている土地利用で表されているので，これを実延長に換算し割合を求めた。

・四捨五入により小数第1桁で示しているため，各延長の合計は必ずしも１００%にならない。

・保全地域の小計および計では，１調査区間に複数の保全地域がかかる場合，重複して数えることはせず，１として数えた。 このため，各地域の区間数の率（全調査区間数比※）を足した数と小計，計が合わない場合がある。

・原生自然環境保全地域にかかる河川はないため，表から項目を省略した。

資－7

河川改変状況一覧表①（比率）

水系群名 河川コード 河川名	都道府県名	調査区間数 総延長 km	水際線 人工化 %	水際線 自然地 %	河原の土地利用 存在区間 %	河原の土地利用 自然地 %	河原の土地利用 農耕地 %	河原の土地利用 未造成地 %	河原の土地利用 施設利用地 %	河畔の土地利用 右岸 自然地 %	右岸 農耕地 %	右岸 市街地・工業地 %	左岸 自然地 %	左岸 農耕地 %	左岸 市街地・工業地 %	河川工作物 堰上可 箇所	堰上可 施設	堰上不可 箇所	堰上不可 施設	取水施設 %
5150 三篠川	広島県	44 43.4	72.8	27.2	0	0	0	0	0	23.0	63.1	13.8	30.0	53.8	16.1	28	2	2	3	86.4
5160 御園川	広島県	33 32.2	91.0	9.0	0	0	0	0	0	31.1	59.0	9.8	28.0	62.1	9.9	5	12	1	20	87.9
5170 林川	山口県	111 110.3	15.3	84.7	8.1	4.1	2.6	0	1.5	70.1	21.8	8.2	69.2	14.5	16.3	2	1	2	7	31.5
5180 木屋川	山口県	44 43.7	55.8	44.2	0	0	0	0	0	34.3	56.5	9.2	35.9	54.9	9.2	2	2	1	3	45.5
本州－瀬戸内海 計	22河川	1028 1018.2	38.9	61.1	8.4	7.2	0.5	0.1	0.6	42.9	40.3	16.8	44.2	37.3	18.6	108	190	13	108	33.1
四国－太平洋／中南																				
5190 海部川	徳島県	38 38.0	13.6	86.4	58.3	55.0	3.3	0	0	75.0	19.4	5.6	77.8	16.7	5.6	7				25.0
5200 野根川	高知県	15 15.0	10.7	89.3	0	0	0	0	0	60.0	33.3	6.7	53.3	46.7	0	5				28.7
5200 野根川	徳島県	5 5.0	0	100.0	0	0	0	0	0	100.0	0	0	80.0	0	20.0					40.0
5200 小 計	2 県	20 20.0	8.0	92.0	0	0	0	0	0	70.0	25.0	5.0	60.0	35.0	5.0	4	0	0	0	30.0
5240 広見川	高知県	6 6.0	5.0	95.0	0	0	0	0	0	66.7	33.3	0	16.7	83.3	0		2			
5240 広見川	愛媛県	55 54.4	6.4	93.6	0	0	0	0	0	65.1	34.9	0	46.7	53.3	0	1	13	1	2	29.1
5240 小 計	2 県	61 60.4	6.3	93.7	0	0	0	0	0	65.2	34.8	0	43.7	56.3	0	1	13	1	2	28.2
5260 下ノ加江川	高知県	28 27.5	14.9	85.1	3.6	1.5	0	0	2.2	32.7	56.4	10.9	43.6	32.7	23.6	7	6	1	6	42.9
5270 新荘川	高知県	26 25.1	9.6	90.4	0	0	0	0	0	28.3	71.7	0	59.6	32.3	8.0	18	2		2	34.6
5280 安芸川	高知県	28 27.8	8.3	91.7	3.6	3.6	0	0	0	60.4	36.0	3.6	64.0	36.0	0	3	4	1	1	25.0
四国－太平洋／中南 計	6河川	199 196.8	9.7	90.3	11.8	10.8	0.6	0	0.3	57.6	38.9	3.6	56.5	37.7	5.8	34	23	3	19	29.8
四国－瀬戸内海																				
5210 銅山川	徳島県	11 11.0	6.4	93.6	9.1	9.1	0	0	0	100.0	0	0	100.0	0	0	2				9.1
5210 銅山川	愛媛県	51 50.4	1.0	99.0	0	0	0	0	0	100.0	0	0	100.0	0	0				3	5.8

保全地域	国立公園 特地別区保護 %	国立公園 特別地域 %	国立公園 普通地域 %	国立公園 小 %	国定公園 特地別区保護 %	国定公園 特別地域 %	国定公園 普通地域 %	国定公園 小 %	都道府県立自然公園 特別地域 %	都道府県立自然公園 普通地域 %	都道府県立自然公園 小 %	自然環境保全地域 特別地域 %	自然環境保全地域 普通地域 %	自然環境保全地域 小 %	都道府県自然環境保全地域 特別地域 %	都道府県自然環境保全地域 普通地域 %	都道府県自然環境保全地域 小 %	計 %	鳥獣保護区 特別保護地区 %	鳥獣保護区 指定 有 %	鳥獣保護区 指定 無 %	鳥獣保護区 指定 計 %
5150 三篠川																					
5160 御園川																					
5170 林川																			8.1	4.5	12.6
5180 木屋川									11.4		11.4							11.4		11.4	11.4
本州－瀬戸内海 計	0	0	0	0	0	3.3	0.4	3.7	4.5	4.5	9.3	0	0	0	0	0	0	13.0	1.2	8.0	9.1
四国－太平洋／中南																					
5190 海部川																				8.3	8.3
5200 野根川					6.7	6.7	6.7	6.7										6.7			
5200 野根川																					
5200 小 計	0	0	0	0	5.0	5.0	5.0	5.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5.0	0	0	0
5240 広見川																					
5240 広見川																					
5240 小 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5260 下ノ加江川	3.6	3.6	3.6	3.6														3.6		71.4	71.4
5270 新荘川									3.8	7.7	7.7							7.7		3.8	3.8
5280 安芸川																				17.9	17.9
四国－太平洋／中南 計	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1.0	1.0	0	0	0	0	0	0	2.0	0	14.8	14.8
四国－瀬戸内海																					
5210 銅山川																					
5210 銅山川									31.4		31.4							31.4	43.1	5.9	49.0

（注）・総延長は調査を実施した延長である。 調査区間は1kmごとに設定した。
・水際線および河原の土地利用は，調査原票は各調査区間ごとに十分比（両岸の平均）で表されているので，これを実延長に換算し割合を求めた。
・河畔の土地利用は各調査区間ごとに最も大きな面積を占めている土地利用で表されているので，これを実延長に換算し割合を求めた。
・四捨五入により小数第1桁で示しているため，各延長の合計は必ずしも100%にならない。
・保全地域の小計および計では，1調査区間に複数の保全地域がかかる場合，重複して数えることはせず，1として数えた。 このため，各地域の区間数の率（全調査区間数比%）を足した数と小計，計が合わない場合がある。
・原生自然環境保全地域にかかる河川はないため，表から項目を省略した。

河川改変状況一覧表①（比率）

水系群名 河川コード 河川名	都道府県名	調査区間数 延長km	水際線 人工化 %	水際線 自然地 %	河原の土地利用 存在区間 %	河原の土地利用 自然地 %	河原の土地利用 農耕地 %	河原の土地利用 未造成用地 %	河原の土地利用 施設的利用地 %	河畔の土地利用 右岸 自然地 %	右岸 農耕地 %	右岸 市街地 工業地 %	左岸 自然地 %	左岸 農耕地 %	左岸 市街地 工業地 %	河川工作物 堰上可 箇所	堰上可 魚道有 箇所	堰上不可 魚道有 箇所	堰上不可 魚道無 箇所	取水施設 %
5210 小計	2県	62 61.4	2.0	98.0	1.6	1.6	0	0	0	100.0	0	0	100.0	0	0	2	0	0	3	6.5
5220 財田川	香川県	33 32.5	63.3	36.7	54.5	43.7	0	6.5	5.2	29.3	52.3	18.5	26.2	43.1	30.8		25		4	
5230 香東川	香川県	37 37.0	82.7	17.3	35.1	9.7	0	8.1	17.3	2.7	56.8	40.5	2.7	64.9	32.4	1	24			8.1
5250 小田川	愛媛県	38 38.7	4.1	95.9	0	0	0	0	0	56.1	25.8	18.1	60.8	43.5	5.2	3	1		3	12.5
四国－瀬戸内海 計	4河川	171 169.6	31.8	68.2	16.7	11.1	0	3.0	4.8	55.2	28.3	16.5	53.4	32.4	14.1	6	37	0	9	7.0
九州－日本海																				
5290 嘉見川	福岡県	23 22.5	39.8	60.2	0	0	0	0	0	24.8	39.8	35.4	38.1	39.8	22.1	12	8	4	26	43.5
5310 鈴川	福岡県	17 16.8	50.5	49.4	0	0	0	0	0	16.7	65.5	17.9	6.0	88.1	6.0		8		22	82.4
5330 玉島川	佐賀県	16 15.7	38.0	62.0	0	0	0	0	0	38.2	49.0	12.7	42.7	19.1	38.2	1	5			18.8
5340 徳須恵川	佐賀県	20 19.5	70.8	29.2	0	0	0	0	0	25.6	74.4	0	51.3	38.5	10.3				8	50.0
5350 川棚川	長崎県	20 18.9	83.0	17.0	0	0	0	0	0	0	75.3	24.7	0	85.3	14.7	10	1		21	75.0
5360 佐々川	長崎県	22 21.5	84.2	15.8	0	0	0	0	0	0	44.2	55.8	0	58.1	41.9	14	4		33	50.0
九州－日本海 計	6河川	118 116.0	62.0	38.0	0	0	0	0	0	16.7	57.5	25.8	22.7	55.0	22.3	24	21	4	48	53.4
九州－太平洋／中南																				
5420 番田川	大分県	26 26.0	60.4	39.6	0	0	0	0	0	30.8	57.7	11.5	36.5	53.8	7.7	10			4	34.6
5440 日作川	大分県	23 23.0	36.1	63.8	0	0	0	0	0	56.5	17.4	26.1	52.2	34.8	13.0			4	2	4.3
5450 福島川	宮崎県	24 23.5	28.7	71.3	50.0	40.0	7.2	0	3.8	48.5	42.8	8.5	40.4	46.8	12.8	9	2	2		37.5
5460 耳倉川	宮崎県	30 29.5	34.2	65.8	43.3	36.3	6.4	1.4	0	42.4	40.7	16.9	42.4	50.8	6.8	10	10	3	12	20.0
5470 五十鈴川	宮崎県	44 43.9	29.0	71.0	29.5	28.7	0.8	0	0	59.0	34.2	6.6	45.3	41.0	13.7	10	2	3	8	20.5
5480 北川	宮崎県	32 31.7	35.3	64.7	46.9	33.8	1.6	7.3	4.7	52.7	22.1	25.2	43.2	37.9	18.9				3	12.5

保全地域 国立公園 特地別区保護 %	国立公園 特別地域 %	国立公園 普通地域 %	国立公園 小計 %	国定公園 特地別区保護 %	国定公園 特別地域 %	国定公園 普通地域 %	国定公園 小計 %	都道府県立自然公園 特別地域 %	都道府県立自然公園 普通地域 %	都道府県立自然公園 小計 %	自然環境保全地域 特別地域 %	自然環境保全地域 普通地域 %	自然環境保全地域 小計 %	都道府県自然環境保全地域 特別地域 %	都道府県自然環境保全地域 普通地域 %	都道府県自然環境保全地域 小計 %	計 %	鳥獣保護区 特別保護地区 有 %	鳥獣保護区 特別保護地区 無 %	鳥獣保護区 特別保護地区 計 %	鳥獣保護区 保護指定 計 %
0	0	0	0	0	0	0	0	25.8	0	25.8	0	0	0	0	0	0	25.8	35.5	4.8	40.3
																			6.1	6.1
																			5.1	5.1
0	0	0	0	0	0	0	0	9.4	0	9.4	0	0	0	0	0	0	9.4	12.9	4.1	17.0
								30.4		30.4							30.4		47.8	47.8
												18.8	18.8				18.8			
																		4.6		4.5
0	0	0	0	0	0	0	0	5.9	0	5.9	0	2.5	2.5	0	0	0	8.5	0.8	9.3	10.2
																			19.2	19.2
																			8.7	8.7
																			4.2	4.2
									6.7	6.7							6.7		8.7	8.7

（注）・総延長は調査を実施した延長である。　調査区間は1kmごとに設定した。
・水際線および河原の土地利用は，調査原票は各調査区間ごとに十分比（両岸の平均）で表されているので，これを実延長に換算し割合を求めた。
・河畔の土地利用は各調査区間ごとに最も大きな面積を占めている土地利用で表されているので，これを実延長に換算し割合を求めた。
・四捨五入により小数第1桁で示しているため，各延長の合計は必ずしも１００％にならない。
・保全地域の小計および計では，１調査区間に複数の保全地域がかかる場合，重複して数えることはせず，１として数えた。　このため，各地域の区間数の率（全調査区間数比％）を足した数と小計，計が合わない場合がある。
・原生自然環境保全地域にかかる河川はないため，表から項目を省略した。

水系群名 河川コード　河川名	都道府県名	調査区間数 総延長 km	水際線 人工化 %	水際線 自然地 %	河原の土地利用 存在区間 %	河原の土地利用 自然地 %	河原の土地利用 農地・森地 %	河原の土地利用 未利用地 %	河原の土地利用 施設的利用地 %	河畔の土地利用 右岸 自然地 %	河畔の土地利用 右岸 農地 %	河畔の土地利用 右岸 市街地 %	河畔の土地利用 左岸 自然地 %	河畔の土地利用 左岸 農地 %	河畔の土地利用 左岸 市街地 %	河川工作物 堰上可 樹木 箇所	河川工作物 堰上可 竹木 箇所	河川工作物 堰上不可 樹木 箇所	河川工作物 堰上不可 竹木 箇所	取水施設 %	保全地域 国立公園 特地別区保護 %	国立公園 特別地域 %	国立公園 普通地域 %	国立公園 小計 %	国定公園 特地別区保護 %	国定公園 特別地域 %	国定公園 普通地域 %	国定公園 小計 %	都道府県立自然公園 特別地域 %	都道府県立自然公園 普通地域 %	都道府県立自然公園 小計 %	自然環境保全地域 特別地域 %	自然環境保全地域 普通地域 %	自然環境保全地域 小計 %	都道府県自然環境保全地域 特別地域 %	都道府県自然環境保全地域 普通地域 %	都道府県自然環境保全地域 小計 %	計 %	鳥獣保護区 特別保護地区指定 有 %	鳥獣保護区 特別保護地区指定 無 %	鳥獣保護区 特別保護地区指定 計 %
九州－太平洋／中南		178																																						
計	8河川	177.8	36.5	63.5	29.6	24.4	2.5	1.5	1.4	49.3	35.5	15.2	43.7	43.9	12.4	33	8	11	17	21.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.1	1.1	0	0	0	0	0	0	1.1	0	5.6	5.6
九州－瀬戸内海																																									
5300 今川	福岡県	41 40.6	17.0	83.0	0	0	0	0	0	28.6	88.5	4.9	21.2	64.9	14.8	8	21		55	68.3						2.4		2.4										2.4		9.8	9.8
5430 駅館川	大分県	14 14.0	53.6	46.4	0	0	0	0	0	0	85.7	14.3	14.3	50.0	35.7	4				21.4																					50.0	50.0
九州－瀬戸内海 計	2河川	55 54.6	26.4	73.6	0	0	0	0	0	21.2	71.4	7.3	19.4	60.4	20.1	11	13	0	22	56.4	0	0	0	0	0	1.8	0	1.8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.8	0	20.0	20.0
九州－東支那海																																									
5320 田平川	佐賀県	21 20.3	50.2	49.8	0	0	0	0	0	16.3	49.3	34.5	16.3	64.0	19.7		13		26	47.6																						
5370 米川	熊本県	24 23.8	35.8	64.2	20.8	20.9	0	0	0	54.1	37.6	8.4	33.4	50.1	16.5	8	4		2	12.5											41.7	41.7							41.7		16.7	16.7
5380 御船川	熊本県	33 32.6	23.8	76.2	0	0	0	0	0	55.0	32.8	12.2	55.0	26.7	18.3	6				18.2																					21.2	21.2
5390 水俣川	熊本県	19 18.1	18.8	81.2	0	0	0	0	0	22.1	50.3	27.6	16.6	66.8	16.6		9			15.8											5.3	5.3							5.3		31.6	31.6
5400 万江川	熊本県	23 22.2	14.0	86.0	0	0	0	0	0	64.0	36.0	0	73.0	27.0	0	2	4		1	17.4																						
5410 玖珠川	大分県	58 57.3	50.8	49.2	0	0	0	0	0	40.7	40.1	19.2	42.4	36.6	20.9	15			26	12.1		8.9	3.6	8.8		8.6	36.2	41.4										50.0		6.9	6.9
5490 万之瀬川	鹿児島県	31 30.2	30.5	69.5	6.5	6.6	0	0	0	47.0	46.4	6.6	40.4	53.0	6.6	1	4		3	29.0											8.6	8.7	8.7						8.7		8.7	8.7
5500 雄川	鹿児島県	21 20.4	31.1	68.9	0	0	0	0	0	44.1	51.0	4.9	29.4	60.8	9.8		3		1	14.3											19.0	23.8	42.9						42.9		28.6	28.6
九州－東支那海 計	8河川	230 225.2	34.5	65.5	3.0	3.1	0	0	0	43.8	41.6	14.2	40.4	45.0	14.6	25	28	0	25	19.6	0	1.7	0.8	2.2	0	2.2	9.1	10.4	2.6	6.3	10.0	0	0	0	0	0	0	22.6	0	13.0	13.0
沖縄－東支那海																																								
5510 仲間川	沖縄県	9 9.0	1.1	98.9	100.0	100.0	0	0	0	100.0	0	0	88.9	11.1	0						100.0			100.0														100.0			
5520 仲良川	沖縄県	7 7.0	0	100.0	100.0	100.0	0	0	0	100.0	0	0	100.0	0	0						100.0			100.0														100.0			
沖縄－東支那海 計	2河川	16 16.0	0.6	99.4	100.0	100.0	0	0	0	100.0	0	0	93.8	6.3	0	0	0	0	0	0	100.0	0	0	100.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100.0	0	0	0

（注）・総延長は調査を実施した延長である。　調査区間は1kmごとに設定した。
・水際線および河原の土地利用は，調査原票は各調査区間ごとに十分比（両岸の平均）で表されているので，これを実延長に換算し割合を求めた。
・河畔の土地利用は各調査区間ごとに最も大きな面積を占めている土地利用で表されているので，これを実延長に換算し割合を求めた。
・四捨五入により小数第1桁で示しているため，各延長の合計は必ずしも100%にならない。
・保全地域の小計および計では，1調査区間に複数の保全地域がかかる場合，重複して数えることはせず，1として数えた。　このため，各地域の区間数の率（全調査区間数比率）を足した数と小計，計が合わない場合がある。
・原生自然環境保全地域にかかる河川はないため，表から項目を省略した。

河川改変状況一覧表①（比率）

水系群名 河川コード　河川名	都道府県名	調査区間数 総延長 km	水際線 人工化	水際線 自然地	河原の土地利用 存在区間	河原の土地利用 自然地	河原の土地利用 農耕地	河原の土地利用 未造成地	河原の土地利用 施設利用地	河畔の土地利用 右岸 自然地	右岸 農耕地	右岸 市街地	右岸 工業地	左岸 自然地	左岸 農耕地	左岸 市街地	左岸 工業地	河川工作物 堰上可 魚道有	堰上可 魚道無	堰上不可 魚道有	堰上不可 魚道無	取水施設	保全地域 国立公園 特別地区保護	国立公園 特別地域	国立公園 普通地域	国立公園 小計	国定公園 特別地区保護	国定公園 特別地域	国定公園 普通地域	国定公園 小計	都道府県立自然公園 特別地域	都道府県立自然公園 普通地域	都道府県立自然公園 小計	自然環境保全地域 特別地域	自然環境保全地域 普通地域	自然環境保全地域 小計	都道府県自然環境保全地域 特別地域	都道府県自然環境保全地域 普通地域	都道府県自然環境保全地域 小計	計	鳥獣保護区 特別保護地区 有	鳥獣保護区 特別保護地区 無	鳥獣保護区 特別保護地区 計	鳥獣保護区 指定
			%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	箇所	箇所	箇所	箇所	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総　計	153河川	5308 3251.1	26.6	73.4	26.7	22.1	2.4	1.5	0.9	45.4	40.1	14.5	45.2	40.4	14.4	563	781	74	558	22.3	0.7	1.3	0.8	2.8	0.3	3.8	1.1	5.1	2.6	5.6	8.0	0.2	0.1	0.3	0.6	0.3	0.3	15.9	1.3	10.1	11.4	

（注）・総延長は調査を実施した延長である。　調査区間は1kmごとに設定した。
・水際線および河原の土地利用は，調査原則は各調査区間ごとに十分比（両岸の平均）で表されているので，これを実延長に換算し割合を求めた。
・河畔の土地利用は各調査区間ごとに最も大きな面積を占めている土地利用で表されているので，これを実延長に換算し割合を求めた。
・四捨五入により小数第1桁で示しているため，各延長の合計は必ずしも100%にならない。
・保全地域の小計および計では，1調査区間に複数の保全地域がかかる場合，重複して数えることはせず，1として数えた。　このため，各地域の区間数の率（全調査区間数比）を足した数と小計，計が合わない場合がある。
・原生自然環境保全地域にかかる河川はないため，表から項目を省略した。

原生流域一覧表

※No.	原生流域名（地域名）	※流域面積	都道府県	市町村	改変状況	※保全地域他	植物等の概況
0101	テッパンベツ川流域	ha 2,170 …… 2,170	北海道	林里郡林里町		知床国立公園 （第3種特別地域） （特別保護地区） 国設鳥獣保護区	沢沿いに河畔林がみられ、山麓部は針広混交林及び針葉樹林である。 尾根筋には、ハイマツ群落、高山性の草原及び低木植物群落が発達している。
0102	ルシャ川上流部	1,600 …… 1,600	〃	林里郡斜里町		知床国立公園 （第3種特別地域） 国設鳥獣保護区	沢沿いに河畔林がみられ、山麓部は概ね針広混交林及び針葉樹林である。 尾根筋には、ハイマツ群落、高山性の草原及び低木植物群落が発達している。
0103	オッカバケ川上流部	1,100 …… 1,100	〃	目梨郡羅臼町		知床国立公園	高度範囲260~1,564mの区域であり、900m付近までダケカンバ林で、それ以上は、ハイマツ帯である。 二ッ池には湿原植生が発達し、オッカバケ岳とサシルイ岳の間の鞍部には、ごく小規模な湿原（ミクリ沼）がある。 （注 国有林。上部は高山帯、下部は更新困難地の施業が入らない地区）
0104	植別川上流部	2,000 …… 2,000	〃	目梨郡羅臼町 標津郡標津町		——	高度範囲260~1,419mの区域であり、稜線部にハイマツ帯が見られ、それ以上は、ダケカンバを主体とした林で、沢筋は、針広混交林となっている。 （注 国有林。上部は高山帯、下部は更新困難地の施業が入らない地区）
0105	茅沼別川上流部	1,290 …… 1,290	〃	上川郡上川町		大雪山国立公園	大雪山系ニセイカウシュペ山の北西に広がる高度840mから1878.9mの山頂までの区域で、茅沼別川の支流の一角を占める。 高山帯は、1,500m前後からみられるが、特に1,700m以上では、高山植物群落の発達が顕著である。 上部針広混交林（エゾマツ、ダケカンバ群落）、ダケカンバ群落は、ほぼ1,000m前後からで、針葉樹も見ることがある。 緩斜面の広い尾根筋には、ササ草原が森林群落に介在している。
0106	忠別川上流部	5,810 …… 5,780	〃	上川郡美瑛町 上川郡東川町	1992年10月に完成した忠別川第2号ダム（砂防ダム）により、一部制限。	大雪山国立公園	大雪山系の中心部、高度680mから旭岳山頂2,290mの区域で、その半分は高山帯で多彩な高山植物が広がっている。 森林限界は1,300~1600mで森林帯ではエゾマツ、トドマツ、アカエゾマツの針葉樹林にダケカンバ、ミヤマハンノキ、ナナカマド等が混入し、下部は針広混交林が一般的である。 地形的には旭岳火山の旭岳、高根ケ原の溶岩台地、忠別川本流の峡谷など変化に富んでいる。 （注 ウスバキチョウ、アサヒヒョウモン、ダイセツタカネヒカゲ等の天然記念物が生息する）
0109	タワウンナイ川上流部	3,770 …… 3,400	〃	上川郡美瑛町	1991年国有林施業区で変化が行われた。 林班　面積　N　L　T(㎥)　伐採率 343　12ha　1,116　56　1,172　25% （ろ小班） このため下流域の一部制限。	大雪山国立公園	タワウンナイ川は石狩川本流忠別川の支流で、本区域は、トムラウシ山北西の650mから2,141mの山頂にわたっている。 森林限界は1,400m付近である。トムラウシ山付近は、ロックガーデン等の溶岩地帯地で、岩が多数散在し、小規模な溶岩円頂丘も見られ、高山植物群落の発達は顕著である。
0110	辺別川上流部	1,380 …… 1,380	〃	上川郡美瑛町		大雪山国立公園	辺別川は石狩川本流美瑛川の支流で高度800m（中尾牧台国有林付近）から、1,750mにわたる区域。 上流部は武華々原と呼ばれる古い溶岩台地である。 森林限界は1,400~1,500m。 森林帯の構成は他の大雪山系の原生流域と大差はない。

（注 No.の前が付は、流域面積に変化あり）

（注）高域面積 上段：第3回　下段：第4回

No.	原生流域名（地域名）	※流域面積	都道府県	市町村	改変状況	※保全地域他	植物等の概況
0111	美瑛川上流部	ha 1,410 …… 1,410	北海道	上川郡美瑛町		大雪山国立公園	十勝岳連峰の北麓、高度880~1,668mの区域で森林限界は1,400m前後。森林帯はエゾマツ、トドマツ、アカエゾマツの針葉樹林が主体となっている。森林には山上湖の湿原がある。
0112	トムラウシ川上流東沢	1,700 …… 1,700	〃	上川郡新得町		大雪山国立公園 十勝川源流部原生自然環境保全地域 国設大雪山鳥獣保護区（一部）	高度範囲680~1,710m。標高1,000m前後までの森林帯は、原生自然環境保全地域に指定されている等分を中心として、北海道を代表する針葉樹林帯（エゾマツ、トドマツ）が広がっており、その一部はエゾマツ林となっている。その上部は、ダケカンバ、エゾマツ、トドマツを主体とした針広混交林からダケカンバ林となる。標高1,400mより上部はハイマツ、コケモモ群落を主体とした高山植生が広がっており、特に大雪山国立公園の五色々原周辺は、大規模な高山植物群落（いわゆるお花畑）があることで知られている。
0113	富良野上流部	1,970 …… 1,970	〃	富良野市		大雪山国立公園	高度範囲840~1,912m（富良野岳）。森林限界は1,400~1,500m。森林帯の大部分は原始々原と呼ばれる高層湿原地帯で湿原性アカエゾマツ林が特徴である。樹高が中々高くなるとエゾマツ、トドマツの針葉樹林、上部針広混交林、ダケカンバ林を経て、ハイマツ帯へと続いている。富良野岳は大雪山系では最も古い山体に属し、高山植物の種類、数が多いことで知られる。
0114	戸別川上流部	1,410 …… 826	〃	戸別市	富良野戸別道立自然公園区域外において択伐が行われた。	富良野戸別道立自然公園	森林帯は一般的な針広混交林でベニイタヤ、シシアブラ、アズキナシ、イタヤカエデ、ミズナラを主体としエゾマツ、トドマツなどの針葉樹林も見られる。動物ではヒグマ、エゾシカが見られる。
0115	トナシベツ川上流部	1,120 …… 674	〃	空知郡南富良野町	1992年作業道の延長により、流域が減少した。 変化後の流域面積 674ha	富良野戸別道立自然公園	
0116	戸高別川上流部	5,210 …… 5,210	〃	帯広市		日高山脈国定公園	高度範囲600~1,955m（戸高別岳山頂）。日高山系は、ダケカンバ林の発達で知られ、特に十勝側では針葉樹林はわずかにみられる程度である。図式的にいえば、河道沿いには、ヤナギ群を主体とする河畔林、高標高の尾根沿いには、ミヤマハンノキ林、中腹斜面には、落葉広葉樹林、より上部にはチシマザサ群落、ダケカンバ林、雪田草原があり稜線のハイマツ群落へと続いている。
0117	新冠川上流部	2,430 …… 2,430	〃	新冠郡新冠町		日高山脈国定公園	高度範囲820~1,959m（戸高別岳）。戸高別川上流部と主稜をはさんで対峙する区域である。森林限界1,300m付近。区域の北西端の稜線付近では支河川である七ツ沼カール、振民岳カール周辺を中心として雪田草原からヒース群落に至る高山植物群落が最もよく発達している。 森林群落はほとんどダケカンバ林で占められ、針広混交林もみられるが、針葉樹林は少ない。 全体としてこの区域では、高山草本群落の広が、特記のヒースの発達で特徴づけられる。
0118	札内川上流（本流）	3,760 …… 3,760	〃	河西郡中札内村		日高山脈国定公園	高度範囲620~1,979m（カムイエクウチカウシ山山頂）。森林群落では、落葉広葉樹林とダケカンバ林がほとんどを占める。 ナイフエッジ状の稜線付近には、ハイマツ群落が細長く分布し、稜線直下のカール底には、高山草本群落が発達する。

（※ No. の囲かけは、流域面積に変化あり）

（注）流域面積 上段：第3回 下段：第4回

No.	原生流域名（地域名）	※流域面積	都道府県	市町村	改変状況	※保全地域他	植物等の概況
0119	新冠川ペッピリガイ沢	ha 1,300 …… 1,300	北海道	新冠郡新冠町		日高山脈襟裳国定公園（全域）	高度範囲840~1,901m（エサオマントックペツ岳）。 大部分がダケカンバ林で主稜線付近の植生状況は他とかわらないが、支稜を多くふくむため高山草本群落の発達は貧弱である。
0120	シュンベツ川上流部	1,320 …… 1,320	〃	静内郡静内町		日高山脈襟裳国定公園（一部）	高度範囲620~1,852m。 大部分がダケカンバ林で主稜線付近の植生状況は他とかわらないが、支稜を多くふくむため高山草本群落の発達は貧弱である。
0121	シュンベツ川上流ナメワッカ沢	1,080 …… 1,080	〃	静内郡静内町		日高山脈襟裳国定公園（一部）	高度範囲600~1,672m。 比較的低標高地が多いため、針広混交林とダケカンバ林でほとんどを占める。 高山帯は北面の境界となっている稜線付近でわずかにハイマツ群落を主体としてみられる程度である。
0122	札内川上流七の沢	1,060 …… 1,060	〃	河西郡中札内村		日高山脈襟裳国定公園	高度範囲580~1,826m（最高1,823m峰山頂）。 植生状況については、No16（戸蔦別川上流部）で述べた日高山系一般の傾向と変わらない。
0123	コイボクシュシビチャリ川 上流部	1,020 …… 1,020	〃	静内郡静内町		日高山脈襟裳国定公園（全域）	高度範囲680~1,979m（カムイエクウチカウシ山）。 日高山系全体では、針葉樹林の分布が北から南へ向かって少なくなる傾向にあり、当該流域では全く見ることができない。
0124	札内川上流五の沢	1,310 …… 1,310	〃	河西郡中札内村		日高山脈襟裳国定公園	高度範囲480~1,719m（コイカクシュナイ岳山頂）。 日高山系全体では、針葉樹林の分布が北から南へ向かって少なくなる傾向にあり、当該流域では全く見ることができない。 その他の植生については、No16（戸蔦別川上流）と同様である。
0125	コイボクシュシビチャリ川 ナナシノ沢	2,080 …… 2,080	〃	静内郡静内町		日高山脈襟裳国定公園（全域）	高度範囲520~1,839m。 日高山系はダケカンバ林の発達で知られ、針葉樹林はわずかにみられる程度である。 図式的にいえば、河道沿いには、ヤナギ類を主体とする河畔林、高標高の沢沿いにはミヤマハンノキ林、中腹斜面には落葉広葉樹林、より上部にはチシマザサ群落、ダケカンバ林、潅木群落がありハイマツ帯へと続いている。
0126	屈身川上流部	5,940 …… 5,940	〃	広尾郡大樹町		日高山脈襟裳国定公園	高度範囲は、380~1,794m（ヤオロマップ岳山頂）と、高低差1,400mにわたる。 落葉広葉樹林が森林群落の多くを占める。 その他の植生状況については日高山系全体の傾向と変わらないが、No24（札内川上流五の沢）と同様に針葉樹林は全く見られない。 ヤオロマップ岳の北東のカール地形では、この区域では比較的大きな高山草本群落を見ることができる。

（注） 流域面積 上段：第3回 下段：第4回

※No.	原生流域名（地域名）	※流域面積	都道府県	市町村	改変状況	※保全地域他	植物等の概況
0127	コイカクシュシビチャリ川上流 サッシビチャリ沢	ha 2,640 …… 2,640	北海道	静内郡静内町		日高山脈稜線国定公園（全域）	高度範囲480~1,839m。 1,839mの峰はヤオロマップ岳から西方に延生する山尾根上の最高ピークである。植生状況は日高山系一般の傾向と大差はない。
0128	上アブカサンベ沢周辺流域	1,530 …… 1,530	〃	静内郡静内町		——	日高山系の主稜から西方へ延びた支稜上の1,417m（無名峰）を最高度地点とし、その更に西側に位置する340m地点を最低高度とする区域である。ダケカンバ林、岩広葉交林、落葉広葉樹林が大部分を占め、針葉樹林も見ることができる他、クマイザサ、チシマザサの群落も他地域に比して比較的多く見られる。
0129	ポンヤオロマップ周辺域	1,470 …… 1,470	〃	広尾郡大樹町		日高山脈稜線国定公園	高度範囲420~1,518m。 主稜線のペテガリ岳から東へ延生する尾根沿の無名峰が最高地点である。大部分を落葉広葉樹林、岩広葉交林、ダケカンバ林が占め、植生状況は日高山脈全体の傾向と変わらない。
0130	中ノ川上流部	6,400 …… 6,400	〃	広尾郡大樹町		日高山脈稜線国定公園	高度範囲260~1,825m（ソエマツ岳山頂）。大部分が落葉広葉樹林で占められる。その他の植生については、№26（豚角川上流）と大差ないが、一部に針葉樹林も見られる。
0131	コイカクシュシビチャリ川上流部 ペテガリ沢周	1,490 …… 1,490	〃	静内郡静内町		日高山脈稜線国定公園（全域）	高度範囲500~1,736m（ペテガリ岳）。 ほとんどが森林帯でしめられ、内容的には他とかわらない。針葉樹林もみられる。
0132	ヌビナイ川上流部	3,730 …… 3,730	〃	広尾郡大樹町		日高山脈稜線国定公園	高度範囲340~1,631m（ピリカヌプリ山頂）。 植生状況は、他の日高山脈の流域と変わらない。ピリカヌプリの周辺には、比較的大きな高山草本群落がみられる。
0133	元浦川上流ソエマツ沢	2,200 …… 1,900	〃	浦河郡浦河町	国有林経営事業区において、次のとおり改変が行われた。 作業路開設　89林班　L=600m（S54） 植栽　89林班 10.9ha トドマツ等（S54.S55） 94林班 9.15ha トドマツ等（S55） 変化後の流域面積 1,900ha	日高山脈稜線国定公園（一部）	高度範囲440~1,631m（ピリカヌプリ）。 植生状況は他の流域と変わらない。わずかに針葉樹林がみられる。
0134	富菜川上流パンケアイアン沢	1,040 …… 1,040	〃	広尾郡広尾町		日高山脈稜線国定公園	高度範囲320~1,259m（取股山山頂）。標高が比較的低いため、ほとんどが落葉広葉樹林となっている。

（※ No.の割かせ、流域面積に変化あり）

（注）流域面積　上段：第3回　下段：第4回

番号 No.	原生流域名（地域名）	※流域面積	都道府県	市町村	改変状況	※保全地域他	植物等の概況
0135	日高幌別川上流部	ha 1,590 …… 1,590	北海道	浦河郡浦河町		日高山脈襟裳国定公園（全域）	高度範囲460～1,634m（ピリカヌプリ）。 北に隣接するha330の区域には針葉樹林がわずかにみられたが、この区域では、同じ日高帯でありながら、全く分布していない。
0136	豊似川上流部	2,900 …… 1,050	〃	広尾郡広尾町	本流域では、国道236号線（広尾大樹線）の建設が進んでいる。このため流域面積を1,850ha減らす。	日高山脈襟裳国定公園	高度範囲380～1,530m。 トヨニ岳北側の無名峰が最高点。 高茎広葉樹林が大部分を占め、針葉樹林もわずかに見られる。 トヨニ岳付近の稜線周辺の緩斜面には比較的大きな高山草本群落が見られる。 トヨニ岳付近のカールは開析を受けてかなり崩れているが、日高山系では最南端のカールである。 （注 同流域では、林道建設計画があり、次回調査では面積要件を満たさない見込みである）
0137	余別川上流部	1,470 …… 1,470	〃	広尾郡大樹町		——	余別岳（標高1,297m） 及び、ポンネアンチシ山（標高1,145m）の西斜面から雷内岳（標高1,091m）東斜面にかけての区域で、エゾイタヤーシナノキ群落によって占められ、所々に自然裸地がみられる。余別岳からポンネアンチシ山の稜線西斜面には、ミヤマハンノキーダケカンバ群落が分布し、また、雷内岳東斜面の稜線部にはダケカンバーハイマツ群落が分布する。 林床はササが優占する。
0138	主別川上流部	1,310 …… 1,114	〃	静内郡上ノ国町	1. 択伐施業 Ⅱ地域 196ha Ⅲ地域 別図参照 2. その他の改変はない。 3. したがって、面積の変更を行う。その状況は別図に示す。	—— （保安林あり）	植種内容 ブナ主体、イタヤ・カバ類の広葉樹天然林である。 草本内容 尾根部は一部大千枯谷の高山性風衝草原となっている。 その他は笹が主体である。 （注 平成5-6 年頃に一部林班で択伐施業予定あり）
0141	額平川上流部	2,660 …… 2,673	〃	上川郡新得町	1. 施業等改変状況がないため、区画に一部張りがあるので訂正する。 2. 面積の増となる。	特別天然記念物 （特別地域） （保安林あり）	植種内容 ブナ・イタヤ・カバ・ナナカマド等の広葉樹林であり、標高600m以上はダケカバ・ナナカマド主体。 山頂部は高山植物・ハイマツ等となっている。 草本内容 クロモジ・エゾユズリハ・ハイマツ・オオカメノキ・キバナ 樹木種類 シャクナゲ・アオツガザクラ・ウラギギク・ウコンウツギ・イワウメ・チシマザサ・クマイザサ等
0142	利別川上流部	1,780 …… 1,590	〃	上川郡今金町	1. 択伐施業 Ⅱ地域 別図参照 2. その他の改変はない。 3. したがって、面積の変更を行う。その状況は別図に示す。	—— （保安林あり）	植種内容 ダケカバ50% ブナ30% イタヤカエデ20%と大別される広葉樹林である。 草本内容 クマイザサ・チシマザサ・イタドリ・フキが主体である。 樹木種類 イヌガヤ・クロモジ・ウルシ・コクワ・ブドウが主体である。
0201	遊楽部川流域	3,608 …… 3,608	青森県	西津軽郡深浦町		津軽国定公園（一部） 白神山自然環境保全地域 （普通地区） （特別地区） （野性動植物保護地区）	植物 1. 105科 512種の植物が確認されている。 2. 広範囲にわたってブナ－ミズナラ群落が分布している。 3. オアモリマンテマとツガルミセバヤの分布の中心である。 4. オガタチイチゴツナギが広く分布している。 哺乳類 ニホンザル・ツキノワグマ・カモシカ等青森県現存のほとんどの種が生息していると推定されている。 鳥類 1. クマタカ 2. シノリガモ 両生類 カジカガエルが広い地域でみられる。 昆虫 1. シモヤマミズギワゴミムシ 2. ウメヤルリミズギワゴミムシ 3. ニトベギングチバチ 4. チュビギングチバチ
0202	赤石川流域	4,484 …… 4,484	〃	西津軽郡鰺ヶ沢町		赤石川渓流暖帯の地 県立自然公園（一般） 白神山自然環境保全地域 （普通地区/特別地区/他）	植物 標高中最大のものはブナ－チシマザサ群落である。 哺乳類 ニホンザル・ツキノワグマ等青森県現存のほとんどの種が生息していると推定されている。 鳥類 1. イスワシ 2. クマタカ 3. シノリガモ 昆虫 1. シモヤマミズギワゴミムシ 2. ニトベギングチバチ 3. キタザンゴロウモドキ

（注 No. の飛かせは、流域面積に変化あり）

（注）流域面積 上段：第3回 下段：第4回

※No.	原生流域名（地域名）	※流域面積	都道府県	市町村	改変状況	※保全地域他	植物等の概況
0203	鳴門川最流	ha 2,106 2,106	青森県	中津軽郡西目屋村		赤石渓流鳴門の滝 県立自然公園（一部） 白神山自然環境保全地域 （普通地区/特別地区/他）	植物　ブナーオオバクロモジ群落がもっとも広く分布する。 哺乳類　1.カモシカ　2.ツキノワグマ 鳥類　1.クマゲラ　2.シノリガモ 両生類　カジカガエルが広い地域でみられる。
0301	高瀬川上流部	1,000 1,000	岩手県	岩手郡雫石町		十和田八幡平国立公園（全域）	林齢130~140年以上のブナ林（ブナーチシマザサ群落）におおわれている。 （※ 全域が高瀬川・玉川源流部森林生態系保護地域に含まれている）
0302	高瀬川上流部	1,200 1,200	〃	岩手郡雫石町		十和田八幡平国立公園（全域）	林齢130~140年以上のブナ林（ブナーチシマザサ群落）におおわれている。 （※ 全域が高瀬川・玉川源流部森林生態系保護地域に含まれている）
0303	白賀川上流部	1,720 1,720	〃	秋田県沢内村		白賀岳自然環境保全地域（一部）	林齢170年以上のブナ林（ブナーチシマザサ群落）におおわれている。
0304	小倉川流域部	2,600 2,600	〃	秋田県仁賀保町		——	林齢185~195年以上のブナ林（ブナーチシマザサ群落）におおわれている。 （※ 森林生態系保護地域の設定が予定されている）
0501	岩毛川上流部	2,450 2,450	秋田県	山本郡藤里町		白神山自然環境保全地域	・チシマザサーブナ群団　・サワグルミージュウモンジシダ群落　・キタゴヨウーアカミノイヌツゲ群落　・ダケカンバーチシマザサ群落 ・ミヤマナラ群落　・イヌワシ 1 羽 確認（1992.9.23）
0502	能代沢上流部	1,230 1,230	〃	北秋田郡森吉町		森吉山県立自然公園	・チシマザサーブナ群団　・クロベーキタゴヨウ
0504	玉川上流部	3,400 3,400	〃	仙北郡田沢湖町		十和田八幡平国立公園	・チシマザサーブナ群団　・オオシラビソ群集　・ササーダケカンバ群落　・ヌマガヤオーダー　・ジュウモンジシダーサワグルミ群集 ・雪田草原

（注）流域面積　上段：第3回　下段：第4回

※No.	原生流域名（地域名）	※流域面積	都道府県	市町村	改変状況	※保全地域他	植物等の概況
0505	生保内川上流部	ha 2,120 2,120	秋田県	仙北郡田沢湖町		——	・チシマザサ－ブナ群団　・雪田草原　・ササ－ダケカンバ群落　・ウラジロヨウラク－ミヤマナラ群団　・ヒメヤシャブシ－タニウツギ群落
0506	黒内沢上流部	2,780 2,780	〃	仙北郡角館町		田沢湖抱返り県立自然公園	・チシマザサ－ブナ群団　・高山低木群落　・チシマザサ群落　・ウラジロヨウラク－ミヤマナラ群団　・雪田草原
0507	成瀬川上流部	2,370 2,345	〃	雄勝郡東成瀬村	成瀬ダム計画の事前地質調査のため森林伐採、土地の形状変更	——	・チシマザサ－ブナ群団　・ウラジロヨウラク－ミヤマナラ群団　・ヒメヤシャブシ－タニウツギ群落　・クロベ－キタゴヨウ群落 ・チシマザサ群落　・ジュウモンジシダ－サワグルミ群集 （※　赤施下流に成瀬ダム計画あり。早期に保護対策をとらなければ原生流域の下流部が未設する）
0508	皆瀬川上流部	2,400 2,400	〃	雄勝郡皆瀬村		国有林 国定公園	・チシマザサ－ブナ群団　・クロベ－キタゴヨウ群落　・ヒメヤシャブシ－タニウツギ群落　・シナノキンバイ－ミヤマキンポウゲ群団 ・高山低木群落
0509	赤川上流部	1,220 1,220	〃	雄勝郡皆瀬村		国有林 国定公園	・チシマザサ－ブナ群団　・クロベ－キタゴヨウ群落　・ヒメヤシャブシ－タニウツギ群落　・シナノキンバイ－ミヤマキンポウゲ群団　・ ・高山低木群落　・雪田草原
0601	大沢川上流部	1,520 1,520	山形県	飽海郡人形町 最上郡真室川町		大沢川源流部県自然環境保全地域	本地域の流口部分は堅い安山岩と第三紀層の典型的V字渓谷となっており、地域全体の自然度（9）を高めている。 植生はほとんどブナ－チシマザサ群落で山形県北部を代表するブナ林である。 ヤセ尾根にはキタゴヨウが出現し、沢岸の平坦地の安定した湿性地にはサワグルミ－ジュウモンジシダ群落でカツラ－トチノキ－サワグルミ型林相である。
0602	鍋山川上流部	1,290 615	〃	最上郡大蔵村	森林伐採（162,163林班）	——	
0603	西大鳥川上流部	2,400 2,175	〃	東田川郡朝日村	林道建設（300m）	——	本地域は花崗岩の基盤に新旧の第三紀層や古い安山岩、変成岩等が乗った複雑な地質構造である。高標高の頂部山北東斜面の急傾斜面の急傾斜地一帯はヒメヤシャブシ－タニウツギ群落であるが、残りの全域はミズナラを優先したブナ林であり、下流部はブナの純林である。

（※ No. の欄かけは、流域面積に変化あり）

（注）流域面積　上段：第3回　下段：第4回

No.※	原生流域名（地域名）	流域面積※	都道府県	市町村	改変状況	保全地域※他	植物等の概況
0604	東大島川上流域	ha 1,230 …… 1,230	山形県	東田川郡朝日村		鳥海朝日国立公園	完全な花崗岩地帯で地形険しく、笙六山、白岳日北の区域及び西俣沢上流域はミズナラ、カエデ類などの混生したブナーチシマザサ群落であり、笙六山、丸穴山、神原山、白岳を結ぶ稜線沿いは、ミヤマナラ、ハクサンシャクナゲなどの亜高山帯落葉低木群落である。又、白岳東斜面の急傾地はヒメヤシャブシータニウツギ群落である。
0605	銀子川上流域	1,710 …… 1,710	〃	西村山郡西川町		鳥海朝日国立公園	稜線高域に一部古い安山岩地帯があるが、ほぼ完全な花崗岩地帯で、下方はミズナラの混生したブナーチシマザサ群落で標高1,000~1,400m位の東向き急斜面はミヤマナラ、サラサドウダンの混生するヒメヤシャブシータニウツギ群落となる。1,400m以上はダケカンバ、コミネカエデ等の混生した亜高山帯落葉低木群落となり、主稜の稜線沿いは、ハイマツ、コケモモなどの雪田植物群落である。
0606	雲月上流域	2,080 …… 2,080	〃	西置賜郡小国町		鳥海朝日国立公園	本流域は完全な花崗岩地帯で、中流までのほとんどはミズナラ、コナラ等の混生するブナ帯であり、東南斜面中間の急傾地はサラサドウダン、ハンノキ等を混生したヒメヤシャブシータニウツギ群落である。大朝日岳を含む稜線いは、ヤハズハンノキ、ミネカエデ等の亜高山帯落葉低木群落であるが、稜線沿いはハイマツ、コケモモ、一部ミネカエデ等の混生したヌマガヤ、イワイチョウなどの雪田植物群落である。
0607	野月上流域	1,280 …… 1,280	〃	長井市		ヌルマタ沢野鳥保自然環境保全地域	本流域は完全な花崗岩地帯で、大部分はコナラ、ミズナラの混生したブナ帯であるが、平岩山~大玉山間を結ぶ稜線沿いはサラサドウダン、ミネカエデ等の混生した亜高山帯落葉低木群落である。斜面はほとんど殆いチシマザサの中に、ブナ、ダケカンバの林となっている。
0609	金目川上流域	2,760 …… 1,255	〃	西置賜郡小国町	林道建設	——	稜線下の急斜面あるいは沢に面した急傾地等のなだれ跡地は、マルバマンサクを混生したヒメヤシャブシータニウツギ群落が散在するが、その他の区域は、ミヤマナラ、ミネカエデ、ハクサンシャクナゲ等の混生したブナ帯である。
0610	関月上流域	1,700 …… 1,700	〃	西置賜郡小国町		——	本流域は高標高部が花崗岩、低域は第三紀の安山岩又は水成岩でできており、沢に近い急傾地及び大丸登山の東斜面の急傾斜地は風生のブナが混生する、ヒメヤシャブシータニウツギ群落であるが、その他の地区はユキツバキ、ハナヒリノキ、ホツツジ、ミネカエデ、ヤマグルマ等の混生するブナ帯で、高標高部にはチシマザサも少なくない。
0611	玉川（梅花皮沢）上流域	1,240 …… 1,240	〃	西置賜郡小国町		鳥海朝日国立公園	高標高部は花崗岩、低木は第三紀層が発達し、梅花皮沢の出合付近まではユキツバキ、ヒメアオキ、コナラ等の混生したブナ帯であり、それより標高1,400m位まではウラジロヨウラク、アズマシャクナゲ、ミヤマナラ等の混生したヒメヤシャブシータニウツギ群落となる。それより1,600m位まではダケカンバを主体とした亜高山帯落葉低木群落とササ原を主体としたチシマザサ自然群落となり、門内岳~烏帽子岳間を結ぶ稜線付近は部分的にハイマツ、ヤハズハンノキ等の雪田植生群落である。
0612	玉川（松山沢）上流域	1,860 …… 1,860	〃	西置賜郡小国町		鳥海朝日国立公園	標高700m位までの区間はユキツバキ、ヒメアオキ等の混生したブナ帯であり、標高1,400m位まではウラジロヨウラク、サラサドウダン、ミヤマナラ等の混生したヒメヤシャブシータニウツギ群落となる。1,700m位までは、ダケカンバを主体とした亜高山帯落葉低木群落とササ原を主体としたチシマザサ自然群落となり、烏帽子岳~飯豊山間を結ぶ主稜線いは部分的にハイマツ、ヤハズハンノキ、ハクサンシャクナゲ等をまじえた、ヌマガヤ、イワイチョウ、ハクサンコザクラ等の雪田植生群落である。

（注 No.の網かけは、流域面積に変化あり）

（注）流域面積 上段：第3回 下段：第4回

番号 No.	原生流域名（地域名）	※流域面積	都道府県	市町村	改変状況	※保全地域他	植物等の概況
0701	大佐沢上流部	ha 1,088 1,088	福島県	耶麻郡西会津町	本地域の南部低標高地に1992年8月、国道121号線が開通し、交通の便に供しているが、橋とトンネルの連絡であり、地上部は沢とその合流点付近の僅かであり、植生などへの影響は殆どなく、面積の変更は行わない。	県指定自然環境保全地域	大佐沢上流部の植生は、山腹部を除きブナ・ナシマザサを主とする原生林である。 なお開峰山頂南西部から飯森山、林状山を結ぶ尾根一帯はナラ類を主体とした低木林（多雪地帯被圧林の所謂偽笹土壌植生型）である。 本県北部日本海に面した多雪地帯には、垂直森林帯としての亜高山針葉樹林を欠いているのが普通であるが、まれにオオシラビソ・コメツガなど局地的に存在することがあり、青柳村荒などにみられるオオシラビソ（アオモリトドマツ）林はこの例とも考えられる。 また、植生上、吾像山～飯盛山のラインの最西端に位置する林でもある。 （※ 調査地域の下流に日中ダムが建設されたが、直接の影響はない）
0702	湯沢岡上流部	1,725 1,725	〃	大沼郡金山町		——	湯沢岡の集水区域をなす本地域は、燈々森山～荒河前嶺山～高幕山～高座真山～旭富山～かたいた台山～吉三坂山を結ぶ、標高900m～1,300mの山々に囲まれた南向急傾斜地で、ブナを主とする林相となっている。 植被は、キタゴヨウマツ・クロベの混じった岩角地典型林と谷壁には日本海島嶼特有のチョウジギク・オニシオガマ・ミヤマアブラススキなどがあり、渓谷はV字型である。
0703	白戸岡上流部	3,375 3,375	〃	南会津郡只見町		越後三山只見国定公園	自然度の高い白戸岡は、丸山岳（1,819m）会津朝日岳（1,624m）から発し、北流し銀子倉瀬に流入している。 これら山稜地は標高も高く、植物分布は亜高山帯に達しているがアオモリトドマツを欠き、針葉樹としてはキタゴヨウマツ・コメツガ・クロベがあるだけであり、また広葉樹はブナを主とする所謂ブナ帯の植生をなしている。 なお、会津朝日岳には、特に急峻な露出岩地があり、亜高山～高山性植物が生じていると共に眺望が素く、冬季の厳しい寒風から保護されているため固生植物相もある。
0704	黒谷岡上流部	2,356 2,356	〃	南会津郡只見町		越後三山只見国定公園	荒天岳～高幕山～平入山～銀子山の山稜を結ぶ標高 1,600m～1,700m自然の山々に囲まれた黒谷岡上流部は、気候的極相と見られるブナ林が主である。 即ち、河岸林としてサワグルミ、河岸斜面にはトチ・カツラの大径木も散見されると共にミズナラを混えたブナ林を上林とし、ナシマザサを林床とする日本海型の植物相を形成している。
0705	油沢上流部	2,081 2,081	〃	南会津郡檜枝岐村		越後三山只見国定公園	油沢流域には、駒ヶ岳、三岩岳など標高 2,000mを越す山がある。 冬季は季節風が激しく積雪も多いため、東北亜高山帯を構成するオオシラビソ（アオモリトドマツ）林は、駒ヶ岳あたりに見られるだけである。 積雪の浅いところでは植林の生育が妨げられ、草原となり、池塘が生じ、湿原植生お相となり、夏季融雪時に高山性植物が一斉に花を開く。 油沢はV字谷をなし階段多雪地はミズナラの植林であるが、岡の合流点で尾根上のあるところには河辺林が生育するなど多様の植生がある奥只見の代表的森林地域である。 （※ 調査区域直外地域に小規模ダムが構築されているが影響はない）
0901	矢沢岡	1,076 1,076	栃木県	黒磯市		——	海抜800m以下では、主な植生は、日当り50m程度のミズナラやブナであるが、植園にカエデ等が混入している。 海抜800～900mより高所で沢の南側の斜面にはアスナロの極相林がある。 海抜1,000mより高所の沢の北側斜面の一部にはヤマグルマの群生地があり、沢にはフサザクラやサワグルミが多い。
0903	温沢	1,160 1,160	〃	塩谷郡塩山村		日光国立公園	海抜1,500m噴泉塔の周辺までブナが多く、ミズナラもある。 またカエデの植被が豊富で、紅葉のすばらしい地域である。 1,500mより高所は、アスナロやクロベに移る。 1,900mより高所になると、コメツガやオオシラビソ林になる。
0904	塩原岡上流部	1,001 1,001	〃	塩谷郡塩山村		日光国立公園	海抜1,600m周辺までは、ブナやミズナラが多い。 1,600mより高所になるとクロベ、アスナロ、コメツガの極相林に変わる。 海抜1,900mより高所には、オオシラビソの純林をつくり、鬼怒沼には極小林である矮小なクロベ林となる。 この地域の針葉樹林は県内では大規模な原生林である。 鬼怒沼は本岡最高度にある高層湿原で、貴重な植物が多い。

（注）流域面積 上段：第3回　下段：第4回

No.	原生流域名（地域名）	※流域面積	都道府県	市町村	改変状況	※保全地域他	植物等の概況
1001	利根川上流部	ha 3,653 3,653	群馬県	利根郡水上町		利根川源流部自然環境保全地域 平ヶ岳・白沢沢山西面 県自然環境保全地域	標高の最も高くに位置し、寒雪、積雪などの影響を受け植生は、完全な裏日本多雪地帯の性格をもちミヤマナラ林が分布している。 ミヤマナラ林より上方は、ヌマガヤ草原、高山風衝草原、雪田草原が形成されている。
1002	赤谷口沢上流部	1,650 1,650	〃	利根郡水上町		——	本地域の低部は、ブナ林（オオバクロモジ－ブナ群集）がほとんどを占め、上部は雪崩地植生（ミヤマナラ群集、マルバマンサク－ブナ群集）となり、これは裏日本多雪地帯の特徴的なもので、最上部は岩壁及び岩石崩壊地植生となっている。
1003	金良沢上流部	2,996 2,996	〃	利根郡水上町		——	この地域は三国山脈の一部をなし、冬季に日本海からの北西の風を受ける多雪地帯である。 標高1，600mまでは、ブナ林であり、オオバクロモジ－ブナ群集となっている。 三ッ石山の東南斜面は、ミヤマナラ林が広く分布している。
1004	コツナギ沢上流部	1,375 1,375	〃	利根郡水上町		——	巻機山から小沢岳にかけての群馬県側の山地の低山帯域には、ブナ林が広く分布する。 それは、裏日本型低標高の多雪地帯のオオバクロモジ－ブナ群集で低木層にオオバクロモジ、エゾユスリハ、チシマザサ、草本層にイワウチワ、オオイワカガミなどが多い。
1501	山菅田上流部	1,300 1,300	新潟県	岩船郡山北町		——	ブナクラス域の自然植生で占められ、緩傾斜地にはチシマザサ－ブナ群団が、急傾斜地には自然低木群落が成立する。 ブナ林は、原生林に近い状態を維持している。
1502	荒又川上流部	2,650 2,650	〃	岩船郡朝日村		朝日鳥海国立公園 （第3種特別地域）	ブナクラス域の植生が分布し、チシマザサ－ブナ群団と自然低木群落が広範囲に分布し、原生に近い状態を維持している。 北部の稜線部には、亜高山帯低木林と雪田草原が狭い範囲に成立する。
1503	大沢川上流部	1,750 1,750	〃	岩船郡朝日村		朝日鳥海国立公園 （第1種特別地域）	区域の大部分はブナクラス域の植生で占められ、地形が急峻なため、自然低木群落が最も広く分布し、比較的緩やかな斜面にブナ林が発達し、稜線にはキタゴヨウが点在する。 区域奥地の海抜約1，300m以上は、亜高山帯の低木林等が成立する。
1504	岩井沢上流部	1,100 1,100	〃	岩船郡朝日村		——	ブナクラス域の自然植生で、チシマザサ－ブナ群団及び自然低木群落が分布しており、急峻な稜線の上部にはキタゴヨウが列生する。

（注）表頭面積　上段：第3回　下段：第4回

No.	原生流域名（地域名）	※流域面積	都道府県	市町村	改変状況	※保全地域他	植物等の概況
1505	早出川流域	ha 4,350 4,350	新潟県	東蒲原郡上川村 中蒲原郡村松町		奥早出里守門県立自然公園（普通地域）	ブナクラス域の自然植生が成立し、地形が急で雪崩等も多く、自然低木林が最も広い区域を占め、やや緩い斜面にチシマザサ－ブナ群団が分布する。そして、尾根にはキタゴヨウなどが点在する。また急峻な露岩地などの自然裸地が多い。
1506	笠堀川上流部	1,900 1,900	〃	南蒲原郡下田村		奥早出里守門県立自然公園（普通地域）	ブナクラス域の自然植生が成立し、地形が急で雪崩等も多く、自然低木林が最も広い区域を占め、やや緩い斜面にチシマザサ－ブナ群団が分布する。そして、尾根にはキタゴヨウなどが点在する。また急峻な露岩地などの自然裸地が多い。
1507	大川上流部	2,200 2,200	〃	南蒲原郡下田村		奥早出里守門県立自然公園（普通地域）	ブナクラス域の自然植生が成立し、地形が急で雪崩等も多く、自然低木林が最も広い区域を占め、やや緩い斜面にチシマザサ－ブナ群団が分布する。そして、尾根にはキタゴヨウなどが点在する。また急峻な露岩地などの自然裸地が多い。
1508	栃沢上流部	1,500 1,500	〃	南蒲原郡下田村		奥早出里守門県立自然公園（普通地域）	ブナクラス域の自然植生が成立し、地形が急で雪崩等も多く、自然低木林が最も広い区域を占め、やや緩い斜面にチシマザサ－ブナ群団が分布する。そして、尾根にはキタゴヨウなどが点在する。また急峻な露岩地などの自然裸地が多い。
1509	大白川上流部	2,950 2,950	〃	北魚沼郡湯之谷村		越後三山只見国定公園（特別保護区）（第1種特別地域）（第2種特別地域）	海抜約1,500m以下はブナクラス域で、チシマザサ－ブナ群団が広く分布し、急斜面には自然低木群落が成立し、また尾根にはキタゴヨウ、クロベが、そして沢筋にはトチノキなどが見られる。これら群落の上方には、亜高山帯のオオシラビソ群集が広範囲に成立し、コメツガ群落が現じる。稜線に近いやや平坦地などには、高層湿原が散在する。
1601	黒薙川上流部	2,550 2,550	富山県	下新川郡朝日町 下新川郡宇奈月町		朝日県立自然公園 中部山岳国立公園	標高1,400~1,500mより下の地域では、ブナを中心とした原生林が発達している。それより標高の高い地域では、ミヤマハンノキ－ダケカンバ群団の植生からなり、新潟県との県境付近の稜線部は、国の天然記念物に指定されている。白馬連山高山植物帯である。
1602	猿倉川上流部	2,891 2,891	〃	下新川郡宇奈月町		中部山岳国立公園	標高1,500~1,600mより下の地域では、ブナを中心とした原生林が発達しており、尾根筋にアカミノイヌツゲ－クロベ群集が点在している。それより標高の高い地域では、ミドリユキザサ－ダケカンバ群団、ヒメキシャブシ－タニウツギ群落の植生からなり、稜線部では、オオシラビソ群集、ウラジロガシ－ミヤマナラ群団が発達している。
1701	金谷川上流部流域	1,800 1,800	石川県	金沢市		犀川源流自然環境保全地域（一部）	ブナ林を主体とし、一部ブナ－ミズナラ林。山地高茎草原を含む。また尾根部にクロベ－ヒメコマツ林、山頂付近にダケカンバ林もみられる。動物相も豊かで、極めて少数の登山利用がみられるにすぎない。

（注）流域面積　上段：第3回　下段：第4回

※No.	原生流域名（地域名）	※流域面積	都道府県	市町村	改変状況	※保全地域他	植物等の概況
1702	犀川上流部	ha 1,043 …… 1,043	石川県	金沢市		犀川源流自然環境保全地域（一部）	ブナ林を主体とし、一部、ブナ－ミズナラ林、山地高茎草原、クロベ－ヒメコマツ林、ダケカンバ林を含む。本良谷山周辺等にはオオシラビソもみられる。動物相も豊かで、極めて少数の登山利用がみられるにすぎないが、イワナ釣りに入る人は比較的多い。
1704	梯川上流部	1,254 …… 1,254	〃	石川郡吉野谷村		白山国立公園（全域） （特別保護地区） （第3種特別地域）	ブナ帯から亜高山帯にあたり、ブナ林、ダケカンバ林を主体とし、オオシラビソ林、山地高茎草原等を混じえる。動物相も豊かで、原始性の高い地域である。
1705	中ノ川上流部	1,622 …… 1,622	〃	石川郡尾口村		白山国立公園（全域） （特別保護地区）	亜高山帯から高山帯にあたり、ダケカンバ－オオシラビソ林、ダケカンバ林、ミヤマハンノキ低木林、高山高茎草原、ハイマツ林等からなる。また、源流域一帯に地獄谷と呼ばれる環境の苛しい自然裸地を含む。
1705	目附谷上流部	2,220 …… 1,320	〃	石川郡尾口村	コエ谷合流点の約300m下流に、北陸電力尾添発電所の取水堰堤が設置（昭和58年度）されたことにより、900haの減少となった。	白山国立公園（全域） （特別保護地区） （第1種特別地域） （第3種特別地域）	ブナ帯から亜高山帯、高山帯にわたり、ブナ林、ダケカンバ林、オオシラビソ林、高山高茎草原、ハイマツ林等からなる。
2001	浅沢	1,470 …… 1,470	長野県	下水内郡栄村		上信越高原国立公園	シラビソ－オオシラビソ群集、コメツガ群集、ミヤマハンノキ－ダケカンバ群集、マルバマンサク－ブナ群集等が分布している。
2002	伊奈川上流	1,320 …… 1,320	〃	本曽郡大桑村		中央アルプス県立公園	コケモモ－ハイマツ群団、シラビソ－オオシラビソ群集、コメツガ群落、ヒノキ－サワラ群集、ミヤマハンノキ－ダケカンバ群集等が分布している。
2003	三峰川上流	2,900 …… 2,900	〃	上伊那郡長谷村		南アルプス国立公園	ミネズオウ－クロマメノキ群集、コケモモ－ハイマツ群団、シラビソ－オオシラビソ群集、コメツガ群落、ミヤマハンノキ－ダケカンバ群集等が分布する。
2101	荒谷上流部	1,114 …… 1,114	岐阜県	大野郡白川村		白山国立公園	本地域の大半は、ブナ、ミズナラ等、落葉広葉樹の林相の良いすぐれた天然林でしめられている。

（※ No.の振かせ、流域面積に変化あり）

（注）流域面積 上段：第3回 下段：第4回

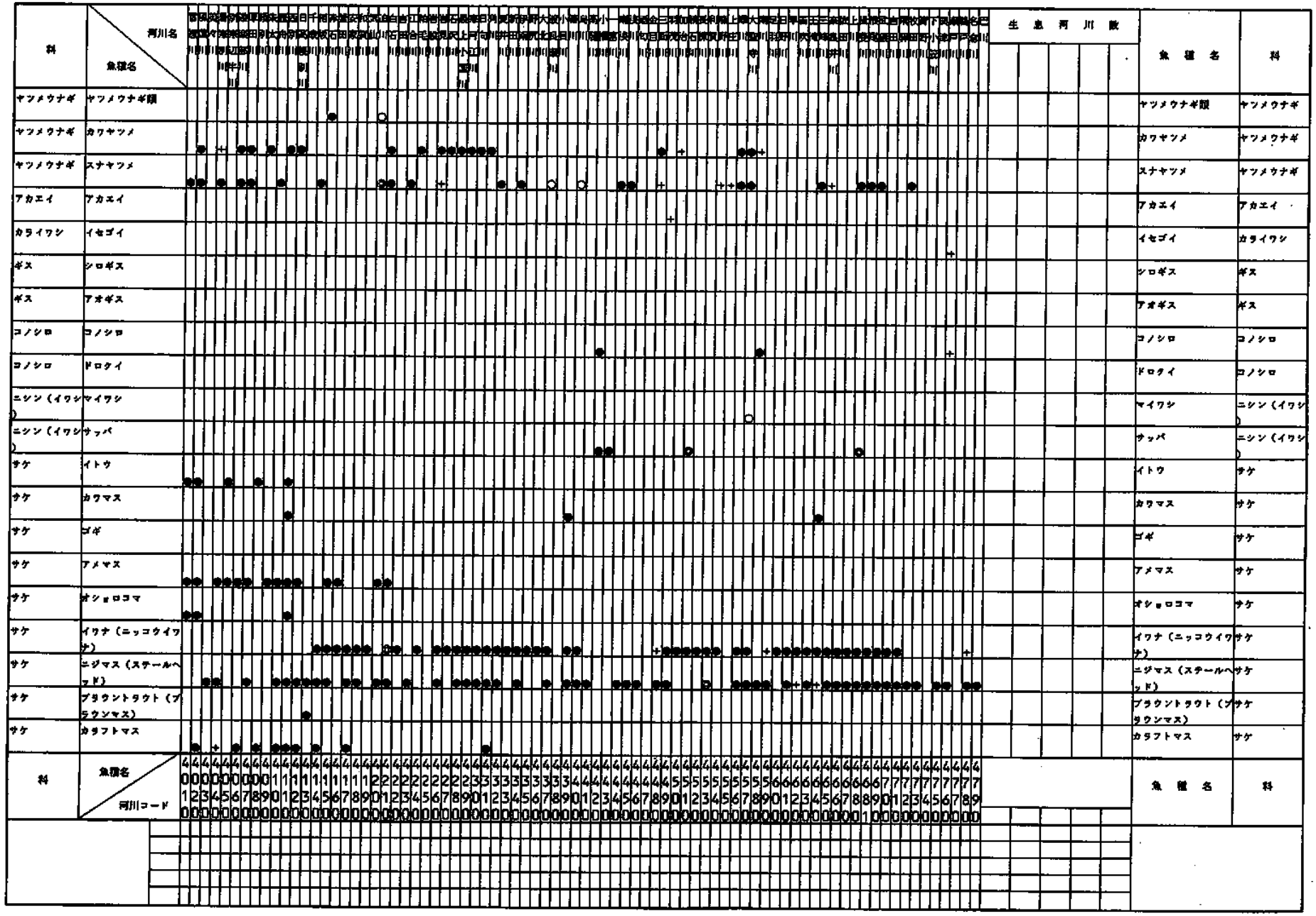
表No.	原生流域名（地域名）	※流域面積	都道府県	市町村	改変状況	保全地域	植物等の概況
2102	坂取川上流部	ha 1,207 …… 1,207	岐阜県	大野郡坂取村		——	本地域は尾根筋にヒノキが、その下部には、ブナが、主体となる植生であり、南部には、コウヤマキの群落がみられ、いずれも林相の良いすぐれた天然林となっている。
2103	前受川上流部	1,183 …… 1,183	〃	前受郡御坂村		前受県立自然公園	ブナ、ミズナラを主体とする林相の良いすぐれた天然林となっている。
2201	寸又川上流部	1,227 …… 1,227	静岡県	榛原郡本川根町		大井川源流部原生自然環境保全地域（1114ha）	標高1，700m付近までの区域は特徴特有の植生分布を示し、沢筋から山腹にかけてはブナ、ミズナラ、サワグルミ、シオジ、カエデ類等の落葉広葉樹林が見られる。 標高1，700m付近から上部は、亜寒帯の植生を示し、コメツガを主体にウラジロモミ、トウヒ等の針葉樹が見られる。 さらに尾根部にかけては、シラベ、アオモリトドマツが多くなり、最上部にはハイマツ群落の前間である高山草や石灰岩地特有の植生も含んでいる。 （注 左の保全地域を含んで、林野庁により「南アルプス南部光岳生態系保護地域」が指定されている/4566ha）
4601	永浦子湾上流部	930 …… 930	鹿児島県	熊毛郡屋久島町		屋久島大自然公園 屋久島国の自然環境保全地域	前項と同じ （注 屋久島森林生態系保護地域保全地区に指定されており、今後手の加わる予定はない）
4602	永田川上流部	1,345 …… 1,345	〃	熊毛郡上屋久町		屋久島国立公園	前回と同じ （注 屋久島森林生態系保護地域保存地区に指定されており、今後手の加わる予定はない）
4701	浦内川上流部	3,980 …… 3,980	沖縄県	八重山郡竹富町		西表国立公園（特別地域） 国設西表鳥獣保護区 （特別保護地区） （森林生態系保護地域）	
4702	仲間川	—— …… 1346.9	沖縄県	八重山郡竹富町	イノシシ猟以外では人はほとんど立ち入っておらず、アキカンやゴミもまったく見られない。	西表国立公園 （特別地域） （森林生態系保護地域） 仲間川天然保護区域	人為的改変の跡はほとんど見られず、自然林が繁茂している。 水辺にはヒカゲヘゴが多く分布する。 周氏は大型の転石が見られ、エゴイ、ヨシノボリ、テナガエビ等の生息が認められた。

（注 全体面積は、元々原生流域の要件を満たしていないもの）

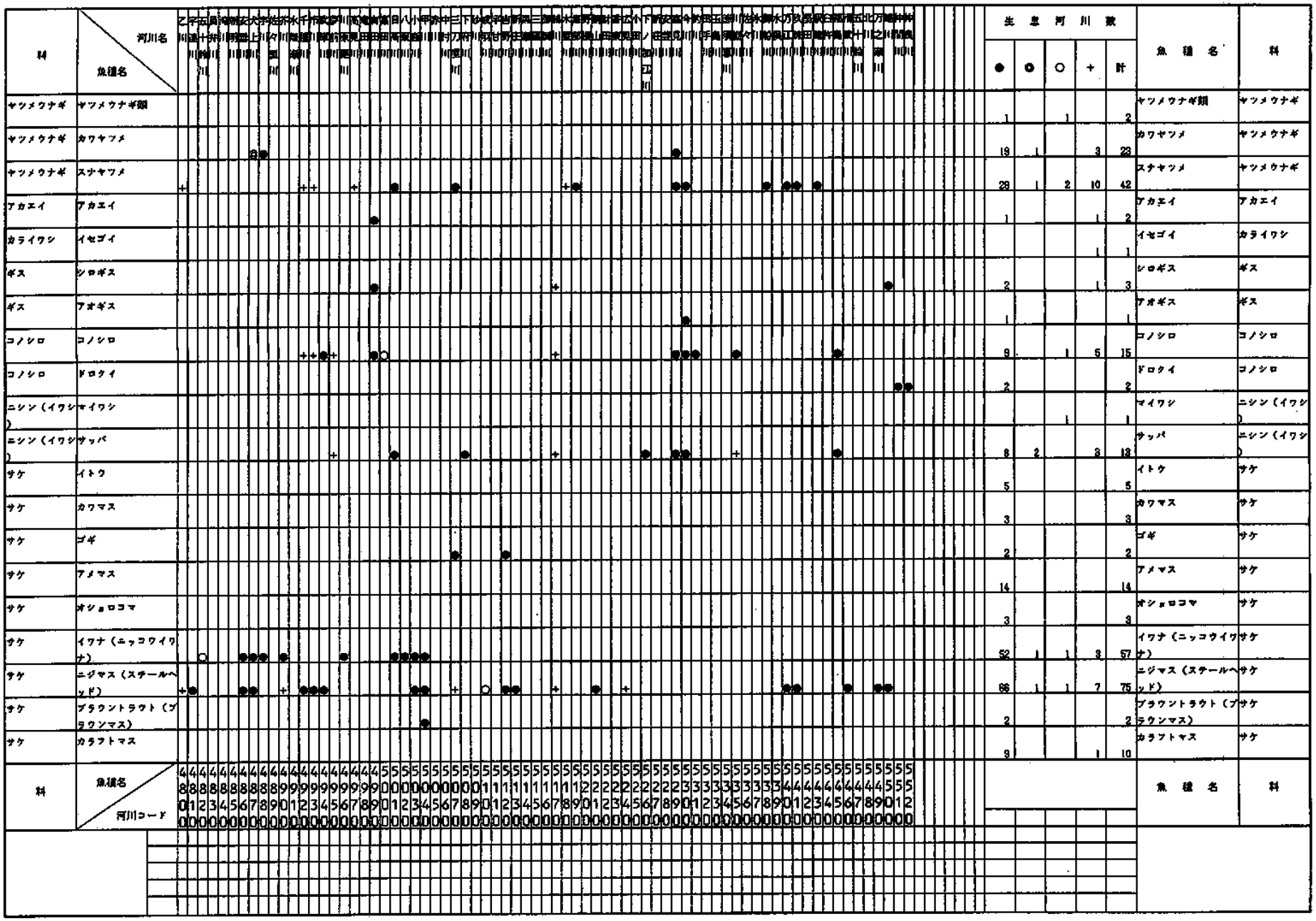
（注）流域面積 上段：第3回　下段：第4回

河川の魚類相

●確認および放流
◎確認（捕獲試験による）
○確認（聞き取り，聞き取り＋資料による）
＋記録



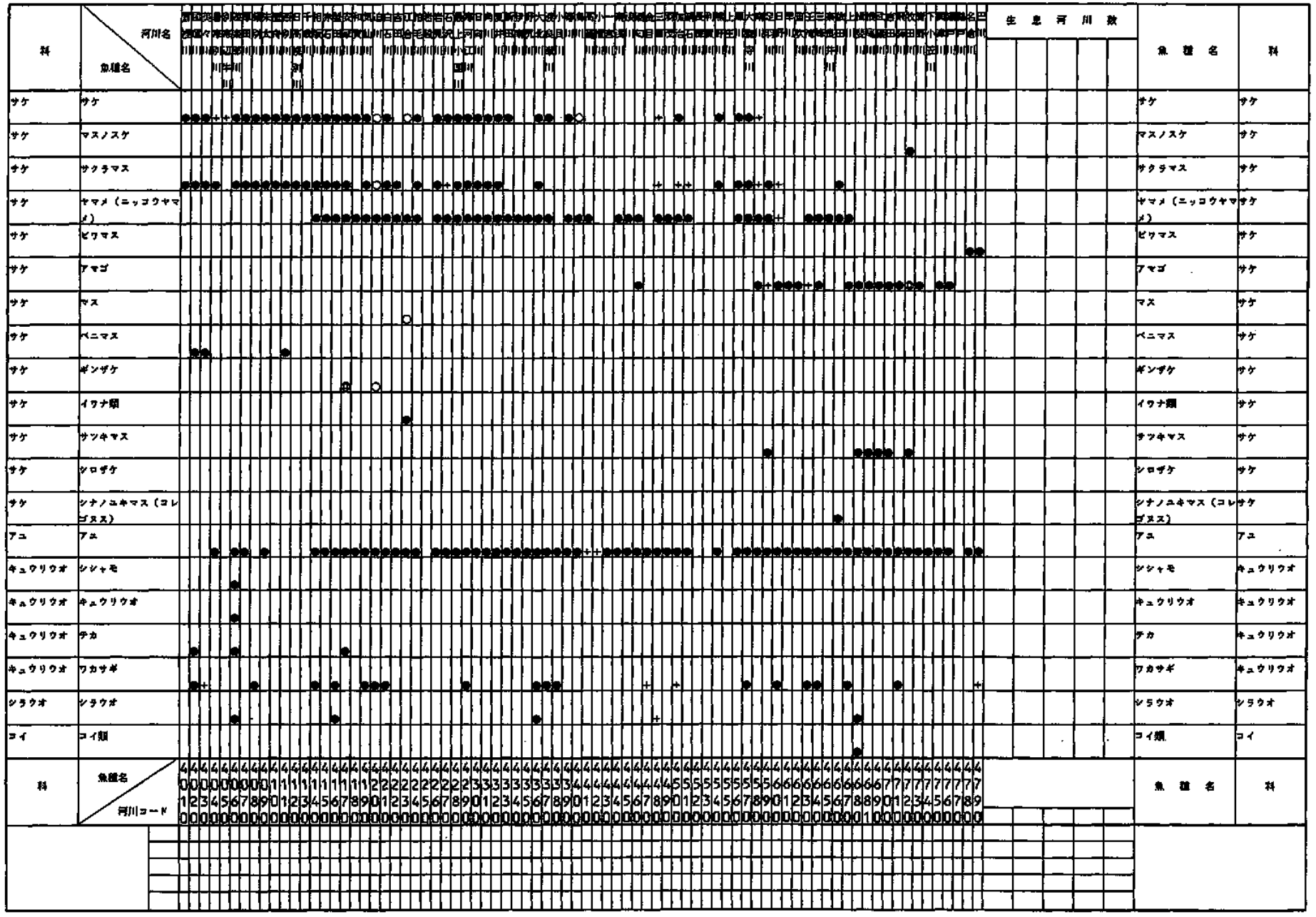
●確認および放流
◎確認（追跡試験による）
○確認（聞き取り，聞き取り＋資料による）
＋記録



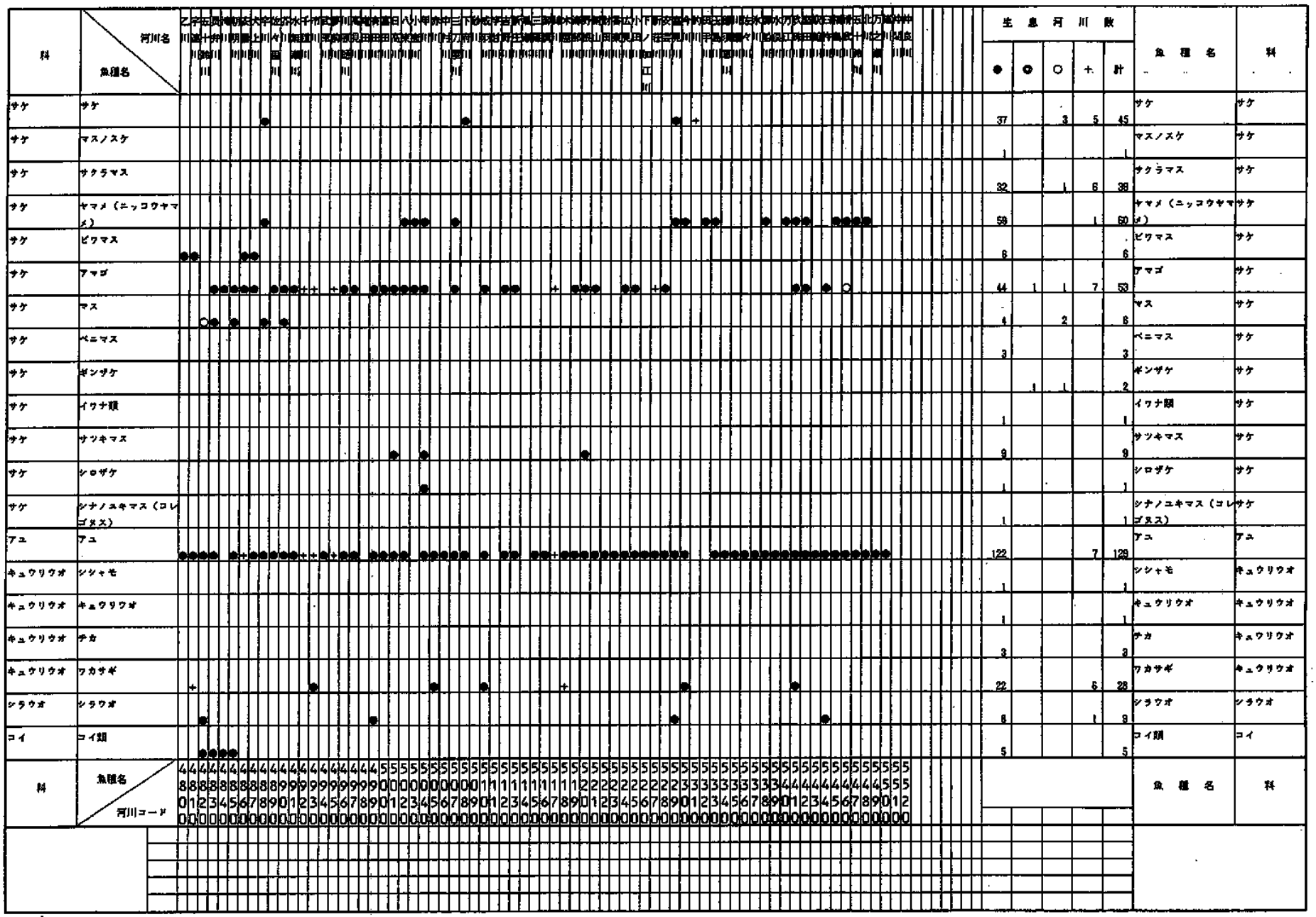
科	魚種名 ＼ 河川名	生息河川数					魚種名	科
		●	◎	○	＋	計		
ヤツメウナギ	ヤツメウナギ類	1		1		2	ヤツメウナギ類	ヤツメウナギ
ヤツメウナギ	カワヤツメ	19	1		3	23	カワヤツメ	ヤツメウナギ
ヤツメウナギ	スナヤツメ	28	1	2	10	42	スナヤツメ	ヤツメウナギ
アカエイ	アカエイ	1			1	2	アカエイ	アカエイ
カライワシ	イセゴイ				1	1	イセゴイ	カライワシ
ギス	シロギス	2			1	3	シロギス	ギス
ギス	アオギス	1				1	アオギス	ギス
コノシロ	コノシロ	9		1	5	15	コノシロ	コノシロ
コノシロ	ドロクイ	2				2	ドロクイ	コノシロ
ニシン（イワシ）	マイワシ			1		1	マイワシ	ニシン（イワシ）
ニシン（イワシ）	サッパ	8	2		3	13	サッパ	ニシン（イワシ）
サケ	イトウ	5				5	イトウ	サケ
サケ	カワマス	3				3	カワマス	サケ
サケ	ゴギ	2				2	ゴギ	サケ
サケ	アメマス	14				14	アメマス	サケ
サケ	オショロコマ	3				3	オショロコマ	サケ
サケ	イワナ（ニッコウイワナ）	52	1	1	3	57	イワナ（ニッコウイワナ）	サケ
サケ	ニジマス（スチールヘッド）	66	1	1	7	75	ニジマス（スチールヘッド）	サケ
サケ	ブラウントラウト（ブラウンマス）	2				2	ブラウントラウト（ブラウンマス）	サケ
サケ	カラフトマス	9			1	10	カラフトマス	サケ

科	魚種名 ＼ 河川コード	魚種名	科
	4488012 4488023 4488034 4488045 4488056 4488067 4488078 4488089 4489090 4489101 4489112 4489123 4489134 4489145 4489156 4489167 4489178 4489189 4489190 4489201 4489212 4489223 4489234 4489245 4489256 4489267 4489278 4489289 4489290 4489301 4489312 4489323 4489334 4489345 4489356 4489367 4489378 4489389 4489390 4489401 4489412 4489423 4489434 4489445 4489456 4489467 4489478 4489489

●確認および放流
◎確認（追跡試験による）
○確認（聞き取り，聞き取り＋資料による）
＋記録

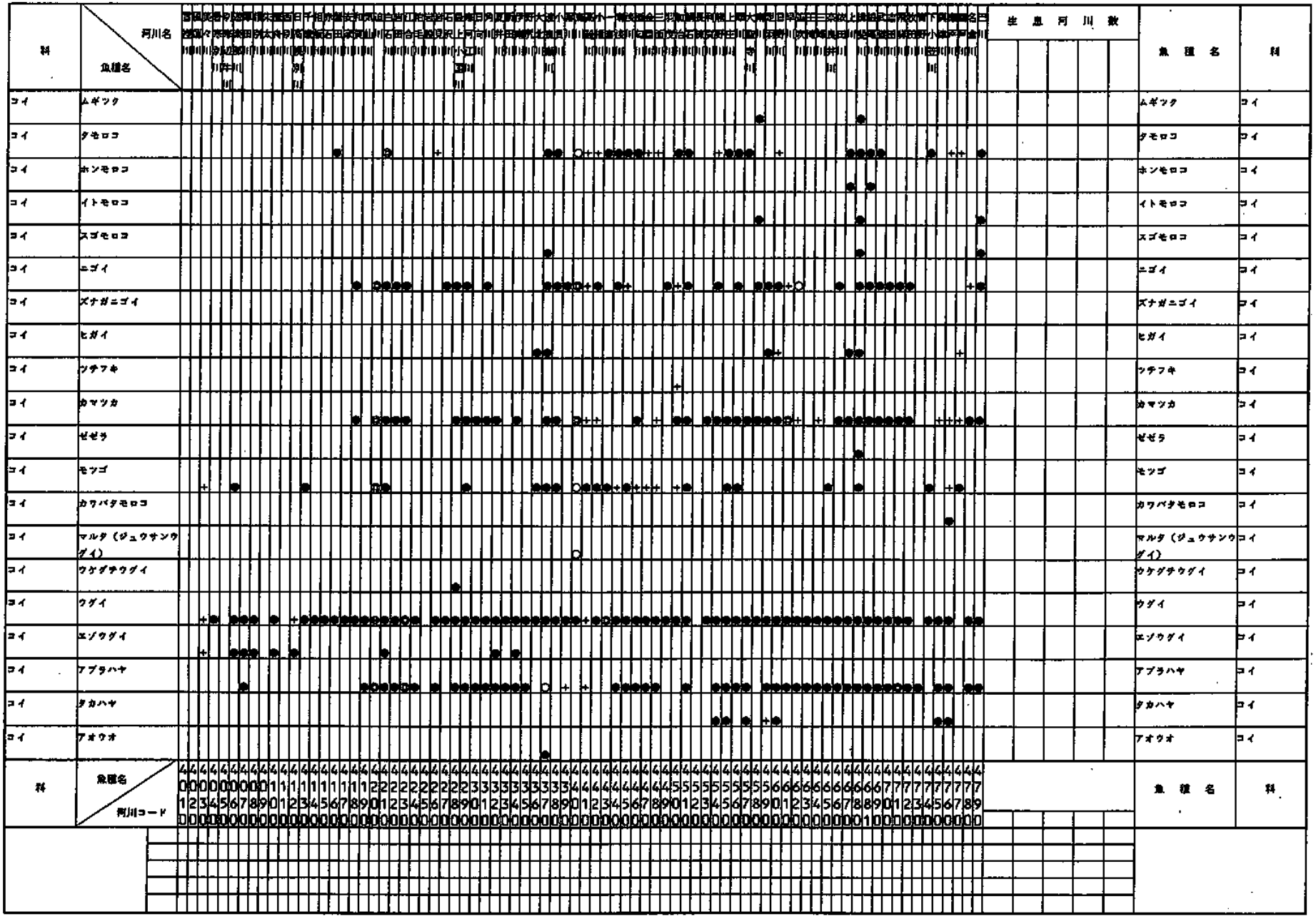


●確認および放流
◉確認（魚捕試験による）
○確認（聞き取り，聞き取り＋資料による）
＋記録

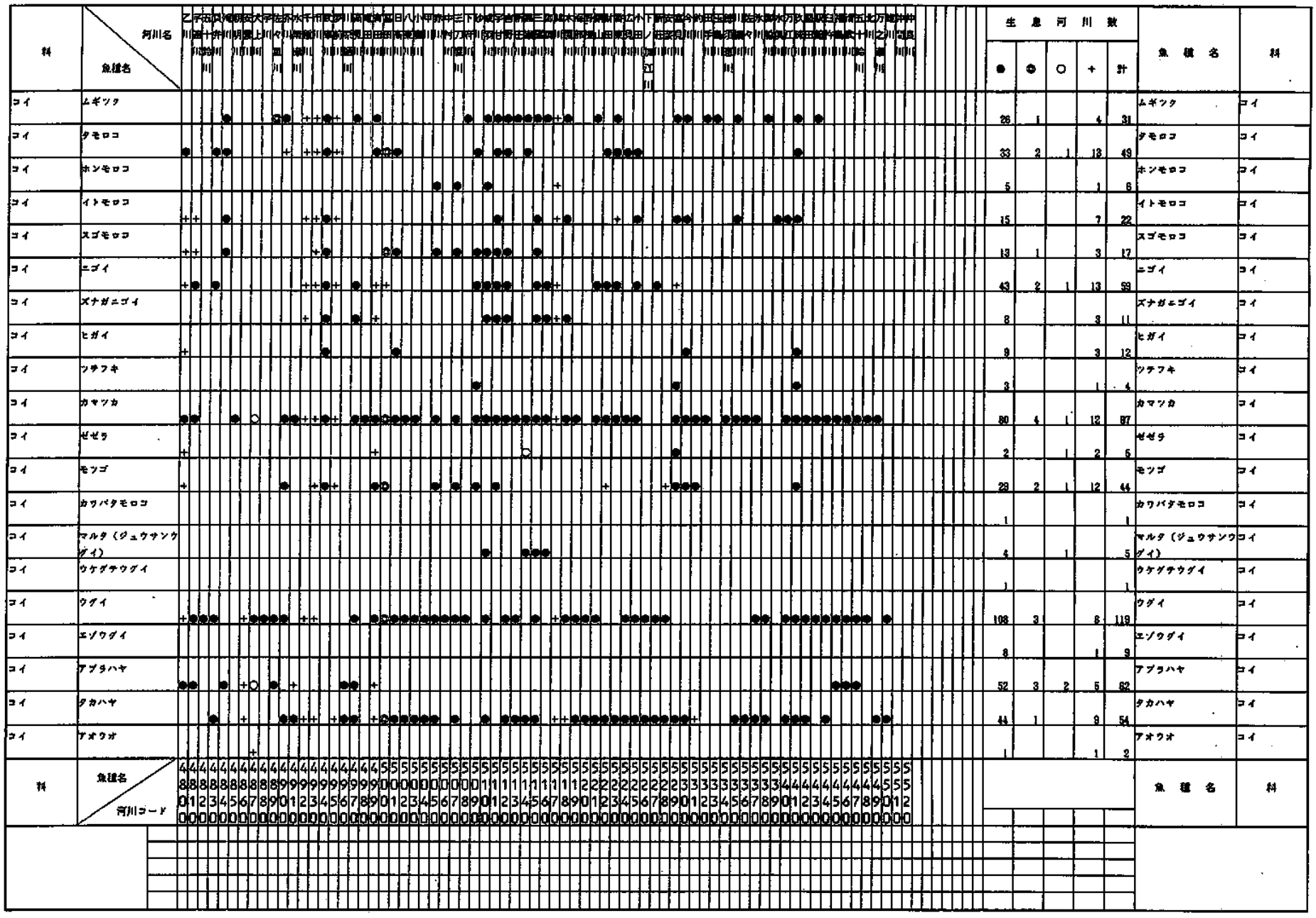


科	魚種名 ＼ 河川名	生息河川数 ●	◉	○	＋	計	魚種名	科
サケ	サケ	37		3	5	45	サケ	サケ
サケ	マスノスケ	1				1	マスノスケ	サケ
サケ	サクラマス	32		1	6	39	サクラマス	サケ
サケ	ヤマメ（ニッコウヤマメ）	59			1	60	ヤマメ（ニッコウヤマメ）	サケ
サケ	ビワマス	6				6	ビワマス	サケ
サケ	アマゴ	44	1	1	7	53	アマゴ	サケ
サケ	マス	4		2		6	マス	サケ
サケ	ベニマス	3				3	ベニマス	サケ
サケ	ギンザケ		1	1		2	ギンザケ	サケ
サケ	イワナ類	1				1	イワナ類	サケ
サケ	サツキマス	9				9	サツキマス	サケ
サケ	シロザケ	1				1	シロザケ	サケ
サケ	シナノユキマス（コレゴヌス）	1				1	シナノユキマス（コレゴヌス）	サケ
アユ	アユ	122			7	129	アユ	アユ
キュウリウオ	シシャモ	1				1	シシャモ	キュウリウオ
キュウリウオ	キュウリウオ	1				1	キュウリウオ	キュウリウオ
キュウリウオ	チカ	3				3	チカ	キュウリウオ
キュウリウオ	ワカサギ	22			6	28	ワカサギ	キュウリウオ
シラウオ	シラウオ	6			1	9	シラウオ	シラウオ
コイ	コイ類	5				5	コイ類	コイ
科	魚種名 ＼ 河川コード						魚種名	科

●確認および放流
●確認（追跡試験による）
○確認（聞き取り，話し取り＋資料による）
＋記録

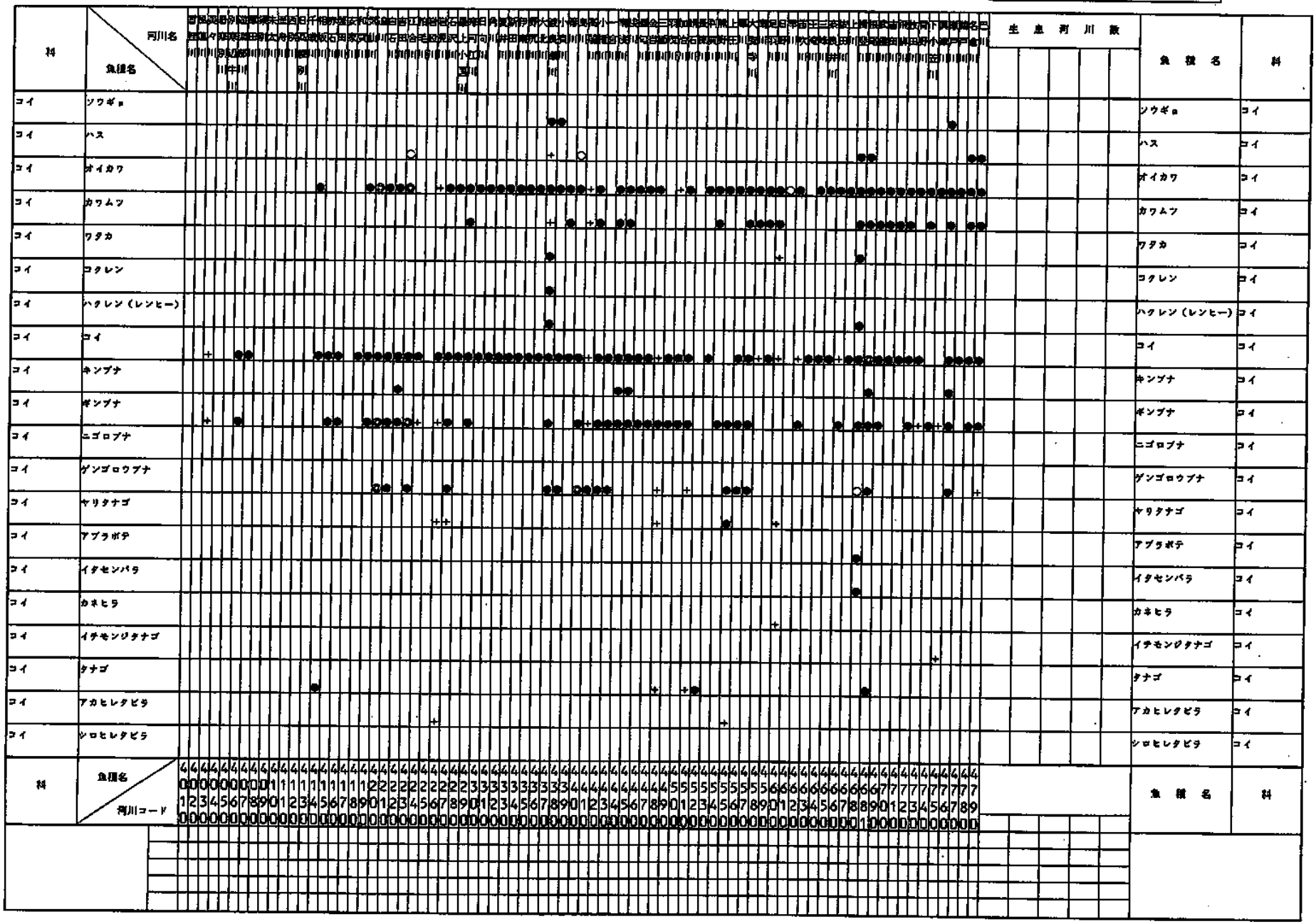


●確認および放流
◎確認（遡上試験による）
○確認（聞き取り，聞き取り＋資料による）
＋記録

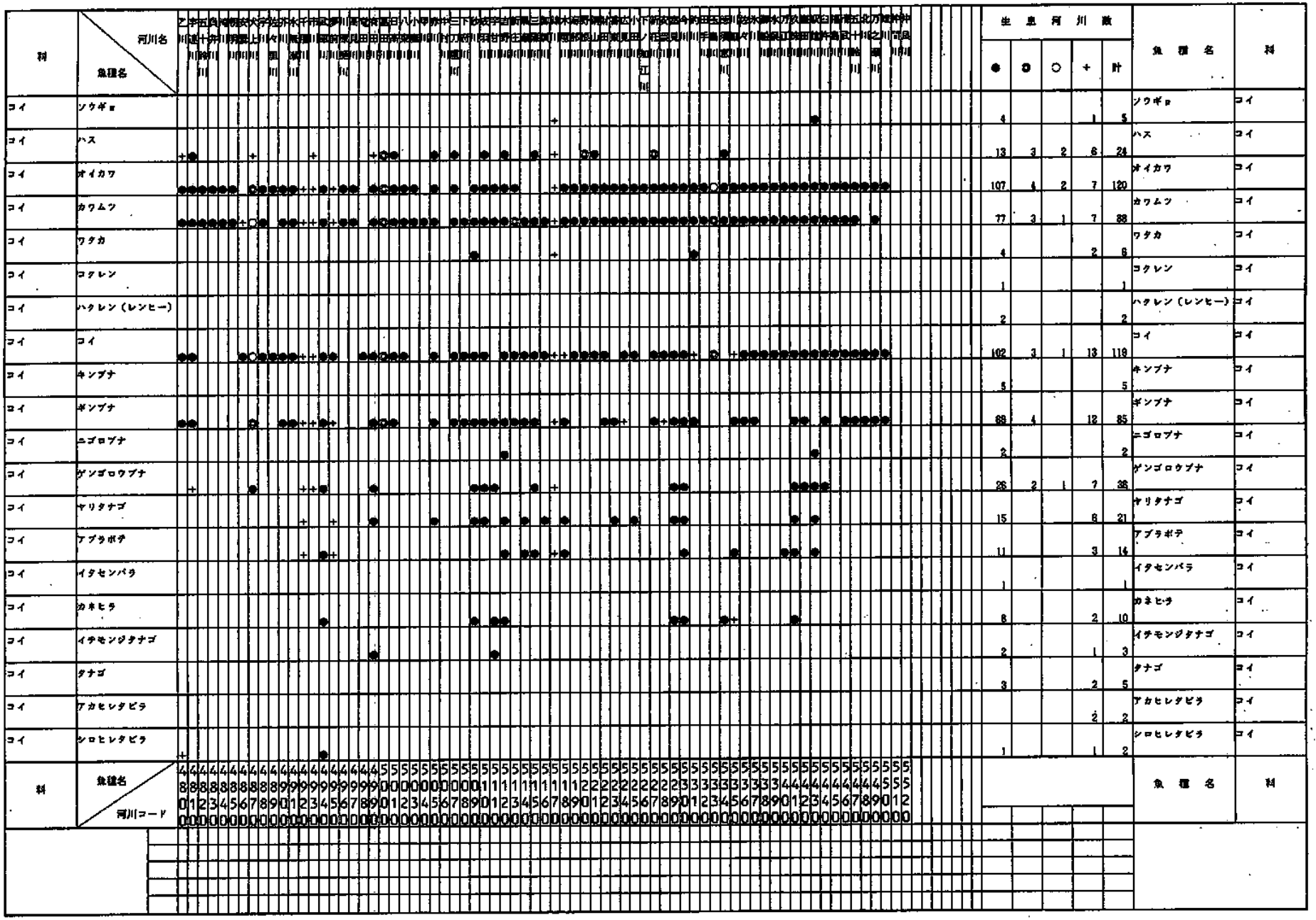


科	魚種名＼河川名	生息河川数 ●	◎	○	＋	計	魚種名	科
コイ	ムギツク	26	1		4	31	ムギツク	コイ
コイ	タモロコ	33	2	1	13	49	タモロコ	コイ
コイ	ホンモロコ	5			1	6	ホンモロコ	コイ
コイ	イトモロコ	15			7	22	イトモロコ	コイ
コイ	スゴモロコ	13	1		3	17	スゴモロコ	コイ
コイ	ニゴイ	43	2	1	13	59	ニゴイ	コイ
コイ	ズナガニゴイ	8			3	11	ズナガニゴイ	コイ
コイ	ヒガイ	9			3	12	ヒガイ	コイ
コイ	ツチフキ	3			1	4	ツチフキ	コイ
コイ	カマツカ	80	4	1	12	97	カマツカ	コイ
コイ	ゼゼラ	2		1	2	5	ゼゼラ	コイ
コイ	モツゴ	28	2	1	12	44	モツゴ	コイ
コイ	カワバタモロコ	1				1	カワバタモロコ	コイ
コイ	マルタ（ジュウサンウグイ）	4		1		5	マルタ（ジュウサンウグイ）	コイ
コイ	ウケグチウグイ	1				1	ウケグチウグイ	コイ
コイ	ウグイ	108	3		8	119	ウグイ	コイ
コイ	エゾウグイ	8			1	9	エゾウグイ	コイ
コイ	アブラハヤ	52	3	2	5	62	アブラハヤ	コイ
コイ	タカハヤ	44	1		9	54	タカハヤ	コイ
コイ	アオウオ	1			1	2	アオウオ	コイ
科	魚種名＼河川コード						魚種名	科

●確認および放流
◎確認（追跡調査による）
○確認（聞き取り，聞き取り＋資料による）
＋記録



●確認および放流
◎確認（追跡試験による）
○確認（聞き取り，聞き取り＋資料による）
＋記録

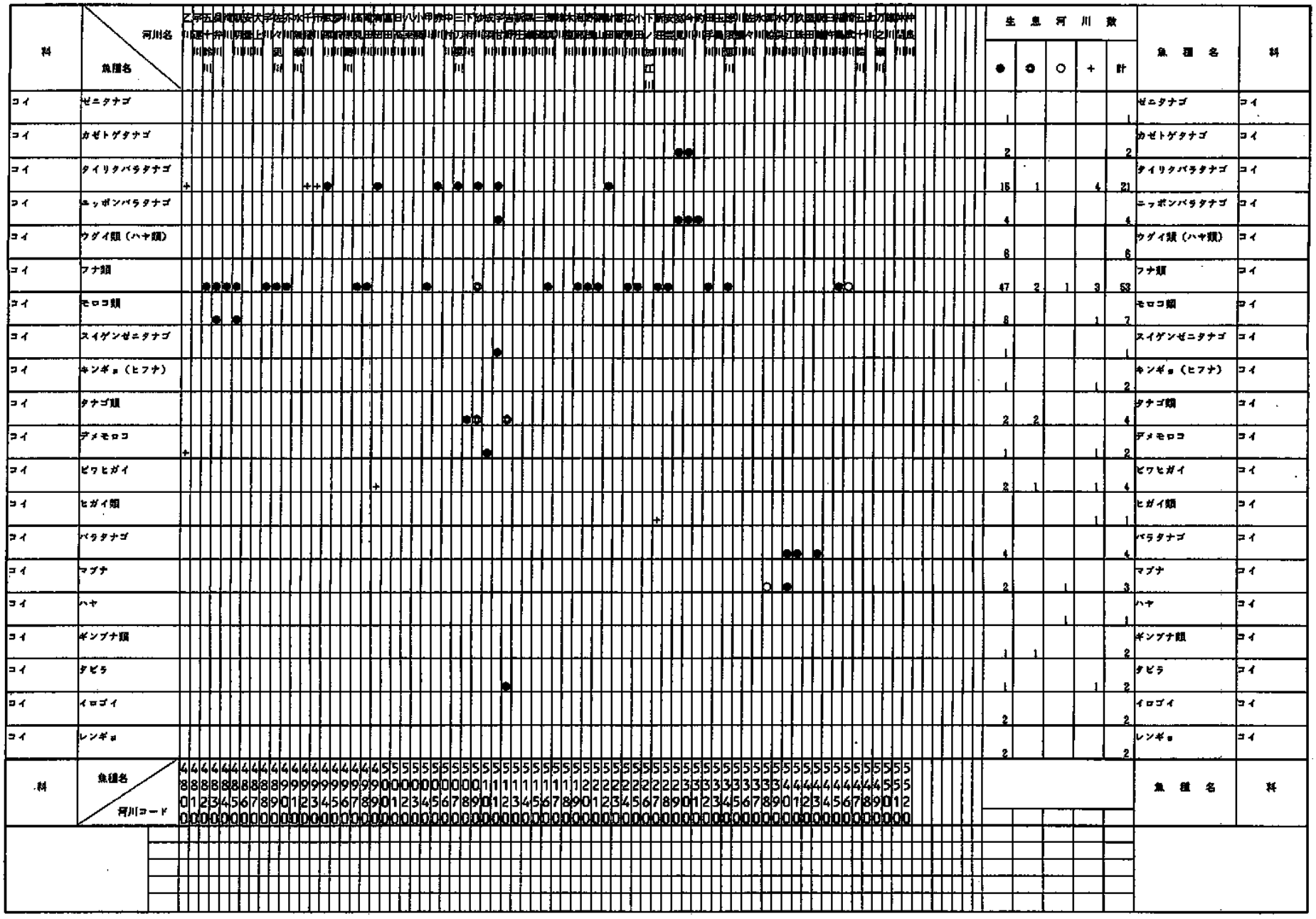


科	魚種名＼河川名	生息河川数 ●	◎	○	＋	計	魚種名	科
コイ	ソウギョ	4			1	5	ソウギョ	コイ
コイ	ハス	13	3	2	6	24	ハス	コイ
コイ	オイカワ	107	4	2	7	120	オイカワ	コイ
コイ	カワムツ	77	3	1	7	88	カワムツ	コイ
コイ	ワタカ	4			2	6	ワタカ	コイ
コイ	コクレン	1				1	コクレン	コイ
コイ	ハクレン（レンヒー）	2				2	ハクレン（レンヒー）	コイ
コイ	コイ	102	3	1	13	119	コイ	コイ
コイ	キンブナ	5				5	キンブナ	コイ
コイ	ギンブナ	68	4		12	85	ギンブナ	コイ
コイ	ニゴロブナ	2				2	ニゴロブナ	コイ
コイ	ゲンゴロウブナ	26	2	1	7	36	ゲンゴロウブナ	コイ
コイ	ヤリタナゴ	15			6	21	ヤリタナゴ	コイ
コイ	アブラボテ	11			3	14	アブラボテ	コイ
コイ	イタセンパラ	1				1	イタセンパラ	コイ
コイ	カネヒラ	8			2	10	カネヒラ	コイ
コイ	イチモンジタナゴ	2			1	3	イチモンジタナゴ	コイ
コイ	タナゴ	3			2	5	タナゴ	コイ
コイ	アカヒレタビラ				2	2	アカヒレタビラ	コイ
コイ	シロヒレタビラ	1			1	2	シロヒレタビラ	コイ
科	魚種名＼河川コード						魚種名	科

●確認および放流
◎確認（他種試験による）
○確認（聞き取り，越き取り＋資料による）
＋記録

科	魚種名＼河川名	生息河川数	魚種名	科
コイ	ゼニタナゴ		ゼニタナゴ	コイ
コイ	カゼトゲタナゴ		カゼトゲタナゴ	コイ
コイ	タイリクバラタナゴ		タイリクバラタナゴ	コイ
コイ	ニッポンバラタナゴ		ニッポンバラタナゴ	コイ
コイ	ウグイ類（ハヤ類）		ウグイ類（ハヤ類）	コイ
コイ	フナ類		フナ類	コイ
コイ	モロコ類		モロコ類	コイ
コイ	スイゲンゼニタナゴ		スイゲンゼニタナゴ	コイ
コイ	キンギョ（ヒフナ）		キンギョ（ヒフナ）	コイ
コイ	タナゴ類		タナゴ類	コイ
コイ	デメモロコ		デメモロコ	コイ
コイ	ビワヒガイ		ビワヒガイ	コイ
コイ	ヒガイ類		ヒガイ類	コイ
コイ	バラタナゴ		バラタナゴ	コイ
コイ	マブナ		マブナ	コイ
コイ	ハヤ		ハヤ	コイ
コイ	ギンブナ類		ギンブナ類	コイ
コイ	タビラ		タビラ	コイ
コイ	イロゴイ		イロゴイ	コイ
コイ	レンギョ		レンギョ	コイ
科	魚種名＼河川コード		魚種名	科

●確認および放流
●確認（染色試験による）
○確認（聞き取り，聞き取り＋資料による）
＋記録



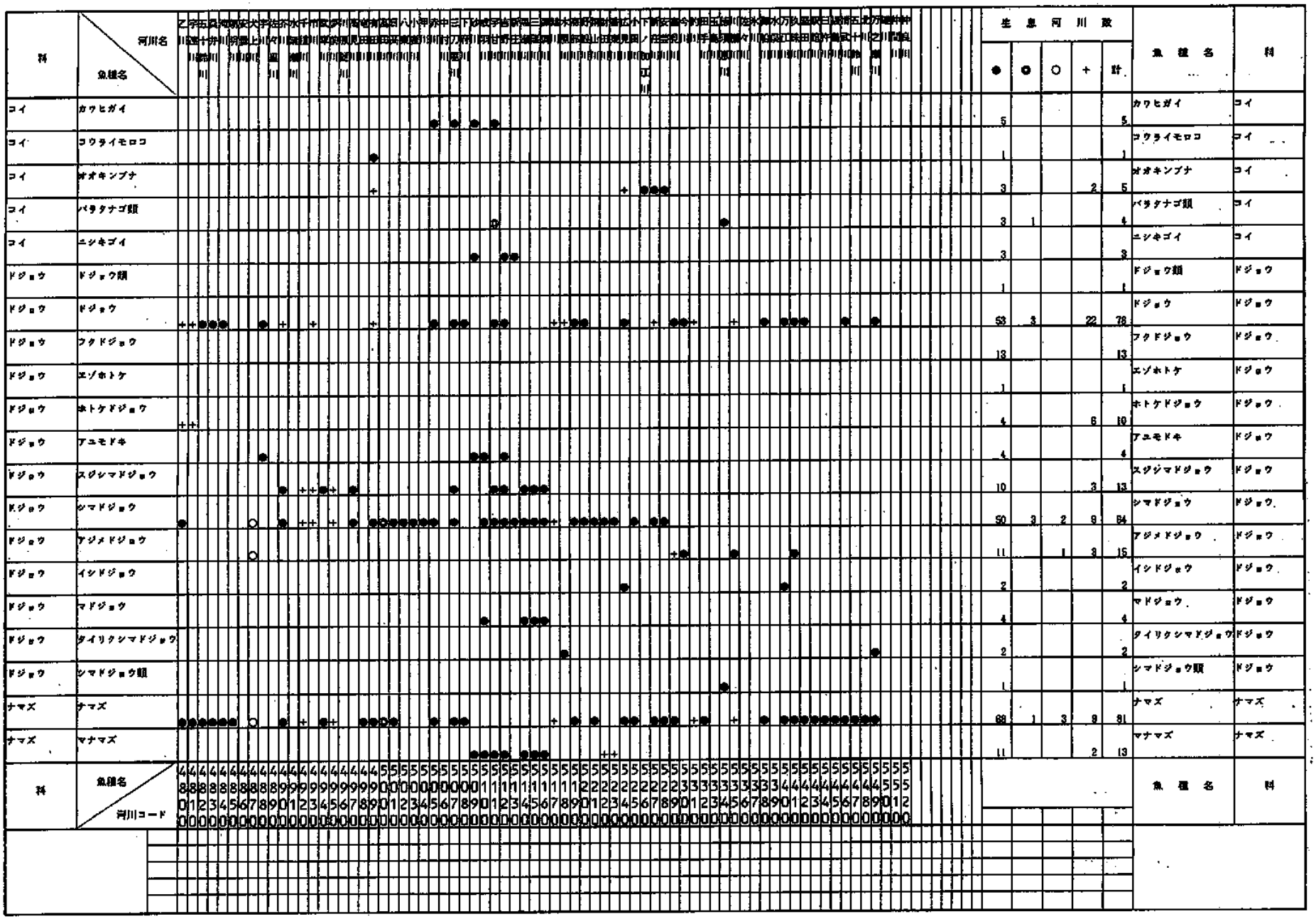
科	魚種名＼河川名	生息河川数 ●	◎	○	＋	計	魚種名	科
コイ	ゼニタナゴ	1				1	ゼニタナゴ	コイ
コイ	カゼトゲタナゴ	2				2	カゼトゲタナゴ	コイ
コイ	タイリクバラタナゴ	15	1		4	21	タイリクバラタナゴ	コイ
コイ	ニッポンバラタナゴ	4				4	ニッポンバラタナゴ	コイ
コイ	ウグイ類（ハヤ類）	6				6	ウグイ類（ハヤ類）	コイ
コイ	フナ類	47	2	1	3	53	フナ類	コイ
コイ	モロコ類	6			1	7	モロコ類	コイ
コイ	スイゲンゼニタナゴ	1				1	スイゲンゼニタナゴ	コイ
コイ	キンギョ（ヒブナ）	1			1	2	キンギョ（ヒブナ）	コイ
コイ	タナゴ類	2	2			4	タナゴ類	コイ
コイ	デメモロコ	1			1	2	デメモロコ	コイ
コイ	ビワヒガイ	2	1		1	4	ビワヒガイ	コイ
コイ	ヒガイ類				1	1	ヒガイ類	コイ
コイ	バラタナゴ	4				4	バラタナゴ	コイ
コイ	マブナ	2		1		3	マブナ	コイ
コイ	ハヤ			1		1	ハヤ	コイ
コイ	ギンブナ類	1	1			2	ギンブナ類	コイ
コイ	タビラ	1			1	2	タビラ	コイ
コイ	イロゴイ	2				2	イロゴイ	コイ
コイ	レンギョ	2				2	レンギョ	コイ

科	魚種名＼河川コード	魚種名	科
	4488012345678901234567890123456789012345678901234567890123456789012345678901234567890123456789

●確認および放流
●確認（後採放確による）
○確認（聞き取り，聞き取り＋資料による）
＋記録

科	魚種名＼河川名	生息河川数	魚種名	科
コイ	カワヒガイ		カワヒガイ	コイ
コイ	コウライモロコ		コウライモロコ	コイ
コイ	オオキンブナ		オオキンブナ	コイ
コイ	バラタナゴ類		バラタナゴ類	コイ
コイ	ニシキゴイ		ニシキゴイ	コイ
ドジョウ	ドジョウ類		ドジョウ類	ドジョウ
ドジョウ	ドジョウ		ドジョウ	ドジョウ
ドジョウ	フクドジョウ		フクドジョウ	ドジョウ
ドジョウ	エゾホトケ		エゾホトケ	ドジョウ
ドジョウ	ホトケドジョウ		ホトケドジョウ	ドジョウ
ドジョウ	アユモドキ		アユモドキ	ドジョウ
ドジョウ	スジシマドジョウ		スジシマドジョウ	ドジョウ
ドジョウ	シマドジョウ		シマドジョウ	ドジョウ
ドジョウ	アジメドジョウ		アジメドジョウ	ドジョウ
ドジョウ	イシドジョウ		イシドジョウ	ドジョウ
ドジョウ	マドジョウ		マドジョウ	ドジョウ
ドジョウ	タイリクシマドジョウ		タイリクシマドジョウ	ドジョウ
ドジョウ	シマドジョウ類		シマドジョウ類	ドジョウ
ナマズ	ナマズ		ナマズ	ナマズ
ナマズ	マナマズ		マナマズ	ナマズ
科	魚種名＼河川コード		魚種名	科

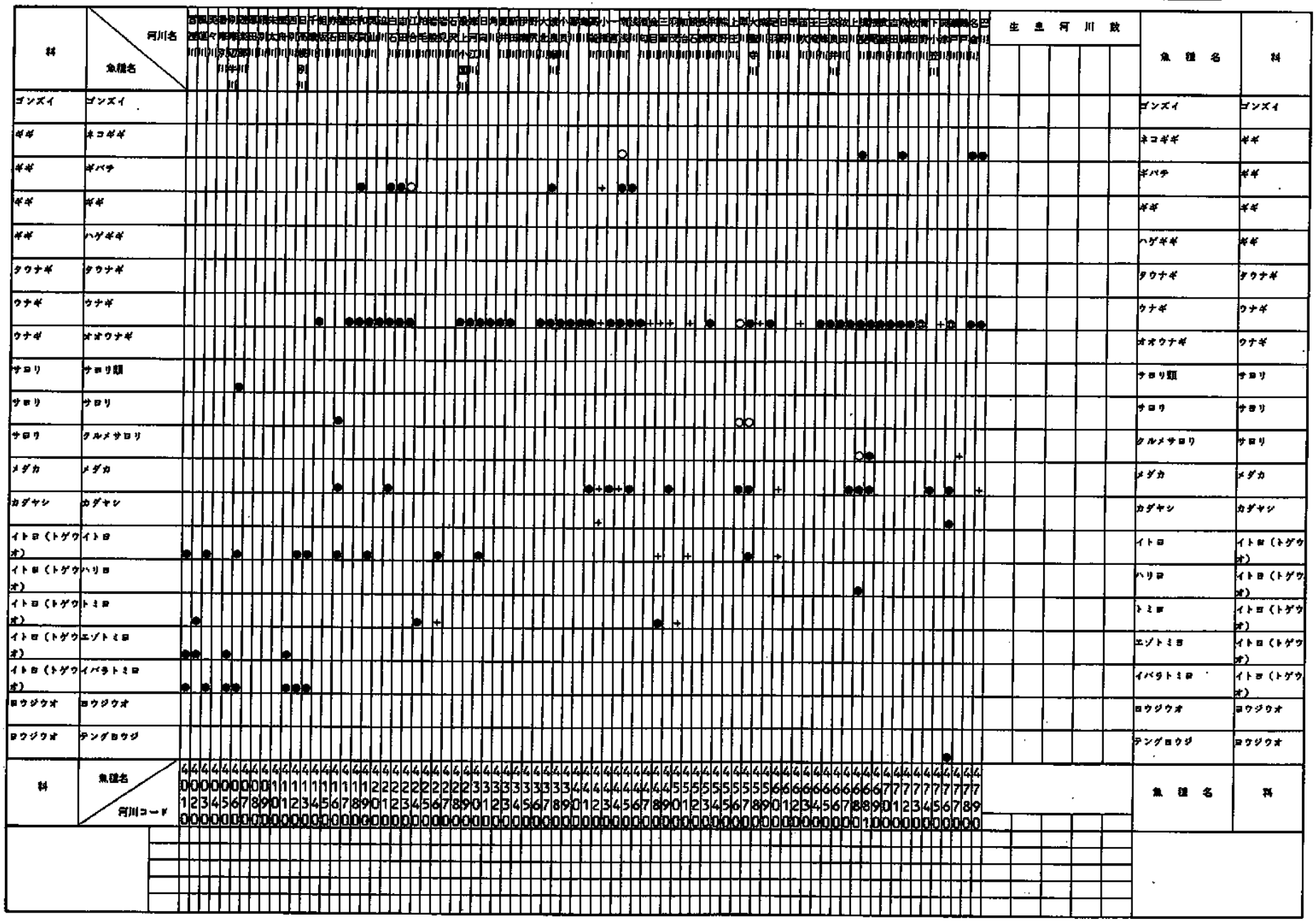
●確認および放流
●確認（潜precision試験による）
○確認（聞き取り，聞き取り＋資料による）
＋記録



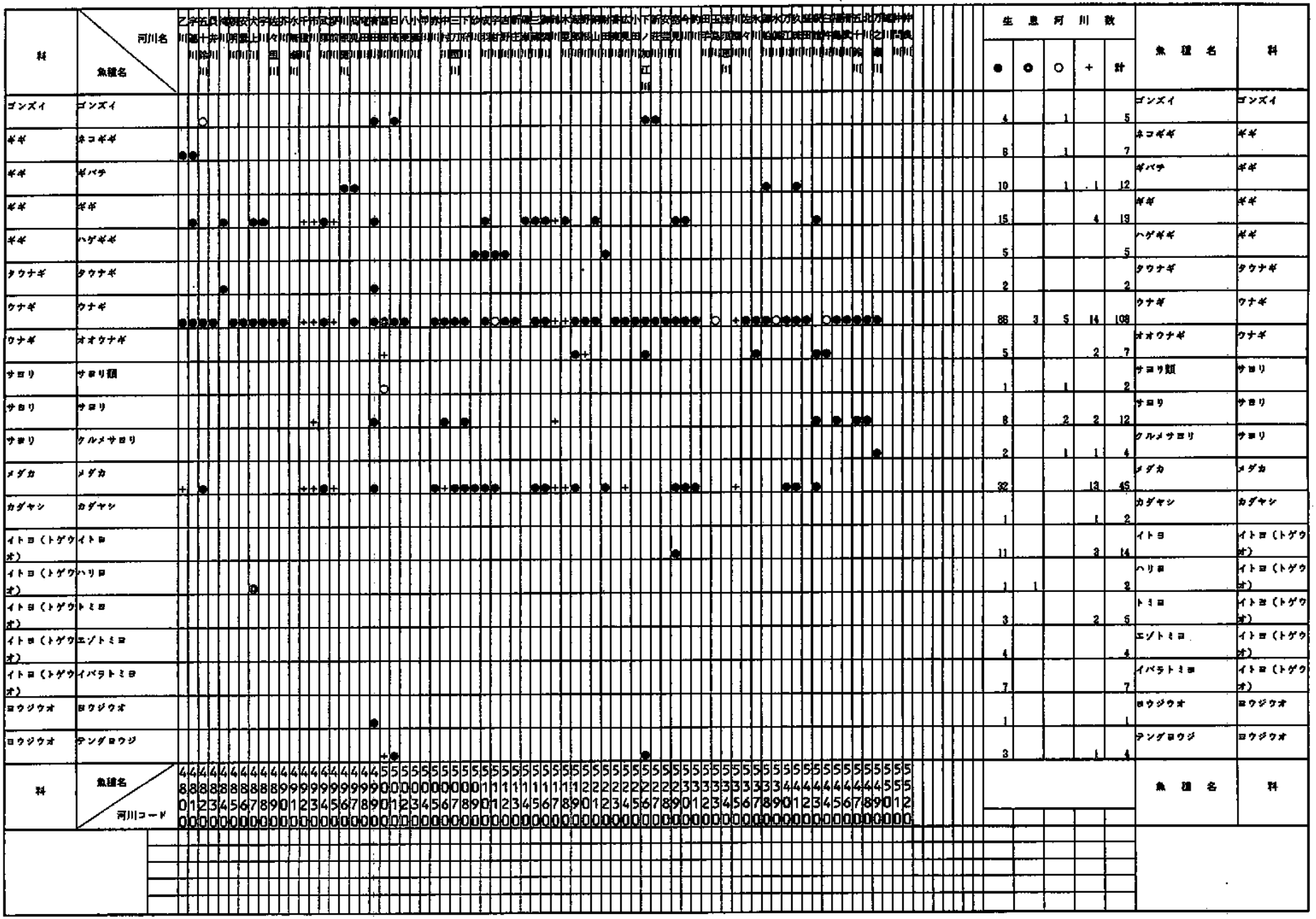
科	魚種名＼河川名	生息河川数 ●	◎	○	＋	計	魚種名	科
コイ	カワヒガイ	5				5	カワヒガイ	コイ
コイ	コウライモロコ	1				1	コウライモロコ	コイ
コイ	オオキンブナ	3			2	5	オオキンブナ	コイ
コイ	ゲンゴロウブナ類	3	1			4	ゲンゴロウブナ類	コイ
コイ	ニシキゴイ	3				3	ニシキゴイ	コイ
ドジョウ	ドジョウ類	1				1	ドジョウ類	ドジョウ
ドジョウ	ドジョウ	53	3		22	78	ドジョウ	ドジョウ
ドジョウ	フクドジョウ	13				13	フクドジョウ	ドジョウ
ドジョウ	エゾホトケ	1				1	エゾホトケ	ドジョウ
ドジョウ	ホトケドジョウ	4			6	10	ホトケドジョウ	ドジョウ
ドジョウ	アユモドキ	4				4	アユモドキ	ドジョウ
ドジョウ	スジシマドジョウ	10			3	13	スジシマドジョウ	ドジョウ
ドジョウ	シマドジョウ	50	3	2	9	64	シマドジョウ	ドジョウ
ドジョウ	アジメドジョウ	11		1	3	15	アジメドジョウ	ドジョウ
ドジョウ	イシドジョウ	2				2	イシドジョウ	ドジョウ
ドジョウ	マドジョウ	4				4	マドジョウ	ドジョウ
ドジョウ	タイリクシマドジョウ	2				2	タイリクシマドジョウ	ドジョウ
ドジョウ	シマドジョウ類	1				1	シマドジョウ類	ドジョウ
ナマズ	ナマズ	68	1	3	9	81	ナマズ	ナマズ
ナマズ	マナマズ	11			2	13	マナマズ	ナマズ

科	魚種名＼河川コード	魚種名	科
	44888001 44888012 44889023 44889034 44889045 44889056 44889067 44889078 44889089 44889090 44889101 44889112 44889123 44889134 44889145 44889156 44889167 44889178 44889189 44889190 44889201 44889212 44889223 44889234 44889245 44889256 44889267 44889278 44889289 44889290 44889301 44889312 44889323 44889334 44889345 44889356 44889367 44889378 44889389 44889390 44889401 44889412 44889423 44889434 44889445 44889456 44889467 44889478 44889489 44889490 44889501 44889512 44889523 44889534 44889545 44889556 44889567 44889578 44889589 44889590 44889601 44889612 44889623 44889634 44889645 44889656 44889667 44889678 44889689 44889690 44889701 44889712 44889723 44889734 44889745 44889756 44889767 44889778 44889789 44889790 44889801 44889812 44889823 44889834 44889845 44889856 44889867 44889878 44889889 44889890 44889901 44889912 44889923 44889934 44889945 44889956 44889967 44889978 44889989 44889990 44890001 44890012 44890023 44890034 44890045 44890056 44890067 44890078 44890089 44890090 44890101 44890112 44890123 44890134 44890145 44890156 44890167 44890178 44890189 44890190 44890201 44890212 44890223 44890234 44890245 44890256 44890267 44890278 44890289 44890290 44890301 44890312 44890323 44890334 44890345 44890356 44890367 44890378 44890389 44890390 44890401 44890412 44890423 44890434 44890445 44890456 44890467 44890478 44890489 44890490 44890501 44890512 44890523 44890534 44890545 44890556 44890567 44890578 44890589 44890590 44890601 44890612 44890623 44890634 44890645 44890656 44890667 44890678 44890689 44890690 44890701 44890712 44890723 44890734 44890745 44890756 44890767 44890778 44890789 44890790 44890801 44890812 44890823 44890834 44890845 44890856 44890867 44890878 44890889 44890890 44890901 44890912 44890923 44890934 44890945 44890956 44890967 44890978 44890989 44890990 44891001 44891012		
	河川コード		

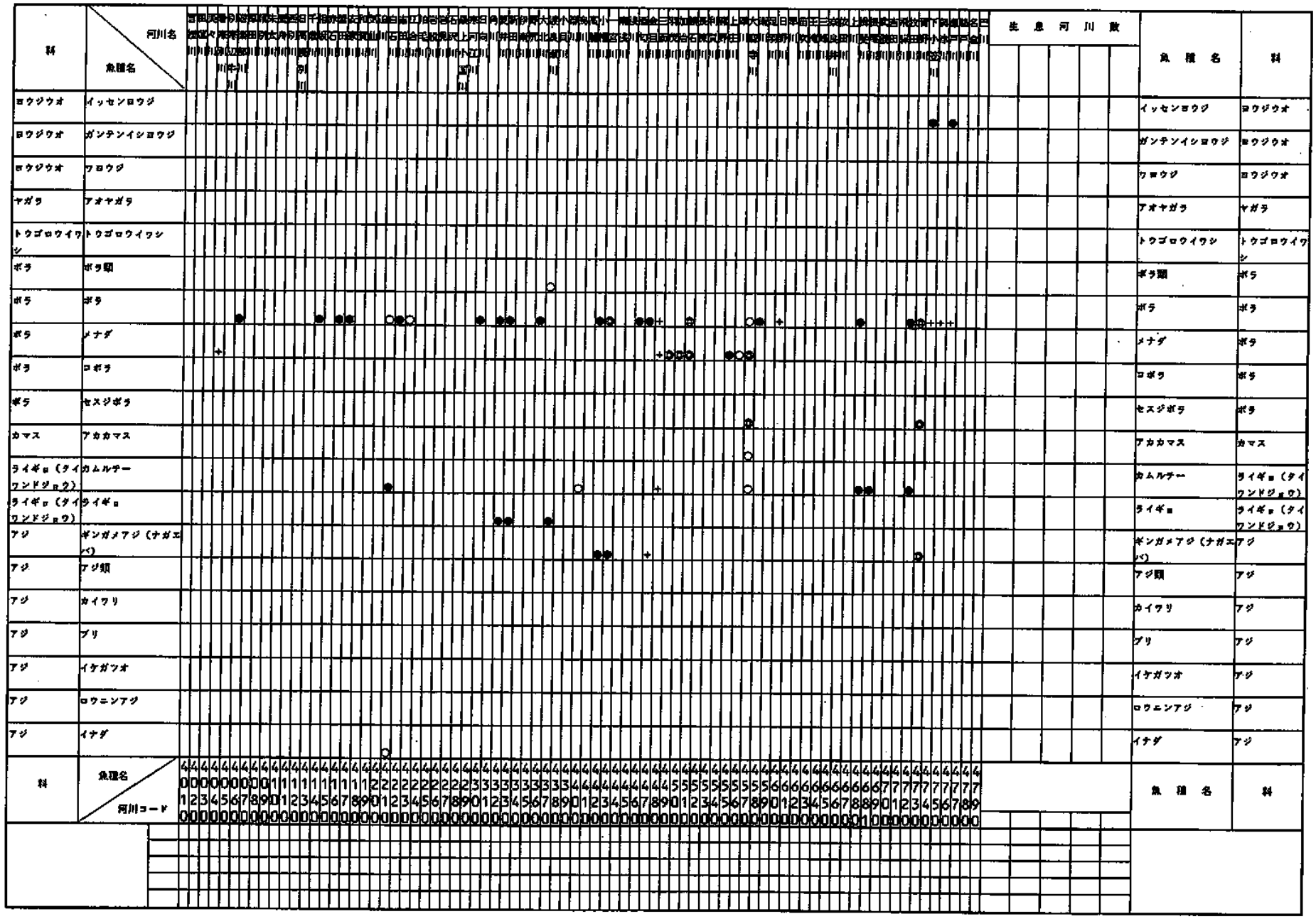
●確認および放流
◎確認（潜水試験による）
○確認（聞き取り，聞き取り＋資料による）
＋記録



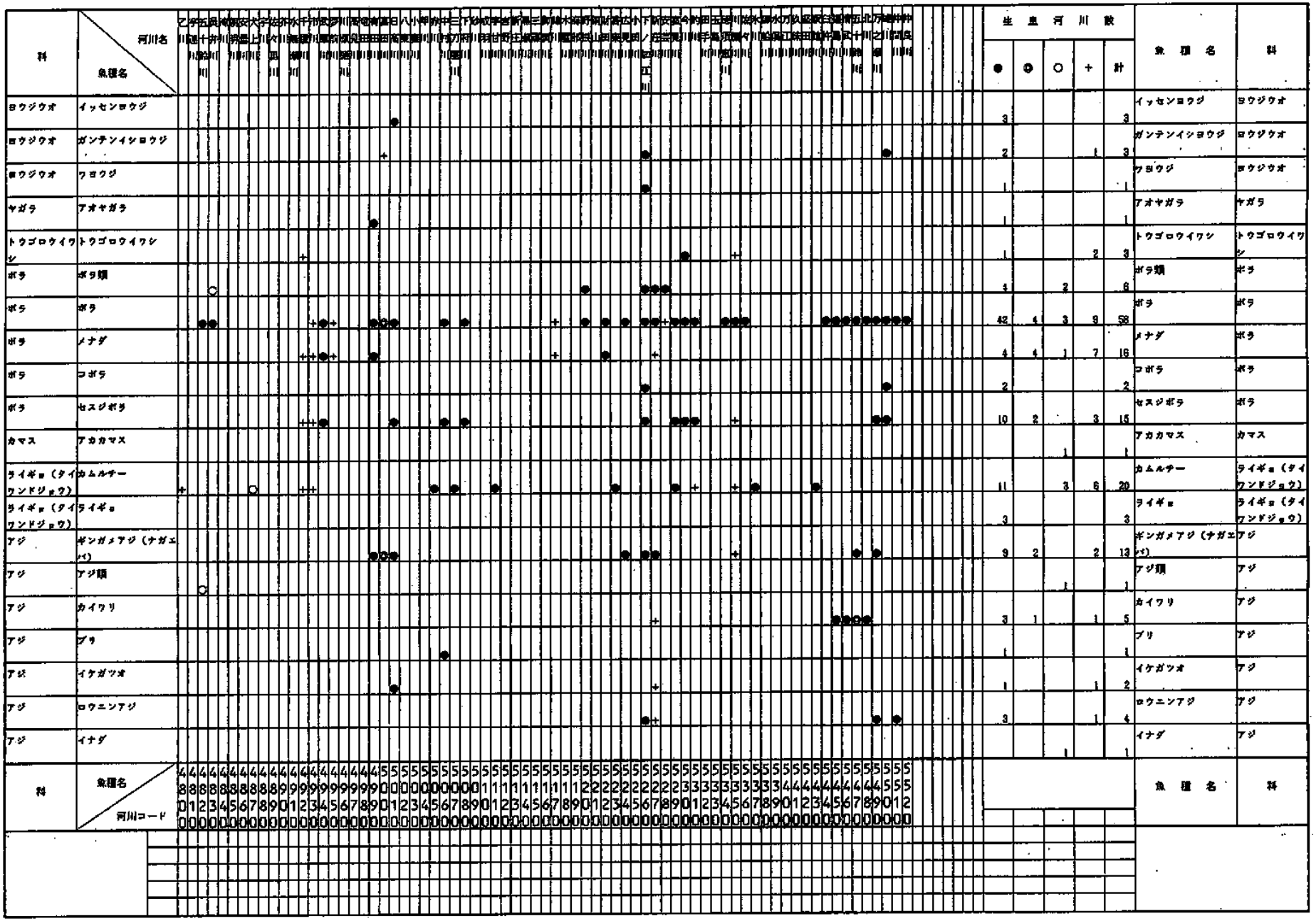
●確認および放流
◎確認（機器試験による）
○確認（聞き取り，聞き取り＋資料による）
＋記録



●確認および放流
◎確認（漁獲試験による）
○確認（聞き取り，聞き取り＋資料による）
＋記録

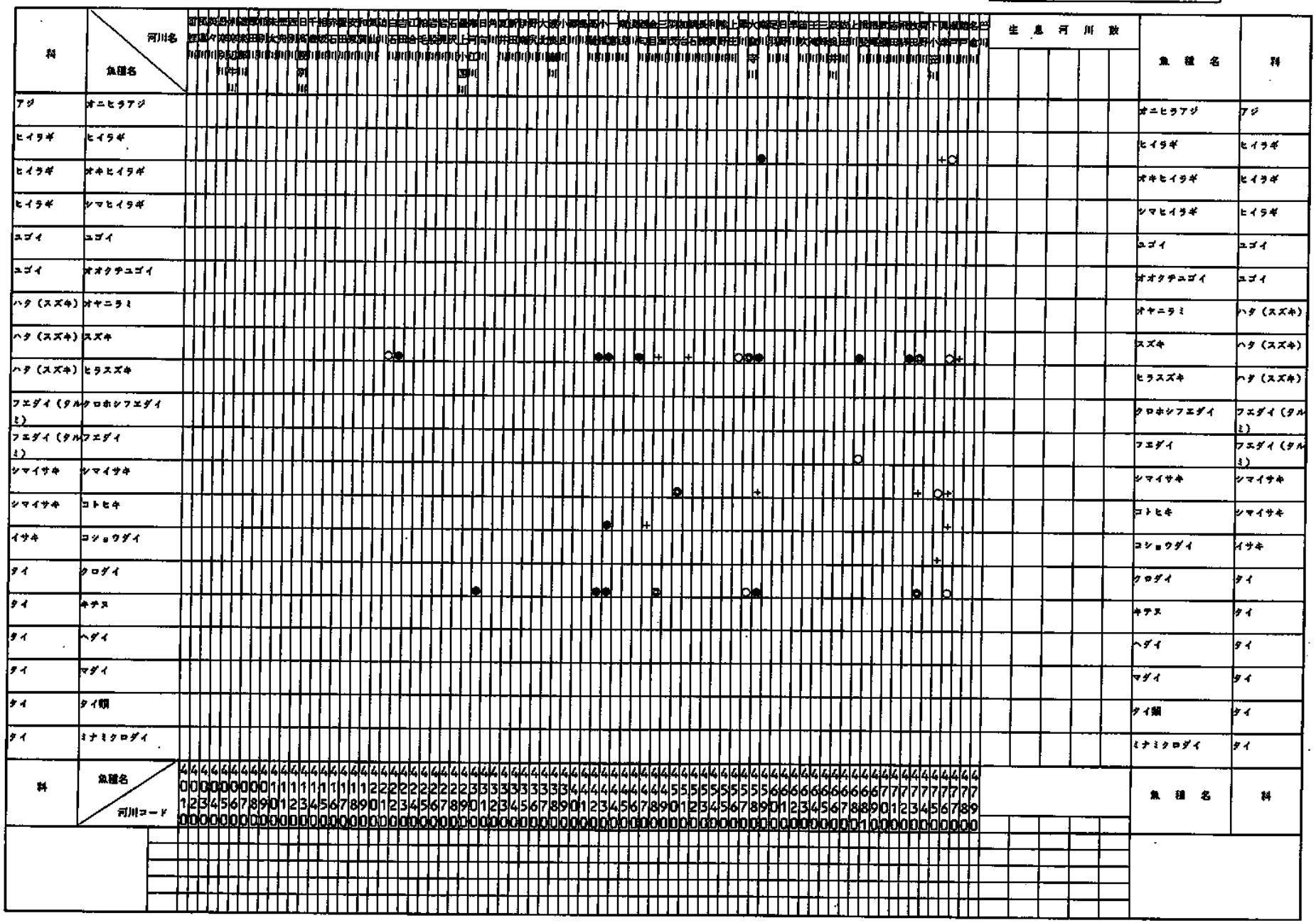


●確認および放流
◉確認（潜漁試験による）
○確認（聞き取り，聞き取り＋資料による）
＋記録

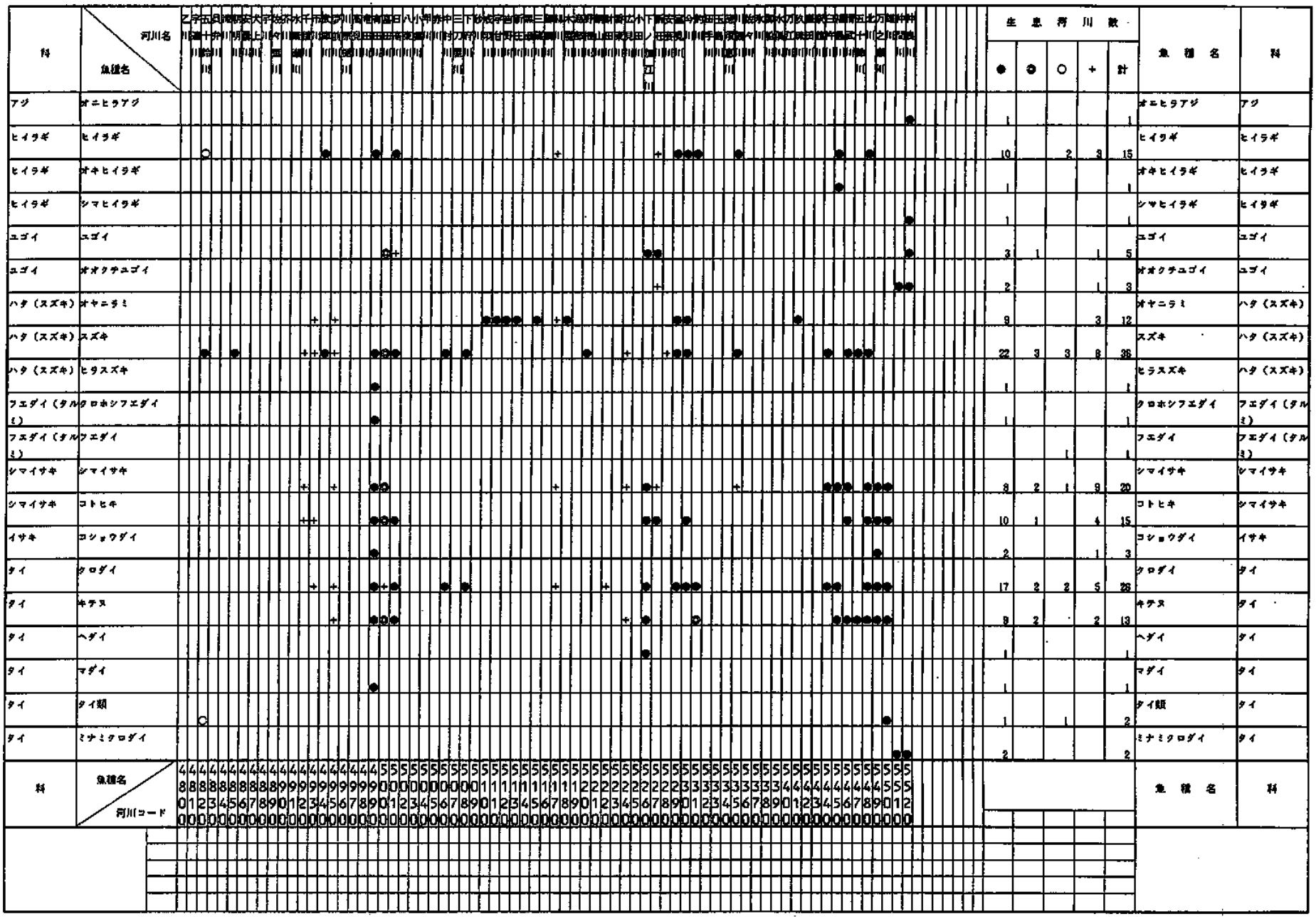


科	魚種名＼河川名	生息河川数 ●	◉	○	＋	計	魚種名	科
ヨウジウオ	イッセンヨウジ	3				3	イッセンヨウジ	ヨウジウオ
ヨウジウオ	ガンテンイシヨウジ	2			1	3	ガンテンイシヨウジ	ヨウジウオ
ヨウジウオ	ワヨウジ	1				1	ワヨウジ	ヨウジウオ
ヤガラ	アオヤガラ	1				1	アオヤガラ	ヤガラ
トウゴロウイワシ	トウゴロウイワシ	1			2	3	トウゴロウイワシ	トウゴロウイワシ
ボラ	ボラ類	4		2		6	ボラ類	ボラ
ボラ	ボラ	42	4	3	9	58	ボラ	ボラ
ボラ	メナダ	4	4	1	7	16	メナダ	ボラ
ボラ	コボラ	2				2	コボラ	ボラ
ボラ	セスジボラ	10	2		3	15	セスジボラ	ボラ
カマス	アカカマス			1		1	アカカマス	カマス
ライギョ（タイワンドジョウ）	カムルチー	11		3	6	20	カムルチー	ライギョ（タイワンドジョウ）
ライギョ（タイワンドジョウ）	ライギョ	3				3	ライギョ	ライギョ（タイワンドジョウ）
アジ	ギンガメアジ（ナガエバ）	9	2		2	13	ギンガメアジ（ナガエバ）	アジ
アジ	アジ類			1		1	アジ類	アジ
アジ	カイワリ	3	1		1	5	カイワリ	アジ
アジ	ブリ	1				1	ブリ	アジ
アジ	イケガツオ	1			1	2	イケガツオ	アジ
アジ	ロウニンアジ	3			1	4	ロウニンアジ	アジ
アジ	イナダ			1		1	イナダ	アジ
科	魚種名＼河川コード						魚種名	科

●確認および放流
◎確認（強度試験による）
○確認（試き取り，聞き取り＋資料による）
＋記録



●確認および放流
◎確認（追跡試験による）
○確認（聞き取り，聞き取り＋資料による）
＋記録



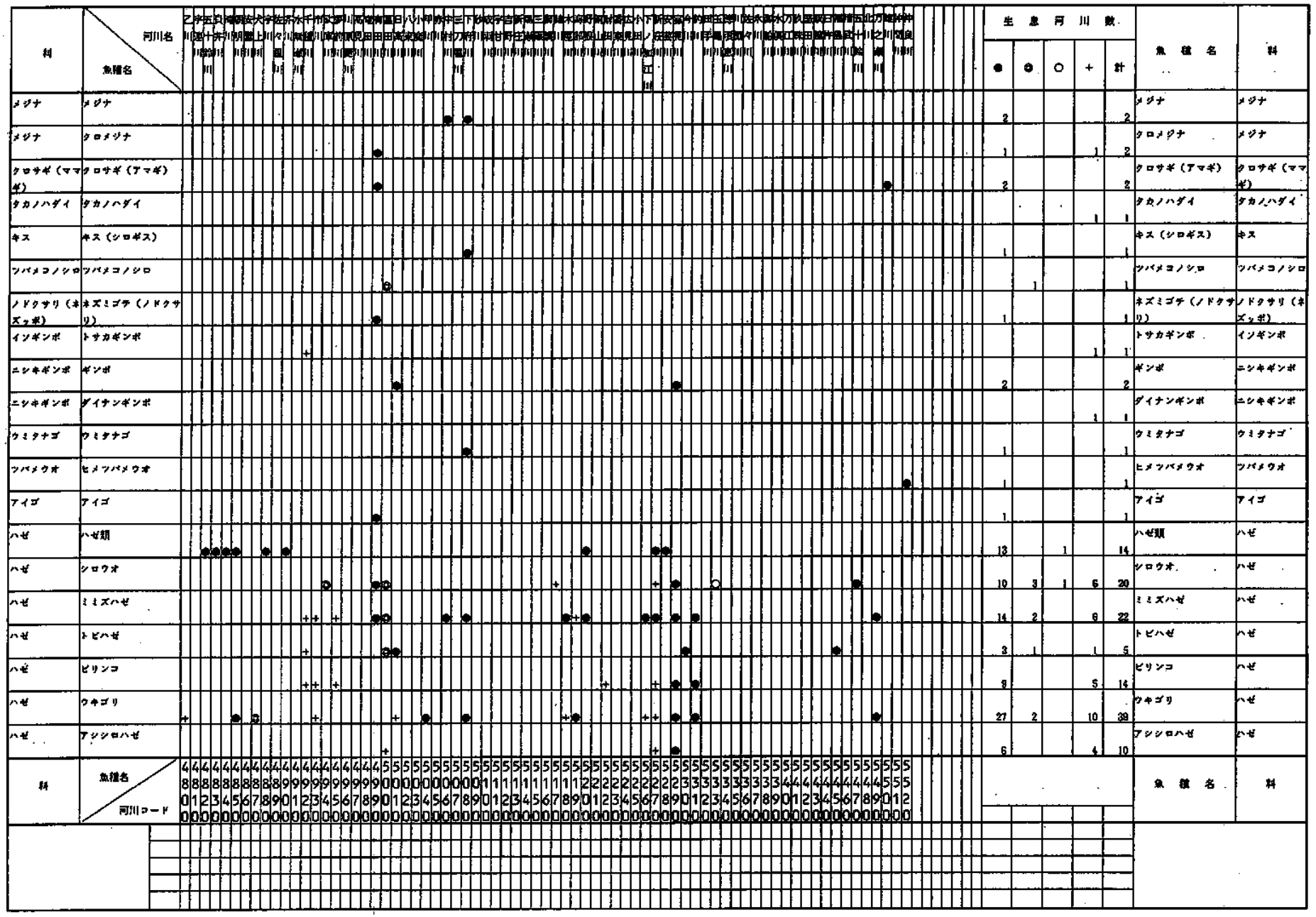
科	魚種名 ＼ 河川名	生息河川数 ●	◎	○	＋	計	魚種名	科
アジ	オニヒラアジ	1				1	オニヒラアジ	アジ
ヒイラギ	ヒイラギ	10		2	3	15	ヒイラギ	ヒイラギ
ヒイラギ	オキヒイラギ	1				1	オキヒイラギ	ヒイラギ
ヒイラギ	シマヒイラギ	1				1	シマヒイラギ	ヒイラギ
ユゴイ	ユゴイ	3	1		1	5	ユゴイ	ユゴイ
ユゴイ	オオクチユゴイ	2			1	3	オオクチユゴイ	ユゴイ
ハタ（スズキ）	オヤニラミ	9			3	12	オヤニラミ	ハタ（スズキ）
ハタ（スズキ）	スズキ	22	3	3	8	36	スズキ	ハタ（スズキ）
ハタ（スズキ）	ヒラスズキ	1				1	ヒラスズキ	ハタ（スズキ）
フエダイ（タルミ）	クロホシフエダイ	1				1	クロホシフエダイ	フエダイ（タルミ）
フエダイ（タルミ）	フエダイ			1		1	フエダイ	フエダイ（タルミ）
シマイサキ	シマイサキ	8	2	1	9	20	シマイサキ	シマイサキ
シマイサキ	コトヒキ	10	1		4	15	コトヒキ	シマイサキ
イサキ	コショウダイ	2			1	3	コショウダイ	イサキ
タイ	クロダイ	17	2	2	5	26	クロダイ	タイ
タイ	キチヌ	9	2		2	13	キチヌ	タイ
タイ	ヘダイ	1				1	ヘダイ	タイ
タイ	マダイ	1				1	マダイ	タイ
タイ	タイ類	1		1		2	タイ類	タイ
タイ	ミナミクロダイ	2				2	ミナミクロダイ	タイ

| 科 | 魚種名 ＼ 河川コード | 44888012000 | 44888123000 | 44888234000 | 44888345000 | 44888456000 | 44888567000 | 44888678000 | 44888789000 | 44889890000 | 44899901000 | 44899012000 | 44899123000 | 44899234000 | 44899345000 | 44899456000 | 44899567000 | 44899678000 | 44899789000 | 44900890000 | 44900901000 | 44900012000 | 44900123000 | 44900234000 | 44900345000 | 44900456000 | 44900567000 | 44900678000 | 44900789000 | 44901890000 | 44901901000 | 44901012000 | 44901123000 | 44901234000 | 44901345000 | 44901456000 | 44901567000 | 44901678000 | 44901789000 | 44902890000 |

●確認および放流
◎確認（漁獲試験による）
○確認（聞き取り，聞き取り＋資料による）
＋記録

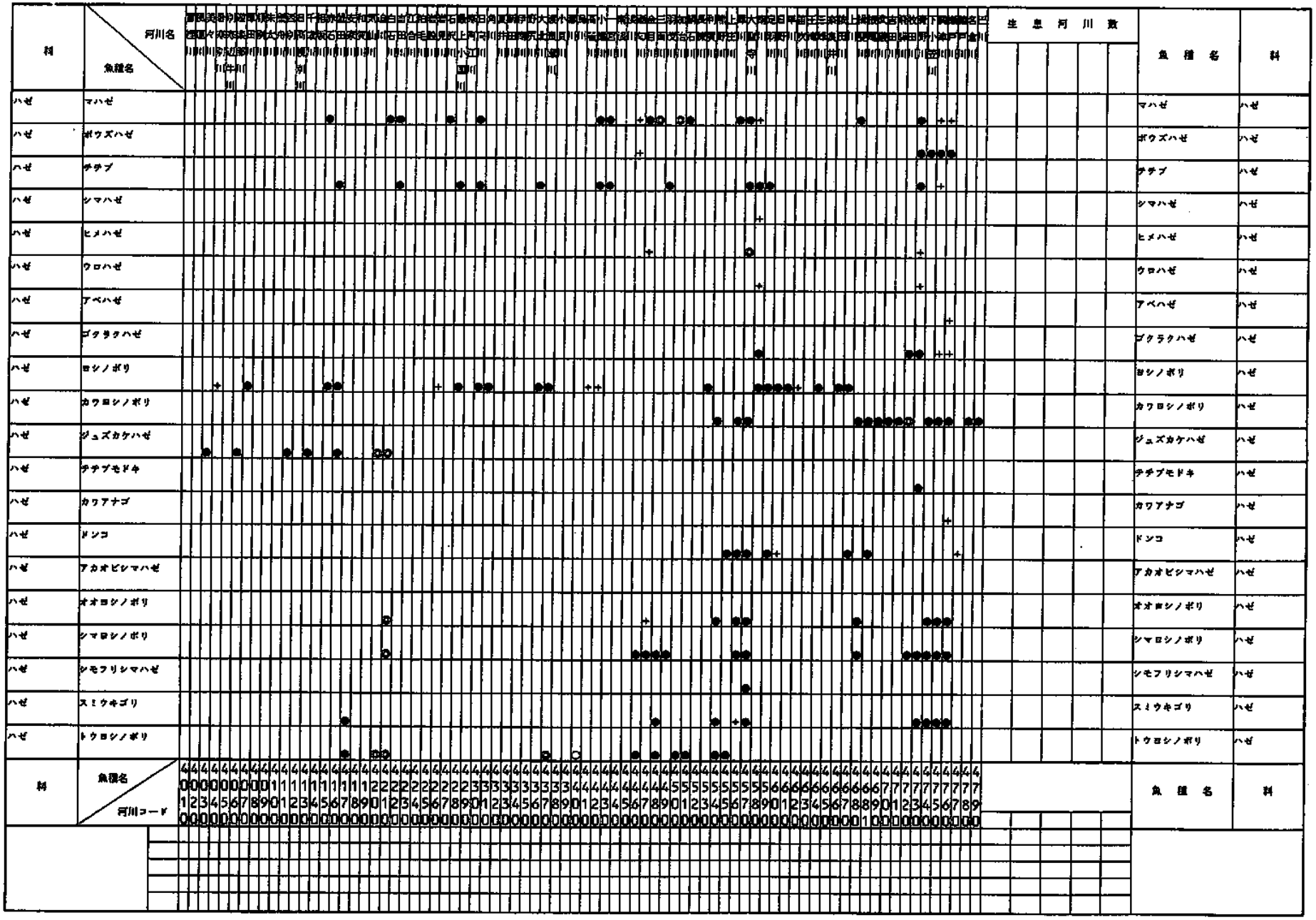
科	魚種名＼河川名	生息河川数	魚種名	科
メジナ	メジナ		メジナ	メジナ
メジナ	クロメジナ		クロメジナ	メジナ
クロサギ（ママギ）	クロサギ（アマギ）		クロサギ（アマギ）	クロサギ（ママギ）
タカノハダイ	タカノハダイ		タカノハダイ	タカノハダイ
キス	キス（シロギス）		キス（シロギス）	キス
ツバメコノシロ	ツバメコノシロ		ツバメコノシロ	ツバメコノシロ
ノドクサリ（ネズッポ）	ネズミゴチ（ノドクサリ）		ネズミゴチ（ノドクサリ）	ノドクサリ（ネズッポ）
イソギンポ	トサカギンポ		トサカギンポ	イソギンポ
ニシキギンポ	ギンポ		ギンポ	ニシキギンポ
ニシキギンポ	ダイナンギンポ		ダイナンギンポ	ニシキギンポ
ウミタナゴ	ウミタナゴ		ウミタナゴ	ウミタナゴ
ツバメウオ	ヒメツバメウオ		ヒメツバメウオ	ツバメウオ
アイゴ	アイゴ		アイゴ	アイゴ
ハゼ	ハゼ類		ハゼ類	ハゼ
ハゼ	シロウオ		シロウオ	ハゼ
ハゼ	ミミズハゼ		ミミズハゼ	ハゼ
ハゼ	トビハゼ		トビハゼ	ハゼ
ハゼ	ビリンコ		ビリンコ	ハゼ
ハゼ	ウキゴリ		ウキゴリ	ハゼ
ハゼ	アシシロハゼ		アシシロハゼ	ハゼ
科	魚種名＼河川コード		魚種名	科

●確認および放流
◎確認（漁獲試験による）
○確認（聞き取り，聞き取り＋資料による）
＋記録

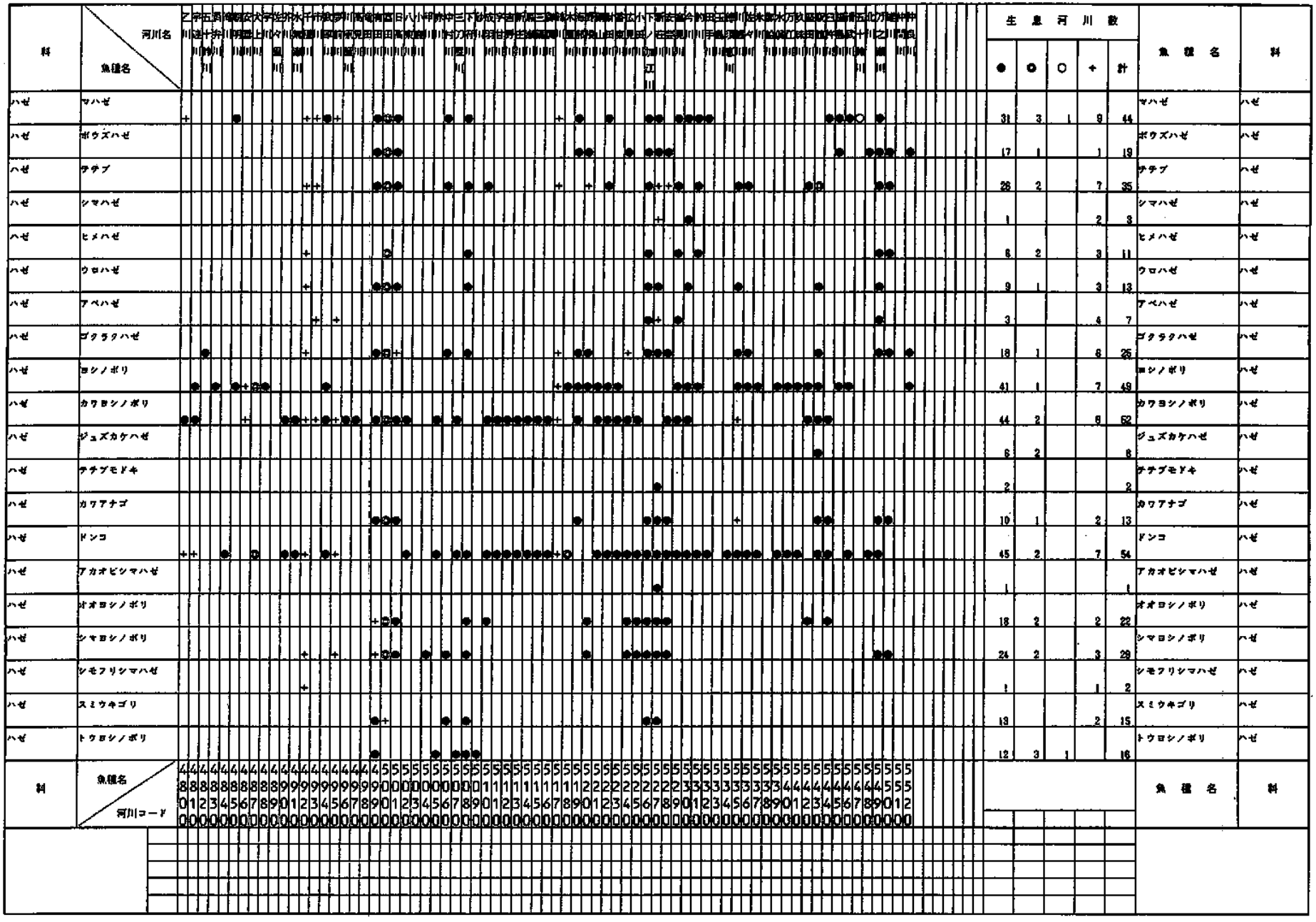


科	魚種名 ＼ 河川名	生息河川数 ●	◎	○	＋	計	魚種名	科
メジナ	メジナ	2				2	メジナ	メジナ
メジナ	クロメジナ	1			1	2	クロメジナ	メジナ
クロサギ（ママ ギ）	クロサギ（アマギ）	2				2	クロサギ（アマギ）	クロサギ（ママギ）
タカノハダイ	タカノハダイ				1	1	タカノハダイ	タカノハダイ
キス	キス（シロギス）	1				1	キス（シロギス）	キス
ツバメコノシロ	ツバメコノシロ		1			1	ツバメコノシロ	ツバメコノシロ
ノドクサリ（ネズッポ）	ネズミゴチ（ノドクサリ）	1				1	ネズミゴチ（ノドクサリ）	ノドクサリ（ネズッポ）
イソギンポ	トサカギンポ				1	1	トサカギンポ	イソギンポ
ニシキギンポ	ギンポ	2				2	ギンポ	ニシキギンポ
ニシキギンポ	ダイナンギンポ				1	1	ダイナンギンポ	ニシキギンポ
ウミタナゴ	ウミタナゴ	1				1	ウミタナゴ	ウミタナゴ
ツバメウオ	ヒメツバメウオ	1				1	ヒメツバメウオ	ツバメウオ
アイゴ	アイゴ	1				1	アイゴ	アイゴ
ハゼ	ハゼ類	13		1		14	ハゼ類	ハゼ
ハゼ	シロウオ	10	3	1	6	20	シロウオ	ハゼ
ハゼ	ミミズハゼ	14	2		6	22	ミミズハゼ	ハゼ
ハゼ	トビハゼ	3	1		1	5	トビハゼ	ハゼ
ハゼ	ビリンコ	9			5	14	ビリンコ	ハゼ
ハゼ	ウキゴリ	27	2		10	39	ウキゴリ	ハゼ
ハゼ	アシシロハゼ	6			4	10	アシシロハゼ	ハゼ
科	魚種名 ＼ 河川コード						魚種名	科

●確認および放流
◎確認（漁獲試験による）
○確認（聞き取り，聞き取り＋資料による）
＋記録



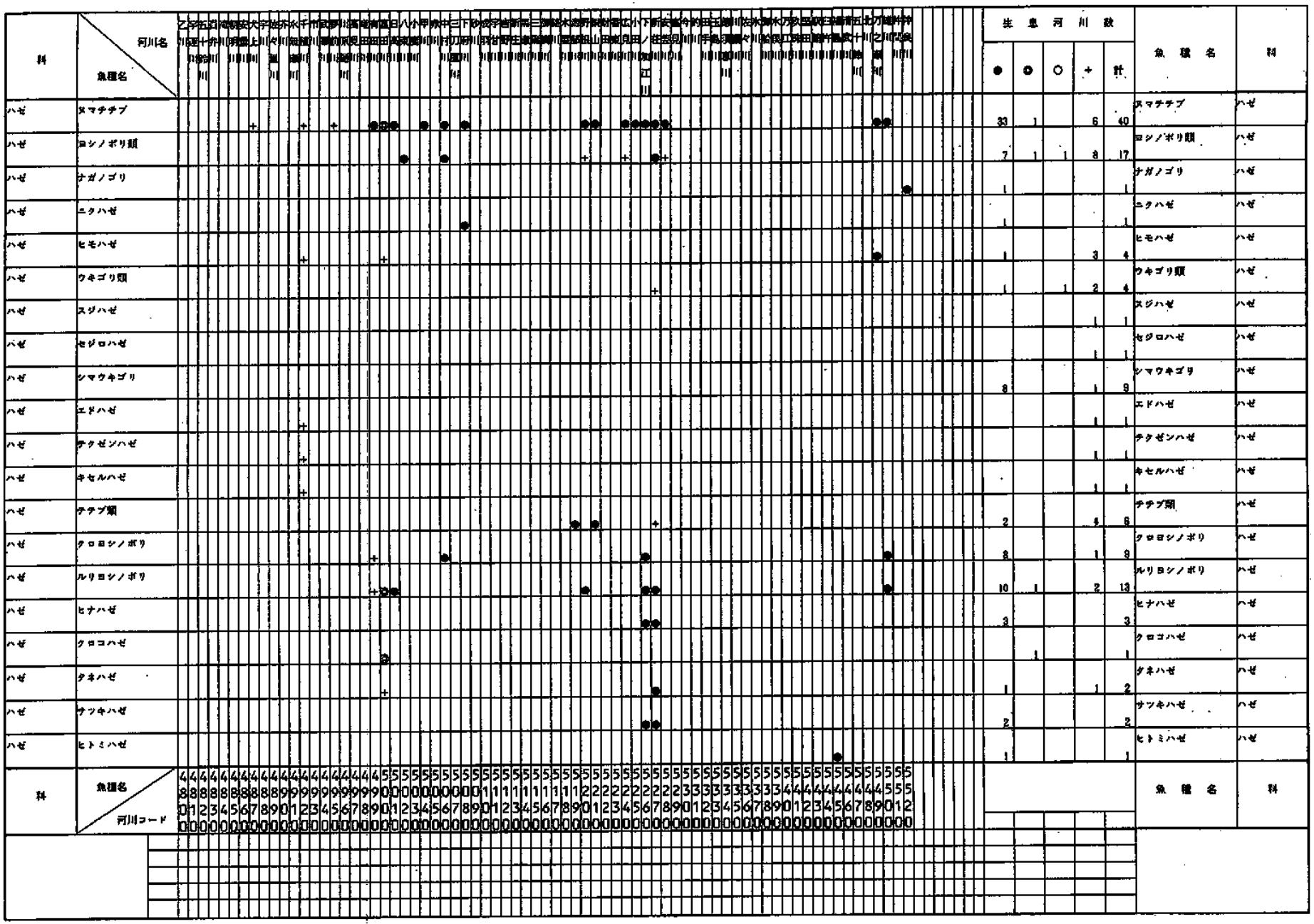
●確認および放流
◎確認（追跡試験による）
○確認（聞き取り，聞き取り＋資料による）
＋記録



●確認および放流
◉確認（潜渡試験による）
○確認（聞き取り，聞き取り＋資料による）
＋記録

科	魚種名＼河川名	生息河川数	魚種名	科
ハゼ	ヌマチチブ		ヌマチチブ	ハゼ
ハゼ	ヨシノボリ類		ヨシノボリ類	ハゼ
ハゼ	ナガノゴリ		ナガノゴリ	ハゼ
ハゼ	ニクハゼ		ニクハゼ	ハゼ
ハゼ	ヒモハゼ		ヒモハゼ	ハゼ
ハゼ	ウキゴリ類		ウキゴリ類	ハゼ
ハゼ	スジハゼ		スジハゼ	ハゼ
ハゼ	セジロハゼ		セジロハゼ	ハゼ
ハゼ	シマウキゴリ		シマウキゴリ	ハゼ
ハゼ	エドハゼ		エドハゼ	ハゼ
ハゼ	アクゼンハゼ		アクゼンハゼ	ハゼ
ハゼ	キセルハゼ		キセルハゼ	ハゼ
ハゼ	チチブ類		チチブ類	ハゼ
ハゼ	クロヨシノボリ		クロヨシノボリ	ハゼ
ハゼ	ルリヨシノボリ		ルリヨシノボリ	ハゼ
ハゼ	ヒナハゼ		ヒナハゼ	ハゼ
ハゼ	クロコハゼ		クロコハゼ	ハゼ
ハゼ	タネハゼ		タネハゼ	ハゼ
ハゼ	サツキハゼ		サツキハゼ	ハゼ
ハゼ	ヒトミハゼ		ヒトミハゼ	ハゼ
科	魚種名＼河川コード		魚種名	科

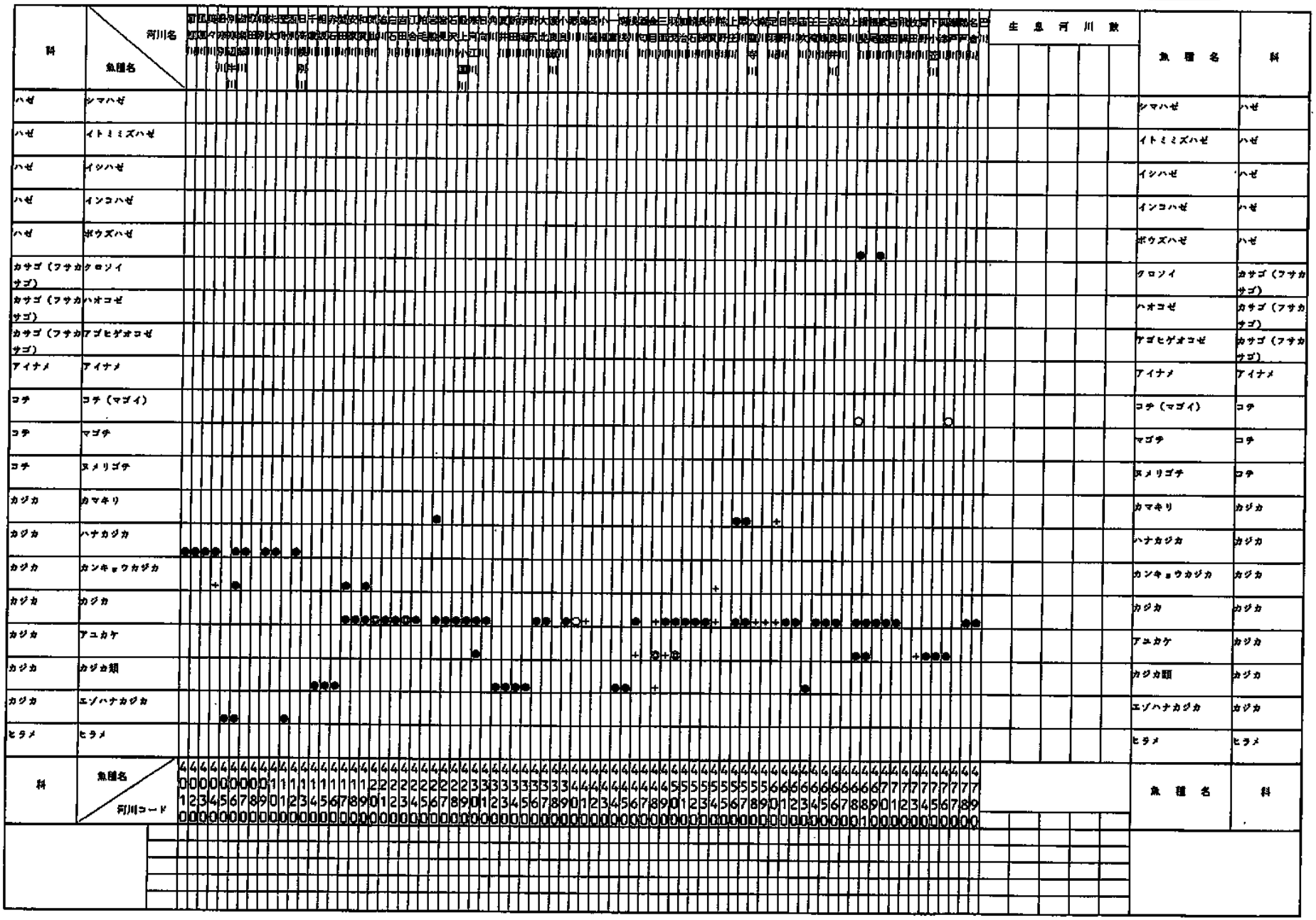
●確認および放流
◉確認（漁獲試験による）
○確認（聞き取り，聞き取り＋資料による）
＋記録



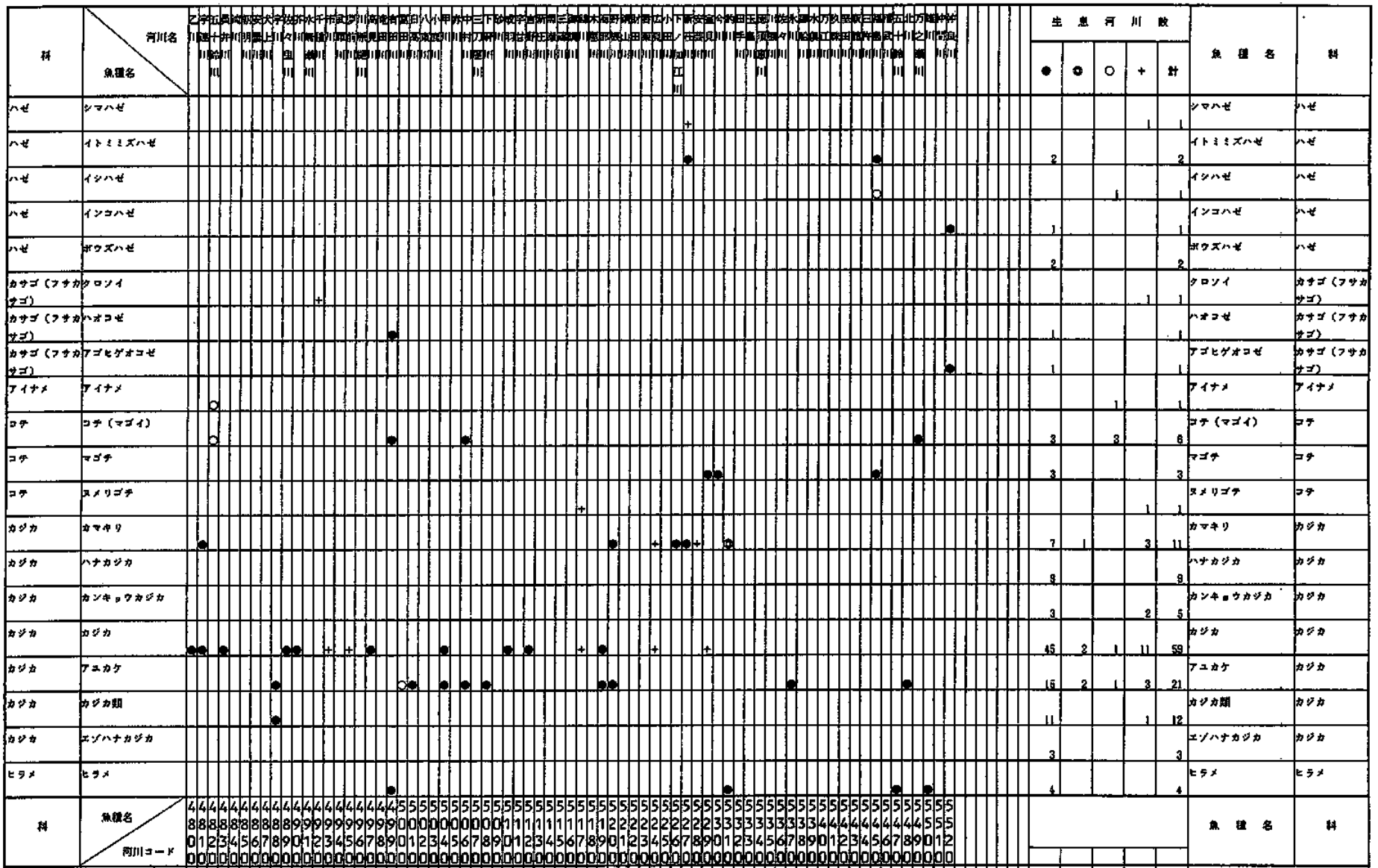
科	魚種名＼河川名	生息河川数 ●	◉	○	＋	計	魚種名	科
ハゼ	タマチチブ	33	1		6	40	タマチチブ	ハゼ
ハゼ	ヨシノボリ類	7	1	1	8	17	ヨシノボリ類	ハゼ
ハゼ	ナガノゴリ	1				1	ナガノゴリ	ハゼ
ハゼ	ニクハゼ	1				1	ニクハゼ	ハゼ
ハゼ	ヒモハゼ	1			3	4	ヒモハゼ	ハゼ
ハゼ	ウキゴリ類	1		1	2	4	ウキゴリ類	ハゼ
ハゼ	スジハゼ				1	1	スジハゼ	ハゼ
ハゼ	セジロハゼ				1	1	セジロハゼ	ハゼ
ハゼ	シマウキゴリ	8			1	9	シマウキゴリ	ハゼ
ハゼ	エドハゼ				1	1	エドハゼ	ハゼ
ハゼ	テクセンハゼ				1	1	テクセンハゼ	ハゼ
ハゼ	キセルハゼ				1	1	キセルハゼ	ハゼ
ハゼ	チチブ類	2			4	6	チチブ類	ハゼ
ハゼ	クロヨシノボリ	8			1	9	クロヨシノボリ	ハゼ
ハゼ	ルリヨシノボリ	10	1		2	13	ルリヨシノボリ	ハゼ
ハゼ	ヒナハゼ	3				3	ヒナハゼ	ハゼ
ハゼ	クロコハゼ		1			1	クロコハゼ	ハゼ
ハゼ	タネハゼ	1			1	2	タネハゼ	ハゼ
ハゼ	サツキハゼ	2				2	サツキハゼ	ハゼ
ハゼ	ヒトミハゼ	1				1	ヒトミハゼ	ハゼ

科	魚種名＼河川コード	魚種名	科
	44444444444

●確認および放流
◎確認（追跡試験による）
○確認（聞き取り，聞き取り＋資料による）
＋記録



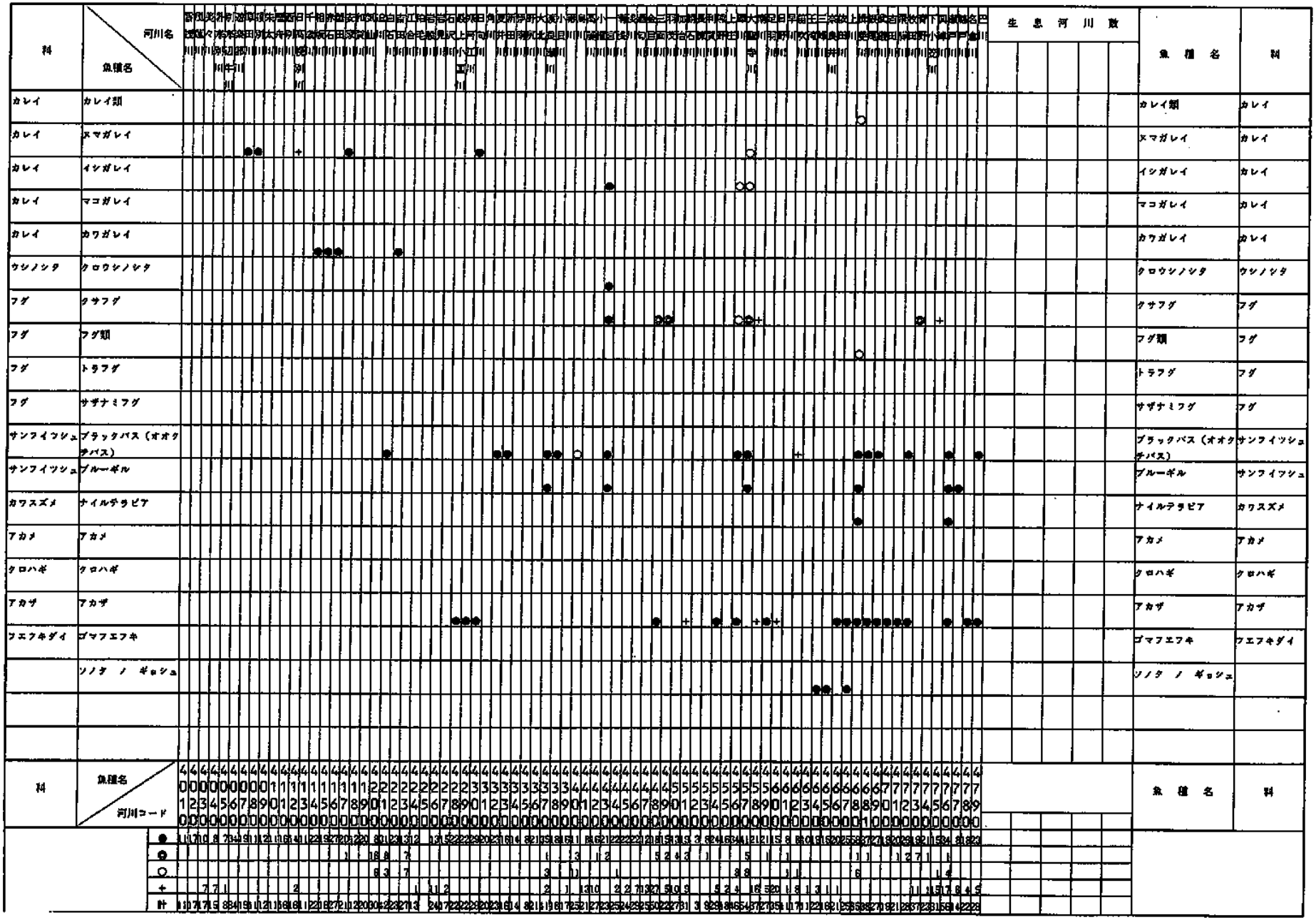
●確認および放流
◎確認（染色試験による）
○確認（聞き取り，聞き取り＋資料による）
＋記録



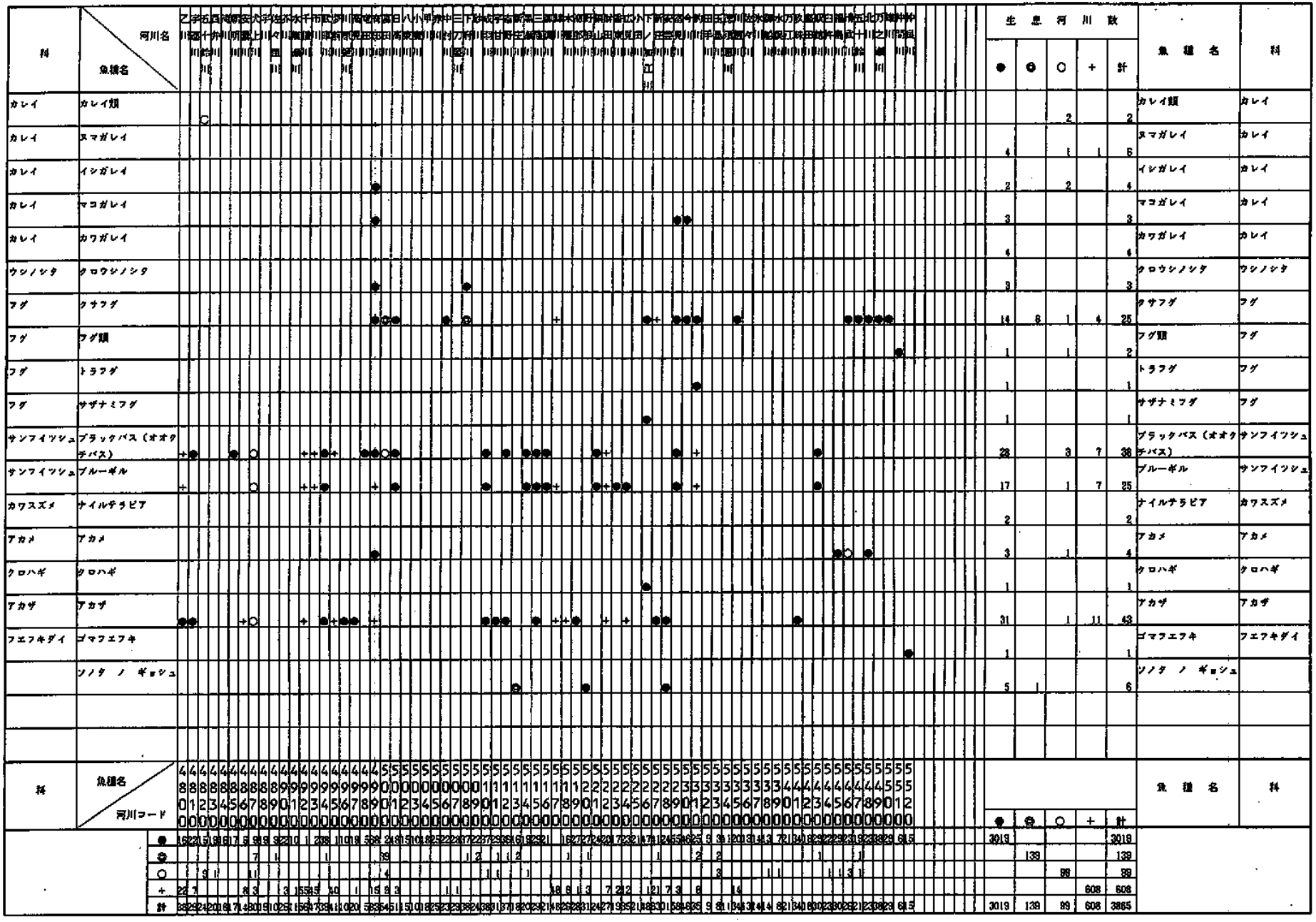
科	魚種名 ＼ 河川名	生息河川数 ●	◎	○	＋	計	魚種名	科
ハゼ	シマハゼ				1	1	シマハゼ	ハゼ
ハゼ	イトミミズハゼ	2				2	イトミミズハゼ	ハゼ
ハゼ	イシハゼ			1		1	イシハゼ	ハゼ
ハゼ	インコハゼ	1				1	インコハゼ	ハゼ
ハゼ	ボウズハゼ	2				2	ボウズハゼ	ハゼ
カサゴ（フサカサゴ）	クロソイ				1	1	クロソイ	カサゴ（フサカサゴ）
カサゴ（フサカサゴ）	ハオコゼ	1				1	ハオコゼ	カサゴ（フサカサゴ）
カサゴ（フサカサゴ）	アゴヒゲオコゼ	1				1	アゴヒゲオコゼ	カサゴ（フサカサゴ）
アイナメ	アイナメ			1		1	アイナメ	アイナメ
コチ	コチ（マゴイ）	3		3		6	コチ（マゴイ）	コチ
コチ	マゴチ	3				3	マゴチ	コチ
コチ	ヌメリゴチ				1	1	ヌメリゴチ	コチ
カジカ	カマキリ	7	1		3	11	カマキリ	カジカ
カジカ	ハナカジカ	8				8	ハナカジカ	カジカ
カジカ	カンキョウカジカ	3			2	5	カンキョウカジカ	カジカ
カジカ	カジカ	45	2	1	11	59	カジカ	カジカ
カジカ	アユカケ	15	2	1	3	21	アユカケ	カジカ
カジカ	カジカ類	11			1	12	カジカ類	カジカ
カジカ	エゾハナカジカ	3				3	エゾハナカジカ	カジカ
ヒラメ	ヒラメ	4				4	ヒラメ	ヒラメ

科	魚種名 ＼ 河川コード	魚種名	科
	4488012000 4488023000 4488034000 4488045000 4488056000 4488067000 4488078000 4488089000 4489001000 4489012000 4489023000 4489034000 4489045000 4489056000 4489067000 4489078000 4489089000 4490001000 4490012000 4490023000 4490034000 4490045000 4490056000 4490067000 4490078000 4490089000 4491001000 4491012000 4491023000 4491034000 4491045000 4491056000 4491067000 4491078000 4491089000 4492001000 4492012000 4492023000 4492034000 4492045000 4492056000 4492067000 4492078000 4492089000 4493001000 4493012000 4493023000 4493034000 4493045000 4493056000 4493067000 4493078000 4493089000 4494001000 4494012000 4494023000 4494034000 4494045000 4494056000 4494067000 4494078000 4494089000 4495001000 4495012000 4495023000 4495034000 4495045000 4495056000 4495067000 4495078000 4495089000 4496001000 4496012000 4496023000 4496034000 4496045000 4496056000 4496067000 4496078000 4496089000 4497001000 4497012000 4497023000 4497034000 4497045000 4497056000 4497067000 4497078000 4497089000 4498001000 4498012000 4498023000 4498034000 4498045000 4498056000 4498067000 4498078000 4498089000 4499001000 4499012000 4499023000 4499034000 4499045000 4499056000 4499067000 4499078000 4499089000 4500001000 4500012000 4500023000 4500034000 4500045000 4500056000 4500067000 4500078000 4500089000 4501001000 4501012000 4501023000 4501034000 4501045000 4501056000 4501067000 4501078000 4501089000 4502001000 4502012000 4502023000 4502034000 4502045000 4502056000 4502067000 4502078000 4502089000 4503001000 4503012000 4503023000 4503034000 4503045000 4503056000 4503067000 4503078000 4503089000 4504001000 4504012000 4504023000 4504034000 4504045000 4504056000 4504067000 4504078000 4504089000 4505001000 4505012000 4505023000 4505034000 4505045000 4505056000 4505067000 4505078000 4505089000 4506001000 4506012000 4506023000 4506034000 4506045000 4506056000 4506067000 4506078000 4506089000 4507001000 4507012000 4507023000 4507034000 4507045000 4507056000 4507067000 4507078000 4507089000 4508001000 4508012000 4508023000 4508034000 4508045000 4508056000 4508067000 4508078000 4508089000 4509001000 4509012000 4509023000 4509034000 4509045000 4509056000 4509067000 4509078000 4509089000 4510001000 4510012000 4510023000 4510034000 4510045000 4510056000 4510067000 4510078000 4510089000 4511001000 4511012000 4511023000 4511034000 4511045000 4511056000 4511067000 4511078000 4511089000 4512001000 4512012000 4512023000 4512034000 4512045000 4512056000 4512067000 4512078000 4512089000	魚種名	科

●確認および放流
●確認（追跡試験による）
○確認（聞き取り，聞き取り＋資料による）
＋記録



●確認および放流
◎確認（漁獲試験による）
○確認（聞き取り，聞き取り＋資料による）
＋記録



放流状況

即放流 （ 粒数 ）　　（ ）構成比率　　頁 1 / 1

県	河川NO	放流量計	放流量（千粒/年） イワナ(ニッコウイワナ)	サケ	ヤマメ(ニッコウヤマメ)	ビワマス	アマゴ	アユ	ワカサギ	ウグイ
北海道	4090	23160.0						23160.0 (100.0)		
	朱太川									
宮城県	4210	4800.0							4800.0 (100.0)	
	白石川									
山形県	4290	60.0							60.0 (100.0)	
	赤川水系									
福島県	4350	5.0	5.0 (100.0)							
	野尻川									
茨城県	4360	3000.0							3000.0 (100.0)	
	大北川									
群馬県	4370	33.0	4.0 (12.1)		8.0 (24.2)				21.0 (63.6)	
	根利川									
群馬県	4400	20.0			20.0 (100.0)					
	鳥川									
新潟県	4490	3700.0						2000.0 (54.1)		1700.0 (45.9)
	羽黒川									
新潟県	4500	240.0								240.0 (100.0)
	加治川									
石川県	4560	600.0		600.0 (100.0)						
	鹿川									
福井県	4600	1800.0							1800.0 (100.0)	
	日野川									
山梨県	4620	5.0					5.0 (100.0)			
	笛吹川									
長野県	4630	145.0	145.0 (100.0)							
	天竜川									
長野県	4640	142.0	52.0 (36.6)				90.0 (63.4)			
	三峰川									
長野県	4650	70.0			70.0 (100.0)					
	奈良井川									
岐阜県	4680	5200.0						5200.0 (100.0)		
	揖斐川									
静岡県	4730	4.0					4.0 (100.0)			
	狩野川									
滋賀県	4860	40.0				40.0 (100.0)				
	安曇川									
滋賀県	4870	28.0				10.0 (35.7)	18.0 (64.3)			
	犬上川									
兵庫県	4930	3400.0							3400.0 (100.0)	
	市川									
広島県	5100	13000.0							13000.0 (100.0)	
	成羽川									
福岡県	5300	5000.0							5000.0 (100.0)	
	今川									
大分県	5410	2427.0			27.0 (1.1)				2400.0 (98.9)	
	玖珠川									
総計		66879.0	206.0 (0.3)	600.0 (0.9)	125.0 (0.2)	50.0 (0.1)	117.0 (0.2)	30360.0 (45.4)	33481.0 (50.1)	1940.0 (2.9)

稚魚放流 （ 尾数 ）　　（ ）構成比% 頁 1 / 1

放 流 量 （ 千尾／年 ）

県	河川NO	放流量計	コイ
大分県	5440 日代川	1.0	1.0 (100.0)
	総 計	1.0	1.0 (100.0)

放 流 量 (Kg/年)

県　河川ｺｰﾄﾞ　放流届出　ｸﾛﾒｲ

兵庫県	4640	4300.0	4300.0
	三蓮川		(100.0)
	総 計	4300.0	4300.0
			(100.0)

県	河川NO 河川名	放流量（千尾／年） 放流量計	カワヤツメ	アメマス	イワナ（ニッコウイワナ）	ニジマス（スチールヘッド）	カラフトマス	サケ	マスノスケ	サクラマス	ヤマメ（ニッコウヤマメ）	ビワマス
北海道	4020 風蓮川	13292.0					2839.0 (21.4)	10246.0 (77.1)		207.0 (1.6)		
北海道	4040 歌登別川	12978.0						12978.0 (100.0)				
北海道	4050 別寒辺牛川	7808.0						7808.0 (100.0)				
北海道	4060 浪岡部川	19699.0					1328.0 (6.7)	17607.0 (89.4)		714.0 (3.6)		
北海道	4070 厚田川	2198.0						2198.0 (100.0)				
北海道	4080 仙鳳趾川	12802.0					4328.0 (33.8)	8474.0 (66.2)				
北海道	4090 朱太川	7008.0						6358.0 (90.7)		600.0 (8.6)		
北海道	4100 鷹泊川	13579.0						13579.0 (100.0)				
北海道	4110 西別川	9077.0					5135.0 (56.6)	3658.0 (40.3)		284.0 (3.1)		
北海道	4120 目梨泊別川	8483.0						8212.0 (96.8)		271.0 (3.2)		
北海道	4130 千歳川	4284.0						3961.0 (92.5)		323.0 (7.5)		
青森県	4140 相坂川	8189.0				50.0 (0.6)		7952.0 (97.1)			90.0 (1.1)	
青森県	4150 赤石川	40.0						13.0 (32.5)			10.0 (25.0)	
青森県	4160 笹内川	2717.2						2673.0 (98.4)			10.0 (0.4)	
岩手県	4170 宮家川	495.0			14.0 (2.8)		40.0 (8.1)				230.0 (46.5)	
岩手県	4180 和賀川	370.0				10.0 (2.7)		100.0 (27.0)			50.0 (13.5)	
岩手県	4190 気仙川	525.0			25.0 (4.8)						115.0 (21.9)	
宮城県	4200 滝川	44.8		23.0 (51.3)		6.8 (15.2)						
宮城県	4210 白石川	105.4		25.0 (23.7)							35.0 (33.2)	
宮城県	4230 江合川	82.6				0.9 (1.1)					22.2 (26.9)	
秋田県	4240 雄物川	262.0									100.4 (38.3)	
秋田県	4260 米代川	470.2						167.6 (35.6)			86.6 (18.4)	
秋田県	4270 石沢川	642.7	0.5 (0.1)					407.2 (63.4)			33.4 (5.2)	
山形県	4280 最上小国川	1098.9			10.0 (0.9)	10.0 (0.9)		453.0 (41.2)		10.0 (0.9)	55.0 (5.0)	
山形県	4290 赤川江川	482.0			33.4 (6.9)	6.8 (1.4)		240.0 (49.8)		20.0 (4.1)	13.8 (2.9)	

稚魚放流（尾数）　　（）構成比%　　頁 2 / 1

県	河川NO	放流量（千尾/年） アマゴ	イワナ ルイ	アユ	ニゴイ	ウグイ	タカハヤ	ソウギョヨ	オイカワ	コイ	キンブナ
北海道	4020 島牧川										
北海道	4040 最雄別川										
北海道	4050 尻岸辺牛川										
北海道	4060 湧洞舟川			50.0 (0.3)							
北海道	4070 厚田川										
北海道	4080 仁別川										
北海道	4090 朱太川			50.0 (0.7)							
北海道	4100 標津川										
北海道	4110 西別川										
北海道	4120 日高幌別川										
北海道	4130 千歳川										
青森県	4140 相坂川			70.0 (0.9)						25.0 (0.3)	
青森県	4150 赤石川			17.0 (42.5)							
青森県	4160 蒲田川			8.2 (0.3)						26.0 (1.0)	
岩手県	4170 安家川			210.0 (42.4)							
岩手県	4180 和賀川			200.0 (54.1)						10.0 (2.7)	
岩手県	4190 気仙川			372.0 (70.9)						7.0 (1.3)	
宮城県	4200 迫川									15.0 (33.5)	
宮城県	4210 白石川									42.2 (40.0)	
宮城県	4230 江合川	35.0 (42.6)								23.3 (28.2)	
秋田県	4240 桧木川			161.6 (61.7)							
秋田県	4260 岩見川			216.0 (45.9)							
秋田県	4270 石沢川			199.7 (31.1)						1.9 (0.3)	
山形県	4280 最上小国川			544.8 (49.6)						8.0 (0.7)	
山形県	4290 寒河江川			168.0 (34.9)							

県	河川NO	放流量（千尾/年） キﾝﾌﾞﾅ	ニｺﾞﾛﾌﾞﾅ	ｹﾞﾝｺﾞﾛｳﾌﾞﾅ	ﾌﾅﾙｲ	ｷﾝﾌﾞﾅﾙｲ	ﾄﾞｼﾞﾖｳ	ﾅﾏｽﾞ	ｳﾅｷﾞ	ｵｵｳﾅｷﾞ
北海道	4020 風蓮川									
北海道	4040 最寒別川									
北海道	4050 別寒辺牛川									
北海道	4060 湧洞郷川									
北海道	4070 琵琶川									
北海道	4080 俱多川									
北海道	4090 朱太川									
北海道	4100 尾白川									
北海道	4110 頓別川									
北海道	4120 目梨郷別川									
北海道	4130 千歳川									
青森県	4140 相坂川								2.0 (0.0)	
青森県	4150 赤石川									
青森県	4160 熊田川									
岩手県	4170 安家川								1.0 (0.2)	
岩手県	4180 和賀川									
岩手県	4190 気仙川	1.0 (0.2)							5.0 (1.0)	
宮城県	4200 滝川									
宮城県	4210 白石川	3.2 (3.0)								
宮城県	4230 江合川		1.2 (1.5)							
秋田県	4240 鮭見川									
秋田県	4260 岩見川									
秋田県	4270 石沢川									
山形県	4280 最上小国川				8.0 (0.7)				0.1 (0.0)	
山形県	4290 寒河江川									

稚魚放流 （ 尾数 ）　　（ ）構成比%　　頁 1 / 2

県	河川NO	放流量計	放流量（千尾/年） カワヤツメ	アメマス	イワナ（ニッコウイワナ）	ニジマス（スチールヘッド）	カラフトマス	サケ	マスノスケ	サクラマス	ヤマメ（ニッコウヤマメ）	ビワマス
山形県	4310	262.1			2.5	1.0		82.2		24.9	4.4	
	鳥川				(1.0)	(0.4)		(31.4)		(9.5)	(1.7)	
福島県	4320	2434.9			3.2			2349.0			57.6	
	阿賀川				(0.1)			(96.5)			(2.4)	
福島県	4330	25.1			1.5						23.6	
	新田川				(6.0)						(94.0)	
福島県	4340	7689.0			196.0						108.0	
	伊南川				(2.5)						(1.4)	
福島県	4350	658.0			28.0						30.0	
	野尻川				(4.3)						(4.6)	
茨城県	4360	486.0						456.0			30.0	
	大北川							(93.8)			(6.2)	
茨城県	4380	1.0										
	小貝川											
栃木県	4370	765.5			22.9	22.5					306.9	
	鬼怒瀬川				(3.0)	(2.9)					(40.1)	
栃木県	4380	123.0										
	小貝川											
栃木県	4390	678.0			13.2	237.8					48.4	
	荒川				(1.9)	(35.1)					(7.1)	
群馬県	4370	477.2				20.6					72.9	
	鬼怒瀬川					(4.3)					(15.3)	
群馬県	4400	45.0									45.0	
	鳥川										(100.0)	
埼玉県	4370	20.0										
	鬼怒瀬川											
埼玉県	4410	1240.0				59.0					180.0	
	高瀬川					(4.8)					(14.5)	
東京都	4450	236.0				25.0					31.0	
	鴻川					(10.6)					(13.1)	
神奈川県	4460	1181.0				10.0					9.0	
	酒匂川					(0.8)					(0.8)	
新潟県	4480	9650.6			56.4			9538.0			56.2	
	三面川				(0.6)			(98.8)			(0.6)	
新潟県	4490	16.7			7.1						9.6	
	関渡川				(42.5)						(57.5)	
新潟県	4500	1695.6			10.6			1502.0			183.0	
	加治川				(0.6)			(88.6)			(10.8)	
石川県	4560	319.0									5.0	
	鹿川										(1.6)	
石川県	4570	391.0			20.0						5.0	
	大聖寺川				(5.1)						(1.3)	
福井県	4580	49.8									6.0	
	底川										(12.0)	
福井県	4590	9.0			3.0							
	足羽川				(33.3)							
福井県	4600	72.0			12.0							
	目野川				(16.7)							
山梨県	4610	202.0				12.0						
	早川					(5.9)						

稚魚放流 （ 尾数 ）　　（ ）構成比%　　頁 2 / 2

県	河川NO	アマゴ	イワナ ルイ	アユ	放流量（千尾/年） ニコ゛イ	ウグ゛イ	タカハヤ	ソウキ゛ヨ	オイカワ	コイ	キンブ゛ナ
山形県	4310			146.8							0.3
	鳥川			(56.0)							(0.1)
福島県	4320					25.1					
	夏井川					(1.0)					
福島県	4330										
	新田川										
福島県	4340					7385.0					
	伊南川					(96.0)					
福島県	4350					600.0					
	野尻川					(91.2)					
茨城県	4360										
	大北川										
茨城県	4380							1.0			
	小貝川							(100.0)			
栃木県	4370			357.9		3.6				25.4	
	湯西川川			(46.8)		(0.5)				(3.3)	
栃木県	4380			81.0		26.0				16.0	
	小貝川			(65.9)		(21.1)				(13.0)	
栃木県	4390			365.7						12.9	
	鬼怒川			(53.9)						(1.9)	
群馬県	4370			320.0		4.0				0.7	
	湯西川川			(67.1)		(0.8)				(0.1)	
群馬県	4400										
	鳥川										
埼玉県	4370									20.0	
	湯西川川									(100.0)	
埼玉県	4410			434.0		555.0					
	高麗川			(35.0)		(44.8)					
東京都	4450			20.0						60.0	
	浦川			(8.5)						(25.4)	
神奈川県	4460			1127.0						14.0	
	酒匂川			(95.4)						(1.2)	
新潟県	4480										
	三面川										
新潟県	4490										
	荒沢川										
新潟県	4500										
	加治川										
石川県	4560			314.0							
	犀川			(98.4)							
石川県	4570			360.0						3.0	
	大聖寺川			(92.1)						(0.8)	
福井県	4580	43.8									
	南川	(88.0)									
福井県	4590	4.0								1.0	
	足羽川	(44.4)								(11.1)	
福井県	4600	55.0								0.6	
	日野川	(76.4)								(0.8)	
山梨県	4610	140.0		50.0							
	早川	(69.3)		(24.8)							

稚魚放流 （ 尾数 ）　　（ ）構成比%　　頁 3 / 2

放 流 量 （ 千尾/年 ）

県	河川NO	ｷﾝﾌﾞﾅ	ﾆｺﾞﾛﾌﾞﾅ	ｹﾞﾝｺﾞﾛｳﾌﾞﾅ	ﾌﾅﾙｲ	ｷﾝﾌﾞﾅﾙｲ	ﾄﾞｼﾞｮｳ	ﾅﾏｽﾞ	ｳﾅｷﾞ	ｵｵｳﾅｷﾞ
山形県	4310 最上川									
福島県	4320 阿賀川									
福島県	4330 新田川									
福島県	4340 使用川									
福島県	4350 野岸川									
茨城県	4360 大北川									
茨城県	4380 小貝川									
栃木県	4370 湯西川川				26.3 (3.4)					
栃木県	4380 小貝川									
栃木県	4390 渡川									
群馬県	4370 渡良瀬川			7.1 (1.5)					51.9 (10.9)	
群馬県	4400 鳥川									
埼玉県	4370 渡良瀬川									
埼玉県	4410 荒川川								12.0 (1.0)	
東京都	4450 多摩川	100.0 (42.4)								
神奈川県	4460 酒匂川				15.0 (1.3)				6.0 (0.5)	
新潟県	4480 三面川									
新潟県	4490 羽越川									
新潟県	4500 加治川									
石川県	4560 犀川									
石川県	4570 大聖寺川	3.0 (0.8)								
福井県	4580 南川									
福井県	4590 足羽川				1.0 (11.1)					
福井県	4600 日野川				4.4 (6.1)					
山梨県	4610 富士川									

稚魚放流（尾数）　　（）構成比%　　頁 1 / 3

放流量（千尾/年）

県	河川NO	放流量計	カワヤツメ	アメマス	イワナ(ニッコウイワナ)	ニジマス(スチールヘッド)	カラフトマス	サケ	マスノスケ	サクラマス	ヤマメ(ニッコウヤマメ)	ビワマス
山梨県	4620 笛吹川	1102.0										
長野県	4630 天竜川	229.0			50.0 (21.8)						90.0 (39.3)	
長野県	4640 三峰川	72.9										
長野県	4650 奈良井川	270.2			21.7 (8.0)	25.2 (9.3)					41.4 (15.3)	
長野県	4670 上川	116.2			20.1 (17.3)	3.1 (2.7)						
岐阜県	4680 揖斐川	2671.0				94.0 (3.5)						
岐阜県	4681 揖斐川	3353.0			2.0 (0.1)	2.0 (0.1)						
岐阜県	4690 武儀川	508.0			9.0 (1.8)	3.0 (0.6)						
岐阜県	4700 吉田川	1785.0			9.0 (0.5)							
岐阜県	4710 飛騨川	7724.0			250.0 (3.2)	66.0 (0.9)						
岐阜県	4720 牧田川	15.0				3.0 (20.0)			3.0 (20.0)			
静岡県	4460 鮎沢川	48.8				37.2 (76.2)						
静岡県	4730 狩野川	30.7				2.3 (7.5)						
静岡県	4750 興津川	1513.4				20.0 (1.3)						
静岡県	4760 瀬戸川	382.0										
愛知県	4770 境戸川	75.0										
愛知県	4780 名倉川	779.0				3.0 (0.4)					50.0 (6.4)	
愛知県	4790 巴川	939.0				880.0 (93.7)					35.0 (3.7)	
愛知県	4800 乙川	361.0				3.0 (0.8)					7.0 (1.9)	
愛知県	4810 宇連川	240.1				0.6 (0.2)					20.0 (8.3)	
三重県	4830 員弁川	583.0										
滋賀県	4860 安曇川	803.0			26.0 (3.2)	6.0 (0.7)					134.0 (16.7)	
滋賀県	4870 犬上川	10122.0			50.0 (0.5)	4200.0 (41.5)					72.0 (0.7)	
京都府	4880 宇川	80000.0										
京都府	4890 佐々里川	262.0										

種苗放流（尾数）　　（ ）構成比%　　頁 2 / 3

県	河川NO	放流量（千尾/年） アマゴ	イワナ ルイ	アユ	ニジマス	ウグイ	タカハヤ	ソウギョ	オイカワ	コイ	キンブナ
山梨県	4620	430.0		670.0						2.0	
	笛吹川	(39.0)		(60.8)						(0.2)	
長野県	4630	89.0									
	玉滝川	(38.9)									
長野県	4640			72.9							
	三峰川			(100.0)							
長野県	4650			144.7		37.2					
	奈良井川			(53.6)		(13.8)					
長野県	4670	40.3		52.3							
	上川	(34.7)		(45.0)							
岐阜県	4680	1088.0		1004.0						161.0	
	根尾川	(40.7)		(37.6)						(6.0)	
岐阜県	4681	1671.0		1660.0							11.0
	根尾川	(49.8)		(49.5)							(0.3)
岐阜県	4690	103.0		387.0						2.0	
	武儀川	(20.3)		(76.2)						(0.4)	
岐阜県	4700	1601.0		45.0	3.0					3.0	
	吉田川	(89.7)		(2.5)	(0.2)					(0.2)	
岐阜県	4710	872.0		6532.0							
	飛騨川	(11.3)		(84.6)							
岐阜県	4720			7.0						1.0	
	牧田川			(46.7)						(6.7)	
静岡県	4460	11.6									
	鮎沢川	(23.8)									
静岡県	4730			18.4						2.0	
	安倍川			(59.9)						(6.5)	
静岡県	4750	10.4		1481.0							
	興津川	(0.7)		(97.9)							
静岡県	4760	6.0		376.0							
	瀬戸川	(1.6)		(98.4)							
愛知県	4770									50.0	
	瀬戸川									(66.7)	
愛知県	4780			706.0							
	名倉川			(90.6)							
愛知県	4790										
	巴川										
愛知県	4800			345.0							
	乙川			(95.6)							
愛知県	4810			208.0						1.5	
	宇連川			(86.6)						(0.6)	
三重県	4830			583.0							
	日井川			(100.0)							
滋賀県	4860	28.0		605.0						2.0	
	安曇川	(3.5)		(75.3)						(0.2)	
滋賀県	4870	5800.0									
	犬上川	(57.3)									
京都府	4880			80000.0							
	宇川			(100.0)							
京都府	4890	250.0								5.0	
	佐々里川	(95.4)								(1.9)	

放 流 量 （ 千尾/年 ）

県	河川NO	ｷﾞﾝﾌﾞﾅ	ﾆｺﾞﾛﾌﾞﾅ	ｹﾞﾝｺﾞﾛｳﾌﾞﾅ	ﾌﾅﾙｲ	ｷﾞﾝﾌﾞﾅﾙｲ	ﾄﾞｼﾞｮｳ	ﾅﾏｽﾞ	ｳﾅｷﾞ	ｵｵｳﾅｷﾞ
山梨県	4620 笛吹川									
長野県	4630 天竜川									
長野県	4640 三峰川									
長野県	4650 奈良井川									
長野県	4670 上川								0.4 (0.3)	
岐阜県	4680 揖斐川	303.0 (11.3)						2.0 (0.1)	19.0 (0.7)	
岐阜県	4681 根尾川								7.0 (0.2)	
岐阜県	4690 武儀川								4.0 (0.8)	
岐阜県	4700 吉田川								124.0 (6.9)	
岐阜県	4710 飛騨川								4.0 (0.1)	
岐阜県	4720 牧田川								1.0 (6.7)	
静岡県	4460 鮎沢川									
静岡県	4730 富野川					8.0 (26.1)				
静岡県	4750 黒瀬川								2.0 (0.1)	
静岡県	4760 瀬戸川									
愛知県	4770 矢戸川				25.0 (33.3)					
愛知県	4780 名倉川								20.0 (2.6)	
愛知県	4790 巴川	4.0 (0.4)		10.0 (1.1)					10.0 (1.1)	
愛知県	4800 乙川								6.0 (1.7)	
愛知県	4810 宇連川	4.0 (1.7)							6.0 (2.5)	
三重県	4830 日光川									
滋賀県	4860 安曇川								2.0 (0.2)	
滋賀県	4870 犬上川									
京都府	4880 宇川									
京都府	4890 佐々里川				7.0 (2.7)					

県	河川ＩＤ	放流量計	放流量（千尾/年） カワヤツメ	アメマス	イワナ（ニッコウイワナ）	ニジマス（スチールヘッド）	カラフトマス	サケ	マスノスケ	サクラマス	ヤマメ（ニッコウヤマメ）	ビワマス
京都府	4900	60.0										
	木津川											
兵庫県	4920	70.0				3.0						
	千種川					(4.3)						
兵庫県	4930	176.0				25.0						
	市川					(14.2)						
兵庫県	4940	4.0				1.0						
	武庫川					(25.0)						
兵庫県	4950	9.0										
	原前川											
奈良県	4960	136.0										
	川原樋川											
奈良県	4970	978.0										
	高見川											
和歌山県	4990	298.4										
	有田川											
和歌山県	5000	506.5										
	富田川											
和歌山県	5010	1515.0										
	日高川											
鳥取県	5020	230.2									25.0	
	八東川										(10.9)	
鳥取県	5040	3.0			1.5						1.5	
	甲川				(50.0)						(50.0)	
島根県	5050	40.8										
	赤川											
島根県	5070	4.3									2.2	
	三刀屋川										(51.2)	
岡山県	5100	733.0										
	成羽川											
岡山県	5120	736.0				1.0						
	吉野川					(0.1)						
岡山県	5130	10.0										
	新庄川											
広島県	5100	753.0										
	成羽川											
広島県	5150	277.0										
	三篠川											
広島県	5160	7.3										
	穂瀬川											
山口県	5170	19090.6										
	錦川											
山口県	5180	106.6										
	木屋川											
徳島県	5190	237000.0										
	那賀川											
愛媛県	5210	346.0				40.0						
	御山川					(11.6)						
愛媛県	5240	145.0										
	足見川											

県	河川NO	放流量（千尾/年） アマゴ	イワナ ルイ	アユ	ニジマス	ウグイ	タカハヤ	ソウギョ	オイカワ	コイ	キンブナ
京都府	4900			60.0							
	赤川			(100.0)							
兵庫県	4920	55.0									6.0
	千種川	(78.6)									(8.6)
兵庫県	4930	113.0									24.0
	市川	(64.2)									(13.6)
兵庫県	4940										2.0
	倉床川										(50.0)
兵庫県	4950	4.0									4.0
	郡岡川	(44.4)									(44.4)
奈良県	4960	30.0		106.0							
	川原樋川	(22.1)		(77.9)							
奈良県	4970	27.0		946.0							
	高見川	(2.8)		(96.7)							
和歌山県	4990	65.0		208.4							25.0
	有田川	(21.8)		(69.8)							(8.4)
和歌山県	5000	3.5		503.0							
	富田川	(0.7)		(99.3)							
和歌山県	5010	133.0		1342.0							20.0
	日高川	(8.8)		(88.6)							(1.3)
鳥取県	5020			200.0							5.0
	八東川			(86.9)							(2.2)
鳥取県	5040										
	甲川										
島根県	5050			40.0							0.8
	赤川			(98.0)							(2.0)
島根県	5070										2.1
	三刀屋川										(48.8)
岡山県	5100	3.0		651.0					13.0		9.0
	成羽川	(0.4)		(88.8)					(1.8)		(1.2)
岡山県	5120	30.0		650.0					40.0		2.0
	吉野川	(4.1)		(88.3)					(5.4)		(0.3)
岡山県	5130	1.0		6.0							2.0
	新庄川	(10.0)		(60.0)							(20.0)
広島県	5100	133.0		554.0		13.0					20.0
	成羽川	(17.7)		(73.6)		(1.7)					(2.7)
広島県	5150			273.0							2.0
	三篠川			(98.6)							(0.7)
広島県	5160			3.3							2.0
	東洋川			(45.2)							(27.4)
山口県	5170			19000.0							9.2
	錦川			(99.5)							(0.0)
山口県	5180			69.2							5.2
	木屋川			(64.9)							(4.9)
徳島県	5190	20000.0		200000.0							
	那賀川	(8.4)		(84.4)							
愛媛県	5210	120.0		165.0							10.0
	銅山川	(34.7)		(47.7)							(2.9)
愛媛県	5240	30.0		70.0							15.0
	広見川	(20.7)		(48.3)							(10.3)

放流量 (千尾/年)

県	河川NO	キンブナ	ニゴロブナ	ゲンゴロウブナ	フナ計	キンブナ 計	トジョウ	ナマズ	ウナギ	オオウナギ
京都府	4900									
	赤川									
兵庫県	4920	6.0								
	千種川	(8.6)								
兵庫県	4930	14.0								
	市川	(8.0)								
兵庫県	4940	1.0								
	武庫川	(25.0)								
兵庫県	4950	1.0								
	夏梅川	(11.1)								
奈良県	4960									
	川原樋川									
奈良県	4970								5.0	
	高見川								(0.5)	
和歌山県	4990									
	有田川									
和歌山県	5000									
	富田川									
和歌山県	5010								20.0	
	日高川								(1.3)	
鳥取県	5020								0.2	
	八東川								(0.1)	
鳥取県	5040									
	甲川									
島根県	5050									
	飛行									
島根県	5070									
	三刀屋川									
岡山県	5100			48.0					9.0	
	成羽川			(6.5)					(1.2)	
岡山県	5120		3.0						10.0	
	吉野川		(0.4)						(1.4)	
岡山県	5130								1.0	
	新庄川								(10.0)	
広島県	5100								33.0	
	成羽川								(4.4)	
広島県	5150								2.0	
	三篠川								(0.7)	
広島県	5160				1.0				1.0	
	御調川				(13.7)				(13.7)	
山口県	5170								81.4	
	錦川								(0.4)	
山口県	5180								32.2	
	木原川								(30.2)	
徳島県	5190								17000.0	
	那賀川								(7.2)	
愛媛県	5210								11.0	
	銅山川								(3.2)	
愛媛県	5240								30.0	
	広見川								(20.7)	

稚魚放流（尾数）　　（）構成比%　　頁 1 / 5

県	河川NO	放流量計	放流量（千尾/年） カワヤツメ	アメマス	イワナ（ニッコウイワナ）	ニジマス（スチールヘッド）	カラフトマス	サケ	マスノスケ	サクラマス	ヤマメ（ニッコウヤマメ）	ビワマス
愛媛県	5250 小田川	153.2										
高知県	5200 野根川	191.0										
高知県	5260 下ノ加江川	16.0										
高知県	5270 奈呂川	151.0										
高知県	5280 安芸川	285.0										
福岡県	5290 室見川	103.0									14.0 (13.6)	
福岡県	5300 今川	64.0									7.5 (11.7)	
佐賀県	5320 徳手川	4.0									4.0 (100.0)	
佐賀県	5330 玉島川	12.0									3.0 (25.0)	
長崎県	5350 川棚川	15.0										
長崎県	5360 佐々川	42.0										
熊本県	5370 氷川	146.0										
熊本県	5380 御船川	157.0									8.0 (5.1)	
熊本県	5390 水俣川	320.0										
熊本県	5400 万江川	83.0									20.0 (24.1)	
大分県	5410 玖珠川	51.0										
大分県	5420 駄田川	41.0										
大分県	5430 駅館川	180.0										
大分県	5440 白炭川	24.0										
宮崎県	5450 福泉川	26.6									2.3 (8.6)	
宮崎県	5460 酒谷川	152.9									2.4 (1.6)	
宮崎県	5470 五十鈴川	83.6									4.7 (5.6)	
宮崎県	5480 北川	114.7									3.3 (2.9)	
鹿児島県	5490 万之瀬川	63.0				14.0 (22.2)						
	総 計	535160.3	0.5 (0.0)	48.0 (0.0)	898.1 (0.2)	5904.8 (1.1)	13670.0 (2.6)	121012.0 (22.6)	3.0 (0.0)	2453.9 (0.5)	2292.3 (0.4)	318.0 (0.1)

稚魚放流 （ 尾数 ）　　（ ）構成比%　　頁 2 / 5

県	河川ｺｰﾄﾞ	放流量（千尾/年） アマゴ	イワナ ルイ	アユ	ニゴイ	ウグイ	タカハヤ	ソウギョ	オイカワ	コイ	キンブナ
愛媛県	5250	5.0		140.0							4.0
	小田川	(3.3)		(91.4)							(2.6)
高知県	5200	17.0		166.0							
	野根川	(8.9)		(86.9)							
高知県	5260			11.0							
	下ノ加江川			(68.8)							
高知県	5270			142.0							1.0
	新荘川			(94.0)							(0.7)
高知県	5280	104.0		168.0							2.0
	安芸川	(36.5)		(58.9)							(0.7)
福岡県	5290			50.0					30.0		6.0
	宮見川			(48.5)					(29.1)		(5.8)
福岡県	5300			30.0					15.0		6.0
	今川			(46.9)					(23.4)		(9.4)
佐賀県	5320										
	田手川										
佐賀県	5330			9.0							
	玉島川			(75.0)							
長崎県	5350			4.0							6.0
	川棚川			(26.7)							(40.0)
長崎県	5360			37.0							5.0
	佐々川			(88.1)							(11.9)
熊本県	5370			138.0							4.0
	氷川			(94.5)							(2.7)
熊本県	5380			77.0					60.0		5.0
	緑川			(49.0)					(38.2)		(3.2)
熊本県	5390			316.0							4.0
	水俣川			(98.7)							(1.2)
熊本県	5400			54.0							
	万江川			(65.1)							
大分県	5410			40.0							7.0
	玖珠川			(78.4)							(13.7)
大分県	5420			41.0							
	緒田川			(100.0)							
大分県	5430			157.0							4.0
	駅館川			(87.2)							(2.2)
大分県	5440			24.0							
	日指川			(100.0)							
宮崎県	5450			10.0							9.5
	祝島川			(37.6)							(35.7)
宮崎県	5460			87.1							9.2
	浜砂川			(57.0)							(6.0)
宮崎県	5470			52.2							17.8
	五十鈴川			(62.4)							(21.3)
宮崎県	5480			92.4							9.0
	北川			(80.6)							(7.8)
鹿児島県	5490			11.0							34.0
	万之瀬川			(17.5)							(54.0)
総計		33116.6	35.0	327444.6	3.0	8635.9	13.0	1.0	158.0	840.6	11.0
		(6.2)	(0.0)	(61.2)	(0.0)	(1.6)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.2)	(0.0)

県	河川NO	放流量（千尾/年） キﾝﾌﾞﾅ	ニｺﾞﾛﾌﾞﾅ	ｸﾞﾝｺﾞﾛﾌﾞﾅ	ﾌﾅﾙｲ	ｷﾝﾌﾞﾅﾙｲ	ﾄﾞｼﾞﾖｳ	ﾅﾏｽﾞ	ｳﾅｷﾞ	ｵｵｳﾅｷﾞ
愛媛県	5250 小田川								4.2 (2.7)	
高知県	5200 野根川								8.0 (4.2)	
高知県	5260 下ノ加江川								5.0 (31.3)	
高知県	5270 新荘川								8.0 (5.3)	
高知県	5280 奈良川								11.0 (3.9)	
福岡県	5290 高見川	3.0 (2.9)								
福岡県	5300 会川	3.3 (5.2)					0.2 (0.3)		2.0 (3.1)	
佐賀県	5320 田手川									
佐賀県	5330 玉島川									
長崎県	5350 川棚川	5.0 (33.3)								
長崎県	5360 佐々川									
熊本県	5370 氷川								4.0 (2.7)	
熊本県	5380 御船川								7.0 (4.5)	
熊本県	5390 水俣川									
熊本県	5400 万江川								9.0 (10.8)	
大分県	5410 坂瑠川								4.0 (7.8)	
大分県	5420 竜田川									
大分県	5430 駅館川		7.0 (3.9)							12.0 (6.7)
大分県	5440 白岩川									
宮崎県	5450 福島川								4.8 (18.0)	
宮崎県	5460 酒谷川						3.4 (2.2)		50.8 (33.2)	
宮崎県	5470 五十鈴川	0.5 (0.6)							8.4 (10.0)	
宮崎県	5480 北川	0.5 (0.4)							9.5 (8.3)	
鹿児島県	5490 万之瀬川								4.0 (6.3)	
	総 計	452.5 (0.1)	10.0 (0.0)	66.3 (0.0)	87.7 (0.0)	8.0 (0.0)	3.6 (0.0)	2.0 (0.0)	17658.9 (3.3)	12.0 (0.0)

稚魚放流 （ 箇所 ）　　（ ）構成比%　　頁 1 / 1

県	河川NO	放流総計	放流量（Kg/年） イワナ（ニッコウイワナ）	ニジマス（スチールヘッド）	ヤマメ（ニッコウヤマメ）	アマゴ	アユ	ワカサギ	ウグイ	オイカワ	コイ	キンブナ
宮城県	4200	200.0					200.0					
	迫川						(100.0)					
宮城県	4210	1870.0					1870.0					
	白石川						(100.0)					
宮城県	4230	1074.0					1074.0					
	江合川						(100.0)					
秋田県	4240	1560.0									1560.0	
	相馬川										(100.0)	
秋田県	4260	440.0		200.0							240.0	
	雄見川			(45.5)							(54.5)	
福島県	4320	1378.0					518.0				378.0	
	夏井川						(37.6)				(27.4)	
福島県	4330	620.0					550.0		40.0		15.0	
	新田川						(88.7)		(6.5)		(2.4)	
福島県	4340	1266.0					1266.0					
	伊尾川						(100.0)					
福島県	4350	8000.0					8000.0					
	野反川						(100.0)					
茨城県	4360	672.0					252.0				100.0	
	太北川						(37.5)				(14.9)	
茨城県	4380	2065.0					100.0	100.0			800.0	
	小貝川						(4.8)	(4.8)			(38.7)	
群馬県	4400	5890.0		2000.0			2000.0		200.0		1500.0	150.0
	鳥川			(34.0)			(34.0)		(3.4)		(25.5)	(2.5)
新潟県	4480	3084.0		112.0			2748.0				112.0	112.0
	三面川			(3.6)			(89.1)				(3.6)	(3.6)
新潟県	4490	320.0		76.0			166.0				39.0	39.0
	羽茂川			(23.7)			(51.9)				(12.2)	(12.2)
新潟県	4500	1072.0					660.0				160.0	252.0
	加治川						(61.6)				(14.9)	(23.5)
新潟県	4510	481.0					27.0				285.0	169.0
	鮎石川						(5.6)				(59.3)	(35.1)
石川県	4570	10.0										
	大聖寺川											
福井県	4580	2231.0		62.0			2051.0			50.0	34.0	
	南川			(2.8)			(91.9)			(2.2)	(1.5)	
福井県	4590	7235.0	17.0	420.0		89.0	6629.0				40.0	
	足羽川		(0.2)	(5.8)		(1.2)	(91.6)				(0.6)	
福井県	4600	1469.0					1239.0				70.0	
	日野川						(84.3)				(4.8)	
長野県	4630	11700.0	1500.0	2300.0	2900.0		2300.0				2500.0	
	王滝川		(12.8)	(19.7)	(24.8)		(19.7)				(21.4)	
長野県	4640	67000.0	5500.0	200.0		57600.0					3300.0	
	三峰川		(8.2)	(0.3)		(86.0)					(4.9)	
長野県	4650	62200.0	2300.0				2600.0		37200.0			
	奈良井川		(3.7)				(4.2)		(59.8)			
長野県	4660	580.0	250.0		300.0							
	依田川		(43.1)		(51.7)							
長野県	4670	1105.0			700.0				320.0		60.0	
	上川				(63.3)				(29.0)		(5.4)	

県	河川NO	放流量 (Kg/年) ｹﾝｺﾞﾛｸﾌﾞﾅ フナルイ	ﾄﾞｼﾞﾖｳ	ｷﾞｷﾞ	ウナギ	カジカ	ソノタ ノ ｷﾞﾖｼ 1
宮城県	4200 迫川						
宮城県	4210 鳥石川						
宮城県	4230 江合川						
秋田県	4240 鮎毛川						
秋田県	4260 雄見川						
福島県	4320 夏井川	472.0 (34.3)			10.0 (0.7)		
福島県	4330 新田川				15.0 (2.4)		
福島県	4340 泉原川						
福島県	4350 真野川						
茨城県	4360 大北川	300.0 (44.6)			20.0 (3.0)		
茨城県	4380 小貝川	950.0 (46.0)			115.0 (5.6)		
群馬県	4400 鬼川				40.0 (0.7)		
新潟県	4480 三面川						
新潟県	4490 羽茂川						
新潟県	4500 加治川						
新潟県	4510 姫石川						
石川県	4570 大聖寺川				10.0 (100.0)		
福井県	4580 磯川	34.0 (1.5)					
福井県	4590 足羽川	40.0 (0.6)					
福井県	4600 日野川	160.0 (10.9)					
長野県	4630 王滝川	200.0 (1.7)					
長野県	4640 三峰川				400.0 (0.6)		
長野県	4650 奈良井川				100.0 (0.2)	20000.0 (32.2)	
長野県	4660 犀川				30.0 (5.2)		
長野県	4670 上川	20.0 (1.8)	5.0 (0.5)				

県	河川NO 河川名	放流量計	放流量（Kg/年） イワナ（ニッコウイワナ）	ニジマス（スチールヘッド）	ヤマメ（ニッコウヤマメ）	アマゴ	アユ	ワカサギ	ウグイ	オイカワ	コイ	キンブナ
滋賀県	4870 犬上川	992.0					856.0 (86.3)					
京都府	4890 桂川	6180.0					6000.0 (97.1)			120.0 (1.9)		
大阪府	4900 石川	20500.0				20000.0 (97.6)	500.0 (2.4)					
大阪府	4910 水無瀬川	4500.0				4400.0 (97.8)	100.0 (2.2)					
兵庫県	4920 千種川	9027.0					8992.0 (99.6)					
兵庫県	4930 市川	3959.0					3891.0 (98.3)					
兵庫県	4940 武庫川	118.0					108.0 (91.5)					
兵庫県	4950 夢前川	480.0					480.0 (100.0)					
島根県	5050 斐川	12.0										
島根県	5070 三刀屋川	30.0										
	総 計	229320.0	9567.0 (4.2)	5370.0 (2.3)	3900.0 (1.7)	82089.0 (35.8)	55177.0 (24.1)	100.0 (0.0)	37760.0 (16.5)	170.0 (0.1)	11193.0 (4.9)	722.0 (0.3)

県	河川ｺｰﾄﾞ	放流量（Kg/年） ｹﾞﾝｺﾞﾛｸﾌﾞﾅ ﾌﾅﾙｲ	ﾄﾞｼﾞｮｳ	ｷﾞｷﾞ	ｳﾅｷﾞ	ｶｼﾞｶ	ｿﾉﾀ ﾉ ｷﾞﾖｼ 1
滋賀県	4870	62.0		44.0	30.0		
	犬上川	(6.3)		(4.4)	(3.0)		
京都府	4890				30.0	30.0	
	佐々里川				(0.5)	(0.5)	
大阪府	4900						
	芥川						
大阪府	4910						
	水無瀬川						
兵庫県	4920				35.0		
	千種川				(0.4)		
兵庫県	4930				68.0		
	市川				(1.7)		
兵庫県	4940				10.0		
	武庫川				(8.5)		
兵庫県	4950						
	野前川						
島根県	5050				12.0		
	斐川				(100.0)		
島根県	5070				30.0		
	三刀屋川				(100.0)		
	総 計	62.0	2176.0	5.0	44.0	955.0	30.0	20000.0
		(0.0)	(0.9)	(0.0)	(0.0)	(0.4)	(0.0)	(8.7)

漁獲状況

漁獲量（頂さ）　　（）構成比%　　頁 1 / 1

県	河川NO 河川名	漁獲量計	漁獲量（t/年） カワヤツメ	イワナ（ニッコウイワナ）	ニジマス（スチールヘッド）	サケ	マスノスケ	サクラマス	ヤマメ（ニッコウヤマメ）	ビワマス	アマゴ	マス
北海道	4020 尻別川	60.0										
北海道	4080 網別川	3.4										
北海道	4090 朱太川	2.4	0.5 (20.8)									
青森県	4150 来石川	0.3										
青森県	4160 鰺明川	1.7		0.2 (9.7)								
岩手県	4190 気仙川	42.6		1.1 (2.6)					3.1 (7.3)			
宮城県	4220 宮田川	1.0		0.0 (2.9)					0.0 (2.9)			
秋田県	4240 船毛川	3.5							0.2 (5.7)			
秋田県	4260 米代川	17.8	4.4 (24.7)	0.9 (5.1)	0.4 (2.2)				2.2 (12.4)			
秋田県	4270 石沢川	23.5	3.7 (15.7)	0.2 (0.9)					1.2 (5.1)			
山形県	4280 最上小国川	54.2	0.4 (0.7)	1.5 (2.8)	1.8 (3.3)	3.5 (6.5)		0.6 (1.1)	2.3 (4.2)			
山形県	4290 最河江川	42.2	4.8 (11.4)	2.4 (5.7)	1.9 (4.5)	0.7 (1.7)		0.2 (0.5)	1.5 (3.6)			
山形県	4300 日向川	24.9	1.2 (4.8)	0.9 (3.6)		16.4 (65.9)		0.3 (1.2)	0.7 (2.8)			
山形県	4310 赤川	6.5	2.2 (33.8)	1.0 (15.4)	0.1 (1.5)	0.3 (4.6)						
福島県	4320 夏井川	125.5		3.6 (2.9)		11.8 (9.4)			20.3 (16.2)			
福島県	4330 新田川	0.0							0.0 (14.3)			
福島県	4340 伊南川	43.8		1.5 (3.4)					1.4 (3.2)			
福島県	4350 野尻川	8.2		0.7 (8.5)					0.7 (8.5)			
栃木県	4370 鬼怒川	54.2		1.3 (2.4)	1.2 (2.2)				3.8 (7.0)			
栃木県	4380 小倉川	6.6										
栃木県	4390 荒川	52.8		0.9 (1.7)	12.1 (22.9)	0.2 (0.4)			5.7 (10.8)			
群馬県	4370 鬼怒川	48.8		1.0 (2.0)	2.2 (4.5)				5.4 (11.1)			
群馬県	4400 烏川	38.0		0.1 (0.3)	3.3 (8.6)				0.8 (2.1)			
埼玉県	4370 鬼怒川	4.4										
埼玉県	4410 高麗川	53.6			2.9 (5.4)							

漁獲量（重さ）　　（）構成比%　　頁 2 / 1

県	河川NO	漁獲量（t/年） サツキマス	アユ	チカ	ワカサギ	シラウオ	コイルイ	タモロコ	ニゴイ	カマツカ	ウグイ
北海道	4020			10.0	50.0						
	風蓮川			(16.7)	(83.3)						
北海道	4080				3.4						
	網別川				(100.0)						
北海道	4090		1.9								
	来太川		(79.2)								
青森県	4150		0.2								0.1
	赤石川		(66.7)								(33.3)
青森県	4160		0.2			0.5					0.6
	鰺田川		(12.9)			(32.1)					(38.1)
岩手県	4190		37.3								
	気仙川		(87.6)								
宮城県	4220		0.5								0.3
	直理川		(45.2)								(25.0)
秋田県	4240		1.7								0.8
	雄物川		(48.6)								(22.9)
秋田県	4260		3.8								5.5
	岩見川		(21.3)								(30.9)
秋田県	4270		5.4								5.7
	石沢川		(23.0)								(24.3)
山形県	4280		33.3								9.3
	最上小国川		(61.4)								(17.2)
山形県	4290		13.8								14.5
	赤川江川		(32.7)								(34.4)
山形県	4300		3.5								0.7
	日向川		(14.1)								(2.8)
山形県	4310		1.9								1.0
	角川		(29.2)								(15.4)
福島県	4320		27.3								19.5
	夏井川		(21.8)								(15.5)
福島県	4330		0.0								
	新田川		(57.1)								
福島県	4340		39.2								1.7
	伊南川		(89.5)								(3.9)
福島県	4350		6.0								0.8
	野尻川		(73.2)								(9.8)
栃木県	4370		19.7							1.3	5.5
	鬼怒川		(36.3)							(2.4)	(10.1)
栃木県	4380		0.4								0.9
	小貝川		(6.1)								(13.6)
栃木県	4390		21.1								10.9
	那珂川		(40.0)								(20.6)
群馬県	4370		22.7								5.9
	鬼怒川		(46.5)								(12.1)
群馬県	4400		20.3								5.0
	烏川		(53.3)								(13.2)
埼玉県	4370										0.3
	鬼怒川										(6.8)
埼玉県	4410		5.2								33.1
	荒川		(9.7)								(61.8)

漁獲量 (重さ) ( )構成比% 頁 3 / 1

漁 獲 量 (t/年)

県	河川NO	アフ゛ラハヤ	ソウキ゛ヨ	オイカワ	コイ	キンフ゛ナ	キ゛ンフ゛ナ	ニコ゛ロフ゛ナ	ケ゛ンコ゛ロウフ゛ナ	タイリクハ゛ラタナコ	フナルイ
北海道	4020										
	風蓮川										
北海道	4080										
	標茶川										
北海道	4090										
	朱太川										
青森県	4150										
	赤石川										
青森県	4160				0.1						
	猿田川				(7.2)						
岩手県	4190				0.8						
	気仙川				(1.9)						
宮城県	4220			0.1	0.1		0.0				
	吉田川			(6.7)	(14.4)		(1.9)				
秋田県	4240				0.8						
	旭毛川				(22.9)						
秋田県	4260				0.6						
	岩見川				(3.4)						
秋田県	4270				6.6				0.7		
	石沢川				(28.1)				(3.0)		
山形県	4280			0.1	0.5						0.1
	最上小国川			(0.2)	(0.9)						(0.2)
山形県	4290			0.4	0.2		0.3				
	赤川江川			(0.9)	(0.5)		(0.7)				
山形県	4300				1.0						0.1
	日向川				(4.0)						(0.4)
山形県	4310										
	鳥川										
福島県	4320				19.9						22.3
	真井川				(15.9)						(17.8)
福島県	4330										
	新田川										
福島県	4340										
	伊南川										
福島県	4350										
	原瀬川										
栃木県	4370			4.3	9.0						7.9
	塩原箒川			(7.9)	(16.6)						(14.6)
栃木県	4380			1.8	1.6						0.6
	小貝川			(27.3)	(24.2)						(9.1)
栃木県	4390	0.3		0.2	0.9						
	箒川	(0.6)		(0.4)	(1.7)						
群馬県	4370			7.2	1.0				2.2		
	塩原箒川			(14.8)	(2.0)				(4.5)		
群馬県	4400			2.3	5.0		0.6				
	鳥川			(6.1)	(13.2)		(1.7)				
埼玉県	4370		0.2	0.5	0.8				0.5	0.1	
	塩原箒川		(4.5)	(11.4)	(18.2)				(11.4)	(2.3)	
埼玉県	4410			4.7	3.5		2.0				
	高麗川			(8.8)	(6.5)		(3.7)				

漁獲量（重さ）　　（　）構成比％　　頁　4／1

県	河川NO.	漁獲量（t/年） トウジョウ	ナマズ	マナマズ	キギ	ウナギ	オオウナギ	ボラ	スズキ	キチヌ	ハゼ科イ
北海道	4020 風蓮川										
北海道	4080 網別川										
北海道	4090 朱太川										
宮城県	4150 迫石川										
宮城県	4160 鎌田川										
岩手県	4190 気仙川					0.3 (0.7)					
宮城県	4220 倉田川					0.0 (1.0)					
秋田県	4240 旭毛川										
秋田県	4260 岩見川										
秋田県	4270 石沢川										
山形県	4280 最上小国川	0.2 (0.4)	0.3 (0.6)			0.1 (0.2)					
山形県	4290 赤川江川		1.4 (3.3)								
山形県	4300 自宮川										
山形県	4310 角川										
福島県	4320 夏井川					0.8 (0.6)					
福島県	4330 新田川					0.0 (28.6)					
福島県	4340 伊南川										
福島県	4350 阿武隈川										
栃木県	4370 湯西川川	0.2 (0.4)									
栃木県	4380 小貝川	1.2 (18.2)				0.1 (1.5)					
栃木県	4390 鬼怒川	0.4 (0.8)				0.1 (0.2)					
群馬県	4370 湯西川川					1.2 (2.5)					
群馬県	4400 烏川	0.1 (0.3)	0.3 (0.8)			0.3 (0.7)					
埼玉県	4370 湯西川川	0.8 (18.2)	0.5 (11.4)			0.7 (15.9)					
埼玉県	4410 高麗川	0.6 (1.1)				1.4 (2.6)					

漁獲量（頂き）　　（）構成比%　　頁 5 / 1

県	河川NO	河川名	シロウオ	マハゼ	ヨシノボリ	漁獲量（t/年） カワヨシノボリ	ヨシノボリルイ	カジカ	カジカルイ	ソノタノギョシュ
北海道	4020	尻別川								
北海道	4080	鵡川川								
北海道	4090	朱太川								
青森県	4150	赤石川								
青森県	4160	馬田川								
岩手県	4190	気仙川								
宮城県	4220	南蒲川								
秋田県	4240	鮎美川								
秋田県	4260	岩見川								
秋田県	4270	石沢川								
山形県	4280	最上小国川						0.2 (0.4)		
山形県	4290	赤川(庄)						0.1 (0.2)		
山形県	4300	自向川						0.1 (0.4)		
山形県	4310	角川								
福島県	4320	夏井川								
福島県	4330	新田川								
福島県	4340	伊南川								
福島県	4350	男成川								
栃木県	4370	鬼怒川川								
栃木県	4380	小貝川								
栃木県	4390	鬼川								
群馬県	4370	鬼怒川								
群馬県	4400	烏川								
埼玉県	4370	鬼怒川								
埼玉県	4410	荒川川						0.2 (0.4)		

漁獲量（重さ）　　（　）構成比％　　頁 1 / 2

県	河川NO	漁獲量計	カワヤツメ	漁獲量（t/年） イワナ（ニッコウイワナ）	ニジマス（スチールヘッド）	サケ	マスノスケ	サクラマス	ヤマメ（ニッコウヤマメ）	ビワマス	アマゴ	マス
神奈川県	4460 酒匂川	110.0			6.0 (5.5)				1.0 (0.9)			
新潟県	4480 三面川	75.4		0.6 (0.8)	0.3 (0.4)	44.1 (58.5)		1.4 (1.9)	0.8 (1.1)			
新潟県	4490 羽茂川	2.8		0.2 (7.1)	0.2 (7.1)				0.2 (7.1)			
新潟県	4500 加治川	10.9		0.2 (1.8)		6.9 (63.3)		1.4 (12.8)	0.1 (0.9)			
新潟県	4510 鯖石川	1.4										
石川県	4560 犀川	0.5							0.2 (40.0)			
山梨県	4610 早川	12.0			1.0 (8.3)						8.0 (66.7)	
山梨県	4620 笛吹川	72.0									28.0 (38.9)	
長野県	4630 王滝川	132.3		17.8 (13.5)	3.0 (2.3)				35.8 (27.1)		4.8 (3.6)	
長野県	4640 三峰川	82.9		2.5 (3.0)	1.2 (1.4)						12.7 (15.3)	
長野県	4650 奈良井川	132.5		12.8 (9.7)	48.5 (36.6)				16.9 (12.8)			
長野県	4660 依田川	30.5		15.5 (50.8)								
長野県	4670 上川	20.7		0.4 (1.9)	0.5 (2.4)				1.5 (7.2)			
岐阜県	4680 揖斐川	520.0		5.0 (1.0)	3.0 (0.6)						16.0 (3.1)	
岐阜県	4681 根尾川	129.0			1.0 (0.8)						8.0 (6.2)	
岐阜県	4690 武儀川	76.0			1.0 (1.3)							
岐阜県	4700 宮田川	176.0									41.0 (23.3)	
岐阜県	4710 飛騨川	60.0		1.0 (1.7)	2.0 (3.3)						6.0 (10.0)	
岐阜県	4720 牧田川	16.0					3.0 (18.8)					
愛知県	4770 勅使川	5.0										
愛知県	4780 名倉川	38.7								3.1 (8.0)		
愛知県	4790 巴川	54.5			47.3 (86.8)					2.5 (4.6)		
愛知県	4800 乙川	24.8								1.1 (4.4)		
愛知県	4810 宇連川	20.3								1.2 (5.9)		
三重県	4680 揖斐川	130.6										

漁獲位（重さ）　　（）構成比%　　頁 2 / 2

県	河川NO	漁獲量（t/年） サツキマス	アユ	チカ	ワカサギ	シラウオ	コイルイ	タモロコ	ニゴイ	カマツカ	ウグイ
神奈川県	4460		95.0								2.0
	酒匂川		(86.4)								(1.8)
新潟県	4480		23.5								4.2
	三面川		(31.2)								(5.6)
新潟県	4490		0.1								1.9
	羽茂川		(3.6)								(67.9)
新潟県	4500		0.6								0.2
	加治川		(5.5)								(1.8)
新潟県	4510										0.3
	鼠石川										(21.4)
石川県	4560		0.3								
	犀川		(60.0)								
山梨県	4610		3.0								
	早川		(25.0)								
山梨県	4620		43.0								
	笛吹川		(59.7)								
長野県	4630		27.2								35.0
	天竜川		(20.6)								(26.5)
長野県	4640		60.6								4.2
	三峰川		(73.1)								(5.1)
長野県	4650		17.0								22.8
	高遠井川		(12.8)								(17.2)
長野県	4660		7.5								7.5
	依田川		(24.6)								(24.6)
長野県	4670		9.5								7.2
	上川		(45.9)								(34.8)
岐阜県	4680	5.0	110.0						148.0		31.0
	根尾川	(1.0)	(21.2)						(28.5)		(6.0)
岐阜県	4681	3.0	76.0					1.0			6.0
	根尾川	(2.3)	(58.9)					(0.8)			(4.7)
岐阜県	4690		48.0						1.0		11.0
	武儀川		(63.2)						(1.3)		(14.5)
岐阜県	4700	1.0	102.0						3.0		16.0
	吉田川	(0.6)	(58.0)						(1.7)		(9.1)
岐阜県	4710		40.0						2.0		5.0
	揖斐川		(66.7)						(3.3)		(8.3)
岐阜県	4720		6.0								3.0
	牧田川		(37.5)								(18.8)
愛知県	4770										
	神戸川										
愛知県	4780		35.0								
	名倉川		(90.4)								
愛知県	4790										0.9
	巴川										(1.7)
愛知県	4800		23.0								
	乙川		(92.7)								
愛知県	4810		18.0								
	宇連川		(88.7)								
三重県	4680		0.2				4.8				
	相賀川		(0.2)				(3.7)				

漁獲量（ 値 ）　　漁獲量（ t/年 ）　　（ ）構成比%　　頁 3 / 2

県	河川NO	アブラハヤ	ソウギョ	オイカワ	コイ	キンブナ	ギンブナ	ニゴロブナ	ゲンゴロウブナ	タイリクバラタナゴ	フナルイ
神奈川県	4460				3.0						3.0
	境川				(2.7)						(2.7)
新潟県	4480				0.3		0.2				
	三面川				(0.4)		(0.3)				
新潟県	4490				0.1		0.1				
	羽茂川				(3.6)		(3.6)				
新潟県	4500				1.3		0.2				
	加治川				(11.9)		(1.8)				
新潟県	4510				0.5		0.6				
	鯖石川				(35.7)		(42.9)				
石川県	4560										
	梯川										
山梨県	4610										
	早川										
山梨県	4620				1.0						
	御坂川				(1.4)						
長野県	4630				8.2						0.4
	王滝川				(6.2)						(0.3)
長野県	4640			0.3	1.2						0.2
	三峰川			(0.4)	(1.4)						(0.2)
長野県	4650			0.8	10.8						0.6
	浅尾井川			(0.6)	(8.2)						(0.5)
長野県	4660										
	依田川										
長野県	4670			0.2							
	上川			(1.0)							
岐阜県	4680			33.0	20.0		134.0				
	揖斐川			(6.3)	(3.8)		(25.8)				
岐阜県	4681			9.0		10.0					
	揖斐川			(7.0)		(7.8)					
岐阜県	4690	6.0		5.0							
	武儀川	(7.9)		(6.6)							
岐阜県	4700			9.0	3.0						
	吉田川			(5.1)	(1.7)						
岐阜県	4710			1.0	2.0						
	飛騨川			(1.7)	(3.3)						
岐阜県	4720			4.0							
	牧田川			(25.0)							
愛知県	4770				2.6						2.2
	矢戸川				(52.0)						(44.0)
愛知県	4780			0.6							
	名倉川			(1.6)							
愛知県	4790			1.1	1.7		0.1				
	巴川			(2.0)	(3.1)		(0.2)				
愛知県	4800										
	乙川										
愛知県	4810				0.3						
	宇連川				(1.5)						
三重県	4680										22.3
	揖斐川										(17.1)

漁獲量（頭さ）　　（）構成比%　　頁 4 / 2

漁獲量（t／年）

県	河川NO	トウジョウ	ナマズ	マナマズ	キギギ	ウナギ	オオウナギ	ボラ	スズキ	キチヌ	ハゼクレイ
神奈川県	4460										
	酒匂川										
新潟県	4480										
	三面川										
新潟県	4490										
	阿賀野川										
新潟県	4500										
	加治川										
新潟県	4510										
	鯖石川										
石川県	4560										
	犀川										
山梨県	4610										
	早川										
山梨県	4620										
	富吉川										
長野県	4630										
	王滝川										
長野県	4640										
	三峰川										
長野県	4650	0.2				0.7					
	岩倉井川	(0.2)				(0.5)					
長野県	4660										
	依田川										
長野県	4670	0.1									
	上川	(0.5)									
岐阜県	4680					15.0					
	根尾川					(2.9)					
岐阜県	4681			10.0		2.0					
	根尾川			(7.8)		(1.6)					
岐阜県	4690					4.0					
	武儀川					(5.3)					
岐阜県	4700										
	富田川										
岐阜県	4710					1.0					
	根尾川					(1.7)					
岐阜県	4720										
	牧田川										
愛知県	4770		0.2								
	鵜戸川		(4.0)								
愛知県	4780										
	名立川										
愛知県	4790					0.9					
	戸川					(1.7)					
愛知県	4800					0.7					
	乙川					(2.8)					
愛知県	4810					0.8					
	宇連川					(3.9)					
三重県	4680					4.6		71.3	25.0		2.4
	櫛田川					(3.5)		(54.6)	(19.1)		(1.8)

県	河川NO	漁獲量（t/年） シロウオ	マハゼ	ヨシノボリ	カワヨシノボリ	ヨシノボリルイ	カジカ	カジカルイ	ソノタノキヨシ1
神奈川県	4460 相模川								
新潟県	4480 三面川								
新潟県	4490 荒川								
新潟県	4500 加治川								
新潟県	4510 雄石川								
石川県	4560 犀川								
山梨県	4610 富士川								
山梨県	4620 笛吹川								
長野県	4630 天竜川							0.1 (0.1)	
長野県	4640 三峰川								
長野県	4650 奈良井川						0.3 (0.2)		1.1 (0.8)
長野県	4660 依田川								
長野県	4670 上川								1.3 (6.3)
岐阜県	4680 揖斐川								
岐阜県	4681 根尾川					3.0 (2.3)			
岐阜県	4690 武儀川								
岐阜県	4700 吉田川				1.0 (0.6)				
岐阜県	4710 飛騨川								
岐阜県	4720 牧田川								
愛知県	4770 矢作川								
愛知県	4780 名倉川								
愛知県	4790 巴川								
愛知県	4800 乙川								
愛知県	4810 宇連川								
三重県	4680 揖斐川								

漁獲量（重さ）　　（　）構成比%　　頁　1 / 3

県	河川NO	漁獲量計	漁獲量（t/年） カワヤツメ	イワナ（ニッコウイワナ）	ニジマス（スチールヘッド）	サケ	マスノスケ	サクラマス	ヤマメ（ニッコウヤマメ）	ビワマス	アマゴ	マス
三重県	4830 員弁川	109.1									1.7 (1.6)	3.7 (3.4)
滋賀県	4860 安曇川	31.9		1.6 (5.0)	1.0 (3.1)					0.6 (1.9)	3.8 (11.9)	
滋賀県	4870 犬上川	5.2		0.0 (0.7)	0.2 (3.7)						0.2 (3.4)	
京都府	4890 桂川(保々川)	57.9									5.2 (9.0)	
京都府	4900 木津川	0.3										
大阪府	4900 木津川	3.6										
大阪府	4910 水無瀬川	0.2										
兵庫県	4920 千種川	79.4									1.7 (2.1)	
兵庫県	4930 市川	7.4			0.2 (2.7)						0.6 (8.1)	
兵庫県	4940 袋尻川	0.8			0.1 (12.5)							
兵庫県	4950 夢前川	3.9										
奈良県	4960 川原城川	14.0									5.5 (39.3)	
奈良県	4970 吉野川	37.3									1.5 (4.1)	
岡山県	5100 成羽川	10.0										
岡山県	5120 吉野川	41.0									1.0 (2.4)	
岡山県	5130 新庄川	43.0										
広島県	5150 三篠川	7.3										
山口県	5180 木屋川	2.9										
徳島県	5190 銅都川	192.0									12.0 (6.3)	
愛媛県	5210 銅山川	0.6			0.1 (16.7)						0.1 (16.7)	
愛媛県	5240 広見川	7.9									0.4 (5.1)	
愛媛県	5250 小田川	51.3										
高知県	5200 野根川	5.2										
高知県	5270 新荘川	8.8										
高知県	5280 安芸川	47.0									11.6 (24.7)	

漁獲量（重さ）　　（　）構成比%　　頁 2 / 3

漁獲量（t/年）

県	河川NO	サツキマス	アユ	チカ	ワカサギ	シラウオ	コイルイ	タモロコ	ニゴイ	カマツカ	ウグイ
三重県	4830		46.0				3.8				7.0
	員弁川		(42.2)				(3.5)				(6.4)
滋賀県	4860		23.2								0.4
	家棟川		(72.7)								(1.3)
滋賀県	4870		4.1								0.1
	大上川		(79.1)								(2.0)
京都府	4890		49.2								1.8
	佐々里川		(85.0)								(3.1)
京都府	4900		0.3								
	井川		(100.0)								
大阪府	4900		3.6								
	茨川		(100.0)								
大阪府	4910		0.2								
	水無瀬川		(100.0)								
兵庫県	4920		71.7								0.1
	千種川		(90.3)								(0.1)
兵庫県	4930		5.6								0.1
	市川		(75.7)								(1.4)
兵庫県	4940		0.1								
	武庫川		(12.5)								
兵庫県	4950		3.9								
	夢前川		(100.0)								
奈良県	4960		8.5								
	川原樋川		(60.7)								
奈良県	4970		35.5								
	新泉川		(95.1)								
岡山県	5100		10.0								
	成羽川		(100.0)								
岡山県	5120		30.0								
	直野川		(73.2)								
岡山県	5130		42.0								
	新庄川		(97.7)								
広島県	5150		7.0								
	三篠川		(95.9)								
山口県	5180		2.6								
	木屋川		(89.5)								
徳島県	5190		150.0								
	海部川		(78.1)								
愛媛県	5210		0.3								
	御山川		(50.0)								
愛媛県	5240		0.6								0.2
	広見川		(7.6)								(2.5)
愛媛県	5250		40.9								
	小田川		(79.7)								
高知県	5200		4.2								
	奈根川		(80.8)								
高知県	5270		8.8								
	新荘川		(100.0)								
高知県	5280		28.0								3.8
	宏瀬川		(59.6)								(8.1)

漁獲量（重さ）　　（）構成比%　　頁 3 / 3

県	河川NO	漁獲量（t/年） アブラハヤ	ソウギョ	オイカワ	コイ	キンブナ	ギンブナ	ニコイ・ロクブナ	ゲンゴロウブナ	タイリクバラタナゴ	フナルイ
三重県	4830			31.5							5.4
	白井川			(28.9)							(4.9)
滋賀県	4860				1.1						
	安曇川				(3.4)						
滋賀県	4870								0.3		
	犬上川								(4.8)		
京都府	4890			0.2	0.5						0.6
	佐々里川			(0.3)	(0.9)						(1.0)
京都府	4900										
	若川										
大阪府	4900										
	若川										
大阪府	4910										
	木無瀬川										
兵庫県	4920			1.1	2.7		2.0				
	千種川			(1.4)	(3.4)		(2.5)				
兵庫県	4930			0.1	0.4		0.4				
	市川			(1.4)	(5.4)		(5.4)				
兵庫県	4940				0.5		0.1				
	金堀川				(62.5)		(12.5)				
兵庫県	4950										
	夢前川										
奈良県	4960										
	川原樋川										
奈良県	4970										
	高見川										
岡山県	5100										
	成羽川										
岡山県	5120			5.0	5.0						
	吉野川			(12.2)	(12.2)						
岡山県	5130				1.0						
	新庄川				(2.3)						
広島県	5150				0.2						
	三篠川				(2.7)						
山口県	5180										
	木屋川										
徳島県	5190										
	南部川										
愛媛県	5210										
	銅山川										
愛媛県	5240			0.6	1.4						0.9
	広見川			(7.6)	(17.7)						(11.4)
愛媛県	5250				5.7						
	小畑川				(11.1)						
高知県	5200										
	原根川										
高知県	5270										
	新荘川										
高知県	5280			0.4	0.4						
	安居川			(0.9)	(0.9)						

漁獲量（t／年）

県	河川ｺｰﾄﾞ	ﾄﾞｼﾞｮｳ	ナマズ	マナマズ	ｷﾞｷﾞ	ウナギ	オオウナギ	ボラ	スズキ	キチヌ	ハゼﾞルイ
三重県	4830	1.5	5.0			0.5					1.5
	員弁川	(1.4)	(4.6)			(0.5)					(1.4)
滋賀県	4860					0.2					
	安曇川					(0.6)					
滋賀県	4870				0.2	0.2					
	犬上川				(3.0)	(3.3)					
京都府	4890					0.4					
	佐々原川					(0.7)					
京都府	4900										
	茶川										
大阪府	4900										
	茶川										
大阪府	4910										
	大無滅川										
兵庫県	4920					0.1					
	千種川					(0.1)					
兵庫県	4930										
	雨川										
兵庫県	4940										
	飯部川										
兵庫県	4950										
	夢前川										
奈良県	4960										
	川原樋川										
奈良県	4970					0.3					
	高見川					(0.8)					
岡山県	5100										
	成羽川										
岡山県	5120										
	倉敷川										
岡山県	5130										
	新庄川										
広島県	5150					0.1					
	三篠川					(1.4)					
山口県	5180					0.3					
	木屋川					(10.5)					
徳島県	5190					30.0					
	那部川					(15.6)					
愛媛県	5210					0.1					
	銅山川					(16.7)					
愛媛県	5240					3.8					
	広見川					(48.1)					
愛媛県	5250					4.7					
	小田川					(9.2)					
高知県	5200					1.0					
	野根川					(19.2)					
高知県	5270										
	新荘川										
高知県	5280					1.0					0.4
	安芸川					(2.1)					(0.9)

漁獲量（ 重さ ）　　（ ）構成比%　　頁 5 / 3

県	河川NO	漁獲量（t/年） シロウオ	マルセ゛	ヨシノボリ	カワヨシノボリ	ヨシノボリルイ	カシ゛カ	カシ゛カルイ	ソノタ ノ キ゛ヨシュ
三重県	4830 長井川			1.5 （ 1.4）					
滋賀県	4860 安曇川								
滋賀県	4870 犬上川								
京都府	4890 佐々里川								
京都府	4900 茨川								
大阪府	4900 茨川								
大阪府	4910 水無瀬川								
兵庫県	4920 千種川								
兵庫県	4930 市川								
兵庫県	4940 揖保川								
兵庫県	4950 夜都川								
奈良県	4960 川原城川								
奈良県	4970 高見川								
岡山県	5100 成羽川								
岡山県	5120 吉野川								
岡山県	5130 新庄川								
広島県	5150 三篠川								
山口県	5180 木屋川								
徳島県	5190 那賀川								
愛媛県	5210 黒山川								
愛媛県	5240 広見川								
愛媛県	5250 小田川								
高知県	5200 野根川								
高知県	5270 新荘川								
高知県	5280 家室川								1.4 （ 3.0）

漁獲量（t/年）

県	河川NO	漁獲段計	カワヤツメ	イワナ（ニッコウイワナ）	ニジマス（スチールヘッド）	サケ	マスノスケ	サクラマス	ヤマメ（ニッコウヤマメ）	ビワマス	アマゴ	マス
福岡県	5290	0.5										
	笠見川											
熊本県	5370	1.3										
	氷川											
熊本県	5400	3.6							0.3			
	万江川								(8.3)			
大分県	5410	18.3							2.0			
	玖珠川								(10.9)			
大分県	5420	4.4										
	駅田川											
大分県	5430	10.8										
	駅館川											
大分県	5440	2.5										
	白坂川											
宮崎県	5450	8.9							0.0			
	福島川								(0.0)			
宮崎県	5460	36.2			0.3							
	指宮川				(0.8)							
宮崎県	5470	1.6										
	五十鈴川											
宮崎県	5480	15.5							0.0			
	北川								(0.1)			
鹿児島県	5490	2.9			0.1							
	万之瀬川				(3.4)							
	総 計	3529.3	17.2	74.9	142.8	83.9	3.0	3.9	108.2	8.5	169.8	3.7
			(0.5)	(2.1)	(4.0)	(2.4)	(0.1)	(0.1)	(3.1)	(0.2)	(4.8)	(0.1)

漁獲量（重さ）　　（）構成比%　　頁 2 / 4

県	河川NO	漁獲量（t/年） サツキマス	アユ	チカ	ワカサギ	シラウオ	コイルイ	タモロコ	ニコイ	カマツカ	ウグイ
福岡県	5290										
	金見川										
熊本県	5370										
	氷川										
熊本県	5400		2.6								0.2
	万江川		(72.2)								(5.6)
大分県	5410		1.3								2.2
	玖珠川		(7.1)								(12.0)
大分県	5420		3.3								0.6
	駅田川		(75.0)								(13.6)
大分県	5430		1.2								0.3
	成瀬川		(11.1)								(2.8)
大分県	5440		0.3								0.4
	白岩川		(12.0)								(16.0)
宮崎県	5450		1.2								
	祝吉川		(13.5)								
宮崎県	5460		9.9								0.8
	椎葉川		(27.4)								(2.2)
宮崎県	5470		1.2								
	五十鈴川		(72.2)								
宮崎県	5480		12.2								0.1
	北川		(78.8)								(1.0)
鹿児島県	5490		0.3								
	万之瀬川		(10.3)								
総計		9.0 (0.3)	1620.7 (45.9)	10.0 (0.3)	53.4 (1.5)	0.5 (0.0)	8.6 (0.2)	1.0 (0.0)	154.0 (4.4)	1.3 (0.0)	298.5 (8.5)

漁獲量（t/年）

県	河川NO	アブラハヤ	ソウギョ	オイカワ	コイ	キンブナ	ギンブナ	ニゴロブナ	ゲンゴロウブナ	タイリクバラタナゴ	フナ以
福岡県	5290 冨良川										
熊本県	5370 氷川				0.5 (38.5)						
熊本県	5400 万江川										
大分県	5410 玖珠川			2.3 (12.6)	2.9 (15.8)		0.2 (1.1)				
大分県	5420 奥田川			0.1 (2.3)	0.1 (2.3)				0.1 (2.3)		
大分県	5430 駅館川			1.1 (10.2)	3.3 (30.6)			1.5 (13.9)			
大分県	5440 白岩川			0.4 (16.0)	0.8 (32.0)				0.5 (20.0)		
宮崎県	5450 福良川			0.2 (2.2)	2.5 (28.1)						2.7 (30.3)
宮崎県	5460 清武川			1.0 (2.8)	11.3 (31.1)		4.1 (11.2)				
宮崎県	5470 五十鈴川				0.3 (15.4)						
宮崎県	5480 北川			0.1 (0.6)	0.7 (4.6)		0.1 (0.8)				
鹿児島県	5490 万之瀬川			0.2 (6.9)	2.0 (69.0)		0.1 (3.4)				
	総計	6.3 (0.2)	0.2 (0.0)	129.9 (3.7)	151.7 (4.3)	10.0 (0.3)	145.1 (4.1)	1.5 (0.0)	4.3 (0.1)	0.1 (0.0)	69.3 (2.0)

漁獲量（重さ）　　（　）構成比％　　頁　4／4

県	河川NO	漁獲量（t／年） トﾞｼﾞｮｳ	ナマスﾞ	マナマスﾞ	ｷﾞｷﾞ	ウナｷﾞ	オオウナｷﾞ	ﾎﾞﾗ	ｽｽﾞｷ	ｷﾁﾇ	ﾊｾﾞﾙｲ
福岡県	5290										
	筑見川										
熊本県	5370					0.8					
	氷川					(61.5)					
熊本県	5400					0.5					
	万江川					(13.9)					
大分県	5410					7.4					
	玖珠川					(40.4)					
大分県	5420					0.2					
	鶴崎川					(4.5)					
大分県	5430						3.4				
	駅館川						(31.5)				
大分県	5440						0.1				
	白岩川						(4.0)				
宮崎県	5450					0.8					
	福島川					(9.0)					
宮崎県	5460					4.9		2.0	0.5	0.5	
	須島川					(13.4)		(5.5)	(1.4)	(1.4)	
宮崎県	5470					0.2					
	五十鈴川					(12.3)					
宮崎県	5480					1.2		0.7	0.3		
	北川					(8.0)		(4.5)	(1.6)		
鹿児島県	5490					0.2					
	万之瀬川					(6.9)					
総計		5.3 (0.2)	7.7 (0.2)	10.0 (0.3)	0.2 (0.0)	93.5 (2.7)	3.5 (0.1)	74.0 (2.1)	25.8 (0.7)	0.5 (0.0)	4.3 (0.1)

県	河川NO	漁獲量（t/年） シロウオ	マハゼ	ヨシノボリ	カワヨシノボリ	ヨシノボリルイ	カジカ	カジカルイ	ソノタ ノ キ゛ヨシ 2
福岡県	5290	0.5							
	遠賀川	(100.0)							
熊本県	5370								
	大川								
熊本県	5400								
	万江川								
大分県	5410								
	玖珠川								
大分県	5420								
	駅田川								
大分県	5430								
	駅館川								
大分県	5440								
	目佐川								
宮崎県	5450			1.5					
	祝吉川			(16.8)					
宮崎県	5460		1.0						
	清武川		(2.8)						
宮崎県	5470								
	五十鈴川								
宮崎県	5480								
	北川								
鹿児島県	5490								
	万之瀬川								
	総 計	0.5 (0.0)	1.0 (0.0)	3.0 (0.1)	1.0 (0.0)	3.0 (0.1)	0.9 (0.0)	0.1 (0.0)	3.8 (0.1)

漁獲量 （ 尾数 ）　　（ ）構成比%　　頁 1 / 1

漁 獲 量 （ X千尾/年 ）

県	河川NO 河川名	漁獲量計	サケ
青森県	4140 相坂川	8.3	8.3 (100.0)
青森県	4150 赤石川	3.9	3.9 (100.0)
青森県	4160 鰺田川	0.4	0.4 (100.0)
石川県	4560 犀川	0.3	0.3 (100.0)
	総 計	13.0	13.0 (100.0)

参考文献

第3回自然環境保全基礎調査「河川調査報告書（全国版）」　1987年　環境庁自然保護局

第3回自然環境保全基礎調査「河川調査報告書（全国版）資料」1987年　環境庁自然保護局

1．水辺の環境学　1993年　桜井善雄　㈱新日本出版社

2．河川の生態学（補訂版）　1993年　水野信彦・御勢久右衛門　築地書館㈱

3．最新　環境キーワード　1992年　環境庁長官官房総務課　㈶経済調査会

4．川と湖と生き物－多様性と相互作用－　1992年　林　秀剛・宇和　紘・沖野外輝夫　信濃毎日新聞社

5．生態観シリーズ⑫　淡水生物の生態と観察　1990年　水野寿彦監修　築地書館㈱

6．理科年表読本　川の博物誌　1990年　高山茂美　丸　善㈱

7．フィールド図鑑　－淡水魚－　1987年　川那部浩哉　東海大学出版会

8．日本の淡水魚類
－その分布、変種、種分化をめぐって－　1987年　水野信彦・後藤　晃　編　東海大学出版

9　解説　河川環境　1983年　㈶河川環境管理財団　編
河川環境研究会　監修　㈱山　海　堂

10．河川の生物観察ハンドブック
－河川の生態学入門－　1981年3版　川名国男・市田則孝　東洋館出版社

11．日本の淡水生物－侵略と攪乱の生態学－　1980年　川合禎次・川那部浩哉・水野信彦　東海大学出版

12．環境と生物指標2－水界編－　1975年　津田松苗・菊池泰二　共立出版社㈱

13．地球科学講座9巻　陸水　1968年　山本壮毅　共立出版社㈱

第４回自然環境保全基礎調査検討会
湖沼及び河川分科会　名簿

○ 自然環境保全基礎調査検討会（第４回）

	朝比奈　正二郎	国立予防衛生研究所客員研究員名誉所員
	今泉　吉典	国立科学博物館名誉館員
	上野　俊一	国立科学博物館動物研究部昆虫第二研究室長
	奥富　清	東京農工大学名誉教授
	工藤　盛徳	東海大学海洋学部教授
	黒田　長久	財団法人　山階鳥類研究所所長
	佐藤　大七郎	財団法人　自然環境研究センター理事長
	高井　康雄	東京農業大学農学部教授
	多紀　保彦	東京水産大学水産学部教授
	手塚　康彦	京都大学生態学研究センター教授
	中島　巌	社団法人　日本林業技術協会主任研究員
	西岡　秀三	国立環境研究所地球環境研究センター総括研究管理官
	沼田　眞	千葉県立中央博物館長
	波部　忠重	日本貝類学会会長
	古田　能久	元　株式会社　フィスコ顧問
座長	宝月　欣二	東京都立大学名誉教授
	宮脇　昭	横浜国立大学名誉教授
	門司　正三	東京大学名誉教授
	山本　護太郎	元　東海大学海洋学部教授
	吉川　虎雄	東京大学名誉教授

○ 湖沼及び河川分科会

山本　護太郎	元　東海大学海洋学部教授
石田　力三	北里大学水産学部講師（㈱水産環境研究所）
高橋　正征	東京大学理学部系研究科助教授
田中　正明	財団法人　愛知県環境保全公社三河駐在室
手塚　康彦	京都大学生態学研究センター教授
古田　能久	元　株式会社　フィスコ顧問

河川調査要綱

１．調査目的及び調査概要

わが国の河川においては、水質の悪化について対策が講じられてきているが、ダム等の建設、護岸改修、都市部における河川の埋立・暗渠化等の著しい改変による生物相の貧困化、住民の憩いの場の消失等の問題に対処するための継続的、体系的な調査は、これまで必ずしも十分に行われてはいなかった。

このため、第２回及び第３回自然環境保全基礎調査（昭和54年度及び昭和60年度）では、全国の一級河川の幹川等の現況を調査してきたが、本調査においては、わが国の主要な二級河川の幹川及び一級河川の支川等の中から選定した良好な自然地域を通過する河川、流域面積が大きい河川または動植物相が豊かな河川などを調査対象として、当該河川の概要、河岸の改変状況並びに魚類の生息状況等について調査する。

また、第２回及び第３回自然環境保全基礎調査で抽出した、集水域が原生状態を保っている河川（「原生流域」）の改変状況等について調査する。

２．調査実施者

国が都道府県に委託して実施する。

３．調査対象河川

別表１「調査対象河川一覧」に掲げた河川の河口（合流点）から上流（合流点）の区間を調査対象とする。なお、上流端の位置については河川現況台帳等によるものとする。

「原生流域調査」については、全国のすべての河川を対象とする。

4．調査実施期間

契約締結の日から、平成５年３月３１日までとする。

5．調査内容及び実施方法

下記の事項について調査する。なお、調査方法の詳細は、別紙１「河川調査実施要領」による。

（１） 河川概要調査

各種資料により、河川延長、降水量、水位の変動、流水量の変動、水質、生物相の概要等について調査し、河川の属性を概観する。

（２） 河川改変状況調査

各種資料及び現地確認調査により、次の事項について調査する。

ア．水際線の改変状況
イ．河原の土地利用状況
ウ．河畔の土地利用状況
エ．河川横断工作物の設置箇所数
オ．取水施設の有無
カ．河川の利用状況
キ．河川環境における不快要因

（３） 魚類調査

各種資料及び漁協等からの聞き取りにより、次の事項について調査する。さらに、補足のため、投網等による漁獲試験を実施するとともに試験地の水温、底質等についての調査をする。

ア．生息する魚種名

イ．漁獲量

ウ．放流量

エ．天然繁殖の有無

オ．魚類相に関する記録

（4）原生流域調査

第2回及び第3回調査で抽出された、人工構築物及び森林伐採等人為の影響がみられない地域（原生流域）の改変状況について調査する。

6．調査結果のとりまとめ

調査実施者は、調査結果を下記の図票にとりまとめる。

（1）河川概要調査票

調査結果を、「河川概要調査票」（様式1）にとりまとめる。

（2）河川改変状況調査票

調査結果を、「河川改変状況調査票」（様式2）にとりまとめる。

（3）河川調査図

河川区域、魚類調査地点、河川改変状況調査の調査区間等に関する事項を「河川調査図」（様式3）にならい、国土地理院発行の1/2.5万地形図に表示する。

（4）魚類調査票

調査結果を「魚類調査票」（様式4）にとりまとめる。

（５） 漁獲試験調書

試験結果を「漁獲試験調書」（様式５）にとりまとめる。

（６） 原生流域調査票

調査結果を、「原生流域調査票」（様式６）にとりまとめる。

（７） 原生流域図

調査結果を、「原生流域図」（様式７）にならい国土地理院発行の１／５万地形図に表示する。

７．調査結果の報告

調査実施者は、調査結果をとりまとめ、報告書、河川調査図帳及び原生流域図帳各２部（正本、写し各１部）を、それぞれ別紙２「河川調査報告書作成要領」及び「河川調査図帳等作成要領」により作成し、平成５年３月３１日までに環境庁自然保護局長に提出する。

（別紙１）

河川調査実施要領

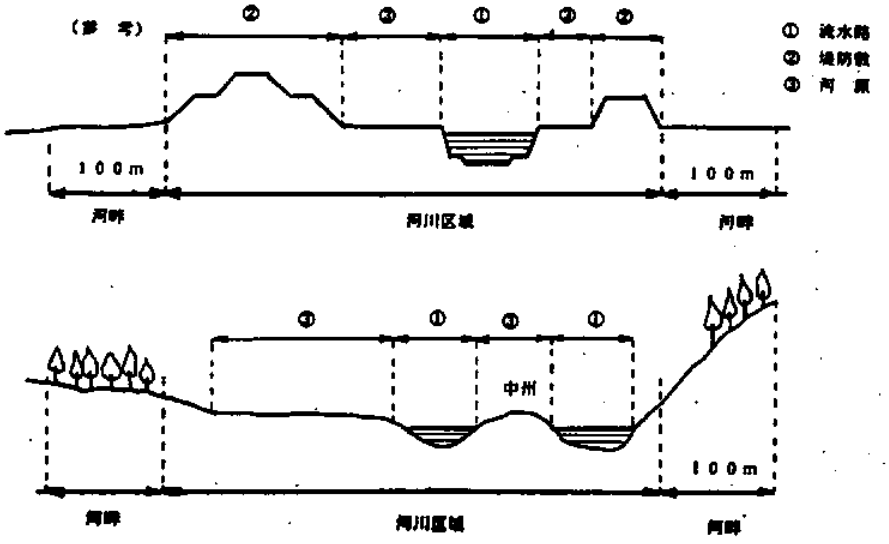
１．通　則

第４回自然環境保全基礎調査・河川調査は、この実施要領に従って行うこととし、その調査内容は次のとおりとする。

（１）　河川概要調査
（２）　河川改変状況調査
（３）　魚類調査
（４）　原生流域調査

２．河川等の定義

（１）　この調査で「河川区域」とは、河川法の規定による「河川区域」とする。
（注）河川区域の境界は、河川管理者が保管している河川現況台帳の付属図面（通常、縮尺1/2,500または1/5,000）に表示されている。
（２）「水際線」とは、平水位における水面が陸地と接する部分をいう。
（３）「河原」とは、河川区域内の陸部のうち、比較的平坦な部分をいう。
（４）「河畔」とは、河川区域の外側幅100ｍの区域をいう。
（５）「右岸」「左岸」とは、それぞれ上流から下流に向かったときの呼称である。



3．調査対象河川

調査対象河川は、別表１「調査対象河川一覧」によるものとする。

ただし、原生流域調査は、第３回自然環境保全基礎調査・河川調査（昭和60年度実施）の際に抽出された１００流域をはじめ、全国のすべての河川を対象とする。

4．河川概要調査

別表１に示す調査対象河川の概要を把握するため、各種資料等により、次の事項について調査し、「河川概要調査表」（様式１）を作成する。

（１） 種類

調査河川を級別に明記する。また、幹川、支川の区別もする。

（2） 区間番号

調査河川において設定された区間番号を記入する。なお、調査河川が複数県に跨る場合は、県内の担当調査区間番号のみ記入する。（調査区間の設定については5（1）「調査区間の設定」を参照）

（3） 河川流路延長

調査河川の流路延長を記入する。なお、調査河川が複数県に跨る場合は、担当調査全区間の流路延長の値を用いることとする。

流路の途中に湖沼が存在する場合は、湖沼部分の流路延長は流心線に沿って計測する。

（4） 1/2.5万地形図

調査河川において、担当調査区間を含む全ての1/2.5万地形図の名称を列記する。

（5） 降水量

調査河川流域内にある観測所における測定のみ対象とする。

最多年降水量：過去における年降水量の最も多い降水年と降水量を記入する。

最少年降水量：過去における年降水量の最も少い降水年と降水量を記入する。

平均降水量：調査年度の平均降水量を記入する。

また、採択したデータの出所（観測所名や資料など）を明らかにする。

（6） 水位

調査河川における最高水位、最低水位、指定水位を記入する。

また、採択したデータの出所（資料、測定地点、区間番号など）を明らかにする。

（7） 流量

調査河川における最大流量、最小流量を記入する。なお、「データの出所」欄に測定地点の河口または合流点よりの距離を、河口より○○km、○○川合流点より○○kmと明確に示し、区間番号も記入する。

平均流量に関しては、調査年度の平均値を記入し、「データの出所」欄の記入の仕方については上記と同様にする。

（8） 水質

当該河川の水質に関し、公共用水域水質測定結果等の既存資料により次の項目について調べ、測定地点ごとに記入する。なお、最新のデータを採用するものとし、同一測定地点で2検体以上測定している場合は、（年）平均値をもって当該測定地点の測定値とする。

また、採択したデータの出所（資料等）を明らかにする。漁獲試験の際などに併せて現地調査で水質検査を実施した場合は、調査地点や地点番号（漁獲試験実施地点番号）を「データ出所」欄に記入する。

さらに、各測定地点の水質を比較し、年間を通して測定地点の水質にかなりの影響（良または悪）を及ぼしていると考えられる水流（支川、排水の流入等）が存在すれば、特記事項として簡単に（水流の地点、水流の内容等）記載する。

ア PH　イ BOD　ウ SS　エ DO　オ 大腸菌群数

（9） 環境基準類型

調査河川の環境基準類型を示すため、上記(8)で調査した水質結果を参考に次の表より区分し、各測定地点ごとの環境基準類型をＡＡ～Ｅの何れかの類型で示す。

項目 類型	利用目的の 適応性	基準値				
		水素イオン濃度（PH）	生物化学的酸素要求量（BOD）	浮遊物質量（SS）	溶存酸素量（DO）	大腸菌群数
AA	水道1級 自然環境保全 およびA以下の 欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	1mg/l 以下	25 mg/l 以下	7.5 mg/l 以上	50MPN /100ml 以下
A	水道2級 水産1級 水浴 およびB以下の 欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	2 mg/l 以下	25 mg/l 以下	7.5 mg/ 以上	1,000MP /100ml 以下
B	水道3級 水産2級 およびC以下の 欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	3 mg/l 以下	25 mg/l 以下	5 mg/l 以上	5,000MPN /100ml 以下
C	水産3級 工業用水1級 およびD以下の 欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	5 mg/l 以下	50 mg/l 以下	5 mg/l 以上	－
D	工業用水2級 農業用水 およびEの欄に 掲げるもの	6.0以上 8.5以下	8 mg/l 以下	100 mg/l 以下	2 mg/l 以上	－
E	工業用水3級 環境保全	6.0以上 8.5以下	10 mg/l 以下	ごみ等の浮遊が認められないこと	2 mg/l 以上	－

注）自然環境保全：自然探勝等の環境保全
水道　1級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの。
2級：沈澱ろ過等による通常の浄水操作を行うもの。
3級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
水産　1級：ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用ならびに水産2級および水産3級の水産生物用。
2級：サケ科魚類およびアユ等貧腐水性水域の水産生物用および水産3級の水産生物用。
3級：コイ、フナ等、β－中腐水性水域の水産生物用。
工業用水1級：沈澱等による通常の浄水操作を行うもの。
2級：薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの。
3級：特殊の浄水操作を行うもの。
環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む）において不快感を生じない限度

(10)　調査河川流域内の湖沼

調査河川の流路に存在する全ての湖沼名を記入し、天然湖、人造湖の区別と第４回自然環境保全基礎調査（湖沼調査）の対象であるか否かを記入する。また、それぞれの湖沼が含まれる区間番号を明確にする。なお、１つの湖沼が２区間以上に跨って存在する場合はその湖沼が存在する最初と最後の区間番号を記入する。

(11)　河川横断工作物

調査河川の全調査担当区間における河川横断工作物を次の例により全て選び、河川概要調査表の「河川横断工作物」欄の該当するもの全てに○印をつけ、それぞれについて数を示す。また、データの出所（資料など）を明らかにする。

なお、閘門は、一室をもって１と数え、双閘は２と数え、複閘は１と数える。

ア　水門	イ　閘門	ウ　橋梁
エ　ダム	オ　堰	カ　床固
キ　その他（具体的に）		

(12)　利水状況

調査河川の調査担当全区間における利水状況を下記の例示により調べ、河川概要調査表（様式１）の「利水状況」の欄の該当するもの全てに○をつける。また、データの出所（資料など）を明らかにする。

ア　発電用取水	イ　農業用取水	ウ　水産用取水
エ　工業用水用取水	オ　飲料用水用取水	カ　その他（具体的に）

(13) 生物相の概要

各種資料により、調査河川の生物相の概要を示すため、次の生物群ごとに優占種数種を記入する。原則として夏期における生物相を示すこととするが（ただし水鳥については冬期の状況を示す）夏期以外における時期の生物相を対象とした資料による場合は、その種が優占する時期を明記する。

また、採択したデータの出所を明記する。

(14) その他

その他調査河川について特記する事項があれば記載する。

（様式１）

河川概要調査票

調査年度	1992
都道府県	

河川コード	河川名（ﾌﾘｶﾞﾅ）	種類	区間 No.	河川流路延長
			～	m

1/2.5万地形図	関係市町村名

調査河川流域内の湖沼

湖沼名	天然／人造	対象／否	関連区間

調査項目		測定値	データ出所
最多年降水量	年	mm	
最小年降水量	年	mm	
平均降水量		mm	
最高水位	年 月	m	
最低水位	年 月	m	
指定水位		m	
最大流量	年 月	m³/sec	
最小流量	年 月	m³/sec	
平均流量		m³/sec	

項目	内容		データ出所
河川横断工作物	種類	数	
	ア 水門 …… イ 閘門 …… ウ 堰堤 …… エ ダム …… オ 堰 …… カ 床固 …… キ その他（ ）		
利水状況	ア 発電用取水 イ 農業用取水 ウ 水道用取水 エ 工業用水用取水 オ 飲料用水用取水 カ その他（ ）		
生物相の概要	付着藻類		
	抽水（植水）植物		
	沈水植物		
	植物プランクトン		
	動物プランクトン		
	底生動物		
	両生爬虫類		
	魚類		
	水鳥		

水質測定地点名	年／月	PH	BOD ppm	SS ppm	DO ppm	大腸菌群数 MPN／g	環境基準類型	データの出所

特記事項

その他

5．河川改変状況調査

別表１に示す調査対象河川の水際線の改変状況、河原の土地利用状況、河畔の土地利用状況、ダム・堰等河川横断工作物の設置状況、取水施設の設置状況、河川の利用状況、河川環境における不快要因及び保全地域の指定状況、河川の屈曲率について、次に示すとおり既存資料（1 /2.5万地形図等）による調査及び現地確認調査を実施し、「河川改変状況調査票」（様式２）を作成する。

（1） 調査区間の設定

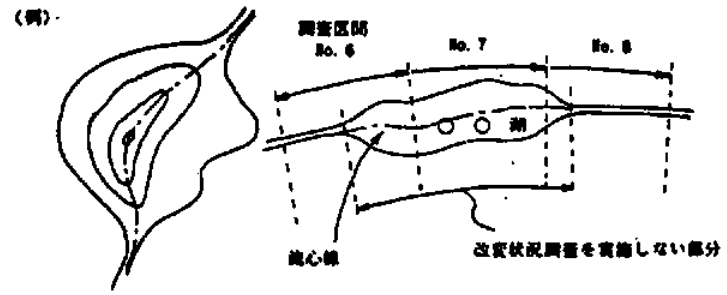
下記のとおり調査区間を設定し、各調査区間ごとに(3)以下の項目について調査するものとする。

河川を、調査対象河川の下流端（河口または合流点）から流路延長１ｋｍごとに区切り、区切られた各区間を調査区間とする。調査区間には、下流側から番号を付す。（１河川を２以上の府県で分担して調査する場合も、通し番号とする。）

なお、調査区間の設定に際しては、次のことに留意する。

ｱ. 流路の途中に湖沼がある場合、湖沼部分の流路延長は、流心線に沿って計測する。

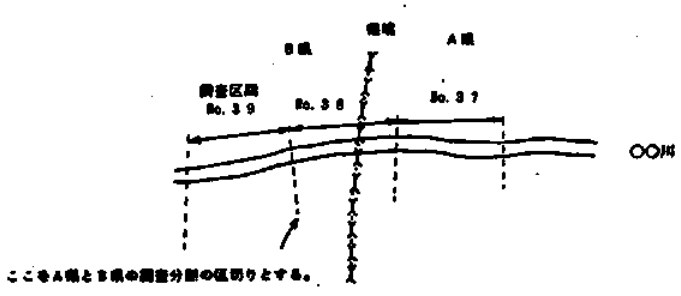
ｲ. 当該湖沼が平成３年度実施の第４回自然環境保全基礎調査・湖沼調査の調査対象湖沼である場合、調査区間は設定するが、湖沼部分の河川改変状況調査は行わない。



ｳ. 最上流端の区間については、区間延長が１ｋｍ未満であっても、１調査区間とする。

（２） 調査の分担

各都道府県の調査範囲は原則として当該行政区域内とするが、行政界（府県境）を含む調査区間については、関係府県間の調整により調査者を定めることとするが、原則として下流側の府県が行政界を含む調査区間を担当するものとする。



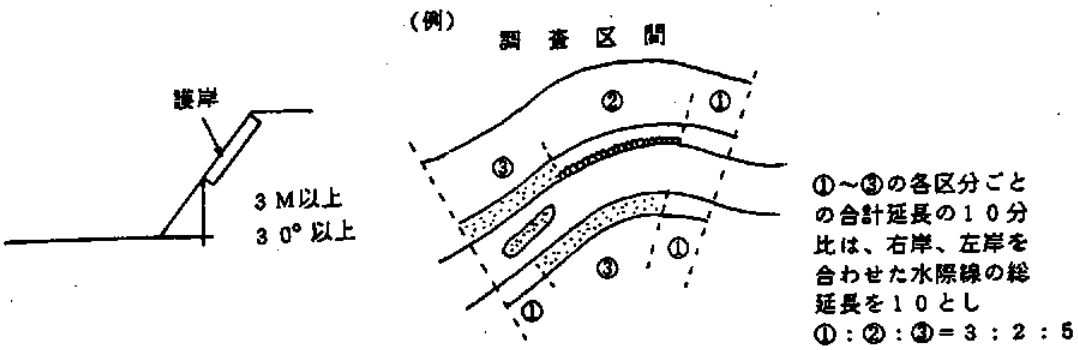
（３） 水際線の改変状況

水際線の改変状況を表１のとおり区分し、それぞれの調査区間における各区分ごとの合計延長の10分比を求める。この場合、右岸と左岸のみを計測し、中州については計測しないものとする。

表１　水際線の改変状況区分　　ｺｰﾄﾞ

水際線がコンクリート護岸、石積護岸、矢板等の工作物で構成されている。		①
水際線が上記の工作物で構成されていない。	がけ地である	②
	がけ地でない	③

（注） がけ地とは、傾斜30°以上、高低差３ｍ以上の傾斜地をいう。



（4） 河原の土地利用状況

河原の土地利用状況を表2のとおり区分し、それぞれの調査区間において各区分ごとの合計面積の10分比を求める。この場合、中州の部分についても計測するものとする。

なお、右岸、左岸及び中州の河原がすべて幅 100m未満である調査区間では、河原の土地利用状況を実施しない。

表2 河原の土地利用状況区分

		コード
自然地	砂礫地または荒原地	①
	背丈の低い草地	②
	背丈の高い草地（アシ、オギ、ススキ等）	③
	樹林地	④
農業地		⑤
未利用造成地（河川改修等に伴い高水敷が造成されているが、施設的土地利用、農業的土地利用はなされていない。）		⑥
施設的土地利用地（自動車教習所、ゴルフ場、グラウンド、公園、広場等の施設的な土地利用がなされている。宅地等を含む。）		⑦

（５） 河畔の土地利用状況

河畔の土地利用状況を表３のとおり区分し、各調査区間において、右岸、左岸別にそれぞれ河畔がいずれの区分に該当するかを調べ、コード番号で示す。

１調査区間の片側の河畔において、２以上の土地利用がなされている場合は、最も大きな面積を占めているものを当該河畔の土地利用状況区分とする。

表３　河畔の土地利用状況区分　　ｺｰﾄﾞ

自然地（樹林地、自然草地、湿地など人為による影響が少なく、自然の状態を保持している土地）	樹林地	①
	その他	②
農業地（水田、畑、放牧地、果樹園など農業的な利用が行われている土地）		③
市街地、工業地、その他（住宅地、業務地、工場、廃棄物処理場、遊園地など都市的な利用が行われている土地）		④

（６） 河川横断工作物の設置箇所数

ダム、堰、床固、水門、閘門等の河川横断工作物（橋梁を除く）を表４のとおり区分し、それぞれの調査区間における各区分ごとの設置箇所数を調査する。（閘門については、一室を１箇所と数える。）

また、堰堤部の高さが15m以上のダムの位置を「河川調査図」（様式３）に記入する。

表4　河川横断工作物区分　　ｺｰﾄﾞ

魚の遡上可能	魚　道　有	①
	魚　道　無	②
魚の遡上不可能	魚　道　有	③
	魚　道　無	④

（注）北日本においては、主としてサケ、サクラマスが遡上できれば遡上可能とし、西日本においては主としてアユが遡上できれば遡上可能とする。（遡上可能性の判断は、漁協からの聞きとり等により行う。）

また、魚道が設置されているにもかかわらず魚の遡上が不可能な河川横断工作物がある場合は、その原因が次のいずれに該当するかを調べ、当該工作物の存在する調査区間の「備考」欄に記入すること。

表5　魚の遡上不可能の原因

構造上の問題	魚道の勾配が急すぎるなど、魚道の構造上の欠陥による。
管理上の問題	水を流していない、土砂がつまったままであるなど、魚道の管理上の問題による。

（7）　取水施設の有無

それぞれの調査区間において、取水施設の有無を調べる。

（8）　河川の利用状況

それぞれの調査区間の河川区域及び河畔において、次に掲げる利用状況が見られるかどうかについて調査する。

ア．風景探勝（遊歩道）

イ．キャンプ

ウ．温泉

エ．ボート（渡しは含まない）

オ．川下り

カ．常設釣場

キ．漁業

その他に、特徴的な河川の利用が行われている事例があれば、調査票に具体的に記入する。（例：探鳥会、自然観察会等）

（9） 河川環境における不快要因

それぞれの調査区間において、次に掲げる項目が特に不快感を生じさせているかどうかについて調査する。

ア．水のにごり
イ．水面上のアワ
ウ．河川の悪臭
エ．河川区域内のゴミ・残材
オ．砂利採取
カ．河畔の道路法面
キ．水量の少なさ
ク．渇水時に露出するダム湖岸
ケ．河原・河畔への乗用車の乗入れ
コ．オートバイ、ボート等の騒音

その他に、不快感を生じさせている事例があれば、調査票に具体的に記入する。

（10）保全地域の指定状況

それぞれの調査区間の河川区域において、自然公園、自然環境保全地域等（以下「保全地域」という。）が指定されている場合には、その地域地区区分を次のコード番号で示す。2以上の地域地区区分がある場合は、そのすべてのコード番号を示す。

表 6　保全地域の地域地区区分

地域地区区分		コード
国立公園	特別保護地区	11
	特別地域	12
	普通地域	13
国定公園	特別保護地区	21
	特別地域	22
	普通地域	23
都道府県立自然公園	特別地域	32
	普通地域	33
原生自然環境保全地域		41
自然環境保全地域	特別地区	52
	普通地区	53
都道府県自然環境保全地域	特別地区	62
	普通地区	63

(11)　鳥獣保護区の設定状況

それぞれの調査区間の河川区域において、鳥獣保護区の設定状況を調べ、次により区分し、コード番号で示す。

表 7　鳥獣保護区の設定状況区分　　ｺｰﾄﾞ

鳥獣保護区が設定されていない		0
鳥獣保護区が設定されている	特別保護地区の指定がない	1
	特別保護地区の指定がある	2

(12)　河川の屈曲率

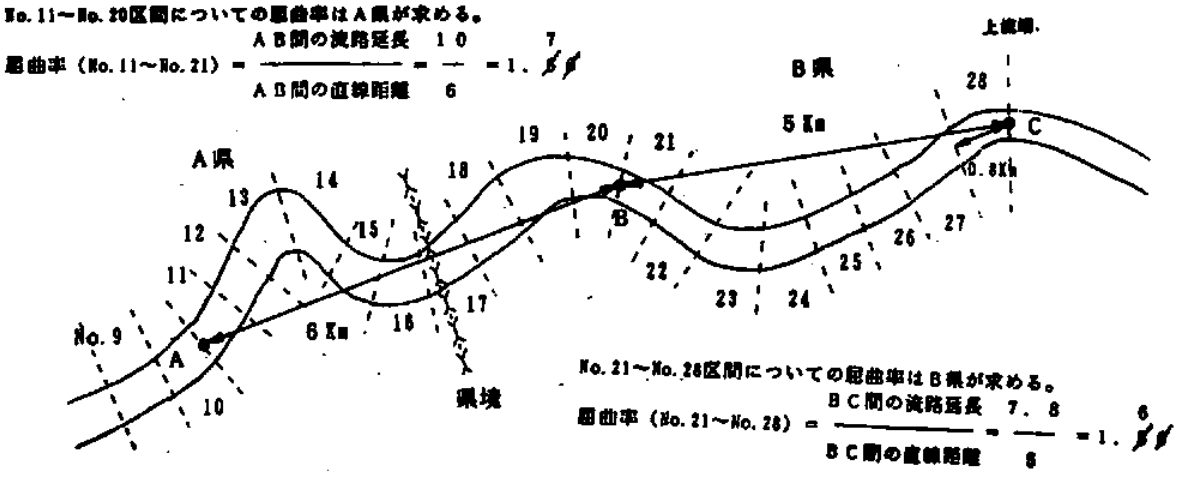
河川の蛇行性を概観するために、調査河川の屈曲率を求める。屈曲率は最初の調査区間から１０区間ごとに（No.1～ No.10、NO.11～ No.20 というように）求めるものとし、次の計算式により値を求める。（係数値は少数点以下第２位を四捨五入する）なお、２地点間の直線距離は国土地理院発行の１／2.5万地形図より測定する。

また、屈曲率を求める１０区間が２以上の都府県に跨る場合は、１０区間ごとに区切った時に最初の区間番号（NO.1、NO.11、NO.21など）を担当している都府県がその１０区間についての屈曲率を求めるものとする。

なお、１０区間ごとに区切った際に上流端の区切りが１０区間に満たない場合は、屈曲率を求める際の分子は残り全区間の流路延長となる。

（例）

$$\text{屈曲率} = \frac{\text{２地点間（１０区間）の流路延長}}{\text{２地点間の直線距離}}$$



（様式２）

河川コード	河　川　名

河川改変状況調査票

（記入例）

調査年度	
都道府県	

調査区間番号	保全地域（コード）			鳥獣・保護区（コード）	水際線（10分比）			河原の土地利用（10分比）						河岸の土地利用		河川工作物（ヶ所数）		取水施設の有無	河川の利用状況								不快要因										河川の屈曲率	備考 ＊は河辺林の存在を示す	
					護岸設地（割）	未護岸設地		自然地				人工地		施設的土地利用地（割）	未利用適成地（割）	魚の可能遡上		魚の不可能遡上			風景採勝	キャンプ	温泉	ボート	川下り	常設釣場	漁業	その他具体的に	水のにごり	水面上のアワ	悪臭	ゴミ・残材	砂利採取	河岸の道路法面	水量の少なさ	洪水時のダム湖岸	河原・河岸への乗用車乗入れ	オートバイ・ボート等の騒音	その他具体的に			
						がけ地（割）	その他（割）	砂地・荒廃地（割）	背丈の低い草地（割）	背丈の高い草地（割）	樹林地（割）	農耕地（割）	施設的土地利用地（割）			魚道有（ヶ所）	魚道無（ヶ所）	魚道有（ヶ所）	魚道無（ヶ所）																						
1				0	6	0	4	4	2	4	0	0	0	0	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		1	0	0	0	1	0	0	1	1			
2				0	4	0	6	5	3	3	0	0	0	0	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		1	0	0	0	1	0	0	0	0			
3				0	6	0	4	6	3	1	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		1	0	0	0	1	0	0	0	0			
4				0	0	1	9	6	2	2	0	0	0	0	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		1	0	0	0	0	1	0	0	0			
5				0	7	1	2	8	2	0	0	0	0	0	3	4	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0		1	0	0	0	0	1	0	0	0	1.7		
6				0	6	1	3	9	1	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1		1	0	0	0	0	1	0	0	0			
7				0	0	4	6	4	2	4	0	0	0	0	3	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		1	0	0	0	0	1	0	0	0			
8				0	1	2	7	7	1	2	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		1	0	0	0	0	0	0	0	0			
9				0	0	1	9	8	2	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		1	0	0	0	0	0	0	0	0			
10				0	1	1	8	9	1	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		1	0	0	0	0	0	0	0	0			
11				0	4	1	5	6	3	1	0	0	0	0	3	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		1	0	0	0	0	0	0	0	0			
12				0	1	1	8	4	2	4	0	0	0	0	3	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		1	0	0	0	0	0	0	0	0			
13				0	2	2	7	6	2	2	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		1	0	0	0	0	0	0	0	0			
14				0	2	1	8	9	1	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		1	0	0	0	0	0	0	0	0			
15				0	4	1	5	6	3	1	0	0	0	0	3	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		1	0	0	0	0	0	0	0	0			
16				0	1	1	8	4	2	4	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		1	0	0	0	0	0	0	0	0			
17				0	2	2	7	6	2	2	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		1	0	0	0	0	0	0	0	0			
18				0	2	1	8	9	1	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		1	0	0	0	0	0	0	0	0			
19				0	8	1	1	5	2	3	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		1	0	0	0	0	0	0	0	0	1.4		
20				0	4	2	6	9	1	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		1	0	0	0	0	0	0	1	1			
21				0	2	1	5	8	1	1	0	0	0	0	3	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		1	0	0	0	0	0	0	0	0			
22				0	7	2	1	5	3	2	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		1	0	0	0	0	0	0	1	1			
23				0	10	0	0	4	4	2	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		1	0	0	0	0	0	0	0	0			
24				0	9	0	1	5	2	3	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		1	0	0	0	0	0	0	0	0			
25				0	7	2	1	9	1	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		1	0	0	0	0	0	0	0	0			
26				0	0	2	8	6	2	2	0	0	0	0	2	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		1	0	0	0	0	0	0	0	0			

（河川改変状況調査票記入上の注意）

1．「保全地域」欄には、表６より該当するコード番号をすべて記入する。

2．「鳥獣保護区」欄には、表７より該当するコード番号を記入する。

3．「水際線（10分比）」の各欄には、表１の各区分の延長の10分比を記入する。

4．「河原の土地利用（10分比）」の各欄には、表２の各区分の面積の10分比を記入する。調査区間内に幅 100 mを越える河原がないため、河原の土地利用状況の調査を実施しなかった調査区間の欄には斜線を引く。

5．「河畔の土地利用」欄には、右岸、左岸別に表３より該当するコード番号を記入する。

6．「河川横断工作物」の各欄には、それぞれの設置箇所数を記入する。

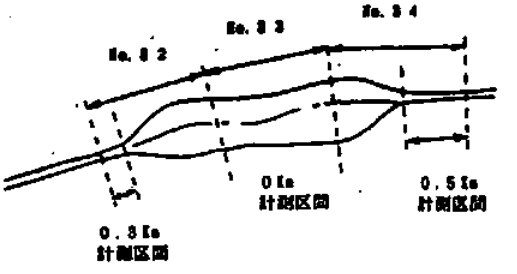
7．「取水施設の有無」欄には、当該調査区間に取水施設がある場合には「１」を、ない場合には「０」を記入する。

8．「河川の利用状況」及び「不快要因」欄には、該当する場合には「１」を、該当しない場合には「０」を記入する。

9．「河川の屈曲率」欄は、１０区間に区切ったときの最初の調査区間番号（１、１１、２１、３１・・・・）の行にのみ値を記入する。

10．「備考」欄には、記入例を参考に、流入河川、流路途中の湖沼、及び上流端について記入する。

なお、調査区間の一部が「第４回自然環境保全基礎調査湖沼調査」（平成３年度実施）の調査対象湖沼の場合、当該湖沼部分では河川改変状況調査を実施しないが、この場合、備考欄には「湖沼部分以外の延長（河川部分の延長）」を、計測区間として記入する。

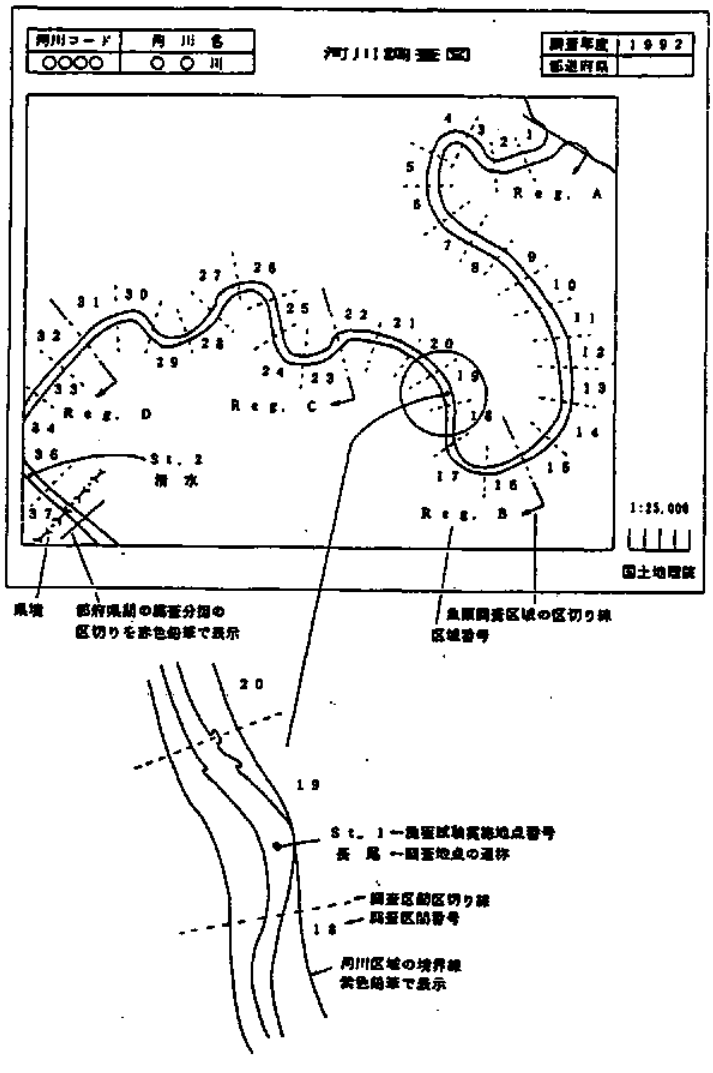


また、「河辺林」欄には、当該調査区間の河岸（両岸）の1/2以上にわたって河辺林が存在する場合に、＊印を記入する。

河辺林：河原や河畔の土地利用調査では把握できない小規模な樹林であって人工林、自然林の別や、樹種構成を問わない。

(13) （1）で設定した調査区間の区切り線及び調査区間番号を、「河川調査図」（様式3）にならい、国土地理院発行の1／2.5 万地形図に表示する。

（様式3） 河川調査図



（河川調査図作成上の注意）

1．　調査図には、必ず国土地理院発行の最新の1／2.5 万地形図を使用する。複写図、編さん図等は使用しないこと。

2．　調査図は、当該都道府県の調査対象河川ごとにまとめる。

3．　調査図例のように、地形図の余白の所定の位置に「タイトル」「河川コード」「河川名」「調査年度」（西暦）、「都道府県名」を記入する。

4．　河川区域の境界線を紫色の色鉛筆で表示する。上流域など、河川区域幅が狭く、河川区域の境界線を地形図上に表示することが困難な部分では、表示する必要はない。

5．　魚類調査区域の境界線および区域番号を（下流側に寄せて）緑色の色鉛筆で表示する。また、漁獲試験実施地点、調査地点番号及び調査地点の通称を黒で表示する。

6．　調査区間の区切り線を黒の点線で表示する。区切り線と区切り線の間に（下流側に寄せて）調査区間番号を記入する。

7．　都府県間の調査分担の区切りは赤鉛筆で表示する。

5．魚類調査

別表１に示す調査対象河川の魚類相について、次に示すとおり、各種資料等により調査し、「魚類調査表」（様式４）を作成する。なお、補足のため漁獲試験を実施した場合は、「漁獲試験調書」（様式５）も作成する。

（１） 調査区域

各河川の上流、中流、下流など河川の環境が大きく異なる区域において、生息する魚類相をそれぞれに概観できるよう各河川を適宜区切って調査区域を設定し、各区域において調査を実施する。区域の設定においては、各河川３区域以上（１区域は原則として20Kmまでとする）とし、区域は互いに隣接しているものとする。ただし、20Km未満の河川で調査区間内に上流端（合流点ではない）と河口の両方を含まない河川については必ずしも３区域以上でなくてもよいが、少なくとも10Kmごとに区域を設定する。

（２） 魚類調査票の作成

既存の資料の収集・整理及び漁協等からの聞き取りにより、次の事項を調査し、「魚類調査票」（様式４）を作成する。なお、既存資料は過去５年以内に報告されたものであることが望ましい。

ア．魚類相に関する記録

既存資料及び漁協等からの聞き取りにより、生息が確認された魚種を調査区域別に整理する。この際、資料等での魚類生息確認地点が１調査区域全域を占めていない場合でも、生息確認地点（点または範囲）が該当する調査区域に含まれている場合は、その地点（点または範囲）の生息確認記録をもって当該調査区域の確認記録としてさしつかえない。

補足として漁獲試験を実施した場合は、その結果を調査地点別に整理する。

（ア）調査区域番号

調査区域には下流側よりReg. A、Reg. B‥‥というように区域番号

（アルファベット大文字）を付す。（１河川を２以上の都府県で分担して調査する場合も通し番号とする。）

（イ）地点番号

魚類生息確認地点が１調査区域全域ではなく「点」または「範囲」の場合には、その地点にSt.A、St.B‥‥というように地点番号を付す。なお、１調査区域内で魚類生息確認地点が２点以上ある場合は、地点番号はSt.A1、St.A2‥‥というようにする。

（ウ）魚類生息確認地点の位置

魚類生息確認地点が「点」の場合、「河口からの距離」を１／2.5万地形図上で河川の流心に沿って計測する。（単位は少数第１位まで求める。）生息確認地点が「範囲」で範囲が明確な場合も同様に「河口からの距離」を○○Km～○○Kmというように計測する。

イ．漁獲量（年平均漁獲量）

漁獲統計等により過去５年間の漁獲量の年平均を魚種ごとに（単位はｔで小数第１位まで）調べる。

ウ．放流量（年平均放流量）

放流されている魚類があれば、過去５年間の放流量の年平均を魚種ごとに調べる。卵放流の場合は単位は「千粒」、稚魚（ないしは成魚）放流の場合は、単位は「千尾」で示す。

エ．天然繁殖の有無

調査河川に現在生息していると思われる魚種について、採卵、人工孵化によらず自然の状態で繁殖しているかどうかについて調べる。

（様式４）

調査年度	１９９２
都道府県	

河川コード	河　川　名

（記入例）

区域番号	魚類相に関する記録									漁獲量	放流量		天然繁殖	備考
	Reg. A	Reg. A	Reg. B	Reg. C	Reg. D	Reg. D					卵放流	稚魚成魚放流		
地点番号（地点名）距離	St. A1 8.2～15.8	St. A2 ○○ 12.2	St. 1 ○○橋 22.3	No. 28～	St. D ○○ 39.1	St. 2 ○○○ 42.1								
魚種名	km	Km	km	No. 38	Km	km				t／年	千粒／年	千尾／年	繁殖	
スナヤツメ	□												○	
イトウ						○							?	
オショロコマ													○	
アメマス													○	
カワマス			○										?	
ニジマス													?	
サクラマス						○				－	－	－	○	
サケ	△	□			△					14.719	－	67.138	○	
シシャモ	△	□											○	
キュウリウオ	□												○	
ワカサギ	■	□		△		○							○	
ヤチウグイ													○	
エゾウグイ	■	□	○	■	△	○							○	
ウグイ	△	□											○	
フナ類		□											○	
コイ	△	□			△								?	
シナイモツゴ										0.0			○	
ドジョウ	△	□											?	
フクドジョウ		□	○	■	△	○							○	
イトヨ													○	
イバラトミヨ													?	
エゾトミヨ													○	
ヂカブ				□									○	
ヨシノボリ	□	□											○	
カジカ類(1)	■	□			△	○							○	
カジカ類(2)	□	□		△									○	
カラフトマス										41尾／年	－	17	○	▲
（種類計）	１２	１２	３	５	５	６							(21)	
データの出所	資料１、３ 漁協	２、３	漁獲試験	４ 漁協	漁協	漁獲試験								

注）１　「天然繁殖」欄の？は繁殖の有無の不明を示す。
　　２　備考欄の▲は調査河川には生息するが、正確な地点がわからないものを示す。
　　３　調査河川が他府県に跨るために、記入の際の漁獲試験実施地点番号がSt. 1　から始まらない場合には、他府県の調査地点番号を括弧外に示す。

（魚類調査票作成上の注意）

1．　調査票は、当該都道府県の調査対象河川ごとに作成する。

2．　「魚種名」には、別表２「魚類分布表」に示す順序に準じて魚種名を記入する。

3．　「魚種名」には標準名を使用するものとする。また、「フナ」というような総称を用いることは避け、極力「ギンブナ」、「ゲンゴロウブナ」というように種及び亜種段階の名称まで調べるよう努める。どうしても種名まで確認できない場合には、必ず「フナ類」、「ドジョウ類」のように表示する。

4．　記入例（カジカ類(1)、(2)）のようにカジカ類に明らかに２種類いることが判っているが種名までは判明していない場合には、記入例のように「カジカ類(1)」、「カジカ類(2)」と表示する。また、回遊型・陸封型の区別が可能である場合には「カジカ類(1) 回遊型」のように表示する。

5．　１調査区域内で魚類生息確認地点が２点（範囲）以上ある場合は、地点（範囲）ごとに分けて整理する。

6．　生息確認地点が「点」の場合には、その地点の名称、地点番号、河口からの距離を区域番号とともに「魚類調査票」に記入する。魚類生息確認地点が「範囲」の場合は地点番号、河口からの距離（範囲が明確でない場合は、「範囲」が含まれる区間番号をNo.○～No.□というように記入する。）を区域番号とともに記入する。魚類生息確認地点が１調査区域全域の場合は、区域に含まれる区間番号を区域番号とともに記入する。

7．魚類相に関する記録の欄に用いる記号は次のように使い分ける。

△……漁協等などの聞き取りにより生息を確認したもの

□……資料により生息を確認したもの

■……漁協等の聞き取り及び各種資料により生息を確認したもの

○……漁獲試験により生息を確認したもの（漁獲試験を実施した場合記入する。）

8．　「漁獲量」が四捨五入しても０．１ｔ／年に達しない場合は、記入例の

ように「０．０ｔ／年」と表示し、漁獲実績がない場合は「－」と表示する。

9．「放流量」が四捨五入しても、１千粒（または１千尾）に達しない場合は、「－」と表示する。

10．「天然繁殖」の有無がはっきりしない場合は、「？」と表示する。

11．「備考」欄には、それぞれの魚種について特記すべき事項があれば記入する。

12．（種数計）には、天然繁殖していると思われる魚類の種類数を記入する。種名まで確認できず「○○類」とされたものは、１種に数える。また、天然繁殖の有無がはっきりせず「？」印となったものはカウントしない。

13．「データの出所」欄には、資料番号（報告書の資料リストの番号に対応するもの）、漁協での聞き取り及び漁獲試験のうち該当するものを記入する。

（３）漁獲試験

「魚類調査票」（様式４）を補足するために漁獲試験を実施し、実施地点ごとに「漁獲試験調書」（様式５）を作成する。

ア．調査地点

（ア）漁獲試験を実施する場合には、次の事項に留意しながら調査地点を設定する。

① 設定した魚類調査区域の魚類相が、資料等による調査では把握できない区域がある場合は、少なくともその区域においては必ず漁獲試験を実施する。

② １河川を２以上の都府県が分担して調査する場合には、関係都府県間で調査地点の位置を調整する。

③ 湖沼（天然、人工）内での調査は原則として避ける。

④ 調査河川においてできる限り調査地点を分散し、また、投網の打ちや

すい場所を選ぶようにする。

⑤　特に河川横断工作物の上流及び下流の地点、また、河川改変工事の実施された地点の上流及び下流の地点を選ぶようにする。

（イ）調査地点には、下流側より st. 1 、st. 2 ……というように調査地点番号を付す。（1河川を2以上の都府県で分担して調査する場合も、通し番号とする）また、調査地点の通称を調べ、調査地点、調査地点番号とともに「河川調査地図」（様式3）にならい、国土地理院発行の1／2.5 万地形図に表示する。

（ウ）調査地点の「河口からの距離」を1/2.5 万地形図上で河川の流心に沿って計測し（単位はkmで少数第1位まで求める。）、「魚類調査票」に記入する。

（エ）調査地点「（河床）の標高」を調べる。（単位はm単位で求める。）ただし、河床の標高がわからない場合は、河原または河畔の標高を1／2.5万 地形図より読み取る。

イ．調査実施期間

調査は原則として夏（主として7、8月）に実施するものとするが、他の時期に調査を実施した場合には、実施期間を明示する。なお、雨後の濁りが著しい期間は避け、平常に戻った後に行うものとする。

ウ．調査内容

調査地点ごとに、漁獲試験を実施し、次の項目について調査する。

（ア）魚種名：捕獲された魚種の標準和名（種レベルまでの）を調べる。

（イ）捕獲数

（ウ）最小全長及び最大全長：単位はmmで計測する。

エ．捕獲方法

漁獲試験を実施する場合は、河川の状態にあわせた方法を使用する。

なお、投網を使用する場合は原則として次の方法によるものとする。

（ア）投網の目合

目合の異なる２種類の投網（編目の長さ１８㎜と１２㎜程度のもの＊）を使用し、使用した投網の目合を調査表に記入する。また、網裾の長さを計測（単位はｍで、少数第１位まで）し、調書に記入する。

＊通称６分目と４分目



（参考）
魚類網地の目合の表示方法、網地を縦方向にのばして、「網裾の長さ」を判定する。

（イ）投網の打数

上記の２種類の投網についてそれぞれ、捕獲数が５０尾を越えるか、または、打数が１０回に達するまで打つ。

（ウ）投網を打つ場所

各調査地点において、できるだけ多くの種類の魚を捕獲するために瀬、淵、岸辺、流心等河川の多様な状況のところを広く打つようにする。

（エ）投網以外の捕獲方法を用いた場合は、その方法について、調書の「備考」欄に記入する。

オ．種の同定が困難な魚種が捕獲された場合は、標本として保存するか、またはカラー写真を撮影する。この場合、「備考」欄に（標本有）、または（写真有）と記入する。

カ．調査に当たり、魚類の捕獲には、漁協組合員等の協力を、また、魚類の同定には、専門家の協力を得て実施するものとする。

（4） 生息環境調査

ア．漁獲試験実施地点ごとに、次の項目について調査する。

（ア）気温

漁獲試験時の気温を計測する。測定は、日光の直射及び周囲の放射を避けて行う。（単位は℃で小数第1位まで求める。）

（イ）水温

漁獲試験時の水温（表面水温）を測定する。測定はできるだけ流心付近で行う。（単位は℃で小数第1位まで求める。）

（ウ）底質

現地観察により河床状況の底質を次の例示（ア～ク）より選び、河床を占める割合の多い順に上位3番目まで記入する。なお、瀬と淵等により底質の状態がかなり異なる場合は、分けて調査表に記入する。
なお、「石および礫」の大きさは以下のように区別するものとする。

ア 泥　　イ 砂　　ウ 大石　　エ 中石　　オ 小石
カ 粗礫　　キ 岩　　ク コンクリート

大石：直径が約５０ｃｍ以上

中石：直径が約２０～５０ｃｍ

小石：直径が約５～２０ｃｍ

粗礫：直径が約５ｃｍ以下

（エ）塩分

感潮域において、漁獲試験を実施する場合は、「海洋観測指針」（気象庁編）の測定法により、漁獲試験時の塩分を測定する。測定はできるだけ流心付近で行う。（単位は千分率（‰）で小数第２位まで求める。）

なお、塩分を測定するかわりに、比重計により、比重を測定してもさしつかえない。（単位は小数第２位まで求める。）

イ．調査地点付近で、調査地点と状況が類似していると思われる地点において、水温、流量に関する資料があれば、その資料により次の項目について調査する。

（ア）夏期水温の日変動

夏期（７、８月）における水温の日変動（平均水温及び日較差の平均）を調べる。

（イ）夏期流量の日変動

夏期（７、８月）における流量の日変動（平均流量及び日較差の平均）を調べる。

（ウ）流量の年変動

流量の年変動（最大・最小・平均流量）を調べる。

ウ．調査地点の概要として、調査地点付近でのダム、堰、護岸等の人工構築物の設置状況、水草の繁茂状況、水質、水の濁り、土砂の堆積、水深等、魚類の生息、繁殖に関すると思われる事項について調べる。

エ．調査地点において調査地点付近の状況を示す写真を撮影する。

（様式５）

漁獲試験調査票

調査年度	1992
都道府県	

河川コード	河川名
調査地点番号	st. 2
調査地点通称	背負
河口からの距離	19.2 km
標高	7 m
調査月日	8月31日
調査時刻	14:30
天候	晴れ
気温	21.6℃
水温	20.4℃
底質	1・・・・ 2・・・・ 3・・・・
塩分	‰
比重	1,000

投網による捕獲

目合(mm)	網糸(mm)	打数(回)	捕獲数(尾)
12	3.0	30	145
18	2.7	20	33

調査地点付近の状況

夏期水温の日変動	平均水温	℃
	日較差の平均	℃
夏期流量の日変動	平均流量	㎥/sec
	日較差の平均	㎥/sec
流量の年変動	最大流量	㎥/sec
	最小流量	㎥/sec
	平均流量	㎥/sec

調査地点の概要

・平野部、Bb-Bc型
・両岸ともたま石の川原が広がる。
・水はやや濁り、うすい灰色。
・流心付近の水深は2～3m
・川幅1,100m位、流れ幅200～350m

特記事項

調査者名　（所属・氏名）

調査魚種名	捕獲数	全長 最小(mm)	全長 最大(mm)	備考
1 エゾウグイ				
2 ウグイ	176(11)	225(163)	1858(629)	
3 カワヨシノボリ	2	162.1	1575	
4 アユ類	2	18.3	215	
5 フクドジョウ	2	73.8	933	(三角網)
6 ヨシノボリ	1(1)	52.1(68.5)		
7 ハナカジカ	1	74.3		
8 ワタカ	1	93.3		
計 8 種類	計 185 (12)			

（魚類調査票記入上の注意）

（注）（）内は、投網以外による漁獲

1．調査票は、1調査地点ごとに作成する。
2．「都道府県」には、調査担当都道府県名を記入する。
3．「河川コード」には、別表1に示す、調査河川の河川コードを記入する。
4．「調査地点の概要」には、記入例のように調査地点の概要について記入する。
5．「捕獲魚類種名」には、投網による捕獲数の多い順に、魚種名を記入する。
6．「捕獲数」「最小全長」「最大全長」については、投網以外の方法で捕獲された分は（）内に記入する。
7．投網以外の方法で捕獲された魚種の場合は、「備考」欄にその捕獲方法を（）書きで記入する。
8．「調査者」には、調査にあたった者の代表者の所属及び氏名を記入する。

6．原生流域調査

（1） 前回調査で抽出された１００の原生流域を対象として、行政資料、空中写真等により、下記の改変状況を調査し、「原生流域調査票」（様式6）にとりまとめる。

ア．原生流域において、前回調査以降に行われた河川改修工事、砂防工事、人工構築物等の設置、森林の伐採、土砂・鉱物の採取、水面の埋立、土地の形状変更等の行為の状況

イ．その他、当該原生流域における人為的改変状況

ウ．上記ア、イの結果として原生流域面積に変化があった場合には、その状況（改変により、原生流域の要件に該当する面積が１，０００ｈａ未満となった場合も含む）

エ．保全地域等の指定状況

オ．原生流域内の植生等の状況

（2） この調査で「原生流域」とは、次のすべての要件に該当する河川の集水域であって、その面積が１０００ｈａ以上のものをいう。

ア．集水域内で河川改修工事、砂防工事が行われていないこと。

イ．集水域内に人工構築物（建築物、車道、各種工作物）が存在しないこと。ただし、標識、測量抗等などの軽徴な工作物及び歩道については（登山道、踏み分け道）、この限りではない。

ウ．集水域内で森林の伐採（皆伐・択伐）、土石・鉱物の採取、水面の埋立、土地の形状変更等の人為の影響が認めれれないこと。（過去に択伐等によ

る森林の伐採が行われていたが、現在は行われておらず、ほとんど自然の状態に復元している森林などは、人為の影響が認められないと判断してさしつかえない。）

（3） 最新の資料等により前回調査で抽出された原生流域以外で上記（2）の「原生流域」に該当する流域が確認された場合には（1）と同様「原生流域調査票」（様式6）を作成する。

（4） 原生流域を「原生流域図」（様式7）にならい、国土地理院発行の1／5万地形図に図示する。なお、第3回自然環境保全基礎調査以後改変のない原生流域については、新たに「原生流域図」を作成する必要はない。

原生流域に保全地域の指定がなされている場合には、次により地域地区を図示する。

地域地区区分		コード	指定色	色鉛筆の指定	
国立公園	特別保護地区	11	橙色	三菱ポリカラー	No. 7500- 4
	特別地域	12	ピンク色	〃	13
	普通地区	13	水色	〃	8
国定公園	特別保護地区	21	橙色	〃	4
	特別地域	22	ピンク色	〃	13
	普通地域	23	水色	〃	8
都道府県立自然公園	特別地域	32	ピンク色	〃	13
	普通地域	33	水色	〃	8
原生自然環境保全地域		41	橙色	〃	4
自然環境保全地域	特別地区	52	ピンク色	〃	13
	普通地区	53	水色	〃	8
都道府県自然環境保全地域	特別地区	62	ピンク色	〃	13
	普通地区	63	水色	〃	8

（様式６）

原生流域調査票

調査年度	
都道府県	

(1)No.	(2)流域名	(3)水系名
(4)地形図名(1/5万)	(5)関係都道府県及び市町村名	(6)面積(ha) 今回 前回

(7)改変状況	河川改修・砂防工事		（具体的内容）
	人工構築物設置		
	森林伐採		
	土石・鉱物の採取		
	土地の形状変更		
	水面の埋立		
	その他		
	特になし		
(8)保全地域等			
(9)植生等の状況			
(10)特記事項			
(11)資料		記入者	所属
			氏名

（記入上の注意）

1．　この調査票は、原生流域ごとに１枚作成する。（複数の都道府県にまたがる流域の場合は、前回調査にならい、いずれかの都道府県においてとりまとめる。）

2．　(1),(2),(3),(4),(5) 欄は前回調査報告書に記載の内容を転記し、修正の必要がある場合には二重線で消去の上、訂正する。

3．　流域面積に変更があった場合には、１／５万地形図上で点格子板もしくはプラニメーターで計測した上で(6) 流域面積（変更後）の欄に記入する。

4．　(7) 改変状況欄は、前回調査以後当該流域で行われた行為等につき、該当するものに○印を記入（複数可）し、その具体的内容につき右欄に記入する。

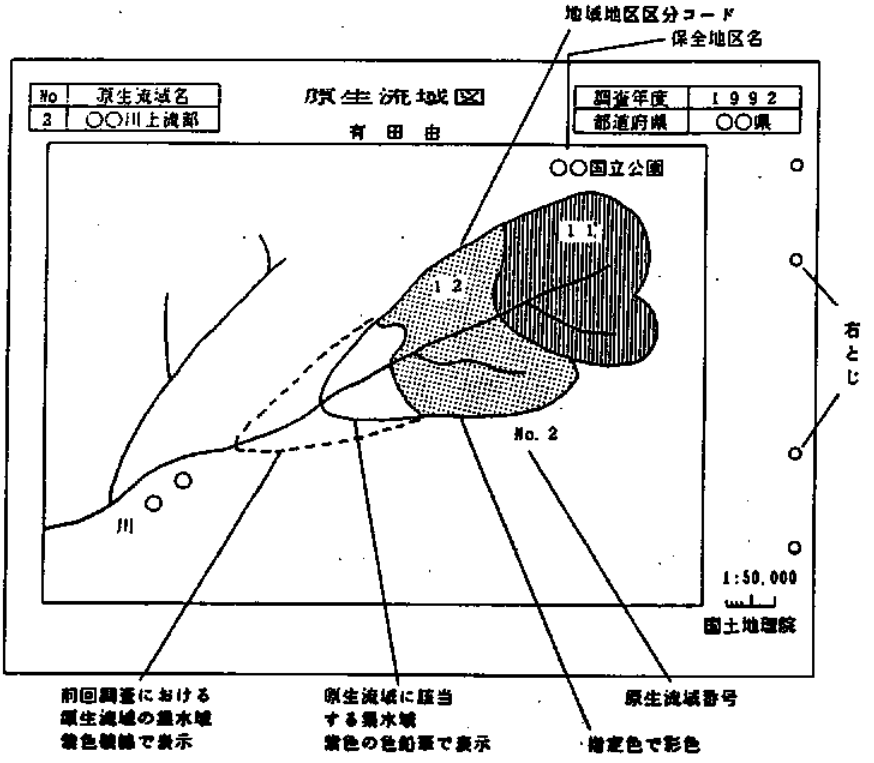
5．　(8) 保全地域等欄は、当該流域における自然公園または自然環境保全地域の指定状況及び前回調査時以後の変更等の内容を記入する。

6．　(9) 植生等の状況欄は、当該流域における主な植生群落及び特記すべき植生、その他野生動植物等につき、既存資料等に基づき記入する。

7．　(10)特記事項欄は、上記の事項に関する補足のほか、当該流域に関する保護あるいは開発計画等に関する情報等を記入する。

8．　(11)資料欄は、当該調査票の作成にあたり使用した文献資料等の名称及び発行年月、著者名を記入する。（例　「地形図（1984）」「空中写真（1985）」「○○県資料」「○○川流域調査報告書（1983）○○県」）

（様式7）　原生流域図



（原生流域図作成上の注意）

1．　原生流域図には、必ず国土地理院発行の1／5万地形図を使用する。複写図、編さん図等は使用しないこと。

2．　図例のように地形図の余白の所定の位置に「タイトル」「調査年度」（西暦）、「都道府県名」を記入する。

3．　原生流域に都道府県ごとに北から順に番号を付すとともに、「○○川上流部」というような名称を付け、地形図の余白の所定の位置に記入する。同一地形図に2以上の原生流域がある場合は、「No.」「原生流域名」を連記する。

4．　原生流域に該当する集水域の境界を紫色の色鉛筆で表示する。なお、前

回調査時より区域の減少があった場合には、前回調査時の集水域の境界を破線で表示する。

5．　原生流域にかかる保全地域の地域地区区分の現況を指定色により表示するとともに、地域地区区分のコード番号を記入する。

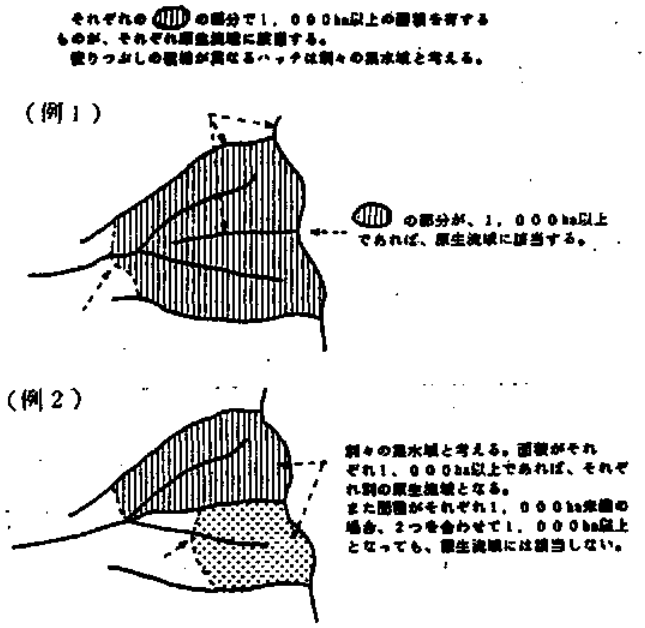
また、「○○国立公園」「○○原生自然環境保全地域」のように保全地域の名称を記入する。

6．　1つの原生流域が2以上の都府県にまたがる場合は、関係都府県間で調整し、1つの原生流域については、1都府県が原生流域図をまとめるようにする。

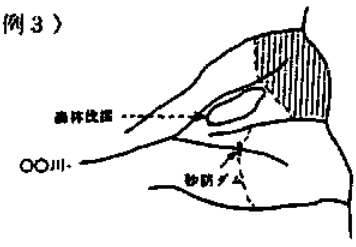
（参　考）

原生流域の摘出

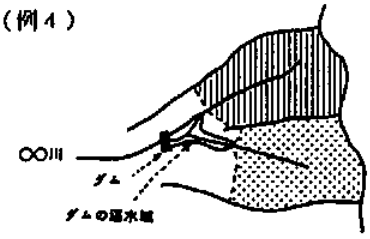
原生流域の摘出の際、集水域のとり方は図に示すとおりとする。



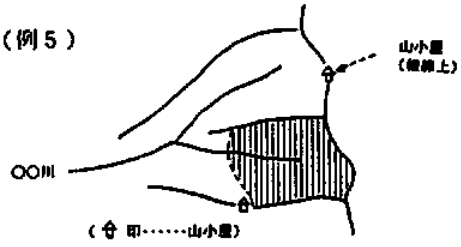
（例３）



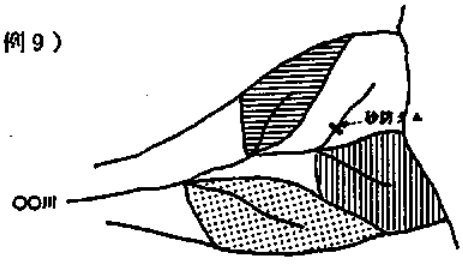
（例４）



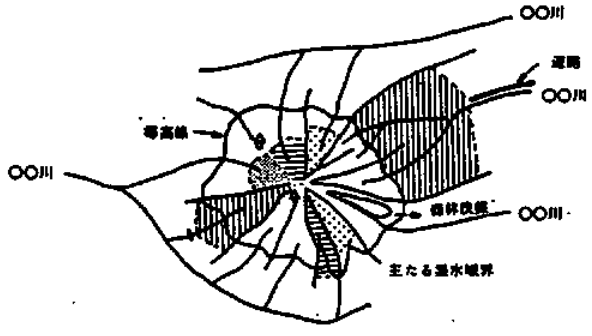
（例５）



（例９）



（例１０）独立峰の場合



それぞれの [▨] の部分で、１，０００ha以上のものがそれぞれ単生流域に該当する。

環境庁請負

第４回自然環境保全基礎調査
河川調査報告書
（全国版）

平成６（１９９４）年３月

環境庁自然保護局
業務請負者 朝日航洋株式会社
東京都豊島区東池袋３－１－１